
天然物ケミカルバイオロジー：
分子標的と活性制御

領域番号 2301

平成23年度～平成27年度

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）

新学術領域研究（研究領域提案型）研究成果報告書

平成28年6月

領域代表者 上田 実
東北大学大学院理学研究科 教授

<は し が き>

本報告書は、平成 23 年から平成 27 年度に実施された新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」（略称 ケムバイオケム）の研究成果をまとめたものである。

生物が生産する天然物リガンドは、魅力的な構造と生物活性をもつ。近年、天然物の作用機序への注目が高まり、天然物は生体内で複数のタンパク質と相互作用する「鍵束」のように振る舞うことで活性を発現することが分かってきた。この複雑な性質の一方で、その標的選択性をチューニングできれば、医薬品としての副作用低減や生物学ツールとしての有用性向上が期待できる。本領域では、天然物リガンドを複数の標的をもつ「鍵束」と定義し、その標的決定と標的選択性のチューニングによる活性制御を目指した。

本領域は、医学、生物学、構造生物学、計算化学の異分野研究者に参加を求め、「A01 班：分子標的探索と生物学的評価」、「A02 班：天然物リガンドの探索と合成」、「A03 班：標的探索・合理的分子設計の新方法論」の 3 班構成で研究に取り組んだ。具体的には計画研究 15 件（平成 23 年度より）、第 1 次公募研究 35 件（平成 24 年度より）、第 2 次公募研究 42 件（平成 26 年度より）からなる体制で、この挑戦的課題に取り組んだ。5 年間の成果として、天然物リガンドの標的決定と作用機序解明の成功例蓄積と各種方法論開拓に成果を上げることができた。ビーズテクノロジーを中心とした各種の手法によって、領域内で 30 件に及ぶ天然物リガンドの標的同定が行われた。Waldmann（マックスプランク研究所）らは、天然物を含むリガンドの標的同定例を纏めた review (*Angew. Chem. Int. Ed.* **2013**, *52*, 2744) を発表した。それによると、2012 年までに標的が同定された小分子リガンドはわずか 150 件程度であり、本領域の活動によって天然物リガンド標的同定の基盤整備が大きく進展したことを如実に物語っている。これらの成果は、天然物リガンドの標的同定が既に「干し草の山から針を見つける」（前出: *ACIE* **2013**, *52*, 2744）という不可能に近い状況を脱しつつあることを予感させる。また、領域内の共同研究成果から、天然物リガンドの立体異性体を用いることで、その標的選択性をチューニングすることが可能であることが明らかになった。これらの成果によって、天然物リガンドの生物活性を標的ベースで理解し、構造改変によって制御するための学術的基盤を構築できたと考えている。

本領域の活動に、多大なご尽力を頂いた班員、研究協力者、研究分担者ならびに評価委員の方々に、また直接的・間接的にご助力とご助言を賜った関連分野研究者の皆様に、衷心より深く感謝申し上げます。

平成 28 年 6 月 領域代表者 上田 実

研究組織

【計画研究】

研究代表者	所属機関・部局・職	研究課題名	※研究分担者・連携研究者
上田 実 (領域代表者)	東北大学大学院・ 理学研究科・教授	生物現象を誘起する新規内因性分子作用機構	
半田 宏	東京医科大学・特任教授	ビーズテクノロジーによる標的探索と生物学的評価	坂本聡 (東京工業大学)
岡本 隆一	東京医科歯科大学・再生 医療研究センター・教授	生体センサー腸上皮によるバイオスクリーニング法の開発	※中村哲也 (東京医科歯科大学・ 医歯学総合研究科・教授)
渡邊 肇	大阪大学大学院・ 工学研究科・教授	オミクス技術による生理活性化合物の生物学的評価	
小林 資正	大阪大学大学院・ 薬学研究科・教授	医薬シーズとしての活性天然物の探索とその標的分子の解析	荒井雅吉 (大阪大学) 古徳直之 (大阪大学)
入江 一浩	京都大学大学院・ 農学研究科・教授	抗がん剤開発を指向した新規 PKC リガンドの創製と作用機構解析	※柳田亮 (香川大学・農学部・助教)
井本 正哉	慶應義塾大学・ 理工学部・教授	細胞機能を制御する新規天然有機化合物の開拓・創薬研究	掛谷秀昭 (京都大学) 田代悦 (慶應大学)
松永 茂樹	東京大学大学院・ 農学生命科学研究科・教授	海洋生物由来の抗腫瘍性リガンド	※高田健太郎 (東京大学大学院・農 学生命科学研究科・助教)
石橋 正己	千葉大学大学院・ 薬学研究院・教授	疾患および再生シグナルを制御する新規天然物リガンドの探索	※荒井緑 (千葉大学大学院薬学研 究院・准教授) ※石川直樹 (千葉 大学大学院・薬学研究院・助教)
品田 哲郎	大阪市立大学大学院・ 理学研究科・教授	高活性グルタミン酸リガンドの創製	※大船泰史 (大阪市立大学大学 院・理学研究科・名誉教授) 坂口和彦 (大阪市立大学) 島本啓子(サントリー生命科学財団)
渡邊 秀典	東京大学大学院・ 農学生命科学研究科・教授	新規な機能を有するリガンド低分子の創製とその基礎ならびに応用研究	
叶 直樹	東北大学大学院・ 薬学研究科・准教授	生理活性化合物の標的タンパク質同定	※臼井健郎 (筑波大学生命環境系・ 准教授)
木越 英夫	筑波大学・ 数理物質系・教授	細胞骨格タンパク質の関わる抗腫瘍性発現機構の解明	※北将樹 (筑波大学数理物質系・准 教授)
西川 俊夫	名古屋大学大学院・ 生命農学研究科・教授	イオンチャネルの精密機能制御	※安立昌篤 (名古屋大学大学院生命 農学研究科・助教) ※此木敬一 (東 北大学大学院農学研究科・准教授)
佐々木 誠	東北大学大学院・ 生命科学研究科・教授	ポリエーテル天然物を基盤としたイオンチャネル選択的阻害剤の創製と機能解析・制御	此木敬一 (東北大学) 不破春彦 (東北大学)

【公募研究】 (平成 24 年～平成 25 年度)

代表者氏名	所属機関・部局・職	研究課題名	連携研究者
西山 賢一	岩手大学農学部附属・寒冷 バイオフロント研究センター・教授	タンパク質膜挿入に必須の糖脂質 MPIase とその標的タンパク質と相互作用解析	島本啓子 (サントリー生命科学財団) 徳田元 (盛岡大学)
浜本 晋	東北大学大学院・ 工学研究科・助教	天然物リガンドによるイオンチャネルの活性化と植物 K チャネルの選択的阻害剤の探索	魚住信之 (東北大学) 石丸泰寛 (東北大学)
福永 浩司	東北大学大学院・ 薬学研究科・教授	神経血管再生のシーズ探索と階層的生物評価系の確立	
関水 和久	東京大学大学院・ 薬学系研究科・教授	新規リポペプチド系抗生物質カイコシンの標的的同定	

岡田麻衣子	聖マリアンナ医科大学・ 応用分子腫瘍学・特任助教	核内受容体リガンド依存性タンパク分解機能 による新規リガンド評価系の構築	
松森 信明	九州大学大学院・ 理学研究院・教授	ビーズテクノロジーを用いた脂質結合タンパ ク質の網羅的解析	
奥野 利明	順天堂大学・ 医学部・准教授	GPCRを標的とする天然物リガンドの網羅的 探索	
菅原 章公	北里大学・北里生命科学研 究所・特任助教	半田ビーズを利用した新規マクロライドの抗 炎症作用の作用機序解明と創薬リードの創製	大村智・砂塚敏明(北里生命科学研 究所)、半田宏(東京医科大学)、 坂本聡(東京工業大学)
坂本 修一	微生物科学研究会・微生物 科学研究所・主任研究員	天然物リガンドを利用した間葉系幹細胞の分 化制御機構の解析	渡辺匠(微生物化学研究会) 川田学(微生物化学研究会)
小嶋 聡一	理化学研究所・ 特別ユニットリーダー	病的細胞増殖・細胞死・組織線維化・血管新 生を選択的制御する化合物の探索	井本正哉(慶應義塾大学) 和田昭盛(神戸薬科大学)
渡士 幸一	国立感染症研究所・ウイル ス第二部・主任研究官	肝炎ウイルス感染増殖系を用いた天然物生理 活性解析	
難波 康祐	徳島大学大学院・ 医歯薬学研究部・教授	アルカリ性不良土壌での農耕を目指す植物鉄 輸送体のケミカルバイオロジー研究	村田佳子(サントリー生命科学財団)
市川 聡	北海道大学大学院・ 薬学研究院・教授	アルケン・アルキンスキャンニングによる迅 速構造活性相関ストラテジー	細谷孝充(東京医科歯科大学) 浜本洋(東京大学)
不破 春彦	東北大学大学院・ 生命科学研究所・准教授	実用的全合成に立脚した微量複雑海洋天然ケ ミカルバイオロジー	
繁森 英幸	筑波大学・生命環境系・ 教授	植物の屈性運動に関わる生理活性物質を用い た作用機構の解明	長谷川宏司(筑波大学)
河岸 洋和	静岡大学・グリーン科学 技術研究センター・教授	菌類が他の生物に及ぼす「異常」を惹起する 分子の探索とその活性発現機構の解明	
小鹿 一	名古屋大学大学院・ 生命農学研究科・教授	記憶改善効果をもつ特異なステロイド配糖体 の開発と作用機構	内田浩二(名古屋大学) 間宮隆吉(名城大学)
西村 慎一	京都大学大学院・ 薬学研究所・助教	代謝と細胞形態のクロストークを解析する天 然リガンドの探索と作用機序解析	
田中 克典	理化学研究所・ 准主任研究員	ジアミンやタンパク質で進行する新奇イミン 環化反応の検証と活性、およびその標的探索	
戸嶋 一敦	慶應義塾大学・ 理工学部・教授	生体機能光制御分子の創製とケミカルバイオ ロジーへの応用	
犀川 陽子	慶應義塾大学・ 理工学部・准教授	非アレルギー性くしゃみ反射を司る天然物リ ガンドの探索	
細川誠二郎	早稲田大学・ 先進理工学部・准教授	多環式天然抗腫瘍性物質の全合成とケミカル バイオロジー	清水功雄(早稲田大学) 岡本真由美(早稲田大学)
平井 剛	理化学研究所・ 専任研究員	タンパク質 SUMO 化を阻害する天然リガン ドの合成供給と構造活性相関	
永次 史	東北大学・ 多元物質科学研究所・教授	遺伝子を標的とした新規機能性低分子プロー ブの開発	
細谷 孝充	東京医科歯科大学・ 生体材料工学研究所・教授	アジドケミストリーによる革新的標的タンパ ク質同定システムの開発	喜井勲(理化学研究所)
高岡 洋輔	東北大学大学院・ 理学研究科・講師	多点反応性ラベル化剤による天然物リガンド 標的タンパク質化学修飾法の開発	
大神田淳子	京都大学・化学研究所・ 准教授	フシコクシン誘導体によるたんぱく質間相互 作用の検出	
相田美砂子	広島大学大学院・ 理学研究科・教授	生理活性分子の分子設計のための理論化学的 研究	

大高 章	徳島大学大学院・ 医歯薬学研究部・教授	分子標的探索のための化学選択的修飾部位内 在型リンカーの開発	
高橋 栄夫	横浜市立大学大学院・ 生命医科学研究科・教授	天然リガンドの「鍵」構造を解明する NMR 手法の高度化	
菅 敏幸	静岡県立大学・ 薬学部・教授	独自の合成方法論を基盤とするプローブ分子 の創製	
中村 浩之	東京工業大学・ 資源化学研究所・教授	天然物とホウ素クラスターのハイブリッド分 子プローブ開発とがんの低酸素応答機構解明	
神澤 信行	上智大学・ 理工学部・教授	植物由来生理活性物資の作用機構の解明	石丸康寛（東北大学）
中川 優	名古屋大学大学院・ 生命農学研究科・准教授	Pradimicin の標的糖鎖同定に基づく糖鎖結 合性人工分子の設計開発	
室井 誠	理化学研究所・ 専任研究員	薬剤標的の同定の為のプロテオミクス的プロフ ァイリング法の改良と利用	

【公募研究】（平成 26 年～平成 27 年度）

代表者氏名	所属機関・部局・職	研究課題名	連携研究者
西山 賢一	岩手大学農学部附属・寒冷 バイオ frontier 研究センター・教授	タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質 MPIase と標的タンパク質との相互作用解析	島本啓子（サントリー生命科学財団） 徳田元（盛岡大学）
福永 浩司	東北大学大学院・ 薬学研究科・教授	階層的生物評価系を用いた脳機能改善薬の創 製	
杉本亜砂子	東北大学大学院・ 生命科学研究科・教授	線虫胚を用いた天然物リガンドの作用機序解 明および標的因子探索法の構築	
有本 博一	東北大学大学院・ 生命科学研究科・教授	細胞内分子の選択的分解に関する研究	
三輪 佳宏	筑波大学・医療医学系・ 講師	蛍光イメージングによるスクリーニング系の 確立と天然物探索	
程 久美子	東京大学大学院・ 理学系研究科・准教授	化学修飾導入 siRNA による 1 遺伝子特異的ケ ムバイオケム型 RNA 干渉法の開発	
浜本 洋	東京大学大学院・ 薬学系研究科・助教	新規抗生物質カイクシンと、宿主由来活性促 進因子との相互作用解析	関水和久（東京大学） 松本靖彦（東京大学）
加藤 博章	京都大学大学院・ 薬学研究科・教授	ABC 多剤排出トランスポーターと新規特異的 阻害剤の結合様式	山口知宏（京都大学）
島村 達郎	京都大学大学院・ 医学研究科・特定講師	立体構造に基づく GPCR とリガンドの相互作 用の解明	岩田想・野村紀通・寿野良二・ 林到炫（京都大学）
松森 信明	九州大学大学院・ 理学研究院・教授	海産梯子状ポリエーテル化合物イエソトキ シンの標的分子	
菅原 章公	北里大学・北里生命科学研 究所・特任助教	半田ビーズを利用した新規マクロライドの標 的の同定と天然物探索及び創薬リードの創製	大村智・砂塚敏明（北里生命科学 研究所）、半田宏（東京医科大学） 坂本聡（東京工業大学）
林 良雄	東京薬科大学・ 薬学部・教授	天然由来ジペプチド様物質ネガマイシンを戦 略分子とする創薬基盤研究	
岡田麻衣子	聖マリアンナ医科大学・ 応用分子腫瘍学・特任助教	リガンド依存性 E3 リガーゼ活性を指標とし た新規核内受容体リガンド評価系の構築	佐伯泰（東京都医学総合研究所）
小嶋 聡一	理化学研究所・ 特別ユニットリーダー	病的細胞増殖・細胞死・線維化・血管新生選択 的制御化合物の標的の同定と活性制御	和田昭盛（神戸薬科大学） 井本正哉（慶應義塾大学）
渡士 幸一	国立感染症研究所・ウイル ス第二部・主任研究官	ウイルス感染増殖系を基盤とした天然化合物 新規生理機能の同定	

市川 聡	北海道大学大学院・ 薬学研究院・教授	創薬を指向した緑膿菌の取り込み機構に関するケミカルバイオロジー	細谷孝充（東京医科歯科大学） 浜本洋（東京大学）
桑原 重文	東北大学大学院・ 農学研究科・教授	ケミカルバイオロジーへの展開を指向したキノコ子実体形成ホルモン候補物質の合成研究	河岸洋和（静岡大学）
不破 春彦	東北大学大学院・ 生命科学研究所・准教授	微量複雑海洋天然物の合理的構造単純化及び作用解析	
土井 隆行	東北大学大学院・ 薬学研究院・教授	ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の創薬研究	
川上 隆史	産業技術総合研究所・ 研究員	天然物を模したペプチドの大規模ライブラリーからのリガンド探索法の開発	
占部 大介	東京大学大学院・ 薬学系研究科・講師	抗がん活性を有する非天然ブファジエノリドの創製	
田中 浩士	東京工業大学大学院・ 理工学研究科・准教授	環状ホウ素化合物を利用した免疫機能調整能を有する真菌由来糖脂質類縁体の合成	
西村 慎一	京都大学大学院・ 薬学研究院・助教	アミノ酸代謝を制御するハブ分子の多面性の理解に向けた天然物化学遺伝学	
藤本ゆかり	慶應義塾大学・ 理工学部・教授	獲得免疫を制御する鍵化合物としての脂質抗原受容体リガンドの合成と機能解析	井貫晋輔（慶應義塾大学）
難波 康祐	徳島大学大学院・ 医歯薬学研究部・教授	食糧不足問題の解決策提案：植物鉄輸送体のケミカルバイオロジー研究	村田佳子（ナトリ-生命科学財団）
戸嶋 一敦	慶應義塾大学・ 理工学部・教授	生体機能光制御分子の創製とケミカルバイオロジーへの応用	
田中 克典	理化学研究所・ 准主任研究員	生体内でポリアミンが起こす環化反応の検証とターゲット探索	
平井 剛	理化学研究所・ 専任研究員	酸化ステロイドの鍵構造アナログ創製と作用機序解析	
大栗 博毅	東京農工大学大学院・ 工学研究院・教授	元素置換戦略による多環性天然物の迅速合成と機能性プローブ創製	
永次 史	東北大学・ 多元物質科学研究所・教授	遺伝子を標的とした新規機能性低分子プローブの開発	
浜本 晋	東北大学大学院・ 工学研究科・助教	植物 K ⁺ チャネルの阻害剤による活性調節機構とイオン透過孔の構造解析	魚住信之（東北大学）
細谷 孝充	東京医科歯科大学・ 生体材料工学研究所・教授	ジアジドプローブ法に基づく革新的標的タンパク質同定システムの開発	
中村 浩之	東京工業大学・ 資源化学研究所・教授	リガンド結合型光触媒を用いた生体内標的タンパク質ノックダウン法の開発	佐藤伸一（東京工業大学）
齋藤 大明	金沢大学・理工研究域・ 助教	ドッキングと分子シミュレーションの連帯によるタンパク質複合体の高精度構造予測	
大神田淳子	京都大学・化学研究所・ 准教授	抗がん活性を有するフシコクシン誘導体の細胞内標的たんぱく質の解明	
上杉 志成	京都大学・物質-細胞統合 システム拠点・教授	脂質関連内因性分子の新機能発掘と調節	木越英夫（筑波大学） 吉田稔（理化学研究所）
高岡 洋輔	東北大学大学院・ 理学研究科・講師	改良型リガンド指向性触媒反応による細胞内標的タンパク質の効率的ラベル化技術の構築	
相田美砂子	広島大学大学院・ 理学研究科・教授	生理活性分子の特徴抽出と合理的分子設計のための理論化学的研究	
高橋 栄夫	横浜市立大学大学院・ 生命医科学研究科・教授	天然物リガンドの「鍵」構造を解明するハイブリッド NMR アプローチ	

菅 敏幸	静岡県立大学・ 薬学部・教授	独自の合成方法論を基盤とするプローブ分子の創製	
神澤 信行	上智大学・ 理工学部・教授	LOF/MetE 結合によって引き起こされる生理機能の解析	石丸泰寛 (東北大学)
三尾 和弘	産業技術総合研究所・ 主任研究員	TRP チャネルをターゲットとする天然物リガンドのマルチモーダル活性化機構	

【研究協力者】

氏名	所属機関
掛谷 秀昭	京都大学大学院薬学研究科・教授 (平成 23 年～平成 27 年)
上杉 志成	京都大学物質・細胞統合システム拠点・教授 (平成 23 年～平成 25 年)
吉田 稔	国立研究開発法人理化学研究所・主任研究員 (平成 24 年～平成 27 年)
袖岡 幹子	国立研究開発法人理化学研究所・主任研究員 (平成 24 年～平成 27 年)
井上 将行	東京大学大学院薬学系研究科・教授 (平成 24 年～平成 27 年)
深瀬 浩一	大阪大学大学院薬学研究科・教授 (平成 24 年～平成 27 年)
菊地 和也	大阪大学大学院工学研究科・教授 (平成 24 年～平成 27 年)
河岸 洋和	静岡大学グリーン科学技術研究所・教授 (平成 26 年～平成 27 年)
村田 道雄	大阪大学大学院理学研究科・教授 (平成 26 年～平成 27 年)
浜地 格	京都大学大学院工学研究科・教授 (平成 26 年～平成 27 年)
横島 聡	名古屋大学大学院創薬科学研究科・准教授 (平成 26 年～平成 27 年)
田中 克典	国立研究開発法人理化学研究所・准主任研究員 (平成 27 年 8 月～)
永次 史	東北大学多元物質科学研究所・教授 (平成 27 年 10 月～)
土井 隆行	東北大学大学院大学薬学研究科・教授 (平成 27 年 10 月～)

【評価班員】

氏名	所属機関
浅島 誠	独立行政法人日本学術振興会
磯部 稔	Chulabhorn Research Institute (タイ)
大村 智	北里大学
長田 裕之	国立研究開発法人理化学研究所
楠本 正一	大阪大学
福山 透	名古屋大学大学院創薬科学研究科
星 元紀	東京農工大学

交付決定額(配分額)

(千円)

		平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	合 計
総括班	直接経費	15,200	26,100	26,300	24,900	24,900	117,400
	間接経費	4,560	7,830	7,890	7,470	7,470	35,220
計画班	直接経費	70,900	149,000	150,900	142,900	142,900	656,600
	間接経費	21,270	44,700	45,270	42,870	42,870	196,980
公募班	直接経費		90,000	90,000	90,000	90,000	360,000
	間接経費		27,000	27,000	27,000	27,000	108,000

研究発表

(1) 雑誌論文(査読あり。共同研究の場合、重複あり。)

A01: 分子標的探索と生物学的評価

【半田宏】

- Klaeger, S., Gohlke, B., Perrin, J., Gupta, V., Heinzlmeir, S., Helm, D., Qiao, H., Bergamini, G., [Handa, H.](#), Savitski, M. M., Bantscheff, M., Medard, G., Preissner, R. and Kuster, B.* Chemical Proteomics Reveals Ferrochelatase as a Common Off-target of Kinase Inhibitors. ACS Chem. Biol., 11, 2016, 1245-1254.
- Kabe, Y.* Nakane, T., Koike, I., Yamamoto, T., Sugiura, Y., Harada, E., Sugase, K., Shimamura, T., Ohmura, M., Muraoka, K., Yamamoto, A., Uchida, T., Iwata, S., Yamaguchi, Y., Krayukhina, E., Noda, M., [Handa, H.](#), Ishimori, K., Uchiyama, S., Kobayashi, T.* and Suematsu, M.* Haem-dependent dimerization of PGRMC1/sigma-2 receptor facilitates cancer proliferation and chemoresistance. Nat. Commun., 7, 2016, 11030.
- Nguyen, T. V., Lee, J. E., Sweredoski, M. J., Yang, S.-J., Jeon, S.-J., Harrison, J. S., Yim, J.-H., Lee, S. G., [Handa, H.](#), Kuhlman, B., Jeong, J.-S., Reitsma, J. M., Park, C.-S., Hess, S., and Deshaies, R. J.* Glutamine triggers acetylation-dependent degradation of glutamine synthetase via the thalidomide receptor cereblon. Mol. Cell, 61, 2016, 809-820.
- Mukai, S., Moriya, S., Hiramoto, M., Kazama, H., Kokuba, H., Che, X. F., Yokoyama, T., Sakamoto, S., Sugawara, A., Sunazuka, T., Ōmura, S., [Handa, H.](#), Itoi, T., and Miyazawa, K.* Macrolides sensitize EGFR-TKI-induced non-apoptotic cell death via blocking autophagy flux in pancreatic cancer cell lines. Int. J. Oncol. 48, 2016, 45-54.
- Laitem, C., Zaborowska, J., Tellier, M., Yamaguchi, Y., Qingfu, C., Eglhoff, S., [Handa, H.](#) and Murphy, S.* CTCF regulates NELF, DSIF and P-TEFb recruitment during transcription. Transcription, 6, 2015, 79-90.
- Cao, Q. F., Yamamoto, J., Isobe, T., Tateno, S., Murase, Y., Chen, Y., [Handa, H.](#) and Yamaguchi, Y.* Characterization of the Human Transcription Elongation Factor Rtf1: Evidence for Non-overlapping Functions of Rtf1 and the Paf1 Complex. Mol. Cell. Biol., 35, 2015, 3459-3470.
- Ito, T. and [Handa, H.](#) Myeloid disease: Another action of a thalidomide derivative. Nature (News and Views), 523, 2015, 167-168.
- Kawano, M., Doi, K., Fukuda, H., Kita, Y., Imai, K., Inoue, T., Enomoto, T., Matsui, M., Hatakeyama, M., Yamaguchi, Y. and [Handa, H.](#)* SV40 VP1 major capsid protein in its self-assembled form allows VP1 pentamers to coat various types of artificial beads *in vitro* regardless of their sizes and shapes. Biotechnol. Rep., 5, 2015, 105-111.
- Chamberlain, P., Lopez-Girona, A., Miller, K., Carmel, G., Pagarigan, B., Chie-Leon, B., Rychak, E., Corral, L., Ren, Y., Wang, M., Riley, M., Delker, S., Ito, T., Ando, H., Mori, T., Hirano, Y., [Handa, H.](#), Hakoshima, T., Daniel, T. and Cathers, B.* Structure of the human cereblon-DDB1-lenalidomide complex reveals basis for responsiveness to thalidomide analogs. Nat. Struct. Mol. Biol., 21, 2014, 803-809.
- Pérez-Peramau, A., Preciado, S., Palmeri, C. M., Moncunill-Massaguer, C., Iglesias-Serret, D., González-Gironès, DM., Miguel, M., Karasawa, S., Sakamoto, S., Cosialls, AM., Rubio-Patiño, C., Saura-Esteller, J., Ramón, R., Caja, L., Fabregat, I., Pons, G., [Handa, H.](#), Albericio, F.* Gil, J.* and Lavilla, R.* Novel trifluorinated thiazoline scaffold leading to proapoptotic agents targeting prohibitins. Angew. Chem. Int. Ed., 53, 2014, 10150-10154.
- Yamamoto, J., Hagiwara, Y., Chiba, K., Isobe, T., Narita, T., [Handa, H.](#) and Yamaguchi, Y.* DSIF and NELF interact with Integrator to specify the correct post-transcriptional fate of snRNA genes. Nat. Commun., 5, 2014, 4263.
- Sakamoto, S., Omagari, K., Kita, Y., Mochizuki, Y., Naito, Y., Kawata, S., Matsuda, S., Itano, O., Jinno, H., Takeuchi, H., Yamaguchi, Y., Kitagawa, Y. and [Handa, H.](#)* Magnetically Promoted Rapid Immunoreactions Using Functionalized Fluorescent Magnetic Beads: A Proof of Principle. Clin. Chem., 60, 2014, 610-620.
- Gandhi, A. K.* Kang, J., Havens, C. G., Conklin, T., Ning, Y., Wu, L., Ito, T., Ando, H., Waldman, M. F., Thankurta, A., Klippel, A., [Handa, H.](#), Daniel, T. O., Schafer, P. H. and Chopra, R. Immunomodulatory agents lenalidomide and pomalidomide co-stimulate T cells by inducing degradation of T cell repressors Ikaros and Aiolos via modulation of the E3 ubiquitin ligase complex CRL4CRBN. Br. J. Haematol., 164, 2014, 811-821.
- Takemoto, M., Kawamura, Y., Hirohama, M., Yamaguchi, Y., [Handa, H.](#), Saitoh, H., Nakao, Y., Kawada, M., Khalid, K., Koshino, H., Kimura, K., Ito, A., and Yoshida, M.* Inhibition of protein SUMOylation by davidiin, an ellagitannin from *Davidia involucrata*. J. Antibiot., 67, 2014, 335-338.
- Kawano, M., Morikawa, K., Suda, T., Ohno, N., Matsushita, S., Akatsuka, T., [Handa, H.](#)* and Matsui, M.* Chimeric SV40 virus-like particles induce specific cytotoxicity and protective immunity against influenza A virus without the need of adjuvants. Virology, 448, 2014, 159-167.
- Terada, K.* Tanaka, T., Hanyu, N., Honda, T. and [Handa, H.](#) Rapid and sensitive detection of alpha-fetoprotein by a magnetically promoted shake-free immunoassay employing fluorescent magnetic nanobeads. Int. J. Anal. Bio-Sci., 2, 2014, 101-107.
- Ohno, K., Sawada, J., Takiya, S., Kimoto, M., Matsumoto, A., Tsubota, T., Uchimo, K., Hui, C., Sezutsu, H., [Handa, H.](#) and Suzuki, Y.* Silk Gland Factor-2, Involved in Fibroin Gene Transcription, Consists of LIM Homeodomain, LIM-interacting, and Single-stranded DNA-binding Proteins.

J. Biol. Chem., 288, 2013, 31581-31591.

18. Gupta, V., Liu, S., Ando, H., Ishii, R., Tateno, S., Kaneko, Y., Yugami, M., Sakamoto, S., Yamaguchi, Y., Nureki, O. and [Handa, H.](#)* Salicylic acid induces mitochondrial injury by inhibiting ferrochelatase heme biosynthesis activity. *Mol. Pharmacol.*, 84, 2013, 824-833.
19. Miyazaki, H., Higashimoto, K., Yada, Y., Endo, T. A., Sharif, J., Komori, T., Matsuda, M., Koseki, Y., Nakayama, M., Soejima, H., [Handa, H.](#), Koseki, H., Hirose, S. and Nishioka, K.* Ash11 methylates Lys36 of histone H3 independently of transcriptional elongation to counteract Polycomb silencing. *PLoS Genetics*, 9, 2013, e1003897.
20. Iida, S., Imai, K., Matsuda, S., Itano, O., Hatakeyama, M., Sakamoto, S., Kokuryo, D., Okabayashi, K., Endo, T., Ishii, Y., Hasegawa, H., Aoki, I., [Handa, H.](#) and Kitagawa, Y.* In Vivo Identification of Sentinel Lymph Nodes Using MRI and Size-Controlled and Monodispersed Magnetite Nanoparticles. *J. Magn. Reson. Imaging*, 38, 2013, 1346-1355.
21. Enomoto, T., Kawano, M., Fukuda, H., Sawada, W., Inoue, T., Haw, K. C., Kita, Y., Sakamoto, S., Yamaguchi, Y., Imai, T., Hatakeyama, M., Saito, S., Sandhu, A., Matsui, M., Aoki, I. and [Handa, H.](#)* Viral protein-coating of magnetic nanoparticles using simian virus 40 VP1. *J. Biotechnol.*, 167, 2013, 8-15.
22. Kang, J., Shen, Z., Lim, J.-M., [Handa, H.](#), Wells, L. and Tantin, D.* Regulation of Oct1/Pou2f1 transcription activity by O-GlcNAcylation. *FASEB J.*, 27, 2013, 2807-2817.
23. Hotta, K., Nashimoto, A., Yasumura, E., Suzuki, M., Azuma, M., Iizumi, Y., Shima, D., Nabeshima, R., Hiramoto, M., Okada, A., Sakata-Sogawa, K., Tokunaga, M., Ito, T., Ando, H., Sakamoto, S., Kabe, Y., Aizawa, S., Imai, T., Yamaguchi, Y., Watanabe, H. and [Handa, H.](#)* Vesnarinone suppresses TNF α mRNA expression by inhibiting valosin-containing protein. *Mol. Pharmacol.*, 83, 2013, 930-938.
24. Kawano, M., Matsui, M. and [Handa, H.](#)* SV40 virus-like particles as an effective delivery system and its application to a vaccine carrier. (review) *Expert Rev. Vaccines*, 12, 2013, 199-210.
25. Kershaw, J.,* Leuze, C., Aoki, I., Obata, T., Kanno, I., Ito, H., Yamaguchi, Y., and [Handa, H.](#) Systematic changes to the apparent diffusion tensor of in vivo rat brain measured with an oscillating-gradient spin-echo sequence. *Neuroimage*, 70, 2013, 10-20.
26. Karasawa, S., Azuma, M., Kasama, T., Sakamoto, S., Kabe, Y., Imai, T., Yamaguchi, Y., Miyazawa, K. and [Handa, H.](#)* Vitamin K2 covalently binds to Bak and induces Bak-mediated apoptosis. *Mol. Pharmacol.*, 83, 2013, 613-620.
27. Yamaguchi, Y., Shibata, H. and [Handa, H.](#)* Transcription elongation factors DSIF and NELF: Promoter-proximal pausing and beyond. (review) *Biochim. Biophys. Acta*, 1829, 2013, 98-104.
28. Uebi, T., Umeda, M., Maekawa, N., Karasawa, S., [Handa, H.](#) and Imai, T.* Prohibitins, novel vitamin K2 target factors in osteoblast. *J. Biosci. Med.*, 1, 2013, 1-4.
29. Umeda, M., Uebi, T., Maekawa, N., Masaike, Y., [Handa, H.](#) and Imai, T.* Effective cofactor complex purification using nanobeads. *J. Biosci. Med.*, 1, 2013, 5-10.
30. Ito, Y., Ito, T., Karasawa, S., Enomoto, T., Nashimoto, A., Hase, Y., Sakamoto, S., Mimori, T., Matsumoto, Y., Yamaguchi, Y. and [Handa, H.](#)* Identification of DNA-dependent protein kinase catalytic subunit (DNA-PKcs) as a novel target of Bisphenol A. *PLoS ONE*, 7, 2012, e50481.
31. Diamant, G., Amir-Zilberstein, L., Yamaguchi, Y., [Handa, H.](#) and Dikstein, R.* DSIF restricts NF- κ B signaling by coordinating elongation with mRNA Processing of negative feedback genes. *Cell Reports*, 2, 2012, 1-10.
32. Wada, T.,* Hara, M., Taneda, T., Qingfu, C., Takara, R., Moro, K., Takeda, K., Kishimoto, T. and [Handa, H.](#)* Antisense morpholino targeting just upstream from a poly(A) tail junction of maternal mRNA removes the tail and inhibits translation. *Nuc. Acids Res.*, 40, 2012, e173.
33. Lopez-Girona, A.,* Mendy, D., Ito, T., Miller, K., Gandhi, A. K., Kang, J., Karasawa, S., Carmel, G., Jackson, P., Abbasian, M., Mahmoudi, A., Cathers, B., Rychak, E., Gaidarova, S., Chen, R., Schafer, P. H., [Handa, H.](#), Daniel, T. O., Evans, J. F. and Chopra, R. Cereblon is a direct protein target for immunomodulatory and antiproliferative activities of lenalidomide and pomalidomide. *Leukemia*, 26, 2012, 2326-2335.
34. Ito, T. and [Handa, H.](#)* Deciphering the mystery of thalidomide teratogenicity. (review) *Congenit. Anom.*, 52, 2012, 1-7.
35. Okuda-Ashitaka, E.,* Minami, T., Tsubouchi, S., Kiyonari, H., Iwamatsu, A., Noda, T., [Handa, H.](#) and Ito, S. Identification of NIPSNAP1 as a nocistatin-interacting protein involving pain transmission. *J. Biol. Chem.*, 287, 2012, 10403-10413.
36. Sakamoto, S., Hatakeyama, M., Ito, T. and [Handa, H.](#)* Tools and methodologies capable of isolating and identifying a target molecule for a bioactive compound. (review) *Bioorg. Med. Chem.*, 20, 2012, 1990-2001.
37. Kawano, A., Hayashi, Y., Noguchi, S., [Handa, H.](#), Horikoshi, M.* and Yamaguchi, Y.* Global analysis for functional residues of histone variant Htz1 using the comprehensive point mutant library. *Genes Cells*, 16, 2011, 590-607.
38. Enomoto, T., Kukimoto, I., Kawano, M., Yamaguchi, Y., Berk, A. J. and [Handa, H.](#)* In vitro reconstitution of SV40 particles that are composed of VP1/2/3 capsid proteins and nucleosomal DNA and direct efficient gene transfer. *Virology*, 420, 2011, 1-9.
39. Kitai, Y., Fukuda, H., Enomoto, T., Asakawa, Y., Suzuki, T., Inouye, S. and [Handa, H.](#)* Cell selective targeting of a simian virus 40 virus-like particle conjugated to epidermal growth factor. *J. Biotechnol.*, 155, 2011, 251-256.
40. Yasuma, A.,* Ochiai, T., Azuma, M., Nishiyama, H., Kikuchi, K., Kondo, M. and [Handa, H.](#) Exogenous coproporphyrin III production by *Corynebacterium aurimucosum* and *Microbacterium oxydans* in erythrasma lesions. *J. Med. Microbiol.*, 60, 2011, 1038-1042.
41. Hatakeyama, M., Kishi, H., Kita, Y., Imai, K., Nishio, K., Karasawa, S., Masaike, Y., Sakamoto, S., Sandhu, A., Tanimoto, A., Gomi, T., Kohda, E., Abe, M. and [Handa, H.](#)* A two-step ligand exchange reaction generates highly water-dispersed magnetic nanoparticles for biomedical applications. *J. Mater. Chem.*, 21, 2011, 5959-5966.
42. Ito, T., Ando, H. and [Handa, H.](#)* Teratogenic effects of thalidomide: molecular mechanisms. (review) *Cell. Mol. Life Sci.*, 68, 2011, 1569-1579.
43. Aizawa, M., Abe, Y., Ito, T., [Handa, H.](#) and Nawa, H.* mRNA distribution of the thalidomide binding protein cereblon in adult mouse brain. *Neurosci. Res.*, 69, 2011, 343-347.
44. Taneda, T., Zhu, W., Cao, Q., Watanabe, H., Yamaguchi, Y., [Handa, H.](#)* and Wada, T.* Erythropoiesis is regulated by the transcription elongation factor Foggy/Spt5 through gata1 gene regulation. *Genes Cells*, 16, 2011, 231-242.
45. Maekawa, N., Hiramoto, M., Sakamoto, S., Azuma, M., Ito, T., Ikeda, M., Naitou, M., Acharya, H. P., Kobayashi, Y., Suematsu, M., [Handa, H.](#) and Imai, T.* High-performance affinity purification for identification of 15-deoxy- Δ 12,14-PGJ2 interacting factors using magnetic nanobeads. *Biomed. Chromatogr.*, 25, 2011, 466-471.

【岡本隆一】

1. Kengo Nozaki, Wakana Mochizuki, Yuka Matsumoto, Taichi Matsumoto, Masayoshi Fukuda, Tomohiro Mizutani, Mamoru Watanabe, [Tetsuya Nakamura](#). Co-culture with intestinal epithelial organoids allows efficient expansion and motility analysis of intraepithelial lymphocytes. *J. Gastroenterol.* 51(3), 2016, 206-213
2. [Ryuichi Okamoto](#), Mamoru Watanabe. Role of epithelial cells in the pathogenesis and treatment of inflammatory bowel disease. *J. Gastroenterol* 51(1), 2016, 11-21
3. Satoshi Otani, Sei Kakinuma, Akihide Kamiya, Fumio Goto, Shun Kaneko, Masato Miyoshi, Tomoyuki Tsunoda, Yu Asano, Fukiko Kawai-Kitahata, Sayuri Nitta, Toru Nakata, [Ryuichi Okamoto](#), Yasuhiro Itsui, Mina Nakagawa, Seishin Azuma, Yasuhiro Asahina, Tomoyuki Yamaguchi, Naohiko Koshikawa, Motoharu Seiki, Hiromitsu Nakauchi, Mamoru Watanabe. Matrix Metalloproteinase-14 Mediates Formation of Bile Ducts and Hepatic Maturation of Fetal Hepatic Progenitor Cells. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* , 469, 2016, 1062-1068
4. [Ryuichi Okamoto](#), Mamoru Watanabe. Perspectives for Regenerative Medicine in the Treatment of Inflammatory Bowel Diseases. *Digestion* 92(2), 2015, 73-77
5. Yu Matsuzawa, Shigeru Oshima, Masahiro Takahara, Chiaki Maeyashiki, Yasuhiro Nemoto, Masanori Kobayashi, Yoichi Nibe, Kengo Nozaki,

- Takashi Nagaishi, [Ryuichi Okamoto](#), Kiichiro Tsuchiya, [Tetsuya Nakamura](#), Averil Ma, Mamoru Watanabe. TNFAIP3 promotes survival of CD4 T cells by restricting mTOR and promoting autophagy. *Autophagy*, 11(7), 2015, 1052-1062
6. Keita Fukushima, Kiichiro Tsuchiya, Yoshihito Kano, Nobukatsu Horita, Shuji Hibiya, Ryohei Hayashi, Keisuke Kitagaki, Mariko Negi, Eisaku Itoh, Takumi Akashi, Yoshinobu Eishi, Shigeru Oshima, Takashi Nagaishi, [Ryuichi Okamoto](#), [Tetsuya Nakamura](#), Mamoru Watanabe. Atonal homolog 1 protein stabilized by tumor necrosis factor α induces high malignant potential in colon cancer cell line. *Cancer Sci*, 106, 2015, 1000-7
 7. Yu Matsuzawa, Shigeru Oshima, Yoichi Nibe, Masanori Kobayashi, Chiaki Maeyashiki, Yasuhiro Nemoto, Takashi Nagaishi, [Ryuichi Okamoto](#), Kiichiro Tsuchiya, [Tetsuya Nakamura](#), Mamoru Watanabe. RIPK3 regulates p62-LC3 complex formation via the caspase-8-dependent cleavage of p62. (Epub ahead of print) *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 456(1), 2015, 298-304
 8. Hayashi R, Tsuchiya K, Fukushima K, Horita N, Hibiya S, Kitagaki K, Negi M, Itoh E, Akashi T, Eishi Y, Okada E, Araki A, Ohtsuka K, Fukuda S, Ohno H, [Okamoto R](#), [Nakamura T](#), Tanaka S, Chayama K, Watanabe M. Reduced human α -defensin 6 in non-inflamed jejunal tissue of Crohn's disease patients. [Epub ahead of print] *Inflammatory Bowel Diseases* 2015
 9. Nobukatsu Horita, Kiichiro Tsuchiya, Ryohei Hayashi, Keita Fukushima, Shuji Hibiya, Masayoshi Fukuda, Yoshihito Kano, Tomohiro Mizutani, Yasuhiro Nemoto, Shiro Yui, [Ryuichi Okamoto](#), [Tetsuya Nakamura](#), Mamoru Watanabe. Fluorescent labelling of intestinal epithelial cells reveals independent long-lived intestinal stem cells in a crypt. *Biochem Biophys Res Commun*, 454 (4), 2014, 493-499
 10. Hiromichi Shimizu, [Ryuichi Okamoto](#), Go Ito, Satoru Fujii, Toru Nakata, Kohei Suzuki, Tatsuro Murano, Tomohiro Mizutani, Kiichiro Tsuchiya, [Tetsuya Nakamura](#), Katsuto Hozumi, Mamoru Watanabe. Distinct expression patterns of Notch ligands, Dll1 and Dll4, in normal and inflamed mice intestine. *PeerJ*, 2(1), 2014, e370-e370
 11. Masahiro Suzuki, Takashi Nagaishi, Motomi Yamazaki, Michio Onizawa, Taro Watabe, Yuriko Sakamaki, Shizuko Ichinose, Mamoru Totsuka, Shigeru Oshima, [Ryuichi Okamoto](#), Motoyuki Shimonaka, Hideo Yagita, [Tetsuya Nakamura](#), Mamoru Watanabe. Myosin light chain kinase expression induced via tumor necrosis factor receptor 2 signaling in the epithelial cells regulates the development of colitis-associated carcinogenesis. *PLoS ONE*, 9(2), 2014, e88369-e88369
 12. Tatsuro Murano, [Ryuichi Okamoto](#), Go Ito, Toru Nakata, Shuji Hibiya, Hiromichi Shimizu, Satoru Fujii, Yoshihito Kano, Tomohiro Mizutani, Shiro Yui, Junko Akiyama-Morio, Yasuhiro Nemoto, Kiichiro Tsuchiya, [Tetsuya Nakamura](#), Mamoru Watanabe. Hes1 promotes the IL-22-mediated antimicrobial response by enhancing STAT3-dependent transcription in human intestinal epithelial cells. *Biochem Biophys Res Commun*, 443(3), 2014, 840-6
 13. Masayoshi Fukuda, Tomohiro Mizutani, Wakana Mochizuki, Taichi Matsumoto, Kengo Nozaki, Yuriko Sakamaki, Shizuko Ichinose, Yukinori Okada, Toshihiro Tanaka, Mamoru Watanabe, [Tetsuya Nakamura](#). Small intestinal stem cell identity is maintained with functional Paneth cells in heterotopically grafted epithelium onto the colon. *Genes Dev*, 28(16), 2014, 1752-1757
 14. Robert P Fordham, Shiro Yui, Nicholas R F Hannan, Christoffer Soendergaard, Alison Madgwick, Pawel J Schweiger, Ole H Nielsen, Ludovic Vallier, Roger A Pedersen, [Tetsuya Nakamura](#), Mamoru Watanabe, Kim B Jensen. Transplantation of expanded fetal intestinal progenitors contributes to colon regeneration after injury. *Cell Stem Cell*, 13(6), 2013, 734-44
 15. Go Ito, [Ryuichi Okamoto](#), Tatsuro Murano, Hiromichi Shimizu, Satoru Fujii, Toru Nakata, Tomohiro Mizutani, Shiro Yui, Junko Akiyama-Morio, Yasuhiro Nemoto, Eriko Okada, Akihiro Araki, Kazuo Ohtsuka, Kiichiro Tsuchiya, [Tetsuya Nakamura](#), Mamoru Watanabe. Lineage-specific expression of bestrophin-2 and bestrophin-4 in human intestinal epithelial cells. *PLoS ONE*, 8(11), 2013, e79693-e79693
 16. Masahiro Takahara, Yasuhiro Nemoto, Shigeru Oshima, Yu Matsuzawa, Takanori Kanai, [Ryuichi Okamoto](#), Kiichiro Tsuchiya, [Tetsuya Nakamura](#), Kazuhide Yamamoto, Mamoru Watanabe. IL-7 promotes long-term in vitro survival of unique long-lived memory subset generated from mucosal effector memory CD4+ T cells in chronic colitis mice. *Immunol. Lett.*, 156(1-2), 2013, 82-93
 17. Yasuhiro Nemoto, Takanori Kanai, Masahiro Takahara, Shigeru Oshima, [Tetsuya Nakamura](#), [Ryuichi Okamoto](#), Kiichiro Tsuchiya, Mamoru Watanabe. Bone marrow-mesenchymal stem cells are a major source of interleukin-7 and sustain colitis by forming the niche for colitogenic CD4 memory T cells. *Gut*, 62(8), 2013, 42-1152
 18. Yasuhiro Nemoto, Takanori Kanai, Masahiro Takahara, Shigeru Oshima, [Ryuichi Okamoto](#), Kiichiro Tsuchiya, Satoshi Matsumoto, Mamoru Watanabe. Th1/Th17-mediated interstitial pneumonia in chronic colitis mice independent of intestinal microbiota. *J. Immunol*, 190(12), 2013, 6616-6625
 19. Yoshihito Kano, Kiichiro Tsuchiya, Xiu Zheng, Nobukatsu Horita, Keita Fukushima, Shuji Hibiya, Yuhki Yamauchi, Tatsunori Nishimura, Kunihiko Hinohara, Noriko Gotoh, Shinji Suzuki, [Ryuichi Okamoto](#), [Tetsuya Nakamura](#), Mamoru Watanabe. The acquisition of malignant potential in colon cancer is regulated by the stabilization of Atonal homolog 1 protein. *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, 432(1), 2013, 175-181
 20. Akihiro Araki, Kiichiro Tsuchiya, Shigeru Oshima, Eriko Okada, Shinji Suzuki, Junko Morio Akiyama, Toshimitsu Fujii, [Ryuichi Okamoto](#), Mamoru Watanabe. Endoscopic ultrasound with double-balloon endoscopy for the diagnosis of inverted Meckel's diverticulum: a case report. *J Med Case Rep*, 6(1), 2013, 328-328
 21. Shiro Yui, [Tetsuya Nakamura](#), Toshiro Sato, Yasuhiro Nemoto, Tomohiro Mizutani, Xiu Zheng, Shizuko Ichinose, Takashi Nagaishi, [Ryuichi Okamoto](#), Kiichiro Tsuchiya, Hans Clevers, Mamoru Watanabe. Functional engraftment of colon epithelium expanded in vitro from a single adult Lgr5+ stem cell. *Nat. Med.*, 18(4), 2012, 618-623
 22. Osamu Yamaji, Takashi Nagaishi, Teruji Totsuka, Michio Onizawa, Masahiro Suzuki, Naoto Tsuge, Atsuhiko Hasegawa, [Ryuichi Okamoto](#), Kiichiro Tsuchiya, [Tetsuya Nakamura](#), Hisashi Arase, Takanori Kanai, Mamoru Watanabe. The development of colitogenic CD4(+) T cells is regulated by IL-7 in collaboration with NK cell function in a murine model of colitis. *J. Immunol*, 188(6), 2012, 2524-2536
 23. Mizutani T, [Nakamura T](#), Morikawa R, Fukuda M, Mochizuki W, Yamauchi Y, Nozaki K, Yui S, Nemoto Y, Nagaishi T, [Okamoto R](#), Tsuchiya K, Watanabe M. Real-time analysis of P-glycoprotein-mediated drug transport across primary intestinal epithelium three-dimensionally cultured in vitro. *Biochem Biophys Res Commun*, 419(2), 2012, 238-243
 24. Yasuhiro Nemoto, Takanori Kanai, Tamako Shinohara, Takashi Ito, [Tetsuya Nakamura](#), [Ryuichi Okamoto](#), Kiichiro Tsuchiya, Martin Lipp, Yoshinobu Eishi, Mamoru Watanabe. Luminal CD4+ T cells penetrate gut epithelial monolayers and egress from lamina propria to blood circulation. *Gastroenterology*, 141(6), 2011, 2130-2139.
 25. Xiu Zheng, Kiichiro Tsuchiya, [Ryuichi Okamoto](#), Michiko Iwasaki, Yoshihito Kano, Naoya Sakamoto, [Tetsuya Nakamura](#), Mamoru Watanabe. Suppression of hsth1 gene expression directly regulated by hes1 via notch signaling is associated with goblet cell depletion in ulcerative colitis. *Inflamm. Bowel Dis*, 17(11), 2011, 2251-2260
 26. Zhao R, [Nakamura T](#), Fu Y, Lazar Z, and Spector DL. Gene bookmarking accelerates the kinetics of post-mitotic transcriptional activation. *Nat Cell Biol*, 13(11), 2011, 1295-1304
- 【渡邊肇】**
1. Suzuki A, Kato Y, Matsuura T, [*Watanabe H](#). Growth evaluation method by live imaging of *Daphnia magna* and its application to the estimation of an insect growth regulator. *J Appl Toxicol* 35, 2015, 68-74
 2. Peerakietkhajorn S, Tsukada K, Kato Y, Matsuura T, [*Watanabe H](#). Symbiotic bacteria contribute to increasing the population size of a freshwater crustacean, *Daphnia magna*. *Environ Microbiol Rep* 7, 2015, 364-372
 3. Peerakietkhajorn S, Kato Y, Kasalicky V, Matsuura T, [*Watanabe H](#). Betaproteobacteria Limnohabitans strains increase fecundity in the crustacean *Daphnia magna*: symbiotic relationship between major bacterioplankton and zooplankton in freshwater ecosystem. *Environ Microbiol* 2015
 4. Nakanishi T, Kato Y, Matsuura T, [*Watanabe H](#). TALEN-mediated homologous recombination in *Daphnia magna*. *Sci Rep* 5, 2015, 18312
 5. Naitou A, Kato Y, Nakanishi T, Matsuura T, [*Watanabe H](#). Heterodimeric TALENs induce targeted heritable mutations in the crustacean *Daphnia*

- magna. *Biol Open* 4, 2015, 364-369
6. Uyeda A, Watanabe T, Kato Y, [Watanabe H](#), Yomo T, Hohsaka T, Matsuura T. Liposome-based in vitro evolution of aminoacyl-tRNA synthetase for enhanced pyrrolysine derivative incorporation. *Chembiochem* 16, 2015, 1797-1802
 7. Torner K, Nakanishi T, Matsuura T, Kato Y, [Watanabe H](#). Optimization of mRNA design for protein expression in the crustacean *Daphnia magna*. *Mol Genet Genomics* 2014
 8. Nakanishi T, Kato Y, Matsuura T, [Watanabe H](#). CRISPR/Cas-Mediated Targeted Mutagenesis in *Daphnia magna*. *PLoS One* 9, 2014, e98363
 9. Asada M, Kato Y, Matsuura T, [Watanabe H](#). Early Embryonic Expression of a Putative Ecdysteroid-Phosphate Phosphatase in the Water Flea, *Daphnia magna* (Cladocera: Daphniidae). *J Insect Sci* 14, 2014, 181
 10. Asada M, Kato Y, Matsuura T, [Watanabe H](#). Visualization of ecdysteroid activity using a reporter gene in the crustacean, *Daphnia*. *Mar Environ Res* 93, 2014, 118-122
 11. Toyota K, Kato Y, Miyakawa H, Yatsu R, Mizutani T, Ogino Y, Miyagawa S, [Watanabe H](#), Nishide H, Uchiyama I, Tatarazako N, Iguchi T. Molecular impact of juvenile hormone agonists on neonatal *Daphnia magna*. *J Appl Toxicol.*, May 34(5), 2014, 537-44.
 12. Soga H, Fujii S, Yomo T, Kato Y, [Watanabe H](#), Matsuura T. In vitro membrane protein synthesis inside cell-sized vesicles reveals the dependence of membrane protein integration on vesicle volume. *ACS Synth Biol* 3, 2014, 372-379
 13. Asada, M., Kato, Y., Matsuura, T., and [Watanabe H](#). Visualization of ecdysteroid activity using a reporter gene in the crustacean, *Daphnia*, *Mar Environ Res*. 2013
 14. Toyota, K., Kato, Y., Sato, M., Sugiura, N., Miyagawa, S., Miyakawa, H., [Watanabe H](#), Oda, S., Ogino, Y., Hiruta, C., Mizutani, T., Tatarazako, N., Paland, S., Jackson, C., Colbourne, J. K., and Iguchi, T. Molecular cloning of doublesex genes of four cladocera (water flea) species, *BMC Genomics* 14, 2013, 239.
 15. Toyota, K., Kato, Y., Miyakawa, H., Yatsu, R., Mizutani, T., Ogino, Y., Miyagawa, S., [Watanabe H](#), Nishide, H., Uchiyama, I., Tatarazako, N., and Iguchi, T. Molecular impact of juvenile hormone agonists on neonatal *Daphnia magna*. *J Appl Toxicol.* 2013
 16. Hotta, K., Nashimoto, A., Yasumura, E., Suzuki, M., Azuma, M., Iizumi, Y., Shima, D., Nabeshima, R., Hiramoto, M., Okada, A., Sakata-Sogawa, K., Tokunaga, M., Ito, T., Ando, H., Sakamoto, S., Kabe, Y., Aizawa, S., Imai, T., Yamaguchi, Y., [Watanabe H](#), and Handa, H. Vesnarinone suppresses TNF α mRNA expression by inhibiting valosin-containing protein. *Mol Pharmacol* 83, 2013, 930-938.
 17. Soga, H., Fujii, S., Yomo, T., Kato, Y., [Watanabe H](#), and Matsuura, T. In Vitro Membrane Protein Synthesis Inside Cell-Sized Vesicles Reveals the Dependence of Membrane Protein Integration on Vesicle Volume. *ACS Synth Biol*. 2013
 18. Kato, Y., Matsuura, T., and [Watanabe H](#). Genomic integration and germline transmission of plasmid injected into crustacean *Daphnia magna* eggs. *Plos One* 7, 2012, e45318.
 19. Tazaki, J., Jinnai, T., Tada, T., Kato, Y., Makiyama, T., Ikeda, T., Yamane, K., Naruse, Y., Takahashi, K., [Watanabe H](#), Kimura, T., and Horiuchi, H. Prediction of clopidogrel low responders by a rapid CYP2C19 activity test. *J Atheroscler Thromb* 19, 2012, 186-193.
 20. Taylor, J. A., Richter, C. A., Suzuki, A., [Watanabe H](#), Iguchi, T., Coser, K. R., Shioda, T., and vom Saal, F. S. Dose-related estrogen effects on gene expression in fetal mouse prostate mesenchymal cells. *Plos One* 7, 2012, e48311.
 21. Nakamura, T., Miyagawa, S., Katsu, Y., [Watanabe H](#), Mizutani, T., Sato, T., Morohashi, K., Takeuchi, T., Iguchi, T., and Ohta, Y. Wnt family genes and their modulation in the ovary-independent and persistent vaginal epithelial cell proliferation and keratinization induced by neonatal diethylstilbestrol exposure in mice. *Toxicology* 296, 2012, 13-19.
 22. Kakuta, H., Tanaka, M., Chambon, P., [Watanabe H](#), Iguchi, T., and Sato, T. Involvement of gonadotropins in the induction of hypertrophy-hyperplasia in the interstitial tissues of ovaries in neonatally diethylstilbestrol-treated mice. *Reprod Toxicol* 33, 2012, 35-44.
 23. Kato, Y., Shiga, Y., Kobayashi, K., Tokishita, S., Yamagata, H., Iguchi, T., and [Watanabe H](#). Development of an RNA interference method in the cladoceran crustacean *Daphnia magna*. *Dev Genes Evol* 220, 2011, 337-345.
 24. Kato, Y., Kobayashi, K., [Watanabe H](#), and Iguchi, T. Environmental sex determination in the branchiopod crustacean *Daphnia magna*: deep conservation of a Doublesex gene in the sex-determining pathway. *PLoS Genet* 7, 2011, e1001345.
 25. Taneda, T., Zhu, W., Cao, Q., [Watanabe H](#), Yamaguchi, Y., Handa, H., and Wada, T. Erythropoiesis is regulated by the transcription elongation factor Foggy/Spt5 through gata1 gene regulation. *Genes Cells* 16, 2011, 231-242.
 26. Oda, S., Kato, Y., [Watanabe H](#), Tatarazako, N., and Iguchi, T. Morphological changes in *Daphnia galeata* induced by a crustacean terpenoid hormone and its analog. *Environ Toxicol Chem* 30, 2011, 232-238.

【小林資正】

1. New 3-alkylpyridine alkaloid, *N*-methylniphytine A as an inhibitor of cancer cells adapted to nutrient starvation from an Indonesia marine sponge of *Xestospongia* sp. [Arai, M.](#); Kamiya, K.; Shin, D.; Matsumoto, H.; Hisa, T.; Setiawan, A.; [Kotoku, N.](#); [Kobayashi, M.](#) *Chem. Pharm. Bull.* 64(7), 2016, 766-71
2. Furospinosulin-1, marine spongian furanosesterterpene, suppresses the growth of hypoxia-adapted cancer cells by binding to transcriptional regulators p54^{mb} and LEDGF/p75. [Arai, M.](#); Kawachi, T.; [Kotoku, N.](#); Nakata, C.; Kamada, H.; Tsunoda, S.; Tsutsumi, Y.; Endo, H.; Inoue, M.; Sato, H.; [Kobayashi, M.](#) *ChemBioChem*, 17, 2016, 181-189.
3. Search for Anti-angiogenic Substances from Natural Sources. [Kotoku, N.](#); [Arai, M.](#); [Kobayashi, M.](#) *Chem. Pharm. Bull.* 64, 2016, 119-127.
4. 活性天然物の標的分子解析による新規薬剤標的の探索 荒井雅吉 薬学雑誌, 136, 2016, 669—676.
5. Structure-activity relationship and *in vivo* anti-tumor evaluation of dictyoceratin-A and -C, hypoxia-selective growth inhibitors from marine sponge. Sumii, Y.; [Kotoku, N.](#); Fukuda, A.; Kawachi, T.; Sumii, Y.; [Arai, M.](#); [Kobayashi, M.](#) *Marine Drugs*, 13, 2015, 7419-7432.
6. Anti-dormant mycobacterial activity and target analysis of nybomycin produced by a marine-derived *Streptomyces* sp. [Arai, M.](#); Kamiya, K.; Pruksakorn, P.; Sumii, Y.; [Kotoku, N.](#); Joubert, J.-P.; Moodley, P.; Han, C.; Shin, D.; [Kobayashi, M.](#) *Bioorg. Med. Chem.* 23, 2015, 3534-3541.
7. Enantioselective synthesis of dictyoceratin-A (smenospondiol) and -C, hypoxia-selective growth inhibitors from marine sponge. Sumii, Y.; [Kotoku, N.](#); Fukuda, A.; Kawachi, T.; Sumii, Y.; [Arai, M.](#); [Kobayashi, M.](#) *Bioorg. Med. Chem.* 23, 2015, 966-975.
8. Xylarianaphthol-1, a novel dinaphthofuran derivative, activates p21 promoter in a p53-independent manner. [Kotoku, N.](#); Higashimoto, K.; Kurioka, M.; [Arai, M.](#); Fukuda, A.; Sumii, Y.; Sowa, Y.; Sakai, T.; [Kobayashi, M.](#) *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 24, 2014, 3389-3391.
9. Marine spongian sesquiterpene phenols, dictyoceratin-C and smenospondiol, display hypoxia-selective growth inhibition against cancer cells. [Arai, M.](#); Kawachi, T.; Sato, H.; Setiawan, A.; [Kobayashi, M.](#) *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 68, 2014, 3155-3157.
10. Aaptamines, marine spongian alkaloids, as anti-dormant mycobacterial substances. [Arai, M.](#); Han, C.; Yamano, Y.; Setiawan, A.; [Kobayashi, M.](#) *J. Nat. Med.* 68, 2014, 372-376.
11. Synthesis and evaluation of effective photoaffinity probe molecule of furospinosulin-1, a hypoxia-selective growth inhibitor. [Kotoku, N.](#); Nakata, C.; Kawachi, T.; Sato, T.; Guo, X.; Ito, A.; Sumii, Y.; [Arai, M.](#); [Kobayashi, M.](#) *Bioorg. Med. Chem.* 22, 2014, 2102-2112.
12. Identification of target protein of agelasin D, a marine spongian diterpene alkaloid, as an anti-dormant mycobacterial substance. [Arai, M.](#); Yamano, Y.; Setiawan, A.; [Kobayashi, M.](#) *ChemBioChem*, 15, 2014, 117-123.
13. Synthetic Studies of Cortistatin A Analogue from the CD-Ring Fragment of Vitamin D₂. [Kotoku, N.](#); Mizushima, K.; Tamura, S.; [Kobayashi, M.](#) *Chem. Pharm. Bull.* 61, 2013, 1024-1029.
14. Marine-derived fungal sesterterpenes, ophiobolins, inhibit biofilm formation of *Mycobacterium* species. [Arai, M.](#); Niikawa, H.; [Kobayashi, M.](#) *J. Nat. Med.* 67, 2013, 271-275.
15. Creation of Readily Accessible and Orally Active Analogue of Cortistatin A. [Kotoku, N.](#); Sumii, Y.; Hayashi, T.; Tamura, S.; Kawachi, T.;

- Shiomura, S.; Arai, M.; Kobayashi, M. *ACS Med. Chem. Lett.* 3, 2012, 673-677.
16. Neamphamide B, new cyclic depsipeptide, as an anti-dormant mycobacterial substance from a Japanese marine sponge of *Neamphius* sp. Yamano, Y.; Arai, M.; Kobayashi, M. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 22, 2012, 1877-4881.
 17. Stylissamide X, a new proline-rich cyclic octapeptide as an inhibitor of cell migration, from an Indonesian marine sponge of *Stylissa* sp. Arai, M.; Yamano, Y.; Fujita, M.; Setiawan, A.; Kobayashi, M. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 22, 2012, 1818-1821.
 18. DedA protein relates to action-mechanism of halicyclamine A, a marine spongean macrocyclic alkaloid, as an anti-dormant mycobacterial substance. Arai, M.; Liu, L.; Fujimoto, T.; Setiawan, A.; Kobayashi, M. *Marine Drugs.* 9, 2011, 984-993.
 19. Concise synthesis and structure-activity relationship of furospinosulin-1, a hypoxia-selective growth inhibitor from marine sponge. Kotoku, N.; Fujioka, S.; Nakata, C.; Yamada, M.; Sumii, Y.; Kawachi, T.; Arai, M.; Kobayashi, M. *Marine Drugs.* 67, 2011, 6673-6678.
 20. Action-mechanism of trichoderin A, an anti-dormant mycobacterial aminolipopeptide from marine sponge-derived *Trichoderma* sp. Pruksakorn, P.; Arai, M.; Liu, L.; Moodley, P.; Jacobs, Jr., W.R.; Kobayashi, M. *Biol. Pharm. Bull.* 34, 2011, 1287-1290.
 21. Inhibitory effect of cyclic trihydroxamate siderophore, desferrioxamine E, on the biofilm formation of *Mycobacterium* species. Ishida, S.; Arai, M.; Nikawa, H.; Kobayashi, M. *Biol. Pharm. Bull.* 34, 2011, 917-920.

【西山賢一】

1. Endo, Y. and Nishiyama, K. "Relationship between glycolipozyme MPIase and components comprising the protein transport machinery" *Med. Res. Arch.* 2, No 11, 2015, 1-24
2. 西山賢一, 島本啓子. 「糖脂質酵素 (Glycolipozyme) 」 MPIase の構造と作用機作」 *酵素工学* 74, 2015, 14-18
3. Kumazaki, K., Chiba, S., Takemoto, M., Furukawa, A., Nishiyama, K., Sugano, Y., Mori, T., Dohmae, N., Hirata, K., Nakada-Nakura, Y. Maturana, A.D., Tanaka, Y., Mori, H., Sugita, Y., Arisaka, F., Ito, K., Ishitani, R., Tsukazaki, T. and Nureki, O. "Structural basis of Sec-independent membrane protein insertion by YidC" *Nature* 509, 2014, 516-520
4. Nishiyama, K. and Shimamoto, K. "Glycolipozyme Membrane Protein Integrase (MPIase): Recent Data" *Biomol. Concepts* 5, 429-438 (2014)
5. 島本啓子, 西山賢一 「タンパク質膜挿入の鍵を握るグライコリポザイム〜タンパク質でない酵素?〜」 *実験医学増刊「代謝」* 32, 2014, 115-122
6. Moser, M., Nagamori, S., Huber, M., Tokuda, H. and Nishiyama, K. "Glycolipozyme MPIase is essential for topology inversion of SecE during preprotein translocation" *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 110, 2013, 9734-9739
7. 西山賢一, 島本啓子. 「膜タンパク質の鍵は糖脂質にあり—すべての生体膜挿入に必要な因子を求めて—」 *月刊化学* 63, 2013, 30-34
8. Nishiyama, K., Maeda, M., Yanagisawa, K., Nagase, R., Komura, H., Iwashita, T., Yamagaki, T., Kusumoto, S., Tokuda, H. and Shimamoto, K. "MPIase is a glycolipozyme essential for membrane protein integration" *Nat. Commun.* 3, 2012, 1260
9. Morita, K., Tokuda, H. and Nishiyama, K. "Multiple SecA molecules drive protein translocation across a single translocon with SecE inversion" *J. Biol. Chem.* 287, 2012, 455-464

【福永浩司】

1. Hong LL, Jiang Q, Long S, Wang H, Zhang LD, Tian Y, Wang CK, Cao JJ, Tao RR, Huang JY, Liao MH, Lu YM, Fukunaga K., Zhou NM, Han F. Valproic acid influences MTNR1A intracellular trafficking and signaling in a β -arrestin 2-dependent manner. *Mol Neurobiol.* 53(2), 2016, 1237-1246.
2. Moriguchi S., Sakagami H, Yabuki Y, Sasaki Y, Izumi H, Zhang C, Han F, Fukunaga K. Stimulation of sigma-1 receptor ameliorates depressive-like behaviors in CaMKIV null mice. *Mol Neurobiol.* 52(3), 2015, 1210-1222.
3. Yabuki Y, Shinoda Y, Izumi H, Ikuno T, Shioda N, Fukunaga K. Dehydroepiandrosterone administration improves memory deficits following transient brain ischemia through sigma-1 receptor stimulation. *Brain Res.* 1622, 2015, 102-113.
4. Shioda N, Sawai M, Ishizuka Y, Shirao T, Fukunaga K. Nuclear Translocation of Calcium/Calmodulin-dependent Protein Kinase II δ Promoted by Protein Phosphatase-1 Enhances Brain-derived Neurotrophic Factor Expression in Dopaminergic Neurons. *J Biol Chem.* 290(35), 2015, 21663-21675.
5. Moriguchi S., Nishi M, Sasaki Y, Takeshima H, Fukunaga K. Aberrant Behavioral Sensitization by Methamphetamine in Junctophilin-Deficient Mice. *Mol Neurobiol.* 51(2), 2015, 533-542.
6. Shioda N, Fukunaga K. [Molecular mechanisms of synapse pathology in ATR-X syndrome]. *Nihon Yakurigaku Zasshi.* 145(4), 2015, 174-177.
7. Murata K, Yoshino Y, Tsuruma K, Moriguchi S, Oyagi A, Tanaka H, Ishisaka M, Shimazawa M, Fukunaga K., Hara H. The extracellular fragment of GPNMB (Glycoprotein nonmelanosoma protein B, osteoactivin) improves memory and increases hippocampal GluA1 levels in mice. *J Neurochem.* 132, 2015, 583-594.
8. Fukunaga K. [Cognitive function and calcium. cognitive improvement through T type calcium channel stimulation]. *Clin Calcium.* 25(2), 2015, 247-254.
9. Fukunaga K., Shinoda Y, Tagashira H. The role of SIGMAR1 gene mutation and mitochondrial dysfunction in amyotrophic lateral sclerosis. *J Pharmacol Sci.* 127(1), 2015, 36-41.
10. Tagashira H, Shinoda Y, Shioda N, Fukunaga K. Methyl pyruvate rescues mitochondrial damage caused by SIGMAR1 mutation related to amyotrophic lateral sclerosis. *Biochim Biophys Acta.* 1840(12), 2014, 3320-3334.
11. Ye WF, Tao RR, Jiang Q, Huang JY, Lu NN, Lu YM, Fukunaga K., Wang H, Han F. Peroxiredoxin 1 participates in ischemia-triggered endothelial polarization. *CNS Neurosci Ther.* 20(8), 2014, 791-793.
12. Shioda N, Yabuki Y, Kobayashi Y, Onozato M, Owada Y, Fukunaga K. FABP3 Protein Promotes α -Synuclein Oligomerization Associated with 1-Methyl-1,2,3,6-tetrahydropyridine-induced Neurotoxicity. *J Biol Chem.* 289(27), 2014, 18957-18965.
13. Islam MR, Moriguchi S, Tagashira H, Fukunaga K. Rivastigmine restores 5-HT_{1A} receptor levels in the hippocampus of olfactory bulbectomized mice. *Adv Alzheimers Dis.* 3(3), 2014, 128-36.
14. Fujita Y, Tagashira H, Hasegawa H, Fukunaga K., Kanai H. Ultrasonic visualization of propagation of myocardial vibration driven by electrical excitation of myocardium of rat in ex vivo experiment. *Jpn J Appl Physics.* 53, 2014, 07KF25.
15. Islam MR, Moriguchi S, Tagashira H, Fukunaga K. Rivastigmine improves hippocampal neurogenesis and depression-like behaviors via 5-HT_{1A} receptor stimulation in olfactory bulbectomized mice. *Neuroscience.* 272, 2014, 116-130.
16. Fukunaga K. [Orphan receptor and chaperon functions of sigma-1 receptor]. *Nihon Yakurigaku Zasshi.* 143(5), 2014, 263-264.
17. Lu NN, Liu J, Tian Y, Liao MH, Wang H, Lu YM, Tao RR, Hong LJ, Liu SS, Fukunaga K., Du YZ, Han F. Atg5 deficit exaggerates the lysosome formation and cathepsin B activation in mice brain after lipid nanoparticles injection. *Nanomedicine.* 10(8), 2014, 1843-1852.
18. Huang JY, Li LT, Wang H, Liu SS, Lu YM, Liao MH, Tao RR, Hong LJ, Fukunaga K., Chen Z, Wilcox CS, Lai EY, Han F. In vivo two-photon fluorescence microscopy reveals disturbed cerebral capillary blood flow and increased susceptibility to ischemic insults in diabetic mice. *CNS Neurosci Ther.* 20(9), 2014, 816-822.
19. Yabuki Y, Shioda N, Maeda T, Hiraide S, Togashi H, Fukunaga K. Aberrant CaMKII activity in the medial prefrontal cortex is associated with cognitive dysfunction in ADHD model rats. *Brain Res.* 1557, 2014, 90-100.
20. Tagashira H, Bhuiyan MS, Shioda N, Fukunaga K. Fluvoxamine rescues mitochondrial Ca²⁺ transport and ATP production through σ (1)-receptor in hypertrophic cardiomyocytes. *Life Sci.* 95(2), 2014, 89-100.

21. Tao RR, Wang H, Hong LJ, Huang JY, Lu YM, Liao MH, Ye WF, Lu NN, Zhu DY, Huang Q, [Fukunaga K](#), Lou YJ, Shoji I, Wilcox CS, Lai EY, *Han F. Nitrosative stress induces peroxiredoxin 1 ubiquitination during ischemic insult via E6AP activation in endothelial cells both in vitro and in vivo. *Antioxid Redox Signal*. 21(1), 2014, 1-16.
22. Yabuki Y, Ohizumi Y, Yokosuka A, Mimaki Y, *[Fukunaga K](#). Nobiletin treatment improves motor and cognitive deficits seen in MPTP-induced Parkinson model mice. *Neuroscience*. 259, 2014, 126-141.
23. Tian Y, Yabuki Y, Moriguchi S, [Fukunaga K](#), Mao PJ, Hong LJ, Lu YM, Wang R, Ahmed MM, Liao MH, Huang JY, Zhang RT, Zhou TY, Long S, *Han F. Melatonin reverses the decreases in hippocampal protein serine/threonine kinases observed in an animal model of autism. *J Pineal Res*. 56, 2014, 1-11.
24. *Moriguchi S, Tagashira H, Sasaki Y, Yeh JZ, Sakagami H, Narahashi T, *[Fukunaga K](#). CaMKII activity is essential for improvement of memory-related behaviors by chronic rivastigmine treatment. *J Neurochem*. 128(6), 2014, 927-937.
25. Lu YM, Huang JY, Wang H, Lou XF, Liao MH, Hong LJ, Tao RR, Ahmed MM, Shan CL, Wang XL, [Fukunaga K](#), Du YZ, *Han F. Targeted therapy of brain ischaemia using Fas ligand antibody conjugated PEG-lipid nanoparticles. *Biomaterials*. 35(1), 2014, 530-537.
26. Iwase K, Ishihara A, Yoshimura S, Andoh Y, Kato M, Seki N, Matsumoto E, Hiwasa T, Muller D, [Fukunaga K](#), *Takiguchi M. The secretogranin II gene is a signal integrator of glutamate and dopamine inputs. *J Neurochem*. 128(2), 2014, 233-245.
27. Hirano K, Tagashira H, *[Fukunaga K](#). [Cardioprotective effect of the selective sigma-1 receptor agonist, SA4503]. *Yakugaku Zasshi*. 134(6), 2014, 707-713.
28. Tagashira H, Matsumoto T, Taguchi K, Zhang C, Han F, Ishida K, Nemoto S, Kobayashi T, *[Fukunaga K](#). Vascular endothelial σ 1-receptor stimulation with SA4503 rescues aortic relaxation via Akt/eNOS signaling in ovariectomized rats with aortic banding. *Circ J*. 77(11), 2013, 2831-2840.
29. Tagashira H, Bhuiyan MS, *[Fukunaga K](#). Diverse regulation of IP3 and ryanodine receptors by pentazocine through σ 1-receptor in cardiomyocytes. *Am J Physiol Heart Circ Physiol*. 305(8), 2013, H1201-1212.
30. Huang JY, Lu YM, Wang H, Liu J, Liao MH, Hong LJ, Tao RR, Ahmed MM, Liu P, Liu SS, [Fukunaga K](#), Du YZ, *Han F. The effect of lipid nanoparticle PEGylation on neuroinflammatory response in mouse brain. *Biomaterials*. 34(32), 2013, 7960-7970.
31. Yabuki Y, *[Fukunaga K](#). Oral administration of glutathione improves memory deficits following transient brain ischemia by reducing brain oxidative stress. *Neuroscience*. 250, 2013, 394-407.
32. Katsushima Y, Sato T, Yamada C, Ito M, Suzuki Y, Ogawa E, Sukegawa I, Sukegawa J, [Fukunaga K](#), *Yanagisawa T. Interaction of PICK1 with C-terminus of growth hormone-releasing hormone receptor (GHRHR) modulates trafficking and signal transduction of human GHRHR. *J Pharmacol Sci*. 122(3), 2013, 193-204.
33. *Moriguchi S, Tanaka T, Narahashi T, *[Fukunaga K](#). Novel nootropic drug sunifiram enhances hippocampal synaptic efficacy via glycine-binding site of N-methyl-D-aspartate receptor. *Hippocampus*. 23(10), 2013, 942-951.
34. Yabuki Y, Shioda N, Yamamoto Y, Shigano M, Kumagai K, Morita M, *[Fukunaga K](#). Oral L-citrulline administration improves memory deficits following transient brain ischemia through cerebrovascular protection. *Brain Res*. 1520, 2013, 157-167.
35. Yabuki Y, Nakagawasai O, Moriguchi S, Shioda N, Onogi H, Tan-No K, Tadano T, *[Fukunaga K](#). Decreased CaMKII and PKC activities in specific brain regions are associated with cognitive impairment in neonatal ventral hippocampus-lesioned rats. *Neuroscience*. 2013; 234:103-115.
36. Yamamoto Y, *[Fukunaga K](#). Donepezil rescues the medial septum cholinergic neurons via nicotinic ACh receptor stimulation in olfactory bulbectomized mice. *Adv Alzheimer Dis*. 2(4), 2013, 161-170.
37. *Moriguchi S, Shinoda S, Yamamoto Y, Sasaki Y, Miyajima K, Tagashira H, *[Fukunaga K](#). Stimulation of the Sigma-1 Receptor by DHEA Enhances Synaptic Efficacy and Neurogenesis in the hippocampal dentate gyrus of olfactory bulbectomized mice. *PLoS One*. 8(4), 2013, e60863.
38. Tagashira H, Zhang C, Lu YM, Hasegawa H, Kanai H, Han F, *[Fukunaga K](#). Stimulation of σ 1-receptor restores abnormal mitochondrial Ca(2+) mobilization and ATP production following cardiac hypertrophy. *Biochim Biophys Acta*. 1830(4), 2013, 3082-3094.
39. Aoki K, Yokosuka A, Mimaki Y, [Fukunaga K](#), *Yamakuni T. Nobiletin induces inhibitions of Ras activity and mitogen-activated protein kinase kinase/extracellular signal-regulated kinase signaling to suppress cell proliferation in C6 rat glioma cells. *Biol Pharm Bull*. 36(4), 2013, 540-547.
40. Nguyen AT, Nishijo M, Hori E, Nguyen NM, Pham TT, [Fukunaga K](#), Nakagawa H, Tran AH, *Nishijo H. Influence of maternal exposure to 2,3,7,8-tetrachlorodibenzo-p-dioxin on socioemotional behaviors in offspring rats. *Environ Health Insights*. 7, 2013, 1-14.
41. Liao MH, Xiang YC, Huang JY, Tao RR, Tian Y, Ye WF, Zhang GS, Lu YM, Ahmed MM, Liu ZR, [Fukunaga K](#), *Han F. The Disturbance of hippocampal CaMKII/PKA/PKC phosphorylation in early experimental diabetes mellitus. *CNS Neurosci Ther*. 19(5), 2013, 329-336.
42. Yamamoto Y, Shioda N, Han F, Moriguchi S, *[Fukunaga K](#). The Novel cognitive enhancer ST101 enhances acetylcholine release in mouse dorsal hippocampus through T-type voltage-gated calcium channel stimulation. *J Pharmacol Sci*. 121(3), 2013, 212-226.
43. *Moriguchi S, Tanaka T, Tagashira H, Narahashi T, *[Fukunaga K](#). Novel nootropic drug sunifiram improves cognitive deficits via CaM kinase II and protein kinase C activation in olfactory bulbectomized mice. *Behav Brain Res*. 242, 2013, 150-157.
44. JZhang GS, Tian Y, Huang JY, Tao RR, Liao MH, Lu YM, Ye WF, Wang R, [Fukunaga K](#), Lou YJ, *Han F. The γ -secretase blocker DAPT reduces the permeability of the blood-brain barrier by decreasing the ubiquitination and degradation of occludin during permanent brain ischemia. *CNS Neurosci Ther*. 19(1), 2013, 53-60.
45. Tao RR, Huang JY, Shao XJ, Ye WF, Tian Y, Liao MH, [Fukunaga K](#), Lou YJ, Han F, *Lu YM. Ischemic injury promotes Keap1 nitration and disturbance of antioxidative responses in endothelial cells: a potential vasoprotective effect of melatonin. *J Pineal Res*. 54(3), 2013, 271-281.
46. Bhuiyan MS, Tagashira H, *[Fukunaga K](#). Crucial interactions between selective serotonin uptake inhibitors and sigma-1 receptor in heart failure. *J Pharmacol Sci*. 121(3), 2013, 177-184.
47. Yabuki Y, Nakagawasai O, Tadano T, [Fukunaga K](#). Imaging monitoring method of CaMKII activity by immunohistochemical analysis in schizophrenic model rats. *Yakugaku Zasshi*. 133(5), 2013, 501-506.
48. Shinoda Y, Fujita K, Saito S, Matsui H, Kanto Y, Nagaura Y, [Fukunaga K](#), Tamura S, *Kobayashi T. Acyl-CoA binding domain containing 3 (ACBD3) recruits the protein phosphatase PPM1L to ER-Golgi membrane contact sites. *FEBS Lett*. 586(19), 2012, 3024-3029.
49. Zhang GS, Ye WF, Tao RR, Lu YM, Shen GF, [Fukunaga K](#), Huang JY, Ji YL, *Han F. Expression profiling of Ca(2+)/calmodulin-dependent signaling molecules in the rat dorsal and ventral hippocampus after acute lead exposure. *Exp Toxicol Pathol*. 64(6), 2012, 619-624.
50. Lu YM, Tao RR, Huang JY, Li LT, Liao MH, Li XM, [Fukunaga K](#), Hong ZH, *Han F. P2X(7) signaling promotes microsphere embolism-triggered microglia activation by maintaining elevation of Fas ligand. *J Neuroinflammation*. 9, 2012, 172.
51. Shioda N, Ishikawa K, Tagashira H, Ishizuka T, Yawo H, *[Fukunaga K](#). Expression of a truncated form of the endoplasmic reticulum chaperone protein, sigma-1 receptor, promotes mitochondrial energy depletion and apoptosis. *J Biol Chem*. 287(28), 2012, 23318-23331.
52. *Moriguchi S, Shioda N, Yamamoto Y, Tagashira H, *[Fukunaga K](#). The T-type voltage-gated calcium channel as a molecular target of the novel cognitive enhancer ST101: enhancement of long-term potentiation and CaMKII autophosphorylation in rat cortical slices. *J Neurochem*. 121(1), 2012, 44-53.
53. Shioda N, Moriguchi S, Oya T, Ishii Y, Shen J, Matsushima T, Nishijo H, Sasahara M, *[Fukunaga K](#). Aberrant hippocampal spine morphology and impaired memory formation in neuronal platelet-derived growth factor beta-receptor lacking mice. *Hippocampus*. 22(6), 2012, 1371-1378.

【関水 and 久】

1. Hamamoto H, Urai M, Ishii K, Yasukawa J, Paudel A, Murai M, Kaji T, Kuranaga T, Hamase K, Katsu T, Su J, Adachi T, Uchia R, Tomoda H, Yamada M, Souma M, Kurihara H, Inoue M, [Sekimizu K](#)*. Lysocin E is a new antibiotic that targets menaquinone in the bacterial membrane, *Nat*

Chem Biol, 11, 2015, 127-133

- Su J, Iehara M, Yasukawa J, Matsumoto Y, Hamamoto H, Sekimizu K*, A novel mutation in the *vraS* gene of *Staphylococcus aureus* contributes to reduce susceptibility against daptomycin, *J Antibiot (Tokyo)*, 68, 2015, 646-648
- Ishii K, Hamamoto H, Sekimizu K*, Establishment of a bacterial infection model using the European honeybee, *Apis mellifera* L, *PLoS One*, 9, 2014, e89917
- Dzoyem JP, Hamamoto H, Ngameni B, Ngadjui BT, Sekimizu K*, Antimicrobial action mechanism of flavonoids from *Dorstenia* species, *Drug Discov Ther*, 7, 2013, 66-72
- Paudel A, Kaneko K, Watanabe A, Shigeki M, Motomu K, Hamamoto H, Sekimizu K*, Structure-activity relationship study of novel iminothiadiazolo-pyrimidinone antimicrobial agents, *J Antibiot (Tokyo)*, 66, 2013, 663-667

【岡田麻衣子】

- Okada M., Ohtake F., Nishikawa H., Wu W., Saeki Y., Tanaka K., Ohta T *., Liganded ER α Stimulates the E3 Ubiquitin Ligase Activity of UBE3C to Facilitate Cell Proliferation., *Mol Endocrinol.*, 29, 2015, 1646-1657
- Tsukuda S., Watashi K., Iwamoto M., Suzuki R., Aizaki H., Okada M., Sugiyama M., Kojima S., Tanaka Y., Mizokami M., Li J., Tong S., Wakita T*. Dysregulation of retinoic acid receptor diminishes hepatocyte permissiveness to hepatitis B virus infection through modulation of sodium taurocholate cotransporting polypeptide (NTCP), *J Biol Chem.*, 290, 2015, 5673-5684
- Kuroda T., Okada M., Tsugawa K., Ohta T., Establishment of A Doxycycline-inducible BRCA1 Deficient and Estrogen Receptor Expressing Human Breast Cell Line. *The St. Marianna Medical Journal* 43, 151-162, 2015
- Chen ST., Okada M., Nakato R., Izumi K., Bando M., Shirahige K. The Deubiquitinating Enzyme USP7 regulates Androgen Receptor Activity by Modulating Its Binding to Chromatin. *J Biol Chem.* 290, 21713-21723, 2015
- Fukuda T., Wu W., Okada M., Maeda I., Kojima Y., Hayami R., Miyoshi Y., Tsugawa K., Ohta T. Class I histone deacetylase inhibitors inhibit the retention of BRCA1 and 53BP1 at the site of DNA damage. *Cancer Sci.* 106, 1050-1056, 2015
- Matsumoto T., Sakari M., Okada M., Yokoyama A., Takahashi S., Kouzmenko A., Kato S. The androgen receptor in health and disease. *Annu Rev Physiol.* 75, 201-224, 2013

【松森信明】

- R.A. Espiritu, K. Cornelio, M. Kinoshita, *N. Matsumori, M. Murata, S. Nishimura, H. Kakeya, M. Yoshida, S. Matsunaga, Marine sponge cyclic peptide theonellamide A disrupts lipid bilayer integrity without forming distinct membrane pores. *Biochim. Biophys. Acta, Biomembranes*, 1858, 2016, 1373-1379
- Y. Umegawa, Y. Tanaka, N. Matsumori, *M. Murata, ¹³C-TmDOTA as versatile thermometer compound for solid-state NMR of hydrated lipid bilayer membranes. *Magn. Reson. Chem.*, 54, 2016, 227-233
- T. Yasuda, N. Matsumori, H. Tsuchikawa, M. Lonnfors, T.K.M. Nyholm, J.P. Slotte, *M. Murata, Formation of Gel-like Nanodomains in Cholesterol-Containing Sphingomyelin or Phosphatidylcholine Binary Membrane As Examined by Fluorescence Lifetimes and 2H NMR Spectra. *Langmuir*, 31, 2015, 13783-13792
- J. Cui, S. Kawatake, Y. Umegawa, S. Lethu, M. Yamagami, S. Matsuoka, F. Sato, N. Matsumori, *M. Murata, Stereoselective synthesis of the head group of archaeal phospholipid PGP-Me to investigate bacteriorhodopsin-lipid interactions. *Org. Biomol. Chem.*, 13, 2015, 10578
- T. Yamamoto, Y. Umegawa, H. Tsuchikawa, N. Matsumori, S. Hanashima, *M. Murata, R. Haser, B. J. Rawlings, P. Caffrey, Role of polyol moiety of amphotericin B in ion channel formation and sterol selectivity in bilayer membrane. *Bioorg. Med. Chem.*, 23, 2015, 5782-5788
- *M. Murata, S. Sugiyama, S. Matsuoka, N. Matsumori, Bioactive Structure of Membrane Lipids and Natural Products Elucidated by a Chemistry-Based Approach. *Chemical Record*, 15, 2015, 675-690
- *N. Matsumori, T. Yamaguchi, Y. Maeta, M. Murata, Orientation and order of the amide group of sphingomyelin in bilayers determined by solid-state NMR. *Biophys. J.*, 108, 2015, 2816-2824
- J. Cui, S. Matsuoka, M. Kinoshita, N. Matsumori, F. Sato, *M. Murata, J. Ando, H. Yamakoshi, K. Dodo, M. Sodeoka, Novel Raman-tagged sphingomyelin that closely mimics original raft-forming behavior, *Bioorg. Med. Chem.*, 23, 2015, 2989-2994
- T. Yasuda, H. Tsuchikawa, M. Murata, *N. Matsumori, Deuterium NMR of raft model membranes reveals domain-specific order profiles and compositional distribution. *Biophys. J.*, 108, 2015, 2502-2506
- H. Shibata, H. Tsuchikawa, T. Hayashi, N. Matsumori, *M. Murata, T. Usui, Modification of bafilomycin structure to efficiently synthesize solid-state NMR probes that selectively bind to vacuolar-Type ATPase. *Chem. Asian J.* 10, 2015, 915-924
- Y. Nakagawa, Y. Umegawa, K. Nonomura, N. Matsushita, T. Takano, H. Tsuchikawa, S. Hanashima, T. Oishi, *N. Matsumori, *M. Murata, Axial hydrogen at C7 position and bumpy tetracyclic core markedly reduce sterol's affinity to amphotericin B in membrane. *Biochemistry* 54, 2015, 303-312
- J. Cui, S. Lethu, T. Yasuda, S. Matsuoka, N. Matsumori, F. Sato, *M. Murata, Phosphatidylcholine bearing 6,6-dideuterated oleic acid: A useful solid-state H-2 NMR probe for investigating membrane properties. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 25, 2015, 203-206
- R. A. Espiritu, *N. Matsumori, M. Tsuda, M. Murata, Direct and stereospecific interaction of amphidinol 3 with sterol in lipid bilayers. *Biochemistry*, 53, 2014, 3287-3293
- Y. Nakagawa, Y. Umegawa, T. Takano, H. Tsuchikawa, *N. Matsumori, *M. Murata, Effect of sterol side chain on ion channel formation by amphotericin B in lipid bilayers. *Biochemistry* 53, 2014, 3088-3094
- H. Shibata, H. Tsuchikawa, N. Matsumori, *M. Murata, T. Usui, Design and synthesis of 24-fluorinated bafilomycin analogue as an NMR probe with potent inhibitory activity to vacuolar-type ATPase. *Chem. Lett.*, 43, 2014, 474-476
- T. Yasuda, M. Kinoshita, M. Murata, *N. Matsumori, Detailed comparison of deuterium quadrupole profiles between sphingomyelin and phosphatidylcholine bilayers. *Biophys. J.*, 106, 2014, 631-638
- M. Kinoshita, N. Matsumori, *M. Murata, Coexistence of two liquid crystalline phases in dihydrosphingomyelin and dioleoylphosphatidylcholine binary mixtures. *Biochim. Biophys. Acta Biomembranes*, 1838, 2014, 1372-1381
- R. Sugiyama, S. Nishimura, N. Matsumori, Y. Tsunematsu, A. Hattori, H. *Kakeya, Structure and biological activity of 8-deoxyheronamide C from a marine-derived *Streptomyces* sp.: heronamides target saturated hydrocarbon chains in lipid membranes. *J. Am. Chem. Soc.*, 136, 2014, 5209-5212
- R. A. Espiritu, *N. Matsumori, M. Murata, S. Nishimura, H. Kakeya, S. Matsunaga, M. Yoshida, Interaction between the marine sponge cyclic peptide theonellamide A and sterols in lipid bilayers as viewed by surface plasmon resonance and solid-state ²H nuclear magnetic resonance. *Biochemistry*, 52, 2013, 2410-2418
- M. Kinoshita, S. Goretta, H. Tsuchikawa, N. Matsumori, *M. Murata, Characterization of the ordered phase formed by sphingomyelin analogues and cholesterol binary mixtures. *Biophysics* 9, 2013, 37-49
- M. Ebine, M. Kanemoto, Y. Manabe, Y. Konno, K. Sakai, N. Matsumori, M. Murata, *T. Oishi, Synthesis and structure revision of the C43-C67 part of amphidinol 3. *Org. Lett.*, 15, 2013, 2846-2849
- *N. Matsumori, Y. Hiradate, H. Shibata, T. Oishi, S. Shimma, M. Toyoda, F. Hayashi, M. Yoshida, M. Murata, M. Morisawa, A novel sperm-activating and attracting factor from the ascidian *Ascidia sydneiensis*. *Org. Lett.*, 15, 294-297 (2013). doi: 10.1021/ol303172n.
- Y. Manabe, M. Ebine, N. Matsumori, M. Murata, *T. Oishi, Confirmation of the Absolute Configuration at C45 of Amphidinol 3. *J. Nat. Prod.*, 75, 2012, 2003-2006

24. *N. Matsumori, T. Yasuda, H. Okazaki, T. Suzuki, T. Yamaguchi, H. Tsuchikawa, M. Doi, T. Oishi, M. Murata, Comprehensive molecular motion capture for sphingomyelin by site-specific deuterium labeling. *Biochemistry*, 51, 2012, 8363-8370
25. Y. Umegawa, T. Adachi, N. Matsumori, *M. Murata, Possible conformation of amphotericin B dimer in membrane-bound assembly as deduced from solid-state NMR. *Bioorg. Med. Chem.*, 20, 2012, 5699-5704
26. S. A. Goretta, M. Kinoshita, S. Mori, H. Tsuchikawa, N. Matsumori, *M. Murata, Effects of chemical modification of sphingomyelin ammonium group on formation of liquid-ordered phase. *Bioorg. Med. Chem.*, 20, 2012, 4012-4019
27. *T. Oishi, K. Konoki, R. Tamate, K. Torikai, F. Hasegawa, N. Matsumori, M. Murata, Artificial ladder-shaped polyethers that inhibit maitotoxin-induced Ca^{2+} influx in rat glioma C6 cells. *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 22, 2012, 3619-3622
28. T. Yamaguchi, T. Suzuki, T. Yasuda, T. Oishi, *N. Matsumori, M. Murata, NMR-based conformational analysis of sphingomyelin in bicelles. *Bioorg. Med. Chem.*, 20, 2012, 270-278
29. Y. Umegawa, Y. Nakagawa, K. Tahara, H. Tsuchikawa, *N. Matsumori, T. Oishi, *M. Murata, Head-to-tail interaction between amphotericin B and ergosterol occurs in hydrated phospholipid membrane. *Biochemistry*, 51, 2012, 83-89

【奥野利明】

1. Liu M, Saeki K, Matsunobu T, Okuno T, Koga T, Sugimoto Y, Yokoyama C, Nakamizo S, Kabashima K, Narumiya S, Shimizu T, Yokomizo T. 12-hydroxyheptadecatrienoic acid promotes epidermal wound healing by accelerating keratinocyte migration via the BLT2 receptor. *J. Exp. Med.* 211(6), 2014, 1063-1078
2. Matsunaga Y, Fukuyama S, Okuno T, Sasaki F, Matsunobu T, Asai Y, Matsumoto K, Saeki K, Oike M, Sadamura Y, Machida K, Nakanishi Y, Kubo M, Yokomizo T, Inoue H. Leukotriene B4 receptor BLT2 negatively regulates allergic airway eosinophilia. *FASEB J.*, 27, 2013, 3306-3314
3. Matsunobu T, Okuno T, Yokoyama C, Yokomizo T. Thromboxane A synthase-independent production of 12-hydroxyheptadecatrienoic acid, a BLT2 ligand. *J. Lipid Res.*, 54, 2013, 2979-2987
4. Tojo T, Wang Q, Okuno T, Yokomizo T, Kobayashi Y. Synthesis of (5*S*,8*E*,10*E*)-12-Hydroxyheptadeca-5,8,10-trienoic Acid (12*S*-HHT) and its Analogues. *Synlett*, 24, 2013, 1545-1548
5. Sasaki F, Okuno T, Saeki K, Liu Min, Onohara N, Kato H, Shimizu T, Yokomizo T. A high-affinity monoclonal antibody against the FLAG tag useful for G-protein coupled receptor study. *Anal. Biochem.* 425, 2012, 157-165
6. Aratake Y, Okuno T, Matsunobu T, Saeki K, Takayanagi R, Furuya S, Yokomizo T. Helix 8 of leukotriene B4 receptor 1 inhibits ligand-induced internalization. *FASEB J.* 26, 2012, 4068-4078

【菅原章公】

1. Mukai S, Moriya S, Hiramoto M, Kazama H, Kokuba H, Che X-F, Yokoyama T, Sakamoto S, Sugawara A, Sunazuka T, Omura S, Handa H, Itoi T, Miyazawa K "Macrolides sensitize EGFR-TKI-induced non-apoptotic cell death via blocking autophagy flux in pancreatic cancer cell lines" *Int. J. Clin. Oncol.* 48, 2016, 45-54.
2. Sugawara A, Shima H, Sueki A, Hirose T, Matsui H, Hanaki H, Akagawa KS, Omura S, Sunazuka T "12-Membered non-antibiotic macrolides EM900 series; Design, synthesis, biological evaluation, and effect in cigarette-smoking model" *J. Antibiot.* 69, 2015, 319-326
3. Iwanaga N, Nakamura S, Oshima K, Kajihara T, Takazono T, Miyazaki T, Izumikawa K, Yanagihara K, Sugawara A, Sunazuka S, Omura S, Kohno S "Macrolides promote CCL2-mediated macrophage recruitment and clearance of nasopharyngeal pneumococcal colonies in mice" *J. Infect. Dis.* 212(7), 2015, 1150-1159
4. Sugawara A, Sueki A, Hirose T, Shima H, Akagawa KS, Omura S and Sunazuka T "Novel 12-membered non-antibiotic macrolides, EM900 series with anti-inflammatory and/or immunomodulatory activity; synthesis, structure-activity relationships and in vivo study" *J. Antibiot.* 65, 2012, 487-490.

【坂本修一】

1. Sakamoto S, Kojima F, Momose I, Kawada M, Adachi H, Nishimura Y. Decalpenic acid induces early osteoblastic markers in pluripotent mesenchymal cells via activation of retinoic acid receptor gamma. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 422, 2012, 751-757

【小嶋聡一】

1. 藤井晋也、清水章貴、桂井朋子、小口一起、秦威陽、白川仁、駒井三千夫、小嶋聡一、影近弘之 メナキノンカルボン酸誘導体の系統的合成と抗炎症および肝癌細胞増殖抑制作用、*ビタミン誌*、90, 2016, 253-260
2. Qin, X-Y., Tatsukawa, H., hitomi, K., Shirakami, Y., Ishibashi, N., Shimizu, M., Moriwaki, H., and *Kojima S. Metabolome Analyses Uncovered a Novel Inhibitory Effect of Acyclic Retinoid on Aberrant Lipogenesis in a Mouse Diethylnitrosamine-Induced Hepatic Tumorigenesis Model. *Cancer Prevention Res.* 2016. 9(3):205-14. elected for cover Image
3. Shrestha, R., Tatsukawa, H., Shrestha, R., Ishibashi, N., Matsuura, T., Kagechika, H., Kose, S., Hitomi, K., Imamoto, N., and *Kojima S. Molecular mechanism by which acyclic retinoid induces nuclear localization of transglutaminase 2 in human hepatocellular carcinoma cells. *Cell Death & Disease*, 6, 2015, e2002.
4. Hara, M., Inoue, I., Yamazaki, Y., Kirita, A., Matsuura T., Friedman, S., Rifkin, D.B., and *Kojima S. L59 TGF-β LAP degradation products serve as a promising blood biomarker for liver fibrogenesis in mice. *Fibrogenesis Tissue Repair*. 8, 2015, 17.
5. Qin, X-Y., Fujii, S., Shimizu, A., Kagechika, H., and *Kojima S. Carboxylic derivatives of vitamin K2 inhibit hepatocellular carcinoma cell growth through caspase/transglutaminase-related signaling pathways. *J. Nutri. Sci. Vitaminol.* 2015. 61:285-290
6. Erik Arner, Carsten O. Daub, Kristoffer Vitting-Seerup, Robin Andersson, Berit Lilje, Finn Drabløs, Andreas Lennartsson, Michelle Rönnerblad, Olga Hrydziuszko, Morana Vitezic, Tom C. Freeman, Ahmad M. N. Alhendi, Peter Arner, Richard Axton, J. Kenneth Baillie, Anthony Beckhouse, Beatrice Bodega, James Briggs, Frank Brombacher, Margaret Davis, Soichi Kojima, Transcribed enhancers lead waves of coordinated transcription in transitioning mammalian cells. *Science*. 347 (6255), 2015, 1010-1014.
7. Konuma, K., Itoh, M., Suganami, T., Kanai, S., Nakagawa, N., Sakai, T., Kawano, H., Hara, M., Kojima S, Izumi, Y., and Ogawa, Y. Eicosapentaenoic acid ameliorates non-alcoholic steatohepatitis in a novel mouse model using Melanocortin-4 receptor-deficient mice. *PlosOne* .2015.
8. Tsukuda, S., Watashi, K., Iwamoto, M., Suzuki, R., Aizaki, H., Okada, M., Sugiyama, M., Kojima S, Tanaka, Y., Mizokami, M., Li, J., Tong, S., and Wakita, T. Dysregulation of retinoic acid receptor diminishes hepatocyte permissiveness to hepatitis B virus infection through modulation of sodium taurocholate cotransporting polypeptide (NTCP) expression. *J. Biol. Chem.* 290(9), 2015, 5673-5684
9. Hara, M., Kirita, A., Kondo, W., Matsuura, T., Nagatsuma, K., Dohmae, N., Ogawa, S., Imajoh-Ohmi, S., Friedman, S. L., Rifkin, D. B., and *Kojima S. LAP degradation product reflects plasma kallikrein-dependent TGF-β activation in patients with hepatic fibrosis. *SpringerPlus*. 3, 2014, 221.
10. Sakata, K., Eda, S., Lee, E-S., Hara, M., Imoto, M., *Kojima S. Neovessel formation promotes liver fibrosis via providing latent transforming growth factor-β. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 443(3), 2014, 950-956
11. Sakata, K., Hara, M., Terada, T., Watanabe, N., Takaya, D., Yaguchi, S., Matsumoto, T., Matsuura, T., Shirouzu, M., Yokoyama, S., Yamaguchi, T., Miyazawa, K., Aizaki, H., Suzuki, T., Wakita, T., Imoto, M., *Kojima S. HCV NS3 protease enhances liver fibrosis via binding to and activating TGF-β type I receptor. *Sci. Rep.* 3, 2013, 3243.
12. Qin, X-Y., Wei, F., Tanokura, M., Ishibashi, N., Shimizu, M., Moriwaki, H., *Kojima S. The effect of acyclic retinoid on the metabolomic profiles

of hepatocytes and hepatocellular carcinoma cells. *PLoS One*. 8(12), 2013, e82860.

13. Kuo, T.-F., Tatsukawa, H., and *[Kojima, S.](#) Regulation of transglutaminase-mediated hepatic cell death in alcoholic steatohepatitis and non-alcoholic steatohepatitis. *J. Gastro. Hepatol.* 27(suppl 2), 2012, 52-57.

【渡士幸一】

1. Suzuki R, Saito K, Matsuda M, Sato M, Kanegae Y, Shi G, [Wataishi K](#), Aizaki H, Chiba J, Saito I, Wakita T, Suzuki T. Single-domain Intrabodies against HCV Core Inhibit Viral Propagation and Core-induced NF- κ B Activation. *J Gen Virol*: 97. 2016, 887-892
2. Nishikori S, Takemoto K, Kamisuki S, Nakajima S, Kuramochi K, Tsukuda S, Iwamoto M, Katayama Y, Suzuki T, Kobayashi S, [Wataishi K](#), Sugawara F. Anti-hepatitis C virus natural product from a fungus, *Penicillium herquei*. *J Nat Prod*: 79. 2016, 442-446
3. Sankhyan A, Sharma C, Dutta D, Sharma T, Chosdol K, Wakita T, [Wataishi K](#), Awasthi A, Acharya S, Khanna N, Tiwari A, Sinha S. Inhibition of preS1-hepatocyte interaction by an array of recombinant human antibodies from naturally recovered individuals. *Sci Rep*: 6. 2016, 21240
4. Kouwaki T, Okamoto T, Ito A, Sugiyama Y, Yamashita K, Suzuki T, Kusakabe S, Hirano J, Fukuhara T, Yamashita A, Saito K, Okuzaki D, [Wataishi K](#), Sugiyama M, Yoshio S, Standley D, Kanto T, Mizokami M, Moriishi K, Matsuura Y. Hepatocyte factor JMJD5 regulates HBV replication through interaction with HBx. *J Virol*: 90. 2016, 3530-3542
5. Kong L, Fujimoto A, Nakamura M, Aoyagi H, Matsuda M, [Wataishi K](#), Suzuki R, Arita M, Yamagoe S, Dohmae N, Suzuki T, Sakamaki Y, Ichinose S, Suzuki T, Wakita T, Aizaki H. Prolactin regulatory element binding protein is involved in hepatitis C virus replication by interacting with NS4B. *J Virol*: 90. 2016, 3093-3111
6. Zhou X, Xu L, Wang W, [Wataishi K](#), Wang Y, Sprengers D, de Ruiter PE, van der Laan LJ, Metselaar HJ, Kamar N, Peppelenbosch MP, Pan Q. Disparity of basal and therapeutically activated interferon signalling in constraining hepatitis E virus infection. *J Viral Hepat*: 23. 2016, 294-304
7. Yamashita A, Fujimoto Y, Tamaki M, Setiawan A, Tanaka T, Okuyama-Dobashi K, Kasai H, [Wataishi K](#), Wakita T, Toyama M, Baba M, de Voogd NJ, Maekawa S, Enomoto N, Tanaka J, Moriishi K. Identification of Antiviral Agents Targeting Hepatitis B Virus Promoter from Extracts of Indonesian Marine Organisms by a Novel Cell-Based Screening Assay. *Mar Drugs*: 13. 2015. 6759-6773
8. *[Wataishi K](#), Wakita T. Hepatitis B Virus and Hepatitis D Virus Entry, Species Specificity, and Tissue Tropism. *Cold Spring Harb Perspect Med*: 5. 2015. a021378
9. Tsukuda S, *[Wataishi K](#), Iwamoto M, Suzuki R, Aizaki H, Okada M, Sugiyama M, Kojima S, Tanaka Y, Mizokami M, Li J, Tong S, Wakita T. Dysregulation of retinoic acid receptor diminishes hepatocyte permissiveness to hepatitis B virus infection through modulation of sodium taurocholate cotransporting polypeptide (NTCP) expression. *J Biol Chem*: 290. 2015. 5673-5684
10. Tasaka-Fujita M, Sugiyama N, Kang W, Masaski T, Murayama A, Yamada N, Sugiyama R, Tsukuda S, [Wataishi K](#), Asahina Y, Sakamoto N, Wakita T, Shin EC, Kato T. Amino Acid Polymorphisms in Hepatitis C Virus Core Affect Infectious Virus Production and Major Histocompatibility Complex Class I Molecule Expression. *Sci Rep*: 2015. 13994
11. Sato S, Li K, Kameyama T, Hayashi T, Ishida Y, Murakami S, Watanabe T, Iijima S, Sakurai Y, [Wataishi K](#), Tsutsumi S, Sato Y, Akita H, Wakita T, Rice CM, Harashima H, Kohara M, Tanaka Y, Takaoka A. The RNA sensor RIG-I dually functions as an innate sensor and direct antiviral factor for hepatitis B virus. *Immunity*: 42. 2015. 123-132
12. Okuyama-Dobashi K, Kasai H, Tanaka T, Yamashita A, Yasumoto J, Chen W, Okamoto T, Maekawa S, [Wataishi K](#), Wakita T, Ryo A, Suzuki T, Matsuura Y, Enomoto N, Moriishi K. Hepatitis B virus efficiently infects non-adherent hepatoma cells via human sodium taurocholate cotransporting polypeptide. *Sci Rep*: 5. 2015. 17047
13. Miyakawa K, Matsunaga S, [Wataishi K](#), Sugiyama M, Kimura H, Yamamoto N, Mizokami M, Wakita T, Ryo A. Molecular dissection of HBV evasion from restriction factor tetherin: A new perspective for antiviral cell therapy. *Oncotarget*: 6. 2015. 21840-21852
14. Matsunaga H, Kamisuki S, Kaneko M, Yamaguchi Y, Takeuchi T, [Wataishi K](#), Sugawara F. Isolation and structure of vanitaracin A, a novel anti-hepatitis B virus compound from *Talaromyces* sp. *Bioorg Med Chem Lett*: 25. 2015. 4325-4328
15. Kaneko M, *[Wataishi K](#), Kamisuki S, Matsunaga H, Iwamoto M, Kawai F, Ohashi H, Tsukuda S, Shimura S, Suzuki R, Aizaki H, Sugiyama M, Park SY, Ito T, Ohtani N, Sugawara F, Tanaka Y, Mizokami M, Sureau C, Wakita T. A Novel Tricyclic Polyketide, Vanitaracin A, Specifically Inhibits the Entry of Hepatitis B and D Viruses by Targeting Sodium Taurocholate Cotransporting Polypeptide. *J Virol*: 89. 2015. 11945-11953
16. Ishida Y, Yamasaki C, Yanagi A, Yoshizane Y, Fujikawa K, [Wataishi K](#), Abe H, Wakita T, Hayes CN, Chayama K, Tateno C. Novel robust in vitro hepatitis B virus infection model using fresh human hepatocytes isolated from humanized mice. *Am J Pathol*: 185. 2015. 1275-1285
17. *[Wataishi K](#), Urban S, Li W, Wakita T. NTCP and beyond: opening the door to unveil hepatitis B virus entry. *Int J Mol Sci*: 15. 2014. 2892-2905
18. *[Wataishi K](#), Sluder A, Daito T, Matsunaga S, Ryo A, Nagamori S, Iwamoto M, Nakajima S, Tsukuda S, Borroto-Esoda K, Sugiyama M, Tanaka Y, Kanai Y, Kusuha H, Mizokami M, Wakita T. Cyclosporin A and its analogs inhibit hepatitis B virus entry into cultured hepatocytes through targeting a membrane transporter, sodium taurocholate cotransporting polypeptide (NTCP). *Hepatology*: 59. 2014. 1726-1737
19. Tsukuda S, *[Wataishi K](#). NTCP transporter as novel target for anti-hepatitis B virus agents. *Clin Res Infect Dis*: 1. 2014. 1004
20. Suzuki R, Ishikawa T, Konishi E, Matsuda M, [Wataishi K](#), Aizaki H, Takasaki T, Wakita T. Production of single-round infectious chimeric flaviviruses with DNA-based Japanese encephalitis virus replicon. *J Gen Virol*: 95. 2014. 60-65
21. Ogura N, [Wataishi K](#), Noguchi T, Wakita T. Formation of covalently closed circular DNA in Hep38.7-Tet cells, a tetracycline inducible hepatitis B virus expression cell line. *Biochem Biophys Res Commun*: 452. 2014. 315-321
22. Matsuda M, Suzuki R, Kataoka C, [Wataishi K](#), Aizaki H, Kato N, Matsuura Y, Suzuki T, Wakita T. Alter native endocytosis pathway for productive entry of hepatitis C virus. *J Gen Virol*: 95. 2014. 2658-2667
23. Iwamoto M, *[Wataishi K](#), Tsukuda S, Aly HH, Fukasawa M, Fujimoto A, Suzuki R, Aizaki H, Ito T, Koiwai O, Kusuha H, Wakita T. Evaluation and identification of hepatitis B virus entry inhibitors using HepG2 cells overexpressing a membrane transporter NTCP. *Biochem Biophys Res Commun*: 443. 2014. 808-813
24. Daito T, *[Wataishi K](#), Sluder A, Ohashi H, Nakajima S, Borroto-Esoda K, Fujita T, Wakita T. Cyclophilin inhibitors reduce phosphorylation of RNA-dependent protein kinase to restore expression of IFN-stimulated genes in HCV-infected cells. *Gastroenterology*: 147. 2014. 463-472
25. *[Wataishi K](#), Liang G, Iwamoto M, Marusawa H, Uchida N, Daito T, Kitamura K, Muramatsu M, Ohashi H, Kiyohara T, Suzuki R, Li J, Tong S, Tanaka Y, Murata K, Aizaki H, Wakita T. Interleukin-1 and tumor necrosis factor- α trigger restriction of hepatitis B virus infection via a cytidine deaminase activation-induced cytidine deaminase (AID). *J Biol Chem*: 288. 2013. 31715-31727
26. Suzuki R, Matsuda M, [Wataishi K](#), Aizaki H, Matsuura Y, Wakita T, Suzuki T. Signal peptidase complex subunit 1 participates in the assembly of hepatitis C virus through an interaction with E2 and NS2. *PLoS Pathog*: 9. 2013. e1003589
27. Shimura S, Ishima M, Nakajima S, Fujii T, Himeno N, Ikeda K, Izaguirre-Carbonell J, Murata H, Takeuchi T, Kamisuki S, Suzuki T, Kuramochi K, [Wataishi K](#), Kobayashi S, Sugawara F. Total synthesis and anti-hepatitis C virus activity of MA026. *J Am Chem Soc*: 135. 2013. 18949-18956
28. Nakajima S, *[Wataishi K](#), Kamisuki S, Tsukuda S, Takemoto K, Matsuda M, Suzuki R, Aizaki H, Sugawara F, Wakita T. Specific inhibition of hepatitis C virus entry into host hepatocytes by fungi-derived sulochrin and its derivatives. *Biochem Biophys Res Commun*: 440. 2013. 515-520
29. Matsumoto Y, Matsuura T, Aoyagi H, Matsuda M, Hmwe SS, Date T, Watanabe N, [Wataishi K](#), Suzuki R, Ichinose S, Wake K, Suzuki T, Miyamura T, Wakita T, Aizaki H. Antiviral activity of glycyrrhizin against hepatitis C virus in vitro. *PLoS One*: 8. 2013. e68992
30. Weng L, Tian X, Gao Y, [Wataishi K](#), Shimotohno K, Wakita T, Kohara M, Toyoda T. Different mechanisms of hepatitis C virus RNA polymerase activation by cyclophilin A and B in vitro. *Biochim Biophys Acta*: 1820. 2012. 1886-1892
31. Murayama A, Sugiyama N, [Wataishi K](#), Masaki T, Suzuki R, Aizaki H, Mizuochi T, Wakita T, Kato T. Japanese reference panel of blood specimens

for evaluation of hepatitis C virus RNA and core antigen quantitative assays. *J Clin Microbiol*. 50. 2012. 1943-1949

32. 渡士幸二. 薬学的視点からのウイルス学研究 —肝炎ウイルス複製阻害化合物の同定とその作用機序. *薬学雑誌*. 2013. 133: 1169-1175

【三輪佳宏】

1. Uchida D, *Kawamata H, Omotehara F, Miwa Y, Horiuchi H, Furihata T, Tachibana M, Fujimori T. Overexpression of TSC-22 (transforming growth factor β -stimulated clone-22) causes marked obesity, splenic abnormality and B cell lymphoma in transgenic mice. *Oncotarget*. 2016. Feb 10.
2. Nakagawa H, Matsumoto Y, Matsumoto Y, Miwa Y, *Nagasaki Y. Design of high-performance anti-adhesion agent using injectable gel with an anti-oxidative stress function. *Biomaterials* 69, 2015, 165-173
3. Suan D, Nguyen A, Moran I, Bourne K, Hermes JN, Arshi M, Hampton HR, Tomura M, Miwa Y, Kelleher AD, Kaplan W, Deenick EK, Tangye SG, Brink R, Chtanova T, *Phan TG. T follicular helper cells have distinct modes of migration and molecular signatures in naive and memory immune responses. *Immunity*. 42(4), 2015 Apr 21, 704-18.
4. Tanaka S, Tanaka J, Miwa Y, Horikawa DD, Katayama T, Arakawa K, Toyoda A, Kubo T, *Kunieda T. Novel mitochondria-targeted heat-soluble proteins identified in the anhydrobiotic tardigrade improve osmotic tolerance of human cells. *Plos One*. 12;10(2) 2015 Feb. e0118272.
5. Tran TNM, Tanaka J, Hamada M, Sugiyama Y, Sakaguchi S, Nakamura M, Takahashi S, and *Miwa Y. *In vivo* image analysis using iRFP transgenic mice. *Exp. Anim.* 63(3), 2014, 311-319
6. Tamura M, *Matsui H, Hyodo I, Tanaka J, Miwa Y. Fluorescence-based co-culture of normal and cancerous cells as an indicator of therapeutic effects in cancer. *Eur. J. Pharm Sci.* 63C, 2014, 1-7.
7. Hasegawa Y, Daitoku Y, Mizuno S, Tanimoto Y, Mizuno-Iijima S, Matsuo M, Kajiwaru N, Ema M, Oishi H, Miwa Y, Mekada K, Yoshiki A, Takahashi S, *Sugiyama F, Yagami K-I. Generation and characterization of Ins-1-gre driver C57BL/6N for exclusive pancreatic beta cell-specific Cre-loxP recombination. *Exp. Anim.*, 63(2), 2014, 183-191
8. *三輪佳宏, 田中順子, 千田直子, 黒山喬允, 逆井智貴, 濱田理人, 百武篤也, 新井達郎, 高橋智 「蛍光寿命や近赤外蛍光を応用したイメージング技術」 *バイオイメージング* vol124. 2015 22-27

【程久美子】

1. Kamola PJ, Nakano Y, Takahashi T, Wilson PA, Ui-Tei K. The siRNA Non-Seed Region and its Target Sequences are Auxiliary Determinants of Off-Target Effects. *PLoS Comput. Biol.* 11, 2015, e1004656
2. Nishi K, Takahashi T, Suzawa M, Miyakawa T, Nagasawa T, Ming Y, Tanokura M, Ui-Tei K. Control of the localization and function of a miRNA silencing component TNRC6A by Argonaute protein. *Nucleic Acids Res.* 43, 2015, 9856-9873.
3. Ishikawa T, Takizawa T, Iwaki J, Mishima T, Ui-Tei K, Takeshita T, Matsubara S, Takizawa T. Fc gamma receptor IIb participates in maternal IgG trafficking of human placental endothelial cells. *Int. J. Mol. Med.* 35, 2015, 1273-1789.
4. Naito Y, Hino K, Bono H, Ui-Tei K. CRISPRdirect: software for designing CRISPR/Cas guide RNA with reduced off-target sites. *Bioinformatics* 31, 2015, 1120-1123.
5. Kume H, Hino K, Galipon J, Ui-Tei K. A-to-I editing in the miRNA seed region regulates target mRNA selection and silencing efficiency. *Nucleic Acids Res.* 42, 2014, 10050-10060.
6. Takahashi T, Zenno S, Ishibashi O, Takizawa T, Saigo K, Ui-Tei K. Interactions between the non-seed region of siRNA and RNA-binding RLC/RISC proteins, Ago and TRBP, in mammalian cells. *Nucleic Acids Res.* 42, 2014, 5256-5269.
7. Yukinaga H, Shionyu C, Hirata E, Ui-Tei K, Nagashima T, Kondo S, Okada-Hatakeyama M, Naoki H, Matsuda M. Fluctuation of Rac1 activity is associated with the phenotypic and transcriptional heterogeneity of glioma cells. *J. Cell Sci.* 127, 2014, 1805-1815.

【浜本洋】

1. Hamamoto H, Sekimizu K. Identification of lysocin E using a silkworm model of bacterial infection, *Drug Discov Ther*, 10, 24-29, 2016
2. 浜本洋, 新しい抗生物質ライソシン E, *化学と生物*, 54, 2016, 146-148, 総説
3. Su J, Iehara M, Yasukawa J, Matsumoto Y, Hamamoto H, Sekimizu K. A novel mutation in the *vraS* gene of *Staphylococcus aureus* contributes to reduce susceptibility against daptomycin. *J Antibiot (Tokyo)*, 68, 2015, 646-648,
4. Hamamoto H, Urai M, Ishii K, Yasukawa J, Paudel A, Murai M, Kaji T, Kuranaga T, Hamase K, Katsu T, Su J, Adachi T, Uchida R, Tomoda H, Yamada M, Souma M, Kurihara H, Inoue M, Sekimizu K. Lysocin E is a new antibiotic that targets menaquinone in the bacterial membrane, *Nat Chem Biol*, 11, 2015, 127-133.
5. Mao J, Kuranaga T, Hamamoto H, Sekimizu K, Inoue M. Rational design, synthesis, and biological evaluation of lactam-bridged gramicidin A analogues: discovery of a low-hemolytic antibacterial Peptide, *ChemMedChem*, 10, 2015, 540-545
6. Hamamoto H, Sekimizu K, Inoue M. Total synthesis and biological evaluation of the antibiotic lysocin e and its enantiomeric, epimeric, and N-demethylated analogues, Murai M, Kaji T, Kuranaga T, *Angew Chem Int Ed Engl*, 54, 2015, 1556-1560
7. Uchida R, Hanaki H, Matsui H, Hamamoto H, Sekimizu K, Iwatsuki M, Kim Y P, Tomoda H. In vitro and in vivo anti-MRSA activities of nosokomycins, *Drug Discov Ther*, 8, 2014, 249-254

【加藤博章】

1. 清水敏之, 加藤博章, 受容体とトランスポーターの構造薬理学, *薬学雑誌*, 136, 2016, 171-172
2. ©Moritsugu Kei, Koike Ryotaro, Yamada Kouki, Kato Hiroaki. *Kidera Akinori, Motion Tree Delineates Hierarchical Structure of Protein Dynamics Observed in Molecular Dynamics Simulation, *PLoS One*, 10, 2015, e0131583
3. ©Furuta Tadaomi, Yamaguchi Tomohiro, Kato Hiroaki. *Sakurai Minoru, Analysis of the structural and functional roles of coupling helices in the ATP-binding cassette transporter MsbA through enzyme assays and molecular dynamics simulations, *Biochemistry*, 53, 2014, 4261-4272
4. 加藤博章, ヒト ABC 多剤排出トランスポーター類似タンパク質の立体構造決定と新規阻害剤の創製, *ファルマシア*, 151, 2015, 315-319
5. 小段篤史, 山口知宏, 中津亨, *加藤博章, 真核生物由来 ABC 多剤排出トランスポーターの構造と分子メカニズム, *日本結晶学会誌*, 56, 2014, 224-229

【島村達郎】

1. Kabe Y, Nakane T, Koike I, Yamamoto T, Sugiura Y, Harada E, Sugase K, Shimamura T, Ohmura M, Muraoka K, Yamamoto A, Uchida T, Iwata S, Yamaguchi Y, Krayukhina E, Noda M, Handa H, Ishimori K, Uchiyama S, Kobayashi T, *Suematsu M. Haem-dependent dimerization of PGRMC1/Sigma-2 receptor facilitates cancer proliferation and chemoresistance. *Nat Commun.* 7, 2016 Mar 18, 11030.
2. Nakane T, Song C, Suzuki M, Nango E, Kobayashi J, Masuda T, Inoue S, Mizohata E, Nakatsu T, Tanaka T, Tanaka R, Shimamura T, Tono K, Joti Y, Kameshima T, Hatsui T, Yabashi M, Nureki O, Iwata S, *Sugahara M. Native sulfur/chlorine SAD phasing for serial femtosecond crystallography. *Acta Crystallogr D Biol Crystallogr.* 71(Pt 12), 2015 Dec 1, 2519-25.
3. Nomura N, Verdon G, Kang HJ, Shimamura T, Nomura Y, Sonoda Y, Hussien SA, Qureshi AA, Coincon M, Sato Y, Abe H, Nakada-Nakura Y, Hino T, Arakawa T, Kusano-Arai O, Iwanari H, Murata T, Kobayashi T, Hamakubo T, Kasahara M, *Iwata S, *Drew D. Structure and mechanism of the mammalian fructose transporter GLUT5. *Nature.* 526(7573), 2015 Oct 15, 397-401.
4. *Tono K, Nango E, Sugahara M, Song C, Park J, Tanaka T, Tanaka R, Joti Y, Kameshima T, Ono S, Hatsui T, Mizohata E, Suzuki M, Shimamura T, Tanaka Y, Iwata S, Yabashi M. Diverse application platform for hard X-ray diffraction in SACLA (DAPHNIS): application to serial protein

crystallography using an X-ray free-electron laser. *J Synchrotron Radiat.* 22(Pt 3), 2015 May 1, 532-7.

- Suharni, Nomura Y, Arakawa T, Hino T, Abe H, Nakada-Nakura Y, Sato Y, Iwanari H, Shiroishi M, Asada H, Shimamura T, Murata T, Kobayashi T, Hamakubo T, Iwata S, *Nomura N. Proteoliposome-based selection of a recombinant antibody fragment against the human M2 muscarinic acetylcholine receptor. *Monoclon Antib Immunodiagn Immunother.* 33(6), 2014 Dec, 378-85.
- *Sugahara M, Mizohata E, Nango E, Suzuki M, Tanaka T, Masuda T, Tanaka R, Shimamura T, Tanaka Y, Suno C, Ihara K, Pan D, Kakinouchi K, Sugiyama S, Murata M, Inoue T, Tono K, Song C, Park J, Kameshima T, Hatsui T, Joti Y, Yabashi M, Iwata S. Grease matrix as a versatile carrier of proteins for serial crystallography. *Nat Methods.* 12(1), 2015 Jan 6, 1-3.

【林良雄】

- K. Hamada, A. Taguchi, M. Kotake, S. Aita, S. Murakami, K. Takayama, F. Yakushiji, Y. Hayashi, Structure-Activity Relationship Studies of 3-*epi*-Deoxyneogamycin Derivatives as Potent Readthrough Drug Candidates, *ACS Med. Chem Lett.*, 6, 2015, 689-694.

A02 : 天然リガンドの探索と合成

【入江一浩】

- Kikumori, M., Yanagita, R. C., Tokuda, H., Suenaga, K., Nagai, H., *Irie, K., Structural optimization of 10-methyl-aplog-1, a simplified analog of debromoaplysiatoxin, as an anticancer lead, *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 80, 2016, 221-231
- Hanaki, Y., Yanagita, R. C., Sugahara, T., Aida, M., Tokuda, H., Suzuki, N., *Irie, K., Synthesis and biological activities of the amide derivative of aplog-1, a simplified analog of aplysiatoxin with anti-proliferative and cytotoxic activities, *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 79, 2015, 888-895
- Kikumori, M., Yanagita, R. C., *Irie, K., Improved and large-scale synthesis of 10-methyl-aplog-1, a potential lead for an anticancer drug, *Tetrahedron*, 70, 2014, 9776-9782
- Irie, K. and Yanagita, R. C., Synthesis and biological activities of simplified analogs of the natural PKC ligands, bryostatin-1 and aplysiatoxin, *Chem. Rec.*, 14, 2014, 251-267
- Yanagita, R. C., Kamachi, H., Kikumori, M., Tokuda, H., Suzuki, N., Suenaga, K., Nagai, H., *Irie, K., Effects of the methoxy group in the side chain of debromoaplysiatoxin on its tumor-promoting and anti-proliferative activities, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 23, 2013, 4319-4323
- Kamachi, H., Tanaka, K., Yanagita, R. C., Murakami, A., Murakami, K., Tokuda, H., Suzuki, N., Nakagawa, Y., *Irie, K., Structure-activity studies on the side chain of a simplified analog of aplysiatoxin (aplog-1) with anti-proliferative activity, *Bioorg. Med. Chem.*, 21, 2013, 2695-2702
- Hanaki, Y., Kikumori, M., Ueno, S., Tokuda, H., Suzuki, N., *Irie, K., Structure-activity studies at position 27 of aplog-1, a simplified analog of debromoaplysiatoxin with anti-proliferative activity, *Tetrahedron*, 2013, 69, 7636-7645
- Kikumori, M., Yanagita, R. C., Tokuda, H., Suzuki, N., Nagai, H., Suenaga, K., *Irie, K., Structure-activity studies on the spiroketal moiety of a simplified analog of debromoaplysiatoxin with antiproliferative activity, *J. Med. Chem.*, 55, 2012, 5614-5626
- Irie, K., Kikumori, M., Kamachi, H., Tanaka, K., Murakami, A., Yanagita, R. C., Tokuda, H., Suzuki, N., Nagai, H., Suenaga, K., Nakagawa, Y., Synthesis and structure-activity studies of simplified analogs of aplysiatoxin with anti-proliferative activity like bryostatin-1, *Pure Appl. Chem.*, 84, 2012, 1341-1351
- Irie, K., Yanagita, R. C., Nakagawa, Y., Development of new anticancer drugs based on the activation mechanism of protein kinase C δ , *Med. Res. Rev.*, 32, 2012, 518-535
- Shu, Y., Yanagita, R. C., Tokuda, H., Suzuki, N., *Irie, K., Synthesis of antineoplastic analogs of aplysiatoxin with various side chain structures, *Heterocycles*, 86, 2012, 281-303
- Nakagawa, Y., Kikumori, M., Yanagita, R. C., Murakami, A., Tokuda, H., Nagai, H., *Irie, K., Synthesis and biological evaluation of the 12,12-dimethyl derivative of aplog-1, an anti-proliferative analog of tumor-promoting aplysiatoxin, *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 75, 2011, 1167-1173

【井本正哉】

- Ioka S, Saitoh T, Iwano S, Suzuki K, Maki S.A., Miyawaki A, Imoto M, and *Nishiyama S. Synthesis of firefly luciferin analogues and evaluation of the luminescent properties. *Chem. Eur. J.* 22(27), 2016, 9330-9337
- *Igarashi Y, Asano D, Sawamura M. In Y, Ishida T, Imoto M.: Ulbactins F and G, polycyclic Thiazoline derivatives with tumor cell migration inhibitory activity from *Brevibacillus* sp. *Org. Lett.* 18(7), 2016, 1658-1661
- Kritsanawong S, Innajak S, Imoto M, *Watanapokasin R. Antiproliferative and apoptosis induction of α -mangostin in T47D breast cancer cells. *International J. Oncology.* 48(5), 2016, 2155-2165
- Takeya H. Natural products-prompted chemical biology: phenotypic screening and a new platform for target identification. *Nat Prod Rep.* Feb.17 2016
- Saito S, Fujimaki T, Panbangred W, Igarashi Y and *Imoto M. Antarlides, A new-type of Androgen Receptor (AR) Antagonist, that overcomes resistance to AR-targeted Therapy. *Angewandte Chemie Int. Ed.* 55(8), 2016, 2728-32
- Kaneta H, Koda M, Saito S, Imoto M, Kawada M, Yamazaki Y, Momose I & *Shindo K. Biological activities of unique isoflavones prepared from *Apios americana* Medik. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry.* 25, Jan 2016, 1-5
- 田代悦, 井本正哉. メタボロミクスと分子標的治療. *日本臨床* 73: 2015, 1268-1272
- Tashiro E, *Imoto M. Chemistry and biology of the compounds that modulate cell migration (Review Article). *J Ind Microbiol Biotechnol.* Jul 15. 2015.
- Tashiro E, *Imoto M. Chemical Biology of the compounds obtained from screening using disease models. *Arch Pharm Res.* 38, 2015, 1651-1660
- Mizotani Y, Itoh S, Hotta K, Tashiro E, Oka K, *Imoto M. Evaluation of drug toxicity profiles based on the phenotypes of ascidian *Ciona intestinalis*. *Biochem Biophys Res Commun.* 463, 2015, 656-660
- 井本正哉 : ビッグデータを利用した標的特定の実例 「生物活性分子のケミカルバイオロジー-標的特定と作用機構」カレントレビュー 15 化学同人 2015 79-85
- 井本正哉, 川谷誠 : 分子標的特定の実例 「生物活性分子のケミカルバイオロジー-標的特定と作用機構」カレントレビュー19 化学同人 2015 26-33
- Krajcar A, Imoto M, Tashiro E, Fujimaki T, Shinjo S, *Watanapokasin R. Apoptosis induction associated with the ER stress response through up-regulation of JNK in HeLa cells by gambogic acid. *BMC Complementary and Alternative Medicine.* 15, 2015, 26
- Kiga M, Nakayama A, Shikata Y, Sasazawa Y, Murakami R, Nakanishi T, Tashiro E, *Imoto M. SMK-17, a MEK1/2-specific inhibitor, selectively induces apoptosis in β -catenin-mutated tumors. *Scientific Report.* 5, 2015, 8155
- Ishikawa F, Miyamoto K, Konno S, Kasai S, Takeya H. Accurate Detection of Adenylation Domain Functions in Nonribosomal Peptide Synthetases by an Enzyme-linked Immunosorbent Assay System Using Active Site-directed Probes for Adenylation Domains. *ACS Chem Biol.* 10, 2015, 26
- Yoshimaru T, Komatsu M, Tashiro E, Imoto M, Osada H, Miyoshi M, Honda J, Sasa M, and *Katagiri T. Xanthohumol suppresses oestrogen-signalling in breast cancer through the specific inhibition of BIG3-PHB2 interaction. *Scientific Report.* 4, 2015, 7335
- Fujimaki T, Saiki S, Tashiro E, Yamada D, Kitagawa M, Hattori N and *Imoto M. Identification of licopyranocoumarin and glycyrrulol from herbal medicines as neuroprotective compounds for Parkinson's disease. *PLoS One.* 9(6), Jun 24 2015, e100395
- Magi S, Saeki Y, Kasamatsu M, Tashiro E, *Imoto M. Chemical genomic-based pathway analyses for epidermal growth factor-mediated signaling in migrating cancer cells. *PLoS One.* 9 (5), 2015, e96776

19. 北川光洋, 田代悦, 井本正哉: オートファジーに挑むケミカルバイオロジー 「天然物化学とケミカルバイオロジーの挑戦」化学工業 65 (4), 2015, 22-27
 20. 田代悦, 井本正哉: 最新がん薬物療法学-がん薬物療法の最新知見- II がんの新規治療を目指した基礎研究 新しいがん薬物療法への革新技術「EMTを標的としたがん治療」日本臨床 72巻 増刊号2 2014 90-96
 21. Sakata K, Hara M, Terada T, Watanabe N, Takaya D, Yaguchi S, Matsumoto T, Matsuura T, Shirouzu M, Yokoyama S, Yamaguchi T, Miyazawa K, Aizaki H, Suzuki T, Wakita T, Imoto M, *Kojima S. Neovessel formation promotes liver fibrosis via providing latent transforming growth factor- β . *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 443, 2014, 950-956
 22. Magi S, Takemoto Y, Kobayashi H, Kasamatsu M, Akita T, Tanaka A, Takano K, Tashiro E, Igarashi Y, *Imoto M. 5-Lipoxygenase and CysLT1 regulate EGF-induced cell migration through Tiam1 upregulation and Rac1 activation. *Cancer Science* 105, 2014, 290-296.
 23. Sugiyama R, Nishimura S, Matsumori N, Tsunematsu Y, Hattori A, Kakeya H. Structure and biological activity of 8-deoxyheronamide C from a marine-derived Streptomyces sp.: heronamides target saturated hydrocarbon chains in lipid membranes. *J Am Chem Soc.* 136, 2014, 5209-5212.
 24. Sakata K, Eda S, Lee E, Hara M, Imoto M, *Kojima S. HCV NS3 protease enhances liver fibrosis via binding to and activating TGF- β type I receptor. *Scientific Reports* 3, 2013, 3243
 25. Ichige M, Fukuda E, Miida S, Hattan J, Misawa N, Saito S, Fujimaki T, Imoto M, *Shindo K. Novel isoflavone glucosides in Groundnut (*Apios americana* Medik) and their antiandrogenic activities. *J. Agric. Food Chem.* 2013. 61: 2183-2187
 26. Shinjo S, *Tashiro E, Imoto M. Establishment of a new detection system for the dimerization of IRE1 α with BiFC method. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 77, 2013, 1333-1336
 27. Shinjo S, Mizotani Y, *Tashiro E, Imoto M. A Comparative Analysis of the Expression Patterns of UPR-Target Genes caused by UPR-inducing Compounds. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 77, 2013, 729-735
 28. Magi S, Shitara T, Takemoto Y, Sawada M, Kitagawa M, Tashiro E, Takahashi Y, *Imoto M. Novel derivatives of aclacinomycin A block cancer cell migration through inhibition of farnesyl transferase. *J. Antibiot.* 66, 2013, 165-170
 29. 藤巻貴宏 井本正哉: ケミカルバイオロジーと構造生物学—制がん剤のシードの探索— 分子標的薬 (がんから他疾患までの治療を目指して) 日本臨床 70巻 増刊号8, 2012, 303-307
 30. Magi S, Tashiro E and *Imoto M. A chemical genomic study identifying diversity in cell migration signaling in cancer cells. *Scientific Reports* 2, 2012, 823
 31. Kimura T, Kanagaki S, Matsui Y, Imoto M, Watanabe T, *Shibasaki M. Synthesis and Assignment of the Absolute Configuration of an Indenotryptoline Bisindole Alkaloid, BE-54017. *Org. Lett.* 14, 2012, 4418-4421
 32. 北川光洋, 井本正哉: がんの代謝解析による薬剤標的探索 実験医学 (増刊) 2012 173-177
 33. Ri M, Tashiro E, Oikawa D, Shinjo S, Tokuda M, Yokouchi Y, Narita T, Masaki A, Ito A, Ding J, Kusumoto S, Ishida T, Komatsu H, Shiotsu Y, Ueda R, Iwakaki T, Imoto M, *Iida S. Identification of Toyocamycin, an agent cytotoxic for multiple myeloma cells, as a potent inhibitor of ER stress-induced XBP1 mRNA splicing. *Blood Cancer J.* 2012. e79
 34. Kobayashi H, Harada, H, Nakamura M, Futamura Y, Ito A, Yoshida M, Iemura S, Shin-ya K, Doi T, Takahashi T, Natsume T, Imoto M and *Sakakibara Y. Comprehensive Predictions of Target Proteins Based on Protein-Chemical Interaction Using Virtual Screening and Experimental Verifications. *BMC Chemical Biology*, 12, 2012, 2
 35. Sasazawa Y, Kanagaki S, Tashiro E, Nogawa T, Muroi M, Kondoh Y, Osada H, *Imoto M. Xanthohumol Impairs Autophagosome Maturation through Direct Inhibition of Valosin-Containing Protein. *ACS Chemical Biology*, 7, 2012, 892-900
 36. Yamamoto K, Makino M, Watanapokasin R, *Tashiro E and Imoto M. Inostamycin enhanced TRAIL-induced apoptosis through DR5 up-regulation on the cell surface. *J. Antibiot.* 65, 2012, 295-300
 37. Tashiro E and *Imoto M. Target identification of bioactive compounds. *Bioorg. & Med. Chem.* 20, 2012, 1910-1921
 38. Yamamoto K, *Tashiro E, Motohashi K, Seto H and Imoto M. Napyradiomycin A1, an inhibitor of mitochondrial complexes I and II. *J. Antibiot.* 65, 2012, 211-214
 39. Kiga M, Tanzawa F, Iwasaki S, Inaba F, Fujiwara K, Iwadare H, Echigo T, Nakamura Y, Shibata T, Suzuki K, Yasumatsu, I Nakayama A, Sasazawa Y, Tashiro E, Imoto M, *S. Kurakata S. Antitumor effects of novel highly hydrophilic and non-ATP-competitive MEK1/2 inhibitor, SMK-17. *Anticancer Drugs.* 23, 2012, 119-130
 40. Kobayashi H, Ogura, Y, Sawada M, Nakayama T, Takano K, Minato Y, Takemoto Y, Tashiro E, Watanabe H & *Imoto M. Involvement of 14-3-3 proteins in the second EGF-induced wave of Rac1 activation in the process of cell migration. *J. Biol. Chem.* 286, 2011, 39259-39268
 41. Yamada Y, Tashiro E Taketani S, Imoto M and *Kataoka T. Mycotrienin II, a translation inhibitor that prevents ICAM-1 expression induced by pro-inflammatory cytokines. *J. Antibiot.* 64, 2011, 361-366
 42. Kawamura T, Matsubara K, Otaka H, Tashiro E, Shindo, K, Yanagita R. C., Irie K and *Imoto M. Generation of "Unnatural Natural Product" library and identification of a small molecule inhibitor of XIAP. *Bioorg. & Med. Chem.* 19, 2011, 4377-4385
 43. 木我真基, 井本正哉: 血液悪性疾患の分子標的療法—分子標的治療薬の創薬過程— 細胞 43, 2011, 127-130
 44. Sawada M, Kubo, S Matsumura, K Takemoto Y, Kobayashi H, Tashiro E, Kitahara T, Watanabe H and *Imoto M. Synthesis and anti-migrative evaluation of moverastin derivatives. *Bioorg. & Med. Chem. Lett.* 21, 2011, 1385-1389
 45. Yamamoto K, Tashiro E and *Imoto M. Quinotriexin Inhibits ER Stress-induced XBP1 mRNA Splicing through Inhibition of Protein Synthesis. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 75, 2011, 284-288
 46. Kitagawa M, Misawa M, Ogawa S, Tashiro E and *Imoto M. A New Convenient Cell-based Screening Method for Small Molecule Glycolytic Inhibitors. *Biosci. Biotechnol. Biochem.* 75, 2011, 367-369
 47. Saiki S, Sasazawa Y, Imamichi Y, Kawajiri S, Fujimaki T, Tanida I, Kobayashi H, Sato F, Kei-Ichi Ishikawa, Sato S, Imoto M, *Hattori N: Caffeine induces apoptosis by enhancement of autophagy via PI3K/Akt/mTOR/p70S6K inhibition. *Autophagy.* 7, 2011, 42-53
- 【松永茂樹】
1. Peddie, V.; *Takada, K.; Okuda, S.; Ise, Y.; Morii, Y.; Yamawaki, N.; Takatani, T.; Arakawa, O.; Okada, S.; *Matsunaga, S.: Cytotoxic Glycosylated Fatty Acid Amides from a *Stelletta* sp Marine Sponge. *J. Nat. Prod.* 78, 2015, 2808-2813
 2. Takanashi, E.; *Takada, K.; Hashimoto, M.; Itoh, Y.; Ise, Y.; Ohtsuka, S.; Okada, S.; *Matsunaga, S.: Cytotoxic linear acetylenes from a marine sponge *Pleroma* sp. *Tetrahedron* 71, 2015, 9564-9570
 3. Moran, D. A. P.; *Takada, K.; Ise, Y.; Bontemps, N.; Davis, R. A.; Furihata, K.; Okada, S.; *Matsunaga, S.: Two cell differentiation inducing pyridoacridines from a marine sponge *Biemna* sp and their chemical conversions. *Tetrahedron* 71, 2015, 5013-5018
 4. Fukuhara, K.; *Takada, K.; Okada, S.; *Matsunaga, S.: Nazumazoles A-C, Cyclic Pentapeptides Dimerized through a Disulfide Bond from the Marine Sponge *Theonella swinhoei*. *Org. Lett.* 17, 2015, 2646-2648
 5. Arita, Y.; *Nishimura, S.; Ishitsuka, R.; Kishimoto, T.; Ikenouchi, J.; Ishii, K.; Umeda, M.; Matsunaga, S.; Kobayashi, T.; *Yoshida, M.: Targeting Cholesterol in a Liquid-Disordered Environment by Theonellamides Modulates Cell Membrane Order and Cell Shape. *Chem. Biol.* 22, 2015, 604-610
 6. Takada, K.; Okada, S.; *Matsunaga, S.: Structural reappraisal of corticatic acids, biologically active linear polyacetylenes, from a marine sponge of the genus *Petrosia*. *Fish. Sci.* 80, 2014, 1057-1064

7. Sun, Y.; Takada, K.; Nogi, Y.; Okada, S.; *Matsunaga, S.: Lower Homologues of Atpatinin, Aspartic Protease Inhibitors, from a Marine *Streptomyces* sp. *J. Nat. Prod.* 77, 2014, 1749-1752
8. Hitara, Y.; Takada, K.; *Matsunaga, S.: On the Assignment of the Absolute Configuration at the Isolated Methyl Branch in Miyakosyne A, Cytotoxic Linear Acetylene, from the Deep-Sea Marine Sponge *Petrosia* sp. *Tetrahedron*, 69, 2013, 11070-11073
9. *Nishimura, S.; Ishii, K.; Iwamoto, K.; Arita, Y.; Matsunaga, S.; Ohno-Iwashita, Y.; Sato, S. B.; Kakeya, H.; Kobayashi, T.; *Yoshida, M.: Visualization of Sterol-Rich Membrane Domains with Fluorescently-Labeled Theonellamides. *Plos One*, 8, 2013, e83716:
10. Espiritu, R. A.; *Matsumori, N.; Murata, M.; Nishimura, S.; Kakeya, H.; Matsunaga, S.; Yoshida, M.: Interaction between the Marine Sponge Cyclic Peptide Theonellamide A and Sterols in Lipid Bilayers As Viewed by Surface Plasmon Resonance and Solid-State H-2 Nuclear Magnetic Resonance. *Biochemistry (N. Y.)* 52, 2013, 2410-2418
11. Akiyama, T.; Takada, K.; Oikawa, T.; Matsuura, N.; Ise, Y.; Okada, S.; *Matsunaga, S.: Stimulators of adipogenesis from the marine sponge *Xestospongia testudinaria*. *Tetrahedron* 69, 2013, 6560-6564
12. Takada, K.; Ninomiya A.; Naruse, M.; Sun, Y.; Miyazaki, M.; Nogi, Y.; Okada, S. *Matsunaga, S.: Surugamides A–E, Cyclic Octapeptides with Four D-Amino Acid Residues, from a Marine *Streptomyces* sp.: LC–MS-Aided Inspection of Partial Hydrolysates for the Distinction of D- and L-Amino Acid Residues in the Sequence. *J. Org. Chem.* 78, 2013, 6746-6750
13. Imae, Y.; Takada, K.; Okada, S.; Ise, Y.; Yoshimura, H.; Morii, Y.; *Matsunaga, S.: Isolation of Ciliatamide D from a Marine Sponge *Stelletta* sp and a Reinvestigation of the Configuration of Ciliatamide A. *J. Nat. Prod.* 76, 2013, 755-758
14. Sun, Y.; Takada, K.; Takemoto, Y.; Yoshida, M.; Nogi, Y.; Okada, S.; *Matsunaga, S.: Gliotoxin Analogues from a Marine-Derived Fungus, *Penicillium* sp., and Their Cytotoxic and Histone Methyltransferase Inhibitory Activities. *J. Nat. Prod.* 75, 2012, 111-114
15. Suzuki, M.; Ueoka, R.; Takada, K.; Okada, S.; Ohtsuka, S.; Ise, Y.; *Matsunaga, S.: Isolation of Spirastrellolides A and B from a Marine Sponge *Epipolysis* sp and Their Cytotoxic Activities. *J. Nat. Prod.* 75, 2012, 1192-1195

【石橋正己】

1. Arai, M. A.; Kofuji, Y.; Tanaka, Y.; Yanase, N.; Yamaku, K.; Fuentes, R. G.; Karmakar, U.K.; Ishibashi, M. "Synthesis of rocaglamide derivatives and evaluation of their Wnt signal inhibitory activities" *Org. Biomol. Chem.* 14, 2016, 3061-3068
2. Ahmed, F.; Toume, K.; Ishikawa, N.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; *Ishibashi, M. "Constituents from *Entada scandens* with TRAIL-resistance overcoming activity" *Nat. Prod. Commun.* 11, 2016, 993-995
3. Abdelfattah, M. S.; Ishikawa, N.; Karmakar, U. K.; Yamaku, K.; *Ishibashi, M. "New phenazine analogues from *Streptomyces* sp. IFM 11694 with Wnt signaling inhibitory and TRAIL resistance-overcoming activities" *J. Antibiot.* 69, 2016, 4486-450
4. Karmakar, U. K.; Toume, K.; Ishikawa, N.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Bioassay-guided isolation of compounds with TRAIL-resistance overcoming activity from *Datura stramonium*" *Nat. Prod. Commun.* 11, 2016, 185-187
5. Arai, M. A.; Ishikawa, N.; Tanaka, M.; Uemura, K.; Sugimitsu, N.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "Hes1 dimer inhibitor isolated by target protein oriented natural products isolation (TPO-NAPI) of differentiation activators of neural stem cells" *Chem. Sci.* 2016, 7, 1514-1520
6. Abdelfattah, M. S.; Ishikawa, N.; Karmakar, U. K.; *Ishibashi, M. "Sulfotanone, a new alkyl sulfonic acid derivative from *Streptomyces* sp. IFM 11694 with TRAIL resistance-overcoming activity" *J. Nat. Med.* 70, 2016 266-270
7. Yixizhuoma; Tsukahara, K.; Toume, K.; Ishikawa, N.; Abdelfattah, M. S.; *Ishibashi, M. "Novel cytotoxic isobenzofuran derivatives from *Streptomyces* sp. IFM 11490" *Tetrahedron Lett.* 56, 2015, 6345-6347
8. Ohishi, K.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Coronaridine, an iboga type alkaloid from *Tabernaemontana divaricata*, inhibits Wnt signaling pathway by decreasing β -catenin mRNA expression" *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 25, 2015, 3937-3940
9. Yoneyama, T.; *Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Hedgehog inhibitors from *Withania somnifera*" *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 25, 2015, 3541-3544
10. Karmakar, U. K.; Ishikawa, N.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Sesquiterpenes with TRAIL-resistance overcoming activity from *Xanthium strumarium*" *Bioorg. Med. Chem.* 23, 2015, 4746-4754
11. Arai, M. A.; Uchida, K.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "Hedgehog inhibitors from *Artocarpus communis* and *Hypitys suaveolens*" *Bioorg. Med. Chem.* 23, 2015, 4150-4154
12. Arai, M. A.; Akamine, R.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Hedgehog/GLI- mediated transcriptional activity inhibitors from *Crinum asiaticum*" *J. Nat. Med.* 69, 2015, 538-542
13. Shono, T.; Ishikawa, N.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Boehmenan, a lignan, isolated from *Hibiscus ficulneus* showed Wnt signal inhibitory activity" *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 25, 2015, 2735-2738
14. Fuentes, R. G.; *Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Phenolic compounds from the bark of *Oroxylum indicum* identified as Ngn2 promoter activators" *J. Nat. Med.* 69, 2015, 589-594
15. Ohishi, K.; Toume, K.; Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; Mizoguchi, T.; Itoh, M.; *Ishibashi, M. "9-Hydroxycanthin-6-one, a β -carboline alkaloid from *Eurycoma longifolia*, is the first Wnt signal inhibitor through activation of GSK3 β without depending on CK1 α " *J. Nat. Prod.* 2015, 78, 1139-1146
16. Fuentes, R. G.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Scopadulciol, isolated from *Scoparia dulcis*, induces β -catenin degradation and overcomes tumor necrosis factor-related apoptosis ligand resistance in AGS human gastric adenocarcinoma cells" *J. Nat. Prod.* 78, 2015, 864-872
17. Fuentes, R. G.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Limonoids with Wnt signal inhibitory activity isolated from the fruits of *Azadirachta excelsa*" *Phytochem. Lett.* 11, 2015, 280-285
18. Arai, M. A.; Koryudzu, K.; *Ishibashi, M. "Inubosin A, B, and C are new acridine alkaloids isolated from *Streptomyces* sp. IFM 11440 that show Ngn2 promoter activity" *J. Nat. Prod.* 78, 2015, 311-314
19. Toume, K.; Habu, T.; Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "Prenylated flavonoids and resveratrol derivatives isolated from *Artocarpus communis* with the ability to overcome TRAIL resistance" *J. Nat. Prod.* 78, 2015, 103-110
20. Arai, M. A.; Uemura, K.; Hamahiga, N.; Ishikawa, N.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; Kaddar, T.; Carreau, M.; *Ishibashi, M. "Naturally occurring FANCF-Hes1 complex inhibitors from *Wrightia religiosa*" *Med. Chem. Commun.* 6, 2015, 455-460
21. Tahmina, H.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Isolation of alkamides with death receptor-enhancing activities from *Piper chaba*" *Heterocycles.* 90, 2015, 1317-1322
22. Abdelfattah, M. S.; Arai, M. A.; *Ishibashi, M. "Bioactive secondary metabolites with unique aromatic and heterocyclic structures obtained from terrestrial actinomycetes species" *Chem. Pharm. Bull.* 2016, 1;64(7):668-75
23. Ahmed F.; *Ishibashi, M. "Bio-active natural products with TRAIL-resistance overcoming activity" *Chem. Pharm. Bull.* 64, 2016, 119-127
24. Fuentes, R. G.; Arai, M. A.; *Ishibashi, M. "Natural compounds with Wnt signal modulating activity" *Nat. Prod. Rep.* 32, 2015, 1622-1628
25. 石川直樹, "既知ポリアミノ酸が新薬候補に? 薬剤耐性克服作用の発見", *ファルマシア*, 51 (3), 2015, 253
26. Tsukahara, K.; Toume, K.; Ito, H.; Ishikawa, N.; *Ishibashi, M. "Isolation of β -indomycinone guided by cytotoxicity tests from *Streptomyces* sp. IFM11607 and revision of its double bond geometry" *Nat. Prod. Commun.* 9, 2014, 1327-1328
27. Ohishi, K.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; Mizoguchi, T.; Itoh, M.; *Ishibashi, M. "Ricinine: a pyridone alkaloid from *Ricinus communis* that activates the Wnt signaling pathway through casein kinase 1 α " *Bioorg. Med. Chem.* 22, 2014, 4597-4601

28. Toume, K.; Tsukahara, K.; Ito, H.; Arai, M. A.; *Ishibashi, M. "Chromomycins A2 and A3 from marine actinomycete with TRAIL resistance-overcoming activity and Wnt signal inhibitory activity" *Mar. Drugs*. 12, 2014, 3466-3476
 29. Park, H.-Y.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Calotropin: a cardenolide from *Calotropis gigantea* that inhibits Wnt signaling by increasing casein kinase 1 α in colon cancer cells" *ChemBioChem*. 15, 2014, 872-878
 30. Arai, M. A.; Uchida, K.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Physalin H from *Solanum nigrum* as Hh signaling inhibitor blocks GLII-DNA complex formation" *Beil. J. Org. Chem.* 10, 2014, 134-140
 31. Fuentes, R. G.; Toume, K.; Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "Constituents from the rhizomes of *Curcuma comosa* and their Wnt signal inhibitory activity" *Heterocycles*, 88, 2014, 1501-1509
 32. Park, H.-Y.; Toume, K.; Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. " β -sitosterol and flavonoids isolated from *Bauhinia malabarica* found in a screening program for Wnt signal inhibitory activity" *J. Nat. Med.* 68, 2014, 242-245
 33. 當銘一文, "メラニン生成にかかわるウィントシグナルを調節する天然物の探索", フレグランスジャーナル, 42, 2014, 61-70
 34. 當銘一文, 石橋正己, "ウィントシグナル調節を目指した生物活性天然物の探索", 化学と生物, 52, 2014, 731-741
 35. 石橋正己, "がん関連シグナル経路を標的とした植物由来天然物の探索", 化学と生物, 52, 2014, 541-548
 36. 石橋正己, "疾患シグナルに作用する微生物由来天然物の探索", 化学工業, 65, 2014, 276-281
 37. Toume, K.; Kamiya, K.; Arai, M. A.; Mori, N.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Xylogranin B: a potent Wnt signal inhibitory limonoid from *Xylocarpus granatum*" *Org. Lett.* 15, 2013, 6106-6109
 38. Minakawa, T.; Toume, K.; Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "Prenylflavonoids isolated from *Artocarpus champeden* with TRAIL-resistance overcoming activity" *Phytochemistry*. 96, 2013, 299-304
 39. Arai, M. A.; Koryudzu, K.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "Naturally occurring Ngn2 promoter activators from *Butea superba*" *Mol. BioSyst.* 9, 2013, 2489-2497
 40. Arai, M. A.; Fujimatsu, T.; Uchida, K.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Hh signaling inhibitors from *Vitex negundo*, naturally occurring inhibitor of GLII-DNA complex" *Mol. BioSyst.* 9, 2013, 1012-1018
 41. Arai, T.; Yamamoto, Y.; Awata, A.; Kamiya, K.; Ishibashi, M.; *Arai, M. A. "Catalytic asymmetric synthesis of mixed 3,3'-bisindoles and their evaluation as Wnt signaling inhibitors" *Angew. Chem. Int. Ed.* 52, 2013, 2486-2490
 42. 石橋正己, "微生物由来天然物をはじめとするシグナル伝達作用物質の探索に関する研究", *The Japanese Journal of Antibiotics*. 66, 2013, 169-178
 43. Suzuki, T.; Arai, M. A.; Nakashima, M.; Uesugi, M. "Merging chemistry and biology in emerging countries" *Chem. Biol.* 2013, 20, 461-465
 44. Tamai, Y.; Toume, K.; Arai, M. A.; *Ishibashi, M. "Griseoviridin and cyclic hydroxamates found in a screening program for Wnt signal inhibitor" *Heterocycles*. 86, 2012, 1517-1524
 45. Minakawa, T.; Toume, K.; Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "Eudesmane-type sesquiterpenoid and guaianolides from *Kandelia candel* in a screening program for compounds to overcome TRAIL-resistance" *J. Nat. Prod.* 75, 2012, 1431-1435
 46. Toume, K.; Nakazawa, T.; Tahmina, H.; Ohtsuki, T.; Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "Cycloartane triterpenes and ingol diterpenes isolated from *Euphorbia nerifolia* in a screening program for death-receptor expression-enhancing activity" *Planta medica*. 78, 2012, 1370-1377
 47. Abdelfattah, M. S.; Toume, K.; Arai, M. A.; Masu, H.; *Ishibashi, M. "Katorazone, a novel yellow pigment with 2-azaquinone-phenylhydrazone structure produced by *Streptomyces* sp. IFM 11299" *Tetrahedron Lett.* 53, 2012, 3346-3348
 48. Abdelfattah, M. S.; Toume, K.; *Ishibashi, M. "Yoropyrazone, a new naphthopyridazone alkaloid isolated from *Streptomyces* sp. IFM 11307 and evaluation of its TRAIL resistance-overcoming activity" *J. Antibiot.* 65, 2012, 245-248
 49. Yamaguchi, T.; Toume, K.; Arai, M. A.; Ahmed, F.; Sadhu, S. K.; *Ishibashi, M. "Phorbol esters with Wnt signal-augmenting effects isolated from *Excoecaria indica*" *Nat. Prod. Commun.* 7, 2012, 475-477
 50. Koryudzu, K.; Arai, M. A.; Ahmed, F.; Sadhu, S. K.; *Ishibashi, M. "A new resin glycoside from *Ipomoea maxima*" *Nat. Prod. Commun.* 7, 2012, 219-220
 51. Tamai, Y.; Toume, K.; Arai, M. A.; Hayashida, A.; Kato, H.; Shizuri, Y.; Tsukamoto, S.; *Ishibashi, M. "Nonactin and related compounds found in a screening program for Wnt signal inhibitory activity" *Heterocycles* 84, 2012, 1245-1250
 52. Ishibashi, M.; Arai, M. A. "Bioactive natural products from myxomycetes having effects on signaling pathways" *Heterocycles*. 85, 2012, 1299-1332
 53. Abdelfattah, M. S.; Toume, K.; *Ishibashi, M. "New pyranonaphthoquinones and phenazine alkaloid isolated from *Streptomyces* sp. IFM 11307 with TRAIL resistance-overcoming activity" *J. Antibiot.* 64, 2011, 729-734
 54. Rifai, Y.; *Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "Acoschimperoside P, 2'-acetate: a Hedgehog signaling inhibitory constituent from *Vallis glabra*" *J. Nat. Med.* 65, 2011, 629-632
 55. Abdelfattah, M. S.; Toume, K.; *Ishibashi, M. "Izumiphenazine D, new phenazoquinoline N-oxide from *Streptomyces* sp. IFM 11204" *Chem. Pharm. Bull.* 59, 2011, 508-510
 56. Toume, K.; Nakazawa, T.; Ohtsuki, T.; Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "Cycloartane triterpenes isolated from *Combretum quadrangulare* in a screening program for death-receptor expression enhancing activity" *J. Nat. Prod.* 74, 2011, 249-255
 57. Abdelfattah, M. S.; Toume, K.; *Ishibashi, M. "Isolation and structure elucidation of izuminosides A-C: a rare phenazine glycosides from *Streptomyces* sp. IFM 11260" *J. Antibiot.* 64, 2011, 271-275
 58. Ippongi, Y.; Ohtsuki, T.; Toume, K.; Arai, M. A.; Yamamoto, Y.; *Ishibashi, M. "Tubiferic acid, a new 9,10-secocycloartane triterpenoid acid isolated from the myxomycete *Tubulifera arachnoidea*" *Chem. Pharm. Bull.* 59, 2011, 279-281
 59. Arai, M. A.; Tateno, C.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; Kawabe, S.; *Ishibashi, M. "New Hedgehog/GLI-signaling inhibitors from *Adenium obesum*" *Org. Biomol. Chem.* 9, 2011, 1133-1139
 60. Rifai, Y.; *Arai, M. A.; Sadhu, S. K.; Ahmed, F.; *Ishibashi, M. "New Hedgehog/GLI signaling inhibitors from *Excoecaria agallocha*" *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 21, 2011, 718-722
 61. Mori, N.; Toume, K.; Arai, M. A.; Koyano, T.; Kowithayakorn, T.; *Ishibashi, M. "2-Methoxy-1,4-naphthoquinone isolated from *Impatiens balsamina* in a screening program for activity to inhibit Wnt signaling" *J. Nat. Med.* 65, 2011, 234-236
 62. Ahmed, F.; Toume, K.; Ohtsuki, T.; Rahman, M.; Sadhu, S. K.; *Ishibashi, M. "Cryptolepine, isolated from *Sida acuta*, sensitizes human gastric adenocarcinoma cells to TRAIL-induced apoptosis" *Phytotherapy Research*. 25, 2011, 147-150
 63. 荒井緑, "天然物を軸とした神経幹細胞, 癌細胞へのアプローチ", 化学工業, 62, 2011, 21-28
 64. Arai, M. A. "Approaches to Neural Astem Cells and Cancer Cells based on Natural Products" *Chem. Pharm. Bull.* 59, 2011, 417-426
- 【品田哲郎】
1. Y. Yasuno, M. Hamada, M. Kawasaki, K. Shimamoto, Y. Shigeri, T. Akizawa, M. Konishi, Y. Ohfune, *T. Shinada, (7S)-Kaitocephalin as a potent NMDA receptor selective ligand, *Org. Biomol. Chem* 14, .2016, 1206-1210.
 2. Y. Yasuno, Y. Yoshida, A. Nishimura, Y. Ohfune, *T. Shinada, A facile synthesis of (5-siloxymehtl)pyrrolidine-2- carboxylic acid ester, *Heterocycles* 91, 2016,2377-2385.
 3. Y. Yasuno, A. Nishimura, Y. Yasukawa, Y. Karita, Y. Ohfune, *T. Shinada, The stereoselective construction of E- and Z- Δ -Ile from E-dehydroamino

- acid ester: the synthesis of the phomopsin A tripeptide side chain, *Chem. Commun.* 52, 2016, 1478-1481.
- A. Manabe, R. Matsumoto, *T. Shinada, Cyclopropanation of *E*-dehydroaspatic acid esters with furan derivatives: the synthesis of highly functionalized α -2,3-methanoamino acid esters, *Synlett.* 26, 2015, 1710-1714.
 - E. Nishimura, Y. Ohfuné, *T. Shinada, Total synthesis of a monomeric phloroglucinol derivative isolated from *Myrtus Communis*, *Chem. Lett.* 44, 2015, 445-447.
 - M. Ueda, N. Doi, H. Miyagawa, S. Sugita, N. Takeda, T. Shinada, *O. Miyata, Reaction of cyclopropenes with a trichloromethyl radical: unprecedented ring-opening reaction of cyclopropanes with migration, *Chem. Commun.* 51, 2015, 4204-4207.
 - E. Nishimura, Y. Ohfuné, *T. Shinada, Total synthesis and structure elucidation of (\pm)-triumphalone & (\pm)-isotriumphalone, *Tetrahedron Lett.* 56, 2015, 539-541.
 - Y. Totsuka, S. Ueda, T. Kuzuyama, T. Shinada, Facile synthesis of deuterium-labelled geranylgeraniols, *Bull. Chem. Soc. Jpn.* 44, 2015, 575-577.
 - K. Oe, Y. Ohfuné, *T. Shinada, Short total synthesis of (-)-kainic Acid, *Org. Lett.* 2014, 16, 2550-2553.
 - A. Manabe, Y. Ohfuné, *T. Shinada, Toward the total synthesis of tetrodotoxin: stereoselective construction of the 7-oxanorbornane intermediate, *Tetrahedron Lett.* 55, 2014, 6077-6080.
 - K. Maeda, Y. Kuniwa, Y. Ohfuné, S. Ishiguro, K. Suzuki, K. Murata, H. Matsuda, *T. Shinada, Solid phase synthesis of α -amino squaric acid-containing peptides, *RSC Adv.* 4, 2014, 50639-50643.
 - Y. Kawanaka, A. Shimizu, T. Shinada, R. Tanaka, *Y. Teki, Using stable radicals to protect pentacene derivatives from photogradation, *Angew. Chem. Int. Ed.* 52, 2013, 6643-6647.
 - *T. Sato, H. Yamaga, S. Kashima, Y. Murata, T. Shinada, C. Nakano, T. Hoshino, Identification of Novel Sesterterpene/Triterpene Synthase from *Bacillus clausii*, *ChemBioChem* 2013, 822-825.
 - Y. Yasuno, M. Hamada, T. Yamada, *T. Shinada, Y. Ohfuné, Stereoselective synthesis of *E*- α , β -dehydroamino acid esters, *Eur. J. Org. Chem.* 2013, 1884-1888.
 - A. H. Ahmed, M. Hamada, T. Shinada, Y. Ohfuné, L. Weerasinghe, P. P. Garner, *R. E. Oswald, The structure of (-)-kaitocephalin bound to the ligand binding domain of the (S)- α -amino-3-hydroxy-5-methyl-4-isoxazolepropionic acid (AMPA)/glutamate receptor, GluA2, *J. Biol. Chem.* 287, 2012, 41007-41013.
 - T. Okada, A. Shimoda, T. Shinada, *K. Sakaguchi, *Y. Ohfuné, Regioselective Prins cyclization of allenylsilanes: Stereoselective formation of multi-substituted heterocyclic compounds, *Org. Lett.* 2012, 14, 6130-6133.
 - *Y. Ohfuné, K. Oe, K. Namba, T. Shinada, Total synthesis of nanzacidins. An overview perspective, *Heterocycles.* 85, 2012, 2617-2649.
 - *T. Shinada, K. Oe, *Y. Ohfuné, Efficient total synthesis of manzacidin B, *Tetrahedron Lett.* 53, 2012, 3250-3253.
 - K. Nakao, K. Murata, T. Deguchi, K. Itoh, T. Fujita, M. Higashino, Y. Yoshioka, S. Matsumura, R. Tanaka, T. Shinada, Y. Ohfuné, *H. Matsuda, Xanthine oxidase inhibitory activities crystal structures of methoxyflavones from *Kaempferia parviflora* rhizome, *Biol. Pharm. Bull.* 34, 2011, 1143-1146.
 - T. Okada, *K. Sakaguchi, T. Shinada, *Y. Ohfuné, Total Synthesis of (-)-funebrine via Au-catalyzed regio- stereoselective γ -butyrolactonization of allenylsilane, *Tetrahedron Lett.* 52, 2011, 5744-5746.

【渡邊秀典】

- Naoki Mori, Takeshi Kitahara, Kenji Mori, *Hidenori Watanabe, Asymmetric Formal Synthesis of Azadirachtin, *Angewandte Chemie*, 127, 2015, 15133-15136.
- *Ken Ishigami, Shinya Yamada, Hidenori Watanabe, Synthesis of (\pm)-(Z)-2 β -hydroxy-14-hydro- β -santalol employing tandem radical cyclization, *Tetrahedron Letters*, 56, 2015, 5816-5819.
- Ken Ishigami, Masaaki Yamamoto, *Hidenori Watanabe, Synthesis and revision of the relative configuration of glabramycin B, *Tetrahedron Letters*, 56, 2015, 6290-6293.
- *Ken Ishigami, Munetaka Kobayashi, Motoki Takagi, Kazuo Shin-ya, Hidenori Watanabe, Synthesis of marine oxylipin topsentolide A1 and its stereoisomers, and determination of the absolute configuration of the natural product, *Tetrahedron*, 71, 2015, 8436-8443.
- K. Murata, S. Tamogami, M. Itou, Y. Ohkubo, Y. Wakabayashi, H. Watanabe, H. Okamura, Y. Takeuchi, *Y. Mori, Identification of an Olfactory Signal Molecule that Activates the Central Regulator of Reproduction in Goats, *Curr. Biol.*, 24, 2014, 681-686.
- K. Yoshikawa, H. Nakagawa, N. Mori, H. Watanabe, *K. Touhara, An unsaturated aliphatic alcohol as a natural ligand for a mouse odorant receptor, *Nature Chemical Biology*, 2013, 160-162.
- Y. Ogura, K. Ishigami, *H. Watanabe, Total synthesis of (\pm)-lysidicin A, *Tetrahedron*, 68, 2012, 1723-1728.
- H. Kobayashi, Y. Ogura, M. Sawada, R. Nakayama, K. Takano, Y. Minato, Y. Takemoto, E. Tashiro, H. Watanabe, *M. Imoto, Involvement of 14-3-3 Proteins in the Second Epidermal Growth Factor-induced Wave of Rac1 Activation in the Process of Cell Migration, *J. Biol. Chem.* 286, 2011, 39259-39268.
- Y. Kim, H. Watanabe, B.-K. Kim, *Y.-B. Seu, Chemo-biological preparation of the chiral building block (R)-4-acetoxy-2-methyl-1-butanol using *Pseudomonas putida*, *Tetrahedron: Asymmetry*, 22, 2011, 1658-1661.
- D. Oguro, *H. Watanabe, Asymmetric Synthesis and Sensory Evaluation of Sedanenolide, *Biosci. Biotech. Biochem.* 75, 2011, 1502-1505.

【難波康祐】

- Nakayama, A.; Nishio, S.; Otani, A.; Mera, A.; Osawa, A.; Tanino, K.; *Namba, K. Substituent Effect at the C4-Position of 1,3a,6a-Triazapentalene. *Chem. Pharm. Bull.* 64(7), 2016, 830-7
- *Namba, K.; Takeuchi, K.; Kaihara, Y.; Oda, M.; Nakayama, A.; Nakayama, A.; Yoshida, M.; *Tanino K. Total Synthesis of Palau'amine. *Nature Communications* 6, 2015, 8731 (1-9)
- Shibata, M.; Fuchigami, R.; *Namba, K.; *Tanino, K. Acid-Catalyzed [4+3] Cycloaddition Reaction of *N*-Nosyl Pyrroles. *Tetrahedron* 71, 2015, 4495-4499.
- *Namba, K.; Osawa, A.; Nakayama, A.; Mera, A.; Tano, F.; Chuman, Y.; Sakuda, E.; Taketsugu, T.; Sakaguchi, K.; Kitamura, N.; *Tanino, K. Synthesis of Yellow and Red Fluorescent 1,3a,6a-Triazapentalene and Theoretical Investigation of Optical Properties. *Chem. Sci.* 6, 2015, 083-1093.
- Araki, R.; Kousaka, K.; Namba, K.; Murata, Y.; *Murata J. 2'-Deoxymugineic acid promotes growth of rice (*Oryza sativa* L.) by orchestrating iron and nitrate uptake processes under high pH conditions. *Plant. J.* 81, 2015, 233-246
- Murata, Y.*; Itoh, Y.; Iwashita, T.; Namba, K. Transgenic *Petunia* with the Iron(III)-Phytosiderophore Transporter Gene Acquires Tolerance to Iron Deficiency in Alkaline Environments. *PLoS one*, 10(3) 2015, e0120227
- Yoshida, Y.*; Mizuguchi, T.; Namba, K. One-pot synthesis of tri- and tetrasubstituted pyridines by sequential ring-opening-cyclization-oxidation reaction of *N*-arylmethyl 3-aziridinylpropionate esters. *Angew. Chem. Int. Ed.* 53, 2014, 14550-14554
- *Namba, K.; Shobo, Y. Fujimoto, K.; Shoji, I.; *Tanino, K. *N*-Acyl-*N*-tosylhydrazine as a Synthone To Construct Tetrasubstituted Carbon Centers Possessing a Nitrogen Group. *Eur. J. Org. Chem.* 2014, 5196-5203
- *Yoshida, Y.; Kasai, T.; Namba, K. Total synthesis of (-)-HM-3 and (-)-HM-4 utilizing a palladium-catalyzed addition of an arylboronic acid to an allenic alcohol-Eschenmoser-Claisen rearrangement. *Synlett* 25, 2014, 1160-1162
- *Yosida, Y.; Kinoshita, K.; Namba, K. Synthesis of functionalized 2-vinyl-2,3-dihydropyrroles and 3-methylene-1,2,3,4-tetrahydropyridines by palladium-catalyzed cyclization of β -enaminocarbonyl compounds with allylic bisacetates. *Org. Biomol. Chem.* 12, 2014, 2394-2403

11. *Yoshida, M.; Ohno, S.; Namba, K. Synthesis of substituted tetrahydrocyclobuta[b]benzofurans by palladium-catalyzed domino substitution-[2+2] cycloaddition of propargylic carbonates with 2-vinylphenols. *Angew. Chem. Int. Ed.* 52, 2013, 13597-13600
12. Osawa, A.; Mera, A.; *Namba, K.; *Tanino, K. Transformations of 1-(Oxiranylmethyl)-1,2,3-triazoles into 2-(Oxiranylmethyl)-1,2,3-triazoles and Alkanenitriles. *Synlett*, 2013, 207-210
13. *Namba, K.; Mera, A.; Osawa, A.; Sakuda, E.; Kitamura, N.; *Tanino, K. One-pot Synthesis of Highly Fluorescent 2,5-Disubstituted-1,3a,6a-triazapentalene. *Org. Lett.* 14, 2012, 5554-5557
14. *Ohfuné, Y.; Oe, K.; Namba, K.; Shinada, T. Total Synthesis of Manzacidins. An Overview and Perspective. *Heterocycles* 85, 2012, 2617-2649.
15. A Concese [4+3] Cycloadditions of Pyrroles Leading to Tropinone Derivatives. Fuchigami, R.; *Namba, K.; *Tanino, K. *Tetrahedron Lett.* 53, 2012, 5725-5728
16. *Yamamoto, H.; Yamasaki, N.; Yoshidome, S.; Sasaki, I.; Namba, K.; Imagawa, H.; Nishizawa, M. Carbon-Nitrogen Bond Formation Between Allyl Silyl Ether and Hydrazide Promoted by Mercuric Triflate Catalyst. *Synlett*, 2012, 1069-1073
17. *Namba, K.; Kanaki, M.; Suto, H.; Nishizawa, M.; *Tanino, K. Hg(OTf)₂-Catalyzed Vinylogous Semi-Pinacol Rearrangement Leading to 1,4-Dihydroquinolines. *Org. Lett.* 14, 2012, 1222-1225

【市川聡】

1. Nakaya, Takeshi; Matsuda, Akira; *Ichikawa, Satoshi. Design, synthesis and biological evaluation of 5'-C-piperidinyl-5'-O-aminoribosyluridines as a potential antibacterial agent. *Org. Biomol. Chem.* 14, 2015, 7720-7735
2. Chiba, Takuya; Matsuda, Akira; *Ichikawa, Satoshi. Synthesis and biological activity of syringolin A analogues. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 25, 2015, 4872-4877.
3. *Ichikawa, Satoshi.; Yamaguchi, Mayumi; Hsuan, Lee Shang; Kato, Yuta; Matsuda, Akira. Carbaprazamycins: chemically stable analogues of the caprazamycin nucleoside antibiotics. *ACS Infect. Dis.* 1, 2015, 151-156.
4. Yamaguchi, Mayumi; Matsuda, Akira; *Ichikawa, Satoshi. Synthesis of isoxazolidine-containing uridine derivatives as caprazamycin analogues. *Org. Biomol. Chem.* 13, 2014, 1187-1197.
5. Takeoka, Yusuke; Tanino, Tetsuya; Sekiguchi, Mitsuki; Yonezawa, Shuji; Sakagami, Masahiro; Takahashi, Fumiyo; Togame, Hiroko; Tanaka, Yoshikazu; Takemoto, Hiroshi; *Ichikawa, Satoshi.; Matsuda, Akira. Expansion of antibacterial spectrum of muraymycins toward *Pseudomonas aeruginosa*. *ACS Med. Chem. Lett.* 5, 2014, 556-560.
6. Chiba, Takuya; Hosono, Hidetaka; Nakagawa, Koji; Asaka, Masahiro; Takeda, Hiroshi; Matsuda, Akira; *Ichikawa, Satoshi. Total synthesis of syringolin A and its improvement of biological activity. *Angew. Chem. Int. Ed.* 53, 2014, 4836-4839.
7. Katayama, Katsushi; Okamura, Takuya; Sunadome, Takuya; Nakagawa, Koji; Takeda, Hiroshi; Shiro, Motoo; Matsuda, Akira; *Ichikawa, Satoshi. Synthesis and biological evaluation of quinaldopeptin. *J. Org. Chem.* 79, 2014, 2580-2590.
8. Tanino, Tetsuya; Yamaguchi, Mayumi; Matsuda, Akira; *Ichikawa, Satoshi. Function-oriented synthesis of liponucleoside natural products. *Eur. J. Org. Chem.* 2014, 1836-1840.
9. Katayama, Katsushi; Nakagawa, Koji; Takeda, Hiroshi; Matsuda, Akira; *Ichikawa, Satoshi. Total synthesis of sandramycin and its analogues via a multi-component assemblage. *Org. Lett.* 16, 2014, 428-431.
10. Ichikawa, Satoshi.*; Takuya, Okamura, Matsuda, Akira. Total synthesis of quinaldopeptin and its analogues. *J. Org. Chem.* 78, 2013, 12662-12670
11. Ichikawa, Satoshi.*; Tatebayashi, Nana; Matsuda, Akira. Synthesis of C-glycosyl pyrrolo[3,4-c]carbazole-1,3(2H,6H)-diones as a scaffold for check point 1 kinase inhibitors. *J. Org. Chem.* 78, 2013, 12065-12075
12. Ichikawa, Satoshi.*; Ueno, Hideaki; Sunadome, Takuya; Sato, Kousuke; Matsuda, Akira. Tris(azidoethyl)amine hydrochloride; a versatile reagent for synthesis of functionalized dumbbell oligodeoxynucleotides. *Org. Lett.* 15, 2013, 694-697. (Selected as JACS Selected Issue 'Nucleic Acids: Chemistry and Application')
13. Okamoto, Kazuya; Sakagami, Masahiro; Feng, Fei; Fumiyo, Takahashi; Kouichi, Uotani; Togame, Hiroko; Takemoto, Hiroshi; Ichikawa, Satoshi.*; Matsuda Akira. Synthesis of pacidamycin analogue via an Ugi-multicomponent reaction. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 22, 2012, 4810-4815
14. Okamoto, Kazuya; Sakagami, Masahiro; Feng, Fei; Togame, Hiroko; Takemoto, Hiroshi; Ichikawa, Satoshi.*; Matsuda Akira. Total synthesis and biological evaluation of pacidamycin D and its 3'-hydroxy analogue. *J. Org. Chem.* 77, 2012, 1367-1377

【不破春彦】

1. *H. Fuwa, N. Yamagata, Y. Okuaki, Y. Ogata, A. Saito, M. Sasaki, "Total Synthesis and Complete Stereostructure of a Marine Macrolide Glycoside, (–)-Lyngbyalide B," *Chemistry – A European Journal*, 22, 2016. 6815-6829 (Selected as Hot Paper and Front Cover Article)
2. *H. Fuwa, "Contemporary Strategies for the Synthesis of Tetrahydropyran Derivatives: Application to Total Synthesis of Neopeltolide, a Marine Macrolide Natural Product," *Marine Drugs*, 14, 2016, 65 (招待論文)
3. Y. Kawashima, A. Toyoshima, *H. Fuwa, *M. Sasaki, "Toward the Total Synthesis of Amphidinolide N: Synthesis of the C8-C29 Fragment," *Organic Letters*, 18, 2016. 2232-2235
4. R. Isaka, L. Yu, M. Sasaki, Y. Igarashi, *H. Fuwa, "Complete Stereochemical Assignment of Campechic Acids A and B," *The Journal of Organic Chemistry*, 81, 2016. 3638-3647
5. *H. Fuwa, S. Matsukida, T. Miyoshi, Y. Kawashima, T. Saito, *M. Sasaki, "Progress toward the Total Synthesis of Goniopeltolide A: Stereocontrolled, Convergent Synthesis of the C12–C36 Fragment," *The Journal of Organic Chemistry*, 81, 2016. 2213–22278 (Selected as Front Cover Article)
6. J. A. Rubiolo, *C. Vale, V. Martin, H. Fuwa, M. Sasaki, *L. M. Botana, "Potassium Currents Inhibition by Gambierol Analogs Prevents Human T Lymphocyte Activation," *Archives of Toxicology*, 89, 2015. 1119-1134
7. *H. Fuwa, K. Sakamoto, T. Muto, M. Sasaki, "Concise synthesis of the C15–C38 fragment of okadaic acid, a specific inhibitor of protein phosphatases 1 and 2A," *Tetrahedron*, 71, 2015. 6369–6383 (招待論文)
8. *K. Konoki, Y. Suga, H. Fuwa, M. Yotsu-Yamashita, *M. Sasaki, "Evaluation of gambierol and its analogs for their inhibition of human Kv1.2 and cytotoxicity," *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters*, 25, 2015. 514–518
9. *H. Fuwa, K. Sakamoto, T. Muto, M. Sasaki, "Concise Synthesis of the C15–C38 Fragment of Okadaic Acid: Application of the Suzuki–Miyaura Reaction to Spiroacetal Synthesis," *Organic Letters*, 17, 2015. 366–369
10. *H. Fuwa, Y. Okuaki, N. Yamagata, M. Sasaki, "Total Synthesis, Stereochemical Reassignment, and Biological Evaluation of (–)-Lyngbyalide B," *Angewandte Chemie, International Edition*, 54, 2015. 868–873
11. *M. Sasaki, Y. Kawashima, H. Fuwa, "Studies toward the Total Synthesis of Amphidinolide N: Stereocontrolled Synthesis of the C13–C29 Segment," *Heterocycles*, 90, 2015. 579–599 (招待論文)
12. *H. Fuwa, M. Sato, M. Sasaki, "Programmed Cell Death Induced by (–)-8,9-Dehydroneopeltolide in Human Promyelocytic Leukemia HL-60 Cells under Energy Stress Conditions," *Marine Drugs*, 12, 2014. 5576–5589
13. *M. Sasaki, H. Fuwa, "Total Synthesis and Complete Structural Assignment of Gambieric Acid A, a Large Polycyclic Ether Marine Natural Product," *The Chemical Records*, 14, 2014. 678–703 (招待論文)
14. *H. Fuwa, T. Noguchi, M. Kawakami, M. Sasaki, "Synthesis and biological evaluation of (+)-neopeltolide analogues: Importance of the oxazole-containing side chain," *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters*, 24, 2014. 2415–2519
15. Y. Suga, *H. Fuwa, M. Sasaki, "Stereoselective Synthesis of Medium-Sized Cyclic Ethers: Application of C-Glycosylation Chemistry to Seven- to Nine-Membered Lactone-Derived Thioacetals and Their Sulfone Counterparts," *The Journal of Organic Chemistry*, 79, 2014. 1656–1682

16. *[H. Fuwa](#), T. Muto, K. Sekine, M. Sasaki, "Total Synthesis and Structure Revision of Didemnaketal B," *Chemistry – A European Journal*, 20, 2014. 1848–1860 (featured on frontispiece)
17. *[H. Fuwa](#), K. Noto, M. Kawakami, M. Sasaki, "Synthesis and Biological Evaluation of Aspergillide A/Neopeltolide Chimeras," *Chemistry Letters*, 42, 2013. 1020–1022
18. *[H. Fuwa](#), K. Sekine, M. Sasaki, "Total Synthesis of the Proposed Structure of Didemnaketal B," *Organic Letters*, 15, 2013. 3970–3973
19. *[H. Fuwa](#), M. Kawakami, K. Noto, T. Muto, Y. Suga, K. Konoki, M. Yotsu-Yamashita, M. Sasaki, "Concise Synthesis and Biological Assessment of (+)-Neopeltolide and a 16-Member Stereoisomer Library of 8,9-Dehydroneopeltolide: Identification of Pharmacophoric Elements," *Chemistry – A European Journal*, 19, 2013. 8100–8110
20. *[H. Fuwa](#), K. Mizunuma, M. Sasaki, T. Suzuki, H. Kubo, "Total synthesis and biological evaluation of (–)-exigolide analogues: Importance of the macrocyclic backbone," *Organic & Biomolecular Chemistry*, 11, 2013. 3442–3450 (Selected as Inside Front Cover Article)
21. K. Ishigai, *[H. Fuwa](#), K. Hashizume, R. Fukawaza, Y. Cho, M. Yotsu-Yamashita, *M. Sasaki, "Total Synthesis and Biological Evaluation of (+)-Gambieric Acid A and Its Analogues," *Chemistry – A European Journal*, 19, 2013. 5276–5288 (Selected as Very Important Paper and Front Cover Article)
22. *[H. Fuwa](#), N. Yamagata, A. Saito, M. Sasaki, "Total Synthesis of 13-Demethyllyngbyaloid B," *Organic Letters*, 15, 2013. 1630–1633
23. *[H. Fuwa](#), K. Hirota, *M. Sasaki, "A concise synthesis of the AB-ring fragment of (–)-gambierol," *Heterocycles*, 86, 2012. 127–132 (招待論文)
24. *[H. Fuwa](#), T. Noguchi, K. Noto, M. Sasaki, "Tandem catalysis in domino olefin cross-metathesis/intramolecular oxa-conjugate cyclization: Concise synthesis of 2,6-*cis*-substituted tetrahydropyran derivatives," *Organic & Biomolecular Chemistry*, 10, 2012. 8108–8112
25. M. Nakajima, *[H. Fuwa](#), *M. Sasaki, "Stereoselective Synthesis of the C1–C16 Fragment of Goniopodol A," *Bulletin of the Chemical Society of Japan*, 85, 2012. 948–956
26. S. Pérez, C. Vale, E. Alonso, [H. Fuwa](#), M. Sasaki, Y. Konno, T. Goto, Y. Suga, M. R. Vieytes, *L. M. Botana, "Effect of Gambierol and Its Tetracyclic and Heptacyclic Analogues in Cultured Cerebellar Neurons: A Structure–Activity Relationships Study," *Chemical Research in Toxicology*, 25, 2012. 1929–1937
27. *[H. Fuwa](#), K. Ishigai, K. Hashizume, *M. Sasaki, "Total Synthesis and Complete Stereostructure of Gambieric Acid A," *Journal of the American Chemical Society*, 134, 2012. 11984–11987
28. E. Alonso, [H. Fuwa](#), C. Vale, Y. Suga, T. Goto, Y. Konno, M. Sasaki, F. M. Laferla, M. R. Vieytes, L. Giménez-Llort, *L. M. Botana, "Design and Synthesis of Skeletal Analogues of Gambierol: Attenuation of Amyloid- β and Tau Pathology with Voltage-Gated Potassium Channel and *N*-Methyl-D-Aspartate Receptor Implications," *Journal of the American Chemical Society*, 134, 2012. 7467–7479
29. *eterocycles*, 85, 2012. 1255–1298 (招待論文)
30. *[H. Fuwa](#), N. Ichinokawa, K. Noto, M. Sasaki, "Stereoselective Synthesis of 2,6-*cis*-Substituted Tetrahydropyrans: Brønsted Acid-Catalyzed Intramolecular Oxa-Conjugate Cyclization of α , β -Unsaturated Ester Surrogates," *The Journal of Organic Chemistry*, 77, 2012. 2588–2607 (Front Cover Article)

【繁森英幸】

1. R. Takase, T. Hasegawa, K. Yamada, [K. Hasegawa](#) and *[H. Shigemori](#), "Sesinoside, a new iridoid glucoside from sesame (*Sesamum indicum*) seedlings", *Nat. Prod. Commun.* 9, 2014. 1539-1540
2. Moehninsi, K. Miura, K. Yamada, and *[H. Shigemori](#), "Raphanusanin-mediated resistance to pathogens is light dependent in radish and *Arabidopsis thaliana*", *Planta*, 240, 2014, 513-524
3. T. Arai, Y. Toda, K. Kato, M. Miyamoto, T. Hasegawa, K. Yamada, J. Ueda, [K. Hasegawa](#), T. Inoue, and *[H. Shigemori](#), "Artabolide, a novel polar auxin transport inhibitor isolated from *Artemisia absinthium*", *Tetrahedron*, 69, 2013. 7001-7005
4. *J. Ueda, Y. Toda, K. Kato, Y. Kuroda, T. Arai, T. Hasegawa, [H. Shigemori](#), [K. Hasegawa](#), J. Kitagawa, K. Miyamoto, and E. Uheda, "Identification of dehydrocostus lactone and 4-hydroxy- β -thujone as auxin polar transport inhibitors", *Acta Physiol. Plant.*, 35, 2013. 2251-2258

【河岸洋和】

1. Ma, G., Zhang, L., Yamawaki, K., Yahata, M., Choi, J-H., [Kawagishi, H.](#), and Kato, M., Fairy chemicals, AHX and AOH, regulate carotenoid accumulation in citrus juice sacs in vitro, *J. Agric. Food Chem.*, 63, 2015. 7230-7235
2. Kobori, H., Sekiya, A., Suzuki, T., Choi, J-H., Hirai, H., and *[Kawagishi, H.](#), Bioactive sesquiterpene aryl esters from the culture broth of *Armillaria* sp., *J. Nat. Prod.*, 78(1), 2015. 163-167
3. Asai, T., Choi, J-H., Ikka, T., Fushimi, K., Abe, N., Tanaka, H., Yamakawa, Y., Kobori, H., Kiriwa, Y., Motohashi, R., Deo, V. P., Asakawa, T., Kan, T., Morita, A. and *[Kawagishi, H.](#), Effect of 2-azahypoxanthine (AHX) produced by the fairy-ring-forming fungus on the growth and the grain yield of rice, *Jpn. Agric. Res. Quart.*, 49(1), 2015. 45-49
4. Yamamoto, N., Suzuki, T., Kobayashi, M., Dohra, H., Sasaki, Y., Hirai, H., Yokoyama, K., *[Kawagishi, H.](#), and *Yano, K., A-WINGS: an integrated genome database for *Pleurocybella porrigens* (Angel's wing oyster mushroom, Sugihiratake), *BMC Res. Notes*, 7, 2014. 866
5. Ikeuchi, K., Fujii, R., Sugiyama, S., Asakawa, T., Inai, M., Hamashima, Y., Choi, J-H., Suzuki, T., *[Kawagishi, H.](#), and *Kan, T., Practical synthesis of natural plant-growth regulator 2-azahypoxanthine, its derivatives, and biotin-labeled probes, *Org. Biomol. Chem.*, 12, 2014.3813-3815
6. Tobina, H., Choi, J-H., Asai, T., Kiriwa, Y., Asakawa, T., Kan, T., Morita, A. and *[Kawagishi, H.](#), 2-Azahypoxanthine and Imidazole-4-carboxamide produced by the fairy-ring-forming fungus increase yields of wheat, *Field Crop Res.*, 162, 2014. 6-11
7. Choi, J-H., Ohnishi, T., Yamakawa, Y., Takeda, S., Sekiguchi, S., Maruyama, W., Yamashita, K., Suzuki, T., Morita, A., Ikka, T., Motohashi, R., Kiriwa, Y., Tobina, H., Asai, T., Tokuyama, S., Hirai, H., Yasuda, N., Noguchi, K., Asakawa, T., Sugiyama, S., Kan, T. and *[Kawagishi, H.](#), The source of "fairy rings": 2-azahypoxanthine and its metabolite found in a novel purine metabolic pathway in plants, *Angew. Chem. Int. Ed.*, 53(6), 2014. 1552-1555
8. Suzuki, T., Igarashi, K., Dohra, H., Someya, T., Takano, T., Harada, K., Omae, S., Hirai, H., *Yano, K., and *[Kawagishi, H.](#), A new omics data resource of *Pleurocybella porrigens* for gene discovery, *PLoS ONE*, 8, 2013. e69681
9. Kobori, H., Sekiya, A., Yasuda, N., Noguchi, K., Suzuki, T., Choi, J-H., Hirai, H., and *[Kawagishi, H.](#), Armillariols A to C from the culture broth of *Armillaria* sp., *Tetrahedron Lett.*, 54, 2013. 5481-5483
10. Suzuki, T., Dohra, H., Omae, S., Takeshima, Y., Choi, J-H., Hirai, H. and *[Kawagishi, H.](#), Heterologous expression of a lectin from *Pleurocybella porrigens* (PPL) in *Phanerochaete sordida* YK-624, *J. Microbiol. Meth.*, 100, 2013. 70–76
11. Fushimi, K., Anzai, K., Tokuyama, S., Kiriwa, Y., Matsumoto, N., Sekiya, A., Hashizume, D., Nagasawa, K., Hirai, H., and *[Kawagishi, H.](#), Agrocybynes A to E from the culture broth of *Agrocybe praecox*, *Tetrahedron*, 68, 2012. 1262-1265

【小鹿一】

1. Horikawa, K., Yagyū, T., Yoshioka, Y., Fujiwara, T., Kanamoto, K., Okamoto, T., *Ojika, M. Petrosiols A-E, neurotrophic diene tetraols isolated from the Okinawan sponge *Petrosia strongylata*, *Tetrahedron*, 69, 2013, 101-106.

【西村慎一】

1. Espiritu, R. A., Cornelio, K., Kinoshita, M., Matsumori, N., Murata, M., [Nishimura, S.](#), Kakeya, H., Yoshida, M. & Matsunaga, S. Marine sponge cyclic peptide theonellamide A disrupts lipid bilayer integrity without forming distinct membrane pores. *Biochim. Biophys. Acta* 1858, 2016.

1373-1379.

2. Yoshimura, A., Nishimura, S., Otsuka, S., Hattori, A. & Kakeya, H. Structure elucidation of verucopeptin, a potent HIF-1 inhibitory polyketide-hexapeptide hybrid metabolite from an actinomycete. *Org. Lett.* 17, 2015, 5364-5367
3. Lu, S., Nishimura, S., Hirai, G., Ito, M., Kawahara, T., Izumikawa, M., Sodeoka, M., Shin-ya, K., Tsuchida, T. & Kakeya, H. Saccharothriolides A-C, novel phenyl-substituted 10-membered macrolides isolated from a rare actinomycete *Saccharothrix* sp. *Chem. Commun.* 51, 2015. 8074-8077
4. Sugiyama, R., Nishimura, S., Ozaki, T., Asamizu, S., Onaka, H. & *Kakeya, H. 5-Alkyl-1,2,3,4-tetrahydroquinolines, new membrane-interacting lipophilic metabolites, produced by combined culture of *Streptomyces nigrescens* and *Tsakumurella pulmonis*. *Org. Lett.* 17, 2015. 1918-1921
5. Nishimura, S., Tokukura, M., Ochi, J., Yoshida, M. & *Kakeya H. Balance of exocytosis and endocytosis determines the efficiency of sterol-targeting antibiotics. *Chem. Biol.* 21, 2014. 1690-1699(プレスリリース)
6. Sugiyama, R., Nishimura, S., Matsumori, N., Tsunematsu, Y., Hattori, A. & *Kakeya, H. Structure and biological activity of 8-deoxyheronamide C from a marine-derived *Streptomyces* sp.: heronamides target saturated hydrocarbon chains in lipid membranes. *J. Am. Chem. Soc.* 136, 2014. 5209-5212(プレスリリース)
7. Fustin, J.M., Doi, M., Yamaguchi, Y., Hida, H., Nishimura, S., Yoshida, M., Isagawa, T., Morioka, M.S., Kakeya, H., Manabe, I., Okamura, H. RNA methylation shows its mettle: m6A-dependent RNA processing modulates the speed of the circadian clock. *Cell* 155, 2013. 793-806
8. Nishimura, S., Ishii, K., Iwamoto, K., Matsunaga, S., Ohno-Iwashita, Y., Sato, S. B., Kakeya, H., Kobayashi, T. & *Yoshida, M. Visualization of cholesterol-rich membrane domains with fluorescently-labeled theonellamides. *PLoS ONE* 8, 2013. e83716
9. Sakanishi, K., Itoh, S., Sugiyama, R., Nishimura, S., Kakeya, H., Iwabuchi, Y. & Kanoh, N. Total synthesis of the proposed structure of heronamide C. *Eur. J. Org. Chem.* 7, 2014. 1376-1380
10. Espiritu, R. A., Matsumori, N., Murata, M., Nishimura, S., Kakeya, H., Matsunaga, S. & Yoshida, M. Interaction between the marine sponge cyclic peptide theonellamide A and sterols in lipid bilayers as viewed by surface plasmon resonance and solid state 2H NMR. *Biochemistry* 52, 2013. 2410-2418
11. Sugiyama, R., Nishimura, S. & *Kakeya, H. Stereochemical reassignment of heronamide A, a polyketide macrolactam from *Streptomyces* sp. *Tetrahedron Lett.* 54, 2013. 1531-1533

【田中克典】

1. Tsutsui, A. R. Pradipta, E. Saigitbatalova, A. Kurbangaliev, *K. Tanaka, Exclusive Formation of Imino [4+4] cycloaddition Products with Biologically Relevant Amines: Plausible Candidates for Acrolein Biomarkers and Biofunctional Modulators, *Med. Chem. Commun.*, 6, 2015, 431-436
2. M. Takamatsu, K. Fukase, A. Kurbangaliev, *K. Tanaka, Imino [4+4] cycloaddition products as exclusive and biologically relevant acrolein-amine conjugates are intermediates of 3-formyl-3,4-dehydropiperidine (FDP), an acrolein biomarker, *Bioorg. Med. Chem.*, 22, 2014, 6380-6386,
3. A. Ogura, A. Kurbangaliev, *K. Tanaka, In Vivo Kinetics and Biodistribution Analysis of Neoglycoproteins: Effects of Chemically Introduced Glycans on Proteins, *Glycoconj. J.*, 2014.
4. K. Tsubokura, T. Iwata, M. Taichi, A. Kurbangaliev, K. Fukase, Y. Nakao, *K. Tanaka, Direct Guanylation of Amino Groups by Cyanamide in Water: Catalytic Generation and Activation of Unsaturated Carbodiimide by Sc(OTf)₃, *Synlett*, 25(09), 2014, 1302-1306
5. *K. Tanaka, R. Matsumoto, A. R. Pradipta, Y. Kitagawa, M. Okumura, Y. Manabe, K. Fukase, Facile Preparation of 1,5-Diazacyclooctanes from Unsaturated Imines: Effects of the Hydroxyl Groups on [4+4] Dimerization, *Synlett*, 2014, 1026-1030
6. Y. Uchinashi, K. Tanaka, Y. Manabe, Y. Fujimoto, *K. Fukase, Practical and efficient method for α -sialylation with an azide sialyl donor using a microreactor, *J. Carbohydr. Chem.*, 33, 2014, 55-67, DOI: 10.1080/07328303.2014.880116
7. *K. Tanaka, M. Kitadani, A. Tsutsui, A. R. Pradipta, R. Imamaki, S. Kitazume, N. Taniguchi, K. Fukase, A cascading reaction sequence involving ligand-directed azaelectrocyclization and autooxidation-induced fluorescence recovery enables visualization of target proteins on the surfaces of live cells, *Org. Biomol. Chem.*, 12, 2014, 1412-1418
8. *K. Tanaka, Y. Nakamoto, E. R. O. Siwu, A. R. Pradipta, K. Morimoto, T. Fujiwara, S. Yoshida, T. Hosoya, Y. Tamura, G. Hirai, M. Sodeoka, K. Fukase, Development of Bis-unsaturated Ester Aldehydes as Amino-glue Probes: Sequential Double Azaelectrocyclization as Promising Strategy for Bioconjugation, *Org. Biomol. Chem.*, 11, 2013, 7326-7333
9. A. Tsutsui, *K. Tanaka, 2,6,9-Triazabicyclo[3.3.1]nonanes as Overlooked Amino-modification Products by Acrolein, *Org. Biomol. Chem.*, 11, 2013, 7208-7211
10. K. Mazumder, *K. Tanaka, K. Fukase, Cytotoxic Activity of Ursolic Acid Derivatives Obtained by Isolation and Oxidative Derivatization, *Molecules*, 18, 2013, 8929-8944,
11. A. R. Pradipta, *K. Tanaka, Synthesis of 3,7,9- and 2,6,9- Triazabicyclo[3.3.1]nonane Derivatives, *Heterocycles*, 87, (2013), 2001-2014, DOI:10.1002/chin.201352230
12. *K. Tanaka, T. Tahara, S. Nozaki, H. Onoe, Y. Watanabe, K. Fukase, Conformationally Fixed Analog of Peptide Mimic of Grb2-SH2 Domain: Synthesis and Evaluation Against A431 Cancer Cell, *Mol. Biosyst.*, 9, 2013, 1019-1025
13. *K. Tanaka, K. Moriwaki, S. Yokoi, K. Koyama, E. Miyoshi, K. Fukase, Whole-Body Imaging of Tumor Cells by Azaelectrocyclization: Visualization of Metastasis Dependence on Glycan Structure, *Bioorg. Med. Chem.*, 21, 2013, 1074-1077
14. *K. Tanaka, E. R. O. Siwu, S. Hirosaki, T. Iwata, R. Matsumoto, Y. Kitagawa, A. R. Pradipta, M. Okumura, K. Fukase, Efficient Synthesis of 2,6,9-Triazabicyclo[3.3.1]nonanes through Amine-Mediated Formal [4+4] Reaction of Unsaturated Imines, *Tetrahedron Lett.*, 53, 2012, 5899-5902,
15. K. Fukase, *K. Tanaka, Bio-Imaging and Cancer Targeting with Glycoproteins and N-Glycans, *Curr. Opin. Chem. Biol.*, 16, 2012, 614-621
16. *K. Tanaka, Development of Azaelectrocyclization-Based Labeling and Application to Noninvasive Imaging and Targeting Using N-Glycan Derivatives -In pursuit of N-Glycan Functions on Proteins, Dendrimers, and Living Cells-, *Trends in Glycoscience and Glycotechnology*, 2012, 24, 2012. 47-64, DOI:10.4052/tigg.24.47
17. *K. Tanaka, S. Shirotaki, C. Kageyama, T. Tahara, S. Nozaki, E. R. O. Siwu, T. Iwata, S. Tamura, S. Douke, N. Murakami, H. Onoe, Y. Watanabe, *K. Fukase, Template-Assisted and Self-Activating Clicked Peptide as a Synthetic Mimic of the SH2 Domain, *ACS Chem. Biol.*, 7, 2012, 637-645
18. *K. Tanaka, S. Yokoi, K. Morimoto, T. Iwata, Y. Nakamoto, K. Nakayama, K. Koyama, T. Fujiwara, *K. Fukase, Cell Surface Biotinylation by Azaelectrocyclization: Easy-Handling and Versatile Approach for Living Cell Labeling, *Bioorg. Med. Chem.*, 20, 2012, 1865-1868
19. *K. Tanaka, K. Mazumder, E. R. O. Siwu, S. Nozaki, Y. Watanabe, *K. Fukase, Auxiliary-Directed Oxidation of Ursolic Acid by "Ru"-Porphyrins: Chemical Modulation of Cytotoxicity against Tumor Cell Lines, *Tetrahedron Lett.*, 53, 2012, 1756-1759
20. *K. Tanaka, S. Katsumura, K. Fukase, Discovery and application of 6 π -Azaelectrocyclization to natural product synthesis & synthetic biology, *Sci. China Chem.*, 55, 2012, 19-30
21. T. Kobayashi, F. Hasegawa, Y. Hirose, K. Tanaka, H. Mori, *S. Katsumura, Stereocontrolled Synthesis of Substituted Chiral Piperidines via One-Pot Asymmetric 6 π -Azaelectrocyclization: Asymmetric Syntheses of (-)-Dendroprimine, (+)-7-Epidendroprimine, (+)-5-Epidendroprimine, and (+)-5,7-Epidendroprimine, *J. Org. Chem.*, 77, 2012, 1812-1832
22. K. Tanaka, Effects on Glycan Heterogeneity on Microarray and Dendrimer, *Trends in Glycoscience and Glycotechnology*, 131, 2011, 155-157

【戸嶋一教】

- M. Okuyama, H. Ueno, Y. Kobayashi, H. Kawagishi, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Target-selective photo-degradation of AFP-L3 and selective photo-cytotoxicity against HuH-7 hepatocarcinoma cells using an anthraquinone-PhoSL hybrid, *Chemical Communications*, 52, 2169-2172, 2016.
- T. Kimura, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Glycosylation of glycals using N-iodosuccinimide (NIS) and phosphorus compounds for syntheses of 2-iodo- and 2-deoxyglycosides, *Journal of Organic Chemistry*, 80, 2015. 9552-9562
- A. Kasai, S. Arafuka, N. Koshiba, [*D. Takahashi](#), [*K. Toshima](#), Systematic synthesis of low-molecular weight fucoidan derivatives and their effect on cancer cells, *Organic & Biomolecular Chemistry*, 13, 2015. 10556-10568
- M. Aoyagi, T. Kimura, A. Ohba, Y. Katayama, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), One-pot transformation of N-succinyl chitosan to nitrogen-containing alkyl glycosides using an ionic liquid containing a protic acid, *Chemistry Letters*, 44, 2015. 1467-1469
- A. Nakagawa, M. Tanaka, S. Hanamura, [*D. Takahashi](#), [*K. Toshima](#), Regioselective and 1,2-cis- α -stereoselective glycosylation utilizing glycosyl-acceptor-derived boronic ester catalyst, *Angewandte Chemie, International Edition*, 54, 2015. 10935-10939
- [*K. Toshima](#), D. Takahashi, Chemical approach for target-selective degradation of oligosaccharides using photoactivatable organic molecules, *Glycoconjugate Journal*, 32, 2015. 475-482
- [*Y. Katayama](#), Y. Oshino, N. Ichihashi, N. Tachikawa, Y. Kazuki, [K. Toshima](#), Electrochemical preparation of palladium nanoparticles in bis(trifluoromethylsulfonyl)amide ionic liquids consisting of pyrrolidinium cations with different alkyl chain lengths, *Electrochimica Acta*, 183, 2015. 37-41
- K. Yoshii, Y. Oshino, N. Tachikawa, [K. Toshima](#), [*Y. Katayama](#), Electrodeposition of palladium from palladium(II) acetylacetonate in an amide-type ionic liquid, *Electrochemistry Communications*, 52, 2015. 21-24
- K. Sato, Y. Oaki, D. Takahashi, [K. Toshima](#), [*H. Imai](#), Hierarchical CaCO₃ chromatography: A stationary phase based on biominerals, *Chemistry-A European Journal*, 21, 2015. 5034-5040
- H. Ikeda, E. Kaneko, S. Okuzawa, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Chemical and biological evaluation of unusual sugars, alpha-aculosides, as novel Michael acceptor, *Organic & Biomolecular Chemistry*, 12, 2014. 8832-8835
- D. Kuwahara, T. Hasumi, H. Kaneko, M. Unno, [*D. Takahashi](#), [*K. Toshima](#), A solid-phase affinity labeling method for target-selective isolation and modification of proteins, *Chemical Communications*, 50, 2014. 15601-15604
- S. Arafuka, N. Koshiba, [*D. Takahashi](#), [*K. Toshima](#), Systematic synthesis of sulfated oligofucosides and their effect on breast cancer MCF-7 cells, *Chemical Communications*, 50, 2014. 9831-9834.
- R. Iwata, K. Uda, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Photo-induced glycosylation using reusable organophotoacids, *Chemical Communications*, 50, 2014. 10698
- A. Hirabayashi, Y. Shindo, K. Oka, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Photodegradation of amyloid β and reduction of its cytotoxicity to PC12 cells using porphyrin derivatives, *Chemical Communications*, 50, 2014. 546
- [*Y. Katayama](#), T. Endo, T. Miura, [K. Toshima](#), Electrodeposition of gold in an amide-type ionic liquid, *Journal of The Electrochemical Society*, 161, 2014. D87-D91
- S. Kusumi, S. Tomono, S. Okuzawa, E. Kaneko, T. Ueda, K. Sasaki, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Total synthesis of vineomycin B2, *Journal of the American Chemical Society*, 135, 2013. 15909-15912
- T. Kimura, M. Sekine, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Chiral brønsted acid-mediated glycosylation with recognition of alcohol chirality, *Angewandte Chemie International Edition*, 52, 2013. 12131-12134
- H. Ueno, T. Iwata, N. Koshiba, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Design, synthesis and evaluation of a boronic acid based artificial receptor for L-DOPA in aqueous media, *Chemical Communications*, 49, 2013. 10403-10405
- M. Sekine, T. Kimura, Y. Katayama, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), The direct and one-pot transformation of xylan into the biodegradable surfactants, alkyl xyloides, is aided by an ionic liquid, *RSC Advances*, 3, 2013. 19756-19759
- M. Nakanishi, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Light-induced O-glycosylation of unprotected deoxythioglycosyl donors, *Organic & Biomolecular Chemistry*, 11, 2013. 5079-5082
- [*Y. Katayama](#), T. Endo, T. Miura, [K. Toshima](#), Electrode reactions of platinum bromide complexes in an amide-type ionic liquid, *Journal of The Electrochemical Society*, 160, 2013. D423-D427
- A. Okochi, S. Tanimoto, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Target-selective photo-degradation of verotoxin-1 and reduction of its cytotoxicity to Vero cells using porphyrin-globotriose hybrids, *Chemical Communications*, 49, 2013. 6027-6029
- Takada, K. Uda, T. Ohtani, S. Tsukamoto, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Improved total synthesis of incednam, *The Journal of Antibiotics*, 66, 2013. 155-159
- Y. Aoki, S. Tanimoto, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Photodegradation and inhibition of drug-resistant influenza virus neuraminidase using anthraquinone-sialic acid hybrids, *Chemical Communications*, 49, 2013. 1169-1171
- [*K. Toshima](#), Chemical biology based on target-selective degradation of proteins and carbohydrates using light-activatable organic molecules, *Molecular BioSystems*, 9, 2013. 834-854
- M. Nishibu, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Carbohydrate recognition and photodegradation by an anthracene-Kemp's acid hybrid, *Organic & Biomolecular Chemistry*, 10, 2012. 8393-8395
- D. Takahashi, T. Miura, [*K. Toshima](#), Photodegradation of lipopolysaccharides and the inhibition of macrophage activation by anthraquinone-boronic acid hybrids, *Chemical Communications*, 48, 2012. 7595-7597
- S. Tanimoto, S. Sakai, E. Kudo, S. Okada, S. Matsumura, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Target-selective photodegradation of HIV-1 protease and inhibition of HIV-1 replication in living cells by designed fullerene-sugar hybrids, *Chemistry-An Asian Journal*, 7, 2012. 911-914
- Y. Imai, S. Hirono, H. Matsuba, T. Suzuki, Y. Kobayashi, H. Kawagishi, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Degradation of target oligosaccharides by anthraquinone-lectin hybrids with light switching, *Chemistry-An Asian Journal*, 7, 2012. 97-104
- [*D. Takahashi](#), [*K. Toshima](#), Chemistry based approach for degradation of target-oligosaccharides using photo-activatable organic small molecules, *Trends in Glycoscience and Glycotechnology*, 24, 2012. 258-276
- [*K. Toshima](#), D. Takahashi, S. Tanimoto, Creation of novel biofunctional molecules for target-selective photodegradation of proteins and carbohydrates: a synthetic and chemical, biological study for the post-genome era, *Journal of Synthetic Organic Chemistry*, 70, 2012. 1187-1195
- [*K. Toshima](#), Design, synthesis and evaluation of light-activatable organic molecules that target-selectively degrade DNA, proteins and carbohydrates; an interdisciplinary challenge for a synthetic organic chemist, *Synlett*, 23, 2012. 2025-2052
- S. Tanimoto, D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Chemical methods for degradation of target proteins using designed light-activatable organic molecules, *Chemical Communications*, 48, 2012. 7659-7671
- D. Takahashi, [*K. Toshima](#), Chemical methods for degradation of target oligosaccharides using designed light-activatable organic molecules, *Chemical Communications*, 48, 2012. 4397-4407

【細川誠二郎】

- Kuniaki Tatsuta and [Seiji Hosokawa](#), Total synthesis of hibarimicinone, a v-Src tyrosine kinase inhibitor possessing the pseudo-dimer structure of tetracycline, *The Chemical Record*, 14 (1), 2014. 28-40
- Tatsuya Nakamura, Mio Harachi, Takaaki Kano, Yuki Mukaeda, and [Seiji Hosokawa](#), Concise Synthesis of Reduced Propionates by Stereoselective Reduction Combined with the Kobayashi Reactions, *Organic Letters*, 15 (12), 2013. 3170-3173
- Hiroyuki Tsukada, Yuki Mukaeda, and [Seiji Hosokawa](#), Syn-selective Kobayashi aldol reaction using acetals, *Organic Letters*, 15 (3), 2013. 678-

- Yuki Mukaeda, Takuya Kato, and Seijiro Hosokawa. *Syn*-selective Kobayashi aldol reaction using the *E,E*-vinylketene *N,O*-acetal, *Organic Letters*, 14 (20), 2012, 5298-5301
- Mayumi Okamoto*, Shun Kobayashi, Hiroshi Ikeuchi, Shunji Yamada, Korehito Yamanouchi, Shun Maekawa, Takashi Kato, Isao Shimizu*. Synthesis and bioassay of a boron-dipyrromethene derivative of estradiol for fluorescence imaging *in vivo*. *Steroids*, 77, 2012, 845-849

【平井剛】

- Xiaoying Sun, Go Hirai, Masashi Ueki, Hiroshi Hirota, Qianqian Wang, Yayoi Hongo, Takemichi Nakamura, Yuki Hitora, Hidekazu Takahashi, Mikiko Sodeoka, Hiroyuki Osada, Makiko Hamamoto, *Minoru Yoshida, *Yoko Yashiroda, "Identification of novel secreted fatty acids that regulate nitrogen catabolite repression in fission yeast", *Sci. Rep.* 6, 2016, 20856.
- Eisuke Ota, Yu Mikame, *Go Hirai, Hiroyuki Koshino, Shigeru Nishiyama, *Mikiko Sodeoka, "Photo-induced formation of cyclopropanols from α -ketoamides via γ -C-H bond activation", *Tetrahedron Lett.* 56, 2015, 5991-5994
- *Go Hirai, Eri Nishizawa, Daiki Kakumoto, Masaki Morita, Mitsuaki Okada, Daisuke Hashizume, Sayoko Nagashima, *Mikiko Sodeoka, "Reactions of Carbonyl Compounds with Phosphorus Ylide Generated from Tribromofluoromethane and Tris(dimethylamino)phosphine", *Chem. Lett.* 44, 2015, 1389-1391
- Shan Lu, Shinichi Nishimura, Go Hirai, Masashi Ito, Teppei Kawahara, Miho Izumikawa, Mikiko Sodeoka, Kazuo Shin-ya, Toshio Tsuchida and *Hideaki Kakeya, "Saccharothriolides A-C, novel phenyl-substituted 10-membered macrolides from a rare actinomycete *Saccharothrix* sp.", *Chem. Commun.* 51, 2015, 8074-8077
- *平井剛, "分子設計と有機合成による高機能型生物活性分子の創製: Physalins 類のかご型構造の合成と生物機能", *有機合成化学協会誌*, 73, 2015, 595-606
- *Go Hirai and *Mikiko Sodeoka, "Focused Library with a Core Structure Extracted from Natural Products and Modified: Application to Phosphatase Inhibitors and Several Biochemical Findings", *Acc. Chem. Res.* 48, 2015, 1464-1473
- *Go Hirai, "Mimicking/Extracting Structure and Functions of Natural Products: Synthetic Approaches that Address Unexplored Needs in Chemical Biology", *Chem. Rec.* 5, 2015, 445-456
- *Go Hirai, Eisuke Ota, Motonari Sakai, Shigeru Nishiyama, *Mikiko Sodeoka, "C-Sialosides: Synthesis and Biological Activities (C-シアロシド結合を有する糖鎖アナログ: その合成と利用価値)", *Trends in glycoscience and glycotecnology* (Minireview) 7, 2015, 47-60.
- Frederic Thuaud, Shuntaro Kojima, Go Hirai, Kana Oonuma, Ayako Tsuchiya, Takako Uchida, Teruhisa Tsuchimoto, *Mikiko Sodeoka, "RE12 Derivatives Displaying Vaccinia H1-related Phosphatase (VHR) Inhibition in the Presence of Detergent and Their Anti-Proliferative Activity against HeLa Cells", *Bioorg. Med. Chem.* 22, 2014, 2771-2782
- Masaaki Ozawa, Masaki Morita, Go Hirai, Satoru Tamura, Masao Kawai, Ayako Tsuchiya, Kana Oonuma, Keiji Maruoka, *Mikiko Sodeoka, "Contribution of Cage-Shaped Structure of Physalins to Their Mode of Action in Inhibition of NF- κ B Activation", *ACS Med. Chem. Lett.* 4, 2013, 730-735
- Ayako Tsuchiya, Miwako Asanuma, Go Hirai, Kana Oonuma, Muhamadd Muddassar, Eri Nishizawa, Yusuke Koyama, Yuko Otani, Kam Y. J. Zhang, *Mikiko Sodeoka, "CDC25A-inhibitory RE Derivatives Bind to Pocket Adjacent to the Catalytic Site", *Mol. BioSyst.* 9, 2013, 1026-1034
- *Katsunori Tanaka, Yuka Nakamoto, Eric R. O. Siwu, Ambara R. Pradipta, Koji Morimoto, Takeshi Fujiwara, Suguru Yoshida, Takamitsu Hosoya, Yuki Tamura, Go Hirai, Mikiko Sodeoka, *Koichi Fukase, "Development of bis-unsaturated ester aldehydes as amino-glue probes: sequential double azaelectrocyclization as a promising strategy for bioconjugation", *Org. Biomol. Chem.* 11, 2013, 7326-7333
- Takahiro Suzuki, Yuria Miyajima, Kaname Suzuki, Kanako Iwakiri, Masaki Koshimizu, Go Hirai, Mikiko Sodeoka, *Susumu Kobayashi, "Unexpected Diels-Alder/Carbonyl-ene Cascade toward the Biomimetic Synthesis of Chloropupukeanin", *Org. Lett.* 15, 2013, 1748-1751
- Masaki Morita, Go Hirai, Megumi Ohkubo, Hiroyuki Koshino, Daisuke Hashizume, Keiji Maruoka, *Mikiko Sodeoka, "Kinetically Controlled One-pot Formation of DEFGH-rings of Type B Physalins through Domino-type Transformations", *Org. Lett.* 14, 2012, 3434-3437
- Ayako Tsuchiya, Go Hirai, Yusuke Koyama, Kana Oonuma, Yuko Otani, Hiroyuki Osada, *Mikiko Sodeoka, "Dual-specificity Protein Phosphatase CDC25A/B Inhibitor Identified from a Focused Library with Non-electrophilic Enamine Core Structure", *ACS Med. Chem. Lett.* 3, 2012, 294-298

【土井隆行】

- M. Yoshida, K. Sasahara, *T. Doi, Total Synthesis of Spiruchostatin A on Silyl-linked Polymer-Support, *Tetrahedron*, 71, 2015, 7647-7653
- *T. Doi, H. Otake, K. Umeda, M. Yoshida, Study for diastereoselective aldol reaction in flow: Synthesis of (*E*)-(*S*)-3-hydroxy-7-tritylthio-4-heptenoic acid, a key component of cyclodepsipeptide HDAC inhibitors, *Tetrahedron*, 71, 2015, 6463-6470

【川上隆史】

- *Kawakami, T., Ogawa, K., Hatta, T., Goshima, N., Natsume T. Directed Evolution of a Cyclized Peptoid-Peptide Chimera against a Cell-Free Expressed Protein and Proteomic Profiling of the Interacting Proteins to Create a Protein-Protein Interaction Inhibitor. *ACS Chemical Biology*, 11(6), 2016, 1569-1577
- *Kawakami, T., Ogawa, K., Goshima, N., Natsume T. DIVERSE System: De Novo Creation of Peptide Tags for Non-enzymatic Covalent Labeling by In Vitro Evolution for Protein Imaging Inside Living Cells. *Chemistry & Biology*, 22, 2015, 1671-1679.

【占部大介】

- Kamimura, D.; Nagatomo, M.; Urabe, D.; *Inoue, M. "Expanding the scope of Et₃B/O₂-mediated coupling reactions of O,T_e-acetal," *Tetrahedron*. 72(48), 2016, 7839-7848
- Hagiwara, K.; Tabuchi, T.; Urabe, D.; *Inoue, M. "Expedition synthesis of the fused hexacycle of puberuline C via a radical-based cyclization/translocation/cyclization process," *Chem. Sci.* 7, 2016, 4372-4378
- Nagatomo, M.; Hagiwara, K.; Masuda, K.; Koshimizu, M.; Kawamata, T.; Matsui, Y.; Urabe, D.; *Inoue, M. "Symmetry-driven strategy for the assembly of the core tetracycle of (+)-ryanodine: synthetic utility of a cobalt-catalyzed olefin oxidation and α -alkoxy bridgehead radical reaction," *Chem. Eur. J.* 22, 2016, 222-229.
- Asaba, T.; Katoh, Y.; Urabe, D.; *Inoue, M. "Total Synthesis of Crotophorbolone," *Angew. Chem. Int. Ed.* 54, 2015, 14457-14461.
- Goto, T.; Urabe, D.; Isobe, Y.; Arita, M.; *Inoue, M. "Total synthesis of four stereoisomers of (5Z,8Z,10E,14Z)-12-hydroxy-17,18-epoxy-5,8,10,14-eicosatetraenoic acid and their anti-inflammatory activities," *Tetrahedron* 71, 2015, 8320-8332.
- Goto, T.; Urabe, D.; Masuda, K.; Isobe, Y.; Arita, M.; *Inoue, M. "Total synthesis of four stereoisomers of (4Z,7Z,10Z,12E,16Z,18E)-14,20-dihydroxy-4,7,10,12,16,18-docosahexaenoic acid and their anti-inflammatory activities," *J. Org. Chem.* 80, 2015, 7713-7726.
- Mukai, K.; Kasuya S.; Nakagawa, Y.; Urabe, D.; *Inoue, M. "A convergent total synthesis of ouabagenin," *Chem. Sci.* 2015, 6, 3383-3387.
- Hagiwara, K.; Iwatsu, M.; Urabe, D.; *Inoue, M. "N-(2,3,4,5,6-Pentafluorophenyl)maleimide as a powerful dienophile in dearomatizing Diels-Alder reactions," *Heterocycles* 90, 2015, 659-672.
- Urabe, D.; Todoroki, H.; *Inoue, M. "Asymmetric total synthesis of (-)-4-hydroxyzinowol, a highly oxygenated dihydro-beta-agarofuran" *J. Synth. Org. Chem. Jpn.* 73, 2015, 1081-1091.
- Urabe, D. "Radical-mediated three-component reaction: a study toward the total synthesis of resineriferatoxin" *Chem. Pharm. Bull.* 63, 2015, 565-572.
- *Nishikawa, T.; Urabe, D.; Adachi, M.; Isobe, M. "Multifunctionality of the *N*-trichloroacetyl group developed in the synthesis of tetrodotoxin, a puffer fish toxin" *Synlett.* 26, 2015, 1930-1939.

12. Urabe, D.; Asaba, T.; *Inoue, M. "Convergent strategies in total syntheses of complex terpenoids," *Chem. Rev.* 115, 2015, 9207-9231
13. Todoroki, H.; Iwatsu, M.; Urabe, D.; *Inoue, M. "Total synthesis of (-)-4-hydroxyzinowol," *J. Org. Chem.* 79, 2014, 8835-8849
14. Hagiwara, K. Urabe, D.; *Inoue, M. "Studies in symmetry-driven synthesis of ryanodol: application of nucleophilic alkylation for regio- and stereoselective desymmetrization," *Tetrahedron Lett.* 55, 2014, 3817-3819
15. Yokokura, Y.; Isobe, Y.; Matsueda, S.; Iwamoto, R.; Goto, T.; Yoshioka, T.; Urabe, D.; *Inoue, M.; Arai, H.; Arita, M. "Identification of 14, 20-dihydroxy-docosahexaenoic acid as a novel anti-inflammatory metabolite," *J. Biochem.* 156, 2014, 315-321
16. Nagatomo, M.; Koshimizu, M.; Masuda, K.; Tabuchi, T.; Urabe, D.; *Inoue, M. "Total synthesis of ryanodol," *J. Am. Chem. Soc.* 136, 2014, 5916-5919
17. Kubota, T.; Arita, M.; Isobe, Y.; Iwamoto, R.; Goto, T.; Yoshioka, T.; Urabe, D.; *Inoue, M.; Arai, H. "Eicosapentaenoic acid is converted via omega-3epoxygenation to the anti-inflammatory metabolite 12-hydroxy-17,18-epoxyeicosatetraenoic acid," *FASEB J.* 28, 2014, 586-593

【田中浩士】

1. Ryota Suzuki, Shinichiro Fuse, and Hiroshi Tanaka* Synthesis of Asymmetrically Terminal Bifunctionalized Alkanes by Sequential Suzuki-Miyaura Coupling using B-Thexyl Boracyclanes *Eur. J. Org. Chem.*, 21, 2016, 3471-3481
2. Hiroki Hamagami, Motofumi Kumazoe, Yoshiki Yamaguchi, Shinichiro Fuse, Hirofumi Tachibana, and Hiroshi Tanaka* "6-Azido-6-deoxy-L-idose as a hetero-bifunctional spacer for the synthesis of azido-containing chemical probes" *Chem. Eur. J.*, 22(36), 2016, 12884-12890

【藤本ゆかり】

1. Aiba, T., Sato, M., Umegaki, D., Iwasaki, T., Kambe, N., Fukase, K., *Fujimoto, Y. Regioselective Phosphorylation of myo-Inositol with BINOL-Derived Phosphoramidites, and Its Application for Protozoan Lysophosphatidylinositol. *Org. Biomol. Chem.*, 14, 2016, 6672-6675
2. Wang, N., Hirata, A., Nokihara, K., Fukase, K., *Fujimoto, Y. Peptidoglycan Microarray as A Novel Tool to Explore Protein-Ligand Recognition. *Biopolymers.* 2016, 106(4), 4229-429
3. Shiokawa, Z., Inuki, S., Fukase, K., *Fujimoto, Y. Efficient synthesis of (-)-hanishin, (-)-longamide B, and (-)-longamide B Methyl Ester via piperazinone formation with 1,2-cyclic sulfamidates. *Synlett*, 27(04), 2016, 616-620.
4. Inuki, S., Sato, K., *Fujimoto, Y. Visible-light-mediated decarboxylative benzoyloxylation of β -hydroxy amino acids and its application to synthesis of functional 1,2-amino alcohol derivatives. *Tetrahedron Lett.* 56, 2015, 5787-5790.

A03 : 標的探索・合理的分子設計の新方法論

【上田実】

1. S. Egoshi, Y. Takaoka, H. Saito, Y. Nukadzuka, K. Hayashi, Y. Ishimaru, H. Yamakoshi, K. Dodo, M. Sodeoka, *M. Ueda, Dual function of coronatine as a bacterial virulence factor against plant: possible COI1-JAZ-independent role, *RSC Adv.*, 6, 2016, 19404-19412
2. Y. Takaoka, M. Shigenaga, Y. Nukadzuka, M. Imai, Y. Ishimaru, K. Saito, R. Yokoyama, K. Nishitani, *M. Ueda, Protein Ligand-tethered Synthetic Calcium Indicator for Localization Control and Spatiotemporal Calcium Imaging in Plant Cells, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 26, 2016, 9-14
3. T. Kobayashi, R. Nakanishi Itai, T. Senoura, T. Oikawa, Y. Ishimaru, M. Ueda, H. Nakanishi, *N. K. Nishizawa, Jasmonate signaling is activated in the very early stages of iron deficiency responses in rice roots, *Plant Mol. Biol.* 91, 2016, 533-547
4. H. Saito, T. Oikawa, S. Hamamoto, Y. Ishimaru, T. Utsumi, J. Chen, M. Kanamori, Y. Sasaki-Sekimoto, M. Shimojima, S. Masuda, Y. Kamiya, M. Seo, N. Uozumi, M. Ueda, *H. Ohta, The jasmonate-responsive GTR1 transporter is required for gibberellin-mediated stamen development in *Arabidopsis*, *Nature Commun.* 6, 2015, 6095
5. *M. Ueda, G. Yang, Y. Nukadzuka, Y. Ishimaru, S. Tamura, Y. Manabe, Functional importance of the sugar moiety of jasmonic acid glucoside for bioactivity and target affinity, *Org. Biomol. Chem.*, 13, 2015, 55-58
6. K. Kurotani, K. Hayashi, S. Hatanaka, Y. Toda, D. Ogawa, H. Ichikawa, Y. Ishimaru, R. Tashita, M. Ueda, T. Hattori, *S. Takeda, Elevated levels of CYP94 family gene expression alleviate the jasmonate response and enhance salt tolerance in rice, *Plant Cell Physiol.*, 56, 2015, 779-789
7. K. Bashir, Y. Ishimaru, R. Nakanishi Itai, T. Senoura, M. Takahashi, G. An, T. Oikawa, M. Ueda, A. Sato, N. Uozumi, H. Nakanishi, and *N. K. Nishizawa, Iron deficiency regulated OsOPT7 is essential for iron homeostasis in rice, *Plant Mol. Biol.*, 88, 2015, 165-176
8. S. Tamura, S. Inomata, M. Ebine, T. Genji, I. Iwakura, M. Mukai, M. Shoji, T. Sugai, *M. Ueda, Triazolyl-Phenyl Linker System Enhancing Aqueous Solubility of Molecular Probe and Efficiency in Affinity Labeling of Target Protein for Jasmonate Glucoside, *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 23, 2013, 188-193
9. E. Suzuki, M. Ueda, S. Ohba, T. Sugai, *M. Shoji, Stereoselective Construction of *cis*-Decalin Framework via Radical Domino Cyclization, *Tetrahedron Lett.*, 54, 2013, 1589-1592
10. S. Inomata, M. Ueda, T. Sugai, *M. Shoji, Synthesis of methyl *epi*-anhydroquinone utilizing [2,3]-sigmatropic rearrangement of iodosoalkene, *Chem. Lett.*, 42, 2013, 1273-1275
11. Y. Ikuta, Y. Koseki, T. Murakami, M. Ueda, H. Oikawa, and *H. Kasai, Fabrication of Pure Nanodrugs of Podophyllotoxin Dimer and Their Anticancer Activity, *Chem. Lett.*, 48, 2013, 900-901
12. *M. Ueda, G. Yang, Y. Ishimaru, S. Tamura, T. Itabashi, K. Kiyota, S. Kuwahara, S. Inomata, M. Shoji, T. Sugai, Hybrid Stereoisomers of Compact Molecular Probes Based on Jasmonic Acid Glucoside: Syntheses and Biological Evaluations, *Bioorg. Med. Chem.*, 20, 2012, 5832-5843
13. *H. Kasai, T. Murakami, Y. Ikuta, Y. Koseki, K. Baba, H. Oikawa, H. Nakanishi, M. Okada, M. Shoji, M. Ueda, H. Imahori, and M. Hashida, Creation of Pure Nanodrugs and Their Anticancer Properties, *Angew. Chem. Int. Ed.*, 51, 2012, 10315-10318
14. *M. Ueda, Chemical Biology of Natural Products on the Basis of Identification of Target Proteins (Highlight Review), *Chem. Lett.*, 41, 2012, 658-666
15. *M. Ueda, Y. Manabe, Y. Otsuka, N. Kanzawa, *Cassia occidentalis* MetE as a cytosolic target for potassium isolespedezate, a leaf-opening factor of *Cassia* plants: target exploration by compact molecular probe (CMP) strategy, *Chem. Asian J.*, 6, 2011, 3287-3297. VIP & Cover picture.
16. *M. Ueda, Y. Manabe, M. Mukai, The high-performance of 3XFLAG for target purification of bioactive metabolite: a tag combined with highly effective linker structure, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 21, 2011, 1359-1362

【叶直樹】

1. *N. Kanoh, S. Itoh, K. Fujita, K. Sakanishi, R. Sugiyama, Y. Terajima, Y. Iwabuchi, S. Nishimura, H. Kakeya, Asymmetric Total Synthesis of Heronamides A-C: Stereochemical Confirmation and Impact of Long-range Stereochemical Communication on the Biological Activity, *Chem. Eur. J.* 22(25), 2016, 8586-8595
2. *N. Kanoh, Photo-Cross-Linked Small-Molecule Affinity Matrix as a Tool for Target Identification of Bioactive Small Molecules (In a themed collection: Strategies for Cellular Target Identification of Natural Products), *Nat. Prod. Rep.*, 33, 2016, 709-718
3. T. Itagaki, A. Kawamata, M. Takeuchi, K. Hamada, Y. Iwabuchi, T. Eguchi, F. Kudo, T. Usui, *N. Kanoh, Synthesis and Structure-activity Relationship Study of FD-891: Importance of the Side Chain and C8-C9 Epoxide for Cytotoxic Activity against Cancer Cells, *J. Antibiot.*, 69, 2016, 287
4. Y. Nishiyama, T. Ohmichi, S. Kazami, S. Iwasaki, K. Mano, Y. Nagumo, F. Kudo, S. Ichikawa, Y. Iwabuchi, N. Kanoh, T. Eguchi, H. Osada, *T. Usui, Vicenistatin Induces Early Endosome-derived Vacuole Formation in Mammalian Cells, *Biosci. Biotech. Biochem.*, 80, 2016, 902-910
5. T. Chinen, P. Liu, S. Shioda, J. Pagel, B. Cerikan, T. Lin, O. Gruss, Y. Hayashi, H. Takeno, T. Shima, T. Okada, I. Hayakawa, Y. Hayashi, H. Kigoshi, *T. Usui, *E. Schiebel, The γ -Tubulin Specific Inhibitor Gatastatin Reveals Temporal Requirements of Microtubule Nucleation During the Cell Cycle, *Nat. Commun.*, 6, 2015, 8722

6. S.-i. Uesugi, T. Watanabe, T. Imaizumi, Y. Ota, K. Yoshida, H. Ebisu, T. Chinen, Y. Nagumo, M. Shibuya, N. Kanoh, *T. Usui, *Y. Iwabuchi, Total Synthesis and Biological Evaluation of Irciniastatin A (a.k.a. Psymberin) and Irciniastatin B, *J. Org. Chem.*, 80, 2015, 12333-12350
7. S. Hirano, Q. Tu Hue, T. Watahabe, N. Kanoh, Y. Iwabuchi, T. Usui, *T. Kataoka, Irciniastatin A, a Pederin Family of Translation Inhibitor, Promotes Ectodomain Shedding of Cell-surface Tumor Necrosis Factor (TNF) Receptor 1 and Blocks TNF- α -induced Nuclear Factor κ B Signaling Pathway, *J. Antibiot.*, 68, 2015, 417-420
8. S. Hirano, H. T. Quach, T. Watahabe, N. Kanoh, Y. Iwabuchi, T. Usui, *T. Kataoka, Irciniastatin A Induces a Potent and Sustained Activation of Extracellular Signal-regulated Kinase and Thereby Promotes Ectodomain Shedding of TNF Receptor 1 in Human Lung Carcinoma A549 Cells, *Biol. Pharm. Bull.*, 38, 2015, 941-946
9. H. Shibata, H. Tsuchikawa, T. Hayashi, N. Matsumori, *M. Murata, T. Usui, Modification of Bafilomycin Structure to Efficiently Synthesize Solid-state NMR Probes that Selectively Bind to Vacuolar-type ATPase, *Chem. Asian J.*, 10, 2015, 915-924
10. T. Suzuki, T. Okamura, T. Tomohiro, Y. Iwabuchi, *N. Kanoh, Third Generation Photo-Cross-Linked Small-Molecule Affinity Matrix: Photoactivatable and Photocleavable System Enables Quantitative Analysis of the Photo-Cross-Linked Small Molecules and Their Target Purification, *Bioconjugate Chem.*, 3, 2015, 389-395
11. *N. Kanoh, A. Kawamata, T. Itagaki, Y. Miyazaki, K. Yahata, E. Kwon, Y. Iwabuchi, A Concise and Unified Strategy for Synthesis of the C1-C18 Macrolactone Fragments of FD-891, FD-892 and Their Analogues: Formal Total Synthesis of FD-891, *Org. Lett.*, 16, 2014, 5216-5219
12. S. Kazami, M. Takaine, H. Itoh, T. Kubota, J. Kobayashi, *T. Usui, Iejimalide C is a Potent V-ATPase Inhibitor, and Induces Actin Disorganization, *Biol. Pharm. Bull.*, 37, 2014, 1944-1947
13. A. Taguchi, K. Hamada, M. Kotake, M. Shiozuka, H. Nakaminami, T. Pillaiyar, K. Takayama, F. Yakushiji, N. Noguchi, T. Usui, R. Matsuda, *Y. Hayashi, Discovery of Natural Products Possessing Selective Eukaryotic Readthrough Activity: 3- β -Deoxyneogamycin and Its Leucine Adduct, *ChemMedChem*, 9, 2014, 2233-2237
14. Y. Hayashi, H. Takeno, T. Chinen, K. Muguruma, K. Okuyama, A. Taguchi, K. Takayama, F. Yakushiji, M. Miura, T. Usui, *Y. Hayashi, Development of A New Benzophenone-Diketopiperazine-Type Potent Anti-Microtubule Agent Possessing a 2-Pyridine Structure, *ACS Med. Chem. Lett.*, 5, 2014, 1094-1098
15. T. Chinen, Y. Nagumo, *T. Usui, Construction of a Genetic Analysis-available Multidrug Sensitive Yeast Strain by Disruption of the Drug Efflux System and Conditional Repression of the Membrane Barrier System, *J. Gen. Appl. Microbiol.*, 60, 2014, 160-162
16. H. Shibata, H. Tsuchikawa, N. Matsumori, *M. Murata, T. Usui, Design and Synthesis of 24-Fluorinated Bafilomycin Analogue as an NMR Probe with Potent Inhibitory Activity to Vacuolar-type ATPase, *Chem. Lett.*, 43, 2014, 474-476
17. K. Sakanishi, S. Itoh, R. Sugiyama, S. Nishimura, H. Takeya, Y. Iwabuchi, *N. Kanoh, Total Synthesis of the Proposed Structure of Heronamide C, *Eur. J. Org. Chem.*, 2014, 1376-1380
18. Y. Tarui, T. Chinen, Y. Nagumo, T. Motoyama, T. Hayashi, H. Hirota, M. Muroi, Y. Ishii, H. Kondo, H. Osada, *T. Usui, Terpendole E and its Derivative Inhibit STLC- and GSK-1-Resistant Eg5, *ChemBioChem*, 15, 2014, 934-938
19. *N. Kanoh, Y. Ohno, T. Itagaki, H. Fukuda, Y. Iwabuchi, On the Origin of *cine*-Substitution in the Stille Coupling of Trisubstituted Iodoalkene and *trans*-Vinylstannane, *Synlett*, 24, 2013, 2660-2664
20. *M. Kita, Y. Hirayama, K. Yoneda, K. Yamagishi, T. Chinen, T. Usui, E. Sumiya, M. Uesugi, *H. Kigoshi, Inhibition of Microtubule Assembly by a Complex of Actin and Antitumor Macrolide Aplyronine A, *J. Am. Chem. Soc.*, 135, 2013, 18089-18095
21. *N. Kanoh, T. Suzuki, M. Kawatani, Y. Kato, H. Osada, Y. Iwabuchi, Dual Structure-activity Relationship of Osteoclastogenesis Inhibitor Methyl Gerfelin based on TEG Scanning, *Bioconjugate Chem.*, 24, 2013, 44-52
22. T. Chinen, S. Kazami, Y. Nagumo, I. Hayakawa, A. Ikedo, M. Takagi, A. Yokosuka, N. Imamoto, Y. Mimaki, H. Kigoshi, H. Osada, *T. Usui, Glaziovianin A Prevents Endosome Maturation via Inhibiting Microtubule Dynamics, *ACS Chem. Biol.*, 8, 2013, 884-889
23. H. Fukuda, Y. Nishiyama, S. Nakamura, Y. Ohno, T. Eguchi, Y. Iwabuchi, T. Usui, *N. Kanoh, Synthesis and Structure-activity Relationship of Vicenistatin, a Cytotoxic 20-Membered Macrolactam Glycoside, *Chem. Asian J.*, 7, 2012, 2872-2881
24. *I. Hayakawa, A. Ikedo, T. Chinen, T. Usui, *H. Kigoshi, Design, Synthesis, and Biological Evaluation of the Analogues of Glaziovianin A, a Potent Antitumor Isoflavone, *Bioorg. Med. Chem.*, 20, 2012, 5745-5756
25. Y. Yamazaki, M. Sumikura, Y. Masuda, Y. Hayashi, H. Yasui, Y. Kiso, T. Chinen, T. Usui, F. Yakushiji, B. Potts, S. Neuteboom, M. Palladino, G. K. Lloyd, *Y. Hayashi, Synthesis and Structure Activity Relationships of Benzophenone-bearing Diketopiperazine-type Anti-microtubule Agents, *Biorg. Med. Chem.*, 20, 2012, 4279-4289
26. Y. Yamazaki, K. Tanaka, B. Nicholson, G. Deyanat-Yazdi, B. Potts, T. Yoshida, A. Oda, T. Kitagawa, S. Orikasa, Y. Kiso, H. Yasui, M. Akamatsu, T. Chinen, T. Usui, Y. Shinozaki, F. Yakushiji, B. R. Miller, S. Neuteboom, M. Palladino, K. Kanoh, G. K. Lloyd, *Y. Hayashi, Synthesis and Structure-activity Relationship Study of Antimicrotubule Agents Phenylahistin Derivatives with a Didehydropiperazine-2,5-dione Structure, *J. Med. Chem.*, 55, 2012, 1056-1071
27. S. Kazami, T. Usui, *H. Osada, Actin Stress Fiber Retraction and Aggresome Formation is the Common Cellular Response Against Actin Toxins, *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 75, 2011, 1853-1855
28. T. Chinen, Y. Ota, Y. Nagumo, H. Masumoto, *T. Usui, Construction of Multidrug-sensitive Yeast with High Sporulation Efficiency, *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 75, 2011, 1588-1593

【木越英夫】

1. Yoneda, K.; Hu, Y.; *Kita, M.; *Kigoshi, H. 6-Amidopyrene as a label-assisted laser desorption/ionization (LA-LDI) enhancing tag: development of photoaffinity pyrene derivative, *Sci. Rep.*, 5, 2015, 17853.
2. *Kita, M.; Oka, H.; Usui, A.; Ishitsuka, T.; Mogi, Y.; Watanabe, H.; Tsunoda, M.; *Kigoshi, H. Total Synthesis of Mycalolides A and B through Olefin Metathesis, *Angew. Chem., Int. Ed.*, 54 (47), 2015, 14174-14178
3. *Kita, M.; Hirayama, Y.; Yoneda, K.; Yamagishi, K.; Chinen, T.; Usui, T.; Sumiya, E.; Uesugi, M.; *Kigoshi, H. Inhibition of Microtubule Assembly by A Complex of Actin and Antitumor Macrolide Aplyronine A, *J. Am. Chem. Soc.*, 135 (48), 2013, 18089-18095
4. Ohno, O.; Morita, M.; Kitamura, K.; Teruya, T.; Yoneda, K.; Kita, M.; Kigoshi, H.; *Suenaga, K. Apoptosis-inducing activity of the actin-depolymerizing agent aplyronine A and its side-chain derivatives, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 23 (5), 2013, 1467-1471
5. *Kita, M.; Hirayama, Y.; Yamagishi, K.; Yoneda, K.; Fujisawa, R.; *Kigoshi, H. Interactions of the Antitumor Macrolide Aplyronine A with Actin and Actin-Related Proteins Established by Its Versatile Photoaffinity Derivatives, *J. Am. Chem. Soc.*, 134 (50), 2012, 20314-20317
6. *Kita, M.; Oka, H.; Usui, A.; Ishitsuka, T.; Mogi, Y.; Watanabe, H.; *Kigoshi, H. Synthesis and biological activities of the tris-oxazole macrolactone analogs of mycalolides, *Tetrahedron*, 68 (42), 2012, 8753-8760
7. *Kita, M.; Yoneda, K.; Hirayama, Y.; Yamagishi, K.; Saito, Y.; Sugiyama, Y.; Miwa, Y.; Ohno, O.; Morita, M.; Suenaga, K.; *Kigoshi, H. Fluorescent Aplyronine A: Intracellular Accumulation and Disassembly of Actin Cytoskeleton in Tumor Cells, *ChemBioChem*, 13 (12), 2012, 1754-1758
8. Satoh, Y.; Yamada, T.; Onozaki, Y.; Kawamura, D.; *Hayakawa, I.; *Kigoshi, H. Synthetic studies toward biselides. Part 2: Synthesis of the macrolactone part of biselides A and B using allylic oxidation, *Tetrahedron Lett.*, 53 (11), 2012, 1393-1396
9. Kobayashi, K.; Fujii, Y.; Hirayama, Y.; Kobayashi, S.; *Hayakawa, I.; *Kigoshi, H. Design, Synthesis, and Biological Evaluations of Aplyronine A-Mycalolide B Hybrid Compound, *Org. Lett.*, 14 (5), 2012, 1290-1293

10. *Ojika, M.; Kigoshi, H.; Suenaga, K.; Imamura, Y.; Yoshikawa, K.; Ishigaki, T.; Sakakura, A.; Mutou, T.; *Yamada, K. Aplyronines D-H from the sea hare *Aplysia kurodai*: isolation, structures, and cytotoxicity, *Tetrahedron*, 68 (4), 2012, 982-987
 11. *Kita, M.; Hirayama, Y.; Sugiyama, M.; *Kigoshi, H. Development of Highly Cytotoxic and Actin-Depolymerizing Biotin Derivatives of Aplyronine A, *Angew. Chem. Int. Ed.* 50 (42), 2011, 9871-9874
 12. Kobayashi, K.; Fujii, Y.; *Hayakawa, I.; *Kigoshi, H. Toward the Second Generation Synthesis of Aplyronine A: Stereocontrolled Assembly of the C1-C19 Segment by Using an Asymmetric Nozaki-Hiyama-Kishi Coupling, *Org. Lett.* 13 (5), 2011, 900-903
- 【西川俊夫】
1. Tsuchiya, S., Cho, Y., Konoki, K., Nagasawa, K., Oshima, Y., *Yotsu-Yamashita, M. Biosynthetic route towards saxitoxin and shunt pathway, *Sci. Rep.*, 6, 2016, 20340
 2. *Konoki, K., Suga, Y., Fuwa, H., Yotsu-Yamashita, M., *Sasaki, M. Evaluation of gambierol and its analogs for their inhibition of human K_v1.2 and cytotoxicity. *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 25, 2015, 514-518
 3. Tsuchiya, S., Cho, Y., Konoki, K., Nagasawa, K., Oshima, Y., *Yotsu-Yamashita, M. Synthesis of a Tricyclic Bisguanidine compound structurally related to saxitoxin and its identification in paralytic shellfish toxin-producing microorganisms. *Chem. Eur. J.*, 21, 2015, 7835-7840
 4. Ehara, H., Makino, M., Kodama, K., Konoki, K., Ito, T., Sekine, S., *Fukuzawa, S., *Yokoyama, S., *Tachibana, K. Crystal Structure of okadaic acid binding protein 2.1: A sponge protein implicated in cytotoxin accumulation. *ChemBioChem*, 16, 2015, 1435-1439
 5. Kudo, Y., Chiba, C., Konoki, K., Cho, Y., *Yotsu-Yamashita, M. Confirmation of the absence of tetrodotoxin and its analogues in the juveniles of the Japanese fire-bellied newt, *Cynops pyrrhogaster*, captive-reared from eggs in the laboratory using HILIC-LC-MS. *Toxicon*, 101, 2015, 101-105
 6. Pulingi, C. G., Kudo, Y., Cho, Y., Konoki, K., *Yotsu-Yamashita, M. Tetrodotoxin and its analogues in the pufferfish *Arothron hispidus* and *A. nigropunctatus* from the Solomon Islands: A comparison of their toxin profiles with the same species from Okinawa, Japan. *Toxins*, 7, 2015, 3436-3454
 7. Cho, Y., Tsuchiya, S., Yoshioka, R., Omura, T., Konoki, K., Oshima, Y., *Yotsu-Yamashita, M. The presence of 12 β -deoxydecarbamoylsaxitoxin in the Japanese toxic dinoflagellate *Alexandrium* determined by simultaneous analysis for paralytic shellfish toxins using HILIC-LC-MS/MS. *Harmful Algae*, 49, 2015, 58-67
 8. *Konoki, K., Okada, K., Kohama, M., Matsuura, H., Saito, K., Cho, Y., Nishitani, G., Miyamoto, T., Fukuzawa, S., Tachibana, K., Yotsu-Yamashita, M. Identification of okadaic acid binding protein 2 in reconstituted sponge cell clusters from *Halichondria okadai* and its contribution to the detoxification of okadaic acid, *Toxicon*, 108, 2015, 38-45
 9. Kimura, R., Sawayama, Y., Nakazaki, A., Miyamoto, K., Uchiyama, M., *Nishikawa, T. Unexpected Metal-Free Transformation of gem-Dibromomethylenes to Ketones under Acetylation Conditions. *Chem. Asian J.*, 10, 2015, 1035-1041
 10. Nakazaki, A., Nakane, Y., Ishikawa, Y., *Nishikawa, T. Synthesis of 1.5-dioxaspiro[3.4]octane through bromocation-induced cascade cyclization. *Heterocycles*, 91, 2015, 1157-1163
 11. Nakazaki, A., Miyagawa, K., Miyata, N., *Nishikawa, T. Synthesis of a C-N Axially Chiral *N*-Aryl Isatin through Asymmetric Intramolecular *N*-Arylation. *Eur. J. Org. Chem.*, 2015, 4603-4606
 12. Nakazaki, A., Miyagawa, K., *Nishikawa, T. Diastereoselective Synthesis of 3,3-Disubstituted Oxindoles from *N*-Aryl-3-Chlorooxindoles bearing C-N Axial Chirality via Nucleophilic Substitution. *Synlett*, 26, 2015, 1116-1120
 13. Adachi, M., Torii, M., *Nishikawa, T. Stereocontrolled Synthesis of ABC-Tricycle of Solanoelepin A. *Synlett*, 2015, 965-969
 14. Adachi, M., Nakajima, M., Isobe, M. Asymmetric Synthesis of 3-Azide-4-fluoro-L-phenylalanine. *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 79, 2015, 707-709
 15. *Nicolaou, K. C., Heretsch, P., Nakamura, T., Rudo, A., Murata, M., Konoki, K. Synthesis and biological evaluation of QRSTUVWXYZA' domains of maitotoxin. *J. Am. Chem. Soc.* 136, 2014, 16444-16451
 16. Kunitake, M., Oshima, T., Konoki, K., Ebine, M., Torikai, K., Murata, M., *Oishi, T. Synthesis and biological activity of the C'D'E'F' ring system of maitotoxin. *J. Org. Chem.*, 79, 2014, 4948-4962
 17. ©Onoue, H., Baba, T., Konoki, K., Torikai, K., Ebine, M., *Oishi, T. Synthesis and biological activity of the QRS ring system of maitotoxin. *Chem. Lett.*, 43, 2014, 1904-1906
 18. Tsuchiya, S., Cho, Y., Konoki, K., Nagasawa, K., Oshima, Y., *Yotsu-Yamashita, M. Synthesis and identification of proposed biosynthetic intermediates of saxitoxin in the cyanobacterium *Anabaena circinalis* (TA04) and the dinoflagellate *Alexandrium tamarense* (Axat-2). *Org. Biomol. Chem.* 12, 2014, 3016-3020
 19. Kudo, Y., Finn, J., Fukushima, K., Sakugawa, S., Cho, Y., Konoki, K., *Yotsu-Yamashita, M. Isolation of 6-deoxytetrodotoxin from the pufferfish, takifugu pardalis, and a comparison of the effects of the C-6 and C-11 hydroxy groups of tetrodotoxin on its activity. *J. Nat. Prod.* 77, 2014, 1000-1004
 20. Kudo, Y., Abe, A., Ito, K., Cho, Y., Yotsu-Yamashita, M., *Konoki, K. Expression of recombinant alpha and beta tubulins from the yew *Taxus cuspidata* and analysis of the microtubule assembly in the presence of taxol. *Biosci. Biotech. Biochem.* 78, 2014, 1887-1894
 21. Kudo, Y., Yamashita, Y., Mebs, D., Cho, Y., Konoki, K., Yasumoto, T., *Yotsu-Yamashita, M. C5-C10 Directly bonded tetrodotoxin analogues: Possible biosynthetic precursors of tetrodotoxin from newts. *Angew. Chem. Int. Ed.* 53, 2014, 14546-14549
 22. Adachi, M., Hashimoto, H., Sakakibara, R., Imazu, T., *Nishikawa, T. A New Deprotection Procedure of MTM Ether. *Synlett*, 2014, 2498-2502
 23. Adachi, M., Imazu, T., Sakakibara, R., Satake, Y., Isobe, M., *Nishikawa, T. Total Synthesis of Chiriquitoxin, an Analogue of Tetrodotoxin Isolated from the Skin of a Dart Frog. *Chem. Eur. J.*, 20, 2014, 1247-1251
 24. Nakazaki, A., Ishikawa, Y., Sawayama, Y., Yotsu-Yamashita, M., *Nishikawa, T. Synthesis of crambescin B carboxylic acid, a potent inhibitor of voltage-gated sodium channel. *Org. Biomol. Chem.*, 12, 2014, 53-56
 25. *Yotsu-Yamashita, M., Kondo, S., Segawa, S., Lin, Y.-C. Toyohara, H., Ito, H., Konoki, K., Cho, Y., Uchida, T. Isolation and structural determination of two novel phlorotannins from the brown alga *Ecklonia kurome* Okamura, and their radical scavenging activities. *Mar. Drugs*, 11, 2013, 165-183
 26. *Konoki, K., Onoda, T., Watanabe, R., Cho, Y., Kaga, S., Suzuki, T., Yotsu-Yamashita, M. In vitro acylation of okadaic acid in the presence of various bivalves' extracts. *Mar. Drugs* 11, 2013, 300-3015
 27. Fuwa, H., Kawakami, M., Noto, K., Muto, T., Suga, Y., Konoki, K., Yotsu-Yamashita, M., *Sasaki, M. Concise synthesis and biological assessment of (+)-neopeltolide and a 16-member stereoisomer library of 8,9-dehydroneopeltolide: identification of pharmacophoric elements. *Chem. Eur. J.* 19, 2013, 8100-8110
 28. *Konoki, K., Onoda, T., Furumochi, S., Cho, Y., Yotsu-Yamashita, M., Yasumoto, T. The binding of okadaic acid analogues to recombinant OABP2.1 originally isolated from the marine sponge *Halichondria okadai*. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 23, 2013, 5833-5835
 29. Nakazaki, A., Huang, W.-Y., Koga, K., Yingyongnarongkul, B., Boonsombat, J., Sawayama, Y., Tsujimoto, T., *Nishikawa, T. Structural Study on a Naturally Occurring Terphenyl Quinone. *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 77, 2013, 1529-1532
 30. Yamada, H., Adachi, M., Isobe, M., *Nishikawa, T. Stereocontrolled Synthesis of the Oxathiabicyclo[3.3.1]nonane Core Structure of Tagetitoxin. *Chem. Commun.*, 49, 2013, 11221-11223
 31. *Yotsu-Yamashita, M., Abe, Y., Kudo, Y., Ritson-Williams, R., Paul, V. J., Konoki, K., Cho, Y., Adachi, M., Imazu, T., Nishikawa, T., Isobe, M. First Identification of 5,11-Dideoxytetrodotoxin in Marine Animals, and Characterization of Major Fragment Ions of Tetrodotoxin and Its Analogues

- by High Resolution ESI-MS/MS. *Mar. Drugs*, 11, 2013, 2799-2813
32. Kai, K., Oba, Y., Akaike, R., Murata, A., [Nishikawa, T.](#) *Watanabe, N. Insight into the chemistry of cycloaddition between α -ketol oxylipin and epinephrine: isolation and structure elucidation of a new reaction product. *Tetrahedron Lett.*, 54, 2013, 2247-2250
 33. Yamada, H., [Adachi, M.](#), Isobe, M., *[Nishikawa, T.](#) Stereocontrolled Total Synthesis of Polygalolide A. *Chem. Asian J.*, 8, 2013, 1428-1435
 34. Fuwa, H., Kawakami, M., Noto, K., Muto, T., Suga, Y., [Konoki, K.](#), Yotsu-Yamashita, M., Sasaki, M. Concise Synthesis and Biological Assessment of (+)-Neopeltolide and a 16-Member Stereoisomer Library of 8,9-Dehydroneopeltolide: Identification of Pharmacophoric Elements. *Chem. Eur. J.*, 19, 2013, 8100-8110
 35. [Adachi, M.](#), Imazu, T., Isobe, M., *[Nishikawa, T.](#) An Improved Synthesis of (-)-5,11-Dideoxytetrodotoxin. *J. Org. Chem.*, 78, 2013, 1699-1705
 36. Nakazaki, A., Hara, Y., Kajii, S., *[Nishikawa, T.](#) Synthesis of Tetracyclic Indoline and Indolenine Derivatives Having β -Lactam Using Amphiphilic Reactivity of 2-Methylindolenine. *Heterocycles* 87, 2013, 611-625
 37. Komada, T., [Adachi, M.](#), *[Nishikawa, T.](#) A Concise Synthesis of a Highly Strained Cyclobutane in Solanoclepin A by Radical Cyclization. *Chem. Lett.*, 41, 2012, 287-289
 38. Kudo, Y., Yasumoto, T., [Konoki, K.](#), Cho, Y., *Yotsu-Yamashita, M. Isolation and Structural Determination of the First 8-epi-type Tetrodotoxin Analogs from the Newt, *Cynops ensicauda popei*, and Comparison of Tetrodotoxin Analogs Profiles of This Newt and the Puffer Fish, *Fugu poecilonotus*. *Mar. Drugs*, 10, 2012, 655-667
 39. *Oishi, T., [Konoki, K.](#), Tamate, R., Torikai, K., Hasegawa, F., Matsumori, N., Murata, M. Artificial Ladder-shaped Polyethers That Inhibit Maitotoxin-Induced Ca^{2+} Influx in Rat Glioma C6 Cells. *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 22, 2012, 3619-3622
 40. [Adachi, M.](#), Higuchi, K., Thasana, N., Yamada, H., *[Nishikawa, T.](#) Stereocontrolled Synthesis of an Indole Moiety of Suspendole and Stereochemical Assignment of the Side Chain. *Org. Lett.*, 14, 2012, 114-117
 41. Matsumoto, N., Tsujimoto, T., Nakazaki, A., Isobe, M., *[Nishikawa, T.](#) Synthetic Studies on Pactamycin, a Potent Antitumor Antibiotic. *RSC Advances*, 2, 2012, 9448-9462
 42. *Nakazaki, A., Mori, A., Kobayashi, S., *[Nishikawa, T.](#) Diastereoselective Synthesis of 3,3-Disubstituted Oxindoles from Atropisomeric *N*-Aryl Oxindole Derivatives. *Tetrahedron Lett.*, 53, 2012, 7131-7134
 43. Kanai, Y., Hiroki, S., Koshino, H., [Konoki, K.](#), Cho, Y., Cayme, M., Fukuyo, Y., *Yotsu-Yamashita, M. Identification of novel oxidized levuglandin D2 in marine red alga and mouse tissues. *J. Lip. Res.*, 52, 2011, 2245-2254
 44. Adachi, M., Komada, T., *[Nishikawa, T.](#) A New Ring Expansion for a Chiral Hexahydroazulene Skeleton Possessing an Angular Methyl Group. *J. Org. Chem.*, 76, 2011, 6942-6945
 45. Sawayama, Y., *[Nishikawa, T.](#) A Synthetic Route to the Saxitoxin Skeleton: Synthesis of Decarbamoyl α -Saxitoxinol, an Analogue of Saxitoxin Produced by the Cyanobacterium *Lyngbya wollei*. *Angew. Chem. Int. Ed.*, 50, 2011, 7176-7178
 46. [Adachi, M.](#), Yamada, H., Isobe, M., *[Nishikawa, T.](#) Total Synthesis of Polygalolide A. *Org. Lett.*, 13, 2011, 6532-6535
 47. Kongjinda, V., Nakashima, Y., Tani, N., Kuse, M., *[Nishikawa, T.](#), Yu, C.-H., Harada, N., Isobe, M. Dynamic Chirality Determines Critical Roles for Bioluminescence in Symplectin-Dehydrocoelenterazine System. *Chem. Asian J.*, 6, 2011, 2080-2091
 48. Isaji, H., Nakazaki, A., Isobe, M., *[Nishikawa, T.](#) Concise Synthesis of Deformylflustrabromine, a Marine Indole Alkaloid, Through a Propargyl Dicobalt Hexacarbonyl Complex. *Chem. Lett.*, 40, 2011, 1079-1081
 49. Sawayama, Y., *[Nishikawa, T.](#) Bromocyclization of Alkynyl Guanidine: A New Approach to the Synthesis of Cyclic Guanidines of Saxitoxin. *Synlett*, 2011, 651-654
 50. Sugino, K., Nakazaki, A., Isobe, M., *[Nishikawa, T.](#) Synthetic Study on Suspendole, an Indole Sesquiterpene Alkaloid: Stereocontrolled Synthesis of the Sesquiterpene Segment Bearing All Requisite Stereogenic Centers. *Synlett*, 2011, 647-650
 51. *[Nishikawa, T.](#), Urabe, D., [Adachi, M.](#), Isobe, M. Multifunctionality of the *N*-Trichloroacetyl Group Developed in the Synthesis of Tetrodotoxin, a Puffer Fish Toxin. *Synlett*, 26, 2015, 1930-1939 (Review)
 52. *[Nishikawa, T.](#), Isobe, M. Synthesis of Tetrodotoxin, a Classic but Still Fascinating Natural Product. *Chem. Rec.*, 13, 2013, 286-302 (Review)
- 【佐々木誠】
1. *Keijichi [Konoki](#), Yuto Suga, Haruhiko Fuwa, Mari Yotsu-Yamashita, and *[Makoto Sasaki](#), Evaluation of gambierol and its analogs for their inhibition of human Kv1.2 and cytotoxicity, *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters*, 25, 2015, 514-518
 2. Juan A. Rubiolo, Carmen Vale, Víctor Martín, Haruhiko Fuwa, [Makoto Sasaki](#), and *Luis M. Botana, Potassium currents inhibition by gambierol analogs prevents human T lymphocyte activation, *Archives of Toxicology*, 89, 2015, 1119-1134
 3. Yuto Suga, *Haruhiko Fuwa, and [Makoto Sasaki](#), Stereoselective synthesis of medium-sized cyclic ethers: Application of *C*-glycosylation chemistry to seven- to nine-membered lactone-derived thioacetals and their sulfone counterparts, *The Journal of Organic Chemistry*, 79, 2014, 1656-1682
 4. Sheila Pérez, Carmen Vale, Eva Alonso, Haruhiko Fuwa, [Makoto Sasaki](#), Yu Konno, Tomomi Goto, Yuto Suga, Mercedes R. Vieytes, and *Luis M. Botana, Effect of gambierol and its tetracyclic and heptacyclic analogues in cultured cerebellar neurons. A structure-activity relationships study, *Chemical Research in Toxicology*, 25, 2012, 1929-1937
 5. Eva Alonso, Haruhiko Fuwa, Carmen Vale, Yuto Suga, Tomomi Goto, Yuto Konno, [Makoto Sasaki](#), Frank M. LaFerla, Mercedes R. Vieytes, Lydia Giménez-Llort, and *Luis M. Botana, Design and synthesis of skeletal analogues of gambierol: Attenuation of amyloid- β and tau pathology with voltage-gated potassium channel and *N*-methyl-D-aspartate receptor implications, *Journal of the American Chemical Society*, 134, 2012, 7467-7479
- 【永次史】
1. Sato, N., Tsuji, G., Sasaki, Y., Usami, A., Moki, T., Onizuka, K., Yamada, K. and [Nagatsugi, F.](#) A new strategy for site-specific alkylation of DNA using oligonucleotides containing an abasic site and alkylating probes. *Chem. Commun.*, 51, 2015, 14885-14888
 2. Kusano, S., Ishiyama, S., Lam, S.L., Mashima, T., Katahira, M., Miyamoto, K., Aida, M. and [Nagatsugi, F.](#) Crosslinking reactions of 4-amino-6-oxo-2-vinylpyrimidine with guanine derivatives and structural analysis of the adducts. *Nucleic Acids Research*, 43, 2015, 7717-7730
 3. Akisawa, T., Ishizawa, Y., [Nagatsugi, F.](#) Synthesis of Peptide Nucleic Acids Containing a Crosslinking Agent and Evaluation of Their Reactivities, *Molecules*, 20, 2015, 4708-4719
 4. Kikuta, K., Piao, H., Brazier, J., Taniguchi, Y., Onizuka, K., [Nagatsugi, F.](#) and Sasaki, S. Stabilization of the i-motif structure by the intra-strand cross-link formation. *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters*, 25, 2015, 3307-3310
 5. Onizuka, K., [Nagatsugi, F.](#), Ito, Y. and Abe, H. Automatic Pseudorotaxane Formation Targeting on Nucleic Acids Using a Pair of Reactive Oligodeoxynucleotides. *J. Am. Chem. Soc.*, 136, 2014, 7201-7204
 6. Kusano, S., Haruyama, T., Ishiyama, S., Hagihara, S. and [Nagatsugi, F.](#) Development of the crosslinking reactions to RNA triggered by oxidation. *Chem. Commun.*, 50, 2014, 3951-3954
 7. Nishimoto, A., Jitsuzaki, D., Onizuka, K., Taniguchi, Y., [Nagatsugi, F.](#) and Sasaki, S. 4-vinyl-substituted pyrimidine nucleosides exhibit the efficient and selective formation of interstrand cross-links with RNA and duplex DNA. *Nucleic Acids Research*, 41, 2013, 6774-6781
 8. [Nagatsugi, F.](#), Takahashi, Y., Kobayashi, M., Kuwahara, S., Kusano, S., Chikuni, T., Hagihara, S. and Harada, N. Synthesis of peptide-conjugated light-driven molecular motors and evaluation of their DNA-binding properties. *Molecular Biosystems*, 9, 2013, 969-973
 9. Hagihara, S., Lin, W.C., Kusano, S., Chao, X.G., Hori, T., Imoto, S. and [Nagatsugi, F.](#) The Crosslink Formation of 2'-OMe Oligonucleotide Containing 2-Amino-6-vinylpurine Protects mRNA from miRNA-Mediated Silencing. *Chembiochem*, 14, 2013, 1427-1429

10. Kusano, S., Sakuraba, T., Hagihara, S., [Nagatsugi, F.](#) Synthesis of 6-amino-2-vinyl purine derivatives for cross-linking and evaluation of the reactivity, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 22, 2012, 6957–6961
11. Imoto, S., Chikuni, T., Kansui, H., Kunieda, T., [Nagatsugi, F.](#) Fast DNA Interstrand Cross-linking Reaction by 6-Vinylpurine, *Nucleosides Nucleotides Nucleic Acids.*, 31, 2012, 752–762
12. Hagihara, S., Kusano, S., Lin, W.C., Chao, X.G., Hori, T., Imoto, S., [Nagatsugi, F.](#), Production of truncated protein by the crosslink formation of mRNA with 2'-OME oligoribonucleotide containing 2-amino-6-vinylpurine, *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 22, 2012, 3870–3872

【細谷孝充】

1. *S. Yoshida, Y. Hatakeyama, K. Johmoto, H. Uekusa, *[T. Hosoya](#), “Transient Protection of Strained Alkynes from Click Reaction via Complexation with Copper.” *J. Am. Chem. Soc.*, 136, 2014, 13590–13593
2. S. Yoshida, Y. Misawa, *[T. Hosoya](#), “Formal C–H-Azidation Based Shortcut to Diazido Building Blocks for the Versatile Preparation of Photoaffinity Labeling Probes.” *Eur. J. Org. Chem.* 2014, 3991–3995
3. *K. Tanaka, Y. Nakamoto, E. R. O. Siwu, A. R. Pradipta, K. Morimoto, T. Fujiwara, S. Yoshida, [T. Hosoya](#), Y. Tamura, G. Hirai, M. Sodeoka, *K. Fukase, “Development of bis-unsaturated ester aldehydes as amino-glue probes: Sequential double azaelectrocyclization as promising strategy for bioconjugation.” *Org. Biomol. Chem.* 11, 2013, 7326–7333

【高岡洋輔】

1. Shusuke Egoshi, [Yousuke Takaoka](#), Hiroaki Saito, Yuuki Nukadzuka, Kengo Hayashi, Yasuhiro Ishimaru, Hiroyuki Yamakoshi, Kosuke Dodo, Mikiko Sodeoka, Minoru Ueda*, Dual function of coronatine as a bacterial virulence factor against plants: possible COII/JAZ independent role. *RSC Adv.*, 6, 2016, 19404–19412
2. [Yousuke Takaoka](#), Miyuki Shigenaga, Yuuki Nukadzuka, Masaki Imai, Yasuhiro Ishimaru, Kei Saito, Ryusuke Yokoyama, Kazuhiko Nishitani, Minoru Ueda*, Protein Ligand-tethered Synthetic Calcium Indicator for Localization control and Spatiotemporal Calcium Imaging in Plant Cells. *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 26, 2016, 9–14
3. Yuki Yasueda, Tomonori Tamura, Keiko Kuwata, [Yousuke Takaoka](#), Itaru Hamachi, Biomembrane-embedded Catalysis for Membrane-associated Protein Labeling on Red Blood Cells. *Chem. Lett.*, 44, 2015, 1673–1675
4. Takahiro Hayashi, Yuki Yasueda, Tomonori Tamura, [Yousuke Takaoka](#), Itaru Hamachi*, Analysis of Cell-surface Dynamics Through Covalent Labeling by Catalyst-tethered Antibody. *J. Am. Chem. Soc.*, 137, 2015, 5372–5380
5. [Yousuke Takaoka](#), Yuki Nishikawa, Yuki Hashimoto, Kenta Sasaki, Itaru Hamachi*, Ligand-directed Dibromophenyl Benzoate Chemistry for Rapid and Selective Acylation of Intracellular Natural Proteins. *Chem. Sci.*, 6, 2015, 3217–3224
6. Song Zhining, [Yousuke Takaoka](#), Yoshiyuki Kioi, Kazuhiro Komatsu, Tomonori Tamura, Takayuki Miki, Itaru Hamachi*, Extended Affinity-guided DMAP chemistry with Finely-tuned Acyl Donor for Intracellular FKBP12 Labeling. *Chem. Lett.*, 44, 2015, 333–335
7. Takahiro Hayashi, Yedi Sun, Tomonori Tamura, Keiko Kuwata, Song, Zining, [Yousuke Takaoka](#), Itaru Hamachi*, Semisynthetic Lectin-DMAP Conjugates for Labeling and Profiling Glycoprotein on Live Cell Surface, *J. Am. Chem. Soc.*, 135, 2013, 12252–12258
8. Yoshitaka Moriawaki, Tohru Terada, Jose M. M. Caveiro, [Yousuke Takaoka](#), Itaru Hamachi, Kohei Tsumoto, Kentaro Shimidu*, Heme Binding Mechanism of Structurally Similar Iron Regulated Surface Determinant Near Transporter Domains of Staphylococcus aureus Exhibiting Different Affinities for Heme, *Biochemistry*, 52, 2013, 8866–8877
9. Kazuya Matsuo, Yoshiyuki Kioi, Ryosuke Yasui, [Yousuke Takaoka](#), Takayuki Miki, Sho-hei Fujishima, Itaru Hamachi*, One-step construction of caged carbonic anhydrase I using a ligand-directed acyl imidazole-based protein labeling method, *Chem. Sci.*, 4, 2013, 2573–2580
10. [Yousuke Takaoka](#), Akio Ojida, Itaru Hamachi*, Protein Organic Chemistry and Applications for Labeling and Engineering in Live Cell Systems, *Angew. Chem. Int. Ed.*, 52, 2013, 4088–4106
11. [Yousuke Takaoka](#), Yoshiyuki Kioi, Akira Morito, Junji Otani, Kyohei Arita, Eishi Ashihara, Mariko Ariyoshi, Hidehito Tochio, Masahiro Shirakawa, Itaru Hamachi*, Quantitative comparison of protein dynamics in live cells and in vitro by in-cell 19F-NMR, *Chem. Commun.*, 49, 2013, 2801–2803

【大神田淳子】

1. Prakash Parvatkar, Nobuo Kato, Motonari Uesugi, Shin-ichi Sato, *[Junko Ohkanda](#), “Intracellular generation of a diterpene-peptide conjugate that inhibits 14-3-3-mediated interactions” *J. Am. Chem. Soc.*, 137, 2015, 15624–15627
2. Takayoshi Suzuki, [Junko Ohkanda](#), Takashi Mori, Mitsue Nakashima, Motonari Uesugi, “Manifesting chemical biology in Manila” *Biochem. J.*, 1, 2014, 1–3
3. Kazuo Harada, Shoko Aoyama, Akimasa Matsugami, Penmetcha K. R. Kumar, Masato Katahira, Nobuo Kato, [Junko Ohkanda](#), “RNA-directed amino acid coupling as a model reaction for primitive coded translation” *ChemBioChem.*, 15, 2014, 794–798
4. *[Junko Ohkanda](#), “Module assembly for designing multivalent mid-sized inhibitors of protein-protein interactions” *Chemical Record*, 13, 2013, 561–575
5. Daisuke Hayashi, Nobuo Kato, Tomohisa Kuzuyama, Yasuo Sato, *[Junko Ohkanda](#), “Antimicrobial N-(2-chlorobenzyl)-substituted hydroxamate is an inhibitor of 1-deoxy-D-xylulose 5-phosphate synthase” *Chem. Commun.*, 49, 2013, 5535–5537 (Highlighted in the Inside Front Cover; *Chem. Commun.*, 2013, 49, 5520.)
6. Toshio Maki, Akie Kawamura, Nobuo Kato, *[Junko Ohkanda](#), “Chemical ligation of epoxide-containing fusicoccins and peptide fragments guided by 14-3-3 protein” *Mol. Biosyst.*, 9, 2013, 940–943. (Highlighted in the Inside Front Cover; *Mol. Biosyst.*, 2013, 9, 816.)
7. Manuela Molzan, Stefan Kasper, Lars Röglin, Malgorzata Skwarczynska, Takeshi Sassa, Takatsugu Inoue, Frank Breitenbücher, [Junko Ohkanda](#), Nobuo Kato*, Martin Schuler, Christian Ottmann, “Stabilization of physical RAF/14-3-3 interaction by Cotylenin A as treatment strategy for RAS mutant cancers” *ACS Chemical Biol.*, 8, 2013, 1869–1875
8. Carolin Anders, Yusuke Higuchi, Kristin Koschinsky, Maria Bartel, Benjamin Schumacher, Philipp Thiel, Hajime Nitta, Regina Preisig-Müller, Günter Schlichthörl, Vijay Renigunta, [Junko Ohkanda](#), Jürgen Daut, Nobuo Kato, Christian Ottmann, “A semi-synthetic fusicoccane stabilizes a protein-protein interaction and enhances the expression of K⁺ channels at the cell surface” *Chem. Biol.*, 20, 2013, 583–593
9. Shinnosuke Machida, Mai Tsubamoto, Nobuo Kato, Kazuo Harada, *[Junko Ohkanda](#), “Peptidomimetic modification improves cell permeation of bivalent farnesyltransferase inhibitors” *Bioorg. Med. Chem.* 21, 2013, 4004–4010
10. Koshi Kawakami, Miho Hattori, Takatsugu Inoue, Yuriko Maruyama, [Junko Ohkanda](#), Nobuo Kato, Miki Tongu, Tkaya Yamada, Miho Akimoto, Keizo Takenaga, Takeshi Sassa, Junji Suzumiya, Yoshio Honma “A novel fusicoccin derivative preferentially targets hypoxic tumor cells and inhibits tumor growth in xenografts” *Anticancer Agents Med. Chem.*, 12, 2012, 791–800
11. Yoshinobu Yamaguchi, Nobuo Kato, Hideki Azuma, Takeshi Nagasaki, *[Junko Ohkanda](#), “Protein recognition of hetero-/homoleptic ruthenium (II) tris(bipyridine)s for alpha-chymotrypsin and cytochrome c” *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 22, 2012, 2354–2358.
12. Michiko Takahashi, Akie Kawamura, Nobuo Kato, Tsuyoshi Nishi, Itaru Hamachi, *[Junko Ohkanda](#), “Phosphopeptide-dependent labeling of 14-3-3 zeta proteins by fusicoccin-based fluorescent probes” *Angew. Chem. Int. Ed.*, 51, 2012, 509–512

【相田美砂子】

1. S. Kusano, S. Ishiyama, SL, Lam, T. Mashima, M. Katahira, K. Miyamoto, [M. Aida](#), F. Nagatsugi. Crosslinking reactions of 4-amino-6-oxo-2-vinylpyrimidine with guanine derivatives and structural analysis of the adducts. *Nucleic Acids Research*, 43, 2015, 7717–7730.
2. Ami Kosaka, [Misako Aida](#), Yukiteru Katsumoto. Reconsidering the activation entropy for anomerization of glucose and mannose in water studied by NMR spectroscopy. *Journal of Molecular Structures*, 1093, 2015, 195–200.

- Yusuke Hanaki, Ryo C. Yanagita, Takahiro Sugahara, [Misako Aida](#), Harukuni Tokuda, Nobutaka Suzuki and Kazuhiro Irie. Synthesis and biological activities of the amide derivative of aplog-1, a simplified analog of aplysiatoxin with anti-proliferative and cytotoxic activities. *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*, Published online: 23 Jan 2015
- Tomonori Yamada and [Misako Aida](#). Fundamental frequency from classical molecular dynamics. *Phys. Chem. Chem. Phys.*, 17, 2015, 3227-3240.
- Dai Akase, Hiroyuki Teramae, *[Misako Aida](#). A Comprehensive Search of Topologically Distinct Local Minimum Structures of Protonated Water Octamer and the Classification of O-H Topological Types. *Chemical Physics Letters*, 618, 2015, 51-56.
- Dai Akase, *[Misako Aida](#). Distribution of Topologically Distinct Isomers of Water Clusters and Dipole Moments of Constituent Water Molecules at Finite Atmospheric Temperatures. *Journal of Physical Chemistry A*, 118(36), 2014, 7911-7924.
- Hideo Doi, Yudai Watanabe, *[Misako Aida](#). Influence of Trimethylamine N-Oxide (TMAO) on the Three-dimensional Distribution and Alignment of Solvent Molecules in Aqueous Solution. *Chemistry Letters*, 43(6), 2014, 865-867.
- Hideo Doi, *[Misako Aida](#). A new variant of multicanonical Monte Carlo algorithm with specifying the temperature range and its application to the hydration free energy change of fluorinated methane derivatives, *Chemical Physics Letters*, 595-596, 2014, 55-60
- Hidenori Miyamoto, *[Misako Aida](#). Helmholtz Energy Change between Neutral and Zwitterionic Forms of Glycine in Aqueous Solution Using Ab Initio Expanded QM/MM-MC with QM Solvent, *Chemistry Letters*, 42, 2013, 1010-1012
- Hidenori Miyamoto, *[Misako Aida](#). Ab Initio QM/MM-MC Study on Hydrogen Transfer of Glycine Tautomerization in Aqueous Solution: Helmholtz Energy Changes along Water-mediated and Direct Processes, *Chemistry Letters*, 42, 2013, 598-600
- Shunsuke Mieda, *[Misako Aida](#). Macro-dipole Moment of Polypeptides in β -Sheet and Its Prediction from Dipole Moments of Amino Acid Residues as Building Blocks: Alanine and Glycine in β -Strand, *Chemistry Letters*, 42, 2013, 473-475
- Shunsuke Mieda and *[Misako Aida](#) (2012) Dipole Moments of Amino Acid Residues, Gly and Ala, in α -Helix: Quantum Chemical Building Blocks for Macro-dipole Moment of α -Helical Polypeptide. *Chemistry Letters*, 41 (12), 2013, 1579-1580.

【大高章】

- Design and synthesis of a hydrogen peroxide-responsive amino acid that induces peptide bond cleavage after exposure to hydrogen peroxide. M. Kita, J. Yamamoto, T. Morisaki, C. Komiya, T. Inokuma, R. Miyamoto, K. Tsuchiya, A. Shigenaga and [A. Otaka](#). *Tetrahedron Lett.* 56, 2015, 4228-4231
- Photo-triggered fluorescent labelling of recombinant proteins in live cells. D. Jung, K. Sato, K. Min, A. Shigenaga, J. Jung, [A. Otaka](#) and Y. Kwon. *Chem. Commun.* 51, 2015, 9670-9673
- 重永 章、山本 純、大高 章・実験医学増刊号 驚愕の代謝システム～メタボロームの階層から解き明かす疾患研究の新たなステージ～ (株式会社羊土社)・生物活性小分子の結合パートナータンパク質を知りたいーリンカー分子を用いたタンパク質精製法ー・2014, 150-156
- 刺激応答型アミノ酸の開発と生命科学分野への展開 重永 章、大高 章化学工業 (特集 ペプチド化学の新潮流(1)) , 2014, 65, 849-856
- Development of a fluoride-responsive amide bond cleavage device that is potentially applicable to a traceable linker. J. Yamamoto, N. Maeda, C. Komiya, T. Tanaka, M. Denda, K. Ebisuno, W. Nomura, H. Tamamura, Y. Sato, A. Yamauchi, A. Shigenaga and [A. Otaka](#). *Tetrahedron* 2014, 70, 5122-5127
- Development of a traceable linker containing a thiol-responsive amino acid for the enrichment and selective labelling of target proteins. J. Yamamoto, M. Denda, N. Maeda, M. Kita, C. Komiya, T. Tanaka, W. Nomura, H. Tamamura, Y. Sato, A. Yamauchi, A. Shigenaga and [A. Otaka](#). *Org. Biomol. Chem.* 2014, 12, 3821-3826
- Development of caged non-hydrolyzable phosphoamino acids and application to photo-control of binding affinity of phosphopeptide mimetic to phosphopeptide-recognizing protein. K. Ebisuno, M. Denda, K. Ogura, T. Inokuma, A. Shigenaga and [A. Otaka](#). *Bioorg. Med. Chem.* 2014, 22, 2984-2991
- 新規タンパク質選択的ラベル化試薬"SEAL-tag"の開発研究 傳田将也、山本 純、佐藤浩平、坂本健、重永 章、佐藤陽一、吉村好之、山内あい子、大高 章 *ケミカルバイオロジー*, 2013, 6, 6-9
- Synthetic procedure for N-Fmoc amino acyl-N-sulfanylethylaniline linker as crypto-peptide thioester precursor with application to native chemical ligation. K. Sakamoto, K. Sato, A. Shigenaga, K. Tsuji, S. Tsuda, H. Hibino, Y. Nishiuchi and [A. Otaka](#). *J. Org. Chem.* 2012, 77, 6948-6958.
- 情報発信型人工タンパク質創製に向けた有機・生物有機化学的挑戦 大高 章 *有機合成化学協会誌*, 2012, 70, 1054
- Development of a reduction-responsive amino acid that induces peptide bond cleavage in hypoxic cells. A. Shigenaga, K. Ogura, H. Hirakawa, J. Yamamoto, K. Ebisuno, R. Miyamoto, K. Ishizawa, K. Tsuchiya and [A. Otaka](#). *ChemBioChem*. 2012, 13, 968-971

【高橋栄夫】

- Y. Mizukoshi, K. Takeuchi, M. Arutaki, T. Takizawa, H. Hanzawa, *[H. Takahashi](#), and *I. Shimada, "Suppression of problematic compound oligomerization by cosolubilization of nondetergent sulfobetaines", *ChemMedChem*, 10, 2015, 736-741.
- K. Takeuchi, Y. Tokunaga, M. Imai, [H. Takahashi](#), and *I. Shimada, "Dynamic multidrug recognition by multidrug transcriptional repressor LmrR", *Scientific Reports*, 4, 2014
- Y. Tokunaga, K. Takeuchi, [H. Takahashi](#), and *I. Shimada, "Allosteric enhancement of MAP kinase p38 alpha's activity and substrate selectivity by docking interactions", *Nat. Struct. Mol. Biol.*, 21, 2014, 704-711
- K. Ono, K. Takeuchi, H. Ueda, Y. Morita, R. Tanimura, *I. Shimada, and *[H. Takahashi](#), "Structure-Based Approach To Improve a Small Molecule Inhibitor by the Use of a Competitive Peptide Ligand", *Angew. Chem. Int. Ed.*, 53, 2014, 2597-2601
- Y. Kodama, K. Takeuchi, N. Shimba, K. Ishikawa, E. Suzuki, *I. Shimada, and *[H. Takahashi](#), "Rapid identification of ligand-binding sites by using an assignment-free NMR approach", *J. Med. Chem.*, 56, 2013, 9342-9350
- M. Miyazawa-Onami, K. Takeuchi, T. Takano, T. Sugiki, *I. Shimada, and *[H. Takahashi](#), "Perdeuteration and methyl-selective 1H, 13C-labeling by using a *Kluyveromyces lactis* expression system", *J. Biomol. NMR*, 57, 2013, 297-304
- T. Sugiki, K. Takeuchi, T. Yamaji, T. Takano, Y. Tokunaga, K. Kumagai, K. Hanada, *[H. Takahashi](#), and *I. Shimada, "Structural Basis for the Golgi Association by the Pleckstrin Homology Domain of the Ceramide Trafficking Protein (CERT)", *J. Biol. Chem.*, 287, 2012, 33706-33718
- T. Onizuka, H. Shimizu, Y. Moriwaki, T. Nakano, S. Kanai, *I. Shimada, and *[H. Takahashi](#), "NMR study of ligand release from asialoglycoprotein receptor under solution conditions in early endosomes", *FEBS J.* 279, 2012, 2645-2656
- Y. Mizukoshi, A. Abe, T. Takizawa, H. Hanzawa, Y. Fukunishi, *I. Shimada, and *[H. Takahashi](#), "An accurate pharmacophore mapping method by NMR spectroscopy", *Angew. Chem. Int. Ed.*, 51, 2012, 1362-1365

【菅敏幸】

- S. Ieda, A. Masuda, M. Kariyama, T. Wakimoto, T. Asakawa, T. Fukuyama, *[T. Kan](#) "Stereocontrolled Total Synthesis of (-)-FR-901483" *Heterocycles*, 86, 2012, 1071-1092
- K. Ikeuchi, S. Ido, S. Yoshimura, T. Asakawa, M. Inai, Y. Hamashima, *[T. Kan](#) "Catalytic Desymmetrization of Cyclohexadienes by Asymmetric Bromolactonization," *Org. Lett.*, 14, 2012, 6016-6019
- R. Mabuchi, A. Kurita, N. Miyoshi, A. Yokoyama, T. Furuta, T. Goda, Y. Suwa, [T. Kan](#), T. Amagai, H. Ohshima "Analysis of N^ε-ethyllysine in human plasma proteins by gas chromatography-negative ion chemical ionization/mass spectrometry as a biomarker for exposure to acetaldehyde and alcohol" *Alcohol Clin. Exp. Res.* 36, 2012, 1013-1020

4. K. Uchida, T. Ogawa, Y. Yasuda, H. Mimura, T. Fujimoto, T. Fukuyama,* T. Wakimoto, T. Asakawa, Y. Hamashima, T. Kan* “Stereocontrolled Total Synthesis of (+)-UCS1025A” *Angew. Chem., Int. Ed.* 51, 2012, 12850–12853
5. A. Yoshida, M. Akaiwa, Y. Hamashima, S. Yokoshima, T. Fukuyama,* T. Kan* “Total Synthesis of (–)-Lemonomycin” *Chem. Eur. J.* 18, 2012, 11192–11195
6. H. Ushikubo, S. Watanabe, Y. Tanimoto, K. Abe, A. Hiza, T. Ogawa, T. Asakawa, T. Kan, T. Akaishi* “3,3',4',5',5'-Pentahydroxyflavone is a potent inhibitor of amyloid fibril formation” *Neurosci. Lett.*, 513, 2012, 51–56
7. S. Matsumoto, T. Asakawa, Y. Hamashima, T. Kan* “A Short-step Asymmetric Synthesis of Dehydrodiconiferyl Alcohol via C-H Insertion Reaction” *SYNLETT*, 2012, 1082–1084
8. Y. Kawabe, Y. Aihara, Y. Hirose, A. Sakurada, A. Yoshida, M. Inai, T. Asakawa, Y. Hamashima, T. Kan* “Synthesis of Theaflavins via Biomimetic Oxidative Coupling Reaction” *Synlett*, 2013, 479–482
9. A. Kawanishi, C. Miyamoto, Y. Yabe, M. Inai, T. Asakawa, Y. Hamashima, H. Sajiki, T. Kan* “Chemoselective Hydrogenation Reaction of Unsaturated Bonds in the Presence of *o*-Nitrobenzenesulfonyl Group” *Org. Lett.*, 15, 2013, 1306–1309
10. S. Onoue,* T. Nakamura, A. Uchida, K. Ogawa, K. Yuminoki, N. Hashimoto, A. Hiza, Y. Tsukaguchi, T. Asakawa, T. Kan, S. Yamada “Physicochemical and biopharmaceutical characterization of amorphous solid dispersion of nobiletin, a citrus polymethoxylated flavone, with improved hepatoprotective effects” *Euro. J. Pharm. Sci.*, 49, 2013, 453–460
11. K. Ikeuchi, M. Hayashi, T. Yamamoto, M. Inai, T. Asakawa, Y. Hamashima, T. Kan* “Stereocontrolled total synthesis of sphingofungin E” *Eur. J. Org. Chem.*, 2013, 6789–6792
12. S. Misaka,* K. Kawabe, S. Onoue, J. P. Werba, M. Giroli, S. Tamaki, T. Kan, J. Kimura, H. Watanabe, S. Yamada “Effects of green tea catechins on cytochrome P450 2B6, 2C8, 2C19, 2D6 and 3A activities in human liver and intestinal microsomes” *Drug Metabolism and Pharmacokinetics.*, 28, 2013, 244–249
13. T. Asakawa, Y. Hamashima, T. Kan,* Chemical synthesis of tea polyphenols and related compounds, *Current Pharmaceutical Design.*, 19, 2013, 6207–6217
14. 河岸洋和, 菅敏幸 「スギヒラタケ急性脳症事件の化学的解明の試み」 *化学と生物*, 51, 2013, 134–137
15. 菅敏幸, 河岸洋和, スギヒラタケの毒の「謎」に挑む, *MEDCHEM NEWS*, 23, 2013, 11–15
16. H. Ushikubo, Y. Tanimoto, K. Abe, T. Asakawa, T. Kan, T. Akaishi* “3,3',4',5'-Tetrahydroxyflavone Induces Formation of Large Aggregates of Amyloid β Protein” *Biol. Pharm. Bull.*, 37, 2014, 748–754
17. K. Matsuura, Y. Usui, T. Kan, T. Ishii, T. Nakayama* “Structural specificity of electric potentials in the coulometric-array analysis of catechins and theaflavins” *J. Clin. Biochem. Nutr.*, 55, 2014, 103–109
18. R. Ishikawa, N. Yoshida, Y. Akao, Y. Kawabe, M. Inai, T. Asakawa, Y. Hamashima,* T. Kan* “Total Syntheses of (+)-Sesamin and (+)-Sesaminol” *Chem. Lett.*, 43, 2014, 1572–1574
19. K. Ikeuchi, R. Fujii, S. Sugiyama, T. Asakawa, M. Inai, Y. Hamashima, J.-H. Choi, T. Suzuki, H. Kawagishi,* T. Kan* “Practical synthesis of natural plant-growth regulator 2-azahypoxanthine, its derivatives, and biotin-labeled probes” *Org. Biomol. Chem.*, 12, 2014, 3813–3815
20. N. Yasuda, T. Ishii, D. Oyama, T. Fukuta, Y. Agato, A. Sato, K. Shimizu, T. Asai, T. Asakawa, T. Kan, S. Yamada, Y. Ohizumi, N. Oku* “Neuroprotective effect of nobiletin on cerebral ischemia–reperfusion injury in transient middle cerebral artery-occluded rats” *Brain Res.*, 2014, 1559, 46–54
21. H. Tobina, J.-H. Choi, T. Asai, Y. Kiriwa, T. Asakawa, T. Kan, A. Morita, H. Kawagishi* “2-Azahypoxanthine and imidazole-4-carboxamide produced by the fairy-ring-forming fungus increases wheat yield” *Field Crops Res.*, 162C, 2014, 1–6
22. H. Ouchi, A. Asahina, T. Asakawa, M. Inai, Y. Hamashima, T. Kan* “Practical Total Syntheses of Acromelic Acids A and B” *Org. Lett.*, 16, 2014, 1980–1983
23. Y. Kawabe, R. Ishikawa, Y. Akao, A. Yoshida, M. Inai, T. Asakawa, Y. Hamashima, T. Kan* “Stereocontrolled Total Synthesis of Hedyotol A” *Org. Lett.*, 16, 2014, 1976–1979
24. Y. Hirooka, K. Ikeuchi, Y. Kawamoto, Y. Akao, T. Furuta, T. Asakawa, M. Inai, T. Wakimoto, T. Fukuyama,* T. Kan* “Enantioselective Synthesis of SB-203207” *Org. Lett.*, 16, 2014, 1646–1649
25. K. Shimizu, T. Asakawa, N. Harada, D. Fukumoto, H. Tsukada, T. Asai, S. Yamada, T. Kan, N. Oku* “Use of positron emission tomography for real-time imaging of biodistribution of green tea catechin” *PLoS ONE*, 9, 2014, e85520
26. J.-H. Choi, T. Ohnishi, Y. Yamakawa, S. Takeda, S. Sekiguchi, W. Maruyama, K. Yamashita, T. Suzuki, A. Morita, T. Ikka, R. Motohashi, Y. Kiriwa, H. Tobina, T. Asai, S. Tokuyama, H. Hirai, N. Yasuda, K. Noguchi, T. Asakawa, S. Sugiyama, T. Kan, H. Kawagishi* “The Source of “Fairy Rings”, 2-Azahypoxanthine and its Metabolite Found in a Novel Purine Metabolic Pathway in Plants” *Angew. Chem. Int. Ed.*, 53, 2014, 1552–1555
27. S. Sasaki, H. Suzuki, H. Ouchi, T. Asakawa, M. Inai, R. Sakai, K. Shimamoto, Y. Hamashima,* T. Kan* “Practical Synthesis of Kainoids: A New Chemical Probe Precursor and a Fluorescent Probe” *Org. Lett.*, 16, 2014, 564–567
28. A. Hiza, Y. Tsukaguchi, T. Ogawa, M. Inai, T. Asakawa, Y. Hamashima, T. Kan* “Synthetic Studies of Fisetin, Myricetin and Nobiletin Analogs and Related Probe Molecules” *HETEROCYCLES*, 88, 2014, 1371–1396
29. 菅敏幸, 浅川倫宏, 奥直人, 清水広介, 塚田秀夫「カテキンプローブの効率的合成と分子イメージングによる動態解析」 *The Chemical Times*, 2014, 18–23
30. H. Katayama, K. Iwamoto, Y. Kariya, T. Asakawa, T. Kan, H. Fukuda, K. Ohashi-Ito* “A negative feedback loop controlling bHLH complexes is involved in vascular cell division and differentiation in the root apical meristem” *Curr. Biol.*, 25, 2015, 3144–3150
31. M. Inai, R. Ishikawa, N. Yoshida, N. Shirakawa, Y. Akao, Y. Kawabe, T. Asakawa, M. Egi, Y. Hamashima, T. Kan* “Stereocontrolled Total Syntheses of Optically Active Furofuran Lignans” *Synthesis*, 47, 2015, 3513–3521
32. T. Asai, J.-H. Choi, T. Ikka, K. Fushimi, N. Abe, H. Tanaka, Y. Yamakawa, H. Kobori, Y. Kiriwa, R. Motohashi, V. K. Deo, T. Asakawa, T. Kan, A. Morita, H. Kawagishi* “Effect of 2-Azahypoxanthine (AHX) Produced by the Fairy-Ring-Forming Fungus on the Growth and the Grain Yield of Rice” *Jpn. Agric. Res. Quart.*, 49, 2015, 45–49
33. V. Le, M. Inai, R. M. Williams,* T. Kan* “Ecteinascidins. A review of the chemistry, biology and clinical utility of potent tetrahydroisoquinoline antitumor antibiotics” *Nat. Prod. Rep.*, 32, 2015, 328–347

【中村浩之】

1. H. S. Ban, Y. Uto, M. Won,* H. Nakamura, Hypoxia-inducible factor (HIF) inhibitors: a patent survey (2011-2015). *Exp. Opin. Ther. Pat.* 26, 2016, 309–322
2. S. Saṭo, K. Nakamura,* H. Nakamura, Tyrosine-Specific Chemical Modification with *in situ* Hemin-Activated Luminol Derivatives. *ACS Chem. Biol.* 10, 2015, 2633–2640
3. G. Li, S. Azuma, H. Minegishi,* H. Nakamura, Synthesis and Biological Evaluation of *meta*-Carborane-Containing phenoxyacetanilides as Inhibitors of Hypoxia-Inducible Factor (HIF)-1 Transcriptional Activity. *J. Organomet. Chem.* 798, 2015, 189–195
4. H. Minegishi, Y. Futamura, S. Fukashiro, M. Muroi, M. Kawatani, H. Osada,* H. Nakamura, Methyl 3-((6-methoxy-1,4-dihydroindeno[1,2-c]pyrazol-3-yl)amino) benzoate (GN39482) as a Tubulin Polymerization Inhibitor Identified by MorphoBase and ChemProteoBase Profiling Methods. *J. Med. Chem.* 58, 2015, 4230–4241
5. G. Li, S. Azuma, S. Saṭo, H. Minegishi,* H. Nakamura, ortho-Carboranylphenoxyacetanilides as Inhibitors of Hypoxia-Inducible Factor (HIF)-1 Transcriptional Activity and Heat Shock Protein (HSP) 60 Chaperon Activity. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 25, 2015, 2524–2628

- H. S. Ban, *H. Nakamura, Boron-Based Drug Design. *Chem. Rec.* 15, 2015, 616-635
- S. Sato, K. Morita, *H. Nakamura, Regulation of target protein knockdown and labeling using ligand-directed Ru(bpy)₃ photocatalyst. *Bioconjugate Chem.* 26, 2015, 250-256
- *H. Nakamura, L. Tazaki, D. Kanoh, S. Sato, Diaryl-substituted carboranes as inhibitors of hypoxia inducible factor-1 transcriptional activity, *Pure Appl. Chem.* 87, 2015, 145-154
- *H. Nakamura, H. S. Ban, K. Shimizu, H. Minegishi, S. Sato, Design of Photoaffinity Probe Molecules for Identification and Modification of Target Proteins. *J. Photopolym. Sci. Technol.* 27, 2014, 453-458
- xia inducible factor-1 α inhibitors. *J. Chem. Soc., Dalton Trans.* 43, 2014, 4941-4944
- S. Sato, *H. Nakamura, Ligand-directed Selective Protein Modification Based on Local Single Electron Transfer Catalysis. *Angew. Chem. Int. Ed.* 52, 2013, 8681-8684
- *H. Nakamura, Y. Yasui, H. S. Ban, Synthesis and Biological Evaluation of ortho-Carborane Containing Benzoxazole as an Inhibitor of Hypoxia Inducible Factor (HIF)-1 Transcriptional Activity. *J. Organomet. Chem.* 747, 2013, 189-194
- H. Minegishi, S. Fukashiro, H. S. Ban, *H. Nakamura, Discovery of Indenopyrazoles as a New Class of Hypoxia Inducible Factor (HIF)-1 Inhibitors. *ACS Med. Chem. Lett.* 4, 2013, 297-301
- H. Minegishi, T. Matsukawa, *H. Nakamura, Synthesis and Biological Evaluation of Diaryl-Substituted Carboranes as Inhibitors of Hypoxia Inducible Factor (HIF)-1 Transcriptional Activity. *ChemMedChem*, 8, 2013, 265-271
- *H. Nakamura, Y. Yasui, M. Maruyama, H. Minegishi, H. S. Ban, S. Sato, Development of Hypoxia-Inducible Factor (HIF)-1 α Inhibitors: Effect of ortho-Carborane Substituents on HIF Transcriptional Activity under Hypoxia. *Bioorg. Med. Chem. Lett.* 23, 2013, 1455-1461
- *H. Nakamura, H. Minegishi, HSP60 as a drug target. *Curr. Pharm. Des. (Review)* 19, 2013, 441-451
- A. Takeuchi, M. Hori, S. Sato, H. S. Ban, T. Kuchimaru, S. Kizaka-Kondoh, T. Yamori, *H. Nakamura, Synthesis and biological evaluation of furylindazoles as hypoxia inducible factor (HIF)-1 α inhibitors. *Med. Chem. Commun.* 3, 2012, 1455-1461.

【神澤信行】

- R. Asahi, K. Tanaka, T.J. Fujimi, N. Kanzawa, S. Nakajima*, Proline decreases the suppressive effect of histidine on food intake and fat accumulation, *J. Nutri. Sci. Vitaminol.* 62, 2016, 277-280
- N. Kanzawa*, H. Takano, K. Yasuda, M. Takahara, M. Aizawa, Studies on connexin 43, a gap-junction protein, in P19 embryonal carcinoma cells after culture on an apatite fiber scaffold, *Key Engineer. Mater.*, 696, 2016, 230-233
- H. Ohsugi, J. Hatsukawa, M. Takahara, M. Aizawa, N. Kanzawa*, Real-time evaluation of the effects of dexamethasone on osteoblasts using dual labeling with fluorescent probes, *Key Engineer. Mater.*, 631, 2015, 379-383
- K. Yasuda, M. Takahara, M. Aizawa, N. Kanzawa*, P19.CL6 cells cultured in AFS differentiate into cardiomyocytes, *Key Engineer. Mater.*, 631, 2015, 295-299
- Y. Shimizu, Y. Kawanobe, T. Konishi, N. Kanzawa, M. Honda, M. Aizawa*, Biocompatibility of silver-containing calcium-phosphate cements with anti-bacterial properties, *Key Engineer. Mater.*, 631, 2015, 278-2859
- S. Motojima, N. Igeta, H. Muramatsu, H. Uchida, K. Itatani, N. Kanzawa, M. Honda, M. Aizawa*, Fabrication of apatite-fiber scaffolds with enhanced mechanical property using chemical cross-linking of type I-collagen and their biocompatibility, *J. Soc. Inorg Mater. Jpn* 21, 2014, 278-285
- M. Honda, N. Kanzawa, M. Aizawa*, In vitro and in vivo antimicrobial properties of silver-containing hydroxyapatite prepared via ultrasonic spray pyrolysis route, *Mater. Sci Eng. C* 33, 2013, 5008-5018
- M. Honda, Y. Watanabe, T. Tsuchiya, N. Kanzawa, M. Aizawa*, Selective differentiation of bone marrow-derived mesenchymal stromal cells into osteocytes via endochondral ossification in an apatite-fiber scaffold. *J. Ceram. Soc. Jpn.* 121, 2013, 759-769
- R. Okuhata, Y. Otsuka, T. Tsuchiya, N. Kanzawa*, Mutagenesis of apyrase conserved region 1 alters the nucleotide substrate specificity, *Plant Signaling & Behavior* 8, 2013, e24131
- H. Ishii, Y. Mukai, M. Aizawa, N. Kanzawa*, Analysis of gene expression and morphology of P19 cells cultured in an apatite-fiber scaffold, *Key Engineer. Mater.*, 529-530, 2013, 370-373
- H. Ohsugi, Y. Habuto, M. Honda, M. Aizawa, N. Kanzawa*, Evaluation of the anti-bacterial activity of a novel chelate-setting apatite cement containing lactoferrin, *Key Engineer. Mater.*, 529-530, 2013, 187-191
- T. Inayama, H. Konishi, M. Aizawa, N. Kanzawa*, Studies on the anti-tumor action of chelate-setting apatite cements, *Key Engineer. Mater.*, 529-530, 2013, 178-182
- C.C. Chatrachachaya, K. Wiengsamut, S. Chanthai*, N. Sattayasai, T. Tamiya, N. Kanzawa, T. Tsuchiya, *Fish Physiol. Biochem.*, 38, 2012, 1533-1543

【中川優】

- *中川 優 第三の生命鎖・糖鎖に結合する低分子化合物に関する現状と展望, *ファルマシア*, 50, 2014, 1117-1122.
- *Nakagawa, Y., Doi, T., Taketani, T., Takegoshi, K., Igarashi, Y., and *Ito, Y. Mannose binding geometry of pradimicin A. *Chem. Eur. J.*, 19, 2013, 10516-10525
- *Nakagawa, Y. and *Ito, Y. Carbohydrate-binding molecules with non-peptidic skeletons. *Trends Glycosci. Glycotechnol.*, 24, 2012, 1-12
- *Nakagawa, Y., Doi, T., Takegoshi, K., Igarashi, Y., and *Ito, Y. Solid-state NMR analysis of calcium and D-mannose binding of BMV-28864, a water-soluble analogue of pradimicin A. *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 22, 2012, 1040-1043

【室井誠】

- Tarui Y, Chinen T, Nagumo Y, Motoyama T, Hayashi T, Hirota H, Muroi M, Ishii, Y, Kondo H and Osada H, *Usui T. Terpendole E and its derivative inhibit STLC- and GSK-1-resistant Eg5. *Chembiochem* 15, 2014, 934-938
- Futamura Y, Kawatani M, Muroi M, Aono H, Nogawa T and *Osada H., Molecular Target Identification of a Novel Fungal Metabolite, Pyrrolizilactone, by Phenotypic Profiling Systems. *ChemBioChem* 14, 2013, 2456-63
- Sasazawa Y, Kanagaki S, Tashiro E, Nogawa T, Muroi M, Kondoh Y, Osada H and *Imoto M., Xanthohumol impairs autophagosome maturation through direct inhibition of valosin-containing protein. *ACS Chem. Biol.* 7, 2012, 892-900
- Futamura Y, Kawatani M, Kazami S, Tanaka K, Muroi M, Shimizu T, Tomita K, Watanabe N and *Osada H., An encyclopedic cell morphology database, and its use for drug target identification. *Morphobase, Chem. Biol.* 19, 2012, 1620-1630
- Y. Asami, J. H. Jang, N. K. Soung, L. He, D. O. Moon, J. W. Kim, H. Oh, M. Muroi, H. Osada, B. Y. Kim, J. S. Ahn, Protuboxepin A, a marine fungal metabolite, inducing metaphase arrest and chromosomal misalignment in tumor cells. *Bioorg. Med. Chem.*, 20, 2012, 3799-3806

【大栗博毅】

- *Hiroki Oguri, Biomimetic assembly lines producing natural product analogs: Strategies from a versatile manifold to skeletally diverse scaffolds. *Chem. Rec.* 16, 2016, 652-666

【浜本晋】

- Boccaccio, A., Scholz-Starke, J., Hamamoto, S., Larisch, N., Festa, M., Gutla, P. V. K., Costa, A., Dietrich, P., Uozumi, N., and Carpaneto, A. The phosphoinositide PI(3,5)P₂ mediates activation of mammalian but not plant TPC proteins: functional expression of endolysosomal channels in yeast and plant cells. *Cell. Mol. Life Sci.* 2014
- Hamamoto, S., and Uozumi, N. Organelle-localized potassium transport system in plants *J. Plant Physiol*, 171, 2014, 743-747

3. Yamaguchi, T., Hamamoto, S., and Uozumi, N. Sodium transport system in plant cells. *Frontiers in plant Science, Plant Physiology*, 4, 2013, 410,1-7
 4. M. Ihara, S. Hamamoto, Y. Miyanoiri, M. Takeda, M. Kainosho, I. Yabe, N. Uozumi, A. Yamashita, Molecular bases of multimodal regulation of a fungal transient receptor potential (TRP) channel. *J Biol Chem*. 2013 Apr 3
 5. 浜本 晋, 七谷 圭, 魚住信之, 植物の乾燥ストレス耐性に関わる K⁺チャネルの制御機構、バイオサイエンスとインダストリー、71(3), 2013, 234-236
 6. Y. Ishimaru, S. Hamamoto, N. Uozumi and M. Ueda, Regulatory mechanism of plant nyctinastic movement: An ion channel-related plant behavior *Plant Electrophysiology, Plant Electrophysiology*, 2012, 125-142
 7. 浜本 晋, 七谷 圭, 佐藤陽子, 魚住信之, 植物と微生物の駆動力と膜輸送体、化学と生物、50(2), 2012, 86-92
- 【齋藤大明】
1. Syusuke Egoshi, Yousuke Takaoka, Hiroaki Saito, Yuuki Nukadzuka, Kengo Hayashi, Yasuhiro Ishimaru, Hiroyuki Yamakoshi, Kosuke Dodo, Mikiko Sodeoka and *Minoru Ueda "Dual function of coronatine as a bacterial virulence factor against plants: possible COII-JAZ- independent role" *Cite this: RSC Adv.*, 6, 2016, 19404-19412
 2. *K. Kawaguchi, H. Saito, and H. Nagao, "Decomposition analysis of free energy profile for Hsp90-ADP association", *Molecular Simulation*, 42(11), 2016, 896-901
 3. *Masashi Iwayama, Kazutomo Kawaguchi, Hiroaki Saito, Hidemi Nagao, "A hybrid type approach with MD and DFT calculations for evaluation of redox potential of molecules", *Molecular simulation*, 41, 2015, 936-941
 4. *Takeshi Miyakawa, Ryota Morikawa, Masako Takasu, Kimikazu Sugimori, Kazutomo Kawaguchi, Hiroaki Saito, Hidemi Nagao, "Analysis of water molecules around GTP in Hras-GTP complex and GDP in Hras-GDP complex by molecular dynamics simulations", *Mol. Phys.* 112, 2014, 526-532
- 【上杉志成】
1. Takaya, J., Mio, K., Shiraishi, T., Kurokawa, T., Otsuka, S., Mori, Y., Uesugi, M. A potent and site-selective agonist of TRPA1. *J. Am. Chem. Soc.* 137, 2015, 15859-15864
 2. Sato, S., Watanabe, M., Katsuda, Y., Murata, A., Wang, D. O., Uesugi, M. Live-cell imaging of endogenous mRNAs with a small molecule. *Angew. Chem. Int. Ed.* 54, 2015, 1855-1858
 3. Frisco-Cabanos, H.L., Watanabe, M., Okumura, N., Kusamori, K., Takemoto, N., Takaya, J., Sato, S., Yamazoe, S., Takakura, Y., Kinoshita, S., Nishikawa, M., Koizumi, N., Uesugi, M. Synthetic molecules that protect cells from anoikis and their use in cell transplantation. *Angew. Chem. Int. Ed.* 53, 2014, 11208-11213
 4. Kuo, T.F., Mao, D., Hirata, N., Khambu, B., Kimura, Y., Kawase, E., Shimogawa, H., Ojika, M., Nakatsuji, N., Ueda, K., Uesugi, M. Selective elimination of human pluripotent stem cells by a marine natural product derivative. *J. Am. Chem. Soc.* 136 (28), 2014, 9798-9801
 5. Hirata, N., Nakagawa, M., Fujibayashi, Y., Yamauchi, K., Murata, A., Minami, I., Tomioka, M., Kondo, T., Kuo, T.F., Endo, H., Inoue, H., Sato, S., Ando, S., Kawazoe, Y., Aiba, K., Nagata, K., Kawase, E., Chang, Y.T., Suemori, H., Eto, K., Nakauchi, H., Yamanaka, S., Nakatsuji, N., Ueda, K., Uesugi, M. A chemical probe that labels human pluripotent stem cells. *Cell Rep* 6, 2014, 1165-1174
 6. Sakano, D., Shiraki, N., Kikawa, K., Yamazoe, T., Kataoka, M., Umeda, K., Araki, K., Mao, D., Matsumoto, S., Nakagata, N., Andersson, O., Stainier, D., Endo, F., Kume, K., Uesugi, M., Kume, S. VMAT2 identified as a regulator of late-stage beta cell differentiation. *Nat. Chem. Biol.* 10, 2014, 141-148
- 【三尾和弘】
1. Takaya J, Mio K, Shiraishi T, Kurokawa T, Otsuka S, Mori Y, *Uesugi M. A Potent and Site-Selective Agonist of TRPA1. *J Am Chem Soc.* 137, 2015, 15859-15864
 2. Mentily N, Okada T, Ebihara T, Sato M, Kurabayashi A, Furihata M, Suga M, Nishiyama H, Mio K, *Sato C. Observation of tissues in open aqueous solution by atmospheric scanning electron microscopy: applicability to intraoperative cancer diagnosis. *Int J Oncol.* 46, 2015, 1872-1882
 3. *Mio K, Tsukazaki T, Mori H, Kawata M, Moriya T, Sasaki Y, Ishitani R, Ito K, Nureki O, Sato C. Conformational variation of the translocon enhancing chaperone SecDF. *J Struct Funct Genomics.* 5, 2014, 107-115
 4. Moriuchi T, Osumi T, Mio K, Muraoka T, *Hirose F, Long-term Expression of the Lamin A Mutant Associated with Dilated Cardiomyopathy Induces Senescence. *Genes to Cells.* 19, 2014, 901-918
 5. Owada T, Kaneko M, Matsumoto C, Sobata R, Igarashi M, Suzuki K, Matsubayashi K, Mio K, Uchida S, Satake M, *Tadokoro K. Establishment of culture systems for Genotypes 3 and 4 hepatitis E virus (HEV) obtained from human blood and application of HEV inactivation using a pathogen reduction technology system. *Transfusion.* 54, 2014, 2820-2827
 6. *Sato C, Mio K, Kawata M, Ogura T. 3D structure determination of protein using TEM single particle analysis. *Microscopy*, 63, 2014, i9-i10

(2) 学会発表

A01：分子標的探索と生物学的評価

【半田宏】

1. 半田 宏, 半田ピースの開発から生命の謎に挑戦、第84回日本生化学会フォーラム：2011.9.22-24、京都国際会館（京都・京都）
2. 半田 宏, 高機能磁性ビーズのケミカルバイオロジーへの応用—サリドマイド催奇性の原因因子の発見—、和漢研セミナー、2011.9.29、富山大学（富山・富山）
3. 半田 宏, 高機能磁性ビーズのケミカルバイオロジーへの応用、新学術領域研究 天然物ケミカルバイオロジー・キックオフシンポジウム、2011.10.11、慶應義塾大学（横浜・神奈川）
4. Hiroshi Handa, Development of high-performance affinity magnetic beads and their application to chemical biology, 2011RIKEN Chemical Biology Symposium 2011.10.20-21, RIKEN (Wako, Saitama)
5. 半田 宏, サリドマイド催奇性の謎を解明 "Deciphering the mystery of thalidomide teratogenicity", KMC Frontier Seminar, 2011.12.14、北里大学 北里生命科学研究所（港・東京）
6. 半田 宏, パネル討論「イノベーションと他の公共善をどう調整していくか」、国際コンファレンス「特許制度と公共政策」、2012.3.08、明治大学（千代田・東京）
7. 半田 宏・坂本 聡, サリドマイド催奇性の謎を解明、日本農芸化学会 2012 年度大会、2012.3.25、京都女子大学（京都・京都）
8. 半田 宏, サリドマイド催奇性の謎を解く、山梨科学アカデミー交流大会、2012.5.28、ベルクラシック甲府（甲府・山梨）
9. 坂本 聡・伊藤雄気・梨本明宏・羽瀬康嘉・加部泰明・半田 宏、可塑剤ビスフェノール A の細胞障害作用機構の解析、第7回日本ケミカルバイオロジー学会、2012.6.7-9、京都大学 百周年時計台記念館 百周年記念ホール（京都・京都）
10. 半田 宏, サリドマイド催奇性の謎を解く、東京理科大学 大学院講義、2012.10.4、東京理科大学（野田・千葉）
11. 半田 宏, 化合物ターゲットから創薬への展開、生命医薬情報学連合大会、2012.10.14-16、タワーホール船堀（江戸川・東京）

12. Hiroshi Handa, Expansion from chemical target identification to drug discovery : The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products :Target ID and Regulation of Bioactivity, 2012.10.31-11.1, Kyoto Century Hotel (Kyoto, Kyoto)
13. Hiroshi Handa, Unlock the secret of life with chemical compounds -Identification of a target of thalidomide teratogenicity-, Kyoto University Graduate school of Medicine Seminar, 2012.11.15, Kyoto University (Kyoto, Kyoto)
14. 半田 宏, ケミカルによる生命の謎への挑戦 (Challenge to the mystery of life by chemical), 日本糖鎖コンソーシアム(JCGG)シンポジウム, 2012.11.29, 東京コンファレンスセンター (港・東京)
15. 半田 宏, ケミカルによる生命の謎への挑戦-半田ビーズ[®]によるサリドマイド催奇性の原因因子の発見-, 山形県立産業技術短期大学校講義, 2012.12.5, 山形県立産業技術短期大学校 (山形, 山形)
16. 半田 宏, パネル討論「イノベーション創出に資する知財マネージメント：今後のあり方」、日本産業を元気にするための産学官連携プロジェクト, 2012.12.7, ホテルグランドアーク半蔵門 (千代田・東京)
17. 半田 宏, 天然物ケミカルバイオロジーの最先端 -ケミカルで知り、ケミカルで動かす-, 伊那谷アグリイノベーション推進機構設立準備会, 2012.12.18, 飯田女子短期大学 (飯田・長野)
18. 半田 宏, パネル討論「生命科学、食品科学と地域産業」、伊那谷アグリイノベーション推進機構設立準備会, 2012.12.18, 飯田女子短期大学 (飯田・長野)
19. Hiroshi Handa, Unlock the secrets of life with chemical compounds: Identification of target of thalidomide teratogenicity, IDIBELL Seminars, 2013.2.22, University of Barcelona (Barcelona, Spain)
20. 半田 宏:機能性磁性ビーズの作製と医療への応用：信州大学メディカル・ヘルスイノベーション講座 第1回大会, 2013.4.23, 信州大学 (松本・長野)
21. Hiroshi Handa, History of identification of CRBN, IMiDs Seminar, 2013.5.14, Imperial Hotel (Chiyoda, Tokyo)
22. 半田 宏, ケミカルで知り、ケミカルで動かす、核酸制御 (陽進堂) 共同研究講座設立記念シンポジウム, 2013.5.31, 大阪大学 (吹田・大阪)
23. 坂本 聡・唐澤慧記・東 基記・笠間健嗣・宮澤啓介・山口雄輝・半田 宏, ビタミン K2 が引き起こすがん細胞のアポトーシス誘導機構の解析, 日本ケミカルバイオロジー学会第8回年会, 2013.6.19-21, 東京医科歯科大学 M&D タワー2階 鈴木章夫記念講堂 (文京・東京)
24. Hiroshi Handa, Identification of a target of thalidomide teratogenicity, 35th Naito Conference, 2013.7.9-12, Chateraise Gateaux Kingdom Sapporo (Shapporo, Hokkaido)
25. Hiroshi Handa, Encounter with Celgene, Vice President Dinner Meeting, 2013.7.15, Morris Museum (New Jersey, USA)
26. 半田 宏, サリドマイド催奇性の原因因子の発見から創薬への展開, 信州大学 臨床検査部講演, 2013.10.3, 信州大学 (松本・長野)
27. 半田 宏, サリドマイド催奇性の原因因子の発見から創薬への展開, 日本臓器保存生物医学会, 2013.11.9-10, 東京医科大学 (新宿・東京)
28. 半田 宏, ケミカルによる生命の謎への挑戦-サリドマイド催奇性の原因因子の発見-, 九州大学 生体防御医学研究所セミナー, 2013.11.28, 九州大学 (福岡・福岡)
29. Hiroshi Handa, Expansion from chemical target identification to drug discovery, Thalidomide Embryopathy Conference, 2014.2.24-25, (Geneva, Switzerland)
30. 坂本 聡・唐澤慧記・東 基記・笠間健嗣・宮澤啓介・山口雄輝・半田 宏, ビタミン K2 が引き起こすがん細胞のアポトーシス誘導機構の解析, 日本化学会第94春季年会(2014), 2014.3.27-30, 名古屋大学 東山キャンパス (名古屋・愛知)
31. 半田 宏, IMiDs の作用機序-近年の報告から-, Therapeutic strategies for Multiple Myeloma 2014, 2014.4.12, ホテル日航福岡 (福岡・福岡)
32. 坂本 聡・Vipul Gupta・劉 舒捷・安藤秀樹・館野峻平・金子裕生・湯上真人・石井亮平・濡木 理・山口雄輝・半田 宏, 抗炎症薬サリチル酸の生体内作用機構の解明, 日本ケミカルバイオロジー学会第9回年会, 2014.6.11-13, 大阪大学 豊中キャンパス 大阪大学会館 (豊中・大阪)
33. Hiroshi Handa, Identification of a primary target of thalidomide teratogenicity: towards the development of new drugs, RNA Biology, 2014.6.14 (Boston, USA)
34. Takumi Ito and Hiroshi Handa, Cereblon is a substrate receptor of the CUL4-DDB1 ubiquitin ligase whose activity is directly controlled by thalidomide and its analogs, Protein Modification & Homeostasis, 2014.6.16-20, Suzhou Dushu Lake Conference Center (Suzhou, China)
35. 半田 宏, IMiDs のセレブロンを介した多様な薬理作用, Shinjuku Myeloma Conference, 2014.7.24, 国際医療研究センター (新宿・東京)
36. 半田 宏, 大学のシーズ研究から実用化に向けて-大学における基礎研究の重要性-, メディカル・ヘルスイノベーション講座 第8回定例講演会, 2014.9.9, 信州大学 医学部 (松本・長野)
37. 半田 宏, セレブロン-サリドマイド催奇性から創薬への展開-, セルジーン血液腫瘍フォーラム, 2014.9.13, 京都国際ホテル (京都・京都)
38. 半田 宏, ケミカルで生命の謎を知る!, 第48回医科学フォーラム, 2014.9.24, 東京医科大学 (新宿・東京)
39. 半田 宏, 機能性ナノビーズの医学・医療への応用, 「機能性磁性ナノビーズ技術を基盤とする難治性疾患のタンパク質分解制御機構の解明と新規治療法の開発」キックオフシンポジウム, 2014.10.8, 東京医科大学 (新宿・東京)
40. 半田 宏, IMiDs の多彩な薬理作用-標的分子探索研究の進歩-, 第76回日本血液学会学術集会, 2014.10.31-11.2, 大阪国際会議場 (大阪・大阪)
41. 半田 宏, サリドマイド催奇性のターゲットの発見から創薬への展開-ケミカルで知り、ケミカルで動かす-, 埼玉医科大学 ゲノム医学研究センターセミナー, 2015.1.23, 埼玉医科大学 (毛呂山・埼玉)
42. 半田 宏, ケミカルで知り、ケミカルで動かす-サリドマイド催奇性のターゲットの発見から創薬への展開-, サントリー生命科学財団セミナー, 2015.2.4, サントリー生命科学財団 (島本・大阪)
43. 半田 宏, セレブロン-IMiDs 標的分子研究の最前線-, セルジーン講演会, 2015.2.28, ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル (横浜・神奈川)
44. 坂本 聡・山口雄輝・半田 宏, アフィニティビーズを利用した生物活性物質標的タンパク質の単離・同定・評価, 日本薬学会第135年会, 2015.3.25-3.28, 神戸学院大学 (神戸・兵庫)
45. 半田 宏, サイエンスと知財, 第1回知的財産プロデューサー等連絡会議 講演会, 2015.4.7, 共同通信会館 (港・東京)
46. 半田 宏, IMiDs の多彩な薬理作用-標的分子探索研究の進歩-, 最新医学セミナー, 2015.4.28, 宮崎大学 (宮崎・宮崎)
47. 坂本 聡・伊藤拓水・安藤秀樹・山口雄輝・半田 宏, IMiDs 標的タンパク質 CRBN の生化学的解析, 日本ケミカルバイオロジー学会第10回年会, 2015.6.10-12, 東北大学 川内キャンパス 東北大学百周年記念会館 川内萩ホール (仙台・宮城)
48. Hiroshi Handa, Basic aspects concerning the mechanisms of actions of immunomodulatory drugs (IMiDs) in multiple myeloma, The 20th Congress

of EHA-JSH Joint Symposium (Multiple Myeloma), 2015.6.11-14 (Wien, Austria)

49. 半田 宏, IMiDs の多彩な薬理作用～標的分子探索研究の進歩～、Tokyo 3M Forum 2015、2015.7.8、東京ドームホテル (文京・東京)
50. 半田 宏, IMiDs の多彩な薬理作用～標的分子探索研究の進歩～、セルジーン講演会、2015.8.18、ヒルトン福岡シーホール (福岡・福岡)
51. 半田 宏, セレブロン～IMiDs のターゲット～、香川血液疾患フォーラム、2015.9.4、ロイヤルパークホテル高松 (高松・香川)
52. 半田 宏, 研究を楽しみ、科研費を獲得、平成 28 年度科学研究費助成事業説明会、2015.9.28、東京医科大学病院 (新宿・東京)
53. 半田 宏, サリドマイド催奇性のターゲットから創薬へ、CSJ 化学フェスタ、2015.10.15、タワーホール船堀 (江戸川・東京)
54. 半田 宏, パネル討論「ケミカルバイオロジーとはどのような化学なのか」、CSJ 化学フェスタ、2015.10.15、タワーホール船堀 (江戸川・東京)
55. 半田 宏, Discovery of a target of immunomodulatory drugs (IMiDs) 免疫調節薬 (IMiDs) のターゲットの発見、第 77 回日本血液学会学術集会、2015.10.16-18、石川県立音楽堂 (金沢・石川)
56. 半田 宏, セレブロン～IMiDs のターゲット～、Okayama IMiDs Conference、2015.11.6、ホテルグランヴィア岡山 (岡山・岡山)
57. 半田 宏, セレブロン～IMiDs のターゲット～、第 6 回 Bay area hematology congress、2015.11.16、ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル (横浜・神奈川)
58. Hiroshi Handa, Cereblon (CRBN), the common target of multiple pharmacological actions of thalidomide and its derivatives, New developments of zebrafish research, 2015.11.24-25 (Shizuoka, Japan)
59. Satoshi Sakamoto, Yuki Yamaguchi Takumi Ito, Hideki Ando and Hiroshi Handa, Biochemical analyses of CRBN, the target protein for immunomodulatory drugs (IMiDs), PACIFICHEM2015 : 2015.12.15-20, Hilton Hawaiian Village (Hawaii, USA)
60. Satoshi Sakamoto, Yuki Yamaguchi, Takumi Ito, and Hiroshi Handa, Elucidation of the molecular mechanisms of action of bioactive natural products using high performance affinity beads, PACIFICHEM2015 : 2015.12.15-20, Hilton Hawaiian Village (Hawaii, USA)
61. 坂本 聡・半田 宏, 抗体標識蛍光磁気ビーズによる転移がん迅速診断システムの構築、AMED プロジェクトキックオフミーティング、2016.1.7、東京大学 (文京・東京都)
62. 半田 宏, サリドマイド標的因子セレブロン同定から新たな多発性骨髄腫治療薬の開発、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 第 1 回進捗状況報告会、2016.1.27、東京医科大学 (新宿・東京)
63. 半田 宏, セレブロン～IMiDs のターゲット～、第 10 回臨床骨髄腫研究会、2016.2.4、メルキュールホテル札幌 (札幌・北海道)
64. Hiroshi Handa, Cereblon (CRBN), the common target of multiple pharmacological actions of thalidomide and its derivatives, UCLA CTSI Seminar Series, 2016.3.23, UCLA (Los Angeles, USA)

【岡本隆一】

1. T. Yoneyama, M. A. Arai, R. Okamoto, S. K. Sadh, F. Ahmed, M. Ishibashi, "Isolation of Notch inhibitors from *Calotropis gigantea*", Joint Workshop on Chirality in Chiba University (WCCU) and on Soft-Molecule Activation, March 17, 2016, Chiba (Japan)
2. M. A. Arai, R. Akamine, R. Okamoto, T. Koyano, T. Kowithayakorn, S. K. Sadhu, F. Ahmed, M. Ishibashi, "Search for Notch signaling inhibitors from natural products", Pacificchem 2015; December 17, 2015, Honolulu, (U.S.A.)
3. T. Yoneyama, M. A. Arai, R. Okamoto, S. K. Sadhu, F. Ahmed, M. Ishibashi, "Isolation of Notch inhibitors from *Calotropis gigantea*", Pacificchem 2015; December 17, 2015, Honolulu, (U.S.A.)
4. Satoru Fujii, Ryuichi Okamoto, Toru Nakata, Kohei Suzuki, Fumiaki Ishibashi, Ami Kawamoto, Sayaka Ohashi Segawa, Tomohiro Mizutani, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Establishment of a 3D cell culture-based screening platform to identify natural products that can regulate transepithelial water transport of the human gastrointestinal tract. Pacificchem2015, 20151217 : Hawaii (USA)
5. Tomoaki Shirasaki, Keita Fukushima, Kiichiro Tsuchiya, Shuui Hibiya, Ryohei Hayashi, Nobukatsu Horita, Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. TNF- α stabilizes atoh1 protein in colitis-associated colorectal cancer resulting in enhanced malignant potential. UEGW2015, 20151028 : Barcelona (Spain)
6. Shuji Hibiya, Kiichiro Tsuchiya, Tomoaki Shirasaki, Keita Fukushima, Ryohei Hayashi, Nobukatsu Horita, Shigeru Oshima, Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Continuous stimulation with cytokines leads to irreversible activation of NF- γ b signaling in colonic epithelial cells by organoid culture. UEGW2015, 20151027 : Barcelona (Spain)
7. Tetsuya Nakamura. Epithelial Regeneration by Transplantation of Intestinal Epithelial Stem Cells. The 2nd International Meeting for Epithelial Tubulology, 20150822 : Sapporo(Japan)
8. Tomoaki Shirasaki, Keita Fukushima, Kiichiro Tsuchiya, Shuui Hibiya, Ryohei Hayashi, Nobukatsu Horita, Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Atoh1 protein stabilized by TNF- α acquires enhanced malignant potential in colitis-associated colorectal cancer. AOCC2015, 20150619 : Beijing (China)
9. Horita N, Tsuchiya K, Hayashi R, Fukushima K, Hibiya S, Fukuda M, Mizutani T, Okamoto R, Nakamura T and Watanabe M. A novel fluorescent labelling system into small intestinal organoid reveals independent long-lived intestinal stem cells in a crypt. AOCC2015, 20150619 : Beijing (China)
10. Kohei Suzuki, Satoru Fujii, Toru Nakata, Ami Kawamoto, Fumiaki Ishibashi, Sayaka Ohashi Segawa, Tomohiro Mizutani, Kiichiro Tsuchiya, Kazuo Otsuka, Tetsuya Nakamura, Ryuichi Okamoto, Mamoru Watanabe. Enrichment of Intestinal Stem Cells by the 3D-Culture of IBD Patient Derived Intestinal epithelium. AOCC2015, 20150619 : Beijing (China)
11. Shuji Hibiya, Kiichiro Tsuchiya, Keita Fukushima, Ryohei Hayashi, Nobukatsu Horita, Shigeru Oshima, Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Continuous Stimulation With Cytokines Leads to Irreversible Accumulation of NF- κ B Signaling in Colonic Epithelial Cells. DDW 2015, 20150519 : Washington DC (U.S.A)
12. Toru Nakata, Hiromichi Shimizu, Kohei Suzuki, Satoru Fujii, Go Ito, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Ryuichi Okamoto, Katsuto Hozumi, Mamoru Watanabe. Distinct Role of Notch Ligands, DLL1 and Dll4, in Normal and in Tumor Intestinal Epithelium. DDW 2015, 20150519 : Washington, D.C. (U.S.A)
13. Keita Fukushima, Kiichiro Tsuchiya, Shuji Hibiya, Ryohei Hayashi, Nobukatsu Horita, Yoshihito Kano, Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Atoh1 Protein Expression by TNF- α and the Acquisition of Malignant Potential in Colitis-Associated Colorectal Cancer. DDW 2015, 20150517 : Washington, D.C. (U.S.A)
14. Hiromichi Shimizu, Kohei Suzuki, Satoru Fujii, Toru Nakata, Go Ito, Tatsuro Murano, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Ryuichi Okamoto, Katsuto Hozumi, Mamoru Watanabe. Notch Ligands DLL1 and Dll4 Are Expressed by Distinct Population of Epithelial Cells in the Mice Intestine. DDW 2015, 20150516 : Washington, D.C. (U.S.A)
15. Nozaki K, Mochizuki W, Matsumoto Y, Matsumoto T, Fukuda M, Mizutani T, Watanabe M, Nakamura T. Live imaging analysis of intraepithelial lymphocytes (IELs) co-cultured with intestinal epithelial organoids. Cold Spring Harbor Meeting "Fundamental Immunology and Its Therapeutic Applications", 20150416 : New York (U.S.A)
16. Shuji Hibiya, Kiichiro Tsuchiya, Keita Fukushima, Ryohei Hayashi, Nobukatsu Horita, Yoshihito Kano, Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Continuous stimulation with cytokines leads to irreversible accumulation of NF- κ B signaling in colonic epithelial cells. The 5th International Symposium on Carcinogenic Spiral, 20150226 : Kobe (Japan)

17. Shuji Hibiya, Kiichiro Tsuchiya, Keita Fukushima, Ryohei Hayashi, Nobukatsu Horita, Shigeru Oshima, Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Long-term stimulation with cytokines acquires irreversible accumulation of NF- κ B signaling in colonic epithelial cells. 10th Congress of ECCO - Inflammatory Bowel Diseases 2015, 20150220 : Barcelona (Spain)
 18. Go Ito, Ryuichi Okamoto, Tasturo Murano, Hiromichi Shimizu, Satoru Fujii, Toru Nakata, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Notch signaling and TNF- α synergistically up-regulates expression of OLFM4 in human intestinal epithelial cells. 第8回 Japan-US Collaboration Conference in Gastroenterology, 20141121 : Tokyo (Japan)
 19. Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Functional analysis of primary-cultured human intestinal epithelial cells. 新学術領域「天然物ケミカルバイオロジー」第5回公開シンポジウム, 20141028 : Yokohama (Japan)
 20. Okamoto R, Ito G, Shimizu H, Fujii S, Nakata T, Suzuki K, Watanabe M. Notch signaling regulates expression of gelsolin superfamily genes, gelsolin and scinderin and promotes re-assembly of actin cytoskeleton in human intestinal epithelial cells. UEGW2014, 20141022 : Vienna (Austria)
 21. Ito G, Okamoto R, Shimizu H, Fujii S, Nakata T, Suzuki K, Tsuchiya K, Nakamura T, Watanabe M. Notch Signaling and TNF- α synergistically promotes intracellular protein accumulation of olfm4 in the inflamed mucosa of ulcerative colitis. UEGW2014, 20141021 : Vienna (Austria)
 22. Go Ito, Ryuichi Okamoto, Hiromichi Shimizu, Satoru Fujii, Toru Nakata, Kohei Suzuki, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Notch signaling and TNF- α synergistically promotes intracellular protein expression of OLFM4 in human intestinal epithelial cells. The 2nd Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's and Colitis, 20140621 : Seoul (Korea)
 23. Hiromichi Shimizu, Ryuichi Okamoto, Go Ito, Satoru Fujii, Toru Nakata, Kohei Suzuki, Tatsuro Murano, Tomohiro Mizutani, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Katsuto Hozumi, Mamoru Watanabe. Distinct Expression Patterns of Notch Ligands, DLL1 and DLL4, in Normal and Inflamed Mice Intestine. The 2nd Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's and Colitis, 20140621 : Seoul (Korea)
 24. Fukuda M, Mizutani T, Mochiduki W, Taichi M, Nozaki K, Ichinose S, Watanabe M, Nakamura T. Successful Engraftment of Cultured Small Intestinal Epithelial Stem Cells onto Damaged Colonic Mucosa by Heterotopic Transplantation. 12th International society for stem cell research. 20140619 : Vancouver (Canada)
 25. Horita N, Tsuchiya K, Hayashi R, Fukushima K, Hibiya S, Fukuda M, Kano Y, Mizutani T, Nemoto Y, Yui S, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M. Establishment of the gene transduction into the primary intestinal organoid identified the subpopulation of the stem cells in a crypt. 第12回 幹細胞シンポジウム, 20140531 : Fukuoka (Japan)
 26. Mizutani T, Fukuda M, Mochizuki W, Matsumoto T, Nozaki K, Ichinose S, Watanabe M, Nakamura T. Successful Engraftment of Cultured Small Intestinal Epithelial Stem Cells onto Damaged Colonic Mucosa by Heterotopic Transplantation. DDW2014: Chicago (USA)
 27. Hibiya S, Tsuchiya K, Fukushima K, Hayashi R, Horita N, Kano Y, Okamoto R, Nakamura T, Watanabe M. Long-term stimulation with cytokines acquires irreversible accumulation of NF- κ B signaling in primary colonic epithelial cells. 4th International Symposium on Carcinogenic Spiral, 20140211 : Sapporo (Japan)
 28. Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Proliferation, Differentiation and Tissue Repair of the Intestinal Epithelium. 新学術領域「天然物ケミカルバイオロジー」第2回国際シンポジウム, 20131029 : Yokohama (Japan)
 29. Ryuichi Okamoto, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Potential of primary cultured intestinal epithelial cells as a tool for biochemical analysis. 新学術領域「天然物ケミカルバイオロジー」第4回公開シンポジウム, 20131028 : Yokohama (Japan)
 30. R Okamoto, T Murano, H Shimizu, G Ito, S Fujii, T Nakata, K Tsuchiya, T Nakamura, M Watanabe. IL-22-mediated antimicrobial response is regulated by hes1 via stat3-dependent transcription in human intestinal epithelial cells. UEGW 2013, 20131016 : Berlin (Germany)
 31. G Ito, R Okamoto, T Murano, H Shimizu, K Tsuchiya, T Nakamura, M Watanabe. Lineage-specific expression of bestrophin-2 and bestrophin-4 is regulated by notch signaling in human intestinal epithelial cells. UEGW 2013, 20131014 : Berlin (Germany)
 32. H Shimizu, R Okamoto, T Nakata, S Fujii, G Ito, T Murano, K Tsuchiya, T Nakamura, M Watanabe. Complete conversion of crypt progenitor cells into atoh1-positive cells by targeted deletion of dll1 and dll4 in lgr5-positive intestinal stem cells. UEGW 2013, 20131014 : Berlin (Germany)
 33. Ryuichi Okamoto, Tatsuro Murano, Hiromichi Shimizu, Go Ito, Satoru Fujii, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, and Mamoru Watanabe. Hes1 promotes IL-22-mediated antimicrobial response through enhancement of STAT3-dependent transcription in human intestinal epithelial cells. The 1st Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's and Colitis, 20130613 : Tokyo (Japan)
 34. Go Ito, Ryuichi Okamoto, Tatsuro Murano, Hiromichi Shimizu, Satoru Fujii, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, and Mamoru Watanabe. Lineage-specific expression of bestrophin genes in normal and inflamed human intestine: implications for ulcerative colitis. The 1st Annual Meeting of Asian Organization for Crohn's and Colitis, 20130613 : Tokyo (Japan)
 35. Go Ito, Ryuichi Okamoto, Satoru Fujii, Hiromichi Shimizu, Tatsuro Murano, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Notch signaling regulates expression of Bestrophin-4, a novel enterocyte-specific HCO3-/Cl- channel, in human intestinal epithelial cells. DDW 2013, 20130520 : Orlando (USA)
 36. Hiromichi Shimizu, Ryuichi Okamoto, Satoru Fujii, Go Ito, Tatsuro Murano, Kiichiro Tsuchiya, Tetsuya Nakamura, Mamoru Watanabe. Complete conversion of crypt progenitor cells into Atoh1-positive cells by targeted deletion of Dll1 and Dll4 in Lgr5-positive intestinal stem cells. DDW 2013, 20130519 : Orlando (USA)
 37. 荒井緑, 赤嶺隆太, 岡本隆一, 小谷野喬, T. Kowithayakorn, 石橋正己, "Garcinia speciosa 等からの Notch シグナル阻害作用を有する天然物の探索", 日本薬学会第 136 年会, 20160328 ; 横浜(日本)
 38. 米山達朗, 荒井緑, 岡本隆一, Samir K. Sadhu, Firoj Ahmed, 石橋正己, "Calotropis gigantea からの Notch シグナル伝達経路阻害を標的とした神経幹細胞分化促進剤の探索", 日本薬学会第 136 年会, 20160328 ; 横浜(日本)
 39. 米山達朗, 荒井緑, 岡本隆一, S. K. Sadhu, F. Ahmed, 石橋正己, "Calotropis gigantea からのノッチシグナル伝達経路阻害剤の探索", 日本生薬学会第 62 年会, 20150911, 岐阜(日本)
 40. 荒井緑, 赤嶺隆太, 米山達朗, 岡本隆一, 小谷野喬, T. Kowithayakorn, 石橋正己, "Notch-Hes 経路阻害を指標とする神経幹細胞分化活性化剤の探索", 第 57 回天然有機化合物討論会, 20150909, 横浜(日本)
 41. 荒井緑, 赤嶺隆太, 小柳津和音, 當銘一文, 岡本隆一, 小谷野喬, T. Kowithayakorn, 石橋正己, "Notch-Hes 経路阻害を指標とする神経幹細胞分化活性化剤の探索", 日本薬学会第 135 年会, 20150326, 神戸(日本)
 42. 米山達朗, 荒井緑, 小柳津和音, 岡本隆一, S. K. Sadhu, F. Ahmed, 石橋正己, "Calotropis gigantea からのノッチシグナル伝達経路阻害剤の探索", 日本薬学会第 135 年会, 20150326, 神戸(日本)
 43. 荒井緑, 赤嶺隆太, 小柳津和音, 當銘一文, 岡本隆一, 小谷野喬, T. Kowithayakorn, S. K. Sadhu, F. Ahmed, 石橋正己, "Notch-Hes 経路阻害を指標とする神経幹細胞分化活性化剤の探索", 日本生薬学会第 61 年会, 20140913 福岡(日本)
- 【渡邊肇】
1. 浅田実希, 加藤泰彦, 渡邊肇 "A Novel Hormonal Reporter Assay using Daphnia magna: Toward Unravelling Ecdysteroid Activity." 日独共同大学院プログラムシンポジウム. 2012 年 12 月 3-5 日. アーヘン (ドイツ)
 2. 渡邊肇 "Comparative Ecotoxicogenomics Using Medaka, Daphnia and Algae." ICT Seoul 2013. 2013 年 6 月 30 日-7 月 4 日ソウル (韓国)
 3. 渡邊肇 "Comparative Ecotoxicogenomics Using Medaka, Daphnia and Algae." International Environmental Omics Synthesis Conference. 2013 年 9 月 9 日-9 月 13 日カーディフ (英国)

4. 中西貴士、加藤泰彦、渡邊肇 "Development of CRISPR/Cas9-Mediated Genome Editing Technique in *Daphnia magna*." 日独大学院共同プログラムシンポジウム 2013 年 11 月 27 日-12 月 5 日アーヘン (ドイツ)
5. 中西貴士、加藤泰彦、渡邊肇 "Development of CRISPR/Cas9-mediated genome editing technique in *Daphnia magna*." *Daphnia Genomics Consortium* 2014. 2014 年 1 月 22 日 バーミンガム(英国)
6. 中西貴士、浅田実希、加藤康彦、渡邊肇 "Transgenic *Daphnia* for monitoring hormonal activities of chemicals" 第 24 回環境化学討論会. 2015 年 6 月 26 日 札幌(北海道)
7. 内藤彰子、中西貴士、加藤泰彦、松浦友亮、渡邊肇 "Establishment of gene knock out technology using TALEN in *D.magna*." *EMBO Daphnia Genomics Consortium MEETING* 2014. 2014 年 1 月 22 日 バーミンガム (英国)
8. Takashi NAKANISHI, Miki ASADA, Yasuhiko KATO, Hajime WATANABE "Development of transgenic *Daphnia* for monitoring hormonal activities of chemicals" SETAC Europe 25th Annual Meeting 2015 年 5 月 3 日-7 日バルセロナ(スペイン)
9. 中西 貴士, 浅田 実希, 加藤 康彦, 渡邊肇 「ホルモン活性検出用のトランスジェニックミジンコの創出」第 24 回環境化学討論会 2015 年 6 月 24 日-2015 年 6 月 26 日 札幌 (北海道)
10. 渡邊肇 「オオミジンコを用いた毒性試験における共生菌の影響」第 42 回日本毒性学会学術年会 2015 年 6 月 29 日-7 月 1 日金沢 (石川)
11. 中西貴士、加藤泰彦、松浦友亮、渡邊肇 「オオミジンコにおける TALEN を用いた外来遺伝子導入技術の開発」生物学若手研究者の集い夏のセミナー 2015 年 7 月 11 日 名古屋 (名古屋)
12. 渡邊肇 「ミジンコの生殖戦略 単為生殖から有性生殖への転換点の解析」日本動物学会第 86 回大会 2015 年 9 月 17 日-9 月 19 日新潟 (新潟)
13. Takashi Nakanishi, Yasuhiko Kato, Tomoaki Matsuura, Hajime Watanabe "Efficient DNA integration into germ line genome via programmable nucleases in *Daphnia magna*" Cold Spring Harbor Laboratory Meetings & Courses Program "GENOME ENGINEERING: THE CRISPR/CAS REVOLUTION" 2015 年 9 月 24 日-27 日 コールドスプリングハーバー (米国)
14. Yasuhiko Kato, Hajime Watanabe "A long noncoding RNA regulates a sex-determining gene *doublesex1* in the crustacean *Daphnia magna*" *EMBL Symposia "Noncoding Genome"* 2015 年 10 月 18 日~21 日 ハイデルベルグ (ドイツ)
15. 中西貴士、加藤泰彦、松浦友亮、渡邊肇 「環境指標生物オオミジンコにおける TALEN を用いた外来遺伝子導入技術の開発」日本生物工学会 若手会 2015 2015 年 10 月 27 日 鹿児島 (鹿児島)
16. 加藤泰彦、中西貴士、渡邊肇 「ミジンコのゲノム操作による環境性決定メカニズムの解明」「細胞を創る」研究会 8.0 2015 年 11 月 12 日~13 日吹田 (大阪)
17. Takashi Nakanishi, Yasuhiko Kato, Tomoaki Matsuura, Hajime Watanabe "Efficient DNA integration into germ line genome via TALEN in *Daphnia magna*" Conference on Transposition and Genome Engineering 2015 11 月 17 日~20 日 奈良(奈良)
18. Syafiqah Ishak, Yasuhiko Kato, Tomoaki Matsuura, Hajime Watanabe "Analysis of Transcription Activation of the Environmental Sex Determining Gene *Doublesex1* in *Daphnia magna*" 第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会 合同大会 2015 年 12 月 1 日~4 日神戸(兵庫)
19. Yasuhiko Kato, Hajime Watanabe "An lncRNA regulates an environmental sex determination in *Daphnia magna*" 第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会 合同大会 2015 年 12 月 1 日~4 日 神戸(兵庫) 招待講演
20. Nur Izzatur Binti Ismail, Yasuhiko Kato, Tomoaki Matsuura, Hajime Watanabe "Eye Color Gene Scarlet as a Visible Marker for *Daphnia magna* Transgenesis" 第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会 合同大会 2015 年 12 月 1 日~4 日 神戸(兵庫)
21. Hitoshi Kumagai, Yasuhiko Kato, Tomoaki Matsuura, Hajime Watanabe "Use of the bicistronic expression involving viral T2A peptide in *Daphnia magna*" 第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会 合同大会 2015 年 12 月 1 日~4 日 神戸(兵庫)
22. 岡村昂典、渡邊肇、松浦友亮 「ジャイアントリポソーム内無細胞翻訳系を用いたヒト由来トランスポーター *Letm1* の合成およびその脂質依存性」第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会 合同大会 2015 年 12 月 1 日~4 日 神戸 (兵庫)
23. 太田直樹、渡邊肇、松浦友亮 「リポソーム内タンパク質合成系への *Sec* トランスロコンの再構成による膜タンパク質局在の効率化」第 38 回日本分子生物学会年会、第 88 回日本生化学会大会 合同大会 2015 年 12 月 1 日~4 日 神戸 (兵庫)
24. Yasuhiko KATO, Takashi NAKANISHI, Tomoaki MATSUURA, Hajime WATANABE "Development of transgenic *Daphnia*" *Pacificchem* 2015 2015 年 12 月 15 日-20 日 ハワイ (米国)
25. Hitoshi Kumagai, Yasuhiko Kato, Tomoaki Matsuura, Hajime Watanabe "Use of the bicistronic expression involving viral T2A peptide in *Daphnia magna*" 第 62 回日本生態学会大会 2016 年 3 月 20 日~24 日仙台 (宮城)

【小林資正】

1. 「低酸素環境選択的増殖阻害物質 *dictyoceratin* 類の構造活性相関と *in vivo* 抗腫瘍活性」住井裕司, 古徳直之, 福田昭典, 河内崇志, 荒井雅吉, 小林資正 日本薬学会第 136 年会、2016/3/28、パシフィック横浜 (横浜)
2. 「潜在性結核菌に対する抗菌物質 *nybomycin* の標的分子解析」荒井雅吉, 谷谷謙太郎, 住井裕司, 申多英, Patamaporn Pruksakorn, 韓智秀, 古徳直之, 小林資正 日本薬学会第 136 年会、2016/3/28、パシフィック横浜 (横浜)
3. 「海洋生物由来の栄養飢餓選択的増殖阻害物質の探索と創薬への展開」古徳直之 日本薬学会第 136 年会 一般シンポジウム 「MONOTORI の新戦略」、2016/3/27、パシフィック横浜 (横浜) (招待講演)
4. "Exploring novel drug target for cancer chemotherapy by the study of furospinosulin-1, a hypoxia-selective growth inhibitor against cancer cells" Masayoshi Arai The 6th Queenstown Molecular Biology Meeting in Shanghai, 2016/3/17, Shanghai(China) (招待講演)
5. "Target Identification of Anti-mycobacterial Substance using Transformant Library of Mycobacteria" Masayoshi Arai The 8th Japan-Korea Chemical Biology Symposium, 2016/1/19, パシフィックホテル沖縄 (沖縄) (招待講演)
6. "Target identification of agelasin D, a marine spongean diterpene alkaloid, as an antidormant mycobacterial substance." Masayoshi Arai, Yoshi Yamano, Andi Setiawan and Motomasa Kobayashi PACIFICHEM 2015, 2015/12/17, Hawaii (USA)
7. "Synthetic study and target analysis of dictyoceratin-A and -C, hypoxia-selective growth inhibitors from marine sponge." Naoyuki Kotoku, Yuji Sumii, Takashi Kawachi, Akinori Fukuda, Masayoshi Arai and Motomasa Kobayashi PACIFICHEM 2015, 2015/12/17, Hawaii (USA)
8. "Anti-dormant mycobacterial activity and action-mechanism of nybomycin produced by *Streptomyces* sp." Kentaro Kamiya, Masayoshi Arai, Patamaporn Pruksakorn, Yuji Sumii, Naoyuki Kotoku, Chisu Han, Dayoung Shin and Motomasa Kobayashi The 9th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical Sciences for Young Scientists, 2015/11/17, Seoul (Korea)
9. "Total synthesis of biakamides, selective growth inhibitors against cancer cells under nutrient-starved condition." Ryosuke Ishida, Naoyuki Kotoku, Hirokazu Matsumoto, Masayoshi Arai, Kazunari Toda and Motomasa Kobayashi The 9th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical Sciences for Young Scientists, 2015/11/17, Seoul (Korea)
10. 「グルコース飢餓環境選択的がん細胞増殖阻害活性を有するポリケチド *biakamide* 類の全合成と構造活性相関」石田良典, 古徳直之, 松本紘和, 荒井雅吉, 小林資正 第 41 回反応と合成の進歩シンポジウム 2015/10/27、近畿大学 (大阪)

11. 「グルコース飢餓環境選択的増殖阻害物質 biakamide 類の構造活性相関研究」○石田良典, 古徳直之, 松本紘和, 田畑奎太郎, 小林資正 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2015/10/17、大阪大谷大学 (大阪)
12. 「低栄養環境選択的増殖阻害物質 fasciospyrinadinone の全合成」古徳直之, 松本紘和, ○久智也, 戸田和成, 荒井雅吉, 小林資正 第 65 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2015/10/17、大阪大谷大学 (大阪)
13. 「実用的な医薬リード化合物の創製を指向した海洋天然物の合成化学研究」○古徳直之 日本生薬学会第 62 回年会、2015/9/12、長良川国際会議場 (岐阜) (日本生薬学会学術奨励賞 受賞講演)
14. 「栄養環境選択的がん細胞増殖阻害物質の探索」荒井雅吉, ○申多英, 松本紘和, 神谷謙太郎, 久智也, 古徳直之, 小林資正 日本生薬学会第 62 年会、2015/9/11、長良川国際会議場 (岐阜)
15. 「海綿由来環状デブシペプチド arenastatin A の新規結合タンパク質の同定」○荒井雅吉, 河内崇志, 高市伸宏, 馬田哲也, 古徳直之, 小林資正 第 57 回天然有機化合物討論会、2015/9/9、神奈川県民ホール (横浜)
16. 「活性天然物で切拓く新規薬剤標的」○荒井雅吉 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー〜分子標的と活性制御〜」地区ミニシンポジウム・仙台「ケミカルバイオロジーにおける天然物」、2015/6/30、東北大学 (仙台) (招待講演)
17. 「低酸素環境選択的がん細胞増殖阻害物質 dictyoceratin-C の標的分子解析」○河内崇志, 荒井雅吉, 古徳直之, 小林資正 第 19 回日本がん分子標的治療学会学術集会、2015/6/11、松山全日空ホテル (松山)
18. 「Phenotypic screening による活性天然物探索と新規薬剤標的の開拓」荒井雅吉 日本薬学会第 135 年会 一般シンポジウム「天然物ケミカルバイオロジー (3): 天然物ターゲット ID 最前線」、2015/3/28、神戸学院大学 (神戸) (招待講演)
19. 「Cortistatin A アナログ化合物の構造活性相関と標的の同定への応用」古徳直之、伊藤葵、○水野華奈子、渋谷俊一、小林資正 日本薬学会第 135 年会、2015/3/27、デザイン・クリエイティブセンター神戸 (神戸)
20. 「新規ポリケチド biakamide C および D の全合成」古徳直之、○松本紘和、石田良典、小林資正 日本薬学会第 135 年会、2015/3/28、神戸学院大学 (神戸)
21. 「海綿由来環状デブシペプチド arenastatin A の結合タンパク質解析」荒井雅吉、河内崇志、○馬田哲也、高市伸宏、古徳直之、小林資正 日本薬学会第 135 年会、2015/3/27、デザイン・クリエイティブセンター神戸 (神戸)
22. 「活性天然物の標的分子解析による新規薬剤標的の探索」荒井雅吉 日本薬学会第 135 年会、2015/3/27、神戸学院大学 (神戸) (日本薬学会学術振興賞 受賞講演)
23. 「腫瘍内細胞の表現型変化を制御する海洋天然物からの創薬とケミカルバイオロジー研究」○荒井雅吉 第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2014/11/27、神戸国際会議場 (神戸) (招待講演)
24. 「Phage Display 法を利用した抗腫瘍性物質 arenastatin A の標的分子解析」○河内崇志, 荒井雅吉, 馬田哲也, 古徳直之, 高市伸宏, 小林資正 第 20 回天然薬物の開発と応用シンポジウム、2014/11/5、東京大学 (東京)
25. 「グルコース飢餓環境選択的がん細胞増殖阻害作用を有する新規ポリケチド類の化学構造と生物活性」○古徳直之, 戸田和成, 荒井雅吉, 石田良典, 松本紘和, 村岡 修, 小林資正 第 56 回天然有機化合物討論会、2014/10/16、高知県立県民文化ホール (高知)
26. 「低酸素環境選択的細胞増殖阻害活性物質 dictyoceratin-C の合成研究」住井裕司、古徳直之、○福田昭典、河内崇志、角居雄太、荒井雅吉、小林資正 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2014/10/11、京都薬科大学 (京都)
27. 「抗腫瘍性環状デブシペプチド arenastatin A の標的分子解析」荒井雅吉、河内崇志、○馬田哲也、古徳直之、高市伸宏、小林資正 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2014/10/11、京都薬科大学 (京都)
28. 「Cortistatin A アナログ化合物の効率的合成法の開発」古徳直之、○渋谷俊一、竹島亜季、角居雄太、伊藤葵、水野華奈子、小林資正 第 64 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2014/10/11、京都薬科大学 (京都)
29. 「海洋由来放線菌が産生する nybomycin の潜在性結核菌に対する抗菌活性とその作用メカニズム」荒井雅吉、○神谷謙太郎, 住井裕司, 申多英, Patamaporn Pruksakorn, 韓智秀, 古徳直之, 小林資正 日本生薬学会第 61 年会、2014/9/14、福岡大学薬学部 (福岡)
30. “Phenotypic Screening and Chemical Biology for Exploring New Medicinal Seeds and Drug Targets”○Masayoshi Arai The 8th JSP-CCCTNM-KSP Joint Symposium on Pharmacognosy, 2014/9/13, 福岡大学薬学部 (福岡) (招待講演)
31. 「海洋天然物 furospinosulin-1 を利用する新規がん細胞低酸素適応因子の創出」○河内崇志, 荒井雅吉, 古徳直之, 小林資正 第 18 回日本がん分子標的治療学会学術集会、2014/6/27、TKP ガーデンシティ仙台 (仙台)
32. 「低酸素環境適応がん細胞を標的とする海洋天然物の創出とケミカルバイオロジー研究」○荒井雅吉 大阪大学 医学系研究科 消化器外科セミナー、2014/6/24、大阪大学 (大阪) (招待講演)
33. 「プローブ分子を用いた cortistatin A の標的分子の解析研究」○伊藤葵, 古徳直之, 住井裕司, 角居雄太, 小林資正 日本薬学会第 134 年会、2014/3/29、熊本大学 (熊本)
34. 「潜在性結核菌に有効な海綿由来テトラミン酸 melophlin 類の抗菌活性とその標的分子の解明」荒井雅吉, 山野喜, ○神谷謙太郎, 小林資正 日本薬学会第 134 年会、2014/3/28、熊本大学 (熊本)
35. 「病態部位の微小環境で作用する活性天然物の探索とその標的分子の解明」○荒井雅吉 平成 25 年度 All Kitasato Project Study 共同研究最終報告会 (微生物ゲノムを基盤とした有用潜在物質の開拓とケミカルバイオロジー研究への応用)、2014/3/11、北里大学 (東京) (特別講演)
36. “Creation of novel drug target for cancer chemotherapy by the study of furospinosulin-1, a hypoxia-selective growth inhibitor against cancer cells”○Masayoshi Arai, Naoyuki Kotoku, Motomasa Kobayashi The 7th Japan-Korea Chemical Biology Symposium, 2014/2/10, Jeju Island (Korea) (招待講演)
37. 「海洋天然物 cortistatin A を基盤とする抗腫瘍活性リード化合物の創製」○古徳直之 第 31 回メディシナルケミストリーシンポジウム MCS サテライトセッション、2013/11/20、アステールプラザ (広島) (近畿支部奨励賞 受賞講演)
38. 「海綿由来テトラミン酸 melophlin 類の潜在性結核菌に対する抗菌活性とその標的分子の解明」○荒井雅吉, 山野喜, 神谷謙太郎, 小林資正 第 5 回食品薬学シンポジウム、2013/11/2、京都大学 (京都)
39. 「Cortistatin A をモチーフとする抗腫瘍活性リード化合物の創製」○古徳直之 第 63 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2013/10/12、同志社女子大学薬学部 (京都) (近畿支部奨励賞 受賞講演)
40. 「海綿由来テトラミン酸 melophlin 類の潜在性結核菌に対する抗菌活性」○荒井雅吉, 山野喜, 神谷謙太郎, 小林資正 第 63 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2013/10/12、同志社女子大学薬学部 (京都)
41. 「Cortistatin A の標的分子同定のためのプローブ分子の合成」○伊藤 葵, 古徳直之, 住井裕司, 角居雄太, 小林資正 第 63 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2013/10/12、同志社女子大学薬学部 (京都)
42. 「低酸素環境選択的がん細胞増殖阻害物質 furospinosulin-1 の標的分子の解明」荒井雅吉, ○河内崇志, 中田千晶, 古徳直之, 小林資正 第 55 回天然有機化合物討論会、2013/9/18、同志社大学寒梅館 (京都)
43. 「新しい医薬シーズの探索と標的分子探索」○小林資正 日本生薬学会第 60 回年会、2013/9/7、北海道医療大学 (北海道) (招待講演)

演)

44. 「潜在性結核菌に有効なジテルペンアルカロイド agelasine D の結合タンパク質の解明」 荒井雅吉, 山野喜, 小林資正 日本生薬学会第 60 回年会、2013/9/8、北海道医療大学 (北海道)
45. 「低酸素環境選択的がん細胞増殖阻害物質 furospinosulin-1 の in vivo 評価」 荒井雅吉, 河内崇志, 古徳直之, 遠藤洋子, 井上正宏, 小林資正 日本生薬学会第 60 回年会、2013/9/8、北海道医療大学 (北海道)
46. 「病態の体内微小環境で機能する活性天然物の探索とその標的分子の解明」 荒井雅吉 日本生薬学会第 60 回年会、2013/9/8、北海道医療大学 (北海道) (学術貢献賞 受賞講演)
47. 「創薬を指向した海洋天然物のケミカルバイオロジー研究」 古徳直之 日本薬学会北海道支部第 1 回薬学の有機化学を考える会、2013/7/20、北海道大学 (北海道) (招待講演)
48. 「Phenotypic screening による医薬シーズ探索と標的分子の解明」 荒井雅吉 第 48 回天然物化学談話会、2013/7/5、アヤハレークサイドホテル (滋賀) (招待講演)
49. 「血管新生阻害物質 cortistatin A のアナログ化合物の効率的合成研究」 古徳直之, 竹島亜季, 渋谷俊一, 小林資正 日本薬学会第 133 年会、2013/3/29、パシフィコ横浜 (横浜)
50. 「低酸素環境選択的がん細胞増殖阻害物質 furospinosulin-1 の作用メカニズム解析」 荒井雅吉, 河内崇志, 古徳直之, 中田千晶, 鎌田春彦, 遠藤洋子, 佐藤陽紀, 角田慎一, 井上正宏, 小林資正 日本薬学会第 133 年会、2013/3/28、パシフィコ横浜 (横浜)
51. 「海綿由来ジテルペンアルカロイド agelasine 類の潜在性結核菌に対する抗菌活性とその標的分子の解明」 荒井雅吉, 山野喜, 小林資正 日本薬学会第 133 年会、2013/3/28、パシフィコ横浜 (横浜)
52. 「抗結核作用を有する天然有機化合物の研究 -海洋薬用資源からの医薬シーズの創出と新規薬剤標的分子の開拓-」 荒井雅吉 岡山大学大学院 医歯薬総合研究科 難治性感染症を標的とした創薬研究教育推進事業 平成 24 年度 教育講演会・成果報告会、2013/2/8、岡山大学 (岡山) (招待講演)
53. 「低酸素環境選択的がん細胞増殖阻害物質 furospinosulin-1 のケミカルバイオロジー研究による新規薬剤標的分子の創出」 荒井雅吉, 河内崇志, 中田千晶, 佐藤陽紀, 古徳直之, 小林資正 第 30 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2012/11/28、タワーホール船堀 (東京)
54. 「海洋天然物 cortistatin A を基盤とする抗腫瘍活性リード化合物の創製」 古徳直之, 住井裕司, 林剛史, 田村理, 河内崇志, 塩村昌, 竹島亜季, 荒井雅吉, 小林資正 第 30 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2012/11/28、タワーホール船堀 (東京)
55. 「海洋天然物 furospinosulin-1 を基盤とする新規がん分子標的治療薬の開発」 荒井雅吉, 河内崇志, 佐藤陽紀, 中田千晶, 山田昌樹, 藤岡真一, 古徳直之, 小林資正 第 19 回天然薬物の開発と応用シンポジウム、2012/11/2、大阪大学 (大阪)
56. 「血管新生阻害物質 cortistatin A 由来の抗腫瘍リード化合物の創製研究」 古徳直之, 住井裕司, 林剛史, 田村理, 河内崇志, 塩村昌, 竹島亜季, 荒井雅吉, 小林資正 第 19 回天然薬物の開発と応用シンポジウム、2012/11/2、大阪大学 (大阪)
57. 「海洋生物由来の抗潜在性結核物質の探索とその作用メカニズム解析」 荒井雅吉, 山野喜, 韓智秀, 小林資正 第 19 回天然薬物の開発と応用シンポジウム、2012/11/2、大阪大学 (大阪)
58. 「Cortistatin A をモチーフとする抗腫瘍活性リード化合物の創製」 古徳直之, 住井裕司, 林剛史, 田村理, 河内崇志, 塩村昌, 竹島亜季, 荒井雅吉, 小林資正 第 62 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2012/10/20、武庫川女子大学 (兵庫)
59. 「インドネシア産海綿由来 N-isopentenyladenosine の HUVEC 選択的増殖阻害作用」 荒井雅吉, 塩村昌, 古徳直之, 小林資正 第 62 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2012/10/20、武庫川女子大学 (兵庫)
60. 「潜在性結核菌に有効な抗菌物質の探索とゲノム DNA ライブラリーを利用する標的分子の解明」 荒井雅吉, 山野喜, 韓智秀, Patamaporn Pruksakorn, 小林資正 第 54 回天然有機化合物討論会、2012/9/19、東京農業大学 (東京)
61. 「海綿由来ジテルペンアルカロイド agelasine 類の抗潜在性結核活性とその標的分子の解析」 荒井雅吉, 山野喜, 小林資正 日本生薬学会 第 59 回年会、2012/9/17、かずさアカデミアパーク (千葉)
62. 「海洋由来真菌が産生するセスタテルペン ophiobolin 類の biofilm 形成阻害活性」 荒井雅吉, 新川大貴, 小林資正 日本生薬学会 第 59 回年会、2012/9/17、かずさアカデミアパーク (千葉)
63. 「血管新生阻害物質 cortistatin A 由来の抗腫瘍リード化合物の創製」 古徳直之, 住井裕司, 林剛史, 田村理, 河内崇志, 伊藤葵, 塩村昌, 竹島亜季, 荒井雅吉, 小林資正 日本生薬学会 第 59 回年会、2012/9/17、かずさアカデミアパーク (千葉)
64. 「血管新生阻害物質 cortistatin A 由来の抗がん剤リード化合物の創製研究」 古徳直之, 河内崇志, 荒井雅吉, 小林資正 日本がん分子標的治療学会第 16 回学術集会、2012/6/28、西日本総合展示場 (福岡)
65. "Search for anti-dormant mycobacterial substances from marine sponges and analysis of their action-mechanism." Yoshi Yamano, Maşayoshi Arai, Motomasa Kobayashi The 7th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical Sciences for Young Scientists, 2012/5/25, 京都大学 (京都)
66. 「Furospinosulin-1 由来の新規抗腫瘍活性リード化合物の合成と標的タンパク質解析」 古徳直之, 中田千晶, 山田昌樹, 河内崇志, 佐藤陽紀, 荒井雅吉, 小林資正 第 10 回次世代を担う有機化学シンポジウム、2012/5/12、大阪大学 (大阪)
67. 「海洋天然物 cortistatin A を基盤とする抗がん剤リード化合物の創製」 古徳直之, 荒井雅吉, 小林資正 日本薬学会第 133 年会一般シンポジウム「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」、2013/3/30、パシフィコ横浜 (横浜) (招待講演)
68. 海洋天然物由来の抗がん剤リード化合物の創製と標的タンパク質解析」 古徳直之 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー」第 1 回若手研究者ワークショップ、2012/6/16、東京医科歯科大学 (東京)

【西山賢一】

1. 志水優子, 佐々木優, Ross Dalbey, 西山賢一, 「糖脂質酵素 MPlase に依存するタンパク質膜挿入反応は YidC により促進される」日本農芸化学会 2016 年度大会、札幌コンベンションセンター、2016 年 3 月 28 日 (北海道・札幌市)
2. 沢里 克宏, 佐藤 諒, 西山賢一, 「タンパク質膜挿入に関与する糖脂質酵素 MPlase の in vivo における機能解析」第 1 回デザイン生命工学研究会、東京工業大学すずかけホール 2016 年 3 月 8 日 (神奈川県・横浜市)
3. Yuta Endo, Toshiyuki Yamaguchi, Hideaki Matsubayashi, Yutetsu Kuruma, Takuya Ueda, Keiko Shimamoto, Ken-ichi Nishiyama, "Characterization of an MPlase homologue in plants that catalyses membrane protein integration", The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, 17 Dec 2015, Honolulu (USA)
4. Ryo Sato, Keiko Shimamoto, Toshiyuki Yamaguchi, Michael Moser, Ken-ichi Nishiyama, "Identification of biosynthetic enzymes for MPlase, a glycolipoyzyme essential for membrane protein integration, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, 17 Dec 2015, Honolulu (USA)
5. Katsuhiko Sawasato, Michael Moser, Ryo Sato, Ken-ichi Nishiyama, "Glycolipoyzyme MPlase functions as membrane protein integrase in vivo", The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, 17 Dec 2015, Honolulu (USA)
6. Masaru Sasaki, Hideaki Matsubayashi, Yutetsu Kuruma, Takuya Ueda, Ken-ichi Nishiyama, "Reconstitution of glycolipoyzyme MPlase-dependent

- protein integration into membrane”, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, 17 Dec 2015, Honolulu (USA)
7. Ken-ichi Nishiyama, Michael Moser, Shoichi Kusumoto, Keiko Shimamoto, “MPlase (membrane protein integrase), a glycolipozyme involved in protein integration into and protein translocation across the cytoplasmic membrane of *E. coli*, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, 15 Dec 2015, Honolulu (USA)
 8. 遠藤 佑太, 松林 英明, 山口 敏幸, 車 ゆうてつ, 上田 卓也, 島本 啓子, 西山 賢一, 「タンパク質膜挿入に関与する糖脂質酵素 MPlase の植物ホモログの精製」、第 38 回分子生物学会年会・第 88 回生化学会大会合同大会 BMB2015、2015 年 12 月 2 日、神戸ポートアイランド (兵庫県・神戸市)
 9. 沢里 克宏, Michael Moser, 佐藤 諒, 田村 康, 遠藤 斗志也, 西山 賢一, 「タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質酵素 MPlase の *in vivo* における機能解析」、第 38 回分子生物学会年会・第 88 回生化学会大会合同大会 BMB2015、2015 年 12 月 2 日、神戸ポートアイランド (兵庫県・神戸市)
 10. 佐藤 諒, 澤里 克宏, 山口 敏幸, Moser Michael, 島本 啓子, 西山 賢一, 「タンパク質膜挿入に必須の糖脂質酵素 MPlase の生合成因子の同定」、第 10 回無細胞生命科学研究会、2015 年 10 月 13 日、理研横浜キャンパス交流棟ホール (神奈川県・横浜市)
 11. 西山 賢一, 「人工細胞開発のための機能的膜タンパク質試験管内合成システムの構築新」、動的・多要素な生体分子ネットワークを理解するための合成生物学の基盤構築」研究発表会、2015 年 10 月 6 日、九州大学西新プラザ (福岡県・福岡市)
 12. 沢里克宏, 「糖脂質酵素 MPlase (Membrane Protein Integrase) の *in vivo* における役割」、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第 7 回若手研究者ワークショップ、東北大学青葉サイエンスホール、2015 年 6 月 9 日 (宮城県・仙台市)
 13. 佐々木優, Michael Moser, Maria Huber, 西山 賢一, 「タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質 MPlase と標的タンパク質との相互作用」、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第 8 回公開シンポジウム、東北大学さくらホール、2015 年 6 月 9 日 (宮城県・仙台市)
 14. 沢里克宏, Michael Moser, 佐藤諒, 田村康, 遠藤斗志也, 西山 賢一, 「大腸菌タンパク質膜挿入因子 MPlase の *in vivo* における役割」、第 12 回 21 世紀大腸菌研究会、2015 年 6 月 4 日、琵琶湖グランドホテル・京近江 (滋賀県・大津市)
 15. 佐々木優, 松林英明, 車ゆうてつ, 上田卓也, 西山 賢一, 「再構成によるタンパク質膜挿入における必須因子の決定」、第 12 回 21 世紀大腸菌研究会、2015 年 6 月 4 日、琵琶湖グランドホテル・京近江 (滋賀県・大津市)
 16. 佐藤 諒, 山口 敏幸, Moser Michael, 島本 啓子, 西山 賢一, 「タンパク質膜挿入に必須な糖脂質酵素 MPlase の生合成経路の解明」、第 12 回 21 世紀大腸菌研究会、2015 年 6 月 4 日、琵琶湖グランドホテル・京近江 (滋賀県・大津市)
 17. 佐々木優, 永野孝典, Michael Moser, 松林英明, 車愈澈, 上田卓也, 西山 賢一, 「糖脂質酵素 MPlase と タンパク質膜透過チャネル SecYEG に依存したタンパク質膜挿入反応の再構成」、日本農芸化学会 2015 年度大会、2015 年 3 月 29 日、岡山大学 (岡山県・岡山市)
 18. 山口敏幸, 西山 賢一, 島本啓子, 「NMR 測定による糖脂質 MPlase の膜タンパク質膜挿入活性発現機構解析」、日本化学会第 95 春季年会、2015 年 3 月 28 日、日本大学 (千葉県・船橋市)
 19. Nishiyama, K., “Interaction between MPlase, a glycolipid involved in membrane protein integration and preprotein translocation, and its target proteins”, The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 28 Oct 2014, Life Science Center, (Osaka)
 20. 西山 賢一, 「タンパク質膜挿入に関与する糖脂質酵素 MPlase と YidC との機能的相互作用」、第 9 回無細胞生命科学研究会、2014 年 10 月 9 日、大阪大学医学部銀杏会館 (大阪府・吹田市)
 21. 遠藤佑太, 松林英明, 車愈澈, 上田卓也, 西山 賢一, 「タンパク質膜挿入に関与する糖脂質酵素 MPlase の植物ホモログの探索」、第 9 回 無細胞生命科学研究会、2014 年 10 月 8 日、大阪大学医学部銀杏会館 (大阪府・吹田市)
 22. Nishiyama, K., “Functional interaction between glycolipozyme MPlase and the YidC protein in protein integration into membranes, The Gordon Research Conference on Bacterial Cell Surfaces, 23 Jun 2014, West Dover, VT (USA).
 23. Michael Moser, Maria Huber, 西山 賢一, 「タンパク質膜透過・膜挿入に関わる糖脂質酵素 MPlase と YidC との機能的相互作用」、第 11 回 21 世紀大腸菌研究会、2014 年 6 月 5 日、ホテル大観 (岩手県・盛岡市)
 24. 西山 賢一, 「タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質 MPlase と標的タンパク質との相互作用」、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第 6 回公開シンポジウム、2014 年 5 月 28 日、名古屋大学 坂田・平田ホール (愛知県・名古屋市)
 25. Ken-ichi Nishiyama, Shoichi Kusumoto, Hajime Tokuda, and Keiko Shimamoto, “MPlase (Membrane Protein Integrase), a Glycolipozyme Involved in Protein Integration into and Preprotein Translocation across Membranes”, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 27 Oct 2013, Pacifico Yokohama (Yokohama)
 26. Michael Moser, 永森 收志, Maria Huber, 徳田 元, 西山 賢一, 「タンパク質膜挿入に必須の糖脂質酵素 MPlase がタンパク質膜透過反応に及ぼす役割」、第 8 回無細胞生命科学研究会、2013 年 10 月 21 日、新潟大学中央図書館 (新潟県・新潟市)
 27. Michael Moser, 永森 收志, Maria Huber, 徳田 元, 西山 賢一, 「糖脂質酵素 MPlase はタンパク質膜透過反応において SecG の配向性反転に必須である」、第 86 回日本生化学会大会、2013 年 9 月 12 日、パシフィコ横浜 (神奈川県・横浜市)
 28. 西山 賢一, 「糖脂質酵素 MPlase はタンパク質膜透過反応において SecG の配向性反転に必須である」、第 10 回 21 世紀大腸菌研究会、2013 年 6 月 20 日、ラフォーレ修善寺 (静岡県・伊豆市)
 29. 西山 賢一, 「タンパク質膜透過・膜挿入に関与する糖脂質酵素 MPlase の構造と機能」、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第 4 回公開シンポジウム、2013 年 5 月 28 日、つくば国際会議場 (茨城県・つくば市)
 30. 西山 賢一, 前田将秀, 柳澤華代, 永瀬良平, 小村啓, 岩下孝, 山垣亮, 楠本正一, 徳田元, 島本 啓子, 「タンパク質膜挿入に必須の糖脂質酵素 (Glycolipozyme) MPlase」、第 7 回無細胞生命科学研究会、2012 年 11 月 17 日、愛媛大学 南加記念ホール (愛媛県・松山市)
 31. Keiko Shimamoto, Masahide Maeda, Ryohei Nagase, Shoichi Kusumoto, Hajime Tokuda, Kayo Yanagisawa, Ken-ichi Nishiyama, “Structure and function of a novel glycolipid characterized as membrane protein integrase” The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 31 Oct 2012, Kyoto Century Hotel (Kyoto)
 32. Michael Moser, Shushi Nagamori, Maria Huber, Hajime Tokuda, Ken-ichi Nishiyama, “MPlase, a novel glycolipozyme, is essential for topology inversion of SecG”, The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 31 Oct 2012, Kyoto Century Hotel (Kyoto)
 33. 島本啓子, 前田将秀, 永瀬良平, 楠本正一, 徳田元, 柳澤佳代, 西山 賢一, 「大腸菌膜タンパク質挿入に関わる新しい因子 MPlase の機能と構造」、第 31 回 日本糖質学会年会、2012 年 9 月 20 日、鹿児島市民文化ホール (鹿児島県・鹿児島市)
 34. Ken-ichi Nishiyama, Masahide Maeda, Kayo Yanagisawa, Ryohei Nagase, Hajime Komura, Takashi Iwashita, Shoichi Kusumoto, Hajime Tokuda and Keiko Shimamoto, “MPlase as a glycolipozyme essential for membrane protein integration”, Gordon Research Conference on Bacterial Cell

Surfaces, 27 Jun 2012, West Dover, VT (USA)

35. 西山賢一、前田 将秀、柳澤 華代、島本 啓子、楠本 正一、徳田 元「タンパク質膜挿入に必須の糖脂質酵素 MPIase の構造と機能」第9回21世紀大腸菌研究会2012年6月17日、長浜ロイヤルホテル(滋賀県・長浜市)
36. Michael Moser、西山賢一「タンパク質膜挿入に必須の糖脂質 MPIase とその標的タンパク質との相互作用解析」、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第2回公開シンポジウム2012年6月17日、東京大学弥生講堂(東京都・文京区)
37. 西山賢一、「タンパク質膜挿入反応に関与する糖脂質酵素 MPIase の構造と機能」第1回デザイン生命工学研究会、東京工業大学すざかけホール、2016年3月8日(神奈川県・横浜市)
38. 西山賢一、「タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質酵素 (Glycolipozyme) MPIase の構造と機能」岐阜大学大学院連合獣医学研究科特別講演会、2015年8月25日、岩手大学ポランホール(岩手県・盛岡市)
39. 西山賢一、「タンパク質膜挿入に関わる糖脂質酵素 MPIase の作用原理の解明とその応用」、第16回酵素応用シンポジウム 研究奨励賞受賞講演(天野エンザイム)、2015年6月12日、天野エンザイム慈善堂ホール(愛知県・北名古屋市)
40. 西山賢一、前田将秀、Michael Moser、楠本正一、徳田元、島本啓子、「タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質酵素 (Glycolipozyme) MPIase の構造と機能」、日本農芸化学会2015年度大会 大会シンポジウム「天然物ケミカルバイオロジー研究の新展開」、2015年3月29日、岡山大学(岡山県・岡山市)
41. 島本啓子、「興奮性神経伝達機構ならびに膜挿入機構の生物有機化学的研究」、日本化学会第31回学術賞受賞講演、2015年3月29日、名古屋市大学(愛知県・名古屋市)
42. Nishiyama, K., "Reconstitution of preprotein translocation across and membrane protein integration into the cytoplasmic membrane of *E. coli*", 「細胞を創る」研究会 7.0, 13 Nov, 2014, Yayoi Hall, Tokyo Univ, (Tokyo)
43. 西山賢一、「タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質酵素 (Glycolipozyme) MPIase の構造と機能」、文部科学省特別経費「分子構築イノベーション」フロンティア化学教育研究センター (FCC) 講演会、2014年9月24日、北海道大学工学研究院(北海道・札幌市)
44. 西山賢一、「タンパク質膜透過・膜挿入に関与する糖脂質酵素 (glycolipozyme) MPIase の構造と機能」、第258回生物科学セミナー、2014年4月24日、大阪大学(大阪府・吹田市)
45. Nishiyama, K., Kusumoto, S., Tokuda, H. and Shimamoto, K., "MPIase (Membrane Protein Integrase), a glycolipozyme involved in protein integration into and preprotein translocation across membranes", The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 28 Oct, 2013, Pacifico Yokohama (Yokohama)
46. 西山賢一、「大腸菌のタンパク質膜挿入に必須の糖脂質酵素 (glycolipozyme) MPIase の構造と機能」、日本農芸化学会2013年度大会大会シンポジウム「グラム陰性細菌細胞表層構造の形成機構とバイオテクノロジー」、2013年3月27日、東北大学(宮城県・仙台市)
47. 西山賢一、「タンパク質膜挿入・膜透過に関与する糖脂質酵素 (Glycolipozyme) MPIase の構造と機能」、弘前大学農学生命科学部研究推進委員会主催 学術講演会、2013年1月25日、弘前大学農学生命科学部(青森県・弘前大学)

【福永浩司】

1. 福永浩司：不正論文に対する J P S 編集委員会の取り組み(日本薬理学会・日本臨床薬理学会共催教育セミナー)第89回日本薬理学会年会 平成28年3月9～11日、横浜
2. 福永浩司：海馬T型カルシウムチャネルによる CaMKII 活性化と認知機能障害 (JPS サテライトシンポジウム) 第89回日本薬理学会年会 平成28年3月9～11日、横浜
3. 福永浩司：心疾患に伴う鬱症状と Sigma-1 受容体 (シンポジウム) 第89回日本薬理学会年会 平成28年3月9～11日、横浜
4. Kohji Fukunaga: Post-traumatic stress disorder-like behaviors in FABP3 null mice. Neuroscience 2015. October 17-21, 2015, Chicago, USA
5. Kohji Fukunaga: Sigma-1 receptor mediates depressive behaviors induced by cardiovascular diseases. Neuroscience 2015. October 17-21, 2015, Chicago, USA
6. Kohji Fukunaga: Sigma-1 receptor agonist and fluvoxamine rescue depressive behaviors in CaMKIV null mice. (ポスター発表) Experimental Biology 2015. March 28-April 1, 2015, Boston, USA
7. Kohji Fukunaga: Disease-modifying therapeutics for Parkinson's disease and amyotrophic lateral sclerosis. (国際交流シンポジウム) 日本薬学会 第135年会、平成27年3月25～28日、神戸
8. 福永浩司：心疾患に伴ううつ症状のメカニズムと治療 (JPS サテライトシンポジウム) 第88回日本薬理学会年会 平成27年3月18～20日、名古屋
9. 福永浩司：T型カルシウムチャネル活性化薬のアルツハイマー病治療への応用 (ポスター発表) 第33回日本認知症学会学術集会 平成26年11月29日～12月1日、横浜
10. Kohji Fukunaga: FABP3 promotes α -synuclein oligomerization in dopaminergic neurons. Neuroscience 2014. November 15-19, 2014, Washington, DC, USA.
11. Kohji Fukunaga: Methyl pyruvate rescues mitochondrial degeneration by sigma-1 receptor mutation in amyotrophic lateral sclerosis. Neuroscience 2014. November 15-19, 2014, Washington, DC, USA.
12. 福永浩司：脳内炎症に対するベグ化脂質ナノ粒子の効果 第87回日本生化学会大会 平成26年10月15～18日、京都
13. Kohji Fukunaga: The memory improvement by T-type Ca^{2+} channel stimulation. 第87回日本薬理学会年会 平成26年3月19～21日、仙台
14. 福永浩司：心血管系における Sigma-1 受容体の発現と機能 第176回横浜市立大学医学会講演会 平成25年12月13日、横浜
15. Kohji Fukunaga: Synergic induction of cardiac hypertrophy by CaMKII and calcineurin activities. The 2nd Taiwan-Japan Bilateral Conference on Protein phosphatases. 平成25年11月27～30日、台湾
16. 福永浩司：神経変性疾患におけるニコチン受容体を介する神経保護(招待講演)喫煙科学研究財団シンポジウム2013 平成25年11月15日、東京
17. Kohji Fukunaga: Sigma-1 receptor mutation in Amyotrophic Lateral Sclerosis causes neuronal inclusion of TDP-43. 第43th Society for Neuroscience: Annual Meeting 平成25年11月9～13日、アメリカ・サンディエゴ
18. Kohji Fukunaga: Neurochemical methods for evaluating the cognition-enhancing drugs for schizophrenia model rats. The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity 平成25年10月28～29日、横浜
19. 福永浩司：循環器疾患に対するフルボキサミンの有用性 第43回日本神経精神薬理学会 平成25年10月24～26日、沖縄
20. 福永浩司：CaM kinase II 研究から精神疾患を考える (招待講演)第26回鹿児島ブレインサイエンスカンファレンス 平成25年10月22日、鹿児島
21. Kohji Fukunaga: A mutation of sigma-1 receptor associated with ALS causes neuronal mitochondrial dysfunction (招待講演) The 11th Korea-

- Japan Joint Symposium of Brain Sciences and Cardiac and Smooth Muscle Sciences 平成 25 年 9 月 4～7 日、浜松
22. 福永浩司：筋萎縮性側索硬化症 ALS におけるミトコンドリア障害と創薬ターゲット 生体機能と創薬シンポジウム 2013 平成 25 年 8 月 29～30 日、福岡
 23. Kohji Fukunaga: Impact of sigma-1 receptor in cardiovascular and neurodegenerative diseases (招待講演) The 12th Meeting of the Asia Pacific Federation of Pharmacologists (MAPFP). 平成 25 年 7 月 9～13 日、中国・上海
 24. 福永浩司：Clinical implication of sigma-1 receptor ligands in neurodegenerative disease therapy (神経変性疾患における sigma-1 受容体リガンドの臨床的意義) 第 86 回日本薬理学会年会 平成 25 年 3 月 21～23 日、福岡
 25. 福永浩司：Nobiletin improves cognitive impairment in Parkinson model mice. 第 86 回日本薬理学会年会 平成 25 年 3 月 21～23 日、福岡
 26. Kohji Fukunaga: T-type voltage-gated calcium channel as a novel Alzheimer therapeutic target. The 11th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's diseases 平成 25 年 3 月 6～10 日、Florence Italy
 27. Kohji Fukunaga : Development of potent T-VGCC activator SAK3 as Alzheimer therapeutics. The 11th International Conference on Alzheimer's and Parkinson's diseases 平成 25 年 3 月 6～10 日、Florence Italy
 28. Kohji Fukunaga: Novel therapeutic targets in Alzheimer disease (招待講演) The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity 平成 24 年 10 月 31 日～11 月 1 日 京都
 29. 福永浩司：新規アルツハイマー治療候補薬 ST101 による認知機能改善のメカニズム 第 42 回日本神経精神薬理学会 平成 24 年 10 月 18 日～20 日、福岡
 30. 福永浩司：Sigma-1 受容体の構造と心臓機能。生体機能と創薬シンポジウム 2012 平成 24 年 8 月 30 日～31 日、神戸
 31. Kohji Fukunaga: The mitochondrial Ca²⁺ transport and ATP production through sigma-1 receptor in heart. Basic Cardiovascular Sciences 2012 Scientific Sessions 平成 24 年 7 月 23 日～27 日、New Orleans, Louisiana, USA
 32. Kohji Fukunaga: Novel Alzheimer's therapeutics, ST101 enhances acetylcholine release through T-type voltage-gated calcium channel. Alzheimer's Association of International Conference 平成 24 年 7 月 14 日～19 日、Vancouver, Canada

【関水久】

1. 浜本洋、安川淳一郎、石井健一、安達達朗、関水久、「新規抗生物質カイクシンの作用機序と宿主因子による活性化」日本薬学会第 134 年会 (シンポジウム) 「微生物感染症に対抗する薬学的アプローチ -薬剤耐性克服への最前線-」、2014 年 3 月 27-30 日、熊本大学 (熊本県熊本市)
2. 浜本洋、石井健一、安達達朗、鈴木穰、関水久、「次世代シークエンサーを用いた黄色ブドウ球菌の宿主応答因子の網羅的な解析手法」、第 36 回日本分子生物学会年会 (ワークショップ) 「ウェット個別研究とドライ研究の実践的超融合～新しい分子生物学のあり方を模索する」、2013 年 12 月 3-6 日、神戸ポートピアホテル (兵庫県神戸市)
3. 関水久、「シルクワームによる挑戦」、日本動物実験代替法学会第 26 回大会 (ランチョンセミナー) 「シルクワームによる挑戦」、2013 年 12 月、京都テラサ (京都府京都市)
4. 安川淳一郎、浜本洋、Jie Su、Atmika Paudel、浦井誠、石井健一、安達達朗、西田智、関水久、新規抗生物質カイクシンによる新規細胞膜破壊メカニズム、第 35 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム、2013 年 11 月 21 日～22 日、東京大学 (東京都文京区)
5. Kazuhiisa Sekimizu, Hiroshi Hamamoto, “Molecular Target analysis of the Novel Antibiotics Kaikosins”, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity in Yokohama, Japan (Oct. 28-29, 2013)
6. Hiroshi Hamamoto, Jie Su, Atmika Paudel, Makoto Urai, Keiko Kataoka, Kazuhiisa Sekimizu, “Molecular Target analysis of Novel Antibiotics Kaikosins”, 53th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (ICAAC) in Denver, USA (Sep. 9-13, 2013)
7. Jyunichiro Yasukawa, Hiroshi Hamamoto, Kazuhiisa Sekimizu, “Antibacterial activity of a novel lipopeptide antibiotic, kaikosin E, is enhanced by host factors”, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity in Yokohama, Japan (Oct. 28-29, 2013)
8. 安川淳一郎、浜本洋、Jie Su、Atmika Paudel、浦井誠、石井健一、安達達朗、西田智、関水久、カイク細菌感染モデルを用いた治療有効な新規抗生物質カイクシンの作用機序解析、第 86 回日本生化学会大会、2013 年 9 月 11 日～13 日、パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
9. 浜本洋、Su Jie、Atmika Paudel、西田智、関水久、新規抗生物質カイクシンの作用機序解析、第 25 回微生物シンポジウム、2013 年 9 月 6 日～7 日、静岡県立大学 (静岡県静岡市)
10. 関水久、浜本洋、新規リポペプチド系抗生物質カイクシンの標的特定、学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー:分子標的と制御」第 4 回公開シンポジウム、2013 年 5 月 28 日～29 日、つくば国際会議場 (茨城県つくば市)
11. 浜本洋、石川蘭子、瀬筒秀樹、坪田拓也、片岡啓子、松本靖彦、垣内力、関水久、カイク病態モデルを利用した医薬品の探索研究、日本薬学会 第 133 年会、2013 年 3 月 27 日～30 日、パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)
12. 関水久、ヒト病態モデルカイクコを活用した新薬の開発と課題、第 5 回公開シンポジウム「カイク産業の未来」、2013 年 1 月 18 日、秋葉原コンベンションホール (東京都千代田区)
13. Hiroshi Hamamoto, Su Jie, Paudel Atomika, Makoto Urai, Kazuhiisa Sekimizu, Characterization and mechanistic analysis of novel antibiotics Kaikosin, produced by *Lysoacter* sp. International Symposium on Genome Science Expanding Frontiers of Genome Science, 2013 年 1 月 9 日～10 日、Tokyo, Japan
14. 関水久、病原性細菌によるカイク感染モデルを利用した新規抗生物質の探索、東京大学大学院農学生命科学研究科微生物潜在機能探索寄附講座開設記念シンポジウム「微生物機能の多様性」～東京大学のさまざまな部局における微生物研究～、2012 年 11 月 28 日、東京大学 (東京都文京区)
15. 浜本洋、Su Jie、Atmika Paudel、浦井誠、片岡啓子、関水久、新規抗生物質カイクシンの作用機序解析に関する研究、第 3 4 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム、2012 年 11 月 15 日～16 日、京都大学 (京都府京都市)
16. Su Jie, Hiroshi Hamamoto, Kazuhiisa Sekimizu, Purification of a serum factor enhancing Kaikosin E activity against *Staphylococcus aureus*, The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2012 年 10 月 31 日～11 月 1 日、Kyoto, Japan
17. Kazuhiisa Sekimizu, Hiroshi Hamamoto, Mechanistic Analysis of Novel Antibiotics Kaikosins, The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2012 年 10 月 31 日～11 月 1 日、Kyoto, Japan
18. 関水久、ヒト病態モデルカイクコを活用した新薬の開発と課題、第 60 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会、2012 年 10 月 10 日～12 日、東京ドームホテル (東京都文京区)
19. 浜本洋、Su Jie、浦井誠、Atmika Paudel、片岡啓子、関水久、新規環状リポペプチド系抗生物質カイクシンの作用機序解析、第 2 4 回微生物シンポジウム、2012 年 9 月 3 日～4 日、常翔学園大阪センター (大阪府大阪市)

20. 関水和久、カイクモデルでの治療効果を指標として発見された新規抗生物質カイクシン、第2回天然物ケミカルバイオロジー公開シンポジウム、2012年6月17日~18日、東京大学(東京都文京区)

【岡田麻衣子】

1. 岡田麻衣子、DNA 損傷応答におけるユビキチン-プロテアソームシステム制御機構の解析、Woman GDN、2016年1月21日-22日、貸し会議室シアル(神奈川県、横浜市)
2. 岡田麻衣子、敦賀智子、宇井彩子、太田智彦、シグナル依存的な染色体動態における分解制御機構の解析、第33回染色体ワークショップ・第14回核ダイナミクス研究会、2016年1月12日-14日、松島一の坊(宮城、松島)
3. 岡田麻衣子、大竹史明、西川裕之、佐伯泰、田中啓二、太田智彦、ER α はUBE3CのユビキチンE3リガーゼ活性に対するリガンド依存的な調整因子として機能する、第38回日本分子生物学会年会・第88回日本生化学回大会合同大会、2015年12月1日-4日、神戸ポートアイランド(兵庫、神戸)
4. 岡田麻衣子、西川裕之、大竹史明、佐伯泰、田中啓二、太田智彦、ERはリガンド依存的なユビキチン化制御因子として機能する、第33回内分泌代謝学サマーセミナー、2015年7月9日-11日、柳川藩主立花邸御花(福岡県、柳川市)
5. 黒田貴子、岡田麻衣子、呉文文、敦賀智子、福田貴代、太田智彦、津川浩一郎、ドキシサイクリン誘導性BRCA1欠損ER陽性細胞の樹立、2015年7月2日-4日 第23回日本乳癌学会学術総会 東京国際フォーラム(東京都、千代田区)
6. 岡田麻衣子、ER/UBE3Cによるリガンド依存性ユビキチン制御能に着眼したプロテアソーム阻害剤の適応拡大、日本ケミカルバイオロジー学会第10回年会、2015年6月10日-12日、東北大学川内キャンパス(宮城、仙台市)
7. 大石悠、田村理、阿部哲郎、岡田麻衣子、上田実、核内受容体を介したウバゲニンの機能解析、2015年6月6日、第26回記念 万有仙台シンポジウム 仙台国際センター(宮城県、仙台市)
8. 渡士幸一、中嶋翔、紙透伸治、Jesus Izaguirre-Carbonell、Andrew Tae-Jun Kwon、鈴木治和、九十田千子、岡田麻衣子、鈴木亮介、相崎英樹、菅原二三男、脇田隆字、Neoechinulin Bのliver X receptor 転写阻害効果の同定およびそれによるC型肝炎ウイルス複製制御機構の解析、第25回抗ウイルス療法学会総会、2015年5月22日-24日、リーガロイヤルホテル東京・国立感染症研究所(東京、新宿区)
9. 田村理、大石悠、阿部哲郎、岡田麻衣子、上田実、核内受容体リガンドとしてのウバゲニンの機能解析、2015年、3月25日-28日 日本薬学会第135年会 神戸学院大学・兵庫医療大学(兵庫県、神戸市)
10. 岡田 麻衣子、Estrogen stimulates the E3 ubiquitin ligase activity of UBE3C in cell proliferation、第3回国際シンポジウム(第7回公開シンポジウム)、2014年10月28日-29日、千里ライフサイエンスセンター・ライフホール(大阪・大阪府)
11. 岡田 麻衣子、西川 裕之、呉 文文、太田智彦、ER α はリガンド依存性ユビキチンリガーゼ活性制御因子として機能する、第87回生化学大会、2014年10月15日-18日、国立京都国際会館(京都、京都市)
12. Maiko Okada, Hiroyuki Nishikawa Wenwen Wu, Tomohiko Ohta, "A non-genomic role of Estrogen receptor alpha: Stimulation of E3 ubiquitin ligase activity of UBE3C in cell proliferation", Nuclear Regulation by Ubiquitin (No. 60), Benzon symposium, Aug 18-21, 2014, Copenhagen
13. 岡田 麻衣子、リガンド依存性E3リガーゼ活性を指標とした新規核内受容体リガンド評価系の構築、第6回公開シンポジウム、2014年5月28日-29日、名古屋大学坂田・平田ホール(愛知、名古屋)
14. Chen ST., Okada M., Bando M., Nakato R., Shirahige K., The deubiquitinating enzyme USP7 promotes AR transcriptional activity by enhancing AR chromatin recruitment. 2013 12月3日-6日 第36回日本分子生物学会 神戸ポートアイランド(兵庫県、神戸市)
15. 岡田 麻衣子、A mitotic estrogen receptor alpha complex acts as an E3 ubiquitin ligase、第2回国際シンポジウム(第5回公開シンポジウム)、2013年10月28日-29日、パシフィコ横浜(神奈川県、横浜市)
16. 上田実、大石悠、岡田麻衣子、田村理、強心性配糖体アグリコンウバゲニンの標的タンパク質に関するケミカルバイオロジー、2013年、9月11日-13日 第86回日本生化学会大会 パシフィコ横浜(神奈川県、横浜市)
17. 岡田 麻衣子、A mitotic estrogen receptor alpha complex acts as an E3 ubiquitin ligase、第35回内藤カンファレンス『The Ubiquitin-Proteasome System: From Basic Mechanisms to Pathophysiological Roles』、2013年7月9日—21日、シャトレーゼ ガトーキングダム サッポロ(北海道、札幌)
18. 岡田 麻衣子、エストロゲン/ERシグナルによる標的的特異的タンパク分解機構、新学術領域研究第4回公開シンポジウム、2013年5月28日-5月29日、つくば国際会議場(茨城県、つくば市)
19. 岡田 麻衣子、タンパク分解を介した新たなステロイドホルモン作用機構、新学術領域研究地区ミニシンポジウム『生理活性ステロイド』、2013年2月23日、東京大学中島ホール(東京都、文京区)
20. 岡田 麻衣子、The establishment of a ligand-dependent ubiquitination assay in vitro for NR-ligands screening、新学術領域研究第一回国際シンポジウム(第3回公開シンポジウム)、2012年10月31日-11月1日、京都センチュリーホテル(京都)
21. 朝妻知子、西川亜美、岡田麻衣子、土屋光、吉村充騎、大竹史明、加藤茂明、ビタミンD受容体のユビキチンリガーゼ活性の分子機構解明、第30回日本骨代謝学会学術集会、2012年7月19日-21日 新宿京王プラザホテル(東京都、新宿区)
22. 朝妻知子、西川亜美、岡田麻衣子、土屋光、大竹史明、加藤茂明、ビタミンD受容体のユビキチンリガーゼ活性の分子機構解明、日本ビタミン学会第64回大会、2012年6月22日-23日長良川国際会議場(岐阜県、岐阜市)
23. 岡田 麻衣子、Nuclear receptor modulates ubiquitin E3 ligase activity in a ligand-dependent manner、新学術領域研究第一回国際シンポジウム(第2回公開シンポジウム)、2012年6月17-18日、東京大学弥生講堂(東京都、文京区)

【松森信明】

1. 松森信明、木下祥尚、脂質ラフト形成基盤の解明を目指したスフィンゴミエリンの動的およびNMR構造解析、日本化学会第96春季年会、2016年3月24日、同志社大学(京都府京田辺市)
2. 松森信明、脂質膜における動的挙動、構造および相互作用解析、蛋白研セミナー生体膜上の生物化学、2016年3月3日、阪急万博ホテル(大阪府吹田市)
3. N. Matsumori, NMR studies of lipid rafts, Pacificchem2015, Dec. 16, 2015, Honolulu (USA)
4. N. Matsumori, Small molecule interactions with membrane sterol, Pacificchem 2015, Dec. 17. 2015 Honolulu (USA)
5. 松森信明、脂質ラフトにおける脂質分子の動的挙動および構造解析、第88回日本生化学会大会フォーラム、2015年12月3日、神戸ポートアイランド(兵庫県神戸市)
6. 松森信明、脂質膜の統合分析、第33回九州コロイドコロキウム、2015年11月21日、九州大学西新プラザ(福岡市)
7. 松森信明、村田道雄、脂質ラフトのNMR解析、第53回日本生物物理学会年会、2015年9月14日、金沢大学(石川県金沢市)
8. 松森信明「生体膜の統合分析を目指して」統合分析・生物化学研究特区公開講演会「メンブレンサイエンス研究の新潮流」2015.3.20.九州大学(福岡市)
9. 松森信明「NMRによる生体膜ならびに膜作用生理活性物質の解析」日本生化学会大会シンポジウム「NMR分光法の技術的進歩：生体分子の機能解明とイノベーションへの応用展開」2014.10.15. 京都国際会館(京都市)

- 松森信明、「NMRによる生体膜ならびに膜作用生理活性物質の解析」、日本分光学会 NMR 分光部会講習会、2013年10月、名古屋大学(名古屋市)
- Nobuaki Matsumori, “NMR investigations of organic molecules in lipid bilayers: application to amphotericin B and lipid rafts”, Atomic View of Biomolecular Function, July, 2013. Ann Arbor, USA.
- 松森信明、「生体膜ケミカルバイオロジーを目指したバイオ分析」、日本化学会第93春季年会 特別企画ケミカルバイオロジーの新展開-有機化学から発信するライフサイエンス新戦略 I、2013年3月、立命館大学(滋賀県草津市)
- Nobuaki Matsumori, “Membrane-bound structures of natural products revealed by isotropic bicelles”, 17th Malaysian Chemical Congress (17MCC), Kuala Lumpur, Malaysia (Oct, 2012).
- Nobuaki Matsumori, “J-Based Configuration Analysis method: basic concepts and applications”, Cambodian Malaysian Chemical Congress (CMCC), Siem Riap, Cambodia (Oct, 2012).
- Nobuaki Matsumori, “J-Based Configuration Analysis method: basic concepts and applications”, Small Molecule NMR Conference (SMASH), Providence, Rhode Island (Sep, 2012).

【奥野利明】

- Okuno T. Two distinct pathways for biosynthesis of 12-HHT, a ligand for BLT2 receptor. 12th Biennial International Endotoxin & Innate Immunity Society (IEIIS) Meeting 2012年10月23日~2012年10月26日 Tokyo
- 奥野利明 Gタンパク質シグナルと受容体内在化を制御する GPCR ヘリックス 8 の役割 第85回日本生化学会大会 2012年12月14日~2012年12月16日 福岡
- 奥野利明, 松延武彦, 横溝岳彦. トロンボキサン合成酵素非依存的な 12-HHT 産生機構. 第86回日本生化学会大会, 2013年9月11-13日, 2013 横浜
- Okuno T., Matunobu T., Yokoyama C., Yokomizo T. Biosynthetic pathway of 12-hydroxyeicosatetraenoic acid, a BLT2 ligand. 13th International Conference on Bioactive Lipids in Cancer, Inflammation and Related Diseases, 2013/11/3-6, 2013, San Juan

【菅原章公】

- 菅原章公、「抗炎症作用を有する新規12員環マクロライドの創製と標的タンパク質の探索」、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー~分子標的と活性制御~」地区ミニシンポジウム、京都大学、2016年2月
- 菅原章公、「抗炎症作用に特化した新規12員環マクロライド EM900 の創製と半田ビーズを利用した標的タンパク質の探索」、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー~分子標的と活性制御~」第6回公開シンポジウム、名古屋大学、2014年6月
- 菅原章公、新学術領域「天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御」地区ミニシンポジウム、「創薬テンプレートとしてのマクロライドの展開」千葉大学、2013年9月
- Sugawara, A. 2nd Mahidol University – Kitasato University Joint Symposium~ Natural Products and Biodiversity ~ “Novel 12-membered non-antibiotic macrolides; EM900 series as novel leads for anti-inflammatory and/or immunomodulatory agents” Tokyo, 2012/11/9

【小嶋聡一】

- Soichi Kojima, Mechanism of cancer-selective pro-apoptotic effect by acyclic retinoid and structurally related compounds derived from foods. International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015, 2015年12月、ハワイ、アメリカ
- Soichi Kojima, Novel molecular mechanisms of nuclear localization of TG2. 14th International Congress on Amino Acids, Peptides and Proteins, ウィーン、オーストリア、2015年8月 招待
- 小嶋聡一、秦成陽、原祥子、HCC 治療標的のマーカー MYCN と fibrogenesis マーカー TGF-βLAP-D、第51回日本肝臓学会総会、熊本、2015年5月 WS 基調講演、招待
- Soichi Kojima, Identification of MYCN as a biomarker and therapeutic target of hepatocarcinoma under chemoprevention with acyclic retinoid, MODHEP Symposium - System Biology of Liver Cancer, 横浜、2015年1月、招待
- 小嶋聡一, Genomic and Nongenomic actions of acyclic retinoid in selectively killing hepatocellular carcinoma cells, The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 大阪 2014年10月
- 小嶋聡一、肝臓における核内受容体依存/非依存レチノイド作用、第40回日本肝臓学会西部会、岐阜、2013年12月 教育講演、招待
- Soichi Kojima, Non-genomic and genomic actions of acyclic retinoid, 1st International Retinoids Meeting 2013, カラブリア、イタリア、2013年9月 招待
- Soichi Kojima, Acyclic retinoid induces tumor-selective cell death in hepatocellular carcinoma and inhibits angiogenesis via suppressing protein phosphorylation. FASEB 2012 Science Research Conferences. コロラド、アメリカ、2012年6月 招待
- 小嶋聡一、非環式レチノイドによる肝細胞癌選択的殺細胞作用のオミックス解析、第337回脂溶性ビタミン総合研究委員会、高松、2012年11月
- Soichi Kojima, Essential role of transglutaminase 2 in tumor angiogenesis. 2nd Gordon Research Conference on Transglutaminases in Human Disease Processes, ノースカロライナ、アメリカ、2012年7月 招待
- Soichi Kojima, Trials to identify a target molecule of acyclic retinoid, suppressing recurrence of hepatocellular carcinoma. The SNU-RIKEN Joint Symposium on chemical Biology. 韓国、2012年5月

【渡士幸一】

- Akahori Y, Kato H, Fujita T, Moriishi K, Watashi K, Wakita T, Hijikata M. Development of a cell culture and infection system for hepatitis B virus using 3D cultured immortalized human hepatocytes. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
- Saga R, Fujimoto A, Watanabe N, Matsuda M, Hasegawa M, Watashi K, Aizaki H, Nakamura N, Konishi E, Kato T, Takeyama H, Wakita T, Suzuki R. Japanese encephalitis virus (JEV)-subviral particles harboring HCV neutralization epitopes elicit neutralizing antibodies against JEV and HCV. 22nd International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Oct, 2015, Strasbourg(France)
- Iwami S, Tanaka Y, Wakita T, Watashi K. Quantifying activity optimizes drug combinations against hepatitis C virus infection. 22nd International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Oct, 2015, Strasbourg(France)
- Tsukuda S, Watashi K, Iwamoto M, Suzuki R, Aizaki H, Kojima S, Tanaka Y, Wakita T. Cilnidipine inhibits the early phase of HBV infection in a NTCP-independent mechanism. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
- Shimura S, Watashi K, Sluder A, Peel M, Kawai F, Sugiyama M, Park SY, Tanaka Y, Mizokami M, Wakita T. Identification of HBV entry inhibitors, based on the cyclosporin structure. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
- Sato S, Li K, Kameyama T, Hayashi T, Ishida Y, Murakami S, Watanabe T, Iijima S, Sakurai Y, Watashi K, Tsutsumi S, Sato Y, Akita H, Wakita T, Rice CM, Harashima H, Kohara M, Tanaka Y, Takaoka A. Dual function of RIG-I as innate antiviral mediator against hepatitis B virus. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
- Nicholson S, Moyo B, Bloom K, Mussolino C, Cathomen T, Watashi K, Ely A, Arbuthnot P. Anti-HBV talens delivered by recombinant adeno-

- associated viral vectors (rAAV) efficiently inhibit HBV replication in vivo and in vitro. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
8. Matsunaga S, Miyakawa K, Wataashi K, Sugiyama M, Mizokami M, Wakita T, Ryo A. Development of anti-HBs monoclonal antibody targeting HBs-NTCP interaction. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 9. Toyama M, Hamasaki T, Okamoto M, Wataashi K, Wakita T, Baba M. Pyrimidotriazinone derivatives as novel inhibitors of hepatitis B virus core assembly. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 10. Kaneko M, Wataashi K, Kamisuki S, Matsunaga H, Iwamoto M, Kawai F, Ohashi H, Tsukuda S, Shimura S, Suzuki R, Aizaki H, Sugiyama M, Park SY, Ohtani N, Sugawara F, Tanaka Y, Mizokami M, Sureau C, Wakita T. Identification of a new tricyclic polyketide, vanitaracin A, which inhibits the entry of HBV, HDV, and nucleoside analog-resistant HBV through targeting NTCP. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 11. Fukasawa M, Shimizu Y, Shirasago Y, Wataashi K, Tanaka Y, Wakita T, Kondoh M, Yagi K, Hanada K. Inhibition of hepatitis B virus infection by docosahexaenoic acid in cultured cells. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 12. Wataashi K, Tsukuda S, Shimura S, Kaneko M, Sluder A, Peel M, Kamisuki S, Matsunaga S, Morishita R, Futamura Y, Kondoh Y, Suzuki R, Aizaki H, Sugiyama M, Borroto-Esoda K, Ryo A, Sugawara F, Osada H, Tanaka Y, Mizokami M, Wakita T. Identification of NTCP-targeting small molecules that inhibit HBV entry by cell-based and in vitro technologies. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 13. Wataashi K. Hepatitis C virus cell culture system identifies fungi-derived NeoB as a liver X receptor inhibitor. *Pacificchem* 2015, Dec, 2015, Honolulu(USA)
 14. Miyakawa K, Matsunaga S, Wataashi K, Sugiyama M, Mizokami M, Wakita T, Ryo A. Molecular dissection of HBV evasion from restriction factor tetherin. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 15. Ito K, Yoneda M, Angata K, Wataashi K, Wakita T, Iijima S, Tanaka Y, Tong S, Kuno A, Sugiyama M, Mizokami M, Narimatsu H. Investigation of the mechanism of interaction between host glycosylation system and hepatitis B virus replication system. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 16. Aly HH, Wataashi K, Chayama K, Kato T, Wakita T. SKIV2L-dependent HBV-RNA degradation by the RNA-exosome, a new anti-HBV host mechanism. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 17. Okamura H, Akahori Y, Kim S, Nio Y, Wataashi K, Wakita T, Hijikata M. Long chain saturated fatty acid contributes to efficient egression of hepatitis B virus particles. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 18. Moyo B, Nicholson S, Roelofse I, Bloom K, Mussolino C, Cathomen T, Wataashi K, Ely A, Arbutnot P. AAV-delivered engineered repressor transcription activator-like effectors (rTALEs) inactivate hepatitis B virus replication in hNTCP cells and in mice. 2015 International Meeting of Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Oct, 2015, Bad Nauheim(Germany)
 19. Akahori Y, Kato H, Fujita T, Wataashi K, Wakita T, Hijikata M. Development of hepatitis B virus cell culture system using immortalized human hepatocytes producing exogenous Na+/taurocholate cotransporting polypeptide. 2014 International Meeting on the Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Sep, 2014, Los Angeles(USA)
 20. Tsukuda S, Wataashi K, Iwamoto M, Suzuki R, Aizaki H, Kojima S, Sugiyama M, Tanaka Y, Mizokami M, Wakita T. Retinoid inhibitors abolish the host permissiveness to HBV infection by modulating NTCP expression. 2014 International Meeting on the Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Sep, 2014, Los Angeles(USA)
 21. Nakajima S, Wataashi K, Kamisuki S, Takemoto K, Izaguirre-Carbonell J, Suzuki R, Aizaki H, Sugawara F, Wakita T. Regulation of hepatitis C virus replication by liver X receptor is disrupted by a fungi-derived neoechinulin B. 21th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Sep, 2014, Banff(Canada)
 22. Nakajima S, Wataashi K. Identification of neoechinulin B that represses liver X receptor-mediated transcription and inhibits hepatitis C virus replication. The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, Oct, 2014, Osaka(Japan)
 23. Matsunaga S, Miyakawa K, Wataashi K, Wakita T, Ryo A. Wheat germ cell-free system-based production of hepatitis B virus X (HBx) protein for generation and characterization of monoclonal antibody. 2014 International Meeting on the Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Sep, 2014, Los Angeles(USA)
 24. Suzuki R, Saito K, Matsuda M, Sato M, Kanegae Y, Wataashi K, Aizaki H, Chiba J, Saito I, Wakita T, Suzuki T. Single domain intrabodies against HCV core inhibit viral propagation and core-induced NF- κ B activation. 21th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Sep, 2014, Banff(Canada)
 25. Saga R, Fujimoto A, Watanabe N, Matsuda M, Hasegawa M, Wataashi K, Aizaki H, Nakamura N, Konishi E, Kato T, Takeyama H, Wakita T, Suzuki R. Japanese Encephalitis Virus-subviral particles harboring HCV neutralization epitopes induce neutralizing antibodies against HCV. 21th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Sep, 2014, Banff(Canada)
 26. Iwamoto M, Wataashi K, Sugiyama M, Suzuki R, Aizaki H, Tanaka Y, Mizokami M, Ohtani N, Koiwai O, Wakita T. Microtubule-dependent hepatitis B virus (HBV) replication revealed by chemical screening on an efficient HBV-replicating cell line. 2014 International Meeting on the Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Sep, 2014, Los Angeles(USA)
 27. Fukasawa M, Shimizu Y, Shirasago Y, Iwamoto M, Wataashi K, Tanaka Y, Wakita T, Kondoh M, Yagi K, Hanada K. Efficient HBV infection system in cell cultured cells. 2014 International Meeting on the Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Sep, 2014, Los Angeles(USA)
 28. Wataashi K, Iwamoto M, Sluder A, Matsunaga S, Ryo A, Morishita R, Kwon ATJ, Suzuki H, Tsukuda S, Suzuki R, Aizaki H, Borroto-Esoda K, Sugiyama M, Tanaka Y, Mizokami M, Wakita T. Characterization of a culture system reproducing the NTCP-mediated HBV entry and its application to drug development. 2014 International Meeting on the Molecular Biology of Hepatitis B Viruses, Sep, 2014, Los Angeles(USA)
 29. Wataashi K. Anti-HBV Approach by Interfering the Interaction between HBV large surface protein and NTCP. 2nd Japan-Taiwan Research Symposium on Hepatitis B virus, Apr, 2014, Taipei (Taiwan)
 30. Goto K, Fujimoto A, Wataashi K, Suzuki R, Yamagoe S, Moriya K, Yotsuyanagi H, Koike K, Suzuki T, Miyamura T, Wakita T, Aizaki H. NS5A-associated membrane protein, embryonic lethal, abnormal vision, drosophila-like 1, regulates hepatitis C virus RNA synthesis and translation. 21th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Sep, 2014, Banff(Canada)
 31. Ohashi H, Wataashi K, Nakajima S, Kim S, Suzuki R, Aizaki H, Kamisuki S, Sugawara F, Wakita T. Flutamide inhibits hepatitis C virus assembly through disrupting lipid droplets. 21th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Sep, 2014, Banff(Canada)
 32. Fujimoto A, Aizaki H, Matsuda M, Watanabe N, Wataashi K, Suzuki R, Wakita T. Maintenance of HCV infectivity by down-regulating hepatic lipase expression. 21th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Sep, 2014, Banff(Canada)
 33. Tsukuda S, Wataashi K, Iwamoto M, Suzuki R, Aizaki H, Kojima S, Wakita T. A retinoid derivative inhibits hepatitis B virus entry mediated by NTCP. 2013 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B viruses, Oct, 2013, Shanghai(China)
 34. Nakajima S, Wataashi K, Kamisuki S, Takemoto K, Suzuki R, Aizaki H, Sugawara F, Wakita T. Isolation of a natural product inhibiting the transcriptional activity of liver X receptor and reducing the production of infectious HCV. 20th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Oct, 2013, Melbourne(Australia)
 35. Nakajima S, Wataashi K. Analysis of bioactivity of fungal-derived natural products based on a virus infection system. The 2nd International

- Symposium on Chemical Biology of Natural Products, Oct, 2013, Yokohama(Japan)
36. Ogura N, Watashi K, Wakita T. Formation of covalently closed circular (ccc)DNA tetracycline inducible HBV expression cell line. 2013 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B viruses, Oct, 2013, Shanghai(China)
 37. Iwamoto M, Watashi K, Tsukuda S, Aly H, Suzuki R, Aizaki H, Koiwai O, Kusuhara H, Wakita T. Mechanistic analysis on hepatitis B virus entry in an NTCP-overexpressing cell line. 2013 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B viruses, Oct, 2013, Shanghai(China)
 38. Watashi K, Daito T, Sluder A, Borroto-Esoda K, Wakita T. Novel regulation mechanism of interferon signaling by cyclophilin through modulation of PKR in HCV-infected cells. 20th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Oct, 2013, Melbourne(Australia)
 39. Watashi K, Daito T, Sluder A, Borroto-Esoda K, Wakita T. Cyclophilin inhibitors potentiate interferon signaling through diminished PKR phosphorylation in HCV-infected cells. European Association for the Study of the Liver 2013, Apr, 2013, Amsterdam(Netherlands)
 40. Watashi K, Liang G, Iwamoto M, Marusawa H, Kitamura K, Muramatsu M, Suzuki R, Li J, Tong S, Tanaka Y, Murata K, Aizaki H, Wakita T. Interleukin-1 and tumor necrosis factor-alpha trigger restriction of hepatitis B virus infection via a cytidine deaminase AID. 2013 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B viruses, Oct, 2013, Shanghai(China)
 41. Watashi K, Sluder A, Matsunaga S, Ryo A, Nakajima S, Iwamoto M, Tsukuda S, Borroto-Esoda K, Sugiyama M, Tanaka Y, Mizokami M, Wakita T. Cyclosporin A and its analogs inhibit hepatitis B virus entry into cultured hepatocytes through targeting sodium taurocholate cotransporting polypeptide. 2013 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B viruses, Oct, 2013, Shanghai(China)
 42. Aly HH, Watashi K, Chayama K, Wakita T. The discovery of a new virus/host interaction regulating HBV life cycle. 2013 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B viruses, Oct, 2013, Shanghai(China)
 43. Fujimoto A, Aizaki H, Matsuda M, Watanabe N, Watashi K, Suzuki R, Suzuki T, Miyamura T, Wakita T. Dynamics of the cellular metabolome during hepatitis C virus infection - Regulation of the lipoprotein metabolisms by hepatic lipase -. 20th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses, Oct, 2013, Melbourne(Australia)
 44. Matsumoto Y, Watanabe N, Watashi K, Suzuki R, Matsuura T, Suzuki T, Miyamura T, Wake K, Wakita T, Aizaki H. Antiviral activity of glycyrrhizin against hepatitis C virus in vitro. 19th International Symposium on hepatitis C virus and related viruses, Oct, 2012, Venice(Italy)
 45. Shimura S, Ishima M, Ota I, Tsutsui E, Kamisuki S, Murata H, Yamazaki T, Suzuki T, Kuramochi K, Takeuchi T, Watashi K, Kobayashi S, Sugawara F. Synthetic studies of MA026, a novel antiviral lipocyclodepsipeptide. International Congress on Natural Products Research 2012, Jun, 2012, New York(USA)
 46. Nakajima S, Watashi K. Identification of natural products inhibiting hepatitis C virus infection. The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products, Oct, 2012, Kyoto(Japan)
 47. Suzuki R, Matsuda M, Watashi K, Aizaki H, Matsuura Y, Suzuki T, Wakita T. An alternative endocytosis pathway for the protective entry of hepatitis C virus. 19th International Symposium on hepatitis C virus and related viruses, Oct, 2012, Venice(Italy)
 48. Uchida N, Watashi K, Suzuki R, Aizaki H, Chiba J, Wakita T. Phospholipase D regulates membrane trafficking during hepatitis C virus egress. 19th International Symposium on hepatitis C virus and related viruses, Oct, 2012, Venice(Italy)
 49. Watashi K, Uchida N, Daito T, Kiyohara T, Suzuki R, Aizaki H, Wakita T. Interleukin-1 and tumor necrosis factor-alpha suppressed hepatitis B virus infection through NF-kappaB signaling pathway. 2012 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B viruses, Sep, 2012, Oxford(England)
 50. Watashi K, Uchida N, Saeed M, Suzuki R, Aizaki H, Wakita T. Characterization of anti-HCV release inhibitors targeting phospholipase D. 19th International Symposium on hepatitis C virus and related viruses, Oct, 2012, Venice(Italy)
 51. Watashi K, Iwamoto M, Uchida N, Kiyohara T, Suzuki R, Aizaki H, Wakita T. Development of cell clones for analyzing anti-hepatitis B virus compounds. 2012 International Meeting on Molecular Biology of Hepatitis B viruses, Sep, 2012, Oxford(England)
 52. Aly HH, Watashi K, Watanabe N, Mizokami M, Kato T, Wakita T. Construction of hepatitis C virus genotype 4a clone. 19th International Symposium on hepatitis C virus and related viruses, Oct, 2012, Venice(Italy)
 53. 金子学, 渡士幸一, 松永大輝, 紙透伸治, 岩本将士, 河合文啓, 鈴木亮介, 相崎英樹, 朴三用, 菅原二三男, 脇田隆字. 新規真菌二次代謝産物 SF177 の B 型肝炎ウイルス感染阻害活性および NTCP トランスポーター阻害活性の同定. 第 25 回抗ウイルス療法学会総会, 5 月, 2015 年, 国立感染症研究所 (東京)
 54. 渡士幸一, 九十田千子, 金子学, 松永大輝, 紙透伸治, 齊藤安貴子, 鈴木亮介, 相崎英樹, 杉山真也, 溝上雅史, 菅原二三男, 田中靖人, 脇田隆字. B 型肝炎ウイルスに対する直接標的薬 proanthocyanidin および宿主標的薬 vanitaracin の同定および感染阻害機構の解析. 第 25 回抗ウイルス療法学会総会, 5 月, 2015 年, 国立感染症研究所 (東京)
 55. 松浦和知, 松本喜弘, 永森収志, 渡士幸一, 金井好克, 小嶋聡一, 脇田隆字, 相崎英樹. ヒト肝癌細胞 FLC4 における B 型肝炎ウイルスレセプター NTCP の発現と誘導に関する検討. 第 51 回日本肝臓学会総会, 5 月, 2015 年, ホテル日航熊本・熊本ホテルキャッスル・鶴屋東館・同仁堂 (熊本)
 56. 山下篤哉, 田中智久, 土橋香織, 葛西宏威, 渡士幸一, 脇田隆字, 外山正明, 馬場昌範, 前川伸哉, 榎本信幸, 玉城麻友美, 田中淳一, 森石恆司. 海綿由来セキステルペン系化合物 metachromin A の B 型肝炎ウイルスコアプロモーター抑制活性を介した抗ウイルス活性. BMB 2015, 12 月, 2015 年, 神戸ポートアイランド (神戸)
 57. Suzuki R, Saga R, Fujimoto A, Watanabe N, Matsuda M, Hasegawa M, Watashi K, Aizaki H, Nakamura N, Konishi E, Kato T, Tajima S, Takasaki T, Takeyama H, Wakita T. Development of a novel vaccine platform based on Japanese encephalitis viruses. BMB 2015, 12 月, 2015 年, 神戸ポートアイランド (神戸)
 58. 渡士幸一, 中嶋翔, 紙透伸治, Izaguirre-Carbonell J, Kwon Atj, 鈴木治和, 九十田千子, 岡田麻衣子, 鈴木亮介, 相崎英樹, 菅原二三男, 脇田隆字. Neoechinulin B の liver X receptor 転写阻害効果の同定およびそれによる C 型肝炎ウイルス複製制御機構の解析. 第 25 回抗ウイルス療法学会総会, 5 月, 2015 年, 国立感染症研究所 (東京)
 59. 渡士幸一. C 型肝炎治療薬の個性を探る ~多剤併用から費用対効果の考察まで~. ウイルス感染現象における宿主細胞コンピテンシーの分子基盤 第 2 回若手研究会, 7 月, 2015 年, マホロバマインズ三浦 (三浦)
 60. 渡士幸一. ウイルス感染増殖系を基盤とした天然化合物の新規生理機能の解析. 天然物ケミカルバイオロジー 分子標的と活性制御 第 8 回公開シンポジウム, 6 月, 2015 年, 東北大学片平キャンパス (仙台)
 61. 山下篤哉, 田中智久, 葛西宏威, 渡士幸一, 脇田隆字, 外山政明, 馬場昌範, 前川伸哉, 榎本信幸, 玉城麻友美, 田中淳一, 森石恆司. カイメン由来化合物 metachromin A 及びその類縁化合物の抗 HBV 活性の検討. 第 25 回抗ウイルス療法学会総会, 5 月, 2015 年, 国立感染症研究所 (東京)
 62. 外山政明, 濱崎隆之, 岡本実佳, 渡士幸一, 脇田隆字, Ashoke Sharon, 馬場昌範. 新規核酸誘導体 7-deazaneplanocin A 誘導体の抗 HBV 効果について. 第 25 回抗ウイルス療法学会総会, 5 月, 2015 年, 国立感染症研究所 (東京)
 63. 佐藤精一, 李凱, 亀山武志, 林隆也, 石田雄二, 村上周子, 渡邊綱正, 飯島沙幸, 櫻井遊, 渡士幸一, 堤進, 佐藤悠介, 秋田英万, 脇田隆字, Rice Cm, 原島秀吉, 小原道法, 田中靖人, 高岡晃教. B 型肝炎ウイルスの感染に対する RIG-I を介した自然免疫応答機構. 第 25 回抗ウイルス療法学会総会, 5 月, 2015 年, 国立感染症研究所 (東京)
 64. Akahori Y, Kato H, Fujita T, Moriishi K, Watashi K, Wakita T, Hijikata M. Development of a cell culture and infection system for hepatitis B virus using 3D cultured non-neoplastic HuS-E/2 cells. 第 63 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2015 年, 福岡国際会議場 (福岡)

65. Zaitsu T, Aoyagi H, Fujimoto A, Matsuda M, Watanabe N, Watashi K, Suzuki R, Fukuhara T, Matsuura Y, Sakamaki Y, Ichinose S, Wake K, Suzuki T, Iijima H, Matsuura T, Tamura K, Wakita T, Aizaki H. Transfer hepatitis C virus from human liver cells to hepatic stellate cells. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
66. Tsukuda S, Watashi K, Hamada Y, Isogawa M, Iwamoto M, Suzuki R, Aizaki H, Kojima S, Sugiyama M, Saito A, Tanaka Y, Mizokami M, Wakita T. Identification of flavonoid derivative that directly acts on hepatitis B virus surface protein and inhibits viral entry. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
67. Okutsu S, Ito K, Yoneda M, Angata K, Watashi K, Wakita T, Iijima S, Tanaka Y, Tong S, Mizokami M, Narimatsu H. Investigation of mechanisms of interaction between host glycosylation system and hepatitis B virus replication system. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
68. Saga R, Fujimoto A, Watanabe N, Matsuda M, Hasegawa M, Watashi K, Aizaki H, Nakamura N, Konishi E, Kato T, Tajima S, Takasaki T, Takeyama H, Wakita T, Suzuki R. Bivalent vaccine platform based on Japanese encephalitis virus (JEV) elicit neutralizing antibodies against JEV and hepatitis C virus. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
69. Toyama M, Hamasaki T, Okamoto M, Watashi K, Wakita T, Baba M. Identification of novel pyrimidotriazinone derivatives as inhibitors of HBV replication. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
70. Kaneko M, Watashi K, Kamisuki S, Matsunaga H, Iwamoto M, Kawai F, Ohashi H, Tsukuda S, Shimura S, Suzuki R, Aizaki H, Sugiyama M, Park Sy, Ohtani N, Sugawara F, Tanaka Y, Mizokami M, Wakita T. A new fungi-derived vanitaracin A specifically inhibits the entry of hepatitis B and D viruses through interacting with NTCP. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
71. Iwamoto M, Watashi K, Sugiyama M, Suzuki R, Aizaki H, Tanaka Y, Mizokami M, Ohtani N, Koiwai O, Wakita T. Multimerization of hepatitis B virus core protein regulated by microtubules. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
72. Kong L, Aoyagi H, Matsuda M, Fujimoto A, Watashi K, Suzuki R, Yamagoe S, Dohmae N, Suzuki T, Sakamaki Y, Ichinose S, Suzuki T, Wakita T, Aizaki H. Surfeit 4 is involved in HCV replication by interacting with NS4B. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
73. Yasumoto J, Kasai H, Tanaka T, Watashi K, Wakita T, Yamashita A, Dobashi-Okuyama K, Moriishi K. Hepatitis B virus downregulates expression of CIDE-B and CIDE-C and impairs lipid droplet growth. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
74. Aly HH, Watashi K, Chayama K, Kato T, Wakita T. SKIV2L-mediated RNA-exosome regulation of HBV replication. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
75. Okamura H, Akahori Y, Kim S, Nio Y, Watashi K, Wakita T, Hijikata M. Egression of hepatitis B virus particles is promoted by long chain saturated fatty acid. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
76. Ohashi H, Watashi K, Nakajima S, Kim S, Suzuki R, Aizaki H, Fukasawa M, Kamisuki S, Sugawara F, Ohtani N, Wakita T. Flutamide-mediated disruption of lipid droplets impairs the host permissiveness to hepatitis C virus production. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
77. Sakurai F, Yamamoto T, Mitani S, Takayama K, Tachibana M, Watashi K, Wakita T, Iijima S, Tanaka Y, Mizuguchi H. Human iPS-derived hepatocytes as an in vitro HBV infection model. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
78. Yamashita A, Tanaka T, Okuyama-Dobashi K, Kasai H, Watashi K, Wakita T, Toyama M, Baba M, Moriishi K. Metachromin A, sesquiterpene from marine sponge Dactylospongia metachromia, exerts anti-HBV activity via inhibition of HBV core promoter. 第63回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2015年, 福岡国際会議場 (福岡)
79. 青柳東代, 相崎英樹, 藤本陽, 松本喜弘, 松田麻未, Hmwe Ss, 渡邊則幸, 渡士幸一, 鈴木亮介, 市野瀬志津子, 松浦和知, 鈴木哲朗, 和氣健二郎, 脇田隆字. グリチルリチンによる抗 HCV 作用 - phospholipase A2 および Autophagy による C 型肝炎ウイルス(HCV)分泌過程に与える影響 -. 第24回抗ウイルス療法研究会総会, 5月, 2014年, ハイランドリゾートホテル (富士急)
80. 青柳東代, 相崎英樹, 松本喜弘, 鈴木亮介, 渡士幸一, 市野瀬志津子, 松浦和知, 鈴木哲朗, 和氣健二郎, 脇田隆字. グリチルリチンによる抗 C 型肝炎ウイルス作用 - phospholipase A2 および Autophagy による HCV 分泌過程の制御 -. 第50回日本肝臓学会総会, 5月, 2014年, ホテルニューオータニ (東京)
81. 赤堀祐一, 加藤博己, 藤田尚志, 渡士幸一, 脇田隆字, 土方誠. ヒト NTCP 恒常発現不死化ヒト肝細胞を用いた B 型肝炎ウイルス培養細胞感染系の構築. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2014年, パシフィコ横浜 (横浜)
82. 脇田隆字, 相崎英樹, 渡士幸一. C型肝炎ウイルス生活環全体を標的とした新規作用を有する抗ウイルス剤の探索. 第50回日本肝臓学会総会, 5月, 2014年, ホテルニューオータニ (東京)
83. 渡士幸一, 相崎英樹, 脇田隆字. 培養系を用いた抗 B 型肝炎ウイルス化合物の同定と作用機序解析. 第50回日本肝臓学会総会, 5月, 2014年, ホテルニューオータニ (東京)
84. 渡士幸一, Sluder A, 松永智子, 梁明秀, 森下了, 岩本将士, 九十田千子, 鈴木亮介, 相崎英樹, Borroto-Esoda K, 田中靖人, 楠原洋之, 杉山真也, 溝上雅史, 脇田隆字. B型肝炎ウイルス(HBV) large S タンパク質と NTCP の相互作用阻害による抗 HBV 戦略. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2014年, パシフィコ横浜 (横浜)
85. 渡士幸一, Sluder A, 松永智子, 梁明秀, 森下了, 岩本将士, 九十田千子, 鈴木亮介, 相崎英樹, Borroto-Esoda K, 田中靖人, 楠原洋之, 杉山真也, 溝上雅史, 脇田隆字. B型肝炎ウイルス(HBV)L タンパク質と NTCP の相互作用阻害による抗 HBV 戦略. 第24回抗ウイルス療法研究会総会, 5月, 2014年, ハイランドリゾートホテル (富士急)
86. 深澤征義, 清水芳実, 白砂圭崇, 岩本将士, 渡士幸一, 田中靖人, 脇田隆字, 近藤昌夫, 八木清仁, 花田賢太郎. 効率的な HBV 感染培養細胞系の構築に関する研究. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2014年, パシフィコ横浜 (横浜)
87. 松田麻未, 鈴木亮介, 嵯峨涼平, 藤本陽, 渡士幸一, 相崎英樹, 森石恆司, 岡本徹, 松浦善治, 黒田俊一, 脇田隆字. 遺伝子組換え酵母由来 B 型肝炎ウイルス様粒子の細胞表面への結合に関与する宿主因子の解析. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2014年, パシフィコ横浜 (横浜)
88. 嵯峨涼平, 藤本陽, 渡邊則幸, 松田麻未, 長谷川慎, 渡士幸一, 相崎英樹, 中村紀子, 小西英二, 加藤孝宣, 田島茂, 高崎智彦, 竹山春子, 脇田隆字, 鈴木亮介. 日本脳炎ウイルスおよび C 型肝炎ウイルス 2 価ワクチン抗原の発現と中和抗体の誘導. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2014年, パシフィコ横浜 (横浜)
89. 岩本将士, 渡士幸一, 杉山真也, 鈴木亮介, 相崎英樹, 田中靖人, 溝上雅史, 大谷直子, 小祝修, 脇田隆字. 効率的な B 型肝炎ウイルス(HBV)複製評価系を用いた微小管依存的な HBV 複製機構の解析. 第62回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2014年, パシフィコ横浜 (横浜)
90. 岩本将士, 渡士幸一, 九十田千子, Aly HH, 藤本陽, 鈴木亮介, 相崎英樹, 脇田隆字, 深澤征義, 小祝修, 楠原洋之. ヒト NTCP 安定発現による B 型肝炎ウイルス(HBV)感染許容性の獲得とそれを用いた HBV 侵入機構の解析. 第22回肝病態生理研究会, 5月, 2014年, 都市センターホテル (東京)

91. 山本達郎, 櫻井文教, 高山和雄, 立花雅史, 渡士幸一, 脇田隆宇, 飯島沙幸, 田中靖人, 水口裕之. ヒト iPS 細胞由来分化誘導肝細胞を用いた B 型肝炎ウイルス感染評価系の開発. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
92. 山下篤哉, 藤本雄介, 田中智久, 葛西宏威, 児玉栄一, 渡士幸一, 脇田隆宇, 前川伸哉, 榎本信幸, 田中淳一, 森石恒司. 海洋生物抽出物ライブラリーソースからの B 型肝炎ウイルス転写活性抑制化合物の探索. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
93. 宮川敬, 松永智子, 渡士幸一, 杉山真也, 溝上雅史, 脇田隆宇, 梁明秀. 宿主防御因子 Tetherin-BST2 による B 型肝炎ウイルス感染抑制とその回避機構の解明. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
94. 安本順, 葛西宏威, 土橋香織, 山下篤哉, 渡士幸一, 脇田隆宇, 田中智久, 森石恒司. HBV 感染による細胞内脂肪滴形成への影響. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
95. 大橋啓史, 渡士幸一, 中嶋翔, 金ソレイ, 鈴木亮介, 相崎英樹, 紙透伸治, 菅原二三男, 脇田隆宇. Aryl hydrocarbon receptor による脂肪滴形成及び C 型肝炎ウイルス粒子構築の制御. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
96. 大橋啓史, 渡士幸一, 中嶋翔, 金ソレイ, 鈴木亮介, 相崎英樹, 紙透伸治, 菅原二三男, 脇田隆宇. C型肝炎ウイルス粒子の構築を阻害する flutamide の作用機序の解析. 第 24 回抗ウイルス療法研究会総会, 5 月, 2014 年, ハイランドリゾートホテル (富士急)
97. 外山政明, 濱崎隆之, 岡本実佳, 渡士幸一, 脇田隆宇, 馬場昌範. 新規 7-deazaneplanocin A 及び 7-deaza-8-azanepianocin A 誘導体の抗 HBV 効果. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
98. 外山政明, 濱崎隆之, 岡本実佳, 渡士幸一, 脇田隆宇, 馬場昌範. HBV カプシドタンパク質を標的とした新規抗 HBV 薬の探索. 第 24 回抗ウイルス療法研究会総会, 5 月, 2014 年, ハイランドリゾートホテル (富士急)
99. 土橋香織, 葛西宏威, 田中智久, 陳文家, 渡士幸一, 脇田隆宇, 山下篤哉, 梁明秀, 岡本徹, 松浦善治, 森石恒司. トリブシン・EDTA による NTCP 依存 HBV 感染の増強. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
100. 九十田千子, 渡士幸一, 岩本将士, 鈴木亮介, 相崎英樹, 小嶋聡一, 脇田隆宇. HBV 感染受容体 NTCP の発現調節機構の解析およびこれを阻害する低分子化合物の抗 HBV 効果. 第 24 回抗ウイルス療法研究会総会, 5 月, 2014 年, ハイランドリゾートホテル (富士急)
101. 九十田千子, 渡士幸一, 岩本将士, 鈴木亮介, 相崎英樹, 小嶋聡一, 杉山真也, 田中靖人, 溝上雅史, 脇田隆宇. レチノイド阻害剤は NTCP 発現修飾を介して宿主細胞の B 型肝炎ウイルス感染感受性を消失させる. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
102. 中嶋翔, 渡士幸一, 紙透伸治, 竹本健二, Izaguirre-Carbonell J, 鈴木亮介, 相崎英樹, 菅原二三男, 脇田隆宇. 天然有機化合物 Neoechinulin B を利用した liver X receptor による C 型肝炎ウイルス産生制御機構の解析. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
103. 中嶋翔, 渡士幸一. ウイルス感染培養系を基盤とした天然化合物の生理活性同定. 天然物ケミカルバイオロジー 分子標的と活性制御 第 6 回公開シンポジウム, 5 月, 2014 年, 名古屋大学東山キャンパス (名古屋)
104. Kong L, 青柳春代, 松田麻未, 藤本陽, 渡士幸一, 鈴木亮介, 山越智, 堂前直, 鈴木健裕, 鈴木哲朗, 脇田隆宇, 相崎英樹. Prolactin regulatory element binding protein is involved in hepatitis C virus replication by interacting with NS4B. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
105. Aly HH, 渡士幸一, 茶山一彰, 脇田隆宇. The identification of a new interferon-independent host mechanism suppressing hepatitis B virus replication. 第 62 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2014 年, パシフィコ横浜 (横浜)
106. 馬場昌範, 外山政明, 伊藤渉, 岡本実佳, 渡士幸一, 脇田隆宇, Ashoke S. 新規ピラノンカルボキサミド誘導体の抗 HCV 効果とその構造活性相関. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
107. 青柳東代, 相崎英樹, 松本喜弘, 松田麻未, Hmwe SS, 渡邊則幸, 渡士幸一, 鈴木亮介, 市野瀬志津子, 松浦和知, 鈴木哲朗, 和気健二郎, 宮村達男, 脇田隆宇. PhospholipaseA2 および Autophagy による C 型肝炎ウイルス(HCV)分泌過程の制御-グリチルリチンによる抗 HCV 作用-. 第 36 回日本分子生物学会年会, 12 月, 2013 年, 神戸ポートアイランド (神戸)
108. 青柳東代, 相崎英樹, 松本喜弘, 松田麻未, Hmwe SS, 渡邊則幸, 渡士幸一, 鈴木亮介, 市野瀬志津子, 松浦和知, 鈴木哲朗, 和気健二郎, 宮村達男, 脇田隆宇. PhospholipaseA2 および Autophagy による C 型肝炎ウイルス(HCV)分泌過程の制御-グリチルリチンによる抗 HCV 作用-. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
109. 鈴木亮介, 石川知弘, 小西英二, 嵯峨涼平, 松田麻未, 渡士幸一, 相崎英樹, 高崎智彦, 脇田隆宇. プラスミドトランスフェクションによるトランスパッケージング型 1 回感染性フラビウイルス産生系の確立. 第 36 回日本分子生物学会年会, 12 月, 2013 年, 神戸ポートアイランド (神戸)
110. 鈴木亮介, 石川知弘, 小西英二, 嵯峨涼平, 松田麻未, 渡士幸一, 相崎英樹, 高崎智彦, 脇田隆宇. 日本脳炎ウイルスレプリコンを用いたトランスパッケージング型 1 回感染性フラビウイルス粒子産生系の開発. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
111. 藤本陽, 相崎英樹, 松田麻未, 渡邊則幸, 渡士幸一, 鈴木亮介, 鈴木哲朗, 宮村達男, 脇田隆宇. C 型肝炎ウイルス感染による宿主細胞の脂質代謝変化と Hepatic Lipase 発現制御. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
112. 渡士幸一, 中嶋翔. ウイルス感染系を基盤とした真菌由来天然化合物の生理活性探索. 天然物ケミカルバイオロジー 第 4 回公開シンポジウム, 5 月, 2013 年, つくば国際会議場 (つくば)
113. 渡士幸一, Liang G, 岩本将士, 丸澤宏之, 喜多村晃一, 村松正道, 鈴木亮介, 相崎英樹, 脇田隆宇. シチジンデアミナーゼ AID 誘導を介した抗 B 型肝炎ウイルス細胞内免疫応答機構の解明. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
114. 松田麻未, 斎藤憲司, 鈴木亮介, 佐藤充, 鐘ヶ江裕美, 渡士幸一, 相崎英樹, 千葉丈, 斎藤泉, 脇田隆宇, 鈴木哲朗. 細胞内発現抗体 (イントラボディ) による C 型肝炎ウイルスの増殖抑制. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
115. 後藤耕司, 相崎英樹, 渡邊則幸, 渡士幸一, 鈴木亮介, 山越智, 四柳宏, 森屋恭爾, 小池和彦, 鈴木哲朗, 宮村達男, 脇田隆宇. C 型肝炎ウイルス NSSA 結合膜タンパク質 ELAVL1 のウイルス複製・翻訳スイッチング機構の解析. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
116. 岩本将士, 渡士幸一, 九十田千子, アリ フセイ, 鈴木亮介, 相崎英樹, 小祝修, 楠原洋之, 脇田隆宇. ヒト NTCP 安定発現細胞株における B 型肝炎ウイルス侵入機構の解析. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
117. 小泉吉輝, 岩見真吾, 内田奈々子, 脇田隆宇, 渡士幸一. 数理モデルによる抗ウイルス薬の薬効評価系の確立. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
118. 大東卓史, 渡士幸一, Sluder A, 中嶋翔, Borroto-Esoda K, 藤田尚志, 脇田隆宇. PKR 活性化制御を介するシクロフィリン阻害剤の新たな抗 C 型肝炎ウイルス作用機序. 第 61 回日本ウイルス学会学術集会, 11 月, 2013 年, 神戸国際会議場 (神戸)
119. 古賀れい奈, 宮川敬, 松永智子, 渡士幸一, 脇田隆宇, 梁明秀. Tetherin/BST-2 は HBV 複製を負に制御する. 第 61 回日本ウイルス学

会学術集会, 11月, 2013年, 神戸国際会議場 (神戸)

120. 内田奈々子, 渡土幸二, 中嶋翔, 岩本将士, 鈴木亮介, 相崎英樹, 千葉丈, 脇田隆字. C型肝炎ウイルス分泌過程は phospholipase D が関わる膜輸送により制御される. 第61回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2013年, 神戸国際会議場 (神戸)
121. 九十田千子, 渡土幸二, 岩本将士, 鈴木亮介, 相崎英樹, 小嶋聡一, 脇田隆字. B型肝炎ウイルス侵入阻害剤の同定およびその NTPC を介した感染阻害機構の解明. 第61回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2013年, 神戸国際会議場 (神戸)
122. 中嶋翔, 渡土幸二, 紙透伸治, 竹本健二, 鈴木亮介, 相崎英樹, 菅原二三男, 脇田隆字. Liver X receptor 転写活性および感染性 C型肝炎ウイルス粒子産生を阻害する天然化合物の同定. 第61回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2013年, 神戸国際会議場 (神戸)
123. フセイン アリ, 渡土幸二, 茶山一彰, 脇田隆字. Study of new virus/host interactions regulating HBV life cycle. 第61回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2013年, 神戸国際会議場 (神戸)
124. 渡土幸二, 内田奈々子, 大東卓史, 清原知子, 鈴木亮介, 相崎英樹, 脇田隆字. IL-1 および TNF-alpha の B型肝炎ウイルス感染阻害効果. 第60回日本ウイルス学会学術集会, 11月, 2012年, グランキューブ大阪 (大阪)
125. Watashi K, Uchida N, Suzuki R, Aizaki H, Wakita T. Phospholipase D is a cellular regulator during hepatitis C virus egress and a possible target for antiviral strategy. Japan Society of Hepatology 10th Single Topic Conference, 11月, 2012年, Keio Plaza Hotel Tokyo(東京)

【杉本亜砂子】

1. Akira Shibukawa, *Asako Sugimoto. Analyzing the effect of neopeltolide in cell division using *C. elegans* embryos. *C. elegans* Development, Cell Biology and Gene Expression Meeting in association with The 8th Asia-Pacific *C. elegans* Meeting. 2014/7/15-19. 奈良県奈良市
2. 澁川哲, *杉本亜砂子. 線虫 *C. elegans* を用いた(+)-neopeltolide の作用機序解析. 第10回日本ケミカルバイオロジー学会. 2015/6/29-7/2. 宮城県仙台市
3. 柳 翔太, 野口拓真, 川上雅人, 佐々木 誠, *不破春彦, 丹羽伸介, 杉本 亜砂子. ネオペルトリド蛍光標識アナログの設計・合成・機能評価. 第10回日本ケミカルバイオロジー学会. 2015/6/29-7/2. 宮城県仙台市
4. 柳 翔太, 野口拓真, 川上雅人, 佐々木 誠, *不破春彦, 丹羽伸介, 杉本 亜砂子. ネオペルトリド蛍光標識アナログの設計・合成・機能評価. 日本化学会第96春季年会. 2016/3/24-27. 京都府京都市.

【有本博一】

1. 有本博一, S-グアニル化を起点とする細胞内分解経路 第11回 レドックス・ライフィノベーションシンポジウム (日本学術振興会レドックス・ライフィノベーション第170委員会), 2016年3月18日, お茶の水女子大学 (東京)
2. 有本博一, Endogenous nitrated nucleotide is an autophagy inducer. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM 2015), 2015年12月18日, ホノルル (アメリカ合衆国)
3. 有本博一, 内因性ヌクレオチドが関与する選択的オートファジーの分子機構, 日本農芸化学会 第150回 東北支部大会 シンポジウム, 2015年10月3日, 東北大学 (仙台)
4. 有本博一, 細菌感染症克服にむけた化学生物学研究, 平成27年度 化学系学協会 東北大会 有機化学コロキウム, 2015年9月13日, 弘前大学 (弘前)
5. 有本博一, 内因性低分子による選択的オートファジーの制御機構, 第50回 天然物談話会, 2015年7月3日, グリーンピア岩沼 (岩沼)
6. 有本博一, Roles of 8-nitro-cGMP in autophagy regulation. The 7th International conference on cGMP (cGMP 2015), 2015年6月20日, トリーア (ドイツ)
7. 有本博一, 細菌感染症克服にむけた化学生物学研究, 日本化学会 第95春季年会, 2015年3月26日, 日本大学理工学部船橋キャンパス/薬学部 (船橋)
8. 有本博一, Endogenous Nitrated Nucleotide Is a Key Mediator of Autophagy and Innate Defense against Bacteria, The 4th Joint Campus Asia symposium, 2014年11月27日, 東北大学 (仙台)
9. 有本博一, 内因性ニトロ化ヌクレオチドがオートファジー制御に果たす役割, 第87回 日本生化学会大会 シンポジウム: 新しい側面を見せるオートファジー: その高次機能に迫る, 2014年10月16日, 国立京都国際会館 (京都)
10. 有本博一, Endogenous Nitrated Nucleotide Is a Key Mediator of Autophagy and Innate Defense against Bacteria, The 13th Awaji International Forum on Infection and Immunity in Nara, 2014年9月23日, 奈良県新公会堂 (奈良)
11. 有本博一, Endogenous Nitrated Nucleotide Is a Key Mediator of Autophagy and Innate Defense against Bacteria, Nitric Oxide-Nitrite/Nitrate Conference (Joint meeting of the 8th International Conference on the Biology, Chemistry, and Therapeutic Application of Nitric Oxide & the 6th International Meeting on the Role of Nitrite and Nitrate in Physiology, Pathophysiology, and Therapeutics), 2014年6月18日, クリーブランド (アメリカ合衆国)
12. 有本博一, ニトロ化ヌクレオチドがオートファジー誘導制御に果たす役割, 新規素材探索研究会 第13回セミナー, 2014年6月6日, 新横浜フジビューホテル (横浜)

【三輪佳宏】

1. Yoshihiro Miwa “Development of in vitro and in vivo fluorescence imaging systems for chemical screening “ PacifiChem2015 Technical Program, 12月17日2015年 (Hawaii)
2. 三輪佳宏, 田中順子, 杉山結香, 町田光史, 阿部真太郎, 中尾洋一 “新規細胞周期阻害剤の細胞への影響と分子機構の解析 “ BMB2015 ポスター, 12月2日2015年 (神戸)
3. 逆井智貴, 田中順子, 杉山結香, 坂口翔太, 河村光佑, 水野聖哉, 濱田理人, 高橋智, 三輪佳宏 “ROSA26 Halo-iRFP floxマウスを用いた疾患モデルマウスの非侵襲近赤外蛍光イメージング技術の確立と応用 “ BMB2015 ポスター, 12月2日2015年 (神戸)
4. 三輪佳宏 “近赤外蛍光非侵襲イメージングの基礎と応用“ 第10回in vivoイメージングフォーラム 招待講演, 9月18日2015年 (東京)
5. 三輪佳宏 “近赤外非侵襲蛍光イメージング技術の開発と応用“ 第67回日本細胞生物学会大会 口頭発表, 7月2日2015年 (東京)
6. 三輪佳宏 “近赤外非侵襲蛍光イメージング技術の開発と応用“ 第62回日本実験動物学会総会 シンポジウム 招待講演, 5月29日2015年 (京都)
7. 三輪佳宏 “近赤外非侵襲蛍光イメージング技術の開発と応用“ ケミカルバイオロジーミニシンポジウム 招待講演, 5月14日2015年 (仙台)
8. 三輪佳宏 “近赤外非侵襲蛍光イメージング技術の開発と応用“ 日本動物実験代替法学会 第27回大会 シンポジウム 招待講演, 12月6日2014年 (横浜) 講演要旨集 p62 2014
9. Yoshihiro Miwa, Junko kijima-Tanaka, Yuka Sugiyama, Koshi Machida, Shin-taro Abe, Yoichi Nakao “Analysis of the targets and molecular mechanisms of novel inhibitors for EGF-dependent degradation of Grb2“ 日本分子生物学会 第37回年会 ポス

ター、11月27日2014年（パシフィコ横浜）

10. Takanobu Kuroyama, Junko Tanaka, Yoshihiro Miwa “Analysis of correction method of flowcytometrically measured fluorescent lifetime” 日本分子生物学会 第37回年会 ポスター、11月25日2014年（パシフィコ横浜）
11. 坂口翔太、田中（木嶋）順子、杉山由香、黒山喬允、逆井智貴、Mai Thi Nhu Tran、濱田理人、高橋智、三輪佳宏 “近赤外蛍光タンパク質iRFPを用いた*in vivo*癌イメージング” 日本分子生物学会 第37回年会 ポスター、11月25日2014年（パシフィコ横浜）
12. 逆井智貴、杉山由香、田中順子、坂口翔太、黒山喬允、河村光佑、高橋智、三輪佳宏 “ROSA26 Halo-iRFP floxマウスの樹立と疾患モデルマウスの非侵襲蛍光イメージングの確立” 日本分子生物学会 第37回年会 ポスター、11月25日2014年（パシフィコ横浜）
13. 三輪佳宏 “成功する*in vivo*イメージングのために” 住商ファーマ *in vivo* イメージングフォーラム2014 招待講演、10月23日2014年（東京）
14. 三輪佳宏 “成功する*in vivo*イメージングのために” 東京医科歯科大学 第6回テクニカルセミナー 招待講演、7月14日2014年（東京）
15. 三輪佳宏、田中順子、杉山結香、坂口翔太、黒山喬允、逆井智貴 “近赤外非侵襲蛍光イメージング” 第61回日本実験動物学会総会招待講演、シンポジウム 5月16日2014年（札幌）

【程久美子】

1. Kumiko Ui-Tei “Suppression of siRNA off-target effect by chemical modifications which regulate thermodynamics in nucleotide base-pairing” 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015) (2015.12.17) Hawaii Convention Center, HI, USA
2. 王 青波、内藤 雄樹、程久美子
「ゲノムサイズの異なる生物種における、標的遺伝子特異的な CRISPR/Cas9 ガイド RNA の網羅的同定」BMB2015 (2015.12.4) 神戸ポートアイランド
3. Yvelt Ming, Kenji Nishi, Tomoko Takahashi, Masataka Suzawa, Kumiko Ui-Tei “Nuclear transport of TNRC6A protein is regulated by the amount of Argonaute protein in the cytoplasm” BMB2015 (2015.12.2) 神戸ポートアイランド
4. 小森千晶、高橋朋子、村上文則、程久美子 「二本鎖 RNA 結合タンパク質 TRBP と HIV-1 TAR RNA および microRNA との相互作用」 BMB2015 (2015.12.1) 神戸ポートアイランド
5. 中野悠子、高橋朋子、尾野本浩司、米山光俊、程久美子 「RNA サイレンシングと抗ウイルス応答のクロストーク機構の解析」 BMB2015 (2015.12.1) 神戸ポートアイランド
6. Soh Ishiguro, Josephine Galipon, Rintaro Ishii, Yutaka Suzuki, Shinji Kondo, Mariko Okada-Hatakeyama, Masaru Tomita, Kumiko Ui-Tei “Genome-wide identification of A-to-I editing in human miRNA by ADAR isoform-specific RIP-sequencing” BMB2015 (2015.12.1) 神戸ポートアイランド
7. 高橋朋子、宮川拓也、善野修平、田之倉優、程久美子 「哺乳類細胞における、アポトーシス誘導による RNA サイレンシング調節因子 TRBP の機能変換」 BMB2015 ワークショップ「RNA 機能を制御する酵素・複合体再考」(2015.12.1) 神戸ポートアイランド
8. 程久美子 「RNA 核酸医薬の展開 -RNA 干渉から CRISPR ゲノム編集」 第1回日本核酸医薬学会年会(2015.11.30) 京都テルサ
9. Qingbo Wang, Yuki Naito, Kumiko Ui-Tei “COMPUTATIONAL IDENTIFICATION OF CRISPR/CAS9 TARGET SITES REVEALED POTENTIAL OFF-TARGET RISKS IN HUMAN AND MOUSE GENOMES” Conference on Transposition and Genome Engineering 2015 (2015.11.18) Nara Kasugano International Forum IRAKA, Japan
10. 飯笹 久、坂田 健一郎、前田 浩次郎、柳原 五吉、久保 貴紀、吉山 裕規、程久美子、浜田 淳一「RNA 編集酵素 ADAR2 は、ヒト悪性中皮腫において oncomiR のプロセッシングと悪性化を制御する」第74回日本癌学会学術総会(2015.10.8) 名古屋国際会議場
11. Qingbo Wang, Yuki Naito, Kumiko Ui-Tei “GENOME-WIDE IDENTIFICATION OF CRISPR/CAS9 TARGET SITES WITH REDUCED OFF-TARGET EFFECTS IN ORGANISMS WITH DIFFERENT GENOME SIZES” CSHL Meeting on GENOME ENGINEERING: THE CRISPR/CAS REVOLUTION (2015.9.24-27) Cold Spring Harbor Laboratory, NY, USA
12. 村上 文則、高橋 朋子、程久美子 「RNA サイレンシングに関わる二本鎖 RNA 結合タンパク質 TRBP が結合する microRNA の網羅的解析」新学術領域研究『ゲノム支援』2015年度拡大班会議 (2015.8.27) 国立京都国際会館 アネックスホール
13. 飯笹 久、坂田 健一郎、Josephine Galipon、石黒 宗、前田 浩次郎、柳原 五吉、久保 貴紀、吉山 裕規、程久美子、浜田 淳一「RNA 編集酵素 ADAR2 は、oncomiR のプロセッシングを制御する」第17回日本 RNA 学会年会 (2015.7.15-17) ホテルライフオート札幌
14. 中野悠子、高橋朋子、程久美子 「RNA サイレンシング機構における二本鎖 RNA 結合タンパク質の機能解析」第15回東京大学生命科学シンポジウム (2015.6.27) 東京大学 武田先端知ビル
15. Kumiko Ui-Tei, Hanna Iribre, Jastina Leo, Tomoko Takahashi “Establishment of a target gene-specific and off-target effect-reduced RNAi system using chemical modifications affecting thermodynamics.” 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」第8回公開シンポジウム (2015.6.8) 東北大学 片平さくらホール(宮城)
16. Josephine Galipon, Soh Ishiguro, Rintaro Ishii, Hideaki Kume, Kimihiro Hino, Yutaka Suzuki, Shinji Kondo, Mariko Okada-Hatakeyama, Masaru Tomita, Kumiko Ui-Tei “A-to-I RNA editing fine-tunes miRNA function in human cells.” 2nd Symposium on Complex Biodynamics & Networks (Bio 2015) (2015.5.11-13) 慶應義塾大学鶴岡メタボロームキャンパス(山形)
17. Hisashi Iizasa, Kenichiro Sakata, Josephine Galipon, Kojiro Maeda, Soh Ishiguro, Nozomi Sakurai, Hironori, Yoshiyama, Kazuyoshi Yanagihara, Takanori Kubo, Yoshimasa Kitagawa, Hideyuki Kawauchi, Kumiko Ui-Tei, Junichi Hamada “A-to-I RNA editing enzyme ADAR2 regulates malignancy in human pleural mesothelioma.” Gordon Research Conference on RNA editing (2015.3.8-13) Lucca (Barga), Italy
18. Yuki Naito, Kimihiro Hino, Kumiko Ui-Tei, Hidemasa Bono “CRISPRdirect: web-based tool for designing CRISPR/Cas guide RNA with reduced off-target sites” Oxford Symposia CRISPR 2015 OXFORD: Technology and Application (2015.3.23) St. Hilda’s College, Oxford, UK
19. Kumiko Ui-Tei, Fuminori Murakami, Tomoko Takahashi “Global identification of the interacting RNAs with dual functional RNA binding protein TRBP by next-generation sequencing” International Symposium on Genome Science 2015 “Expanding Frontiers of Genome Science II” (2015.1.20) 一ツ橋ホール
20. 日野 公洋、程久美子 「CRISPR/Cas9 システムにおけるゲノム切断効率に対するガイド RNA 標的認識領域塩基長の影響」第37回日本分子生物学会年会(2014.11.26) パシフィコ横浜
21. Hideaki Kume, Kimihiro Hino, Josephine Galipon, Kumiko Ui-Tei “Re-targeting and modulation of silencing efficiency by miRNAs with A-to-I editing in the seed region” 第37回日本分子生物学会年会(2014.11.26) パシフィコ横浜
22. Tomoko Takahashi, Shuhei Zeno, Kenji Nishi, Kumiko Ui-Tei “Functional conversion of a key regulator of RNA silencing, TRBP, during apoptosis in mammalian cell” 第37回日本分子生物学会年会(2014.11.26) パシフィコ横浜
23. 村上 文則、高橋 朋子、程久美子 「二本鎖 RNA 結合タンパク質 TRBP と相互作用する RNA の網羅的解析」第37回日本分子生物学会年会(2014.11.26) パシフィコ横浜
24. 須澤 壮崇、西 賢二、秦 裕子、尾山 大明、程久美子 「TNRC6A タンパク質の核内複合体構成因子の網羅的同定とその解析」第37回

日本分子生物学会年会(2014.11.26)パシフィック横浜

25. 中野 悠子, 高橋 朋子, 程 久美子 「小分子 RNA による遺伝子抑制機構における RNA 結合タンパク質の機能解析」 第 37 回日本分子生物学会年会(2014.11.26)パシフィック横浜
26. Soh Ishiguro, Josephine Galipon, Rintaro Ishii, Yutaka Suzuki, Shinji Kondo, Mariko Okada-Hatakeyama, Masaru Tomita, Kumiko Ui-Tei "Validation of A-to-I RNA editing sites identified by RIP-seq in human miRNAs" 第 37 回日本分子生物学会年会(2014.11.26)パシフィック横浜
27. Kumiko Ui-Tei "Control of RNA silencing by thermodynamics in the nucleotide base-pairing" 第 41 回国際核酸化学シンポジウム(ISNAC2014) (2014.11.7) 北九州国際会議場
28. Takahashi T, Kumiko Ui-Tei "Selection of chemical modifications for a target gene-specific RNA interference" The International Symposium of Chemistry and Biology of RNA Interference (ISCBRI) (2014.11.4) 北九州国際会議場
29. 石黒 宗, Galipon Josephine, 石井 倫太郎, 鈴木 穰, 近藤 伸二, 岡田 眞里子, 富田 勝, 程 久美子 「ヒトの ADAR アイソフォームによる A-to-I miRNA 編集の検出とその発現解析」 第 6 回 生命情報科学若手の会(2014.10.29-30) 理化学研究所 発生・再生科学総合研究センター(CDB) 研究棟C棟1階
30. Kumiko Ui-Tei "Clarification of roles played by each region of siRNA in RNA silencing by systematic DNA modifications" 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御」 第 3 回国際シンポジウム (2014.10.28) 千里ライフサイエンスセンター・ライフホール
31. Josephine Galipon, Rintaro Ishii, Soh Ishiguro, Yutaka Suzuki, Shinji Kondo, Mariko Okada-Hatakeyama, Masaru Tomita, Kumiko Ui-Tei "Distinct patterns of A-to-I editings on miRNAs due to different ADAR isoforms" 新学術領域「ゲノム支援」2014 年度 拡大班会議 (2014.8.20-21) 神戸ポートピアホテル
32. Josephine Galipon, Rintaro Ishii, Soh Ishiguro, Yutaka Suzuki, Shinji Kondo, Mariko Okada-Hatakeyama, Masaru Tomita, Kumiko Ui-Tei "Specificity of miRNA A-to-I editing by different human ADAR isoforms." 第 16 回日本 RNA 学会年会 (2014.7.23) ウィンクあいち
33. Josephine Galipon, Rintaro Ishii, Yutaka Suzuki, Shinji Kondo, Mariko Okada-Hatakeyama, Kumiko Ui-Tei "A-to-I editing of miRNAs by human ADAR isoforms." 第 4 回理研ゲノム科学総合研究組織(GSC)七タミーティング (2014.7.11) 理化学研究所 横浜事業所交流棟ホール
34. 日野 公洋, 程 久美子 「CRISPR/Cas9 system を用いたゲノムへの変異導入法」 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御」 第 5 回若手研究者ワークショップ (2014.5.29) 名古屋大学 坂田・平田ホール
35. 程 久美子, 西 賢二, 高橋 朋子 「化学修飾導入 siRNA による 1 遺伝子特異的ゲノム型 RNA 干渉法の開発をめざして」 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御」 第 6 回公開シンポジウム(2014.5.28) 名古屋大学 坂田・平田ホール
36. Kenji Nishi, Kumiko Ui-Tei "Subcellular localization of TNRC6A is determined by Argonaute protein." 第 14 回東京大学生命科学シンポジウム(BIO-UT 2014) (2014.4.26) 東京大学・伊藤国際学術研究センター
37. Kimihiro Hino, Kumiko Ui-Tei "The preferable guide RNA sequence for efficient human genome engineering using CRISPR/Cas9 system." 第 14 回東京大学生命科学シンポジウム(BIO-UT 2014) (2014.4.26) 東京大学・伊藤国際学術研究センター

【浜本洋】

1. 浜本洋, 関水 和久, 新規抗生物質ライソシン E の同定と作用メカニズム, 第 89 回日本細菌学会総会, 2016 年 3 月 23~25 日, 大阪国際交流センター (大阪府大阪市)
2. 浜本洋, カイコ感染実験系の有用性と課題 ライソシン E の研究を中心として, メディカル・サイエンス セミナー (日本感染症医薬品協会主催), 2016 年 3 月 24 日, 学士会館 (千代田区神保町), 招待講演
3. Hiroshi Hamamoto, Kazuhisa Sekimizu, Identification and mechanistic analysis of a novel antibiotic lysocin E, The 8th Japan-Korea Chemical Biology Symposium, Jan 18-20 2016, パシフィックホテル沖縄 (沖縄県那覇市) 招待講演
4. Hiroshi Hamamoto, Jie Su, Kenichi Ishii, Jyunichiro Yasukawa, Atmika Paudel, Kazuhisa Sekimizu, Host factors enhance antimicrobial activity of "Lysocin E", The international chemical congress of pacific basin societies 2015 (Pacifichem 2015), Dec. 15-20 2015, Hawaii (USA)
5. 浜本洋, 安川淳一郎, 石井健一, Su Jie, Paudel Atmika, 関水 和久, 宿主因子による抗生物質カイコシンの抗菌活性の促進, 第 37 回生体膜と薬物の相互作用シンポジウム, 2015 年 11 月 19~20 日, 熊本大学薬学部 (熊本県熊本市)
6. 浜本洋, 関水 和久, カイコ細菌感染モデルにて同定された新規抗生物質ライソシン E 第 64 回日本感染症学会東日本地方学術集会, 第 62 回日本化学療法学会東日本支部総会 合同学会, 2015 年 10 月 21~23 日, ロイトン札幌 (北海道札幌市), 招待講演
7. 浜本洋, 新規抗生物質ライソシンの抗菌活性を促進する血清因子のメカニズム解析 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー~分子標的と活性制御~」 第 8 回公開シンポジウム, 2015 年 6 月 8~9 日, 東北大学仙台南キャンパス萩ホール, 仙台市宮城県
8. 浜本洋, 石井健一, 安川淳一郎, 西田 智, 関水 和久, 「カイコモデルを用いた治療効果を有する新規抗菌薬の同定と開発」, 日本薬学会第 135 年会, 2015 年 3 月 26 日, 神戸学院大学 (兵庫県神戸市) 招待講演
9. Hiroshi Hamamoto, Jyunichiro Yasukawa, Kenichi Ishii, Atmika Paudel, Kazuhisa Sekimizu, "Silkworm as an animal model for novel antibiotic development", the Xth European Congress of Entomology, Aug. 3-8, 2014, York (England), invited speaker
10. Hiroshi Hamamoto, Su Jie, Atmika Paudel, Kenichi Ishii, Jyunichiro Yasukawa, Kazuhisa Sekimizu, Host factors enhance the antimicrobial activity of a novel antibiotics kaikosin E, The 54th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (ICAAC), Sep. 5-9, 2014, Washington (USA)
11. Paudel Atmika, Hamamoto Hiroshi, Kaneko Keichi, Matsunaga Shigeki, Suzuki Yutaka, Kanai Motomu, Kazuhisa Sekimizu, Novel Therapeutically Effective Antimicrobial Agent Targets Bacterial RNA Polymerase Sigma Factor A, The 54th Interscience Conference on Antimicrobial Agents and Chemotherapy (ICAAC), Sep. 5-9, 2014, Washington (USA)
12. Hiroshi Hamamoto, Host factors enhance the antimicrobial activity of a novel antibiotics kaikosin E, The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2014 年 10 月 28 日, 千里ライフサイエンスセンター (大阪府豊中市)

【加藤博章】

1. Matsuoka Keita, Hirokane Ryo, Kodan Atsushi, Yamaguchi Tomohiro, Nakatsu Toru, Ueda Kazumitsu, Kato Hiroaki, Crystallographic study of the ABC transporter CmABC1 covalently bound to substrate derivatives, 6th Special Meeting, ATP-Binding Cassette (ABC) Proteins: From Multidrug Resistance to Genetic Diseases, March 5 - 11, 2016, Innsbruck (Austria)
2. Oyama Ryo, Pan Dongqing, Nakatsu Toru, Sato Tomomi, Yamaguchi Tomohiro, Kodan Atsushi, Ueda Kazumitsu, Iwata So, Kato Hiroaki, Serial Femtosecond Crystallography of ABC Transporter, 6th Special Meeting, ATP-Binding Cassette (ABC) Proteins: From Multidrug Resistance to Genetic Diseases, March 5 - 11, 2016, Innsbruck (Austria)
3. Ka Lu, Yamaguchi Tomohiro, Nakatsu Toru, Kato Hiroaki, Altering stability of a transmembrane protein, MsbA by structural comparison with its thermophilic homolog, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015, December 15 - 20, 2015, Honolulu (USA)
4. 小田健人, 山口知宏, 宮ノ入洋平, 中津 亨, 甲斐正恒, 加藤博章, NMR 解析を目指した ABC トランスポーターの大腸菌高密度培養による安定同位体標識系の確立, 日本薬学会近畿支部総会・大会, 2015 年 10 月 17 日, 大阪大谷大学 (大阪府富田林市)
5. 大塚哲央, 山口知宏, 中津亨, 加藤博章, Trp 変異導入による ABC 多剤排出トランスポーターと基質の相互作用解析, 日本薬学会第 135 年会, 2015 年 3 月 25 日~28 日, 神戸学院大学 (兵庫県神戸市)

- 加藤博章 (招待講演)、ATP Binding Cassette トランスポーターの構造薬理学、平成 26 年度日本結晶学会年会及び総会、2014 年 11 月 1 日～3 日、東京大学農学部 (東京都文京区)
- Kato Hiroaki (招待講演), Structural basis for allosteric inhibition of P-glycoprotein homologue CmABCBI, The 3rd international symposium on chemical biology of natural products: target ID and regulation of bioactivity, October 28th – 29th, 2014, Osaka (Japan)
- 山口知宏 (招待講演)、小段篤史、中津亨、植田和光、加藤博章、ABC 多剤排出トランスポーターの立体構造の特徴、第 87 回日本生化学会大会、2014 年 10 月 15 日～18 日、国立京都国際会館 (京都府京都市)
- 宇都宮裕人、山口知宏、宮ノ入洋平、武田光広、中津亨、甲斐荘正恒、加藤博章、Lys の ¹³C-ジメチル化による ABC 多剤排出トランスポーターの NMR 解析、64 回日本薬学会近畿支部総会・大会、2014 年 10 月 11 日、京都薬科大学 (京都府京都市)
- 潘東青、中津亨、山口知宏、小段篤史、小川和浩、松尾一樹、城地保昌、登野健介、矢橋牧名、鈴木守、南後恵理子、岩田想、加藤博章、SACLA による ABC トランスポーターおよびホタル・ルシフェラーゼの X 線結晶構造解析、第 14 回日本蛋白質科学会年会、2014 年 6 月 25 日～6 月 27 日、ワークピア横浜/横浜産貿ホール マリネリア (神奈川県横浜市)

【島村達郎】

- 島村達郎、「ヒスタミン H1 受容体の構造解析と *in silico* screening」、第 87 回日本内分科学会学術総会 (博多)、2014 年 4 月。招待講演

【林良雄】

- 濱田圭佑、田口晃弘、小竹優也、会田 俊、村上沙織、高山健太郎、薬師寺文華、林 良雄、「Development of (+)-Negamycin Derivatives at the C-Terminal Part as Potent Readthrough Drug Candidates」、第 52 回ペプチド討論会、2015 年 11 月 16-18 日、平塚中央公民館 (平塚)、口頭発表
- Akihiro Taguchi, Keisuke Hamada, Masaya Kotake, Suguru Aita, Saori Murakami, Kentaro Takayama, Fumika Yakushiji, Yoshio Hayashi, “Structure-Activity Relationship Studies Focused on 3-Amino Moiety of Negamycin Derivatives for Potent Readthrough Activity”, 14-16, *Frontiers in Medicinal Chemistry* 2015, September, 2015, Antwerp, Belgium, Poster.
- 濱田圭佑、田口晃弘、小竹優也、生澤俊太郎、会田 俊、高山健太郎、薬師寺文華、白井健郎、林 良雄、「3 位アミノ基に着目した新規ネガマイシン誘導体の合成とそのリードスルー活性評価」、創薬懇話会 2015 in Tokushima、2015 年 7 月 2-3 日、徳島、ポスター。
- 林 良雄、「ネガマイシン誘導体 3 位アミノ基の修飾による高活性リードスルー化合物の創製」、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第 8 回公開シンポジウム、2015 年 6 月 8-9 日、東北大学さくらホール (仙台)、ポスター。
- 田口晃弘、濱田圭佑、小竹優也、塩塚政孝、会田 俊、生澤俊太郎、村上沙織、鈴木奈々、高山健太郎、薬師寺文華、野々村禎昭、白井健郎、松田良一、林 良雄、「リードスルー作用を有するネガマイシン誘導体の C 末端部位における構造活性相関研究」、第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2014 年 11 月 26-28 日、神戸国際会議場 (神戸)、ポスター。
- Yoshio Hayashi, “Effect of the C-terminal modification in negamycin derivatives on readthrough activity”, The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 28-29 October 2014, Osaka (Japan), Poster.
- 会田 俊、濱田圭佑、小竹優也、生澤俊太郎、塩塚政孝、野々村禎昭、田口晃弘、高山健太郎、薬師寺文華、白井健郎、松田良一、林 良雄、「エステル型ネガマイシン誘導体の合成とそのリードスルー活性評価」、第 58 回日本薬学会関東支部大会、2014 年 10 月 4 日、昭和薬科大学 (東京)、口頭発表。
- Akihiro Taguchi, Keisuke Hamada, Masaya Kotake, Masataka Shiozuka, Kentaro Takayama, Fumika Yakushiji, Takeo Usui, Ryoichi Matsuda, Yoshio Hayashi, “Structure Activity Relationship Study of (+)-Negamycin for Readthrough Activity at Duchenne Muscular Dystrophy”, 33rd European Peptide Symposium, 31 August 2014 to 5 September 2014, Sofia, Bulgaria, Poster.
- Keisuke Hamada, Akihiro Taguchi, Masaya Kotake, Suguru Aita, Shuntaro Ikezawa, Masataka Shiozuka, Yoshiaki Nonomura, Kentaro Takayama, Fumika Yakushiji, Takeo Usui, Ryoichi Matsuda, Yoshio Hayashi, “Structure activity relationship study of (+)-negamycin derivatives at the C-terminal part as a readthrough drug”, 18th Korean Peptide Protein Symposium, 7-8 July 2014, Busan, South Korea, Oral & Poster.
- 濱田圭佑、田口晃弘、小竹優也、生澤俊太郎、会田 俊、塩塚政孝、野々村禎昭、高山健太郎、薬師寺文華、白井健郎、松田良一、林 良雄、「ネガマイシン誘導体における C 末端部修飾とリードスルー活性への効果」、創薬懇話会 2014、2014 年 7 月 10-11 日、岐阜、ポスター

A02 : 天然リガンドの探索と合成

【入江一浩】

- Irie, K., “Extraction of anti-proliferative activity from pleiotropic debromoaplysiatoxin, a potent tumor promoter and a highly inflammatory principle isolated from sea hare”, 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015), Hawaii, USA, Dec. 15, 2015 (Invited Lecture)
- 入江一浩、「アブリシアトキシンの構造単純化による抗がん剤シーズの開発研究」、第 33 回メディシナルケミストリーシンポジウム、幕張国際研修センター (千葉市)、平成 27 年 11 月 26 日 (招待講演)
- 入江一浩、「天然のプロテインキナーゼ C リガンドの単純化による抗がん剤シーズの開発研究」、日本農芸化学会 2015 年度中四国・西日本支部合同大会、愛媛大学農学部 (樟味キャンパス、松山市)、平成 27 年 9 月 17 日 (招待講演)
- 入江一浩、「抗がん剤開発を指向した新規プロテインキナーゼ C リガンドの創製」、京都大学学際融合教育研究推進センター・生理化学研究ユニット第 4 回公開シンポジウム、京都大学益川記念館 (京都市)、平成 26 年 6 月 24 日 (招待講演)
- Irie, K., “Synthesis and biological activities of the simplified analogs of a natural PKC ligand aplysiatoxin”, International Symposium on Natural Products Chemistry and Chemical Biology 2013, Hotel Rubura Ohzan, Nagoya, Japan, Nov. 26, 2013 (Invited Lecture)
- Irie, K., “Structure-activity studies of the simplified analogue of aplysiatoxin with antiproliferative activity like bryostatins”, 3rd International Symposium on Innovative Areas “Chemical Biology of Natural Products”, Kyoto Century Hotel, Kyoto, Japan, Oct. 31, 2012 (Invited Lecture)
- 入江一浩、「天然発がんプロモーターの骨格を利用した新規抗がん剤リードの開発」、2012 年度日本農芸化学会大会、京都女子大学 (京都市)、平成 24 年 3 月 25 日 (招待講演)
- 入江一浩、「抗がん剤開発を指向した新規 PKC リガンドの創製と作用機構解析」、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー」第一回公開シンポジウム、大阪市大杉本キャンパス (大阪市)、平成 24 年 1 月 10 日 (招待講演)
- 入江一浩、「天然発がんプロモーターの骨格を利用した新規ツール分子と抗がん剤シーズの開発」、日本農芸化学会関西支部例会 (第 472 回講演会)、神戸大学農学研究科 (神戸市)、平成 23 年 12 月 10 日 (招待講演)
- Irie, K., “Development of new molecular probes and therapeutic seeds having skeletons of naturally-occurring tumor promoters”, 22nd French-Japanese Symposium of Medicinal and Fine Chemistry, Rouen, France, Sep. 13, 2011 (Invited Lecture)
- 芦田能基、柳田 亮、川浪康弘、入江一浩、「分子モデリングによる Aplysiatoxin とプロテインキナーゼ C C1 ドメインとの結合様式の予測」、2016 年度日本農芸化学会大会、札幌コンベンションセンター (札幌市)、平成 28 年 3 月 28 日 (ポスター発表)

12. 花木祐輔, 堀田夏紀, 菊森将之, 岡村睦美, 且 慎吾, 入江一浩, 「新規抗がん剤シード・10-Me-aplog-1 のがん細胞増殖抑制機構」, 2016 年度日本農芸化学会大会, 札幌コンベンションセンター (札幌市), 平成 28 年 3 月 28 日 (ポスター発表)
13. 花木祐輔, 堀田夏紀, 菊森将之, 入江一浩, 「新規抗がん剤シード・aplog 類のがん細胞増殖抑制機構の解析」, 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー ～分子標的と活性制御～」地区ミニシンポジウム, 京都大学楽友会館 (京都市), 平成 28 年 2 月 23 日 (一般講演)
14. Hanaki, Y., Kikumori, M., Yanagita, R. C., Hotta, N., Tokuda, H., Izumi, S., Sakamoto, S., Handa, H., Okamura, M., Dan, S., Irie, K., “Large-scale synthesis, anti-cancer activity *in vivo*, and mechanism of anti-proliferative activity of 10-methyl-aplog-1, a simplified analog of aplysiatoxin, as an anti-cancer lead”, The 8th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences “Biomolecule-based Medicinal Science: Featuring Mid-Size Drugs”, Takeda Pharmaceutical Company, Ltd., Suita, Japan, Jan. 21, 2016 (Poster Presentation)
15. Ashida, Y., Yanagita, R. C., Takahashi, C., Fujii, M., Kawanami, Y., Irie, K., “Structure-activity studies on the PKC-recognition domain of aplysiatoxin, a potent tumor-promoter isolated from a sea hare”, 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015), Hawaii, USA, Dec. 15, 2015 (Oral Presentation)
16. Hanaki, Y., Yanagita, R. C., Takahashi, C., Sugahara, T., Aida, M., Tokuda, H., Suzuki, N., Irie, K., “Synthesis and biological activities of the amide derivative of aplog-1, a simplified analog of aplysiatoxin with anti-proliferative and cytotoxic activities”, 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015), Hawaii, USA, Dec. 15, 2015 (Poster Presentation)
17. 芦田能基, 柳田 亮, 川浪康弘, 入江一浩, 「Aplysiatoxin の PKC C1 ドメイン認識部位の構造活性相関研究」, 2015 年度日本農芸化学会大会, 岡山大学津島キャンパス (岡山市), 平成 27 年 3 月 28 日 (一般講演)
18. 花木祐輔, 柳田 亮, 菅原貴弘, 相田美砂子, 徳田春邦, 鈴木信孝, 入江一浩, 「細胞増殖抑制能を有するアプリアトキシシン単純化アナログのアミド誘導体の合成と活性」, 2015 年度日本農芸化学会大会, 岡山大学津島キャンパス (岡山市), 平成 27 年 3 月 28 日 (一般講演)
19. 菊森将之, 柳田 亮, 中川 優, 蒲池弘明, 徳田春邦, 鈴木信孝, 入江一浩, 「アプリアトキシシン単純化アナログ (Aplog-1) の抗がん剤シードとしての構造最適化」, 新学術領域研究・がん支援「化学療法基盤支援活動」第 3 回シンポジウム, 万国津梁館 (名護市), 平成 26 年 5 月 12 日 (ポスター発表)
20. 菊森将之, 徳田春邦, 鈴木信孝, 村上 明, 入江一浩, 「Debromoaplysiatoxin の 4 位不斉メチル基の生物活性おける役割」, 2014 年度日本農芸化学会大会, 明治大学生田キャンパス (川崎市), 平成 26 年 3 月 29 日 (一般講演)
21. Kikumori, M., Yanagita, R. C., Tokuda, H., Suzuki, N., Irie, K., “Role of methyl groups on the spiroketal moiety of aplog-1, a simplified analogue of debromoaplysiatoxin with anti-proliferative activity”, 23rd French-Japanese Symposium of Medicinal and Fine Chemistry, ANA Crowne Plaza Nagasaki Gloverhill, Nagasaki, Japan, May 13, 2013 (Poster Presentation)
22. 花木祐輔, 菊森将之, 植野沙代, 徳田春邦, 鈴木信孝, 入江一浩, 「Debromoaplysiatoxin 単純化アナログの 27 位における構造活性相関」, 2013 年度日本農芸化学会大会, 東北大学河内北キャンパス (仙台市), 平成 25 年 3 月 26 日 (一般講演)
23. 菊森将之, 花木祐輔, 柳田 亮, 徳田春邦, 鈴木信孝, 永井宏史, 末永聖武, 入江一浩, 「Debromoaplysiatoxin 単純化アナログの 10 位メチル体の発がん促進活性」, 2013 年度日本農芸化学会大会, 東北大学河内北キャンパス (仙台市), 平成 25 年 3 月 26 日 (一般講演)
24. 菊森将之, 柳田 亮, 徳田春邦, 鈴木信孝, 永井宏史, 末永聖武, 入江一浩, 「Debromoaplysiatoxin 単純化アナログの 10 位メチル体の合成と細胞増殖抑制活性」, 2012 年度日本農芸化学会関西支部大会, 京都学園大学 (亀岡市), 平成 24 年 9 月 29 日 (一般講演)
25. Kikumori, M., Yanagita, R. C., Tokuda, H., Suzuki, N., Nagai, H., Suenaga, K., Irie, K., “Structure-activity studies on the spiroketal moiety of aplog-1, a simplified analogue of debromoaplysiatoxin with anti-proliferative activities”, The 12th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry, Rihga Royal Hotel, Kyoto, Japan, Nov. 15, 2012 (Poster Presentation)
26. 朱 裕姫, 柳田 亮, 徳田春邦, 鈴木信孝, 入江一浩, 「抗腫瘍性 Aplysiatoxin 単純化アナログの側鎖の構造活性相関を目的とした合成経路の確立」, 2012 年度日本農芸化学会大会, 京都女子大学 (京都市), 平成 24 年 3 月 23 日 (一般講演)

【井本正哉】

1. 今辻紗也佳, 大嶽弘之, 奈良部進, 田代悦, 井本正哉, Cisplatin 持続暴露による EMT 誘導機構, 日本農芸化学会 2016 年度大会, 2016 年 3 月 29 日, 札幌コンベンションセンター (北海道・札幌市)
2. 池田拓慧, 田代悦, 井本正哉, β -catenin 変異型がん細胞選択的に細胞死を誘導する化合物の探索, 日本農芸化学会 2016 年度大会, 2016 年 3 月 29 日, 札幌コンベンションセンター (北海道・札幌市)
3. 齋藤駿, 藤巻貴宏, 田代悦, 五十嵐康弘, 井本正哉, ホルモン療法抵抗性前立腺がんに対する天然物創薬研究, 日本薬学会第 136 回年会, 2016 年 3 月 28 日, パシフィコ横浜 (神奈川県・横浜市)
4. 四方雄貴, 木我真基, 田代悦, 井本正哉, メラノーマ治療薬として開発された MEK 阻害剤の大腸がん治療薬としての可能性, 日本薬学会第 136 回年会, 2016 年 3 月 27 日, パシフィコ横浜 (神奈川県・横浜市)
5. 井岡秀二, 齋藤毅, 岩野智, 牧昌次郎, 鈴木孝治, 井本正哉, 西山繁, 新規発光物質の開発を目的としたホタルルシフェリンアナログの合成と活性評価, 日本化学会第 96 回春季年会(2016), 2016 年 3 月 24 日, 同志社大学 (京都府京・田辺市)
6. Masaya Imoto, Synthetic lethal screening for the compound with β -catenin mutation from natural product library, 10th AACR-JCA Joint Conference, 2016 年 2 月 18 日, ハイアットリージェンシーマウイ (マウイ・USA)
7. Shuji Ioka, Tsuyoshi Saito, Satoshi Iwano, Shojiro Maki, Haruki Niwa, Masaya Imoto, and Shigeru Nishitama, Development of the new firefly luciferin analog aiming at detection of a free radical in the living body, The 8th Korea-Japan Chemical Biology Symposium, 2016 年 1 月 19 日, Pasific Hotel Okinawa (沖縄県・那覇市)
8. Yuki Shikata, Masaki Kiga, Etsu Tashiro, and Masaya Imoto, Screening for the compound that induces cell death selectively in β -catenin mutant tumor cells, The 8th Korea-Japan Chemical Biology Symposium, 2016 年 1 月 19 日, Pasific Hotel Okinawa (沖縄県・那覇市)
9. Shun Saito, Takahiro Fujimaki, Etsu Tashiro, Igarashi Yasuhiro, and Masaya Imoto, Antarlides, New-Type Androgen Receptor (AR) Antagonist, That Overcome Resistance to AR-targeted Therapy, The 8th Korea-Japan Chemical Biology Symposium, 2016 年 1 月 19 日, Pasific Hotel Okinawa (沖縄県・那覇市)
10. Masahiro Miura and Masaya Imoto, Studies on neuroprotective effects of SMK-17 as a drug-seed for parkinson's disease, The 8th Korea-Japan Chemical Biology Symposium, The 8th Korea-Japan Chemical Biology Symposium, Pasific Hotel Okinawa (沖縄県・那覇市)
11. S.Saito, T.Fujimaki, E.Tashiro, Y.Igarashi, M.Imoto, Isolation and biological activities of novel androgen receptor antagonist produced by Streptomyces, 2015 環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM 2015), 2015 年 12 月 17 日, ホノルル (米国)
12. M.Imoto, T.Fujimai, S.Saiki, E.Tashiro, D.Yamada, N.Hattori, Identification of licopyranocoumarin and glycyrrulol from herbal medicines as neuroprotective compounds for Parkinson's disease, 2015 環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM 2015), 2015 年 12 月 17 日, ホノルル (米国)

13. S.Ioka, T.Saito, S.Iwano, S.Maki, H.Niwa, M.Imoto, S.Nishiyama, Development of the new firefly luciferin analog aiming at detection of a free radical in the living body, 2015 環太平洋国際化学会議 (PACIFICHEM 2015)、2015年12月17日、ホノルル (米国)
14. Yuki Shikata, Etsu Tashiro, Masaya Imoto, Screening for the compound that induces cell death selectively in β -catenin mutant tumor cells, 第27回 AACR-NCI-EORTC International Conference, 2015年11月7日、ボストン (米国)
15. 吉丸哲郎、小松正人、田代悦、長田裕之、井本正哉、豊國伸哉、三好康雄、笹三徳、片桐豊雅、エストロゲン受容体制御分子 BIG3 を標的とした新規 ER 陽性乳がんの治療法、第74回日本癌学会学術総会、2015年10月9日、名古屋国際会議場 (愛知県名・名古屋市)
16. 池田拓慧、四方雄貴、田代悦、井本正哉、 β -catenin 変異型がん細胞選択的に細胞死を誘導する化合物の探索、第74回日本癌学会学術総会、2015年10月9日、名古屋国際会議場 (愛知県名・名古屋市)
17. 四方雄貴、田代悦、井本正哉、カリウムイオノフォアである Nonactin は β -catenin 変異がん選択的に細胞死を誘導する、第74回日本癌学会学術総会、2015年10月9日、名古屋国際会議場 (愛知県名・名古屋市)
18. 今辻紗也佳、田代悦、井本正哉、CDDP 耐性細胞における TGF- β 受容体阻害剤による MET 誘導、第74回日本癌学会学術総会、2015年10月9日、名古屋国際会議場 (愛知県・名古屋市)
19. 齋藤駿、藤巻貴宏、田代悦、五十嵐康弘、井本正哉、放線菌由来新規アンドロゲン受容体アンタゴニスト Antarlid 類の単離・構造決定及び生物活性、第57回天然有機化合物討論会、2015年9月10日、神奈川県民ホール (神奈川県・横浜市)
20. Yuji Mizotani, Shun Itoh, Kohji Hotta, Etsu Tashiro, Kotaro Oka, Masaya Imoto, Evaluation of drug toxicity profile using *Ciona intestinalis*, 8th International Tunicate Meeting, 2015年7月16日、Aomori City Cultural Hall (Aomori City Aomori Pref.)
21. 吉丸哲郎、小松正人、田代悦、長田裕之、井本正哉、片桐豊雅、エストロゲン受容体制御分子 BIG3 を標的とした新規 ER 陽性乳がん治療法の開発、日本がん分子標的治療学会第19回学術集会、2015年6月12日、松山全日空ホテル (愛媛県・松山市)
22. 井岡秀二、斉藤毅、岩野智、牧昌次郎、丹羽治樹、井本正哉、西山繁、生体内フリーラジカルの検出を目的とした新規ホタルシフェリンアナログの開発、日本ケミカルバイオロジー第10回年会、2015年6月11日、東北大学 川内キャンパス (宮城県・仙台市)
23. 井本正哉、Bcl-2/Bcl-xL 機能阻害物質インセドニンの標的分子同定、天然物ケミカルバイオロジー第8回公開シンポジウム、2015年6月8日、東北大学 片平キャンパス (宮城県・仙台市)
24. Yuji Mizotani, Shun Itoh, Kohji Hotta, Etsu Tashiro, Kotaro Oka, Masaya Imoto, Evaluation system of chemical toxicity using *Ciona intestinalis*, 48th Annual Meeting of the Japanese Society of Developmental Biologists, 2015年6月2日~6月5日、International Congress Center Tsukuba (茨城県・つくば市)
25. 井本正哉、田代悦、微生物由来天然化合物の治療薬シードへの展開、日本農芸化学会 2015 年度大会、2015年3月29日、岡山大学津島キャンパス (岡山県・岡山市)
26. 片桐豊雅、吉丸哲郎、小松正人、田代悦、井本正哉、長田裕之、エストロゲン受容体制御分子 BIG3 を標的とした新規ホルモン依存性乳がん治療法の開発、日本農芸化学会 2015 年度大会、2015年3月29日、岡山大学津島キャンパス (岡山県・岡山市)
27. 田代悦、大嶽弘之、奈良部進、井本正哉、抗がん剤耐性と EMT の関係に着目した MET 誘導物質の探索系構築、日本農芸化学会 2015 年度大会、2015年3月27日、岡山大学津島キャンパス (岡山県・岡山市)
28. 齋藤駿、藤巻貴宏、榊原康文、田代悦、井本正哉、in silico 及び天然物スクリーニングによる新規アンドロゲン受容体アンタゴニストの探索、日本農芸化学会 2015 年度大会、日本農芸化学会 2015 年度大会、岡山大学津島キャンパス (岡山県・岡山市)
29. 溝谷優治、伊藤俊、堀田耕司、田代悦、岡浩太郎、井本正哉、カタコウレイボヤにおける薬剤の毒性評価系の構築、日本農芸化学会 2015 年度大会、2015年3月27日、岡山大学津島キャンパス (岡山県・岡山市)
30. M.Imoto, Chemistry and biology of natural products that modulate cellular responses, SIBM Natural Products 2015, 2015年1月12日、San Diego (USA)
31. M. Kiga, A. Nakayama, Y. Sasazawa, Y. Shikata, H. Ikeda, E. Tashiro, M.Imoto, MEK1/2 specific inhibitor, SMK-17 selectively induces apoptosis in β -catenin mutated tumors, 26th EORTC-NCI-AACR SYMPOSIUM, 2014年11月21日、Barcelona (Spain)
32. S. Magi, Y. Yamamoto, H. Kobayashi, M. Kasamatsu, T. Akita, A. Tanaka, K. Takano, E. Tashiro, Y. Igarashi and M.Imoto, 5-Lipoxygenase and CysLT1 regulate EGF-induced cell migration through Tiam1 upregulation and Rac1 activation, 文科省「新学術領域研究」天然物ケミカルバイオロジー第3回国際シンポジウム (第7回公開シンポジウム)、2014年10月28日、千里ライフサイエンスセンター・ライフホール (大阪府・豊中市)
33. 溝谷優治、堀田耕司、岡浩太郎、柴小菊、稲葉一男、鈴木麻友、田代悦、井本正哉、ケミカルジェネティクスによるホヤ脊索管形成機構の解析、第87回日本生化学会大会、2014年10月18日、国立京都国際会館 (京都府・京都市)
34. 井本正哉、木我真基、中山綾子、笹澤有紀子、四方雄貴、池田拓慧、田代悦、Mek 阻害剤 SMK-17 は β -カテニン変異細胞に選択的にアポトーシスを誘導する、第73回日本癌学会学術総会、2014年9月25日、パシフィコ横浜 (神奈川県・横浜市)
35. 井本正哉、MEK 阻害剤感受性規定因子の同定、第25回新薬創製談話会、2014年9月9日、京都・嵐山ご清遊の宿「らんざん」 (京都府・京都市)
36. 井本正哉、5-リポキシゲナーゼ/CysLT1 シグナルによるがん細胞遊走促進機構解析、第23回日本がん転移学会学術集会・総会、2014年7月10日、金沢市文化ホール (石川県・金沢市)
37. 田代悦、井本正哉、HDAC 阻害剤 SAHA による MET 誘導、第18回日本がん分子標的治療学会学術集会、2014年6月26日、仙台市情報・産業プラザ (宮城県・仙台市)
38. 齋藤駿、藤巻貴宏、田代悦、井本正哉、in silico および天然物スクリーニングによる新規アンドロゲン受容体アンタゴニストの探索、第18回日本がん分子標的治療学会学術集会、2014年6月26日、仙台市情報・産業プラザ (宮城県・仙台市)
39. 齋藤駿、藤巻貴宏、榊原康文、田代悦、井本正哉、新規アンドロゲン受容体アンタゴニストの探索と薬理活性評価、日本ケミカルバイオロジー学会第9回年会、2014年6月13日、大阪大学 大阪大学会館 (大阪府・豊中市)
40. 井本正哉、田代悦、漢方薬由来パーキンソン治療薬シードの探索、文科省新学術領域研究・天然物ケミカルバイオロジー第6回公開シンポジウム、2014年5月28日、名古屋大学 坂田・平田ホール (愛知県・名古屋市)
41. 井本正哉、天然化合物を用いたケミカルバイオロジー研究、2014年3月28日、熊本大学 (熊本県・熊本市)
42. 藤巻貴宏、齊木臣二、田代悦、服部信孝、井本正哉、漢方薬抽出物からのパーキンソン病治療薬シードの探索、日本農芸化学会 2014 年度大会、2014年3月28日、明治大学生田キャンパス (神奈川県・川崎市)
43. 田代悦、新莊聡子、溝谷優治、井本正哉、種々の小分子化合物による UPR 関連遺伝子群発現挙動の解析、日本農芸化学会 2014 年度大会、2014年3月28日、明治大学生田キャンパス (神奈川県・川崎市)
44. 井本正哉、日本における天然物創薬の現状、日本農芸化学会 2014 年度大会、2014年3月30日、明治大学生田キャンパス (神奈川県・川崎市)

45. Yuji Mizotani, Kohji Hotta, Kotaro Oka, Hidenori Watanabe, Kogiku Shiba, Kazuo Inaba, Mayu Suzuki, Etsu Tashiro, Masaya Imoto, Studies on the Mechanism of *Ciona* Notochord Tubulogenesis Using UTKO1, The7th Japan-Korea Chemical Biology Symposium, 2014年2月10日、済州島 (韓国)
46. Etsu Tashiro, Satoko Shinjo, Masaya Imoto, Establishment of a New Detection System for the Dimerization of IRE1 α Using a BiFC Assay, The7th Japan-Korea Chemical Biology Symposium, 2014年2月10日、済州島 (韓国)
47. Masaya Imoto, 5-Lipoxygenase and CysLT1 Regulate EGF-induced Cell Migration Through Tiam1 Upregulation and Rac1 Activation, The7th Japan-Korea Chemical Biology Symposium, 2014年2月10日、済州島 (韓国)
48. 井本正哉, 間木重行, 竹本靖, 小林大貴, 笠松誠人, 五十嵐康弘, 田代悦, EGFが誘導する細胞運動における5-リポキシゲナーゼとおよびCysLT1シグナルの役割, 第36回日本分子生物学会年会, 2013年12月4日、神戸ポートアイランド (兵庫県・神戸市)
49. 田代悦, 新莊聡子, 井本正哉, BiFC法によるIRE1二量体検出法の構築, 日本農芸化学会関東支部 2013年度支部大会, 2013年11月22日、慶應義塾大学藤原洋記念ホール (神奈川県・横浜市)
50. 藤巻貴宏, 斉木臣二, 田代悦, 服部信孝, 井本正哉, 漢方薬からのパーキンソン病治療薬の探索, 日本農芸化学会関東支部 2013年度支部大会, 2013年11月22日、慶應義塾大学藤原洋記念ホール (神奈川県・横浜市)
51. 大嶽弘之, 邊見静香, 奈良部進, 田代悦, 井本正哉, Mesenchymal-Epithelial Transition 誘導物質の探索, 日本農芸化学会関東支部 2013年度支部大会, 2013年11月22日、慶應義塾大学藤原洋記念ホール (神奈川県・横浜市)
52. Takahiro Fujimaki, Shinji Saiki, Etsu Tashiro, Nobutaka Hattori, Masaya Imoto, A Screening of Neuroprotective Compounds for Parkinson's Disease from Herbal Medicines, Neuroscience 2013 (アメリカ神経科学会 2013), 2013年11月9日~13日、サンディエゴ (米国)
53. 井本正哉, ホップ成分キサントフモールのオートファジー制御機構と抗がん活性評価, 第5回食品薬学シンポジウム, 2013年11月2日、京都大学薬学部記念講堂 (京都府・京都市)
54. Masaya Imoto, Metabolomic Identification of the Target of Microbial Probes Modulating Cellular Responses, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products, 2013年10月28日、パシフィコ横浜 (神奈川県・横浜市)
55. Yuki Shikata, Shuhei Kanagaki, Yukiko Sasazawa, Etsu Tashiro, Tetsuro Yoshimaru, Masato Komatsu, Toyomasa Katagiri, Masaya Imoto, Antitumor activity of xanthohumol, an inhibitor of valosin-containing protein, AACR-NCI-EORTC International Conference, 2013年10月22日、ボストン (米国)
56. 四方雄貴, 井本正哉, 田代悦, 新規オートファジー制御物質 Xanthohumol の抗がん活性評価, 第72回日本癌学会学術総会, 2013年10月3日、パシフィコ横浜 (神奈川県・横浜市)
57. Masaya Imoto, Chemistry and biology of Xanthohumol, an inhibitor of Valosin-Containing Protein, EMBO Workshop [AAA+ proteins: from mechanism and disease to targets], 2013年9月18日、Neuss(Germany)
58. 井本正哉, 間木重行, 田代悦, ケミカルゲノミクスによるがん細胞遊走機構の多様性と共通性解析, 第22回日本がん転移学会学術集会・総会, 2013年7月11日、ホテルブエナビスタ (長野県・松本市)
59. 笠松誠人, 間木重行, 田代悦, 井本正哉, ケミカルバイオロジーによる Tiam1 発現制御機構解析, 日本ケミカルバイオロジー学会第8回年会, 2013年6月21日、東京医科歯科大学 M&D タワー (東京都・文京区)
60. 新莊聡子, 田代悦, 井本正哉, BiFC法によるIRE1 α 二量体検出法の構築, 日本ケミカルバイオロジー学会第8回年会, 2013年6月20日、東京医科歯科大学 M&D タワー (東京都・文京区)
61. 井本正哉, 田代悦, VCP阻害物質キサントフモールによる抗がん活性評価, 第17回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2013年6月14日、国立京都国際会館 (京都府・京都市)
62. 田代悦, 井本正哉, BiFCを利用した新規IRE1 α 活性化阻害剤探索系の構築, 第17回日本がん分子標的治療学会学術集会, 2013年6月13日、国立京都国際会館 (京都府・京都市)
63. 井本正哉, 田代悦, VCP阻害剤キサントフモールによる抗がん作用の解析, 文科省科研費「新学術領域研究」天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御 第4回公開シンポジウム, 2013年5月28日、つくば国際会議場 (茨城県・つくば市)
64. 笠松誠人, 間木重行, 田代悦, 井本正哉, CysLT1シグナリングによるTiam1の発現制御, 日本農芸化学会2013年度大会, 2013年3月26日、東北大学川内北キャンパス (宮城県・仙台市)
65. 大嶽弘之, 邊見静香, 久田明里, 小林大貴, 田代悦, 井本正哉, ヒト大腸がん細胞LoVoにおける, EGF誘導体E-cad-herin発現抑制機構の解析, 日本農芸化学会2013年度大会, 2013年3月26日、東北大学川内北キャンパス (宮城県・仙台市)
66. 金堀周平, 田代悦, 井本正哉, ホップ抽出物キサントフモールの抗がん作用解析, 日本農芸化学会2013年度大会, 2013年3月26日、東北大学川内北キャンパス (宮城県・仙台市)
67. 加藤直裕, 間木重行, 田代悦, 井本正哉, オートファジー制御機構の網羅的解析に向けた細胞評価系の構築, 日本農芸化学会2013年度大会, 2013年3月26日、東北大学川内北キャンパス (宮城県・仙台市)
68. 溝谷優治, 鈴木麻友, 渡邊秀典, 高取聡美, 堀田耕司, 岡浩太郎, 田代悦, 井本正哉, UTKO1を用いたホヤ脊索管形成機構の解析, 日本農芸化学会2013年度大会, 2013年3月26日、東北大学川内北キャンパス (宮城県・仙台市)
69. Yasubumi Sakakibara, Masaya Imoto, Development of new androgen antagonists by in silico screening and natural product screening, 第9回日米癌合同会議, 2013年2月24日、マウイ (米国)
70. 井本正哉, がんの代謝解析による薬剤標的探索, がん代謝シンポジウム2013, 2013年1月17日、慶應義塾大学医学部北里記念医学図書館講堂 (東京都・新宿区)
71. 新莊聡子, 田代悦, 井本正哉, BiFC法によるIRE1二量体検出法の構築, 第35回日本分子生物学会年会, 2012年12月13日、福岡国際会議場 (福岡県・福岡市)
72. 加藤直裕, 間木重行, 田代悦, 井本正哉, オートファジー制御機構の網羅的解析に向けた評価系の構築, 第35回日本分子生物学会年会, 2012年12月12日、福岡国際会議場 (福岡県・福岡市)
73. S. Magi, E. Tashiro, M. Imoto, Involvement of Cysteinyl Leukotriene Receptor 1 (CysLT1) in Second Wave Rac1 Activation in the Process of EGF-induced Cell Migration, 24th EORTC-NCI-AACR Symposium, 2012年11月7日、ダブリン (アイルランド)
74. Etsu Tashiro, Satoko Shinjo, Yuji Mizotani, Masaya Imoto, A Comparative Analysis of the Expression Patterns of UPR-Target Genes caused by UPR-inducing Compounds, EMBO Conference, 2012年10月17日~18日、ジローナ (スペイン)
75. 間木重行, 笠松誠人, 竹本靖, 小林大貴, 田代悦, 井本正哉, CysLT1シグナルはTiam1の発現制御を介してEGF刺激依存的細胞遊走を制御する, 第71回日本癌学会学術総会, 2012年9月20日、ホテルロイトン札幌 (北海道・札幌市)
76. 藤巻貴宏, 田代悦, 井本正哉, 新たなアンドロゲンアンタゴニストの検索のためのアプローチ, 第16回日本がん分子標的治療学会, 2012年6月29日、西日本総合展示場 (福岡県・北九州市)

77. 田代悦、山本浩太、井本正哉、*イノスミン*による細胞膜表面 DR5 の発現上昇を介した TRAIL 誘導性アポトーシス増強、日本ケミカルバイオロジー学会第7回年会、2012年6月8日、京都大学百周年時計台記念館（京都府・京都市）
78. 新莊聡子、溝谷優治、田代悦、井本正哉、小分子化合物が誘導する UPR 関連遺伝子発現挙動の解析、日本ケミカルバイオロジー学会第7回年会、2012年6月8日、京都大学百周年時計台記念館（京都府・京都市）
79. 金崎周平、笹澤有紀子、田代悦、野川俊彦、室井誠、近藤恭光、長田裕之、井本正哉、Xanthohumol の autophagy 制御機構解析、日本農芸化学会 2012 年度大会、2012 年 3 月 23 日、京都女子大学（京都府・京都市）
80. Satoko Shinjo, Yuji Mizotani, Etsu Tashiro, Masaya Imoto, Classification of the UPR-inducing Compounds Based on UPR Target Gene Expression Profiles、第6回日韓合同シンポジウム、2012年1月27日、定山溪温泉ホテル花もみじ（北海道・札幌市）
81. ukiko Sasazawa, Shuhei Kanagaki, Etsu Tashiro, Toshihiko Nozawa, Makoto Muroi, Yasumitsu Kondoh, Hiroyuki Osada, Masaya Imoto、第6回日韓合同シンポジウム、2012年1月27日、定山溪温泉ホテル花もみじ（北海道・札幌市）
82. Masaki Kiga, Fumie Tanzawa, Shiho Iwasaki, Fumi Inaba, Kosaku Fujiwara, Hayato Iwadare Tomoki Echigo, Yuji Nakamura, Tomoyuki Shibata, Kanae Suzuki, Isao Yasumatsu, Ayako Nakayama, Yukiko Sasazawa, Etsu Tashiro, Masaya Imoto, Shinichi Kurakata, Studies on the signaling pathway for cancer cell migration based on chemical genomic approach、AACR-NCI-International Conference、2011年11月14日、サンフランシスコ（米国）
83. Shigeyuki Magi, Etsu Tashiro, Masaya Imoto、Studies on the signaling pathway for cancer cell migration based on chemical genomic approach、AACR-NCI-International Conference、2011年11月15日、サンフランシスコ（米国）
84. 間木重行、田代悦、井本正哉、ケミカルシステムバイオロジーを用いた個別がん細胞の遊走制御機構解析、第70回日本癌学会学術総会、2011年10月4日、名古屋国際会議場（愛知県・名古屋市）
85. 木我真基、中山綾子、笹澤有紀子、田代悦、岩垂勇人、井本正哉、新規 MEK 1/2 阻害剤 SMK-1 7 による抗腫瘍活性、新規 MEK 1/2 阻害剤 SMK-1 7 による抗腫瘍活性、第70回日本癌学会学術総会、2011年10月3日、名古屋国際会議場（愛知県・名古屋市）
86. 中山諒二、秋田貴博、小林大貴、田代悦、井本正哉、CysLT1 シグナルにおける EGF 依存的 Rac1 活性化機構の解析、第84回日本生化学会大会、2011年9月24日、国立京都国際会館（京都府・京都市）
87. Masaya Imoto、Metabolomic identification of the target of the filopodia protrusion inhibitor glucopiericidin A、International Union of Microbiological Societies 2011 Congress、2011年9月7日、札幌コンベンションセンター（北海道・札幌市）
88. Kuhta Yamamoto, Etsu Tashiro, Masaya Imoto、QUINOTRIERIXIN INHIBITED ENDOPLASMIC RETICULUM STRESS-INDUCED X-BOX BINDING PROTEIN 1 MRNA SPLICING THROUGH INHIBITION OF PROTEIN SYNTHESIS、5TH International Congress on Stress Responses in Biology and Medicine、2011年8月21~25日、ケベック（カナダ）

【松永茂樹】

1. 入江樂、高田健太郎、岡田茂、松永茂樹、「大島新曾根産カイメン由来の新規 poccillastrin 類縁体の単離と構造解析」平成 28 年度日本水産学会春季大会、2016年3月29日、東京海洋大学。（一般講演）
2. 二宮章洋、高田健太郎、岡田茂、松永茂樹、能木裕一「海洋放線菌 *Streptomyces* sp.由来の新規ペプチドの単離と構造決定」平成 28 年度日本水産学会春季大会、2016年3月29日、東京海洋大学。（一般講演）
3. Matsunaga, S., "Search for marine natural products with anticancer associated activity", 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015), Hawaii, USA, Dec. 16, 2015 (Invited Lecture).
4. Pederazzoli, M. D. A., Takada, K., Furihata, K., Okada, S., Matsunaga, S., Ise, Y., Bontemps, N., Davis, R. A., "Cell differentiation inducing metabolites from marine sponges" 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015), Hawaii, USA, Dec. 17, 2015 (Poster Presentation). (ポスター発表)
5. Matsunaga, S., "Search for marine natural products with anticancer associated activity", 46th Annual Meeting of Korean Society of Pharmacognosy, Seoul, Korea, Dec. 3, 2015 (Invited Lecture).
6. 福原和哉、高田健太郎、岡田茂、松永茂樹、「カイメン *Theonella swinhoei* 由来の新規細胞毒性ペプチド nazumazoles A-F の単離と構造決定」第 57 回天然有機化合物討論会、2015年9月10日、神奈川県民ホール。（一般講演）
7. Matsunaga, S., "Search for marine natural products with anticancer associated activity", International Seminar and Workshop on Marine Natural Products, Burapha University, Thailand, Sep. 15, 2015 (Invited Lecture).
8. 福原和哉、高田健太郎、岡田茂、松永茂樹、「カイメン *Theonella swinhoei* 由来の新規細胞毒性ペプチド nazumazoles A-F の単離と構造決定」平成 27 年度日本水産学会春季大会、2015年3月30日、東京海洋大学。（一般講演）
9. 人羅勇気、高田健太郎、松永茂樹、「HeLa/Fucci2 細胞を用いたカイメン由来細胞周期停止誘導性物質の探索」平成 27 年度日本水産学会春季大会、2015年3月30日、東京海洋大学。（一般講演）
10. Sun Yi, 高田健太郎、岡田茂、松永茂樹、能木裕一、「深海底泥から分離された放線菌由来の酵素阻害物質」平成 27 年度日本水産学会春季大会、2015年3月30日、東京海洋大学。（一般講演）
11. Victoria Peddie, 高田健太郎、岡田茂、松永茂樹、「カイメン *Stelletta* sp.由来の新規細胞毒性物質の単離と構造決定」平成 27 年度日本水産学会春季大会、2015年3月30日、東京海洋大学。（一般講演）
12. Takada, K., Imae, Y., Takanashi, E., Matsunaga, S., "Structure elucidation of sponge metabolites with anti-tumor associated activities", 4th Junior International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia, Bangkok, Thailand, Nov. 29, 2014. (Invited Lecture)
13. 松永茂樹、「海洋生物由来の生物活性物質：探索・単離・構造決定」第 49 回天然物化学談話会、2014年7月4日、せとうち児島ホテル。（招待講演）
14. 福原和哉、高田健太郎、岡田茂、松永茂樹、「カイメン *Theonella swinhoei* 由来の新規ペプチドの単離と構造決定」平成 26 年度日本水産学会春季大会、2014年3月28日、北海道大学。（一般講演）
15. Daniel Pedrazzoli, 高田健太郎、岡田茂、松永茂樹、「Cell differentiation inducers isolated from a marine sponge」平成 26 年度日本水産学会春季大会、2014年3月28日、北海道大学。（一般講演）
16. 二宮章洋、高田健太郎、勝山陽平、大西康夫、岡田茂、松永茂樹、能木裕一、「*Streptomyces* 属放線菌が生産する surugamide 類の合成と機能に関する研究」平成 26 年度日本水産学会春季大会、2014年3月28日、北海道大学。（一般講演）
17. 人羅勇気、高田健太郎、松永茂樹、「カイメン由来細胞毒性アセチレン化合物 miyakosyne A の遠隔位不斉中心の絶対配置の決定」平成 26 年度日本水産学会春季大会、2014年3月28日、北海道大学。（一般講演）
18. 高田健太郎、今榮康文、伊勢優史、岡田茂、松永茂樹、大塚攻、伊藤昭博、吉田稔、「屋久新曾根産カイメン *Theonella* sp.由来の新規 HDAC1 阻害化合物の単離と構造決定」平成 26 年度日本水産学会春季大会、2014年3月28日、北海道大学。（一般講演）
19. Matsunaga, S., "Lower homologues of alhpatinin and pepstatin, aspartic protease inhibitors, from a marine *Streptomyces* sp." Gordon Conference on Marine Natural Products, Ventura, USA, Mar. 3, 2014. (ポスター発表)
20. 今榮康文、高田健太郎、岡田茂、大塚攻、伊勢優史、伊藤昭博、吉田稔、松永茂樹、「屋久新曾根産カイメン *Theonella* sp.由来の新

規 HDAC1 阻害化合物の単離と構造決定」第 55 回天然有機化合物討論会, 2013 年 9 月 19 日, 同志社大学. (一般講演)

21. Matsunaga, S., "Marine Natural Products with Anti-cancer Related Activities", 13th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and Other Bioactive Compounds, Yamanashi, Japan, Sep. 27, 2013. (Invited Lecture)
22. Matsunaga, S., Takada, K., Hitora, Y., Ninomiya, A., Imae, Y., Sun, Y., Takanashi, E., "Marine Natural Products with Anti-cancer Related Activities", 14th International Symposium on Marine Natural Products, Sep. 19, 2013, Galicia, Spain.(Invited Lecture)
23. 鈴木真志, 高田健太郎, 岡田茂, 松永茂樹, 八代田陽子, 吉田稔, 横瀬久芳, 「遺伝子組換え酵母を用いた小臥蛇島産カイメンからの新規ステロイド配糖体の単離および構造決定」平成 25 年度日本水産学会春季大会, 2013 年 3 月 27 日, 東京海洋大学.(一般講演)
24. 今榮康文, 高田健太郎, 岡田茂, 松永茂樹, 伊勢優史, 吉村浩, 森井康宏「カイメン *Stelletta* sp.由来の ciliatamide D の構造決定および ciliatamide A の絶対配置の精査」平成 25 年度日本水産学会春季大会, 2013 年 3 月 27 日, 東京海洋大学. (一般講演)
25. 高梨笑未, 高田健太郎, 岡田茂, 松永茂樹, 「未同定種カイメン由来の薬剤耐性がん細胞に対する生育阻害物質の構造」平成 25 年度日本水産学会春季大会, 2013 年 3 月 27 日, 東京海洋大学. (一般講演)
26. 二宮章洋, 高田健太郎, 岡田茂, 松永茂樹, 能木裕一, 「海洋放線菌 *Streptomyces* sp.由来の新規ペプチドの単離と構造決定」平成 25 年度日本水産学会春季大会, 2013 年 3 月 27 日, 東京海洋大学. (一般講演)
27. Matsunaga, S., "Marine Natural Products with Anti-cancer Related Activities", The 7th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia", Nanyang Technological University, Singapore, Dec. 12, 2012.(Invited Lecture)
28. 人羅勇気, 高田健太郎, 岡田茂, 松永茂樹, 「宮古曾根産カイメン *Petrosia* sp.由来の分岐メチルアセチレン化合物」平成 24 年度日本水産学会春季大会, 2012 年 3 月 27 日, 東京海洋大学. (一般講演)
29. 高田健太郎, 松永茂樹, 「Corticic acid 類の化学構造に関する研究」平成 24 年度日本水産学会春季大会, 2012 年 3 月 27 日, 東京海洋大学.
30. 高梨笑未, 高田健太郎, 岡田茂, 松永茂樹, 「屋久新曾根産未同定種カイメン由来の薬剤耐性がん細胞に対する細胞毒性物質」平成 24 年度日本水産学会春季大会, 2012 年 3 月 27 日, 東京海洋大学. (一般講演)
31. 鈴木真志, 上岡麗子, 高田健太郎, 岡田茂, 松永茂樹, 大塚攻, 伊勢優史, 「ナガノ島産カイメン *Epipolosis* sp.からの spirastrellolide A,B の単離および生理活性評価」平成 24 年度日本水産学会春季大会, 2012 年 3 月 27 日, 東京海洋大学. (一般講演)
32. 今榮康文, 高田健太郎, 岡田茂, 松永茂樹, 伊勢優史, 「大島新曾根産カイメン *Stelletta* sp.由来の新規ペプチドの単離と構造決定」平成 24 年度日本水産学会春季大会, 2012 年 3 月 27 日, 東京海洋大学. (一般講演)

【石橋正己】

1. M. A. Arai, "Search for neural stem cell activators based on natural products", Asian Chemical Biology Initiative 2016 Jakarta Meeting, January 30, 2016, Jakarta
2. M. Ishibashi, "Natural products-based screening study on disease and development pathways", Pacificchem 2015; December 17, 2015, Honolulu, U.S.A.
3. 石橋正己, "シグナル伝達調節作用をもつテルペノイド成分の探索", 第 59 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会, 2015 年 9 月 5 日, 大阪
4. 荒井緑, "神経幹細胞分化活性化を目指した天然基盤分子の探索", 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー〜分子標的と活性制御〜」地区ミニシンポジウム・仙台「ケミカルバイオロジーにおける天然物」, 2015 年 6 月 30 日, 仙台
5. 石橋正己, "ウイントシグナル阻害作用をもつ天然物のスクリーニング", 天然有機化合物の生合成研究—新潟ミニシンポジウム—, 2015 年 5 月 22 日, 新潟
6. 石橋正己, "疾患シグナルに作用する天然物スクリーニング研究", 日本農芸化学会 2015 年度大会シンポジウム, 2015 年 3 月 29 日, 岡山
7. 荒井緑, "bHLH 転写因子に影響する天然基盤神経幹細胞分化活性化小分子の創製", 東京生化学研究会助成研究報告会, 2015 年 3 月 6 日, 東京
8. M. Ishibashi, "Natural product screening studies on disease and development signaling pathways", The Society for Laboratory Automation and Screening 2015 annual conference; February 7-11, 2015, Washington, DC, U.S.A.
9. 荒井緑, "天然物基盤分子による幹細胞およびがん細胞の制御をめざして", 有機合成のニュートレンド 2015, 2015 年 2 月 3 日, 大阪
10. K. Toume, "Search for bioactive natural products that affect on WNT signaling pathway", 2014 Joint Symposium of the Natural Products Research Institute at Seoul National University and the Institute of Natural Medicine at University of Toyama, December 10, 2014, Seoul, Korea
11. M. A. Arai, Asian Chemical Biology Initiative (ACBI) 2014 Hangzhou Meeting, November 22-26, 2014, Hangzhou, China
12. M. Ishibashi, "Natural products screening studies targeting Wnt, Hedgehog, and TRAIL signaling pathways", The 14th International Symposium on Traditional Medicine in Toyama; October 27, 2014, Toyama
13. M. Ishibashi, "Natural products screening studies on Wnt and Hedgehog signaling pathways", The 28th International Symposium on the Chemistry of Natural Products and the 8th International Conference on Biodiversity (ISCP-28 & ICB-8); October 20-24, 2014, Shanghai
14. M. A. Arai, "Hes1 inhibitors from natural products", Sino-Japan Workshop on Chemical Biology, October 10-13, 2014, Beijing, China
15. 當銘一文, "シグナル伝達に作用する生物活性天然物の探索研究", 日本生薬学会(学術奨励賞受賞講演)第 61 年会, 2014 年 9 月 14 日, 福岡
16. 石橋正己, "バングラデシュ天然薬物資源調査", 第 4 回天然物パワーシンポジウム〜海外学術調査と天然物化学, 2014 年 7 月 19 日, 東京大学弥生講堂
17. 荒井緑, "天然物を基軸とするシグナル伝達モジュレーター探索と創製", 第 19 回日本女性科学者の会奨励賞受賞記念講演会, 2014 年 6 月 22 日, 東京
18. 當銘一文, "メラニン生成に関わるウイントシグナルを制御する天然物の探索", 第 159 回フレグランスジャーナルセミナー, 2014 年 6 月 20 日, 東京
19. 荒井緑, "天然物を基盤とした神経幹細胞分化活性化剤の探索と創成", 新規素材探索研究会第 13 回セミナー, 2014 年 6 月 6 日, 横浜
20. 當銘一文, "ウイントシグナルに作用する生物活性天然物の探索", 第 5 回ケミカルバイオロジー若手研究者ワークショップ, 2014 年 5 月 29 日, 名古屋
21. 荒井緑, "bHLH 転写因子に作用する神経幹細胞分化活性化剤の探索と創成", 日本薬学会第 134 年会シンポジウム, 2014 年 3 月 28 日, 熊本
22. M. A. Arai, "Search for Neural Stem Cells Activators targeting based on Natural Products", Asian Chemical Biology Initiative 2014 Manila Meeting, January 25, 2014, Manila
23. M. Ishibashi, "Bioactive Heterocyclic Natural Products from Actinomycetes Collected in Chiba Area Isolated in Screening Programs Targeting

Signaling Pathways"13th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and other bioactive compounds; September 25, 2013, Kawaguchiko

24. 石橋正己, 「自然のなかにくすりをさがす」, 柏の葉千葉学講座, 2013年7月21日, さわやかちば県民プラザ, 千葉県柏市(一般向けアウトリーチ活動, 公開講座)
25. M. A. Arai, "Search for neural stem cells activators and cancer cells signaling inhibitors based on natural products", 天然物ケミカルバイオロジー〜分子標的と活性制御〜地区ミニシンポジウム(慶應大), 2013年3月21日, 慶應義塾大学
26. 荒井緑, "天然物を基盤とした神経幹細胞活性化小分子の創製へ向けて", 第1回キラリティーネットワーク研究会講演会, 2013年3月5日, 千葉大学
27. M. A. Arai, "Search for cancer cells signaling inhibitors and neural stem cells activators based on natural products", Asian Chemical Biology Initiative 2013 Bangkok Meeting, January 27, 2013 Bangkok
28. 荒井緑, "天然物を基盤とした神経幹細胞活性化小分子の創製へ向けて", 第16回機能性分子シンポジウム, 2013年1月12日, 筑波大学
29. 石橋正己, "微生物由来天然物をはじめとするシグナル伝達作用物質の探索に関する研究"平成24年度住木・梅澤記念賞受賞講演会, 2012年11月8日, 学芸会館
30. 荒井緑, "bHLH転写因子に影響する天然由来の神経幹細胞分化活性化小分子", 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御」第2回若手研究者ワークショップ, 2012年10月30日, 大阪
31. 石橋正己, "変形菌成分に学ぶ"日本薬学会第132年会シンポジウム第3回天然物パワーシンポジウム〜自然に学ぶ, 2012年3月31日, 北海道大学
32. M. Ishibashi, "Search for bioactive small molecules with Hh signal inhibitory activity from natural resources" Hedgehog 2012; March 21, 2012, Singapore
33. M. A. Arai, "Search for cancer cells signaling inhibitors and neural stem cells activators based on natural products", Asian Chemical Biology Initiative 2012 Hanoi Meeting, February 25, 2012, Hanoi
34. 石橋正己, "ウイントシグナルに作用する天然物の探索", A-STEP探索タイプ新技術説明会, 2012年2月10日, 東京
35. 石橋正己, 「天然物と千葉」, 千葉市科学フェスタ2011千葉大学薬学部公開講演会「薬用植物の世界」, 2011年11月6日, 千葉(一般向けアウトリーチ活動, 公開講座)
36. 當銘一文, 荒井緑, 石橋正己, "ウイントシグナルを制御する天然物の探索", 日本生薬学会第58年会, 2011年9月24日, 東京

【渡邊秀典】

1. 小西俊介, 渡邊秀典「タイワンハッカより見出された新規のテルペン及びその関連化合物の合成による構造確認」第54回天然有機化合物討論会、2012年9月20日、東京農業大学(東京)
2. 堀之内妙子, 渡邊秀典「GAFの全合成研究」第56回香料・テルペン及び製油化学に関する討論会 2012年10月27日、鹿児島大学(鹿児島)
3. 深津裕一, 小佐野雄太, 森川幸則, 渡邊秀典「ヨトウガの幼虫に対して摂食阻害活性を示す Penifulvin A の合成研究」第56回香料・テルペン及び製油化学に関する討論会、2012年10月27日、鹿児島大学(鹿児島)
4. Hidenori Watanabe, Yuichi Fukatsu and Tetsuji Murase, "Synthetic Studies on Structurally Unique Natural Products" in The 7th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia, 2012年12月12日, シンガポール南洋工科大学(シンガポール)
5. 渡邊秀典, 「天然物合成の楽しみ・苦しみ・喜び」、日本薬学会 第38回反応と合成の進歩シンポジウム、2012年11月6日、タワーホール船堀(東京)。
6. 服部弘, 石田恭次, 渡邊秀典「Plumisclerin A の合成研究」日本農芸化学会2013年度大会、2013年3月25日、東北大学(仙台)
7. 深津裕一, 小佐野雄太, 森川幸則, 渡邊秀典「ペニフルビン A の全合成」日本農芸化学会2013年度大会、2013年3月25日、東北大学(仙台)
8. 若森晋之介, 渡邊秀典「リアノダン類ジテルペンの合成研究」日本農芸化学会2013年度大会、2013年3月25日、東北大学(仙台)
9. 堀之内妙子, 渡邊秀典「O-ビニルヒドロキサム酸構造を有するGAFの全合成研究」日本農芸化学会2013年度大会、2013年3月25日、東北大学(仙台)
10. 柿本望, 渡邊秀典「Clavigerin B の合成研究—Claisen 転移を用いたビスクロ[3.1.1]ヘプテン骨格の構築」日本農芸化学会2013年度大会、2013年3月26日、東北大学(仙台)
11. 渡邊秀典, 「ケミカルバイオロジーへの有機合成化学からのアプローチ」、日本農芸化学会 2013 年度大会シンポジウム「超活性天然物とケミカルバイオロジーへの応用」、2013年3月27日、東北大学(仙台)
12. 渡邊秀典, 「アプローチを楽しみながらの天然物合成」、平成25年度有機合成化学講演会「合成有機化学のフロンティア」(有機合成化学協会九州山口支部主催)、2013年5月31日、九州大学(福岡)
13. S. Wakamori, H. Watanabe, "Synthetic Study on Ryanodane Diterpenes", in 13th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and other bioactive compounds, 2013年9月16日, 富士ビューホテル(山梨県)
14. N. Kakimoto, H. Watanabe, "Synthetic Study of Clavigerin B Utilizing Ireland Claisen Rearrangement", in 13th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and other bioactive compounds, 2013年9月16日, 富士ビューホテル(山梨県)
15. 柿本望, 渡邊秀典「昆虫摂食阻害活性を示す Clavigerin 類の合成研究」第57回香料・テルペン及び製油化学に関する討論会、2013年10月5日、埼玉大学(埼玉)
16. 土井悠之介, 坂口和彦, 石神健, 渡邊秀典「抗菌活性を有する Majusculoic acid の合成研究」第57回香料・テルペン及び製油化学に関する討論会、2013年10月5日、埼玉大学(埼玉)
17. 若森晋之介, 渡邊秀典「殺虫活性を有するリアノダンジテルペンの合成研究」第57回香料・テルペン及び製油化学に関する討論会、2013年10月5日、埼玉大学(埼玉)
18. 小西俊介, 三谷由樹, 田村清家, 渡邊秀典「(+)-Exiguamide の全合成」第57回香料・テルペン及び製油化学に関する討論会、2013年10月5日、埼玉大学(埼玉)
19. 服部弘, 石田恭次, 石神健, 渡邊秀典「Plumisclerin A の四員環架橋構造の構築」第57回香料・テルペン及び製油化学に関する討論会、2013年10月5日、埼玉大学(埼玉)
20. H. Watanabe, S. Konishi, H. Kageji, "Synthesis of Exiguamide and Litseaone A" in The 8th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia (The 4th New Phase International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia), 2013年11月27日, 大阪国際会議場(大阪)
21. N. Mori, H. Watanabe, "Formal Asymmetric Synthesis of Azadirachtin" in The 8th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia (The 4th New Phase International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia), 2013年11月27日, 大阪国際会議場(大

阪).

22. 佐古尚裕、渡邊秀典「(+)-4'-deacetyl-griseusin A の合成研究」日本農芸化学会 2014 年度大会、2014 年 3 月 29 日、明治大学生田キャンパス (川崎市)
23. 深津裕一、渡邊秀典「Penifulvin A の両鏡像体の全合成」日本農芸化学会 2014 年度大会、2014 年 3 月 29 日、明治大学生田キャンパス (川崎市)
24. 影治秀晃、石神健、渡邊秀典「Litseaone A の合成と構造改訂」日本農芸化学会 2014 年度大会、2014 年 3 月 29 日、明治大学生田キャンパス (川崎市)
25. 土井悠之介、坂口和彦、石神健、渡邊秀典「三員環を有する生物活性物質の合成研究」日本農芸化学会 2014 年度大会、2014 年 3 月 29 日 明治大学生田キャンパス (川崎市)
26. 山本将起、石神健、渡邊秀典「立体化学の決定を目的とした Glabramycin B の合成研究」日本農芸化学会 2014 年度大会、2014 年 3 月 29 日、明治大学生田キャンパス (川崎市)
27. 間瀬千晶、森直紀、渡邊秀典「Pseudolaric acid B の 5-7 トランス縮環骨格の構築」日本農芸化学会 2014 年度大会、2014 年 3 月 29 日、明治大学生田キャンパス (川崎市)
28. 森直紀、渡邊秀典「昆虫摂食阻害物質アザジラクチンの形式全合成」日本農芸化学会 2014 年度大会、2014 年 3 月 29 日、明治大学生田キャンパス (川崎市)
29. 渡邊秀典、「アザジラクチン合成への遠い道のり」、関西学院大学理工学部学術講演会、2014 年 9 月 11 日、関西学院大学理工学部(兵庫県三田市)
30. 森直紀、伊藤大輔、北原武、森謙治、渡邊秀典「アザジラクチンの形式不斉合成」第 56 回天然有機化合物討論会、2014 年 10 月 16 日、高知県立県民文化ホール (高知県)
31. 渡邊秀典、「多様な構造の天然物への多様な合成アプローチ」、平成 26 年度天然物化学セミナー特別講演会、2015 年 1 月 8 日、筑波大学 (つくば市)
32. 柿本望、渡邊秀典「昆虫摂食阻害活性を有する Clavigerin 類の全合成」日本農芸化学会 2015 年度大会、2015 年 3 月 28 日、岡山大学 (岡山)
33. 影治秀晃、渡邊秀典「Litseaone A の不斉全合成」日本農芸化学会 2015 年度大会、2015 年 3 月 28 日、岡山大学 (岡山)
34. 野上恭平、石神健、渡邊秀典「ペペリジンアルカロイド Microgrewiapiin A の合成研究」日本農芸化学会 2015 年度大会、2015 年 3 月 28 日、岡山大学 (岡山)
35. Nozomu Kakimoto, Ken Ishigami, Hidenori Watanabe, "Total Synthesis of (+)-Clavigerin B" in The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry, 2015 年 11 月 10 日,リーガロイヤルホテル京都 (京都) .
36. Masaaki Yamamoto, Ken Ishigami, Hidenori Watanabe, "Total Synthesis of Glabramycin B" in The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry, 2015 年 11 月 12 日,リーガロイヤルホテル京都 (京都) .
37. 久保 伸一郎、渡邊 秀典「抗マラリア活性を有する Myristicyclin 類の合成研究」日本農芸化学会 2015 年度大会、2015 年 3 月 29 日、札幌コンベンションセンター (札幌市)
38. 山本 将起、石神 健、渡邊 秀典「Glabramycin B の合成と構造訂正」日本農芸化学会 2015 年度大会、2015 年 3 月 29 日、札幌コンベンションセンター (札幌市)
39. 小林 宗隆、小西 俊介、渡邊 秀典「Dichrocephone 類の合成研究」日本農芸化学会 2015 年度大会、2015 年 3 月 30 日、札幌コンベンションセンター (札幌市)
40. 柿本 望、石神 健、渡邊 秀典「クラビゲリン類の両鏡像体の合成」日本農芸化学会 2015 年度大会、2015 年 3 月 30 日、札幌コンベンションセンター (札幌市)

【難波康祐】

1. 難波康祐、「化学合成の限界に挑むものづくり : palau'amine の全合成」、日本化学会第 96 春季年会 特別企画「有機合成化学を起点とするものづくり戦略」、2016 年 3 月 24 日、同志社大学 (京田辺市)
2. 難波康祐、「Palau'amine の全合成」、日本薬学会第 136 年会、シンポジウム「天然物ケミカルバイオロジー」、2016 年 3 月 29 日、パシフィコ横浜 (横浜市)
3. 難波康祐、「Palau'amine の全合成」、有機合成化学協会東海支部 総合講演会、2015 年 12 月 12 日、名古屋大学 (名古屋市)
4. 難波康祐、「有機合成を基盤とした新規機能性分子の合成研究」、徳島大学大学院医歯薬学研究所 第 12 回 公開シンポジウム、2015 年 11 月 5 日、徳島大学 (徳島市)
5. 難波康祐、「Palau'amine の全合成～なぜ複雑な天然物を作るのか?～」、プロセス化学東四国フォーラムセミナー、2015 年 10 月 3 日、徳島文理大学 (徳島市)
6. 難波康祐、「生物活性天然物の実践的合成研究」、愛媛大学大学院特別講演会、2015 年 9 月 28 日、愛媛大学 (松山市)
7. 難波康祐、「Palau'amine の全合成」、アスピオファーマ株式会社講演会、2015 年 7 月 6 日
8. 難波康祐「イネ科植物の鉄イオン取り込み機構に関する有機化学的研究」、難波康祐 日本農芸化学会 2015 年度大会、2015 年 3 月 29 日、岡山大学 (岡山市)
9. Kosuke Namba 「Organic Chemistry Research on Iron Acquisition in Gramineous Plants」, Osaka City University International Conference, 2015 年 3 月 9 日、大阪市立大学理学部 (大阪市)
10. 難波康祐「機能解明および実用化を指向した天然有機化合物の実践的合成研究」、慶応義塾大学理工学部講演会、2014 年 12 月、慶応義塾大学理工学部 (横浜市)
11. 難波康祐「機能解明や実用化を指向した微量天然有機化合物の実践的合成研究」、関西学院大学理工学部講演会、2014 年 11 月、関西学院大学理工学部 (三田市)
12. 難波康祐「ムギネ酸およびパラウアミンの合成研究～有機合成の実力向上を目指して～」有機合成化学協会中四国支部第 71 回パネル討論会：天然物合成を通して見る「有機合成の実力」、2014 年 11 月 21 日、愛媛大学工学部 (松山市)
13. 難波康祐「複雑な天然有機化合物の実践的合成研究」、熊本大学大学院特別講義、2014 年 11 月 18 日、熊本大学理学部 (熊本市)
14. K. Namba, 「Organic Chemistry Research on Iron Acquisition in Gramineous Plants」, *The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products*, 2014.10.28. Life Science Center (Osaka), Japan
15. 難波康祐「生物活性天然物の機能解明を指向した実践的合成研究」、武田薬品工業 CMC 研究センター、2014 年 9 月 16 日、武田薬品工業 (大阪市)
16. Kosuke Namba 「Organic Chemistry Research on Iron Acquisition in Gramineous Plants」*Asubio Pharmaceuticals, Inc.*, 2014 年 9 月 1 日、アスピオファーマ (神戸市)

17. 難波康祐「生物活性天然有機化合物の機能解明及び実用化を指向した実践的合成研究」、住友化学株式会社 健康・農業関連事業研究所、2014年6月13日、住友化学(宝塚市)
18. 難波康祐「イネ科植物の鉄イオン取り込み機構に関する有機化学的研究」、理研シンポジウム-有機合成化学を起点とするものづくり戦略、2014年6月9日、理化学研究所(和光市)
19. 難波康祐、「実践的合成研究を基盤とした新規土壌改良素材をよび蛍光素材の開発」、新規素材探索研究会第13回セミナー、2014年6月6日、新横浜フジビューホテル(横浜市)
20. 難波康祐、「作用機序解明を指向した palau'amine の全合成研究」、日本化学会第94春季年会特別企画「有機合成化学を起点とするものづくり戦略」、2014年3月26日、慶応大学日吉キャンパス(横浜市)
21. 難波康祐、「生体機能制御分子の創製へと繋ぐ実践的有機合成化学研究」岡山大学異分野融合研究支援事業「有機合成を基盤とした生体機能制御分子の創製」、2013年11月22日、岡山大学(岡山市)
22. 難波康祐、「イネ科植物の鉄イオン取り込み機構に学ぶものづくり戦略」、第3回CSJ化学フェスタ2013、ナノ機能への挑戦-材料、素子、バイオ、そして未来、2013年10月21日、タワーホール船堀(東京都江戸川区)
23. 難波康祐、「生物活性天然有機化合物の機能解明および実用化を指向した実践的合成研究」第29回若手化学者のための化学道場、2013年8月31日、KKRホテル(広島市)
24. 難波康祐、「実践的合成研究を基盤としたイネ科植物の鉄イオン取り込み機構に関する研究」、有機合成化学講習会、2013年6月19日、日本薬学会・長井記念ホール(東京都渋谷区)
25. 難波康祐、「蛍光型クリック反応の開発とその革新的蛍光特性」、大阪市立大学有機化学セミナー、2013年3月9日、大阪市立大学(大阪市)
26. 難波康祐、「生物活性天然有機化合物の機能解明及び実用化を指向した実践的合成研究」、徳島大学薬学部講演会、2013年2月18日、徳島大学(徳島市)
27. Kosuke Namba, "Organic Chemistry Research on Iron Acquisition in Gramineous Plants" 17th Malaysian Chemical Congress 2012 (17MCC), Kuala Lumpur, Malaysia (Oct. 2012).
28. Kosuke Namba, "Direct Synthesis of 1,3a,6a-Triazapentalene Derivatives and Their Interesting Fluorescent Properties" Cambodian Malaysian Chemical Conference (CMCC), Siem Reap, Cambodia (Oct. 2012).
29. 難波康祐、「植物鉄輸送体のケミカルバイオロジー」、日本化学会第92春季年会 特別企画「ケミカルバイオロジー」、2012年3月、横浜

【市川聡】

1. 笠井由起子、佐藤浩輔、市川聡、芳香族求核置換反応を利用した DNA メチル化酵素阻害剤の創製研究、日本薬学会第136年会(口頭発表)、2016年3月29日、パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市)
2. 内海翔平、佐藤浩輔、市川聡、エビジェネティック制御を指向した非環式 C-ヌクレオシドの合成と性質、日本薬学会第136年会(口頭発表)、2016年3月29日、パシフィコ横浜(神奈川県・横浜市)
3. Nakaya, T.; Matsuda, A.; Ichikawa, S. Design and synthesis of simplified caprazamycin analogs. PACIFICHEM, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Poster Presentation), 15th Dec. 2015, Honolulu (Hawaii, USA).
4. Yamaguchi, M.; Ichikawa, S.; Matsuda, A. Design and synthesis of conformationally restricted caprazamycin analogs as antibacterial agents. PACIFICHEM, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Poster Presentation), 15th Dec. 2015, Honolulu (Hawaii, USA).
5. Katsuyama, A.; Matsuda, A.; Ichikawa, S. Synthetic study of plusbacin A₃ PACIFICHEM, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Poster Presentation), 15th Dec. 2015, Honolulu (Hawaii, USA).
6. Chiba, T.; Matsuda, A.; Ichikawa, S. Improvement of biological activities of syringolin A PACIFICHEM, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Poster Presentation), 15th Dec. 2015, Honolulu (Hawaii, USA).
7. 北畑舜、千葉拓也、市川聡、syrbactin 類を基盤とした新規プロテアソーム阻害剤の開発研究、第33回 メディシナルケミストリーシンポジウム(口頭発表&ポスター発表) 2015年11月26日、幕張国際研修センター(千葉県・幕張市)
8. Katsuyama, A.; Matsuda, A.; Ichikawa, S. Synthetic study of plusbacin A₃ 第52回ペプチド討論会、口頭発表、2015年11月16日、中央公民館(神奈川県・平塚市)
9. Nakaya, T.; Matsuda, A.; Ichikawa, S. Design, synthesis and biological evaluation of 5'-C-piperidinyl-5'-aminoribosyluridines as potential antibacterial agents. The 42nd International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2015 (Oral Presentation), 23rd Sep. 2015, イーグレ姫路(兵庫県・姫路市)
10. 北畑舜、千葉拓也、市川聡、Syringolin 類の合成と構造活性相関研究、第57回 天然物有機化学討論会(ポスター発表)、2015年9月10日、神奈川県民ホール(神奈川県・横浜市)
11. 勝山彬、松田彰、市川聡、Plusbacin A₃ の全合成研究、第27回万有札幌シンポジウム(ポスター発表、ベストポスター賞)、2015年7月4日、北海道大学(北海道・札幌市)
12. 山口蘭美、松田彰、市川聡、新規抗菌剤開発を指向したリボヌクレオシド系抗菌抗生物質の単純化研究、第13回 次世代を担う有機化学シンポジウム(口頭発表)、2015年5月22日、立命館大学(滋賀県・草津市)
13. 北畑舜、松田彰、市川聡、Syringolin 類の合成と生物活性、日本薬学会北海道支部第142例会(口頭発表、優秀発表賞)、2015年5月16日、札幌コンベンションセンター(北海道・札幌市)
14. 勝山彬、松田彰、市川聡、Plusbacin A₃ の全合成研究、日本薬学会第135年会(口頭発表)、2015年3月28日、神戸学院大学(兵庫県・神戸市)
15. 北畑舜、松田彰、市川聡、Syringolin 誘導体の合成、日本薬学会第135年会(口頭発表、優秀発表賞)、2015年3月28日、神戸学院大学(兵庫県・神戸市)
16. 砂留拓矢、新城恵子、市川聡、近藤豊、周東智、松田彰、ネプラノシン A 誘導体によるエビジェネティックコントロール、第32回メディシナルケミストリーシンポジウム(ポスター発表)、2014年11月27日、神戸国際会議場(兵庫県・神戸市)
17. 山口蘭美、松田彰、市川聡、新規抗菌剤開発を指向した isoxazolidinyl uridine 誘導体の設計と合成、第32回メディシナルケミストリーシンポジウム(ポスター発表)、2014年11月27日、神戸国際会議場(兵庫県・神戸市)
18. 千葉拓也、市川聡、松田彰、抗腫瘍活性増強を目指したプロテアソーム阻害剤シリノゴリン A の分子変換、第40回反応と合成の進歩シンポジウム(口頭発表)、2014年11月10日、東北大学(宮城県・仙台市)
19. 勝山彬、松田彰、市川聡、Jollié-Ugi 反応を用いた plusbacin A₃ の合成研究、第56回天然有機化合物討論会(ポスター発表)、2014年10月15日、高知県立県民文化ホール(高知県・高知市)

20. 山田早、松田彰、市川聡、ラクタム縮環型イソキサゾリジン誘導体の合成、第4回複素環化学討論会（ポスター発表）、2014年9月11日、札幌市民ホール（北海道・札幌市）
21. Yamaguchi, M.; Matsuda, A.; Ichikawa, S. Design and Synthesis of Isoxazolidine-containing Uridine Derivatives as Antibacterial Agents. ACS 248th National Meeting (Poster Presentation), 14th Aug. 2014, San Francisco (USA).
22. Nakaya, T.; Ichikawa, S.; Matsuda, A. Synthesis of piperidine analogues of caprazamycins by aza-Prins-Ritter reaction. ACS 248th National Meeting (Poster Presentation), 14th Aug. 2014, San Francisco (USA).
23. Chiba, T.; Ichikawa, S.; Matsuda, A. Total Synthesis of Syringolin A and Its Structure-activity Relationship Study. ACS 248th National Meeting (Poster Presentation), 14th Aug. 2014, San Francisco (USA).
24. 仲谷岳志、市川聡、松田彰、Scaffold hoppingによる新規 caprazamycin 誘導体の合成研究、第26回万有札幌シンポジウム（ポスター発表）、2014年7月5日、北海道大学（北海道・札幌市）
25. 勝山彬、松田彰、市川聡、Plusbacin A₃の合成研究、日本薬学会北海道支部第141例会（口頭発表、優秀発表賞）、2014年5月24日、札幌コンベンションセンター（北海道・札幌市）

【不破春彦】

1. 柳 翔太、野口拓真、川上雅人、佐々木 誠、不破春彦、丹羽伸介、杉本亜砂子、ネオペルトリド蛍光標識アナログの合成と機能評価、日本化学会第96春季年会、2016年3月25日、同志社大学（京都府京田辺市）
2. 坂本溪太、佐々木 誠、不破春彦、イリオモテオリド-2aの全合成研究、日本化学会第96春季年会、2016年3月24日、同志社大学（京都府京田辺市）
3. 小野寺悠、廣田一晃、佐々木 誠、不破春彦、ガンビエロール光感応基標識アナログの合成と機能評価、日本化学会第96春季年会、2016年3月24日、同志社大学（京都府京田辺市）
4. 豊島 惇、川島悠岐、不破春彦、佐々木 誠、アンフィジノリドNの全合成研究、日本化学会第96春季年会、2016年3月24日、同志社大学（京都府京田辺市）
5. H. Fuwa, Y. Okuaki, N. Yamagata, M. Sasaki, "Total Synthesis, Stereochemical Revision, and Biological Evaluation of Lyngbyaloside B, a Marine Macrolide Glycoside," PACIFICHEM 2015, 15-Dec-2015, Honolulu (USA)
6. K. Sakamoto, A. Hakamata, H. Fuwa, M. Sasaki, "Synthetic Studies on Iriomoteolide-2a," PACIFICHEM 2015, 17-Dec-2015, Honolulu (USA)
7. Y. Kawashima, H. Fuwa, M. Sasaki, "Studies toward the Total Synthesis of Amphidinolide N," PACIFICHEM 2015, 17-Dec-2015, Honolulu (USA)
8. 奥秋佑太、山縣直哉、尾形有也、不破春彦、佐々木 誠、リングピアロシドBの全合成と構造改訂、第108回有機合成シンポジウム、2015年11月6日、早稲田大学（東京都新宿区）
9. 不破春彦、複雑海洋天然物の全合成と構造改訂、平成27年度化学系学協会東北大会・有機化学コロキウム（依頼講演）、2015年9月13日、弘前大学（青森県弘前市）
10. 不破春彦、山縣直哉、奥秋佑太、尾形有也、佐々木 誠、リングピアロシドBの全合成と完全立体構造決定、第57回天然有機化合物討論会、2015年9月10日、神奈川県民ホール（神奈川県横浜市）
11. 奥秋佑太、不破春彦、佐々木 誠、リングピアロシドBの全合成と構造改訂、日本化学会第95春季年会、2015年3月26日、日本大学（千葉県船橋市）
12. 不破春彦、海洋マクロリド天然物の全合成とケミカルバイオロジー（依頼講演）、日本化学会第95春季年会、2015年3月26日、日本大学（千葉県船橋市）
13. 坂本溪太、不破春彦、佐々木 誠、オカダ酸C15-C38フラグメントの効率的合成、日本化学会第95春季年会、2015年3月29日、日本大学（千葉県船橋市）
14. H. Fuwa, "Synthetic and Structural Studies on Lyngbyaloside B, a Cytotoxic Marine Macrolide Glycoside," The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 28-Oct-2014, Osaka (Japan)
15. 佐藤みずほ、不破春彦、佐々木 誠、ネオペルトリド類縁体のHL-60細胞に対する作用解析研究、第56回天然有機化合物討論会、2014年10月15日、高知県立県民文化ホール（高知県高知市）
16. 袴田旺弘、不破春彦、佐々木 誠、イリオモテオリド-2aの全合成研究、第44回複素環化学討論会、2014年9月11日、札幌市民ホール（北海道札幌市）
17. 袴田旺弘、不破春彦、佐々木 誠、イリオモテオリド-2aの全合成研究、第25回万有仙台シンポジウム、2014年6月14日、仙台国際センター（宮城県仙台市）
18. 佐藤みずほ、不破春彦、佐々木 誠、ネオペルトリド類縁体のHL-60細胞に対する作用解析研究、日本ケミカルバイオロジー学会第9回年会、2014年6月11日、大阪大学（大阪府豊中市）
19. 不破春彦、海洋天然物イリオモテオリド-2aの全合成研究、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」第六回領域公開シンポジウム、2014年5月28日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
20. 深澤 亮、不破春彦、佐々木 誠、30-デメチルガンビエロールAの合成研究、日本化学会第94春季年会、2014年3月28日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
21. 廣田一晃、菅 悠人、此木敬一、山下まり、不破春彦、佐々木 誠、光親和性標識基を導入したガンビエロール単純化類縁体の合成と生物活性評価、日本化学会第94春季年会、2014年3月29日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
22. 川島悠岐、豊島 惇、不破春彦、佐々木 誠、アンフィジノリドNの全合成研究、日本化学会第94春季年会、2014年3月29日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
23. 袴田旺弘、不破春彦、佐々木 誠、イリオモテオリド-2aの全合成研究、日本化学会第94春季年会、2014年3月29日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
24. 奥秋佑太、不破春彦、佐々木 誠、リングピアロシドBの全合成研究、日本化学会第94春季年会、2014年3月30日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
25. 野口拓真、川上雅人、不破春彦、佐々木 誠、ネオペルトリドの構造活性相関研究：オキサゾール含有側鎖の重要性、日本化学会第94春季年会、2014年3月30日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
26. 佐藤みずほ、不破春彦、佐々木 誠、ネオペルトリド類縁体の作用解析研究、日本化学会第94春季年会、2014年3月30日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
27. 武藤崇史、関根久美子、不破春彦、佐々木 誠、ディデムナケタールBの全合成と完全立体構造決定、第104回有機合成シンポジウム、2013年11月6日、早稲田大学（東京都新宿区）
28. H. Fuwa, "Studies toward the Total Synthesis of Iriomoteolide-2a," The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 28-Oct-2013, Yokohama (Japan)
29. H. Fuwa, "Total Synthesis and Biological Evaluation of Marine Macrolide Natural Products (Invited Lecture)," International Symposium for the

70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan, 29-Sep-2013, Sendai (Japan)

30. 武藤崇史, 関根久美子, 不破春彦, 佐々木 誠, ディデムナケタール B の全合成と完全立体構造決定, 第 55 回天然有機化合物討論会, 2013 年 9 月 20 日, 同志社大学 (京都府京都市)
31. 不破春彦, 海洋天然物の効率的な全合成と高活性構造単純化類縁体の創出 (依頼講演), 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御」第四回領域公開シンポジウム, 2013 年 5 月 28 日, つくば国際会議場 (茨城県つくば市)
32. 関根久美子, 不破春彦, 佐々木 誠, ディデムナケタール B の全合成研究: 提出構造式の全合成, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 25 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
33. 市野川直輝, 不破春彦, 佐々木 誠, イリオモテオリド-2a の全合成研究, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 25 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
34. 山縣直哉, 不破春彦, 佐々木 誠, リングピアロシド B 類縁体の合成と活性評価, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 25 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
35. 川上雅人, 武藤崇史, 不破春彦, 佐々木 誠, ネオペルトリド構造類縁体の設計・合成・活性評価, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 25 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
36. 水沼佳奈, 不破春彦, 佐々木 誠, 鈴木隆哉, 久保裕司, イグジグオリド類縁体の合成と活性評価, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 25 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
37. 野口拓真, 能登健吉, 不破春彦, 佐々木 誠, タンデム反応によるテトラヒドロピラン誘導体の合成, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 23 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
38. 中島基博, 不破春彦, 佐々木 誠, ゴニオドミン A の全合成研究, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 23 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
39. 武藤崇史, 不破春彦, 佐々木 誠, オカダ酸の全合成研究, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 23 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
40. 石貝和也, 深澤 亮, 不破春彦, 佐々木 誠, 長 由扶子, 山下まり, ガンビエル酸 A および類縁体の合成と生物活性評価, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 23 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
41. 菅 悠人, 不破春彦, 佐々木 誠, 混合チオアセタールの官能基化による環状エーテル合成, 日本化学会第 93 春季年会, 2013 年 3 月 23 日, 立命館大学 (滋賀県草津市)
42. 石貝和也, 橋詰佳佑, 不破春彦, 佐々木 誠, ガンビエル酸 A の全合成, 第 102 回有機合成シンポジウム, 2012 年 11 月 8 日, 早稲田大学 (東京都新宿区)
43. H. Fuwa, "Total Synthesis and Structure-Activity Relationships of Marine Macrolides and Their Analogues," The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 31-Oct-2012, Kyoto (Japan)
44. 不破春彦, 石貝和也, 橋詰佳佑, 佐々木 誠, ガンビエル酸 A の全合成と完全立体構造決定, 第 54 回天然有機化合物討論会, 2012 年 9 月 20 日, 東京農業大学 (東京都世田谷区)
45. 菅 悠人, 不破春彦, 後藤智見, 今野 悠, 佐々木 誠, Eva Alonso, Carmen Vale, Luis M. Botana, ガンビエロールの構造単純化類縁体の合成と生物活性評価, 第 54 回天然有機化合物討論会, 2012 年 9 月 19 日, 東京農業大学 (東京都世田谷区)
46. 菅 悠人, 不破春彦, 後藤智見, 今野 悠, 佐々木 誠, Eva Alonso, Carmen Vale, Luis M. Botana, ガンビエロールの構造単純化類縁体の合成と生物活性評価, 日本ケミカルバイオロジー学会第 7 回年会, 2012 年 6 月 7 日, 京都大学 (京都府京都市)
47. 川上雅人, 能登健吉, 斎藤麻美, 菅 悠人, 不破春彦, 佐々木 誠, ネオペルトリドの効率的な全合成と立体構造活性相関, 第 101 回有機合成シンポジウム, 2012 年 6 月 7 日, 慶應義塾大学 (東京都港区)
48. 石貝和也, 橋詰佳佑, 不破春彦, 佐々木 誠, ガンビエル酸 A の全合成研究, 第 23 回万有仙台シンポジウム, 2012 年 6 月 2 日, 仙台国際センター (宮城県仙台市)

【繁森英幸】

1. 須藤恵美, 牧野 譲, 長谷川剛, 山田小須弥, 長谷川宏司, 繁森英幸, ベンゾキサジノイドによるトモロコシの重力屈性メカニズムの解明, 植物化学調節学会第 50 回大会, 平成 27 年 11 月 24 日, 東京大学弥生講堂 (東京)
2. 繁森英幸, 渡邊諒子, 須藤恵美, 山添紗有美, 成澤多恵子, 堀之内妙子, 渡邊秀典, 長谷川剛, 山田小須弥, 長谷川宏司, 植物の屈性現象に関わる生理活性物質の機能解明, 第 51 回天然有機化合物討論会, 平成 27 年 9 月 9 日, 神奈川県民ホール (横浜)
3. 萩原美里, 高瀬 涼, 山田小須弥, 繁森英幸, ゴマ(*Sesamum indicum*)芽生えの光屈性メカニズムの解明, 新規素材探索研究会第 14 回セミナー, 平成 27 年 6 月 5 日, 新横浜フジビューホテル (横浜)
4. 山田小須弥, 須藤恵美, 長谷川剛, 長谷川宏司, 繁森英幸, ベンゾキサジノイド誘導性 cell-wall stiffness とトモロコシ芽生えの屈性反応との関係, 植物化学調節学会第 49 回大会, 平成 26 年 10 月 17-19 日, 京都大学農学部総合館 (京都)
5. 星 萌子, 新井 司, 戸田雄太, 宮本健助, 上田純一, 長谷川宏司, 繁森英幸, キク科植物由来セスキテルペンラクトン類のオーキシン極性移動阻害活性, 第 4 回植物生理化学会, 平成 26 年 10 月 2 日, 東北大学 (仙台)
6. 須藤恵美, 牧野 譲, 山田小須弥, 長谷川宏司, 繁森英幸, トモロコシ (*Zea mays* L.) 芽生えの重力屈性制御機構の解明, 第 4 回植物生理化学会, 平成 26 年 10 月 2 日, 東北大学 (仙台) 第 4 回植物生理化学会最優秀発表賞
7. 渡邊諒子・成澤多恵子・堀之内妙子・渡邊秀典・繁森英幸, 光屈性制御物質 Raphanusanin によるダイコン光屈性機構の解明, 第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会, 平成 26 年 9 月 20 日, 和歌山大学 (和歌山) 第 58 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会ベストプレゼンテーション賞
8. 須藤恵美, 牧野 譲, 山田小須弥, 長谷川宏司, 繁森英幸, Benzoxazinoid 化合物によるトモロコシの重力屈性メカニズムの解明, 新規素材探索研究会第 13 回セミナー, 平成 26 年 6 月 6 日, 新横浜フジビューホテル (横浜), 平成 26 年度新規素材探索研究会奨励賞
9. 渡邊諒子, 堀之内妙子, 渡邊秀典, 繁森英幸, ダイコン光屈性制御物質 Raphanusanin の全合成, 新規素材探索研究会第 13 回セミナー, 平成 26 年 6 月 6 日, 新横浜フジビューホテル (横浜)
10. 星 萌子, 新井 司, 宮本健助, 上田純一, 長谷川宏司, 繁森英幸, キク科植物からの新規オーキシン極性移動阻害物質の探索, 新規素材探索研究会第 13 回セミナー, 平成 26 年 6 月 6 日, 新横浜フジビューホテル (横浜)
11. 高瀬 涼, 長谷川 剛, 山田小須弥, 長谷川宏司, 繁森英幸, 植物の光屈性に関わる生理活性物質の探索と構造解明, 第 24 回日本化学会関東支部茨城地区研究交流会, 平成 25 年 11 月 15 日, 日立シビックセンター (茨城)
12. 繁森英幸, 新井 司, 戸田雄太, 宮本健助, 上田純一, 井上 豪, 長谷川広司, ニガヨモギから単離した新規オーキシン極性移動阻害物質の構造と機能, 第 57 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会, 平成 25 年 10 月 5 日, 埼玉大学 (埼玉)
13. 高瀬 涼, 長谷川剛, 山田小須弥, 長谷川広司, 繁森英幸, ゴマ芽生えからの新規光屈性制御物質の探索とその構造解明, 第 57 回

香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会、平成 25 年 10 月 5 日、埼玉大学（埼玉）第 57 回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会ベストプレゼンテーション賞

14. 繁森英幸、植物の知恵—その謎解き— 定説は覆る！？、第 8 回化学生態学研究会、平成 25 年 6 月 29 日、湯の川プリンスホテル（函館）
15. 高瀬 涼、長谷川剛、山田小須弥、長谷川宏司、繁森英幸、植物の光屈性に関わる鍵化学物質の構造解明、新規素材探索研究会第 12 回セミナー、平成 25 年 6 月 7 日、新横浜フジビューホテル（横浜）
16. Kosumi Yamada, Nudtanicha Chaithongsri, Riffat Jabeen, Tsuyoshi Hasegawa, Koji Hasegawa, Hideyuki Shigemori, New insights on mechanism of blue-light induced growth suppression in maize shoot, Auxin 2012, December 9-14, 2012, Hawaii, USA
17. 新井 司、戸田雄太、宮本健助、上田純一、長谷川宏司、繁森 英幸、ニガヨモギ (*Artemisia absinthium* L.) から単離した新規オーキシン極性移動阻害物質に関する研究、第 23 回日本化学会関東支部茨城地区研究交流会、平成 24 年 11 月 30 日、日立シビックセンター（茨城）
18. 繁森英幸、Moehnsi, Riffat Jabeen, Wai Wai Thet Tin、洪シウオン、山添紗有美、中城治之、成澤多恵子、長谷川剛、山田小須弥、宮本健助、上田純一、長谷川宏司、植物の屈性現象に関わる生理活性物質の構造と作用機構、第 54 回天然有機化合物討論会、平成 24 年 9 月 18 日、東京農業大学（東京）
19. 新井 司、戸田雄太、宮本健助、上田純一、長谷川剛、広瀬克利、長谷川宏司、繁森英幸、ニガヨモギ (*Artemisia absinthium* L.) 由来新規オーキシン極性移動阻害物質に関する化学的研究、第 2 回植物生理科学シンポジウム、平成 24 年 7 月 14 日、北海道大学（札幌）
20. 繁森英幸、植物の巧みな知恵—その謎解きと利用、第 2 回植物生理科学シンポジウム、平成 24 年 7 月 14 日、北海道大学（札幌）（特別招待講演）

【河岸洋和】

1. 河岸洋和、「キノコが引き起こす「フェアリーリング（妖精の輪）」の化学的解明とその農業への応用の可能性」、日本農芸化学会藪田セミナー、2013 年 12 月 6 日、浜松アクトシティ（静岡県浜松市）
2. Kawagishi, H., Disclosure of the “fairies” of fairy-ring forming fungus *Lepista sordida* and possibility of their application to agriculture, The 50th Memorial Symposium on Phytochemistry, 2013 年 11 月 15 日、東京大学（東京都文京区）
3. Kawagishi, H., Disclosure of the “Fairy” of Fairy-ring Forming Fungus *Lepista sordida*, 13th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and other bioactive compounds (ICCA), 2013 年 9 月 26 日、富士ビューホテル（山梨県南都留郡）
4. 河岸洋和、フェアリーリング（妖精の輪）の妖精の正体と農業への応用の可能性、日本農芸化学会 2013 年度大会、2013 年 3 月 27 日、東北大学（宮城県仙台市）
5. 河岸洋和、特異な生命現象に関わるキノコ由来の化合物たち—フェアリーリング（妖精の輪）の妖精の正体は？ その生体内での役割は？—、第 23 回平塚シンポジウム、2013 年 3 月 9 日、神奈川大学（神奈川県平塚市）
6. 河岸洋和、フェアリーリング（妖精の輪）の妖精の正体解明とその「妖精」の農業への応用の可能性、日本分子生物学会、2012 年 11 月 5 日、福岡県福岡市
7. 河岸洋和、フェアリーリングの化学・科学—フェアリーリングの化学的解明とそのフェアリー（妖精）の農業への応用への可能性—、第 7 回化学生態学研究会、2012 年 6 月 30 日、湯の川プリンスホテル（北海道函館市）
8. 河岸洋和、キノコが作物を育てる？！—フェアリーリングの化学的解明とそのフェアリー（妖精）の農業への応用への可能性—、日本農薬学会第 37 回大会シンポジウム「新農薬創製への展望」、2012 年 3 月 15 日、岡山大学（岡山県岡山市）

【小鹿一】

1. 原田翔太、山田理紗、長島志菜、小鹿 一、オニヒトデ由来の生理活性物質に関する研究、日本農芸化学会中部支部第 171 回例会、2014.10.11、名古屋大（名古屋）。
2. 原田翔太、山田理紗、小鹿 一、オニヒトデ由来の神経突起伸長活性物質に関する研究、日本農芸化学会 2014 年度大会、2014.3.28、明治大、神奈川。
3. 谷田貴弘、原田翔太、小鹿 一、神経成長因子増強活性をもつステロイド配糖体の合成研究、日本農芸化学会 2014 年度大会、2014.3.28、明治大、神奈川。
4. 谷田貴弘、羽賀雅俊、小鹿 一、記憶改善効果を期待したステロイド配糖体の合成研究、日本農芸化学会中部支部第 168 回例会、2013.10.12、名古屋大、名古屋。
5. 原田翔太、山田理紗、小鹿 一、オニヒトデ由来の神経突起伸長活性物質に関する研究、日本農芸化学会中部支部第 168 回例会、2013.10.12、名古屋大、名古屋。
6. 小鹿 一、記憶改善効果を示すステロイド配糖体の創製、日本農芸化学会 2013 年度大会、2013.3.26、東北大、仙台。
7. 山田 理紗、羽賀 雅俊、小鹿 一、間宮 隆吉、鍋島 俊隆、記憶改善効果を示すオニヒトデ由来ステロイド配糖体の体内動態、日本農芸化学会中部支部第 165 回例会、2012.10.27、名古屋大、名古屋。

【西村慎一】

1. Sugiyama, R., Nishimura, S., Ozaki, T., Asamizu, S., Onaka, H., Kakeya, H. 5-Alkyl-1,2,3,4-tetrahydroquinolines (5aTHQs), new membrane-interacting lipophilic metabolites, produced by combined-culture of *Streptomyces nigrescens* and *Tsukamurella pulmonis*. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (PACIFICHEM 2015). Dec. 15-20, 2015, Hawaii, USA.
2. Nishimura, S., Sugiyama, R., Matsumori, N., Kakeya, H. International Chemical Biology Society 2014. Marine natural products targeting cell membrane. Nov. 17-19, 2014, San Francisco, CA. USA.
3. Nishimura, S., “Mode of action of heronamides, polyene macrolactams from marine-derived *Streptomyces* sp.” Gordon Research Conference-Marine Natural Products- Ventura, CA, USA, Mar. 2-7, 2014 (selected as a poster talk).
4. Nishimura, S., Tokukura, M., Ochi, J., Yoshida, M. & Kakeya, H. “Sterol-rich membrane domains and the balance of membrane traffic” 7th International fission Yeast Meeting, London, UK, July 24-29, 2013 (poster).
5. 杉山龍介、西村慎一、恒松雄太、服部明、掛谷秀昭。新規ポリエンマクロラクタム 8-deoxyheronamide C の単離・構造決定とその生物活性。日本薬学会第 133 年会。2013 年 3 月 27 日、神奈川。
6. 杉山龍介、西村慎一、森夕希子、尾仲宏康、掛谷秀昭。放線菌の複合培養によって得られる新規テトラヒドロキノリン誘導体に関する研究。日本ケミカルバイオロジー学会 第 7 回年会、2012 年 6 月、京都。

【田中克典】

1. Katsunori Tanaka, Therapeutic In Vivo Synthetic Chemistry: Synthesis of Bioactive Compounds in Live Animals, ICCEOCA-9/NICCEOCA, 2014.12.2, Eastin Hotel Petaling Jaya, Malaysia, 招待講演
2. Ambara R. Pradipta, Katsunori Tanaka, Asymmetric Synthesis of Chiral Diamines by Imino Cyclization, The 3rd International Seminar on Chemistry 2014 - Innovation and Advances in Chemistry for the 21st Century Challenges, 2014.11.20-21, Bandung, Indonesia

3. [Katsunori Tanaka](#), Therapeutic In Vivo Synthetic Chemistry by Glycocarriers, SFG-JSCR Joint Meeting 2014, Satellite 1: Chemical Aspects of Glycobiology, 2014.11.16, Hilton Hawaiian Village Waikiki Beach Resort, USA, 招待講演
4. [Katsunori Tanaka](#), Therapeutic In Vivo Synthetic Chemistry: Synthesis of Bioactive Compounds in Live Animals, Swiss-Japanese Chemical Biology Symposium 2014, 2014.10.2, University of Bern, Switzerland, 招待講演
5. Ayumi Tsutsui, Tamotsu Zako, Tong Bu, Yoshiki Yamaguchi, Mizuo Maeda, [Katsunori Tanaka](#), Polyamine-derived [4+4] cycloaddition products as biologically relevant compounds and their effects on A β fibrillation, Swiss-Japanese Chemical Biology Symposium 2014, 2014.10.2-4, Bern, Switzerland, ポスター発表
6. Takayuki Iwata, Koichi Fukase, [Katsunori Tanaka](#), One-Pot Total Synthesis and Bioactivity Remodeling of Ageladine A, Swiss-Japanese Chemical Biology Symposium, 2014.10.2-4, Bern, Switzerland, ポスター発表
7. Takayuki Iwata, Koichi Fukase, [Katsunori Tanaka](#), One-Pot Total Synthesis of Ageladine A: Remodeling of Bioactivity, EPFL-Osaka University workshop, 2014.9.29, Lausanne, Switzerland
8. [Katsunori Tanaka](#), Therapeutic In Vivo Synthetic Chemistry: Total Synthesis of Bioactive Compounds in Live Animals, CCS-CSJ Forum 2014, 2014.8.5, Peking University, 招待講演
9. [Katsunori Tanaka](#), Exploring Overlooked Chemistry and Biology of Unsaturated Imines towards In Vivo Glycan Dynamics and Polyamine Functions, RIKEN-Max Planck Joint Research Center for Systems Chemical Biology, 3rd Annual Symposium, 2014.5.23, Schloss Ringberg, Germany, 招待講演
10. [Katsunori Tanaka](#), Exploring the Chemistry and Biology of Unsaturated Imines, RIKEN-ICCAS-IOP-PKU-Tsinghua, Joint Symposium on Materials Science, 2013.11.11, Riken, Wako, Japan
11. [Katsunori Tanaka](#), Exploring the Chemistry and Biology of Unsaturated Imines, Tsukuba Global Science Week 2013 Integration of Chemistry and Life Science Session, 2013.10.2, Tsukuba, Japan
12. [Katsunori Tanaka](#), Exploring the “Overlooked” Chemistry and Biological Functions of Unsaturated Imines, International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan, 2013.9.28, Sendai, Japan
13. [Katsunori Tanaka](#), Introduction for ACMS 2013, The First Asian Conference for “MONODUKURI” Strategy by Synthetic Organic Chemistry (ACMS), 2013.7.17, Okinawa, Japan
14. [Katsunori Tanaka](#), Aza-Electrocyclic Reaction for Visualizing Biomolecules in Live Animals, The First Asian Conference for “MONODUKURI” Strategy by Synthetic Organic Chemistry (ACMS), 2013.7.17, Okinawa, Japan
15. [Katsunori Tanaka](#), Molecular Imaging of N-Glycan Conjugates in Live Animals, The 3rd Austria/Japan Seminar on Comparative and Developmental Glycobiology, 2013.07.03, Riken, Wako, Japan
16. [Katsunori Tanaka](#), “Unexplored Reactivity of Unsaturated Imines: Application to Organic and Material Synthesis and Chemical Biology under Microfluidic Conditions”, National Center of Applied Microfluidic Chemistry Department of Chemical Engineering, Host: Prof. Dong-Pyo Kim, 2013.1.23, POSTECH, Korea
17. Yoshiyuki Manabe, Masahiro Nagasaki, Naoya Minamoto, Regina Salmasan, [Katsunori Tanaka](#), Koichi Fukase, “Library-oriented Synthetic Study of N-Glycans” ACP2012, 日本学術振興会アジア研究教育拠点事業 ICCEOCA-7/NICCEOCA-3, School of Biological Sciences, 2012.12.13, Nanyang Technological University, Singapore
18. [Katsunori Tanaka](#), “Development of Smooth 6 π -Azaelectrocyclization for Alkaloid Synthesis and Biomolecular Imaging & Engineering”, ACP2012, 日本学術振興会アジア研究教育拠点事業 ICCEOCA-7/NICCEOCA-3, School of Biological Sciences, 2012.12.13, Nanyang Technological University, Singapore
19. [Katsunori Tanaka](#), “Chemical Labeling and In Vivo Imaging of Biomolecules: Synthetic Approach toward Clinical Applications”, The 3rd International Scientific and Practical Conference Postgenomic methods of analysis in biology, and laboratory and clinical medicine, 2012.11.22, Russia, Kazan
20. [Katsunori Tanaka](#), “Synthetic Chemist’s challenges to complex biomolecular systems”, 2nd RIKEN-KFU WORKSHOP, Physics, Chemistry and Biology of Complex Systems-On the way to trans disciplinary research, 2012.11.20, Russia, Kazan
21. Yosuke Uchinashi, [Katsunori Tanaka](#), Koichi Fukase, “Practical Microfluidic Procedures for a(α)-Sialylation”, The Twelfth International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-12), 2012.11.14, Kyoto, Japan
22. Yoshiyuki Manabe, Masahiro Nagasaki, Naoya Minamoto, Regina Salmasan, [Katsunori Tanaka](#), Koichi Fukase, “Library Oriented Synthetic Study of N-Glycans”, The Twelfth International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-12), 2012.11.13, Kyoto, Japan
23. T. Iwata, [Katsunori Tanaka](#), S. Shiotsuki, C. Kageyama, T. Tahara, S. Nozaki, E. R. O. Siwu, S. Tamura, S. Douke, N. Murakami, H. Onoe, Y. Watanabe, K. Fukase, “Regulation of In Vivo Protein / Protein Interaction by Template-Assisted Synthesis”, The first International Symposium on Chemical Biology of Natural Products Target ID and Regulation of Bioactivity, 2012.10.31-2012.11.01, Kyoto, Japan
24. [Katsunori Tanaka](#), “Renaissance of Traditional Transformations Under Microfluidic Conditions: Practical Synthesis of Biofunctional Natural Products”, Flow Chemistry Asia, Select Biosciences Ltd., 2012.10.26, Singapore
25. [Katsunori Tanaka](#), “A New Strategy of Synthetic Biology: From Enzyme Inhibition, Natural Products Synthesis to PET Imaging by 6 π -Azaelectrocyclization”, Division of Chemistry and Biological Chemistry, School of Physical and Mathematical Sciences, Host: Prof. Shunsuke Chiba, Nanyang Technological University, 2012.10.24, Singapore
26. [Katsunori Tanaka](#), “A Synthetic Chemist’s Approach to Chemical Biology: From Enzyme Inhibition, Natural Products Synthesis to In Vivo Imaging by 6 π -Azaelectrocyclization”, Host: Prof. Zhi-hong GUO, Hong Kong University of Science and Technology, Dept. of Chemistry, 2012.10.5, Hong Kong
27. [Katsunori Tanaka](#), “A Synthetic Chemist’s Approach to Chemical Biology: From Enzyme Inhibition, Natural Products Synthesis to In Vivo Imaging by 6 π -Azaelectrocyclization”, Chinese University of Hong Kong Dept. of Chemistry, Host: Prof. Jiang XIA, 2012.10.4, Hong Kong
28. [Katsunori Tanaka](#), “A Synthetic Chemist’s Approach to Chemical Biology: From Enzyme Inhibition, Natural Products Synthesis to In Vivo Imaging by 6 π -Azaelectrocyclization”, University of Hong Kong Dept. of Chemistry, Host: Prof. Pauline Chiu, 2012.10.3, Hong Kong
29. [Katsunori Tanaka](#), “A Synthetic Chemist’s Approach to Chemical Biology: From Enzyme Inhibition, Natural Products Synthesis to In Vivo Imaging by 6 π -Azaelectrocyclization”, Hong Kong Polytechnic University, Dept. of Applied Biology and Chemistry, Host: Prof. Man-kin Wong, 2012.10.3, Hong Kong
30. K. Fukase, [Katsunori Tanaka](#), Y. Fujimoto, Y. Uchinashi, A. Shimoyama, “Microfluidic glycosylation and application to biofunctional glycans”, 26th International Carbohydrate Symposium, International Carbohydrate Organization, 2012.7.24, Madrid, Spain
31. [Katsunori Tanaka](#), K. Moriwaki, T. Nakagawa, S. Yokoi, K. Koyama, E. Miyoshi, K. Fukase, “Noninvasive imaging of glycan-dependent tumor metastasis through live cell labeling by azaelectrocyclization”, 26th International Carbohydrate Symposium, International Carbohydrate Organization, 2012.7.24 Madrid, Spain
32. Ambara Pradipta, [Katsunori Tanaka](#), “Reaction Based Approach of Novel Post-Translational Modification”, The Second Asian Chemical Biology Conference, The Forum on Biomolecular Chemistry, 2012.7.4-6, Okinawa, Japan
33. Regina Salmasan, Masahiro Nagasaki, Yoshiyuki Manabe, [Katsunori Tanaka](#), Koichi Fukase, “Solid Supported Synthesis of N-Glycans: N-Glycosylation and Cleavage”, The Second Asian Chemical Biology Conference, The Forum on Biomolecular Chemistry, 2012.7.4-6, Okinawa, Japan

34. Masahiro Nagasaki, Yosuke Uchinashi, Jiazhou Zhou, Katsunori Tanaka and Koichi Fukase, "Reinvestigation of alpha-Sialylation under Microfluidic Conditions", The 7th International Symposium on Integrated Synthesis (ISIS-7), 2011.10.9-10, Kobe, Japan
35. Jiazhou Zhou, Guang-ming Bao, Katsunori Tanaka and Koichi Fukase, "Synthesis of Mono- and Di-sialylated N-Glycan Motifs as Molecular Probes for Biological Evaluation", The 7th International Symposium on Integrated Synthesis (ISIS-7), 2011.10.9-10, Kobe, Japan
36. 田中克典, 有機合成化学を起点とするものづくり戦略: 特別企画講演 趣意説明, 日本化学会第 95 春季年会, 2015.3.26, 千葉県船橋市, 招待講演
37. Ambara R. Pradipta, Kazuki Tsubokura, Akihiro Ogura, Katsunori Tanaka, Therapeutic in vivo synthetic chemistry: Synthetic studies of bioactive compounds in live mouse, 日本化学会第 95 春季年会, 2015.3.26-29, 千葉県船橋市
38. 筒井歩, 座古保, Bu Tong, 山口芳樹, 前田瑞夫, 田中克典, ポリアミン由来環状化合物によるアミロイド- β -ペプチドの線維化抑制効果, 日本化学会第 95 春季年会, 2015.3.26-29, 千葉県船橋市
39. 岩田隆幸, 大塚悟史, 坪倉一輝, 新井大祐, 深瀬浩一, 中尾洋一, 田中克典, Ageladine A 誘導体のワンポット合成と神経分化促進活性, 日本化学会第 95 春季年会, 2015.3.26-29, 千葉県船橋市
40. 高松正之, 深瀬浩一, 田中克典, アクロレインによる生体内での 8 員環化合物の生成とその酸化ストレスマーカーへの変換, 日本化学会第 95 春季年会, 2015.3.26-29, 千葉県船橋市
41. 坪倉一輝, 中尾洋一, 田中克典, 生体内合成化学治療への戦略: 酸化ストレス条件下での還元反応の開発, 日本化学会第 95 春季年会, 2015.3.26-29, 千葉県船橋市
42. Masayuki Takamatsu, Koichi Fukase, Katsunori Tanaka, Biologically relevant imino [4+4] cycloaddition products are intermediates of 3-formyl-3, 4-dehydropiperidine (FDP), Noyori-School RIKEN, 2014.12.1-2, 神奈川県葉山町, ポスター発表
43. Ayumi Tsutsui, Tamotsu Zako, Tong Bu, Yoshiki Yamaguchi, Mizuo Maeda, Katsunori Tanaka, Polyamine cyclic compounds inhibited fibrillation of amyloid- β -peptide, 第 51 回ペプチド討論会, 2014.10.22-24, 徳島県徳島市, ポスター発表
44. Elena Saigitbatalova, Ambara R. Pradipta, Misako Taichi, Almira Kurbangalieva, Katsunori Tanaka, Acrolein detection by in vivo synthetic chemistry: Unexplored reactivity of acrolein with azide, 第 51 回ペプチド討論会, 2014.10.22-24, 徳島県徳島市, ポスター発表
45. Takayuki Iwata, Koichi Fukase, Katsunori Tanaka, One-Pot Total Synthesis of Ageladine A Inspired by Arginine Post-Translational Modification and its Application to Bioactivity Remodeling, 第 5 回大津会議, 2014.10.20-21, 滋賀県大津市
46. 岩田隆幸, 大塚悟史, 坪倉一輝, 新井大祐, 深瀬浩一, 中尾洋一, 田中克典, アルギニンの翻訳後修飾に学ぶ血管新生阻害剤 ageladine A のワンポット全合成と活性リモデリング分子の創製, 第 56 回天然有機化合物討論会, 2014.10.15-17, 高知県高知市
47. 田中克典, 生体内合成化学治療, 中尾研-田中研合同ミニシンポジウム, 2014.10.12, 軽井沢早稲田大学セミナーハウス, 長野県軽井沢町, 招待講演
48. Ambara R. Pradipta, 田中克典, N-アルキル共役イミンの環化反応を利用したキラルジアミン合成, 第 44 複素環化学討論会, 2014.9.12, 北海道札幌市
49. 田中克典, 生体内合成治療 ~生きている動物内での合成研究~, FIBER 未来大学 Lectures in NanoBioNow Series, 2014.7.29, ポートアイランドキャンパス, 兵庫県神戸市, 招待講演
50. 高松正之, 深瀬浩一, 田中克典, 共役イミンの[4+4]反応を用いた細胞内での生理活性アルカロイド合成研究, 天然物化学談話会, 2014.7.2-4, 岡山県岡山市
51. 筒井歩, 座古保, Bu Tong, 今牧理恵, 北爪しのぶ, 山口芳樹, 谷口直之, 前田瑞夫, 田中克典, 生体内におけるポリアミン環化体の存在と $A\beta$ 線維化抑制の可能性, ケミカルバイオロジー学会第 9 年会, 2014.6.11-13, 大阪府大阪市
52. N-アルキル共役イミンの環化反応を利用したキラルジアミン合成, Ambara R. Pradipta, 田中克典, 分子システム研究第 3 回春季研究会, 理化学研究所主催, 2014.4.24-25, 滋賀県彦根市
53. Drug delivery via therapeutic in vivo synthesis, Kenward Vong, Katsunori Tanaka, 第 3 回理研 - ソウル大学ワークショップ, 2014.4.21-22, 埼玉県和光市
54. 田中克典, New Paradigm of Synthetic Chemistry in Live Cell and Animal, The 3rd RIKEN-SNU Workshop on Chemical Biology for Health and Resource Sciences, 2014.4.20, Hotel Metropolitan Tokyo, 東京都豊島区, 招待講演
55. 田中克典, 有機合成反応を駆使した生体分子システムの解明と制御への挑戦, 基礎科学課題研究「分子システム研究」平成 25 年度研究報告会, 理化学研究所主催, 2014.2.17, 埼玉県和光市
56. 田中克典, 化学反応を用いて動物内での分子の動きを見る, 大分大学セミナー, 2013.12.26, 大分県大分市
57. 田中克典, 生体内での反応解析から開拓, 制御, さらにものづくりまで, 第 3 回 CSJ 化学フェスタ 2013 ナノ機能への挑戦 - 材料, 素子, バイオ, そして未来 -, 2013.10.21, 東京都江戸川区
58. 田中克典, 革新的化学標識法による糖鎖の個別イメージング, 自治医科大学 分子病態治療研究センターセミナー, 2013.09.14, 栃木県下野市
59. 田中克典, 世界で唯一の汎用的な生体高分子や細胞の PET イメージング, 東京理科大学総合研究機構イメージングフロンティア研究部門 2013 年度イメージング若手の会, 2013.09.08, 東京都
60. 田中克典, 生体内での「隠された化学反応」の開拓と生体機能解明および動物内合成への挑戦, 東京工業大学生命理工学研究科 生体分子機能工学専攻生体分子サイエンスセミナー, 2013.08.29, 神奈川県横浜市
61. 田中克典, 効率的な結合形成反応による生体内機能解析と分子イメージング, およびインビボ生理活性分子合成への挑戦, 理研ライフサイエンス技術基盤研究センター分子イメージングセンターセミナー, 2013.08.09, 兵庫県神戸市
62. 田中克典, 「化合物」ではなく「合成化学反応」から生体機能化学を攻める, 生体機能関連化学部会若手の会 第 25 回サマースクール, 2013.07.26, 東京都八王子市
63. 田中克典, 有機合成化学者の生物学への挑戦: 共役イミンの新奇反応性の開拓と生きている動物内への展開, 岡山理科大学 平成 25 年度第 2 回グリーン元素講演会, 2013.07.12, 岡山県岡山市
64. 田中克典, 『合成化合物』ではなく『有機合成反応』で生命科学を学び, 操る, 東京大学大学院工学系研究科化学生命工学専攻講演会「化学と生命のかけはし」, 2013.04.27, 東京都文京区
65. 田中克典, 「天然生物活性機構に携わる新奇な共役イミン反応性の検証と展開」, 日本農芸化学会 2013 年度大会, 「超活性天然物とケミカルバイオロジーへの応用」, 2013.3.27, 東北大学, 宮城県仙台市
66. 田中克典, 「有機合成化学反応を活用する生体分子システム解明への新戦略」, 基礎科学課題研究「分子システム研究」平成 24 年度研究報告会, 2013.2.27, 理化学研究所, 埼玉県和光市
67. 田中克典, 「共役イミンの「隠された反応性」の開拓と天然物ケミカルバイオロジーへの展開」, 早稲田大学理工学研究科講演会, 2012.12.5, 東京都新宿区

68. 田中克典、「Unexplored Reactivity of Unsaturated Imines: Application to Organic Synthesis and Chemical Biology」、第41回ケミカルバイオロジー領域研究会 2012.11.26、理化学研究所、埼玉県和光市
69. 田中克典、「不飽和イミンの「隠された反応性」の開拓とケミカルバイオロジーへの展開」、成蹊大学理工学部講演会、2012.11.15、東京都武蔵野市
70. 田中克典、「有機合成化学を起点とするものづくり戦略」、平成24年度理化学研究所主任会議、2012.7.20、理化学研究所、埼玉県和光市
71. 田中克典、「研究と趣味に磨きをかけてオンリーワンの自分を創る」、関西学院大学大学院理工学研究科 大学院オープンキャンパス、2012.6.16、兵庫県三田市
72. 田中克典、「共役イミンの新奇反応性開拓から始める有機合成化学者のバイオロジー」、関西学院大学理工学部講演会、2012.6.15、兵庫県三田市
73. 田中克典、「共役イミンの新奇反応性開拓とマイクロフロー合成への展開」、フロー・マイクロ合成研究会 第54回研究会、2012.6.1、大阪府大阪市
74. 田中克典、「インビボ精密合成化学」、悠化会第2回例会、(社)近畿化学協会悠化会、2012.5.24、大阪府大阪市
75. 田中克典、「有機合成化学者の研究が本当に生物学や医療診断分野に貢献できるのか」、基礎科学課題研究「分子システム研究」第1回春季研究会、2012.5.22、静岡県浜松市
76. 田中克典、「タンパク質不活性化機構に学ぶアザ電子環状反応の開発と天然物合成、および合成化学生物学(生体制御合成化学)への展開」、味の素株式会社講演会、2011.12.12、神奈川県川崎市
77. 田中克典、「実用的合成を指向したマイクロフロー反応の適応範囲と可能性:生理活性天然物の合成を例として」、東京理科大学薬学部講演会、2011.12.6、千葉県野田市
78. 田中克典、「タンパク質の革新的標識化法と非侵襲的イメージングによる動態解析:糖鎖による影響を考える」、日本化学会関東支部講演会「創薬を指向したタンパク質科学」、2011.10.21、東京都千代田区

【戸嶋一敦】

1. 外川翔太、高橋 大介、戸嶋一敦、光制御型酵素を指向したアントラキノ-酵素-ペプチドハイブリッド分子の創製、日本化学会第96春季年会、平成28年3月26日、同志社大学京田辺キャンパス(京都府・京田辺市)。
2. 笠井章弘、荒深慎介、松原輝彦、佐藤智典、高橋大介、戸嶋一敦、硫酸化オリゴフコシドの系統的合成とインフルエンザウイルスヘマグルチニンに対する結合能、日本化学会第96春季年会、平成28年3月24日、同志社大学京田辺キャンパス(京都府・京田辺市)。
3. 田中将道、梨子田淳希、高橋大介、戸嶋一敦、ボリン酸-糖受容体エステルを用いた立体選択的1,2-cis-グリコシル化反応の開発、日本化学会第96春季年会、平成28年3月24日、同志社大学京田辺キャンパス(京都府・京田辺市)。
4. 木村智哉、江藤貴宏、高橋大介、戸嶋一敦、チオウレアを有機光酸触媒とする光グリコシル化反応の開発、日本化学会第96春季年会、平成28年3月24日、同志社大学京田辺キャンパス(京都府・京田辺市)。
5. T. Kimura, D. Takahashi, K. Toshima, Novel chemical glycosylation with recognition of alcohol chirality and its application to natural product synthesis, The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, December 20, 2015, Honolulu, (USA).
6. D. Takahashi, A. Nakagawa, M. Tanaka, K. Toshima, Regio- and 1,2-cis- α -stereoselective glycosylation utilizing glycosyl acceptor-derived boronic ester catalyst, The 2015 Chemical Congress of Pacific Basin Societies, December 19, 2015, Honolulu, (USA).
7. K. Toshima, Target-selective photodegradation of oligosaccharides in health and disease, The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, December 16, 2015, Honolulu, (USA).
8. K. Toshima, Target-selective photodegradation of proteins in chemical biology, The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, December 15, 2015, Honolulu, (USA).
9. S. Kusumi, H. Nakayama, H. Kuriki, D. Takahashi, K. Toshima, Synthetic studies on vineomycin A1, The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry(IKOC-13), November 11, 2015, Rihga Royal Hotel (Kyoto).
10. 笠井章弘、荒深慎介、小柴望実、高橋大介、戸嶋一敦、天然フコイダンの主鎖を基本構造とした硫酸化オリゴフコシドの系統的合成と構造活性相関研究、Glyco TOKYO 2015 シンポジウム、平成27年10月24日、慶應義塾大学矢上キャンパス(神奈川県・横浜市)。
11. 奥山真衣、上野晴菜、小林夕香、河岸洋和、高橋大介、戸嶋一敦、肝がん関連糖タンパク AFP-L3 を選択的に光分解するアントラキノ-PhoSL ハイブリッドの創製と肝がん細胞に対する効果、GlycoTOKYO 2015 シンポジウム、平成27年10月24日、慶應義塾大学矢上キャンパス(神奈川県・横浜市)。
12. 木村智哉、高橋大介、戸嶋一敦、グリカールに対して NIS 及び有機リン化合物を活性化剤として用いた 2-ヨード及び 2-デオキシ糖の新規合成法の開発、Glyco TOKYO 2015 シンポジウム、平成27年10月24日、慶應義塾大学矢上キャンパス(神奈川県・横浜市)。
13. 高橋大介、田中将道、中川彰、戸嶋一敦、ボロン酸及びボリン酸-糖受容体エステル触媒を用いた立体選択的グリコシル化反応の開発と天然物合成への応用、第57回天然有機化合物討論会、平成27年9月11日、神奈川県民ホール(神奈川県・横浜市)。
14. 木村智哉、高橋大介、戸嶋一敦、グリカールの NIS-有機リン化合物複合系活性化剤を用いたグリコシル化反応による 2-ヨード及び 2-デオキシ糖の新規合成法の開発、第34回日本糖質学会年会、平成27年7月31日、東京大学安田講堂(東京都)。
15. 高橋大介、田中将道、戸嶋一敦、ボリン糖-糖受容体エステルを触媒とした立体選択的グリコシル化反応の開発と天然糖脂質合成への応用、第34回日本糖質学会年会、平成27年7月31日、東京大学安田講堂(東京都)。
16. M. Tanaka, A. Nakagawa, D. Takahashi, K. Toshima, Regio- and stereoselective glycosylation using glycosyl acceptor-derived boronic ester catalyst, 3rd National Tsing Hua University / Keio University Bilateral Symposium of Advanced Chemistry, July 16, 2015, Yagami campus, Keio University(Kanagawa).
17. 上野晴菜、小林夕香、河岸洋和、高橋大介、戸嶋一敦、アントラキノ-PhoSL ハイブリッド分子による肝がん関連糖タンパク AFP-L3 の光分解及びヒト肝がん細胞 HuH-7 に対する効果、日本ケミカルバイオロジー学会 第10回年会、平成27年6月12日、東北大学川内キャンパス(宮城県・仙台市)。
18. 増田奏衣、高橋大介、戸嶋一敦、アントラキノ-糖ヌクレオチドハイブリッドによる糖転移酵素の光分解、日本ケミカルバイオロジー学会 第10回年会、平成27年6月11日、東北大学川内キャンパス(宮城県・仙台市)。
19. 高橋大介、荒深慎介、小柴望実、戸嶋一敦、フコイダン類縁体の系統的合成とがん細胞に対する効果、日本ケミカルバイオロジー学会 第10回年会、平成27年6月11日、東北大学川内キャンパス(宮城県・仙台市)。
20. 高橋大介、中川彰、田中将道、戸嶋一敦、ボロン酸-糖受容体エステルを触媒とした位置及び立体選択的グリコシル化反応の開発と天然物合成への応用、第107回有機合成シンポジウム、平成27年6月9日、慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂(東京都)。
21. 木村智哉、高橋大介、戸嶋一敦、トリフェニルホスフィンを新規反応促進剤として用いた効率的ヨードグリコシル化反応の開発、日本化学会第95春季年会、平成27年3月27日、日本大学(千葉県・習志野市)。
22. 青柳学、大場朗生、木村智哉、高橋大介、戸嶋一敦、イオン液体を用いたバイオマス糖質キトサンからの効率的配糖体合成、日本化

- 学会第 95 春季年会、平成 27 年 3 月 27 日、日本大学(千葉県・習志野市)。
23. 志村拓海、大久保聡太、上野晴菜、高橋大介、戸嶋一敦、ノロウイルス関連タンパク VP1 を光分解するアントラキノ- H 抗原糖鎖ハイブリッドの創製、日本化学会第 95 春季年会、平成 27 年 3 月 26 日、日本大学(千葉県・習志野市)。
 24. 奥山真衣、増田奏衣、高橋大介、戸嶋一敦、アントラキノ-ハルミンハイブリッドによるアルツハイマー病関連タンパク DYRK1A の選択的光分解、日本化学会第 95 春季年会、平成 27 年 3 月 26 日、日本大学(千葉県・習志野市)。
 25. 戸嶋一敦、糖質および抗生物質の合成と生体機能光制御分子の創製に関する研究、日本化学会第 95 春季年会、平成 27 年 3 月 26 日、日本大学(千葉県・習志野市)。
 26. 戸嶋一敦、標的の生体高分子を選択的に光分解する化学的手法の開発と生物学的応用、国際高等研究所研究プロジェクト「分子基盤に基づく生体機能への揺らぎとダイナミックネットワークの解明」2014 年度第 1 回研究プログラム、平成 26 年 12 月 15 日、国際高等研究所(京都府・木津川市)。
 27. 中川彰、花村駿、高橋大介、戸嶋一敦、ボロン酸-糖受容体エステルを触媒とした位置及び立体選択的グリコシル化反応の開発と配糖体天然物合成への応用、Glyco TOKYO 2014、平成 26 年 11 月 8 日、千葉大学園芸学部(千葉県・松戸市)。
 28. K. Toshima, Total synthesis of vineomycin B₂: Application of glycosylation method using 2,3-unsaturated sugars to natural products synthesis, Vietnam Malaysia International Chemical Congress (VMICC2014), November 7, 2014, Daewoo Hotel Hanoi, (Vietnam).
 29. K. Toshima, Target-selective photodegradation of proteins and oligosaccharides, The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural products: Target ID and Regulation of Bioactivity, October 28, 2014, Life Science Center, Life Hall 5F (Osaka) .
 30. K. Toshima, Novel glycosylation method using 2,3-unsaturated sugars and its application to total synthesis of vineomycin B₂, The 10th Keio LCC - Yonsei CBMH Joint Symposium, October 24, 2014, Yagami campus, Keio University(Kanagawa).
 31. 久住俊一、友野聡、奥澤俊介、金子英利香、佐々木要、高橋大介、戸嶋一敦、配糖体抗生物質ビネオマイシン B₂ の全合成と構造活性相関、第 56 回天然有機化合物討論会、平成 26 年 10 月 16 日、高知県立県民文化ホール(高知県・高知市)。
 32. 池田裕政、金子英利香、奥澤俊介、高橋大介、戸嶋一敦、糖アクロシドのマイケルアクセプターとしての化学及び生物学的機能、第 33 回日本糖質学会年会、平成 26 年 8 月 12 日、名古屋大学(愛知県・名古屋市)。
 33. 石丸未来、宇田寛次郎、高田暁、高橋大介、戸嶋一敦、抗生物質インセドニンの二糖鎖セグメントの合成と配糖化に関する研究、第 33 回日本糖質学会年会、平成 26 年 8 月 12 日、名古屋大学(愛知県・名古屋市)。
 34. 高橋大介、中川彰、花村駿、戸嶋一敦、ボロン酸-糖アクセプターエステルを触媒とする立体及び位置選択的グリコシル化反応の開発、第 33 回日本糖質学会年会、平成 26 年 8 月 12 日、名古屋大学(愛知県・名古屋市)。
 35. D. Kuwahara, D. Takahashi, K. Toshima, A solid-phase chemical labeling method for isolation and modification of target proteins, 2nd National Tsing Hua University / Keio University Bilateral Symposium of Advanced Chemistry, July 10, 2014, Yagami campus, Keio University(Kanagawa).
 36. T. Kimura, M. Sekine, D. Takahashi, K. Toshima, Chiral Bronsted acid-mediated glycosylation with recognition of alcohol chirality and its application to natural product synthesis, The Second Mini-Symposium Between Keio University and National Tsing Hua University on Cutting-Edge Chemistry for Junior Chemists, July 10, 2014, Chemistry Building, National Tsing Hua University(Taiwan).
 37. 桑原大知、高橋大介、戸嶋一敦、固相アフィニティラベル化法を用いた薬剤標的の同定法の開発、日本ケミカルバイオロジー学会第 9 回年会、平成 26 年 6 月 13 日、大阪大学(大阪府・吹田市)。
 38. 長尾高志、高橋大介、戸嶋一敦、アントラキノ-抗体ハイブリッドによるシアリルルイス A 糖鎖の選択的光分解、日本ケミカルバイオロジー学会第 9 回年会、平成 26 年 6 月 12 日、大阪大学(大阪府・吹田市)。
 39. 久住俊一、友野聡、奥澤俊介、佐々木要、高橋大介、戸嶋一敦、2,3-不飽和糖を用いた化学選択的グリコシル化反応の開発とビネオマイシン B₂ の全合成、第 105 回有機合成シンポジウム、平成 26 年 6 月 11 日、東京工業大学(東京都)。
 40. 戸嶋一敦、アントラキノ-抗体ハイブリッドの創製とシアリルルイス A 糖鎖選択的光分解、新学術領域研究(研究領域提案型)天然物ケミカルバイオロジー~分子標的と活性制御~第 6 回シンポジウム、平成 26 年 5 月 28 日、名古屋大学(愛知県・名古屋市)。
 41. 荒深慎介、小柴望実、高橋大介、戸嶋一敦、フコイダン類縁体の系統的合成と生物活性、第 67 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム、平成 26 年 5 月 17 日、慶應義塾大学矢上キャンパス(神奈川県・横浜市)。
 42. 蓮見貴大、金子新、高橋大介、戸嶋一敦、標的タンパクを選択的に単離・標識化する固相ラベル化法の開発、日本化学会第 94 春季年会、平成 26 年 3 月 28 日、名古屋大学東山キャンパス(愛知県・名古屋市)。
 43. 村田誠治、増田奏衣、高橋大介、戸嶋一敦、インドールアルカロイド系天然物セロトニンおよびハルミンによるタンパクの光分解、日本化学会第 94 春季年会、平成 26 年 3 月 28 日、名古屋大学東山キャンパス(愛知県・名古屋市)。
 44. 上野晴菜、岩田崇志、小柴望実、高橋大介、戸嶋一敦、神経伝達物質 L-DOPA を選択的に認識するボロン酸含有人工低分子レセプターの創製、日本化学会第 94 春季年会、平成 26 年 3 月 28 日、名古屋大学東山キャンパス(愛知県・名古屋市)。
 45. 宮崎友紀恵、西部美幸希、高橋大介、戸嶋一敦、アントラセン-シクロデキストリンハイブリッドによる単糖の選択的光分解、日本化学会第 94 春季年会、平成 26 年 3 月 28 日、名古屋大学東山キャンパス(愛知県・名古屋市)。
 46. 岩田亮介、宇田寛次郎、高橋大介、戸嶋一敦、有機酸触媒を用いた光グリコシル化反応の開発、日本化学会第 94 春季年会、平成 26 年 3 月 28 日、名古屋大学東山キャンパス(愛知県・名古屋市)。
 47. K. Toshima, Recent topics on synthetic and chemical biological studies of biofunctional molecules, The 2nd Mini-Symposium on Cutting-Edge Chemistry between Keio University and National Tsing Hua University, March 13, 2014, MXIC Building, Hsinchu (Taiwan).
 48. K. Toshima, Chemical glycosylation with recognition of alcohol chirality, International Symposium on Organic Reaction - 11, November 20, 2013, Howard Civil Service International House, Taipei, (Taiwan) .
 49. K. Toshima, Target-selective photo-degradation of verotoxin-1 and reduction of its cytotoxicity to Vero cells using porphyrin-globotriose hybrids, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, October 28, 2013, Pacifico Yokohama, The Conference Center Renovation 5F, Yokohama (Kanagawa).
 50. 木村智哉、関根麻衣子、高橋大介、戸嶋一敦、アルコールの不斉を識別するグリコシル化反応の開発と配糖体天然物合成への応用、Glyco TOKYO 2013 シンポジウム、平成 25 年 10 月 19 日、成蹊大学 4 号館ホール (東京都) .
 51. K. Toshima, Chemical glycosylation with recognition of alcohol chirality and its application to natural product synthesis, The 9th Yonsei CBMH - Keio LCC Joint Symposium, October 25, 2013, Yonsei University, Seoul (Korea) .
 52. K. Toshima, Photodegradation and inhibition of drug-resistant influenza virus neuramidase using anthraquinone-sialic acid hybrids, The 15th Asian Chemical Congress, August 22, 2013, Resorts World Sentosa Singapore (Singapore) .
 53. 小柴望実、高橋大介、戸嶋一敦、硫酸化オリゴ糖の系統的合成と乳癌細胞 MCF-7 に対する効果、第 32 回日本糖質学会年会、平成 25 年 8 月 5 日、大阪国際交流センター (大阪府・大阪市) .
 54. 岩田亮介、宇田寛次郎、高橋大介、戸嶋一敦、有機酸触媒を用いた環境調和型光グリコシル化反応の開発、第 32 回日本糖質学会年会、平成 25 年 8 月 5 日、大阪国際交流センター (大阪府・大阪市) .
 55. 戸嶋一敦、グリコシル化反応の新たな可能性と配糖体天然物の全合成、第 32 回日本糖質学会年会、平成 25 年 8 月 5 日、大阪国際

交流センター（大阪府・大阪市）。

56. 上野晴菜、岩田崇志、高橋大介、戸嶋一敦、神経伝達物質 L-DOPA を選択的に認識する人工低分子レセプターの創製、日本ケミカルバイオロジー学会第 8 回年会、平成 25 年 6 月 20 日、東京医科歯科大学 M&D タワー（東京都）。
57. 蓮見貴大、高橋大介、戸嶋一敦、ピロロキノリンキノンによる DNA 光分解及び A431 細胞に対する効果、日本ケミカルバイオロジー学会第 8 回年会、平成 25 年 6 月 20 日、東京医科歯科大学 M&D タワー（東京都）。
58. 木村智哉、高橋大介、戸嶋一敦、アルコールの不斉を識別する新規グリコシル化反応の開発、第 103 回有機合成シンポジウム、平成 25 年 6 月 6 日、慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂（東京都）。
59. 戸嶋一敦、アントラキノーンシアル酸ハイブリッドによる薬剤耐性型インフルエンザ・ノイラミニダーゼの光分解と酵素活性阻害、新学術領域研究(研究領域提案型)天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～第 4 回公開シンポジウム、平成 25 年 5 月 28 日、つくば国際会議場（茨城県・つくば市）。
60. 高橋大介、金子新、桑原大知、戸嶋一敦、標的タンパク選択的固相アフィニティ ラベル化法の開発、日本化学会第 93 春季年会、平成 25 年 3 月 25 日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県・草津市）。
61. 平林歩、高橋大介、戸嶋一敦、ポルフィリン誘導体によるアミロイドβの光分解と神経様細胞 PC12 に対する効果、日本化学会第 93 春季年会、平成 25 年 3 月 25 日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県・草津市）。
62. 大河内敦、谷本周穂、高橋大介、戸嶋一敦、ポルフィリン-グロボトリオース(Gb3)ハイブリッドによる大腸菌 O-157 ペロ毒素の選択的光分解、日本化学会第 93 春季年会、平成 25 年 3 月 25 日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県・草津市）。
63. 中西麻由香、高橋大介、戸嶋一敦、無保護チオ糖の環境調和型光グリコシル化反応の開発、日本化学会第 93 春季年会、平成 25 年 3 月 23 日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県・草津市）。
64. 金子英利香、奥澤俊介、高橋大介、戸嶋一敦、生理活性人工糖鎖を指向したビネオマイシン B2 糖鎖類縁体の合成、日本化学会第 93 春季年会、平成 25 年 3 月 23 日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県・草津市）。
65. 奥澤俊介、金子英利香、友野聡、久住俊一、高橋大介、戸嶋一敦、ビネオマイシン B2 の全合成、日本化学会第 93 春季年会、平成 25 年 3 月 23 日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県・草津市）。
66. 木村智哉、高橋大介、戸嶋一敦、アルコールの不斉を識別する化学的グリコシル化反応の開発、日本化学会第 93 春季年会、平成 25 年 3 月 23 日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県・草津市）。
67. 戸嶋一敦、グリーンイノベーションを指向したバイオマス、イオン液体及び有機光触媒の利活用新技術の開発、第 1 回慶應義塾大学戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム、平成 24 年 12 月 15 日、慶應義塾大学(神奈川県・横浜市)。
68. 戸嶋一敦、生体機能光制御分子の開発と光感受性分子標的薬としての応用、KEIO TECHNO-MALL 2012、平成 24 年 12 月 7 日、東京国際フォーラム(東京都)。
69. 中西麻由香、高橋大介、戸嶋一敦、無保護チオ糖の光グリコシル化反応、GlycoTOKYO2012 シンポジウム、平成 24 年 11 月 17 日、慶應義塾大学薬学部芝共立キャンパス(東京都)。
70. K. Toshima, Y. Aoki, D. Takahashi, Photodegradation of drug-resistant influenza virus neuraminidase using designed anthraquinone-sialic acid hybrids, The 12th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry, November 15, 2012, Rihga Royal Hotel KYOTO(Kyoto)。
71. K. Toshima, Light-activable and molecular-targeted (LAMTA) molecules for control of biomacromolecule functions, The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, October 31, 2012, Kyoto Century Hotel (Kyoto)。
72. K. Toshima, Target-selective photodegradation of glycolipid LPS and inhibition of macrophage activation by designed anthraquinone-boronic acid hybrids, 8th Keio LCC – Yonsei CBMH Joint Symposium 2012, October 26, 2012, Sapporo (Hokkaido)。
73. K. Toshima, Photodegradation of glycolipid LPS and inhibition of macrophage activation using designed anthraquinone-boronic acid hybrids, 17th Malaysian Chemical Congress (17MCC) 2012, October 15, 2012, Putra World Trade Centre, Kuala Lumpur (Malaysia)。
74. D. Takahashi, T. Miura, K. Toshima, Photodegradation of target glycolipid LPS and inhibition of macrophage activation by anthraquinone-boronic acid hybrids, 26 International Carbohydrate Symposium, July 23, 2012, Madrid (Spain)。
75. S. Tanimoto, D. Takahashi, K. Toshima, Target-selective photo-degradation of HIV-1 protease and inhibition of HIV-1 replication in living cells by a fullerene-sugar hybrid, 26 International Carbohydrate Symposium, July 26, 2012, Madrid (Spain)。
76. 戸嶋一敦、生体機能光制御分子の創製とケミカルバイオロジーへの展開、文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究(研究領域提案型)天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～第 2 回公開シンポジウム、平成 24 年 6 月 18 日、東京大学弥生講堂(東京都)。
77. 金子新、高橋大介、戸嶋一敦、標的タンパクの固相アフィニティラベル化法の開発、日本ケミカルバイオロジー学会第 7 回年会、平成 24 年 6 月 9 日、京都大学百周年時計台記念館（京都府・京都市）。
78. 平林歩、高橋大介、戸嶋一敦、ポルフィリン誘導体によるアミロイドβの光分解、日本ケミカルバイオロジー学会第 7 回年会、平成 24 年 6 月 7 日、京都大学百周年時計台記念館（京都府・京都市）。
79. 西部美幸希、高橋大介、戸嶋一敦、アントラセン-ケンブ酸ハイブリッドによる単糖の認識と光分解、日本ケミカルバイオロジー学会第 7 回年会、平成 24 年 6 月 7 日、京都大学百周年時計台記念館（京都府・京都市）。

【犀川陽子】

1. 生形優典、伊藤卓、秋吉佑磨、井上大樹、犀川陽子、中田雅也、「グラヤノトキシン類の構造とくしゃみ誘発活性の相関に関する研究」日本化学会第94回春季年会（名古屋大学）2014年3月
2. 秋吉佑磨、井上大樹、秋濃真紀子、犀川陽子、中田雅也、「アカクラゲ触手に含まれるくしゃみ誘発物質の探索」日本化学会第94回春季年会（名古屋大学）2014年3月
3. 犀川陽子、「クラゲから始まる非アレルギー性くしゃみ誘発物質の研究」第1回キラル分子科学研究会（熊本）2014年3月
4. 伊藤卓、生形優典、秋吉佑磨、井上大樹、犀川陽子、中田雅也、「グラヤノトキシン類の構造とくしゃみ誘発活性の相関に関する研究」日本ケミカルバイオロジー学会第8回年会（東京）2013年6月
5. 犀川陽子、「生物現象のまだ見ぬ新メカニズムを探るークラゲとタマゴに関する試行錯誤」第1回慶應有機化学若手シンポジウム(横浜)、2013年5月
6. 犀川陽子 “Natural Sternutators Responsible for Non-allergic Sneeze Reflex” International Mini Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity(地区ミニシンポジウム) 2013年3月21日慶應義塾大学理工学部
7. 犀川陽子 Studies on the natural ligands responsible for non-allergic sneeze reflex 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」第3回公開シンポジウム（国際シンポジウム）2012年10月31日 京都センチュリーホテル
8. 犀川陽子 非アレルギー性くしゃみ反射を司る天然物リガンドの探索 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第2回公開シンポジウム 2012年6月17日 東京大学弥生講堂

【平井剛】

1. 平井剛、ケミカルバイオロジーに役立つものづくりを目指して、日本化学会第96回春季年会、2016年3月24日、同志社大学（京都府京田辺市）
2. 平井剛、Focused library 戦略と天然物合成、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」地区ミニシンポジウム、2016年3月8日、東京農工大学小金井キャンパス（東京都小金井市）
3. Go Hirai, Fluorine containing C-linked gangliosides GM3 analogs: Synthesis, conformational analysis, and biological activities, Molecular Function of Natural Products: Advances towards Chemical Biology, PacifiChem 2015, Dec. 15th, 2015, Honolulu.
4. 平井剛、Spectomycin A1 全異性体の合成と SUMO 化阻害活性、日本ケミカルバイオロジー学会第10回年会、2015年6月11日、東北大学百周年記念会館川内萩ホール（宮城県仙台市）
5. 平井剛、糖脂質のケミカルバイオロジーを志向した有機化学、有機合成化学協会関東支部主催「若手研究者のためのセミナー」、2014年11月15日、東京大学（東京都文京区）
6. Go Hirai, Fluorine Containing C-linked Gangliosides GM3 Analogues, Shibasaki Seminar, 2014年11月14日、微生物化学研究所（東京都品川区）
7. 平井剛、シアリダーゼ耐性型ガングリオシドの創製、GlycoTOKYO2014 シンポジウム、2014年11月8日、千葉大学松戸キャンパス（千葉県松戸市）
8. Go Hirai, Synthetic Studies towards Spectomycins, Candidates of Protein SUMOylation Inhibitors, The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2014年10月28日、千里ライフサイエンスセンター（大阪府豊中市）
9. 平井剛、分子設計と有機合成による高機能型生物活性分子の創製、2014年9月18日、休暇村志賀島（福岡市東区）
10. 平井剛、金錯体を触媒とするグルコシル化反応を基盤とした糖脂質の合成、第33回日本糖質学会年会、2014年8月11日、名古屋大学（愛知県名古屋市）
11. 平井剛、生物活性分子を創る：機能と構造に着目した合成化学的アプローチ、2014年度上智大学物質生命理工学部コロキウム、2014年7月8日、上智大学（東京都千代田区）
12. 平井剛、CHF 連結型シアリルガラクトースの合成とコンホメーション、理研シンポジウム：第14回分析・解析技術と化学の最先端、2013年12月11日、理化学研究所鈴木梅太郎ホール（埼玉県和光市）
13. Go Hirai, Synthetic studies of spectomycins, protein SUMOylation inhibitors, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, Oct. 28th, 2013, パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）
14. 平井剛、天然物を基にした分子設計を足がかりとするものづくり、第3回 CSJ 化学フェスタ 2013 ナノ機能への挑戦—材料、素子、バイオ、そして未来—、2013年10月21日、タワーホール船堀（東京都江戸川区）
15. 平井剛、有機合成化学を活かした天然物基盤のケミカルバイオロジー研究、早稲田大学講演会、2013年10月18日、早稲田大学（東京都新宿区）
16. 平井剛、CHF 連結型シアリルガラクトースアナログの合成とコンホメーション解析、第36回フッ素化学討論会、2013年10月4日、つくば国際会議場（茨城県つくば市）
17. 平井剛、CHF-連結型ガングリオシド GM3 アナログの開発、第32回日本糖質学会年会、2013年8月5日、大阪国際交流センター（大阪府大阪市）
18. Go Hirai, Fluorine Containing C-linked Gangliosides Analogues, The First Asian Conference for "MONODUKURI" Strategy by Synthetic Organic Chemistry (ACMS), July 19th, 2013, Okinawa.
19. 平井剛、生物活性物質を創る有機合成化学研究、第1回慶應有機化学若手シンポジウム、2013年5月13日、慶應義塾大学（神奈川県横浜市）
20. 平井剛、酵素に分解されない糖脂質の開発、東京大学工学部化学生命工学科講演会「化学と生命のかけはし」、2013年4月27日、東京大学（東京都文京区）
21. Go Hirai, Design and Development of Fluorine Containing Gangliosides: Establishing the Concept of Conformational Control, 日本化学会第93春季年会 アジア国際シンポジウム、2013年3月24日、立命館大学びわこ・くさつキャンパス（滋賀県草津市）
22. Go Hirai, Synthesis of Natural Product Derivatives Which Control the Post-translational Modifications of Proteins, The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, Oct. 31st, 2012, Kyoto.
23. 平井剛、天然物を元に設計した新しい分子によるタンパク質リン酸化制御、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー」第2回若手研究者ワークショップ、2012年10月30日、大阪大学中之島センター（大阪府大阪市）
24. 平井剛、代謝安定性の獲得とコンホメーション制御を可能にする含フッ素ガングリオシド、「有機合成化学を起点とするものづくり戦略」第2回ミニシンポジウム、2012年9月28日、北海道大学（北海道札幌市）

【桑原重文】

1. 佐藤俊太郎、福田裕紀、村上真裕子、廣川高史、桑原重文（桑原重文）「Strophasterol A の全合成研究」日本農芸化学会 2016 年度大会、2016年3月29日、札幌コンベンションセンター（北海道・札幌市）
2. Shuntaro Sato, Mayuko Murakami, Takafumi Hirokawa, Shigefumi Kuwahara (Shigefumi Kuwahara) 「Synthetic studies toward strophasterol A」2015 International Chemistry Congress of Pacific Basin Societies (PacifiChem 2015), December 17, 2015, Honolulu (USA)
3. 佐藤俊太郎、福田裕紀、村上真裕子、廣川高史、桑原重文（桑原重文）「Strophasterol A の合成研究」日本農芸化学会東北支部第150回大会、2015年10月3日、東北大学講義棟（宮城県・仙台市）
4. 佐藤俊太郎、村上真裕子、廣川高史、福田裕紀、桑原重文（桑原重文）「キノコ子実体形成誘導物質 Strophasterol A の全合成研究」新学術領域「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御」第8回公開シンポジウム、2015年6月8日、東北大学片平サクラホール（宮城県、仙台市）

【土井隆行】

1. Takayuki Doi, Synthesis of cyclodepsipeptide histone deacetylase inhibitors, PACIFICHEM 2015, Dec 16, 2015, Honolulu (USA)
2. Takayuki Doi, Total synthesis of cyclodepsipeptide natural products and their biological evaluation, PACIFICHEM 2015, Dec 16, 2015, Honolulu (USA)

【川上隆史】

1. 川上隆史、村上一馬、阪本大樹、花木瑞穂、夏目徹、入江一浩、アミロイドβ二量体を標的とする非天然型環状ペプチドの試験管内分子進化、第52回ペプチド討論会、2015.11.17、神奈川県平塚市
2. 川上隆史、伊藤進也、五島直樹、永田和宏、夏目徹、無細胞分子進化法と超高度質量分析を用いたHSP47翻訳後修飾の網羅的解析、第52回ペプチド討論会、2015.11.16、神奈川県平塚市
3. 川上隆史、五島直樹、夏目徹、タンパク質ラベリング用ペプチドタグの進化分子工学的創製システムの構築、日本ケミカルバイオ

ロジー学会第10回年会、2015.6.11、宮城県仙台市

- 川上隆史、足達俊吾、小川浩二、八田知久、久保泰、五島直樹、夏目徹、試験管内分子進化と超高感度質量分析を用いた蛋白質複合体の解析、第51回ペプチド討論会、2014.10.23、徳島県徳島市
- 川上隆史、ホスホノペプチドの翻訳合成に向けた tRNA アミノホスホニル化リボザイムの分子進化、第51回ペプチド討論会、2014.10.22、徳島県徳島市

【占部大介】

- 占部大介、日本薬学会第136年会シンポジウム 天然物ケミカルバイオロジー(4):天然物合成とケミカルバイオロジー、「ラジカル反応を基盤としたチグリアン・ダフナンジテルペン類の合成戦略」、パシフィック横浜、2016年3月29日
- Urabe, D.; Inoue, M. PACIFICEHM2015, Molecular Function of Natural Products: Advances towards Chemical Biology (#237) "Unified total synthesis of oxygenated cardenolides," Honolulu, USA, Dec. 15, 2015.
- Urabe, D.; Inoue, M. the 15th Tateshina Conference on Organic Chemistry "Total Synthesis of Crotophorbolone," Chino, Japan, Nov. 8, 2015.
- Urabe, D. Institute of Microbial Chemistry, The Shibasaki Group Seminar "Radical-based couplings toward the total synthesis of tigliane/daphnane diterpene," Tokyo, Japan, July 30, 2015.
- 占部大介、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」地区ミニシンポジウム・仙台「ケミカルバイオロジーにおける天然物」、「抗炎症性脂質メディエーターの全合成」東北大学、仙台、2015年6月30日
- 占部大介、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第8回公開シンポジウム、「チグリアン/ダフナンジテルペン類の合成戦略:クロトホルボロンの全合成」東北大学、仙台、2015年6月8日
- 占部大介、日本薬学会第135年会奨励賞受賞講演、「ラジカル反応を基盤とした複雑天然物の全合成研究」神戸学院大学、神戸、2015年3月27日
- Urabe, D. The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity "A Unified Approach to the Cardenolides and Bufadienolides: Total Synthesis of Ouabagenin," Osaka, Japan, Oct. 28, 2014.
- 占部大介、明治薬科大学、「橋頭位ラジカルを用いた高酸化度テルペノイドの全合成研究」明治薬科大学、東京、2014年9月26日
- 占部大介、第49回天然物化学談話会奨励賞受賞講演、「橋頭位ラジカルを用いた高酸化度テルペノイドの全合成研究」せとうち児島ホテル、倉敷、2014年7月2日
- 占部大介、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第6回公開シンポジウム、「新規 Na⁺/K⁺-ATPase 作用分子の創製を指向したカルデノリド/ブファジェノリドの自在合成法の開発」名古屋大学、名古屋、2014年5月28日
- Urabe, D.; Inoue, M. The International Startup Symposium of Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia (III), "Total synthesis of 19-hydroxysarmentogenin," Hsinchu, Taiwan, Apr. 21, 2014
- 占部大介、日本薬学会第134年会シンポジウム有機合成の若い力、「ウアバゲニンの全合成」熊本大学、熊本、2014年3月28日

【田中浩士】

- 佐藤航・鈴木涼太・田中浩士、環状ホウ素化合物における連続的鈴木・宮浦カップリングを用いた真菌由来糖脂質類縁体合成法の開発、日本化学会第96春季年会(2016)、平成28年3月24日(木)-27日(日)同志社大学 京田辺キャンパス (京都)
- Ryota Suzuki, Kou Sato, Shinichiro Fuse, Hiroshi Tanaka, One-pot Sequential Palladium-Catalyzed Cross-Coupling Reaction of Cyclic Boron Compounds, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem 2015), Dec 15-20, Hilton Hawaiian Village (Honolulu, Hawaii, USA)
- Hiroki Hamagami, Yukinori Hatasa, Yoshiki Yamaguchi, Shinichiro Fuse, Takahiro Shibata, Hirofumi Tachibana, Koji Uchida, Hiroshi Tanaka, Synthesis of Sugar-Modified EGCGs by Direct C-Glycosylation and Its Application to a Chemical Biology, The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem 2015), 2015, Dec 15-20, Hilton Hawaiian Village (Honolulu, Hawaii, USA)
- 佐藤航・鈴木涼太・田中浩士、環状ホウ素化合物を用いた連続的鈴木宮浦カップリングを用いる糖脂質類縁体合成法の開発、2015年10月13日(火)～15日(木)第5回CSJ化学フェスタ2015 タワーホール船堀 (東京)
- 濱上大基、畑佐行紀、山口芳樹、布施新一郎、立花宏文、内田浩二、田中浩士、糖をスペーサーとして用いる緑茶カテキン分子プロープの合成とその機能評価、平成27年6月10日-12日 第10回日本ケミカルバイオロジー学会、東北大学川内キャンパス萩ホール (宮城)
- 鈴木涼太、布施新一郎、田中浩士、環状ホウ素化合物の合成とその連続的クロスカップリング反応への応用、平成26年11月6日(木)～7日(金)第106回有機合成シンポジウム 早稲田大学 (東京)

【藤本ゆかり】

- International Conference of Computational Methods in Science and Engineering (ICCMSE 2016) Computational Chemistry (CC) Symposium "Immunomodulatory Microbial Components; Their Structures, Syntheses and Biological Functions" Yukari Fujimoto (Athens(ギリシャ) 2016.3.17-20)
- The 3rd Mini-Symposium between Keio University and National Tsing Hua University "Microbial Glycoconjugates; Chemistry and Immunomodulatory Functions" Yukari Fujimoto (Hsinchu(台湾), 2016.3.11)
- The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies "Synthesis of immunomodulatory glycoconjugates based on recently developed chemical glycosylation" Yukari Fujimoto (Honolulu (USA) 2015.12.19).
- International Mini Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity "Chemistry and Functional Analysis of Immunomodulatory Microbial Glycoconjugates" Yukari Fujimoto (慶應大学、神奈川県横浜市、2015.3.24).
- The First Yoshida Prize Symposium "Chemistry and Immunomodulation of Microbial Glycoconjugates" Yukari Fujimoto (リーガロイヤルホテル京都、京都府京都市、2015.1.30).
- Asian Chemical Biology Conference (ACBC2014) "Microbial glycoconjugates and lipidconjugates as immunomodulators; Chemical synthesis and biological functions" Yukari Fujimoto (U-Town NUS(シンガポール), 2014.12.15-17).
- Yukari Fujimoto, "Bacterial glycoconjugates; chemical synthesis and functional analysis" in The Joint Meeting of the Society for Glycobiology (SFG) and the Japanese Society of Carbohydrate Research (JSCR) (SFG-JSCR 2014), (Honolulu (USA) 2014.11).
- 有機合成夏期セミナー「明日の有機合成化学」"免疫機構調節に関わる信号を伝える細胞表面分子群:有機合成と機能解析"藤本ゆかり (大阪科学技術センター・大阪府大阪市、2015.9.1)
- 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第8回公開シンポジウム"免疫調節に関わる微生物由来分子群:化学合成を基盤とした機能解析"藤本ゆかり (東北大学片平さくらホール・宮城県仙台市、2015.6.8)
- 新規素材探索研究会 第14回セミナー"免疫機構制御を目指した調節活性分子の探索と創製" 藤本ゆかり (新横浜フジビューホテル・神奈川県横浜市、2015.6.3)
- 日本化学会第95春季年会(2015)"自然界での生体防御シグナル物質群と複合型分子による免疫制御への展開"藤本ゆかり (日本大学・千葉県船橋市、2015.3.26-29)

12. 第 12 回糖鎖科学コンソーシアムシンポジウム “免疫を調節する微生物表面由来複合糖質：化合物構造－活性とその展開 藤本ゆかり (東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂・東京都, 2014.12.4-5)
13. The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2015) “Decarboxylative functionalization of β -hydroxy amino acids via photoredox catalysis and its application to the synthesis of the functional 1,2-amino alcohol derivatives” Shinsuke Inuki, Keisuke Sato, and *Yukari Fujimoto (Honolulu, USA, 2015.12.15-20) Poster
14. The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2015) “Synthesis of inositol phospholipids from *Ascaris suum* using regioselective phosphorylation” Sae Suehara, Toshihiko Aiba, Shou Nakagawa, Masaki Sato, Yuuki Maekawa, Toshiaki Murai, Koichi Fukase, Shinsuke Inuki, *Yukari Fujimoto (Honolulu, USA, 2015.12.15-20) Poster
15. The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2015) “Synthesis of inositol phospholipids from *Ascaris suum* using regioselective phosphorylation” Sae Suehara, Toshihiko Aiba, Shou Nakagawa, Masaki Sato, Yuuki Maekawa, Toshiaki Murai, Koichi Fukase, Shinsuke Inuki, *Yukari Fujimoto (Honolulu, USA, 2015.12.15-20) Poster
16. The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2015) “Synthetic study on cardiolipin containing cyclopropane fatty acids” Shunichi Ishibashi, Shinsuke Inuki, *Yukari Fujimoto (Honolulu, USA, 2015.12.15-20) Poster
17. The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (Pacifichem 2015) “Synthesis and biological activity of phosphatidylinositol for the elucidation of NKT cell pre-activation mechanism” Sho Nakagawa, Atsushi Shimoyama, Toshihiko Aiba, *Yukari Fujimoto, *Koichi Fukase (Honolulu, USA, 2015.12.15-20) Poster
18. The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-13) “Synthesis and Immunoregulatory Activity of Lipophosphoglycans as NKT Cell Modulator” Toshihiko Aiba, Sae Suehara, Hannah Bernin, Hanna Lotter, Shinsuke Inuki, Koichi Fukase, *Yukari Fujimoto (Rihga Royal Hotel in Kyoto, Kyoto, JPN, 2015.11.9-13) Poster
19. The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-13) “Decarboxylative functionalization of β -hydroxy amino acids via photoredox catalysis and its application to the synthesis of the functional 1,2-amino alcohol derivatives” Shinsuke Inuki, Keisuke Sato, *Yukari Fujimoto (Rihga Royal Hotel in Kyoto, Kyoto, JPN, 2015.11.9-13) Poster
20. 23rd International Symposium on Glycoconjugates (Glyco23), “Synthesis and Biological Activity of Inositol Phospholipid as NKT Cell Modulator” Toshihiko Aiba, Sae Suehara, Hannah Bernin, Hanna Lotter, Shinsuke Inuki, Koichi Fukase, *Yukari Fujimoto (Split, Croatia, 2015.11.16-19) Poster
21. Joint Meeting of the Society for Glycobiology (SFG) and the Japanese Society of Carbohydrate Research (JSCR) (SFG-JSCR 2014) “Synthesis of Inositol Phospholipids as an NKT Cell Modulator” Toshihiko Aiba, Masaki Sato, Daichi Umegaki, Shou Nakagawa, Shinji Tanaka, Masato Kitamura, Shinsuke Inuki, Koichi Fukase, *Yukari Fujimoto (Honolulu, USA, 2014.11.16-19). Poster
22. 日本化学会第 96 年春季年会 (同志社大学・京都府京田辺市) 2016.3.24-27 内因性 CD1d リガンドとしてのホスファチジルイノシトールの合成とその生理活性 中川 翔、下山 敦史、相羽俊彦、藤本 ゆかり、*深瀬 浩一
23. 第 8 回武田科学振興財団薬科学シンポジウム (生命分子から薬を創る—中分子薬を中心に— (武田薬品研究所・大阪府吹田市) 2016.1.21-22 Synthesis and immunomodulatory activity of inositol phospholipid from *Entamoeba histolytica* Toshihiko Aiba, Sae Suehara, Hannah Bernin, Hanna Lotter, Shinsuke Inuki, Koichi Fukase, *Yukari Fujimoto
24. 生命化学研究会 ポストコンファレンス (雲仙観光ホテル・長崎県雲仙市) 2016.1.8-9 生体防御の制御分子を探る 藤本ゆかり
25. 第 1 8 回生命化学研究会 (石川屋旅館・長崎県南島原市) 2016.1.8-9 種々の細胞表面のイノシトールリン脂質が免疫機構を調節する 相羽俊彦、末原紗英、中川翔、Bernin Hannah、Lotter Hanna、井貫晋輔、深瀬浩一、藤本ゆかり
26. 第 1 8 回生命化学研究会 (石川屋旅館・長崎県南島原市) 2016.1.8-9 内因性 CD1d リガンドの探索を目指したホスファチジルイノシトールの合成とその生理活性 中川 翔、下山敦史、相羽俊彦、藤本ゆかり、*深瀬浩一
27. GlycoTokyo 2015 (慶應義塾大学・神奈川県横浜市) 2015.10.24 Gal(α 1-6)Gal 構造を含有する糖脂質の合成研究 柏原瑛美、相羽俊彦、井貫晋輔、藤本ゆかり
28. GlycoTokyo 2015 (慶應義塾大学・神奈川県横浜市) 2015.10.24 *Ascaris suum* 由来イノシトールリン脂質の合成研究 末原紗英、相羽俊彦、前川侑輝、村井利昭、深瀬浩一、井貫晋輔、藤本ゆかり
29. GlycoTokyo 2015 (慶應義塾大学・神奈川県横浜市) 2015.10.24 Gal(α 1-6)Gal 構造を含有する糖脂質の合成研究 柏原瑛美、相羽俊彦、井貫晋輔、藤本ゆかり
30. GlycoTokyo 2015 (慶應義塾大学・神奈川県横浜市) 2015.10.24 *Ascaris suum* 由来イノシトールリン脂質の合成研究 末原紗英、相羽俊彦、前川侑輝、村井利昭、深瀬浩一、井貫晋輔、藤本ゆかり
31. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ (タワーホール船堀・東京都江戸川区) 2015.10.13-15 内因性 CD1d リガンドの探索を目指したホスファチジルイノシトールの合成とその生理活性 中川翔、下山敦史、相羽俊彦、藤本ゆかり、*深瀬浩一
32. 第 32 回有機合成化学セミナー (ニューウェルシティ湯河原・静岡県熱海市) 2015.9.15-17 *Ascaris suum* 由来イノシトールリン脂質の合成研究 末原紗英、相羽俊彦、前川侑輝、村井利昭、深瀬浩一、井貫晋輔、藤本ゆかり
33. 第 32 回有機合成化学セミナー (ニューウェルシティ湯河原・静岡県熱海市) 2015.9.15-17 シクロプロパン含有脂質の合成研究 石橋俊一、井貫晋輔、藤本ゆかり
34. 第 34 回日本糖質学会年会 (東京大学・東京都文京区) 2015.7.31-8.2 *Entamoeba histolytica* 由来 GPI アンカー部分構造の合成と生物活性 相羽俊彦、末原紗英、Bernin Hannah、Lotter Hanna、井貫晋輔、深瀬浩一、藤本ゆかり
35. 第 34 回日本糖質学会年会 (東京大学・東京都文京区) 2015.7.31-8.2 NKT 細胞の前活性化機構解明を目指したホスファチジルイノシトールの合成とその生理活性 中川翔、下山敦史、相羽俊彦、藤本ゆかり、*深瀬浩一
36. The 3rd National Tsing Hua University-Keio University Bilateral Symposium of Advanced Chemistry (慶應義塾大学・神奈川県横浜市) 2015.7.16 Synthesis and biological activity of Inositol phospholipids as NKT cel modulator Toshihiko Aiba, Sae Suehara, Bernin Hannah, Lotter Hanna, Shinsuke Inuki, Koichi Fukase *Yukari Fujimoto
37. 第 50 回天然物化学談話会 (グリーンピア岩沼、宮城県岩沼市) 2015.7.1-3 NKT 細胞の活性化機構解明を目指した_ホスファチジルイノシトールの合成とその生理活性 中川翔、下山敦史、相羽俊彦、藤本ゆかり、*深瀬浩一
38. 第 24 回新規素材探索研究会セミナー (新横浜フジビューホテル・神奈川県横浜市) 2015.6.5 *Entamoeba histolytica* 由来糖イノシトールリン脂質の合成と免疫調節活性 相羽俊彦、末原紗英、Bernin Hannah、Lotter Hanna、井貫晋輔、深瀬浩一、藤本ゆかり
39. 第 24 回新規素材探索研究会セミナー (新横浜フジビューホテル・神奈川県横浜市) 2015.6.5 Photoredox 触媒を用いた光学活性 1,2-アミノアルコール類の合成法開発 井貫 晋輔、藤本 ゆかり
40. 日本化学会第 98 回春季年会 (日本大学・千葉県船橋市) 2015.3.26-29 免疫調節作用を有する原虫由来イノシトールリン脂質の合成と生物活性 相羽俊彦、末原紗英、佐藤昌紀、田中慎二、北村雅人、BERNIN, Hannah、LOTTER, Hanna、井貫晋輔、深瀬浩一、藤本ゆかり
41. 日本化学会第 98 回春季年会 (日本大学・千葉県船橋市) 2015.3.26-29 位置選択的リン酸化反応を用いた *Ascaris suum* 由来イノシトールリン脂質の合成研究 末原紗英、相羽俊彦、中川翔、佐藤昌紀、前川侑輝、村井利昭、深瀬浩一、井貫晋輔、藤本ゆかり
42. 第 56 回天然有機化合物討論会 (高知県立県民文化ホール、三翠園、高知県高知市) 2014.10.15-17 NKT 細胞刺激作用を有するイノ

シトールリン脂質の合成 相羽俊彦, 佐藤昌紀, 梅垣大地, 中川翔, 田中慎二, 北村雅人, 深瀬浩一, *藤本ゆかり

43. 第15回関西グライコサイエンスフォーラム(大阪市立大学・大阪府大阪市) 2014.5.24 NKT細胞刺激作用を有するイノシトールリン脂質の合成 相羽俊彦, 佐藤昌紀, 梅垣大地, 中川翔, 田中慎二, 北村雅人, *藤本ゆかり, *深瀬浩一

A03: 標的探索・合理的分子設計の新方法論

【上田実】

1. M. Ueda, Plant Chemical Biology using Bioactive Natural Products, RIKEN-Max Planck Joint Research Center Fifth Annual Symposium, 17-20 Apr 2016, Berlin (Germany)
2. M. Ueda, Chemical biology of coronatine: Pathogenic infection in plants, Pacificchem 2015 symposium#66 Natural product-based drug discovery, 15-20 Dec 2015, Honolulu, (USA)
3. M. Ueda, Plant Chemical Biology using Natural Products, NEA-ASIAHOC, 9-12 Nov 2015, OIST, Okinawa (Japan)
4. 上田 実, ジャスモン酸類のケミカルバイオロジー、日本農芸化学会 2015 年度大会シンポジウム「生命恒常性の維持に寄与するケミカルリガンド受容機構の新展開」、2015 年 3 月 29 日 (岡山市)
5. 上田 実, "Chemical Biology of Coronatine: the effect on the guard cell", 第 56 回日本植物生理学会年会 シンポジウム (東京)、2015 年 3 月 16 日-18 日
6. 上田 実, 植物の生物現象を制御するジャスモン酸誘導体の新たな機能、第 51 回植物化学シンポジウム、2014 年 11 月 22 日 (仙台)
7. M. Ueda, CHEMICAL BIOLOGY OF PLANT AND ANIMAL HORMONES: "GLYCOSYLATION SWITCHING", 25th Mona Symposium, 6-9 Jan 2014, Kingston (Jamaica)
8. M. Ueda, "Glycosylation Switching": In vivo glycosylation of bioactive natural products regulates their mode-of-action, ICCEOCA8/NICCEOCA4, 25-28 Nov 2013, Osaka (Japan)
9. M. Ueda, "Chemical Biology of Glycoside Natural Products", RACI NSW Natural Products Symposium 2013, 4 Oct 2013, Sydney (Australia)
10. 上田 実, 植物の就眠ならびに捕虫運動の制御機構の化学的解明、第 48 回植物化学調節学会大会、2013 年 10 月 31 日 (新潟)
11. 上田 実, "Glycosylation Switching"による天然物リガンドの活性制御、日本化学会春期年会特別企画、2013 年 3 月 (草津市)
12. M. Ueda, "Glycosylation Switching": Glycosylation regulates mode-of-action of bioactive natural products, 3rd International Symposium on Creation of Functional Materials-Life Science and Materials-, 10-11 Dec 2012, Tsukuba (Japan)
13. 上田 実, 「配糖体型天然物リガンドのケミカルバイオロジーに見る活性制御の新戦略」、後期 (秋期) 有機合成化学講習会、2012 年 11 月 (東京)
14. M. Ueda, Chemical Biology of Glycoside Natural Products, The Second Asian Chemical Biology Conference, 4-6 Jul 2012, Okinawa (Japan).
15. 上田 実, 配糖体型天然物リガンドのケミカルバイオロジー、日本化学会第 92 春季年会特別企画天然物ケミカルバイオロジー、日本化学会第 92 春季年会、2012 年 3 月 (横浜)

【叶直樹】

1. 抗腫瘍性マクロライド FD-891 およびその類縁体合成と構造活性相関研究 (口頭発表), 板垣友宏, 川又綾乃, 叶 直樹, 岩濑好治, 日本薬学会第 136 年会 (横浜 2016 年 3 月 27-30 日)
2. Synthetic Study of FD-891 and FD-892 (Poster presentation), Ayano Kawamata, Tomohiro Itagaki, Yuta Miyazaki, Kenzo Yahata, Naoki Kanoh, Yoshiharu Iwabuchi, Pacificchem 2015 (Hawaii, 2015 年 12 月 15 日-20 日)
3. Third generation photo-cross-linked small-molecule affinity matrix enabling quantitative analysis of the photocross-linked small molecules and their target purification (oral presentation), Naoki Kanoh, Pacificchem 2015 (Hawaii, 2015 年 12 月 15 日-20 日)
4. Photo-cross-linked Small Molecule Affinity Matrix as a Tool for Target Identification of Bioactive Small Molecules (oral presentation), Naoki Kanoh, Pharmaceutical Science Symposium 2015 in Sendai (11 月 16 日, 東北大学片平桜ホール)
5. Total synthesis and structural revision of heronamide C (Poster presentation), Naoki Kanoh, Shunya Itoh, Kohei Sakanishi, Yoshiharu Iwabuchi, 14th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and other Bioactive Compounds (Texas 2015 年 10 月 13-16 日) Elsevier Best Poster Prize 受賞
6. 芳香族生物活性小分子に対する多点同時修飾法の開発 (口頭発表), 岡村俊孝, 鈴木貴大, 叶 直樹, 岩濑好治, 第 54 回日本薬学会東北支部大会 (岩手 2015 年 9 月 26 日)
7. 8-Deoxyheronamide C の全合成研究 (口頭発表), 寺嶋優太, 伊東俊哉, 坂西航平, 叶 直樹, 岩濑好治, 第 54 回日本薬学会東北支部大会 (岩手 2015 年 9 月 26 日)
8. Heronamides A-C の全合成と構造改訂、および構造活性相関 (口頭発表), 叶 直樹, 伊東俊哉, 寺嶋優太, 坂西航平, 岩濑好治, 藤田航平, 杉山龍介, 西村慎一, 掛谷秀昭, 第 57 回天然有機化合物討論会 (横浜 2015 年 9 月 9-11 日)
9. 有機小分子と蛋白質の相互作用を直接的・間接的に検出する (口頭発表), 叶 直樹, 第 9 回東北大学学際科学フロンティア研究所 FRIS セミナー (2015 年 8 月 10 日, 東北大学学際科学フロンティア研究所)
10. 第三世代光親和型小分子固定化アフィニティー樹脂 (口頭発表), 叶 直樹, 鈴木貴大, 岡村俊孝, 岩濑好治, 第 10 回 日本ケミカルバイオロジー学会 (仙台 2015 年 6 月 10-12 日)
11. 光開裂性光親和型アフィニティー樹脂による固定化小分子の定量解析 (口頭発表), 鈴木貴大, 岡村俊孝, 叶 直樹, 岩濑好治, 日本薬学会 第 135 年会 (神戸 2015 年 3 月 25-28 日) 優秀発表賞受賞
12. 合成仮説に基づく tripartilactam の全合成研究 (口頭発表), 真野昂裕, 叶 直樹, 岩濑好治, 日本薬学会 第 135 年会 (神戸 2015 年 3 月 25-28 日)
13. Heronamide C の全合成研究 (3) -改訂構造の合成と実証- (口頭発表), 伊東俊哉, 坂西航平, 寺嶋優太, 叶 直樹, 岩濑好治, 日本薬学会 第 135 年会 (神戸 2015 年 3 月 25-28 日)
14. 不飽和ポリケチドマクロラクタム heronamide 類の全合成研究 (ポスター発表), 伊東俊哉, 坂西航平, 寺嶋優太, 叶 直樹, 岩濑好治, 第 56 回天然有機化合物討論会 (高知 2014 年 10 月 15-17 日)
15. 光親和型小分子固定化アフィニティー樹脂の反応性解析 (口頭発表), 鈴木貴大, 岡村俊孝, 叶 直樹, 岩濑好治, 第 53 回日本薬学会東北支部大会 (福島 2014 年 10 月 5 日) 若手研究者発表賞受賞
16. Chemical Strategy for Direct and Indirect Detection of Protein-Small Molecule Interactions: Drug target discovery and P450 substrate screening (Invited talk), Naoki Kanoh, 3rd Swiss-Japanese Chemical Biology Symposium 2014 (2014 年 10 月 3 日, Bern, Switzerland)
17. 有機小分子と蛋白質の相互作用を直接的・間接的に検出する (招待講演), 叶 直樹, 第 21 回日本免疫毒性学会学術年会 (2014 年 9 月 11 日, 徳島文理大学)
18. 抗腫瘍性マクロライド FD-891 および FD-892 の系統的合成研究(2)マクロラクトン部の構築 (口頭発表), 板垣友宏, 川又綾乃, 宮崎雄太, 八幡健三, 叶 直樹, 岩濑好治, 日本薬学会第 134 年会 (熊本 2014 年 3 月 27-30 日)
19. Vicenistatin の作用機構解明を目的とした PI(3,5)P₂ 誘導体の合成 (口頭発表), 真野昂裕, 大野裕太郎, 叶 直樹, 岩濑好治, 第 52 回

- 日本薬学会東北支部大会（東北大学 2013年10月20日）
20. Synthesis of Heronamide C (Poster presentation), Kohei Sakanishi, Shunya Itoh, Yoshiharu Iwabuchi, Naoki Kanoh, 23rd French-Japanese Symposium on medicinal and fine chemistry (2013年5月12-15日、長崎)
 21. Total Synthesis of the Proposed Structure of Heronamide C (Poster presentation), Kohei Sakanishi, Shunya Itoh, Yoshiharu Iwabuchi, Naoki Kanoh, 13th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and other bioactive compounds (2013年9月24-27日、富士ビューホテル、山梨)
 22. 液胞化誘導活性および抗腫瘍活性を有する天然物 Vicenistatin の構造活性相関研究 (ポスター発表)、大野裕太郎、福田 隼、西山 郵子、中村織依菜、岩濑好治、臼井健郎、叶直樹、日本薬学会 第133年会 (横浜 2013年3月27日-30日)
 23. 抗腫瘍性マクロライド FD-891 および FD-892 の系統的合成研究 (口頭発表)、川又綾乃、宮崎雄太、八幡健三、叶直樹、岩濑好治、日本薬学会 第133年会 (横浜 2013年3月27日-30日)
 24. 新規 PI(3,5)P₂ 誘導体の合成と vicenistatin の作用機構解析への応用 (口頭発表)、真野昂裕、岩濑好治、臼井健郎、叶直樹、日本薬学会 第133年会 (横浜 2013年3月27日-30日) 学生優秀発表賞受賞
 25. Heronamide C の合成研究 (2) (口頭発表)、伊東俊哉、坂西航平、叶直樹、岩濑好治、日本薬学会 第133年会 (横浜 2013年3月27日-30日) 学生優秀発表賞受賞
 26. Dual Structure-Activity Relationship of a Naturally-occurring Osteolastogenesis Inhibitor Methyl Gerfelin Based on TEG Scanning (Oral presentation)
Naoki Kanoh, Cambodian Malaysian Chemical Congress 2012 (2012年10月20日, Angkor Century Resort & Spa, Siem Reap, Cambodia)
 27. Synthesis and Structure-Activity Relationship of Vicenistatin, a Naturally-occurring Cytotoxic 20-Membered Macrolactam (Oral presentation), Naoki Kanoh, 17 Malaysian Chemical Congress 2012 (2012年10月17日, Putra World Trade Centre, Kuala Lumpur, Malaysia)
 28. 抗腫瘍性マクロライド FD-891 の合成研究 (2) (口頭発表)、川又綾乃、宮崎雄太、八幡健三、叶直樹、岩濑好治、第51回日本薬学会東北支部大会 (2012年10月7日、青森大学、青森)
 29. 生物活性小分子の分子標的探索・分子設計の革新を目指して (招待講演)、叶直樹、化学系学協会東北大会 有機化学コロキウム 有機化学の最前線：マテリアルケミストリーからケミカルバイオロジーまで (2012年9月15日、秋田大学、秋田)
 30. 固定化・プローブ化を基軸とした生物活性小分子のケミカルバイオロジー (招待講演) 叶直樹、サントリー生物有機化学研究所シンポジウム (2012年8月28日、サントリー研究センター、大阪)
 31. アルキンの還元的クロスカップリング反応を用いる heronamide C の合成研究 (口頭発表) 坂西航平、叶直樹、岩濑好治、日本薬学会 第132年会 (札幌 2012年3月28日-31日)
 32. 抗腫瘍性ビオチン化 C5-クルクミノイド GO-Y086 は細胞内で KSRP/FUBP2 に結合する (口頭発表) 山越博幸、叶直樹、高山亜紀、工藤千枝子、佐藤温子、上田和則、室井 誠、昆 俊亮、佐竹正延、大堀久詔、石川千加史、大島吉輝、長田裕之、千葉奈津子、柴田浩行、岩濑好治、日本薬学会 第132年会 (札幌 2012年3月28日-31日)
 33. GLO1 選択的結合能を有する破骨細胞分化阻害剤 methyl gerfelin 誘導体の創製 (口頭発表) 鈴木貴大、叶直樹、高山 浩、川谷 誠、長田裕之、加藤泰弘、大島吉輝、岩濑好治、日本薬学会 第132年会 (札幌 2012年3月28日-31日)
 34. 抗腫瘍活性天然物 ircinastatin B の全合成研究 (口頭発表) 上杉惇一郎、渡辺 翼、澁谷正俊、叶直樹、岩濑好治、日本薬学会 第132年会 (札幌 2012年3月28日-31日)
 35. 三置換ビニルヨージドと β 置換ビニルスズ化合物の異常 Stille カップリング反応 (口頭発表) 大野裕太郎、福田 隼、叶直樹、岩濑好治、日本薬学会 第132年会 (札幌 2012年3月28日-31日)
 36. Photo-generated carbene in chemical genomics: A nonselective strategy for ligand screening and target identification (Invited talk) Naoki Kanoh, The 2nd Dalian University of Technology-Tohoku University Symposium on Chemistry“Challenges in Environmental, Biochemical, and Materials Science & Technology”(2011年12月8日、大連理工大学、大連、中国)
 37. 分子内ダブルマイケル反応とプリンス環化反応を鍵とする(-)-Scabronine G の不斉全合成 (口頭発表) 坂西航平、第26回有機合成化学者若手研究者の仙台セミナー (仙台 2011年12月3日)
 38. 固定化・プローブ化を基軸とした生物活性小分子のケミカルバイオロジー (招待講演) 叶直樹、第14回生命化学研究会 (2011年12月2日、ラフォーレ南紀白浜、和歌山)
 39. 固定化・プローブ化を基軸とした生物活性小分子のケミカルバイオロジー (招待講演) 叶直樹、若手研究者のための有機化学札幌セミナー (2011年11月28日、北海道大学農学部)
 40. Photo-generated carbene in chemical genomics: A nonselective strategy for ligand screening and target identification (Invited talk) Naoki Kanoh, 2011 International Symposium on Recent Advances in Drug Discovery and Development (2011年11月18日、Chungbuk National University, Korea)
 41. (-)-Scabronine G の不斉全合成 (口頭発表) 坂西航平、飯森絵美子、西村謙一、叶直樹、岩濑好治、第50回記念日本薬学会東北支部大会 (仙台 2011年10月29日-30日) 若手研究者発表賞
 42. 三置換ビニルヨージドとビニルスズ化合物の異常 Stille カップリング反応 (口頭発表) 大野裕太郎、福田隼、叶直樹、岩濑好治、第50回記念日本薬学会東北支部大会 (仙台 2011年10月29日-30日)
 43. (-)-Scabronine G の不斉全合成 (ポスター発表) 坂西航平、飯森絵美子、西村謙一、叶直樹、岩濑好治、第28回有機合成化学セミナー (山形・天童 2011年8月31日-9月2日)
 44. 固定化・プローブ化を基軸とした生物活性小分子のケミカルバイオロジー (招待講演) 叶直樹、日本薬学会東北支部若手研究者セミナー (2011年8月27日、東北薬科大学、宮城)

【木越英夫】

1. Aplyronine A, an antitumor marine macrolide from *Aplysia kurodai*, Sino-Japan Workshop on Chemical Biology, Beijing, China, 2014.10.10-13.(11)
2. Aplyronine A, an Antitumor Marine Macrolide, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products:Target ID and Regulation of Bioactivity,Yokohama, Japan, 2013.10.28-29.(28)
3. Total Synthesis of 13-Oxyingenol, The 2012 International Symposium on Natural Products Chemistry and Chemical Biology, Hangzhou, China, 2012.11.23-26.(25)
4. Total Synthesis of 13-Oxyingenol, 13th International Symposium on Natural Product Chemistry (ISNPC-13), Karachi, Pakistan, 2012.9.22-25.(23)
5. Synthesis and Biological Activities of a Hybrid between Aplyronine A and Mycalolide B, Actin-depolymerizing Marine Macrolides, 7th US – Japan Seminar: Frontiers in Marine Natural Products Research, Okinawa, Japan, 2011.12.15.
6. Synthesis and Biological Activities of a Hybrid between Aplyronine A and Mycalolide B, Actin-Depolymerizing Marine Macrolides, 14th Asian Chemical Congress, Bangkok, Thailand, 2011.9.6.
7. 「海洋産抗腫瘍性物質アプリロニン A の生物有機化学」、第40回反応と合成の進歩シンポジウム、仙台(2014.11.10).

8. 「海洋産抗腫瘍性物質アブリロニン A と細胞骨格タンパク質」、第 26 回万有札幌シンポジウム、札幌 (2014.7.5).
9. 「海洋産抗腫瘍性物質アブリロニン A の生物有機化学」、日本農芸化学会 2014 年度大会 (シンポジウム「生命現象の鍵として働く化合物とその標的タンパク質の化学と生物」)、川崎 (2014.3.30).
10. 「海洋産抗腫瘍性物質の生物有機化学」、第 44 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会 (特別討論会「先導的分子創製を目指す有機化学」)、浜松 (2013.11.2).
11. 「海洋産抗腫瘍性物質の生物有機化学」、第 23 回神奈川大学平塚シンポジウム-ケミカルバイオロジー最前線-、平塚 (2013.3.9).
12. 「海洋天然物のアクチン脱重合活性と細胞毒性」、日本化学会特別企画、横浜 (2012.3.25).

【西川俊夫】

1. 西川俊夫: ヘテロ環天然物の全合成研究—天然物合成は新規反応発見の場 (きっかけ) となるか? 関西学院大学理工学部講演会 (神戸) 2011.9.9.
2. 西川俊夫: 含グアニジン天然物の合成研究—イオンチャネル阻害剤の創製を目指して—. 第 356 回東北大学大学院薬学研究科セミナー (仙台) 2011.9.13.
3. Masaatsu Adachi. Total Synthesis of Polygalolide A, Isolated from a Medicinal Plant. The 1st Nagoya Symposium on Green Synthesis & Catalysis (Nagoya, Japan). 2012.3.13.
4. 西川俊夫: イオンチャネル阻害剤の創製を目指した海産天然毒の化学合成。シンポジウム 4SY09「天然物ケミカルバイオロジー」日本農芸化学会 2012 年度大会 (京都) 2012.3.25.
5. Toshio Nishikawa: Synthetic Studies on Guanidine-Containing Natural Products. ACP Lectureship Tour (Hong Kong, P. R. China) 2012.4.24-2012.4.29.
6. 西川俊夫: ヘテロ環天然物の全合成研究 -天然物合成は新規反応発見の場 (きっかけ) となるか? 広島大学大学院理学研究科 特別講演会 (東広島) 2012.6.15.
7. 安立昌篤、山田ひと美、磯部 稔、西川俊夫: 薬用植物由来の多環性天然物 Polygalolide A の全合成。新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御」第 1 回若手研究者ワークショップ (東京) 2012.6.16.
8. 西川俊夫: ヘテロ環天然物の全合成研究 -天然物合成は新規反応発見の場 (きっかけ) となるか? 筑波大学大学院物質化学研究科講演会 (つくば) 2012.11.13.
9. Toshio Nishikawa: Synthesis of Guanidine-Containing Natural Products. International Symposium on Natural Products Chemistry and Chemical Biology 2012 (Hangzhou, China) 2012.11.23-2012.11.26.
10. Toshio Nishikawa, Masaatsu Adachi, Ryo Sakakibara, Shouta Tokoro, Takuya Imazu, Yoshiki Satake, Minoru Isobe : Synthetic Studies on Nitrogen-Containing Natural Products. Pure and Applied Chemistry International Conference 2013 (Bangsaen Beach, Thailand) 2013.1.23-2013.1.25.
11. 西川俊夫: 多環多官能性天然物の合成戦略。日本薬学会シンポジウム「新しい分子構築戦略—効率的な生物活性分子の合成に向けて—」日本薬学会第 133 年会 (横浜) 2013.3.28.
12. 西川俊夫: テトロドトキシンの全合成研究 -フグ毒の謎を追って-。理研シンポジウム 未来に繋ぐ天然物合成化学 (大阪) 2013.5.31.
13. 西川俊夫: ヘテロ環天然物の合成研究。平成 25 年度有機合成化学協会東海支部 若手研究者のためのセミナー (三重) 2013.7.12.
14. Toshio Nishikawa : Synthesis of guanidine-containing natural products. ACP Lectureship Tour (Nanyang Technological University, National University of Singapore, Singapore) 2013.9.9-2013.9.13.
15. 安立昌篤: 多環式天然物の合成研究。天然物化学研究会「天然物化学の潮流を読む」(東京) 2013.10.18.
16. Toshio Nishikawa : Total syntheses on guanidine-containing natural products. ACP Lectureship Tour (Hankaku University of Foreign Studies, Kangwon National University, POSTECH, Korea) 2013.10.21-2013.10.25.
17. 西川俊夫: 含グアニジン天然物の合成研究—イオンチャネル阻害剤の創製を目指して—。住友化学株式会社 健康・農業関連事業研究所講演会 (宝塚) 2014.3.11.
18. 西川俊夫: グアニジン天然物の合成研究。神戸薬科大学特別研究セミナー (神戸) 2014.3.12.
19. Toshio Nishikawa : Syntheses of Guanidine-Containing Natural products by Means of Cascade Boromocyclization. The International Startup Symposium of CUTTING-EDGE ORGANIC CHEMISTRY IN ASIA (III) (Hsinchu, Taiwan) 2014.4.19-2014.4.21.
20. 西川俊夫: ジャガイモシスト線虫孵化促進物質の化学合成。公益財団法人山田科学振興財団 2014 年度研究交歓会成果発表会 (東京) 2014.5.31.
21. 西川俊夫: 含グアニジン天然物の全合成研究—新規イオンチャネル阻害剤の開発を目指して—。第 25 回記念万有仙台シンポジウム (仙台) 2014.6.14.
22. 西川俊夫: ヘテロ環天然物の全合成研究—天然物合成は新規反応発見の場 (きっかけ) となるか?—。神戸大学有機化学講演会 (神戸) 2014.8.1.
23. 西川俊夫: 含グアニジン天然物の全合成研究。平成 26 年度日本農芸化学会関西支部 京都府立大学 生命分子化学科・鴨叡会セミナー 有機化学・天然物化学セミナー (京都) 2014.9.25.
24. Toshio Nishikawa: Synthesis and Biological Activities of Guanidine-containing Natural Products. The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural products: Target ID and Regulation of Bioactivity (Osaka) 2014.10.28-10.29.
25. Toshio Nishikawa: Synthesis of Guanidine-containing Natural Products by Means of Cascade Bromocyclization. The international Symposium on Natural Products Chemistry and Chemical Biology 2014 (Hangzhou, China) 2014.11.22-2014.11.25.
26. Masaatsu Adachi: Total Synthesis of Chiriquitoxin, an Analogue of Tetrodotoxin Isolated from the Skin of a Dart Frog. 日本化学会第 95 春季年会: 日本化学会アジア国際シンポジウム (船橋) 2015.3.27.
27. 西川俊夫: 天然物合成と構造決定。静岡大学講演会 (静岡) 2015.4.24.
28. Toshio Nishikawa : Biomimetic Synthesis of Biologically Active Steroidal Natural Products. Kick-off Symposium on Advanced Research Network for Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia (Tohoku University, Japan) 2015.8.25-2015.8.26.
29. Toshio Nishikawa : Syntheses of Biologically Active natural products by Means of Cascade Reactions. The 6th Japanese-Sino Symposium on Organic Chemistry for Young Scientists (Sendai, Japan) 2015.9.6-2015.9.9.
30. Toshio Nishikawa: Syntheses of Guanidine-containing Natural Products Aiming at development of Ion-channel Blockers. 10th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium (AIMECS2015)(ICC JEJU, KOREA) 2015.10.18-2015.10.21.
31. Toshio Nishikawa: Biomimetic Synthesis of Biologically Active Steroidal Natural Products. ICCEOCA-10/ARNCEOCA-1 (Taiwan) 2015.11.2-2015.11.5.
32. Toshio Nishikawa, Yoshiki Nakane, Atsuo Nakazaki, Takuya Imazu, Shouta Tokoro, Ryo Sakakibara, Masaatsu Adachi, Keiichi Konoki, Mari Yotsu-Yamashita: Synthesis of biologically active steroid-derived compounds from an edible mushroom. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem 2015) (Honolulu, Hawaii, USA) 2015.12.15-2015.12.20.

33. 安立昌篤、榊原 良、佐竹佳樹、磯部 稔、西川俊夫：Total Synthesis of 5,6,11-Trideoxytetradotoxin.名古屋大学グローバル COE 「システム生命科学の展開：生命機能の設計」 第5回リトリート Keep Our Scientific Interaction Alive～科学で交流し続けよう～（長浜）2011.9.5-2011.9.6.（一般講演）
34. 山田ひと美、安立昌篤、磯部 稔、西川俊夫：Total Synthesis of Polygalolide A. 名古屋大学グローバル COE 「システム生命科学の展開：生命機能の設計」 第5回リトリート Keep Our Scientific Interaction Alive～科学で交流し続けよう～（長浜）2011.9.5-2011.9.6.（ポスター発表）
35. 松本信之、辻本 恭、中崎敦夫、西川俊夫：抗腫瘍抗生物質パクタマイシンの合成研究。名古屋大学グローバル COE 「システム生命科学の展開：生命機能の設計」 第5回リトリート Keep Our Scientific Interaction Alive～科学で交流し続けよう～（長浜）2011.9.5-2011.9.6.（ポスター発表）
36. 阿部由佳、西川俊夫、磯部 稔、小野寺健一、此木敬一、長由扶子、安元 健、山下まり：新規テトロドキシソキソ類縁体の同定と各種海洋生物中の毒組成の比較。日本農芸化学会東北支部第146回大会（山形）2011.10.8.（ポスター発表）
37. 澤山裕介、西川俊夫：Decarbamoyl- α -saxitoxinol の合成。第53回天然有機化合物討論会（大阪）2011.9.27-2011.9.29.（一般講演）
38. 中崎敦夫、森 綾子、小林 進、西川俊夫：C-N軸性キラリティを利用した3,3-二置換オキシインドールの新規立体制御法。2011年度日本農芸化学会関西・中部支部合同大会（京都）2011.10.1-2011.10.2.（ポスター発表）
39. 宮田典明、久世雅樹、西川俊夫：両極性炭素を持つイミダゾロン化合物の化学合成研究。2011年度日本農芸化学会関西・中部支部合同大会（京都）2011.10.1-2011.10.2.（ポスター発表）
40. 樋口恵子、Nopporn Thasana、杉野公美、中崎敦夫、安立昌篤、西川俊夫：インドールアルカロイド sespendole 芳香環部分の合成研究。第42回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（長野）2011.11.5-2011.11.6.（ポスター発表）
41. 所 聖太、安立昌篤、磯部 稔、西川俊夫：8-デオキシテトロドキシソの立体制御合成。第42回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（長野）2011.11.5-2011.11.6.（ポスター発表）
42. 三矢和志、中崎敦夫、久世雅樹、西川俊夫：糖アミノ酸C-マンノシルトリプトファン（C-Man-Trp）の合成研究。第42回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（長野）2011.11.5-2011.11.6.（ポスター発表）
43. 榊原 良、安立昌篤、佐竹佳樹、磯部 稔、西川俊夫：テトロドキシソおよびチリキソキソの合成研究。第100回有機合成シンポジウム（東京）2011.11.10-2011.11.11.（ポスター発表）
44. 山田ひと美、安立昌篤、磯部 稔、西川俊夫：薬用植物由来の多環性化合物ポリガロリドAの化学合成。2011年度名古屋大学若手女性研究者サイエンスフォーラム（名古屋）2011.11.29.（ポスター発表）
45. Toshio Nishikawa, Yusuke Sawayama. A New Synthetic Route to the Saxitoxin Skeleton. The 6th International Conference on Cutting-edge Organic Chemistry in Asia (ICCEOCA-6). The 2nd New Phase International Conference on Cutting-edge Organic Chemistry in Asia (Hong Kong, P. R. China). 2011.12.11-2011.12.15.（ポスター発表）
46. Masaatsu Adachi, Hitomi Yamada, Minoru Isobe, Toshio Nishikawa. Total Synthesis of Polygalolide A. The 6th International Conference on Cutting-edge Organic Chemistry in Asia (ICCEOCA-6). The 2nd New Phase International Conference on Cutting-edge Organic Chemistry in Asia (Hong Kong, P. R. China). 2011.12.11-2011.12.15.（ポスター発表）
47. 松本信之、辻本 恭、中崎敦夫、西川俊夫：抗腫瘍抗生物質パクタマイシンの合成研究。日本農芸化学会2012年度大会（京都）2012.3.22-2012.3.26.（一般講演）
48. 樋口恵子、Nopporn Thasana、安立昌篤、西川俊夫：インドールアルカロイド sespendole 芳香環部分の合成研究と立体化学の決定。日本農芸化学会2012年度大会（京都）2012.3.22-2012.3.26.（一般講演）
49. 中崎敦夫、森 綾子、小林 進、西川俊夫：C-N軸性キラリティを利用した種々の3,3-二置換オキシインドール骨格の合成。日本農芸化学会2012年度京都大会（京都）2012.3.23-2012.3.26.（一般講演）
50. 山田ひと美、安立昌篤、西川俊夫：植物毒素 Tagetitoxin の合成研究。日本農芸化学会2012年度大会（京都）2012.3.22-2012.3.26.（一般講演）
51. 所 聖太、安立昌篤、磯部 稔、西川俊夫：8-デオキシテトロドキシソの立体制御合成。日本農芸化学会2012年度大会（京都）2012.3.22-2012.3.26.（一般講演）
52. 駒田武馬、安立昌篤、西川俊夫：ソラノエクレピンA右側部分の合成研究。日本農芸化学会2012年度大会（京都）2012.3.22-2012.3.26.（一般講演）
53. 原 由香里、梶井重男、中崎敦夫、磯部 稔、西川俊夫：海産アルカロイドチャルテリンCの合成研究。日本農芸化学会2012年度大会（京都）2012.3.22-2012.3.26.（一般講演）
54. 榊原 良、安立昌篤、佐竹佳樹、磯部 稔、西川俊夫：テトロドキシソおよびチリキソキソの合成研究。日本農芸化学会2012年度大会（京都）2012.3.22-2012.3.26.（一般講演）
55. 久世雅樹、田中瑛子、西川俊夫、滝川浩郷「発光タンパク質 Pholasin のクロモフォア形成部位に関する研究」。日本農芸化学会2012年度大会（京都）2012.3.22-2012.3.26.（一般講演）
56. 阿部由佳、西川俊夫、磯部 稔、小野寺健一、此木敬一、長由扶子、安元 健、山下まり：新規テトロドキシソ類縁体の同定と各種海洋生物中の毒組成の比較。平成24年度日本水産学会春季大会（東京）2012.3.26-2012.3.30.（一般講演）
57. 石川裕生、澤山裕介、中崎敦夫、西川俊夫：環状グアニジン骨格を有する海産天然物クランベシンBの合成研究。新規素材探索研究会第11回セミナー（横浜）2012.6.8.（ポスター発表）
58. 西川俊夫、安立昌篤、此木敬一：サブタイプ選択的Na⁺チャネル阻害剤創製を目指したテトロドキシソ類縁体の合成研究。新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」第2回領域公開シンポジウム（東京）2012.6.17-2012.6.18.（ポスター発表）
59. 樋口恵子、Nopporn Thasana、山田ひと美、杉野公美、中崎敦夫、安立昌篤、西川俊夫：インドールアルカロイド セスペンドールの合成研究。第47回天然化学物談話会（熊本）2012.7.4-2012.7.6.（ポスター発表）
60. 今津拓也、安立昌篤、西川俊夫：5,11-ジデオキシテトロドキシソの合成。第47回天然化学物談話会（熊本）2012.7.4-2012.7.6.（ポスター発表）
61. 松原真史、山田ひと美、安立昌篤、西川俊夫：ポリガロリド類縁体の合成研究。第47回天然化学物談話会（熊本）2012.7.4-2012.7.6.（ポスター発表）
62. 上野壮平、中崎敦夫、西川俊夫：環状グアニジン化合物の合成研究。第47回天然化学物談話会（熊本）2012.7.4-2012.7.6.（ポスター発表）
63. 山田ひと美、安立昌篤、西川俊夫：植物毒素 Tagetitoxin の合成研究。第29回有機合成化学セミナー（静岡）2012.9.5-2012.9.7.（ポスター発表）

64. 松本信之、辻本 恭、中崎敦夫、西川俊夫：抗腫瘍抗生物質 Pactamycin の合成研究。第 29 回有機合成化学セミナー（静岡）2012.9.5-2012.9.7。（ポスター発表）
65. 樋口恵子、Nopporn Thasana、山田ひと美、杉野公美、中崎敦夫、安立昌篤、西川俊夫：インドールアルカロイド セスペンドールの合成研究。名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム グリーン自然科学国際教育研究プログラム 自然科学連携講座 2（基礎生物学研究所）&リトリート研究所研修（岡崎）2012.9.10-2012.9.11。（ポスター発表）
66. 上野壮平、中崎敦夫、西川俊夫：環状グアニジン化合物の合成研究。名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム グリーン自然科学国際教育研究プログラム 自然科学連携講座 2（基礎生物学研究所）&リトリート研究所研修（岡崎）2012.9.10-2012.9.11。（ポスター発表）
67. Wen-Yu Huang, Boon-ek Yingyongnarongkul, Jutatip Boonsombat, Atsuo Nakazaki, Toshio Nishikawa：Synthetic Study on *ortho*-Terphenyl *ortho*-Quinone. 名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム グリーン自然科学国際教育研究プログラム 自然科学連携講座 2（基礎生物学研究所）&リトリート研究所研修（岡崎）2012.9.10-2012.9.11。（ポスター発表）
68. 久世雅樹、田中瑛子、古市卓也、南郷成子、久保尚洋、滝川浩郷、西川俊夫：発光タンパク質 Pholasin の発光機構に関する生物有機化学的研究。第 54 回天然有機化合物討論会（東京）2012.9.18-2012.9.20。（ポスター発表）
69. 今津拓也、安立昌篤、磯部 稔、西川俊夫：5,11-ジデオキシテトロドトキシンの全合成。日本農芸化学会中部支部第 165 回例会（名古屋）2012.10.27。（ポスター発表）
70. 合田麗加、中崎敦夫、西川俊夫：オニヒトデ由来のステロイド配糖体、アカンサステロサイド B3 の合成研究。日本農芸化学会中部支部第 165 回例会（名古屋）2012.10.27。（ポスター発表）
71. Toshio Nishikawa, Masaatsu Adachi, Ryo Sakakibara, Takuya Imazu, Yoshiki Satake, Minoru Isobe: Synthesis of Marine Toxins Aiming at Developing Ion-Channel Inhibitors. The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity (Kyoto) 2012.10.31-2012.11.1.（一般講演）
72. Toshio Nishikawa, Masaatsu Adachi, Ryo Sakakibara, Shouta Tokoro, Takuya Imazu, Yoshiki Satake, Minoru Isobe: Collective Synthesis of Tetrodotoxin and its Analogus. The 7th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia and The 3rd New Phase International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia (ICCEOCA-7/NICCEOCA-3) (Singapore)（一般講演）
73. 山田ひと美、安立昌篤、西川俊夫：植物毒素 Tagetitoxin の合成研究。名古屋大学博士課程教育リーディングプログラムリーディングプログラム 成果報告会（名古屋）2013.1.10。（ポスター発表）
74. 本信之、辻本 恭、中崎敦夫、西川俊夫：抗腫瘍抗生物質 Pactamycin の合成研究。名古屋大学博士課程教育リーディングプログラムリーディングプログラム 成果報告会（名古屋）2013.1.10。（ポスター発表）
75. 山田ひと美、安立昌篤、西川俊夫：植物毒素 Tagetitoxin の合成研究。日本農芸化学会 2013 年度大会(仙台)2013.3.24-2013.3.28.（一般講演）
76. 今津拓也、安立昌篤、磯部 稔、西川俊夫：5,11-ジデオキシテトロドトキシンの全合成。日本農芸化学会 2013 年度大会(仙台)2013.3.24-2013.3.28.（一般講演）
77. 合田麗加、中崎敦夫、西川俊夫：生理活性ステロイド配糖体、アカンサステロサイド B3 の合成研究。日本農芸化学会 2013 年度大会(仙台)2013.3.24-2013.3.28.（一般講演）
78. 上野壮平、中崎敦夫、西川俊夫：連続環化反応による Saxitoxin 骨格の合成研究。日本農芸化学会 2013 年度大会(仙台)2013.3.24-2013.3.28.（一般講演）
79. Wen-Yu Huang, Boon-ek Yingyongnarongkul, Jutatip Boonsombat, Atsuo Nakazaki, Toshio Nishikawa：Synthetic Study on *ortho*-Terphenyl *ortho*-Quinone. 日本農芸化学会 2013 年度大会(仙台)2013.3.24-2013.3.28.（一般講演）
80. Keiko Higuchi, Nopporn Thasana, Kumi Sugino, Atsuo Nakazaki, Masaatsu Adachi, Toshio Nishikawa：Synthetic Studies on Suspendole. Thieme Chemistry - Nagoya Symposium 2013 (Nagoya) 2013.5.23.（ポスター発表）
81. Sohei Ueno, Atsuo Nakazaki, Toshio Nishikawa：Synthetic studies toward saxitoxin skeleton by a cascade cyclization reaction. Thieme Chemistry - Nagoya Symposium 2013 (Nagoya) 2013.5.23.（ポスター発表）
82. 西川俊夫、中崎敦夫、石川裕生、澤山裕介：イオンチャネル阻害剤の合成研究。新学術領域研究（研究領域提案型）天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～第 4 回公開シンポジウム（つくば）2013.5.28-5.29.（ポスター発表）
83. 樋口恵子、Nopporn Thasana、山田ひと美、杉野公美、中崎敦夫、安立昌篤、西川俊夫：インドールアルカロイド セスペンドールの合成研究。第 48 回天然有機化合物討論会（滋賀）2013.7.3.-2012.7.5.（ポスター発表）
84. 安立昌篤、今津拓也、榊原 良、佐竹佳樹、磯部 稔、西川俊夫：矢毒カエル毒チリキトキシンの全合成。第 5 回天然有機化合物討論会（京都）2013.9.18-2013.9.20.（一般講演）
85. 樋口恵子、Nopporn Thasana、杉野公美、中崎敦夫、安立昌篤、西川俊夫：インドールアルカロイド セスペンドールの合成研究。名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム グリーン自然科学国際教育研究プログラム 「企業研究者を志すための合成化学セミナー」（名古屋）2013.9.20.（ポスター発表）
86. Nobuyuki Matsumoto, Atsuo Nakazaki, Toshio Nishikawa：Synthetic Studies toward ent-Pactamycin. 13th International Conference on the Chemistry of Antibiotics and Other Bioactive Compounds (ICCA-13) (Yamanashi) 2013.9.24-2013.9.27.（ポスター発表）
87. 池田 藍、中崎敦夫、西川俊夫：cis-縮環を有する多環式骨格の立体選択的構築。日本農芸化学会中部支部第 168 回例会（名古屋）2013.10.12.（ポスター発表）
88. 石川裕生、澤山裕介、中崎敦夫、西川俊夫：Crambescin B カルボン酸の合成。第 43 回複素環化学討論会（岐阜）2013. 10.17-10.19.（ポスター発表）
89. 千葉雪絵、長由扶子、安立昌篤、榊原 良、所 聖太、今津拓也、磯部 稔、西川俊夫、山下まり、此木敬一：Na_v安定発現系の構築と TTX 関連化合物の結合性評価。日本農芸化学会東北支部第 148 回大会（盛岡）2013.10.26.（ポスター発表）
90. Toshio Nishikawa, Masaatsu Adachi, Ryo Sakakibara, Takuya Imazu, Yoshiki Satake, Shouta Tokoro, Atsuo Nakazaki, Yuuki Ishikawa, Yusuke Sawayama, Minoru Isobe, Keiichi Konoki, Yukie Chiba, Mari Yotsu-Yamashita: Synthesis of Marine Toxins Aiming at Developing Ion-Channel Inhibitors. The 2st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity (Yokohama) 2013.10.28-2013.10.29.（ポスター発表）
91. Mari Yotsu-Yamashita, Yuka Abe, Yuta Kudo, Keiichi Konoki, Yuko Cho, Toshio Nishikawa, Minoru Isobe: Identification of 5,11-dideoxytetrodotoxin in marine animals, and characterization of ESI-MS fragment ions of tetrodotoxin and its analogs. International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch Chemical Society of Japan (Sendai), 2013.9.28-2013.9.30.（ポスター発表）
92. Mari Yotsu-Yamashita, Yuka Abe, Yuta Kudo, Keiichi Konoki, Yuko Cho, Toshio Nishikawa, Minoru Isobe: The structure of the novel tetrodotoxin analog, 6-deoxytetrodotoxin, and structure activity relationship study on C-6 and C-11 hydroxyl groups of tetrodotoxin. International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch Chemical Society of Japan (Sendai), 2013.9.28-2013.9.30.（ポスター発表）

93. 上野壮平、中崎敦夫、西川俊夫：カスケード型プロモ環化反応を用いたサキシトキシン骨格の効率的構築法の開発。第44回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（浜松）2013.11.2-2013.11.3。（ポスター発表）
94. 橋本穂果、今津拓也、榊原 良、安立昌篤、西川俊夫：MTM 基の新しい脱保護法に関する研究。第44回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（浜松）2013.11.2-2013.11.3。（ポスター発表）
95. 宮川敬太郎、西川俊夫、中崎敦夫：軸不斉を有する *ortho*-アザキシリレン中間体を利用した 3,3-二置換オキシインドールの立体選択的合成。第44回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（浜松）2013.11.2-2013.11.3。（ポスター発表）
96. 木村梨乃、澤山裕介、西川俊夫：*gem*-ジプロモメチレンを用いた新規反応の開発。第44回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（浜松）2013.11.2-2013.11.3。（ポスター発表）
97. Hitomi Yamada, Masaatsu Adachi, Toshio Nishikawa: Synthetic Studies on Tagetitoxin. The 8th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia and The 4th New Phase International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia (ICCEOCA-8/NICCEOCA-4) (Osaka) 2013.11.25-2013.11.28. (一般講演)
98. Keiko Higuchi, Nopporn Thasana, Kumi Sugino, Atsuo Nakazaki, Masaatsu Adachi, Toshio Nishikawa: Synthetic Studies on Sependole. 名古屋大学博士課程教育リーディングプログラムリーディングプログラム 成果報告会（名古屋）2014.1.8.（ポスター発表）
99. 樋口恵子、杉野公美、中崎敦夫、安立昌篤、西川俊夫：インドールアルカロイド セスペンドールの合成研究。日本農芸化学会 2014 年度大会（東京）2014.3.27-2014.3.30.（一般講演）
100. 上野壮平、中崎敦夫、西川俊夫：サキシトキシン骨格の新規構築法の開発。日本農芸化学会 2014 年度大会（東京）2014.3.27-2014.3.30.（一般講演）
101. Wen-Yu Huang, Atsuo Nakazaki, Toshio Nishikawa: Synthetic Study on Lycojapodine A. 日本農芸化学会 2014 年度大会（東京）2014.3.27-2014.3.30.（一般講演）
102. 橋本穂果、今津拓也、榊原 良、安立昌篤、西川俊夫：MTM エーテルの新しい脱保護法の開発。日本農芸化学会 2014 年度大会（東京）2014.3.27-2014.3.30.（一般講演）
103. 木村梨乃、澤山裕介、西川俊夫：*gem*-ジプロモメチレンからケトンへの新規変換条件。日本農芸化学会 2014 年度大会（東京）2014.3.27-2014.3.30.（一般講演）
104. Yoshiki Nakane, Atsuo Nakazaki, Yuki Ishikawa, Yusuke Sawayama, Toshio Nishikawa: Asymmetric Synthesis of Crambescic B Carboxylic Acid, A Potent Inhibitor of Voltage-Gated Sodium Channels. IGER international Symposium on Chemical Science in Asia (Nagoya) 2014.5.26-2014.5.28.（ポスター発表）
105. 西川俊夫、安立昌篤、此木敬一：グアニジン天然物の合成と新規イオンチャネル阻害剤の開発。新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」第6回領域公開シンポジウム（名古屋）2014.5.28-2014.5.29.（ポスター発表）
106. 上野壮平、中崎敦夫、西川俊夫：(+)-saxitoxin の合成研究。第49回天然物化学談話会（岡山）2014.7.2-2014.7.4.（ポスター発表）
107. 宮澤 悠、安立昌篤、室岡孝信、宮崎雅雄、西川俊夫：イリドイド類の合成研究。第49回天然物化学談話会（岡山）2014.7.2-2014.7.4.（ポスター発表）
108. 中根嘉祈、中崎敦夫、西川俊夫：光学活性体クランベシン B カルボン酸の合成研究。第49回天然物化学談話会（岡山）2014.7.2-2014.7.4.（ポスター発表）
109. Wen-Yu Huang, Toshio Nishikawa, Atsuo Nakazaki: Synthetic Study on Lycojapodine A. 日本農芸化学会中部支部第171回例会（名古屋）2014.10.11.（ポスター発表）
110. 宮澤 悠、安立昌篤、室岡孝信、宮崎雅雄、西川俊夫：イリドイド類の合成研究。日本農芸化学会中部支部第171回例会（名古屋）2014.10.11.（ポスター発表）
111. 木村梨乃、澤山裕介、中崎敦夫、西川俊夫：*gem*-ジプロモメチレンのケトンへの新奇変換反応。第106回有機合成シンポジウム 2014 年【秋】（東京）2014.11.6-2014.11.7.（一般講演）
112. Atsuo Nakazaki, Yoshiki Nakane, Yuki Ishikawa, Yusuke Sawayama and Toshio Nishikawa: Stereocontrolled asymmetric synthesis of crambescic B carboxylic acid, a potent inhibitor of voltage-gated sodium channels. The 9th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia (ICCEOCA-9)/ The 5th New Phase International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia (NICCEOCA-5) (Petaling Jaya, Malaysia) 2014.12.1-2014.12.5.（ポスター発表）
113. Sohei Ueno, Atsuo Nakazaki, Toshio Nishikawa: Synthetic studies on (+)-saxitoxin. 名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム グリーン自然科学国際教育研究プログラム 年次報告会 2014（名古屋）2014.12.18.（ポスター発表）
114. Wen-Yu Huang, Toshio Nishikawa, Atsuo Nakazaki: Synthetic Study on Lycojapodine A. 名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム グリーン自然科学国際教育研究プログラム 年次報告会 2014（名古屋）2014.12.18.（ポスター発表）
115. 橋本穂果、今津拓也、榊原 良、安立昌篤、西川俊夫：*6-epi* テトロドトキシンの合成研究。日本農芸化学会 2015 年度大会（岡山）2015.3.26-2015.3.29.（一般講演）
116. 宮川敬太郎、西川俊夫、中崎敦夫：分子内不斉 *N*-アリアル化を利用した C-N 軸性キラリティを有するオキシインドールの合成。日本農芸化学会 2015 年度大会（岡山）2015.3.26-2015.3.29.（一般講演）
117. 中根嘉祈、中崎敦夫、西川俊夫：クランベシン B カルボン酸とその誘導体の不斉合成。日本農芸化学会 2015 年度大会（岡山）2015.3.26-2015.3.30.（一般講演）
118. 千葉雪絵、塚本匡顕、長由扶子、安立昌篤、榊原良、所聖太、中崎敦夫、石川裕生、西川俊夫、山下まり、此木敬一：電位依存性ナトリウムチャネルのサブタイプを識別するテトロドトキシシン類縁体の探索。日本農芸化学会 2015 年度大会（岡山）2015.3.26-2015.3.29.（一般講演）
119. 平田裕嗣、西川俊夫：生合成仮説に基づいたチャキシン B の 7 段階合成。新規素材探索研究会第14回セミナー（横浜）2015.6.5.（ポスター発表）
120. 西川俊夫、中崎敦夫、安立昌篤、此木敬一、山下まり：天然グアニジン化合物を基盤としたイオンチャネル阻害剤の開発。天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～ 第8回公開シンポジウム（仙台）2015.6.8-2015.6.9.（ポスター発表）
121. 中根嘉祈、中崎敦夫、石川裕生、澤山裕介、山下まり、西川俊夫：Crambescic B カルボン酸とその誘導体の不斉合成と生物活性評価。新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」第7回若手研究者ワークショップ（仙台）2015.6.9.（一般講演）
122. 西川俊夫、中崎敦夫、中根嘉祈、石川裕生、安立昌篤、橋本穂果、今津拓也、所聖太、榊原良、此木敬一、千葉雪絵、山下まり：ナトリウムチャネル阻害剤の創製を目指したグアニジン系天然物の合成。日本ケミカルバイオロジー学会 第10回年会（仙台）2015.6.10-2015.6.12.（ポスター発表）
123. 中根嘉祈、中崎敦夫、石川裕生、澤山裕介、山下まり、西川俊夫：クランベシン B カルボン酸とその誘導体の合成研究。第57回天然有機化合物討論会（横浜）2015.9.9-2015.9.11.（一般講演）

124. 上野壮平、中崎敦夫、西川俊夫：(+)-サキシトキシンの合成研究。第 32 回有機合成化学セミナー（湯河原）2015.9.15-2015.9.17。（ポスター発表）
125. 山本雄太、西川俊夫：エンドファイトが産生するペラミンの合成研究。2015 年度日本農芸化学会中部・関西支部合同大会（富山）2015.9.19-2015.9.20。（一般講演）
126. 橋本圭吉、池田 藍、西川俊夫、中崎敦夫：Inagami-Tamura EDLF（Endogenous Digitalis-Like Factor）の合成化学的研究。2015 年度日本農芸化学会中部・関西支部合同大会（富山）2015.9.19-20.（一般講演）
127. 塚本匡顕、千葉雪絵、長 由扶子、安立昌篤、榊原 良、所 聖太、今津拓也、中崎敦夫、石川裕生、西川俊夫、山下まり、此木敬一：電位依存性ナトリウムチャンネルに対するテトロドトキシンおよび類縁体の活性阻害評価。日本農芸化学会東北支部第 150 回大会（仙台）2015.10.3。（ポスター発表）
128. 宮澤 悠、駒田武馬、安立昌篤、西川俊夫：ジャガイモシスト線虫孵化促進物質ソラノエクレピン A の右側部分の合成研究。第 46 回中部化学関係学協会支部連合秋季大会（津）2015.11.7-2015.11.8。（ポスター発表）
129. Toshio Nishikawa, Yoshiki Nakane, Atsuo Nakazaki, Takuya Imazu, Shouta Tokoro, Ryo Sakakibara, Masaatsu Adachi, Keiichi Konoki, Mari Yotsu-Yamashita: Synthesis and biological activities of guanidine-containing natural products. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem 2015) (Honolulu, Hawaii, USA) 2015.12.15-2015.12.20.（一般講演）
130. Yuushi Hirata, Toshio Nishikawa: Eight-step synthesis of chaxine B based on a proposed biosynthetic pathway. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem 2015) (Honolulu, Hawaii, USA) 2015.12.15-2015.12.20.（ポスター発表）
131. Yoshiki Nakane, Yuki Ishikawa, Atsuo Nakazaki, Toshio Nishikawa: Asymmetric synthesis of crambescic B carboxylic acid, a potent inhibitor of voltage-gated sodium channels, and its analogues. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem 2015) (Honolulu, Hawaii, USA) 2015.12.15-2015.12.20.（ポスター発表）
132. Sohei Ueno, Atsuo Nakazaki, Toshio Nishikawa: Synthetic study on (+)-saxitoxin. 名古屋大学博士課程教育リーディングプログラム グリーン自然科学国際教育研究プログラム 年次報告会 2015（名古屋）2016.1.8.（ポスター発表）
133. 上野壮平、中崎敦夫、西川俊夫：(+)-サキシトキシンの合成研究。日本化学会第 96 春季年会（京都）2016.3.24-2016.3.27.（一般講演）
134. Wen-Yu Huang, Toshio Nishikawa, Atsuo Nakazaki: Synthetic Study on Lycojapodine A. 日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
135. 野倉吉彦、西川俊夫：アプリアトキシンの合成研究。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
136. 宮澤 悠、駒田武馬、安立昌篤、西川俊夫：ジャガイモシスト線虫孵化促進物質ソラノエクレピン A 右側部分の合成研究。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
137. 山本雄太、西川俊夫：エンドファイトが産生するアルカロイド、ペラミンの化学合成研究。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
138. 岩瀬翔太郎、堀田貴大、安立昌篤、西川俊夫：8-*epi* テトロドトキシンの合成研究。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
139. 植木佳織、樋口恵子、安立昌篤、西川俊夫：セスペンドール芳香環部分の光学活性体の合成研究。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
140. 橋本圭吉、池田 藍、西川俊夫、中崎敦夫：Inagami-Tamura EDLF の合成化学的研究：光学活性体の合成ルートの確立。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
141. 長谷川耕太、鳥居真衣、安立昌篤、西川俊夫：ジャガイモシスト線虫孵化促進物質ソラノエクレピン A 左側部分の合成研究。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
142. 室岡孝信、宮澤 悠、安立昌篤、山下哲郎、西川俊夫、宮崎雅雄：ネコにマタビ反応を誘発する新規活性物質の同定。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
143. 塚本匡顕、千葉雪絵、安立昌篤、榊原 良、所 聖太、今津拓也、佐竹佳樹、長 由扶子、西川俊夫、山下まり、此木敬一：電位依存性ナトリウムチャンネルに対するテトロドトキシンおよびその類縁体の阻害活性評価。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）
144. 猿橋祥吾、長由扶子、此木敬一、西川俊夫、山下まり：11-*oxo* TTX をハプテンとしたポリクローナル抗体の作製と TTX 誘導体の生理活性。日本農芸化学会 2016 年度大会（札幌）2016.3.27-2016.3.30.（ポスター発表）

【佐々木誠】

1. ガンビエロール光感応基標識アナログの合成と機能評価、小野寺 悠、廣田一晃、佐々木 誠、不破春彦、日本化学会第 96 春季年会、平成 28 年 3 月 24 日、同志社大学（京都）
2. Synthesis of medium-sized cyclic ethers via diastereoselective ring-closing metathesis、小野寺 悠、不破春彦、佐々木 誠、平成 25 年度化学系学協会東北大会、平成 27 年 9 月 13 日、弘前大学（弘前）
3. 光親和性標識基を導入したガンビエロール単純化類縁体の合成と生物活性評価、廣田一晃、菅 悠人、此木敬一、山下まり、不破春彦、佐々木 誠、日本化学会第 94 春季年会、平成 26 年 3 月 29 日、名古屋大学（名古屋）
4. An efficient synthesis of medium-sized cyclic ethers via functionalization of mixed thioacetals, Yuto Suga, Haruhiko Fuwa, and Makoto Sasaki, International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan, September 29, 2013, Tohoku University (Sendai)
5. Synthesis and biological evaluation of structural analogues of gambierol, Kazuaki Hirota, Yuto Suga, Haruhiko Fuwa, and Makoto Sasaki, International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan, September 29, 2013, Tohoku University (Sendai)
6. ガンビエロール構造単純化類縁体の設計及び合成と生物活性評価、菅 悠人、廣田一晃、不破春彦、佐々木 誠、第 24 回万有仙台シンポジウム、平成 25 年 6 月 29 日、仙台国際センター（仙台）
7. 混合チオアセタールの官能基化による環状エーテル合成、菅 悠人、不破春彦、佐々木 誠、日本化学会第 93 春季年会、平成 25 年 3 月 23 日、立命館大学（滋賀）
8. ガンビエロールの構造単純化類縁体の合成と生物活性評価、菅 悠人、不破春彦、後藤智見、今野 悠、佐々木 誠、Eva Alonso, Carmen Vale, Luis M. Botana, 第 54 回天然有機化合物討論会、平成 24 年 9 月 19 日、東京農業大学（東京）
9. ガンビエロールの構造単純化類縁体の合成と生物活性評価、日本ケミカルバイオロジー学会第 7 回年会、菅悠人、不破春彦、後藤智見、今野悠、佐々木誠、Eva Alonso, Carmen Vale, Luis M. Botana, 平成 24 年 6 月 7 日、京都大学（京都）
10. 電位依存性カリウムイオンチャンネルを阻害するポリエーテル天然物ガンビエロールの構造単純化類縁体の合成と生物活性評価、菅悠人、不破春彦、佐々木 誠、此木敬一、山下まり、Eva Alonso, Carmen Vale, Luis M. Botana, 日本化学会第 92 春季年会、平成 24 年 3 月 28 日、慶応義塾大学（横浜）

11. 海産天然物ガンビエロールの骨格構造－活性相関研究、菅悠人、不破春彦、佐々木 誠、東北大学グローバル COE プログラム分子系高次構造体化学国際教育研究拠点シンポジウム 2011、平成 23 年 11 月 19 日、東北大学（仙台）

【永次史】

1. 永次 史、効率的遺伝子発現制御を目指した選択的化学反应の開発、第 3 2 回有機合成セミナー、湯河原、2015/9/15-17 招待講演
2. Yusuke Abe, Ken Yamada, Yuta Ida, and Fumi Nagatsugi, Synthesis and Evaluation of the Reactivity of 7-Deaza-6-vinylguanosine Derivatives, Tohoku University Campus Asia Program Summer School 2015, 2015/8/28-30, Sendai, Japan
3. Tomohito Kobayashi, Kazumitsu Onizuka, Fumi Nagatsugi, Synthesis of vinyltriazine derivatives aiming at alkylation to U-U mismatch structure in RNA, Tohoku University Campus Asia Program Summer School 2015, 2015/8/28-30, Sendai, Japan
4. Yoshihiro Sasaki, Norihiro Sato, Genichiro Tsuji, Ken Yamada, Fumi Nagatsugi, Development of small molecular probes for selective alkylation of the higher-order structure of nucleic acids, Tohoku University Campus Asia Program Summer School 2015, 2015/8/28-30, Sendai, Japan
5. Takuya Amemiya, Kazumitsu Onizuka, Fumi Nagatsugi, Development of the interlocked structure formation method targeted RNA, Tohoku University Campus Asia Program Summer School 2015, 2015/8/28-30, Sendai, Japan
6. Fumi Nagatsugi, Shuhei Kusano, Shogo Ishiyama, Sik Lok Lam, Tsukasa Mashima, Masato Katahira, Fumi Nagatsugi, Development of the selective crosslinking reactions to 8-oxoguanine The 42th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry, Egret Himeji, Himeji Japan, 2015/9/23-25
7. Kazumitsu Onizuka, Takuya Miyashita, Fumi Nagatsugi, Pseudorotaxane formation via slipping process targeting on nucleic acids, The 42th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry, Egret Himeji, Himeji Japan, 2015/9/23-25
8. Kenji Kikuta, Piao Haishun, John Brazir, Kazumitsu Onizuka, Fumi Nagatsugi, Yosuke Taniguchi, Shigeki Sasaki, The effect of intra-strand cross-link formation on the stability of DNA i-motif, The 42th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry, Egret Himeji, Himeji Japan, 2015/9/23-25
9. 秋澤 拓也、永次 史、架橋反応性ペプチド核酸（PNA）を用いた遺伝子発現制御法の開発、第 2 6 回万有シンポジウム、仙台国際センター、仙台市、2015/6/6
10. 永次 史、茂木 琢磨、草野修平、佐藤憲大、遺伝子を標的とした新規機能性低分子プローブの開発 天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御 第 6 回領域公開シンポジウム、東北大学、2015/6/8-9
11. 永次 史、佐藤憲大、佐々木欣宏、辻巖一郎、小林倫仁、山田 研、鬼塚和光、核酸高次構造における選択的アルキル化反応の開発、日本ケミカルバイオロジー学会 第 11 回年会、東北大学 川内萩ホール、2015/6/10-12
12. 秋澤 拓也、永次 史、遺伝子の発現を効率よく制御可能な架橋反応性ペプチド核酸(PNA)の開発、日本ケミカルバイオロジー学会 第 11 回年会、東北大学 川内萩ホール、2015/6/10-12
13. 山田 研、石山 翔午、鬼塚和光、永次 史、核酸結合性蛋白質との架橋反応を目指したビニルトリアジン誘導体の開発、日本ケミカルバイオロジー学会 第 11 回年会、東北大学 川内萩ホール、2015/6/10-12
14. 小林倫仁、鬼塚和光、永次 史、RNA のミスマッチ構造選択的にアルキル化する分子の開発、日本ケミカルバイオロジー学会 第 11 回年会、東北大学川内萩ホール、2015/6/10-12
15. Shuhei Kusano, Takuya Haruyama, Shogo Ishiyama, Kazumitsu Onizuka, Ken Yamada and Fumi Nagatsugi, Development of the Self Activated Cross-linking Agents for the Gene Regulation in Cells, 3rd Switzerland-Japan Biomolecular Chemistry Symposium (SJBCS), Bern Switzerland, 2014/10/2-3 招待講演
16. F. Nagatsugi, Inhibition of the miRNA Function by Using of Crosslink Reactions, The 1st International Symposium of Chemistry and Biology of RNA Interference, Kitakyushu International Conference Center, Kitakyushu, Japan, 2014/11/4 招待講演
17. F. Nagatsugi, G. Tsuji, S. Norihiro, K. Onizuka, Development of the Strategy for the Selective Chemical Modification in Hydrophobic Pockets (Asian Chemical Biology Initiative 2014 Hangzhou Meeting, Hangzhou Shujinang Hotel 2014/11/23-27 招待講演
18. 永次 史、草野修平、井田裕太、阿部友亮、山田 研、鬼塚 和光、 遺伝子標的選択的化学反应の開発とその応用、化学会東北大会、山形大学、米沢、2014/9/23-24 招待講演
19. 鬼塚和光、伊藤嘉浩、阿部 洋、永次 史、核酸を標的にした擬ロタキサン形成法、アライアンス G3 2014 分科会、福岡、2014/11/21-22 招待講演
20. 永次 史、遺伝子の化学的マニピュレーションに向けた新規技術の開発、金沢大学薬学シンポジウム 2014、金沢大学、2015/01/25 招待講演
21. Shuhei Kusano, Takuya Haruyama, Shogo. Ishiyama, Kazumitsu. Onizuka and Fumi Nagatsugi, Highly Efficient Crosslink Reactions Triggered by Oxidation, XXI Round Table on Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids Chemical Biology of Nucleic Acids, Lecture-Conference Center of Poznań University of Technology, POZNAŃ, POLAND, 2014/8/24-28 **selected oral**
22. Ken Yamada, Alexander S. Wahba, Jean Bernatchez, Tatiana Ilina, Saúl Martínez Montero, Maryam Habibian, Matthias Götte, Michael A. Parniak, Masad J. Damha, Correlation of NRTI Sugar Pucker on Nucleotide Excision and Translocational State by/of HIV-1 Reverse Transcriptase, XXI Round Table on Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids, Lecture-Conference Center of Poznań University of Technology, Poznań, Poland, 2014/8/24-28,
23. Shogo Ishiyama, Shuhei Kusano, Fumi Nagatsugi, Reactivity of the cross-link forming pyrimidine derivative to guanine analogs and the structural analysis, Tohoku University Campus Asia Program Summer School 2014, 2014/8/25-26, Sendai, Japan
24. Kazumitsu Onizuka, Yoshihiro Ito, Hiroshi Abe, Fumi Nagatsugi, Development of pseudorotaxane formation method targeting on nucleic acids (3rd Switzerland-Japan Biomolecular Chemistry Symposium (SJBCS) Bern Switzerland, 2014/10/2-3
25. Kazumitsu Onizuka, Yoshihiro Ito, Hiroshi Abe, Fumi Nagatsugi, Automatic Pseudorotaxane Formation Targeting on Nucleic Acids, The 41th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry, Kitakyushu International Conference Center, Kitakyushu, Japan, 2014/11/5-7,
26. Norihiro Sato, Gen-ichiro Tsuji, Takuma Moki, Kazumitsu Onizuka, Fumi Nagatsugi, Development of the Method for Selective Modification of Duplex DNA with a Hydrophobic Pocket, The 41th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry, Kitakyushu International Conference Center, Kitakyushu, Japan, 2014/11/5-7
27. Fumi Nagatsugi, Shuhei Kusano, Takuya Haruyama, Shogo Ishiyama, Kazumitsu Onizuka, Development of the Crosslinking Reaction Activated by Oxidation, 9th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry in Asia (ICCEOCA), Eastin Hotel Petaling Jaya, Malaysia, 2014/12/1-5.
28. Norihiro Sato, Gen-ichiro Tsuji, Kazumitsu Onizuka, Fumi Nagatsugi, Development of the Strategy for the Selective Chemical Modification in an Abasic Site of Duplex DNA, 3rd Asian Chemical Biology Conference, University Town, NUS, Singapore, 2014/12/15-17
29. 永次 史、茂木 琢磨、草野修平、佐藤憲大、遺伝子を標的とした新規機能性低分子プローブの開発 天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御 第 4 回領域公開シンポジウム、名古屋大学、2014/5/28-29
30. 鬼塚和光、伊藤嘉浩、阿部 洋、永次 史、反応性オリゴ DNA を用いた擬ロタキサン形成法の開発、日本ケミカルバイオロジー学会 第 9 回年会、大阪大学豊中キャンパス、大阪大学会館、大阪、2014/6/11-13
31. 秋澤 拓也、石澤 悠樹、永次 史、架橋反応性核酸塩基を導入したペプチド核酸の合成と架橋反応性評価、日本ケミカルバイオ

- ロジー学会 第9回年会、大阪大学豊中キャンパス、大阪大学会館、大阪、2014/6/11-13
32. 佐藤憲大、辻厳一郎、茂木琢真、鬼塚和光、永次史、2本鎖DNAの塩基欠損部位に対する化学修飾法の開発、第25回万有シンポジウム、東北大学、仙台、2014/6/13
 33. 石山 翔午、草野 修平、永次 史、グアニン類縁体に対する架橋反応性核酸の反応及び構造解析、第25回万有シンポジウム、仙台国際センター、仙台市、2014/6/14
 34. 佐藤憲大、辻厳一郎、茂木琢真、鬼塚和光、永次 史、2本鎖DNAの塩基欠損部位で反応する分子プローブの開発、生体機能関連化学部会若手の回第26回サマースクール、ラフォーレ蔵王、宮城県、2014/7/25-26
 35. 秋澤拓也、永次 史、架橋反応性塩基をもつペプチド核酸の合成と架橋反応性評価、生体機能関連化学部会若手の回第26回サマースクール、ラフォーレ蔵王、宮城県、2014/7/25-26
 36. 春山 拓哉、草野 修平、鬼塚 和光、永次 史、細胞内遺伝子発現制御を目指した外部刺激応答型架橋反応性核酸の開発、生体機能関連化学部会若手の回第26回サマースクール、ラフォーレ蔵王、宮城県、2014/7/25-26
 37. 石山 翔午、草野 修平、永次 史、グアニン類縁体に対する架橋反応性核酸の反応および構造解析、生体機能関連化学部会若手の回第26回サマースクール、ラフォーレ蔵王、宮城県、2014/7/25-26
 38. 鬼塚和光、伊藤嘉浩、阿部 洋、永次 史、一対の化学反応性オリゴDNAによるRNA標的擬ロタキサン形成法、アンチセンス・遺伝子・デリバリー シンポジウム 2014、東京医科歯科大学、東京、2014/9/8-9
 39. 秋澤 拓也、永次 史、架橋反応性核酸塩基をもつペプチド核酸(PNA)の合成と機能性評価、アンチセンス・遺伝子・デリバリー シンポジウム 2014、東京医科歯科大学、東京、2014/9/8-9
 40. 佐藤 憲大、辻 厳一郎、茂木 琢真、鬼塚 和光、永次 史、疎水空間を有する2本鎖DNAを化学修飾する分子プローブの開発、第8回バイオ関連化学シンポジウム、岡山大学・津島キャンパス、岡山、2014/9/11-13
 41. 井田 裕太、山田 研、草野 修平、萩原 伸也、永次 史、架橋反応性7-デアザグアノシン誘導体の合成とその化学的性質、第8回バイオ関連化学シンポジウム、岡山大学・津島キャンパス、岡山、2014/9/11-13
 42. 石山 翔午、草野 修平、永次 史、遺伝子発現制御を目指した架橋反応性ピリミジン誘導体の開発、化学会東北大会、山形大学、米沢、2014/9/23-24
 43. 春山 拓哉、草野 修平、鬼塚 和光、永次 史、細胞内遺伝子発現制御を目指した外部刺激応答型架橋反応性核酸の開発、化学会東北大会、山形大学、米沢、2014/9/23-24
 44. 雨宮拓哉、鬼塚和光、永次 史、RNAに対してインターロック構造形成可能な低分子化合物の開発、第4回CSJ化学フェスタ2014、タワーホール船堀、東京、2014/10/14-16
 45. 佐藤 憲大、辻 厳一郎、茂木 琢真、鬼塚 和光、永次 史、2本鎖DNAの塩基欠損部位でアルキル化反応する分子プローブの開発、第4回CSJ化学フェスタ2014、タワーホール船堀、東京、2014/10/14-16
 46. 雨宮拓哉、鬼塚和光、永次 史、二本鎖RNA貫通型インターカレーターによる擬ロタキサン形成反応、第40回反応と合成の進歩シンポジウム、東北大学川内キャンパス・川内萩ホール、仙台 2014/11/10-11
 47. 鬼塚和光、伊藤嘉浩、阿部 洋、永次 史、化学反応性オリゴDNAによる擬ロタキサン形成反応、第40回反応と合成の進歩シンポジウム、東北大学川内キャンパス・川内萩ホール、仙台 2014/11/10-11
 48. 佐藤 憲大、辻 厳一郎、茂木 琢真、鬼塚 和光、永次 史、疎水空間を有する2本鎖DNAを化学修飾する分子プローブの合成と評価、第40回反応と合成の進歩シンポジウム、東北大学川内キャンパス・川内萩ホール、仙台 2014/11/10-11
 49. 阿部 友亮、山田 研、井田 裕太、草野 修平、萩原 伸也、永次 史、架橋反応性7-デアザ-6-ビニルグアノシン誘導体の合成とその架橋反応特性、第40回反応と合成の進歩シンポジウム、東北大学川内キャンパス・川内萩ホール、仙台、2014/11/10-11
 50. 鬼塚和光、伊藤嘉浩、阿部 洋、永次 史、核酸を標的にした擬ロタキサン形成法の開発、第14回多元物質科学研究所研究発表会、東北大学片平キャンパス・さくらホール、仙台、2014/12/5
 51. 秋澤拓也、児玉栄一、永次 史、架橋反応性を有したペプチド核酸(PNA)の合成と機能性評価、第14回多元物質科学研究所研究発表会、東北大学片平キャンパス・さくらホール、仙台、2014/12/5
 52. 秋澤 拓也、永次 史、架橋形成能を有するペプチド核酸を用いた遺伝子発現制御法の開発、日本化学会 第95春季年会、日本大学 理工学部船橋キャンパス/薬学部、2015/3/26-29
 53. 佐藤 憲大、佐々木 欣宏、辻 厳一郎、山田 研、鬼塚 和光、永次 史核酸高次構造の疎水空間における選択的修飾法の検討、日本化学会 第95春季年会、日本大学 理工学部船橋キャンパス/薬学部、2015/3/26-29
 54. 小林 倫仁、鬼塚 和光、永次 史、RNAのミスマッチ構造選択的アルキル化を目指したビニルトリアジン誘導体の合成、日本化学会 第95春季年会、日本大学 理工学部船橋キャンパス/薬学部、2015/3/26-29
 55. 鬼塚 和光、Hazemi Madoka Eurika、永次 史架橋形成した天然疑似二本鎖RNAの合成、日本化学会 第95春季年会、日本大学理工学部船橋キャンパス/薬学部、2015/3/26-29
 56. 雨宮 拓哉、鬼塚 和光、永次 史、RNAを標的にしたインターロック構造形成法の開発、日本化学会 第95春季年会、日本大学理工学部船橋キャンパス/薬学部、2015/3/26-29
 57. 阿部 友亮、山田 研、永次 史、井田 裕太、草野 修平、架橋反応性7-デアザ-6-ビニルグアノシン誘導体の合成とその反応性評価、日本化学会 第95春季年会、日本大学 理工学部船橋キャンパス/薬学部、2015/3/26-29
 58. Fumi Nagatsugi, Shinya Hagihara, Shuhei Kusano, Shunsuke Kuwahara, Yusuke Takahashi, Development of the Chemical Strategy for Regulation of Gene Expression (2nd Asian Chemical Biology Initiative, 2013/1/25-1/28, Bangkok Thai) 招待講演
 59. Fumi Nagatsugi, Regulation of the Gene Expression by the Use of Reactive Oligonucleotides (Technologies for Medical Diagnostic and Therapy Symposium 2013/10/22-23 academia sinica, Taiwan)招待講演
 60. 永次 史、細胞内における遺伝子発現制御を目指した選択的架橋反応性核酸の開発、日本薬学会東海支部特別講演会、岐阜薬大 岐阜 (2013/5/24) 招待講演
 61. 永次 史、次世代型核酸医薬を目指した架橋反応性核酸の開発、第7回次世代を担う医療薬科学シンポジウム、片平さくらホール 仙台 (2013/11/23-24) 招待講演
 62. 永次 史、遺伝子発現の化学的制御を目指した機能性分子の創製とその機能性評価、第3回 慶応義塾大学 戦略的研究基盤形成支援事業シンポジウム～グリーンイノベーションとライフイノベーションの架け橋～慶応義塾大学日吉キャンパス (2013/12/21) 招待講演
 63. Norihiro Sato, Takuma Moki, Shinya Hagihara, Fumi Nagatsugi, Development of the Strategy for the Selective Chemical Modification to an Abasic Site in Duplex DNA (4th UK/Japan Conference in Catalytic Asymmetric Synthesis, 2013/4/19-20, Sendai)
 64. Fumi Nagatsugi, Shinya Hagihara, Shuhei Kusano, Norihiro Sato, Development of the Effective Chemical Strategy for Regulation of Gene

- Expression (Gordon Conference on nucleoside, nucleotide and oligonucleotide, 2013/6/30-7/6, Newport, U.S.A.)
65. Fumi Nagatsugi, Shinya Hagihara, Shuhei Kusano, Norihiro Sato, Development of the Effective Chemical Strategy for Regulation of Gene Expression (5th Asian Arden Conference, 2013/8/5-6, Nagoya, Japan)
 66. Yuta Ida, Shuhei Kusano, Shinya Hagihara, Fumi Nagatsugi, Design of the efficient cross-linking agent with the fixed conformation (Tohoku University Campus Asia Program Summer School 2013, 2013/8/28-30, Sendai, Japan)
 67. Norihiro Sato, Takuma Moki, Shinya Hagihara, Fumi Nagatsugi, Development of the molecular probes to achieve the selective chemical modification in an abasic site (International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan, 2013/9/28-30 Sendai, Japan)
 68. Akisawa Takuya, Ishizawa Yuki, Nagatsugi Fumi, Synthesis of Peptide Nucleic Acid (PNA) containing Cross-linking Agent (International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan, 2013/9/28-30 Sendai, Japan)
 69. Shuhei Kusano, Shogo Ishiyama, Shinya Hagihara, and Fumi Nagatsugi Development of the cross-link forming pyrimidine derivative (International Symposium for the 70th Anniversary of the Tohoku Branch of the Chemical Society of Japan, 2013/9/28-30 Sendai, Japan)
 70. Fumi Nagatsugi, Development of the New Strategy for Selective Reactions to DNA in an Abasic site (The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2013/10/28-29, PACIFICO YOKOHAMA, Japan)
 71. Fumi Nagatsugi, Shinya Hagihara, Shuhei Kusano, Takuya Akisawa, Effective Chemical Strategy for Regulation of Gene Expression using Cross-linking Reactions (9th Annual Meeting of the Oligonucleotide Therapeutics Society, 2013/10/6-8 Napoli, Italia)
 72. Gen-ichiro Tsuji, Norihiro Sato, Takuma Moki, Fumi Nagatsugi, Development of Molecular Probe for the Selective Modification in an Abasic Site (The 40th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2013, 2013/11/13-15 Kanagawa University, Japan)
 73. Shuhei Kusano, Takuya Haruyama, Nao Iwamoto, Shinya Hagihara, Fumi Nagatsugi, Development of the Oxidation Induced Crosslink Reaction (The 40th International Symposium on Nucleic Acids Chemistry 2013, 2013/11/13-15 Kanagawa University, Japan)
 74. 佐藤 憲大, 茂木 琢真, 萩原 伸也, 永次 史, 塩基欠損部位を持つ 2 本鎖 DNA における部位特異的修飾方法の開発, 日本化学会第 93 春季年会, 2013/3/22-25 立命館大学, 滋賀県
 75. 萩原 伸也, 草野 修平, 井田 裕太, 岩本 直生, 永次 史, 架橋性オリゴ核酸を用いた細胞内遺伝子発現制御機能性オリゴ核酸の RNA への架橋形成による遺伝子発現制御, 日本化学会第 93 春季年会, 2013/3/22-25 立命館大学, 滋賀県
 76. 草野 修平, 萩原 伸也, 永次 史, グアニン類縁体に対する架橋形成ピリミジン誘導体の反応性 日本化学会第 93 春季年会, 2013/3/22-25 立命館大学, 滋賀県
 77. 井田 裕太, 草野 修平, 岩本 直生, 萩原 伸也, 永次 史, 立体配座を固定化した新規架橋性分子の開発, 日本化学会第 93 春季年会, 2013/3/22-25 立命館大学, 滋賀県
 78. 永次 史, 草野 修平, 萩原 伸也, グアニンに対して選択的に反応する架橋反応剤の開発, 日本薬学会第 133 年会 2013/3/27-30
 79. 岩本 直生, 草野 修平, 萩原 伸也, 永次 史, 極めて高い反応性を持つ架橋反応性オリゴヌクレオチドによるテロメラーゼ阻害の検討, 日本薬学会第 133 年会, 横浜 2013/3/27-30
 80. 永次 史, 茂木 琢磨, 草野修平, 佐藤憲大, 遺伝子を標的とした新規機能性低分子プローブの開発 天然物ケミカルバイオロジー-分子標的と活性制御 第 3 回領域公開シンポジウム, 筑波, 2013/5/28-29
 81. 佐藤憲大, 茂木琢磨, 萩原伸也, 永次 史, 塩基欠損部位を持つ 2 本鎖 DNA における化学修飾法の開発, 日本ケミカルバイオロジー学会 第 8 回年会, 東京医科歯科大学, 2013/6/19-21
 82. 草野 修平, 岩本 直生, 萩原 伸也, 永次 史, 効率的遺伝子発現制御を目指した高い架橋形成能を持つピニルプリン誘導体の開発, 日本ケミカルバイオロジー学会 第 8 回年会, 東京医科歯科大学, 2013/6/19-21
 83. 草野 修平, 岩本 直生, 萩原 伸也, 春山 拓哉, 永次 史, 酸化反応をトリガーとする架橋反応性分子の開発, 第 1 回バイオ関連化学シンポジウム若手フォーラム, 名古屋, 2013/9/26
 84. 井田裕太, 萩原伸也, 草野修平, 永次 史, コンフォメーションを固定した新規架橋反応性核酸の開発, 第 7 回バイオ関連化学シンポジウム, 名古屋, 2013/9/27-29
 85. 草野 修平, 岩本 直生, 萩原 伸也, 永次 史, 酸化反応をトリガーとする架橋反応の開発, 第 7 回バイオ関連化学シンポジウム, 名古屋, 2013/9/27-29
 86. 石山 翔午, 草野 修平, 永次 史, グアニンおよび 8-オキシグアニンに対する架橋形成ピリミジン誘導体の反応性, 第 3 9 回反応と合成の進歩シンポジウム, 九州大学 医学部 百年講堂, 福岡 2013/11/5-6
 87. 辻徹一郎, 佐藤憲大, 茂木琢真, 永次 史, 塩基欠損部位を有する 2 本鎖 DNA に対する化学的修飾法の開発, 第 3 9 回反応と合成の進歩シンポジウム, 九州大学 医学部 百年講堂, 福岡 2013/11/5-6
 88. 永次 史, 萩原伸也, 草野修平, 春山拓哉, 架橋反応性核酸を用いた In Cell Chemistry への展開(Selected Oral) 第 3 9 回反応と合成の進歩シンポジウム, 九州大学 医学部 百年講堂, 福岡 2013/11/5-6
 89. 永次 史, 萩原伸也, 草野修平, 架橋反応性核酸を用いた細胞内における遺伝子発現制御に向けた検討, 第 2 3 回アンチセンスシンポジウム, 徳島大学, 2013/11/28-29
 90. 秋澤 拓也, 石澤 悠樹, 永次 史, 架橋反応性ペプチド核酸の合成と反応性検討, 第 2 3 回アンチセンスシンポジウム, 徳島大学, 2013/11/28-29
 91. 鬼塚和光, 永次 史, 伊藤嘉浩, 阿部 洋, 化学反応性オリゴ DNA を用いた擬ロタキサン形成法の開発, 第 13 回多元物質科学研究所研究発表会, 東北大学片平キャンパス・さくらホール, 仙台, 2013/12/6
 92. 草野 修平, 萩原 伸也, 永次 史, 架橋反応性核酸を用いた RNA 検出法の構築, 第 13 回多元物質科学研究所研究発表会, 東北大学片平キャンパス・さくらホール, 仙台, 2013/12/6
 93. Fumi Nagatsugi, Development of Reactive Oligonucleotides with High Selectivity to a Target Base in RNA (1st Asian Chemical Biology Initiative, 2012/2/24-2/26, Hanoi Vietnam)招待講演
 94. 永次 史, 有機合成化学を基盤とした化学的遺伝子発現制御分子ツールの開発, 有機合成化学協会夏季セミナー 明日の有機合成化学, 2012/8/31, 大阪) 招待講演
 95. Shuhei Kusano, Shinya Hagihara, Takuma Moki and Fumi Nagatsugi, Synthesis and Evaluation of Acyclic Pyrimidine Derivative for Selective Cross-linking Reaction to Guanine (IECB Young Scientist Symposium, 2012/5/21-22, Bordeaux, France)
 96. Yuki Ishizawa, Kaname Sasaki, Nao Iwamoto, Shinya Hagihara, Fumi Nagatsugi, Revisiting the Interstrand Cross-linking Reaction: PNAs to Oligonucleotides (The second Asian Chemical Biology Conference ACBC 2012, 2012/7/4-6, Southern Beach Hotel&Resort Itoman, Okinawa, Japan)
 97. Shuhei Kusano, Shinya Hagihara, Takuma Moki and Fumi Nagatsugi, Development of the Acyclic Pyrimidine Derivative for Selective Cross-linking Reaction to Guanine (20th International Roundtable on Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids, 2012/8/5-9 Montreal, Canada)
 98. Fumi Nagatsugi, Yusuke Takahashi, Maiko Kobayashi and Shunsuke Kuwahara, Synthesis of the Light-Driven Molecular Motors Conjugated with Peptide and Evaluation of the DNA Binding Properties (20th International Roundtable on Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids, 2012/8/5-9

- Montreal, Canada)
99. Shinya Hagihara, Shuhei Kusano, Nao Iwamoto, Fumi Nagatsugi, Crosslink Forming Oligonucleotide as a Steric Terminator of Translation(20th International Roundtable on Nucleosides, Nucleotides and Nucleic Acids, 2012/8/5-9 Montreal, Canada)
 100. Yuki Ishizawa, Kaname Sasaki, Nao Iwamoto, Shinya Hagihara, Fumi Nagatsugi, Synthesis of Peptide Nucleic Acid (PNA) Incorporating 4-Amino-6-Oxo-2-Vinylpyrimidine (Tohoku University Campus Asia Program Summer School 2012, 2012/8/20-23)
 101. Nao Iwamoto, Shinya Hagihara, Fumi Nagatsugi, Development of the Intracellular Control of Gene Expression Using Selective Crosslinking Reactions (Tohoku University Campus Asia Program Summer School 2012, 2012/8/20-23)
 102. Takuma Moki, Kaname Sasaki, Fumi Nagatsugi, Investigation of the Strategy to Selective Chemical Modification for the Nucleobase Opposite the Abasic site (Tohoku University Campus Asia Program Summer School 2012, 2012/8/20-23)
 103. Fumi Nagatsugi, Development of the Molecular Probes Targeted for Gene (The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2012/10/31-11/1, Kyoto Century Hotel, Kyoto)
 104. Shuhei Kusano, Shinya Hagihara and Fumi Nagatsugi, Development of the Acyclic Pyrimidine Derivative for Selective Cross-linking Reaction to 8-Oxoguanine (The 39th International Symposium on Nucleic Acid Chemistry, 2012/11/15-17, Nagoya University, Nagoya)
 105. Atsushi Shibata, Atsushi Nishimoto, Kazumitsu Onizuka, Daichi Jitsuzaki, Kosuke Akishima, Yosuke Taniguchi, Fumi Nagatsugi, Shigeki Sasaki, Crosslinking of oligonucleotide to the target mRNA pauses in vitro translation (The 39th International Symposium on Nucleic Acid Chemistry, 2012/11/15-17, Nagoya University, Nagoya)
 106. Shinya Hagihara, Yuta Ida, Nao Iwamoto, Shuhei Kusano, Fumi Nagatsugi, Development of Crosslink Forming Oligonucleotides for Intracellular Gene Regulation (The 39th International Symposium on Nucleic Acid Chemistry, 2012/11/15-17, Nagoya University, Nagoya)
 107. Yuki Ishizawa, Kaname Sasaki, Nao Iwamoto, Shinya Hagihara, Fumi Nagatsugi, Synthesis of Peptide Nucleic Acid (PNA) Incorporating 4-Amino-6-Oxo-2-Vinylpyrimidine (AOVP) (The 39th International Symposium on Nucleic Acid Chemistry, 2012/11/15-17, Nagoya University, Nagoya)
 108. 萩原 伸也、草野 修平、Chao Xio Guang、岩本直生、永次 史、機能性オリゴ核酸の RNA への架橋形成による遺伝子発現制御 (日本化学会第 92 春季年会、2012/3/25-3/28、慶應義塾大学、神奈川県)
 109. 草野 修平、萩原 伸也、茂木琢磨、永次 史、糖部修飾型架橋反応性ピリミジン誘導体の合成と評価 (日本化学会第 92 春季年会、2012/3/25-3/28、慶應義塾大学、神奈川県)
 110. 石澤悠樹、佐々木 要、萩原伸也、永次 史、架橋性塩基を導入した PNA オリゴマーの合成および反応性評価 (日本化学会第 92 春季年会、2012/3/25-3/28、慶應義塾大学、神奈川県)
 111. 永次 史、萩原 伸也、草野 修平、井本修平、架橋反応性核酸を用いた効率的蛋白質発現阻害 (日本薬学会第 132 年会、2012/3/29-3/31、北海道大学、北海道)
 112. 井本修平、永次 史、千国友子、寒水壽朗、國枝武久、6-ビニルプリンによるシトシンへの極めて早い DNA 架橋反応 (日本薬学会第 132 年会、2012/3/29-3/31、北海道大学、北海道)
 113. 石澤悠樹、佐々木 要、萩原伸也、永次 史、架橋性 PNA オリゴマーの合成 (万有仙台シンポジウム、2012/6/2、仙台国際センター、仙台)
 114. 草野 修平、萩原 伸也、茂木 琢真、永次 史、糖部修飾による架橋反応性ピリミジン誘導体の反応性制御 (第 7 回 日本ケミカルバイオロジー学会、京都大学 百周年時計台記念館、京都、2012/6/7-6/9)
 115. 草野 修平、萩原 伸也、茂木 琢真、永次 史、糖部修飾型架橋反応性ピリミジン誘導体の開発 (天然物ケミカルバイオロジー:分子標的と活性制御 第一回若手研究者ワークショップ、2012/6/16、東京医科歯科大学、東京)
 116. 永次 史、遺伝子を標的とした新規機能性低分子プローブの開発 (天然物ケミカルバイオロジー:分子標的と活性制御 第 2 回領域公開シンポジウム、2012/6/17、東京大学弥生講堂、東京)
 117. 井田 裕太、岩本 直生、草野 修平、萩原 伸也、永次 史、Design of the efficient cross-linking agent with the fixed conformation (日本化学会 生体機能関連化学部会 若手の会、2012/9/5、北海道大学、札幌)
 118. 井田 裕太、岩本 直生、草野 修平、萩原 伸也、永次 史、立体配座固定化による反応性向上を目指した新規架橋反応剤の開発 (第 6 回バイオ関連化学シンポジウム、2012/9/6-8、北海道大学、札幌)
 119. 永次 史、草野修平、岩本直生、佐藤憲大、佐々木 要、萩原伸也、遺伝子発現の化学的制御を目指した方法論の開発 (第 61 回高分子討論会、2012/9/19-9/21、名古屋工業大学、名古屋)
 120. 柴田篤志、西本篤史、鬼塚和光、實崎大地、秋島広祐、谷口陽祐、永次 史、佐々木茂貴、クロスリンク核酸を用いた mRNA の修飾と翻訳への影響 (第 2 回アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム 2012、2012/9/24-26、仙台市民会館、仙台)
 121. 草野 修平、岩本 直生、萩原 伸也、永次 史、電子吸引基を導入した高活性 2-Amino-6-vinylpurine 誘導体の開発 (第 2 回アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム 2012、2012/9/24-26、仙台市民会館、仙台)
 122. 草野 修平、萩原 伸也、茂木 琢真、永次 史、効率的遺伝子発現制御を目指した糖部修飾型架橋反応性ピリミジン誘導体の開発 (第 2 回 CSJ 化学フェスタ 2012、2012/10/14-17、東京工業大学 大岡山キャンパス、東京)
 123. 井田 裕太、岩本 直生、草野 修平、萩原 伸也、永次 史、立体配座を固定化した新規架橋反応剤の開発 (第 2 回 CSJ 化学フェスタ 2012、2012/10/14-17、東京工業大学 大岡山キャンパス、東京)
 124. 草野 修平、萩原 伸也、永次 史、架橋反応性ピリミジン誘導体の合成および評価、有機合成化学若手研究者の仙台セミナー、2012/12/1、東北大学、仙台)
 125. 井田 裕太、岩本 直生、草野 修平、萩原 伸也、永次 史、細胞内架橋反応を目指した反応性核酸塩基の開発 (第 12 回多元物質科学研究所研究発表会、2012/12/10、東北大学片平キャンパス・さくらホール、仙台)
 126. 岩本 直生、草野 修平、萩原 伸也、佐々木 要、河治 久実、児玉 栄一、井本 修平、永次 史、反応性核酸誘導体を用いたウイルス複製制御を目指した創薬研究 (第 12 回多元物質科学研究所研究発表会、2012/12/10、東北大学片平キャンパス・さくらホール、仙台)

【細谷孝充】

1. 陳 勝男、目黒友啓、吉田 優、細谷孝充、オキサジアジノンと環状アルキンとの環化付加反応を利用した分子連結法の開発。日本化学会第 96 春季年会、同志社大学京田辺キャンパス、2016 年 3 月。
2. 目黒友啓、吉田 優、細谷孝充、穏和な芳香族アジド基選択的還元反応の開発。日本化学会第 96 春季年会、同志社大学京田辺キャンパス、2016 年 3 月。
3. 大谷和弘、後藤沙由里、三澤善大、吉田 優、細谷孝充、アジド基を有する α -ジアゾアセトフェノンを用いる多様性指向型合成。日本化学会第 96 春季年会、同志社大学京田辺キャンパス、2016 年 3 月。
4. 後藤沙由里、近藤正一、松下武司、吉田 優、細谷孝充、アルケニルアジドを利用する多様性に富んだトリアゾール類の簡便合成法の開発。日本化学会第 96 春季年会、同志社大学京田辺キャンパス、2016 年 3 月。

5. 吉田 優, 三澤善大, 栗原ともこ, 森田隆太, 喜井... 勲, 渡辺恭良, 細谷孝充. 新しいマルチアジド化合物をプラットフォーム分子として用いる機能性分子集積法の開発. 日本化学会第 96 春季年会, 同志社大学京田辺キャンパス, 2016 年 3 月.
6. 牧尾直明, 畠山泰朋, 唐木文霞, 井川和宣, 友岡克彦, 吉田 優, 細谷孝充. シリカゲルカラムで精製できる環状アルキン-銅錯体の開発. 日本化学会第 96 春季年会, 同志社大学京田辺キャンパス, 2016 年 3 月.
7. Hosoya T., Yoshida S, Misawa Y, Formal C-H azidation-based shortcut to diazido building blocks for the versatile preparation of photoaffinity labeling probes of natural products and pharmaceuticals. PACIFICHEM 2015, Honolulu, Hawaii, USA, Dec. 2015.
8. Hosoya T., Yoshida S, Shiraiishi A, Kanno K, Kij I, Johmoto K, Uekusa H, Hagiwara M. Azido-type selective reactions for molecular conjugation. PACIFICHEM 2015, Honolulu, Hawaii, USA, Dec. 2015.
9. Yoshida S, Hatakeyama Y, Johmoto K, Uekusa H, Hosoya T. Transient Protection of strained alkynes from click reaction via complexation with copper. PACIFICHEM 2015, Honolulu, Hawaii, USA, Dec. 2015.
10. Meguro T, Yoshida S, Hosoya T. Cycloaddition of Thiophene *S,S*-Dioxide Derivatives with Strained Cycloalkynes. The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-13), Kyoto, Japan, Nov. 2015.
11. Hosoya T., Hatakeyama Y, Karaki F, Johmoto K, Uekusa H, Yoshida S. Transient Protection of Strained Alkynes from Click Reaction via Complexation with Copper. The 13th International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-13), Kyoto, Japan, Nov. 2015.
12. 後藤沙由里, 吉田 優, 近藤正一, 松下武司, 細谷孝充. さまざまなアルケニルアジドの環状アルキンとのクリック反応性に関する検討. 第 45 回複素環化学討論会, 東京, 2015 年 11 月.
13. 目黒友啓, 吉田 優, 細谷孝充. チオフェン-*S,S*-ジオキシドの反応性を利用した分子連結法の開発. 第 70 回記念有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟 (長岡) シンポジウム), 長岡, 2015 年 11 月.
14. 細谷孝充. ケミカルバイオロジーのツールを開発する. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015: 「分子」の生体内での働きを調べる新しい化学「ケミカルバイオロジー」, 東京, 2015 年 10 月.
15. 大谷和弘, 三澤善大, 後藤沙由里, 吉田 優, 細谷孝充. アジド基を有する α -ジアゾアセトフェノンの合成と多成分連結への応用. 第 5 回 CSJ 化学フェスタ 2015, 東京, 2015 年 10 月.
16. 牧尾直明, 唐木文霞, 畠山泰朋, 上本紘平, 植草秀裕, 吉田 優, 細谷孝充. 銅塩を用いた様々な環状アルキンのクリック反応の抑制. 第 32 回有機合成化学セミナー, 熱海, 2015 年 9 月.
17. 牧尾直明, 唐木文霞, 畠山泰朋, 上本紘平, 植草秀裕, 吉田 優, 細谷孝充. カチオン性銅塩との錯形成による様々な環状アルキンの保護に関する検討. 第 62 回有機金属化学討論会, 吹田, 2015 年 9 月.
18. 細谷孝充. 生命科学研究のための分子連結法. 分子イメージングサマースクール 2015, 神戸, 2015 年 8 月.
19. 細谷孝充. アジド基の特性に着目した「ジアジドプローブ法」による標的分子同定. 第 365 回 CBI 学会講演会: 「フェノタイプスクリーニング 古くて新しい創薬手法 Part2」, 東京, 2015 年 7 月.
20. 吉田 優. 高活性化学種の反応性制御にもとづく分子連結法の開発. 第 50 回天然物化学談話会, 岩沼 2015 年 7 月
21. 細谷孝充. マルチアジドプラットフォーム分子に対する機能性分子の逐次集積法の開発. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー〜分子標的と活性制御〜」第 8 回公開シンポジウム, 仙台, 2015 年 6 月.
22. 目黒友啓, 吉田 優, 細谷孝充. 標的タンパク質の多重標識を目指した多機能性分子の効率的創製法の開発. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー〜分子標的と活性制御〜」第 7 回若手研究者ワークショップ, 仙台, 2015 年 6 月.
23. 吉田 優, 畠山泰朋, 唐木文霞, 上本紘平, 植草秀裕, 細谷孝充. 高機能性分子プローブ創製を目指した環状アルキン保護法の開発. 第 107 回有機合成シンポジウム, 東京, 2015 年 6 月.
24. 吉田 優, 三澤善大, 森田隆太, 細谷孝充. 異種アジド選択的マルチクリック反応の開発. 日本ケミカルバイオロジー学会第 10 回年会, 仙台, 2015 年 6 月.
25. 目黒友啓, 吉田 優, 細谷孝充. 多機能性分子プローブの創製を指向した、チオフェン-*S,S*-ジオキシドと環状アルキンとの環化付加反応に関する研究. 日本ケミカルバイオロジー学会第 10 回年会, 仙台, 2015 年 6 月.
26. 細谷孝充, 吉田 優, 唐木文霞, 畠山泰朋, 上本紘平, 植草秀裕. 高歪みアルキン保護法を利用する高機能環状アルキンの合成. 日本ケミカルバイオロジー学会第 10 回年会, 仙台, 2015 年 6 月.
27. 細谷孝充. 歪み分子の特異な反応性に着目した分子連結法の開発. 新規素材探索研究会第 14 回セミナー, 東京, 2015 年 6 月.
28. 細谷孝充. アジド化学にもとづく新規創薬標的の同定法の開発. 東京医科歯科大学 第 6 回医学・歯学・工学連携セミナー「創薬標的探索ケミカルバイオロジー」, 東京, 2015 年 6 月.
29. 細谷孝充. アジド化学を基盤とした生命科学研究に役立つ分子連結法の開発. 微化研セミナー, 東京 2015 年 4 月.
30. 細谷孝充. 多機能性分子プローブ創製技術の革新を目指した異種アジド選択的反応の開発. 公益財団法人 長瀬科学技術振興財団 平成 26 年度受賞者研究成果発表会, 大阪, 2015 年 4 月.
31. 吉田 優. 官能基の「歪み」に着目した分子連結法の開発. 日本化学会第 95 春季年会: 若い世代の特別講演, 船橋, 2015 年 3 月.
32. 田中淳子, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. 環状アルキンとの環化付加反応において 1,3-双極子の骨格や置換基が及ぼす影響. 日本化学会第 95 春季年会, 船橋, 2015 年 3 月.
33. 後藤沙由里, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. アルケニルアジドと環状アルキンとの環化付加反応. 日本化学会第 95 春季年会, 船橋, 2015 年 3 月.
34. 目黒友啓, 吉田 優, 細谷孝充. 生体分子の化学修飾法の開発を指向したチオフェン-*S,S*-ジオキシドと環状アルキンとの環化付加反応に関する研究. 日本化学会第 95 春季年会, 船橋, 2015 年 3 月.
35. 畠山泰朋, 吉田 優, 上本紘平, 植草秀裕, 細谷孝充. 環状アルキンの保護・脱保護法の開発と機能性環状アルキン合成への応用. 日本化学会第 95 春季年会, 船橋, 2015 年 3 月.
36. 細谷孝充, 三澤善大, 吉田 優. 形式的な C-H アジド化反応によるジアジド化合物の簡便合成法の開発と異種アジド選択的な逐次分子連結への応用. 日本化学会第 95 春季年会, 船橋, 2015 年 3 月.
37. 後藤沙由里, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. アルケニルアジドの反応性に基づく分子連結法の開発. 第 68 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 新潟, 2014 年 11 月.
38. 畠山泰朋, 吉田 優, 上本紘平, 植草秀裕, 細谷孝充. 銅塩を用いる環状アルキンの保護・脱保護法の開発. 第 68 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム), 新潟, 2014 年 11 月.
39. 田中淳子, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. クリック反応の高速化を目指した新しい芳香族アジドの開発. 第 106 回有機合成シンポジウム, 東京, 2014 年 11 月.
40. Hosoya T. Novel synthetic approaches to diazido probes for target identification by photoaffinity labeling. The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, Osaka, Japan, Oct. 2014.

41. 後藤沙由里, 吉田 優, 細谷孝充. アルケニルアジドを利用する逐次分子連結法の開発. 第 31 回有機合成化学セミナー, 福岡, 2014 年 9 月.
42. 目黒友啓, 吉田 優, 細谷孝充. チオフェン-*S,S*-ジオキソド誘導体を用いる分子連結法の開発. 第 31 回有機合成化学セミナー, 福岡, 2014 年 9 月.
43. 目黒友啓, 吉田 優, 細谷孝充. チオフェン-*S,S*-ジオキソド誘導体を用いる分子連結法の開発. 第 25 回基礎有機化学討論会, 仙台, 2014 年 9 月.
44. 田中淳子, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. 両オルト位への置換基導入による芳香族アジドのクリック反応性の向上. 第 25 回基礎有機化学討論会, 仙台, 2014 年 9 月.
45. 細谷孝充, 田中淳子, 畠山泰朋, 松下武司, 上本紘平, 植草秀裕, 吉田 優. アジドと環状アルキンとの環化付加反応における反応性制御法の開発. 第 44 回複素環化学討論会, 札幌, 2014 年 9 月.
46. 細谷孝充. 生命科学研究のための分子連結法. 分子イメージングサマースクール 2014, 神戸, 2014 年 8 月.
47. Yoshida S, Hatakeyama Y, Johmoto K, Uekusa H, Hosoya T. A Transient Protection of Strained Alkyne from Click Reaction by the Complexation with Copper. 26th International Conference on Organometallic Chemistry (ICOMC2014), Sapporo, Japan, Jul. 2014.
48. Yoshida S, Shiraiishi A, Kanno K, Matsushita T, Johmoto K, Uekusa H, Hosoya T. Molecular conjugation based on enhanced clickability of doubly sterically-hindered aryl azides. 20th International Conference on Organic Synthesis (ICOS-20), Budapest, Hungary, Jul. 2014.
49. 吉田 優, 畠山泰朋, 上本紘平, 植草秀裕, 細谷孝充. 高機能環状アルキン合成を指向した高歪みアルキン保護法の開発. 日本ケミカルバイオロジー学会第 9 回年会, 大阪, 2014 年 6 月.
50. 細谷孝充. アジド基の使いこなし方: 自在な分子連結に向けたクリック化学の新展開. 平成 26 年度前期 (春季) 有機合成化学講習会—シリーズ 使える反応—使い方のコツから実用化まで—その 2—, 東京, 2014 年 6 月.
51. 吉田 優, 三澤善大, 細谷孝充. ジアジド化合物の光延反応を利用する効率的分子変換法の開発. 第 67 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (横浜シンポジウム), 横浜, 2014 年 5 月.
52. 細谷孝充. 標的特定のためのジアジドプローブ合成法の新展開. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー—分子標的と活性制御—」第 6 回公開シンポジウム, 名古屋, 2014 年 5 月.
53. 細谷孝充. 官能基の歪みに着目した分子連結法の開発. 日本化学会第 94 春季年会“有機合成化学を起点とするものづくり戦略”特別企画シンポジウム, 名古屋, 2014 年 3 月.
54. 原田 龍, 隅田有人, 細谷孝充. ホウ素の特性を利用したジベンゾオキサボリン類の簡便合成法の開発と defucogilvocarcin M の高効率合成への応用. 日本化学会第 94 春季年会, 名古屋, 2014 年 3 月.
55. 田中淳子, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. 環状アルキンとのクリック反応における芳香族アジドの両オルト位置置換基の効果. 日本化学会第 94 春季年会, 名古屋, 2014 年 3 月.
56. 畠山泰朋, 吉田 優, 上本紘平, 植草秀裕, 細谷孝充. 高機能環状アルキン合成のための銅錯体による高歪みアルキン保護法の開発. 日本化学会第 94 春季年会, 名古屋, 2014 年 3 月.
57. 原田 龍, 隅田有人, 細谷孝充. Dibenzoxaborin 類の簡便合成法の開発と defucogilvocarcin M 合成への応用. 第 66 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (東工大シンポジウム), 東京, 2013 年 11 月.
58. 田中淳子, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. パラ位アミノ基導入によるかさ高い芳香族アジドのクリック反応の高速化. 第 66 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (東工大シンポジウム), 東京, 2013 年 11 月.
59. Yoshida S, Kanno K, Kii I, Matsushita T, Magiwaru M, Hosoya T. Facile Synthesis of Trifunctional Probe by a Sequential Triple-click Reaction. 2nd Annual Conference of the International Chemical Biology Society (ICBS2013), Kyoto, Japan, Oct. 2012.
60. Hosoya T. Making ready to prepare diazido photoaffinity labeling probes for target identification of bioactive compounds. The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, Yokohama, Japan, Oct. 2013.
61. 細谷孝充, 吉田 優, 菅野貴美幸, 喜井 勲, 松下武司, 森田隆太, 田中淳子, 萩原正敏. 異種アジド基の特性にもとづく逐次マルチクリック反応の開発. 第 43 回複素環化学討論会, 岐阜, 2013 年 10 月.
62. Sumida Y, Harada R, Kato T, Hosoya T. An Efficient New synthetic applications based on *ortho*-hydroxyarylbaboronic acids: generation of arynes and synthesis of dibenzoxaborins. The 1st Reaxys Inspiring Chemistry Conference, Grindelwald, Switzerland, Sep. 2013.
63. Hosoya T, Sumida Y, Kato T. Generation of Arynes via Ate Complexes of Arylbaboronic Esters with an *ortho*-Leaving Group. 10th International Symposium on Carbanion Chemistry (ISCC-10), Kyoto, Japan, Sep. 2013.
64. 田中淳子, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. かさ高い芳香族アジドのパラ位置置換基によるクリック反応の高速化. 第 24 回基礎有機化学討論会, 東京, 2013 年 9 月.
65. 森田隆太, 吉田 優, 白石 旭, 細谷孝充. かさ高い脂肪族アジドを利用した逐次マルチクリック反応の開発研究. 第 24 回基礎有機化学討論会, 東京, 2013 年 9 月.
66. 畠山泰朋, 吉田 優, 細谷孝充. 銅錯体形成による環状アルキンの保護法の開発. 第 60 回有機金属化学討論会, 東京, 2013 年 9 月.
67. 田中淳子, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. かさ高い芳香族アジドのパラ位アミノ基によるクリック反応の高速化. 第 30 回有機合成化学セミナー, 倉敷, 2013 年 9 月.
68. 畠山泰朋, 吉田 優, 細谷孝充. 環状アルキンの保護法の開発. 第 30 回有機合成化学セミナー, 倉敷, 2013 年 9 月.
69. 細谷孝充. 異種アジド選択的反応の開発: かさ高さが促進する反応の発見と生命科学研究への展開. 興和株式会社東京創薬研究所, 東京, 2013 年 9 月.
70. 吉田 優. 多重標識型プローブの創製を指向した逐次マルチクリック反応の開発. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー—分子標的と活性制御—」地区ミニシンポジウム (早稲田大学)「ケミカルバイオロジーのための可視化技術」, 東京, 2013 年 9 月.
71. 細谷孝充. 生命科学研究のための分子連結法. 分子イメージングサマースクール 2013, 神戸, 2013 年 8 月.
72. Hosoya T, Yoshida S, Kanno K, Kii I, Matsushita T, Hagiwara M. Sequential Triple-Click Reaction by Three Azido-Type Selective Cycloadditions. The First Asian Conference for "MONODUKURI" Strategy by Synthetic Organic Chemistry (ACMS), Okinawa, Japan, July 2013.
73. Sumida Y, Harada R, Hosoya T. An Efficient Synthetic Method of Dibenzoxaborins and Application to the Concise Synthesis of Defucogilvocarcin M. The First Asian Conference for "MONODUKURI" Strategy by Synthetic Organic Chemistry (ACMS), Okinawa, Japan, July 2013.
74. 吉田 優, 菅野貴美幸, 喜井 勲, 松下武司, 萩原正敏, 細谷孝充. 多機能性分子プローブ創製に有用な異種アジド選択的逐次クリック反応の開発. 第 103 回有機合成シンポジウム, 東京, 2013 年 6 月.
75. 吉田 優, 菅野貴美幸, 喜井 勲, 松下武司, 萩原正敏, 細谷孝充. 異種アジド選択的トリプルクリック反応による機能性分子集積. 日本ケミカルバイオロジー学会第 8 回年会, 東京, 2013 年 6 月.
76. 隅田有人. ホウ素の特性を活かした新規合成反応の開発. 第 1 回慶應有機化学若手シンポジウム, 横浜, 2013 年 5 月.
77. 吉田 優. 特異な反応性を示すアジド基の発見と多成分連結法への応用. 上智大学理工学部物質生命理工学科コロキウム, 東京,

2013年5月.

78. 吉田 優. 初心者のための Click Chemistry : ‘アジド’と‘アルキン’を簡単につなげる. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第3回若手研究者ワークショップ, 東京, 2013年5月.
79. 吉田 優, 三澤善大, 細谷孝充. 形式的な芳香族 C-H アジド化反応を鍵とするジアジドビルディングブロックの高効率合成. 第65回有機合成化学協会関東支部シンポジウム (新潟シンポジウム, 新潟, 2013年5月).
80. 細谷孝充, 吉田 優. 天然物リガンドの標的固定用プローブ創製のための多様なジアジドビルディングブロックの創製. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第4回公開シンポジウム, つくば, 2013年5月.
81. 菅野貴美幸, 吉田 優, 喜井 勲, 松下武司, 萩原正敏, 細谷孝充. 異種アジド選択的逐次トリプルクリック反応: 機能性分子集積への展開. 日本化学会第93春季年会, 草津, 2013年3月.
82. 森田隆太, 吉田 優, 白石 旭, 細谷孝充. 機能性分子の逐次集積を指向したかさ高い脂肪族アジドのクリック反応性に関する研究. 日本化学会第93春季年会, 草津, 2013年3月.
83. 田中淳子, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. パラ位置換基導入によるかさ高い芳香族アジドのクリック反応性の向上. 日本化学会第93春季年会, 草津, 2013年3月.
84. 原田 龍, 隅田有人, 細谷孝充. ジベンゾオキサボリン類の新規合成法の開発とその利用. 日本化学会第93春季年会, 草津, 2013年3月.
85. 細谷孝充. 異種アジド選択的反応の開発. シンポジウム「未来を拓く有機化学 新方法論と新戦略の創成」, 神戸, 2013年2月.
86. 原田 龍, 隅田有人, 細谷孝充. ジベンゾオキサボリン誘導体の新規合成法の開発. 第64回有機合成化学協会関東支部シンポジウム-新潟 (長岡) シンポジウム-, 長岡, 2012年12月.
87. Hosoya T, Yoshida S, Shiraiishi A, Kanno K, Matsushita T, Johmoto K, Uekusa H. Enhanced Clickability of Doubly Sterically-Hindered Aryl Azides. IKCOC-12, Kyoto, Japan, Nov. 2012.
88. Hosoya T. Azido-type selective reaction for target identification of bioactive small molecules. The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, Kyoto, Japan, Nov. 2012.
89. Hosoya T. Azido-type selective reactions promoting chemical biology. The 1st Official Conference of the International Chemical Biology Society, Boston, USA, Oct. 2012.
90. Hosoya T. Enhanced clickability of doubly sterically-hindered aryl azides. The 6th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaScience, Osaka, Japan, Sep. 2012.
91. 森田隆太, 吉田 優, 白石 旭, 松下武司, 上本紘平, 植草秀裕, 細谷孝充. かさ高い脂肪族アジドを用いるダブルクリック反応: 予期に反した立体選択性に関する考察. 第29回有機合成化学セミナー, 静岡, 2012年9月.
92. 菅野貴美幸, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. 異種アジド選択的逐次クリック反応を利用した簡便な機能性分子集積. 第29回有機合成化学セミナー, 静岡, 2012年9月.
93. 菅野貴美幸, 吉田 優, 松下武司, 細谷孝充. 簡便な機能性分子集積のための異種アジド選択的逐次クリック反応. 第23回基礎有機化学討論会, 京都, 2012年9月.
94. 吉田 優. 異種アジド選択的クリック反応の開発と機能性分子集積法への展開. 有機合成化学を起点とするものづくり戦略 第2回ミニシンポジウム, 札幌, 2012年9月.
95. 吉田 優. 高反応性化学種を利用する反応開発と生命科学研究への展開. 第47回天然物談話会, 熊本 2012年7月
96. 細谷孝充. 異種アジドプローブを用いる標的分子固定. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第2回公開シンポジウム, 東京, 2012年6月.
97. 吉田 優, 菅野貴美幸, 松下武司, 細谷孝充. 多機能性分子の創製を指向した逐次トリプルクリック反応の開発. 日本ケミカルバイオロジー学会第7回年会, 京都, 2012年6月.

【高岡洋輔】

1. 林謙吾, 岩下利基, 江越脩祐, 石丸泰寛, 高岡洋輔, 上田実, 「植物毒素コロナチンのケミカルバイオロジー(2) コロナチンの気孔開口活性標的タンパク質の探索」, 日本化学会第96春季年会, 2016年3月24日, 京田辺, 同志社大学
2. Yuuki Nukadzuka, Yousuke Takaoka, Minoru Ueda, 「Development of novel protein labeling method useful for plant chemical biology」, Pacificchem 2015, 2015年12月17日, ホノルル, ハワイ
3. Yousuke Takaoka, Toshiki Iwashita, Takeshi Suzuki, Kengo Hayashi, Shusuke Egoshi, Yasuhiro Ishimaru, Minoru Ueda, 「Development of novel fluorescent PPI detection system for subtype selective ligand of phytohormone co-receptor」, Pacificchem 2015, 2015年12月17日, ホノルル, ハワイ
4. 高岡洋輔, 「タンパク質リガンド連結プローブによる動物/植物細胞内ケミカルバイオロジー」, 理研ケミカルバイオロジー勉強会 (招待講演), 2015年11月18日, 和光, 理化学研究所
5. 高岡洋輔, 岩下利基, 岩橋万奈, 鈴木健史, 林謙吾, 石丸泰寛, 江越脩祐, 上田実, 「植物毒素コロナチンの誘導体化による植物ホルモン受容体サブタイプ選択的アゴニスト開発と未知標的探索」, 第57回天然有機化合物討論会, 2015年9月9日, 横浜, パシフィック横浜
6. 岩下利基, 高岡洋輔, 鈴木健史, 田下諒, 江越脩祐, 石丸泰寛, 上田実, 「植物毒素コロナチンの気孔開口誘導メカニズム解明を目指した生理活性制御による新規分子プローブの開発」, 日本ケミカルバイオロジー学会第10回年会, 2015年6月10日, 仙台, 東北大学
7. 高岡洋輔, 「自己集合性ケミカルナノプローブによる細胞内タンパク質ラベリングとセンシング」, 日本化学会第95春季年会, 若い世代の特別講演会, 2015年3月, 日大船橋キャンパス
8. 高岡洋輔, 「生理機能制御と標的固定を目指した天然物分子プローブの開発」, 新学術領域「天然物ケミカルバイオロジー」地区ミニシンポジウム, 2015年1月, 東北大平キャンパス
9. Yousuke Takaoka, “Development of Specific and Efficient Protein Labeling Method in Live Cell”, 天然物ケミカルバイオロジー第7回公開シンポジウム, 2014年10月28日, 千里ライフサイエンスセンター
10. Yousuke Takaoka, “Self-assembling turn-on nanoprobe for endogenous protein sensing”, 中国化学会—日中フォーラム (招待講演), 2014年8月5日, 北京, 中国
11. 高岡洋輔, 「改良型指向性触媒反応による細胞内標的タンパク質の効率的ラベル化技術の構築」, 天然物ケミカルバイオロジー第6回公開シンポジウム, 2014年5月28日, 名古屋大学
12. 高岡洋輔, 「ケミカルナノプローブによる細胞内タンパク質ラベリングと検出」, 第2回慶應有機化学若手シンポジウム (招待講演), 2014年5月, 慶應義塾大学矢上キャンパス,
13. 高岡洋輔, 橋本侑樹, 佐々木謙太, 西川雄貴, 浜地格, 「リガンド指向型化学の新展開(4) 自己集合性ジプロモフェニルエステルラ

ベル化剤による細胞内蛋白質ラベル」、日本化学会第 94 春季年会、2014 年 3 月 27 日、名古屋大学

14. Yousuke Takaoka, Itaru Hamachi, "Self-assembling turn-on nanoprobe for specific protein detection and imaging", *ACMS MONODUKURI Strategy by Synthetic Organic Chemistry*, 2013 年 7 月 17 日、サザンビーチホテル&リゾート沖縄
15. 高岡洋輔、浜地格、「細胞内蛋白質の選択的修飾法と質量分析」、蛋白質科学会（招待講演）、2013 年 6 月 12 日、鳥取市とりぎん文化会館
16. 松尾和哉、鬼追芳行、安井亮介、高岡洋輔、三木卓行、藤島祥平、浜地格、「LDAI 化学によるタンパク質ラベリングを利用したケージド酵素の構築」、第 6 回バイオ関連化学シンポジウム、2012 年 9 月 6 日、北海道大学
17. 高岡洋輔、鬼追芳行、森戸昭等、大谷淳二、有田恭平、芦原英司、有吉真理子、栃尾豪人、白川昌弘、浜地格、「細胞内在性タンパク質の 19F ラベリングとダイナミクス解析」、第 6 回バイオ関連化学シンポジウム、2012 年 9 月 6 日、北海道大学
18. 宋智凝、高岡洋輔、鬼追芳行、田村朋則、浜地格、「In cell ケミカルラベリング(3): AGD 化学による in cell 内在性蛋白質の特異的ラベル化」、日本化学会第 93 春季年会、2013 年 3 月 22 日、京都、立命館大学

【大神田淳子】

1. 大神田淳子「たんぱく質間相互作用を調節する合成分子を創る」2015 年度学内講演会 *Chemical Biology*、香川大学（香川県・高松市）、2016 年 2 月 17 日（招待講演）
2. 大神田淳子「細胞内たんぱく質間相互作用を制御する中分子の創製：お茶の水女子大学化学科公開セミナー、お茶の水女子大学（東京都・文京区）、2016 年 2 月 12 日（招待講演）
3. Junko Ohkanda "Module-assembly for intracellular generation of mid-sized agents" • Asian Chemical Biology Initiative, Jakarta, Indonesia • January 30, 2016. (招待講演)
4. Junko Ohkanda "Structure-based Design of PPI Inhibitors that Disrupt Ras Prenylation" • Pacificchem2015, Hawaii, USA • December 15, 2015. (招待講演)
5. Junko Ohkanda "Rational Design of Peptide-based Agents that Control Intracellular Protein-protein Interactions" • The Seventh Peptide Engineering Meeting PEM7 • Indian Institute of Science Education and Research • Pune, India • December 5 to 7, 2015. (招待講演)
6. 大神田淳子「細胞内たんぱく質間相互作用を制御する中分子の創製」中外製薬鎌倉研究所講演会、中外製薬鎌倉研究所（神奈川県・鎌倉市）、2015 年 10 月 7 日（招待講演）
7. 大神田淳子「たんぱく質間相互作用を標的とする中分子を創る」創薬懇話会、グランドエクスシブ鳴門 ザ・ロッジ（徳島県・鳴門市）、2015 年 7 月 2 日（招待講演）
8. 大神田淳子「結晶構造に基づくたんぱく質間相互作用阻害剤の設計」日本薬学会東海支部特別講演会、岐阜薬科大学（岐阜県・岐阜市）、2015 年 5 月 22 日（招待講演）
9. 大神田淳子「モジュール法による中分子設計とたんぱく質間相互作用の制御」一般シンポジウム S53 中分子創薬のフロンティア、日本薬学会第 135 年会（神戸）、神戸学院大学（兵庫県・神戸市）、2015 年 3 月 28 日（招待講演）
10. 大神田淳子「たんぱく質間相互作用を制御する細胞透過性中分子を創る」天然物ケミカルバイオロジー地区ミニシンポジウム、東北大学（宮城県・仙台市）、2015 年 1 月 15 日（招待講演）
11. Junko Ohkanda "Module-assembled, mid-sized agents for controlling protein-protein interactions" • Department seminar, Department of Chemistry, National University of Singapore • Singapore • December 12, 2014. (招待講演)
12. 大神田淳子「海外修行」のスズメ」吉祥女子中学校講演会、吉祥女子中学校（東京都・西荻区）、2014 年 11 月 29 日。（招待講演）
13. Junko Ohkanda "Elucidation of mechanism of action of antitumor agents derived from diterpene natural products" • The 4th Asian Chemical Biology Initiative • Hangzhou, China • November 24, 2014. (招待講演)
14. Junko Ohkanda "K-Ras Specific Inactivation by Inhibitors of Protein-protein Interactions" • Sino-Japan Workshop on Chemical Biology • Beijing, China • October 12, 2014. (招待講演)
15. Junko Ohkanda "Design of Mid-sized Molecules that Disrupt Intracellular Protein-protein interactions" • Recent Advances in Nanobiotechnology and Chemical Biology 2014 at Seoul National University • Seoul, Korea • August 21, 2014. (招待講演)
16. 大神田淳子「たんぱく質間相互作用 (PPIs) を制御・検出する中分子を創る」分子標的創薬研究会、大阪大学（大阪府・吹田市）、2014 年 7 月 10 日（招待講演）
17. 大神田淳子「たんぱく質間相互作用 (PPIs) を制御・検出する中分子を創る」日本化学会第 94 春季年会中長期企画ケミカルバイオロジーの新展開一 有機化学から発信するライフサイエンス新戦略 II、名古屋大学（愛知県・名古屋市）、2014 年 3 月 27 日（招待講演）
18. Junko Ohkanda "Rational design of fusicoccin-based fluorescent probes for detecting 14-3-3 complexes" • 2014 Queenstown Molecular Biology Meetings in Shanghai – Drug Discovery and International Collaboration • Shanghai, China • March 14, 2014. (招待講演)
19. Junko Ohkanda "Module Assembly for Designing Mid-sized Inhibitors of Protein-protein Interactions: Bivalent Dual Inhibitors of Protein Prenyltransferases for Selective Inactivation of K-Ras" • 3rd Asian Chemical Biology Initiative • Manila, Philippines • January 25, 2014. (招待講演)
20. 大神田淳子「たんぱく質間相互作用 (PPIs) を標的とする薬剤設計への挑戦～モジュールアセンブリによる PPIs 阻害ならびに検出～」・奈良先端科学技術大学院大学光ナノサイエンス特別講義・奈良先端科学技術大学院大学（奈良県・生駒市）2013 年 11 月 7 日。（招待講演）
21. Junko Ohkanda "Design and synthesis of fusicoccin-J-based chemical probes for elucidation of structural effects on 14-3-3 labeling" • The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity • Pacifico Yokohama, Kanagawa, Japan • October 28-29, 2014. (招待講演)
22. 大神田淳子「中分子によるたんぱく質間相互作用の阻害と検出～K-Ras 変異型がんに対する薬剤開発ならびに 14-3-3 標識剤への展開～」・日本薬学会九州支部特別講演会、長崎国際大学（長崎県・佐世保市）・2013 年 7 月 26 日。（招待講演）
23. 大神田淳子「たんぱく質表面を標的とする有機分子の創製」・産研テクノサロン・大阪大学産業科学研究所（大阪府・吹田市）・2013 年 2 月 1 日。（招待講演）
24. 大神田淳子「たんぱく質間相互作用 (PPIs) に対する低分子創薬の可能性を迫って～モジュールアセンブリによる中分子の創製と PPIs 制御および検出～」・第 13 回東京理科大学 CTC セミナー・東京理科大学がん医療基盤科学技術研究センター（千葉県・野田市）・2012 年 10 月 30 日。（招待講演）
25. Junko Ohkanda "Natural product-based chemical probes for detecting 14-3-3-phospholigand interactions" • G3 Meeting International, Japanese Nano-Macro Materials, Devices and System Research Alliance • Tokyo Institute of Technology, Tokyo, Japan • October 11 to 12, 2012. (招待講演)

26. [Junko Ohkanda](#) "Assembling small molecules for disrupting and detecting protein-protein interactions" • Department of Pharmaceutical Sciences of College of Pharmacy, University of South Florida, Tampa, Florida, USA • October 8, 2012. (招待講演)
27. [Junko Ohkanda](#) "Natural product-based chemical probes for detecting 14-3-3-phospholigand interactions" • The Sixth Peptide Engineering Meeting PEM6 • Emory University Conference Center, Atlanta, Georgia, USA • October 2 to 5m 2012. (招待講演)
28. [Junko Ohkanda](#) "Assembling small molecules for disrupting and detecting protein-protein interactions" • Institute for Chemical Research, Kyoto University, Kyoto, Japan (Host: Prof. Motonari Uesugi) • July 18, 2012. (招待講演)
29. [Junko Ohkanda](#) "Fusicocin-based fluorescent probes for detecting 14-3-3 interactions with phosphorylated ligands" • 2012 Asian Chemical Biology Conference ACBC2012 • Okinawa, Japan • July 4 to 6, 2012. (招待講演)
30. [Junko Ohkanda](#) "Assembling small molecules for disrupting and detecting protein-protein interactions" • Department of Chemistry, University of Minnesota, Minneapolis, USA (Host: Prof. Mark Distefano) • June 7, 2012. (招待講演)
31. [Junko Ohkanda](#) "Assembling small molecules for disrupting and detecting protein-protein interactions" • Department of Cellular and Molecular Pharmacology, University of California, San Francisco, San Francisco, USA (Host: Prof. Danica G. Fujimori) • June 5, 2012. (招待講演)

【相田美砂子】

1. [Misako Aida](#), Theoretical study on the mutual influence of water and biomolecules. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem2015) (December 15, 2015, Honolulu, Hawaii, USA)
2. Dai Akase, [Misako Aida](#), Koichi Ohno, Suehiro Iwata, Analysis of hydrogen bond energies and hydrogen bonding networks in water clusters using the locally projected molecular orbital perturbation theory. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem2015) (December 17, 2015, Honolulu, Hawaii, USA)
3. Yudai Watanabe, Dai Akase, [Misako Aida](#), Theoretical study on the electronic structure of trimethylamine N-oxide (TMAO) in aqueous solution. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem2015) (December 17, 2015, Honolulu, Hawaii, USA)
4. [相田 美砂子](#), 生理活性分子の水溶液中における構造の理論予測。第9回分子科学討論会 (2015年9月16日-19日, 東京)
5. 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), 水6量体アニオンクラスターの水素結合ネットワークと垂直電子脱離エネルギー。第18回理論化学討論会 (2015年5月22日-22日, 豊中市)
6. 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), 水クラスターにおける水素結合ネットワークと水分子の振動数。第9回分子科学討論会 (2015年9月16日-19日, 東京)
7. 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), 大野 公一, 岩田 末廣, 水クラスター(H₂O)_n (n=8) 内の水素結合エネルギーと水素結合ネットワークの解析: GRRM法による探索とLPMDPTによる解析。第9回分子科学討論会 (2015年9月16日-19日, 東京)
8. 菅原 貴弘, [相田 美砂子](#), QM/MM-MD法を用いたハロゲン化カルシウムの水和構造と水分子に及ぼす影響についての理論化学的研究。第38回溶液化学シンポジウム (2015年10月21日-23日, 高知)
9. 宮本 健悟, [相田 美砂子](#), B-DNAの塩基対間相互作用における多体効果についての理論化学的研究。第38回ケイムフォマティクス討論会 (2015年10月8日-9日, 東京)
10. 佐々木 一繁, 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), プロトン化水クラスターH₃O⁺(H₂O)_{n-1} (n≤7)の安定構造とOH伸縮振動のトポロジー的な分類に関する理論化学的研究。2015年日本化学会中国四国支部大会 (2015年11月14日-15日, 岡山)
11. 細田 萌, 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), NMRスペクトルにおける溶媒効果についての理論化学的研究。2015年日本化学会中国四国支部大会 (2015年11月14日-15日, 岡山)
12. 吉川 太基, 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), 水溶液中におけるヘキサピラノースの構造に関する研究。2015年日本化学会中国四国支部大会 (2015年11月14日-15日, 岡山)
13. [相田 美砂子](#), ヘキサピラノースの構造と水和構造に関する理論的研究。新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー〜分子標的と活性制御〜」第8回公開シンポジウム (2015年6月8日-9日, 仙台)
14. 渡部 雄大, [相田 美砂子](#), フグ毒の水溶液中における構造と水和に関する理論化学的研究。第9回分子科学討論会 (2015年9月16日-19日, 東京)
15. 渡部 雄大, [相田 美砂子](#), 尿素とトリメチルアミノオキシドの水和構造の特徴に関する理論化学的研究。第38回溶液化学シンポジウム (2015年10月21日-23日, 高知)
16. 菅原 貴弘, [相田 美砂子](#): 二価金属ハロゲン化物の水和構造に関する理論化学的研究。第9回分子科学討論会 (2015年9月16日-19日, 東京)
17. Yuu Sasaki, Yuka Horikawa, Takashi Tokushima, Kazumasa Okada, Masaki Oura, [Misako Aida](#), Soft X-ray emission spectroscopy of aqueous solutions of trimethylamine-N-oxide at the O K-edge. 第31回化学反応討論会 (2015年6月3日-5日, 札幌)
18. Kentaro Okinaka, [Misako Aida](#), Theoretical study of hydration of serine. The 11th Nano Bio Info Chemistry Symposium (December 13, 2014, Hiroshima, Japan)
19. Takahiro Sugahara, [Misako Aida](#), Theoretical study on the hydration of divalent ions. The 11th Nano Bio Info Chemistry Symposium (December 13, 2014, Hiroshima, Japan)
20. [Misako Aida](#), A theoretical study on the geometrical characteristics of stereoisomers of hexopyranoses. The 3rd International Symposium Chemical Biology (October 28-29, 2014, Toyonaka, Japan)
21. 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), 水素結合ネットワークに基づく水クラスターの解析。2014年日本化学会中国四国支部大会 (2014年11月8日-9日, 山口)
22. 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), 寺前 裕之, プロトン化水クラスターH₃O⁺(H₂O)_{n-1}, n=8の水素結合ネットワークトポロジーとOH伸縮振動の分類。第17回理論化学討論会 (2014年5月22日-24日, 名古屋)
23. 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), プロトンの水和構造と水素結合ネットワーク。第8回分子科学討論会 (2014年9月21日-24日, 広島)
24. 小坂 有史, 小出来 聡子, 勝本 之晶, [相田 美砂子](#), グルコースおよびマンノースの水溶液中におけるアノマー異性化。2014年日本化学会中国四国支部大会 (2014年11月8日-9日, 山口)
25. 渡部 雄大, [相田 美砂子](#), テトロドトキシンの水和構造に関する理論化学的研究。2014年日本化学会中国四国支部大会 (2014年11月8日-9日, 山口)
26. 小出来 聡子, [相田 美砂子](#), ヘキサピラノースのアノマーの安定性に関する理論化学的研究。2014年日本化学会中国四国支部大会 (2014年11月8日-9日, 山口)
27. 宮本 健悟, [相田 美砂子](#), 酸化された核酸塩基についての理論化学的研究: 8-Oxoguanineの場合。2014年日本化学会中国四国支部大会 (2014年11月8日-9日, 山口)
28. 須田 岬, 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), 寺前 裕之, プロトン化水クラスター8量体における安定構造の理論的研究。日本コンピュータ化学会2014年春季年会 (2014年5月29日-30日, 東京)
29. 岩田 末廣, 赤瀬 大, [相田 美砂子](#), Sotiris S. Xantheas: 多面体水クラスターの水素結合ネットワーク: 電荷移動項と分散項による解

- 析。第8回分子科学討論会 (2014年9月21日-24日, 広島)
30. 小坂 有史, 小出来 聡子, 出射 早希子, 勝本 之晶, 相田 美砂子, グルコピラノースとマンノピラノースの水溶液中での構造に関する研究。第8回分子科学討論会 (2014年9月21日-24日, 広島)
 31. 渡部 雄大, 赤瀬 大, 相田 美砂子, TMAO(Trimethylamine N-oxide)の水和相互作用に関する理論化学的研究。第8回分子科学討論会 (2014年9月21日-24日, 広島)
 32. 菅原 貴弘, 相田 美砂子, カルシウムイオンとマグネシウムイオンの水和構造と水和エネルギー。第8回分子科学討論会 (2014年9月21日-24日, 広島)
 33. 菅原 貴弘, 相田 美砂子, 二価イオンの水和に関する理論化学的研究。第37回情報化学討論会 2014 豊橋 (2014年11月27日-28日, 愛知)
 34. Misako Aida, Hidenori Miyamoto, Helmholtz Energy Change between Neutral and Zwitterionic Forms of Glycine in Aqueous Solution. 5th JCS International Symposium on Theoretical Chemistry (December 2013, Nara, Japan)
 35. Sakiko Idei, Misako Aida, A theoretical study of structures of hexopyranose anomers using QM/MM method. The 10th Nano Bio Info Chemistry Symposium (December 2013, Hiroshima)
 36. Yudai Watanabe, Hideo Doi, and Misako Aida, A theoretical study of hydration number of TMAO. The 10th Nano Bio Info Chemistry Symposium (December 2013, Hiroshima)
 37. Dai Akase, Misako Aida, and Hiroyuki Tramae, Graph representation of protonated water cluster and a comprehensive search of local minimum structures of protonated water octamer. The 10th Nano Bio Info Chemistry Symposium (December 2013, Hiroshima)
 38. Dai Akase, Misako Aida, and Sotiris S. Xantheas, Intra- and intermolecular interactions of α -, β -, γ -cyclodextrins: from the gas phase to aqueous solution. Symposium on "Molecular Science and Synthesis of Functional Molecules for Next Generation" (March 2014, Hiroshima)
 39. Misako Aida, Sakiko Idei, A theoretical study on hydration patterns of bioactive molecules. The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity (October, 2013, Yokohama, Japan).
 40. Dai Akase, Misako Aida, Theoretical study of cyclodextrins from gas phase to aqueous solution: intramolecular and intermolecular hydrogen bonding. 5th JCS International Symposium on Theoretical Chemistry (December 2013, Nara)
 41. Hideo Doi, Misako Aida, Hydration Helmholtz energy of adamantane and halo-substituted adamantanes. 5th JCS International Symposium on Theoretical Chemistry (December 2013, Nara)
 42. Ami Kosaka, Sakiko Idei, Yukiteru Katsumoto, and Misako Aida, Anomerization of glucopyranose and mannopyranose in dilute aqueous solution investigated by NMR spectroscopy. Symposium on "Molecular Science and Synthesis of Functional Molecules for Next Generation"(March 2014, Hiroshima)
 43. 赤瀬大, 相田美砂子, Sotiris S. Xantheas, α -, β -, γ -シクロデキストリンの分子内及び分子間相互作用に関する理論化学的研究。第16回理論化学討論会 (2013年5月, 福岡)
 44. 赤瀬大, 相田美砂子, Sotiris S. Xantheas, 分子動力学シミュレーションによるシクロデキストリンの水和構造の理論的研究。第7回分子科学討論会 (2013年9月, 京都)
 45. 土居英男, 相田美砂子, アダマンタンとアダマンタン置換体における水和のホルムヘルツエネルギー。2013年日本化学会中国四国支部大会 (2013年11月, 広島)
 46. 沖中健太郎, 相田美砂子, 双性イオン型セリンの安定性に関する理論化学的研究。2013年日本化学会中国四国支部大会 (2013年11月, 広島)
 47. 菅原貴弘, 相田美砂子, Ca^{2+} の水和構造と水和エネルギー。2013年日本化学会中国四国支部大会 (2013年11月, 広島)
 48. 赤瀬大, 相田美砂子, 寺前 裕之, プロトン化水クラスターのグラフ表示と安定構造の網羅的探索。第36回情報化学討論会 (2013年11月, 茨城)
 49. 小坂有史, 出射早希子, 相田美砂子, 勝本之晶, NMR 分光法および赤外分光法による水溶液中における糖のアノマー化に関する研究。高分子基礎研究会 2013-2 (2013年11月, 広島)
 50. 小坂有史, 出射早希子, 勝本之晶, 相田美砂子, 水溶液中におけるグルコピラノースおよびマンノピラノースのアノマー異性化。日本化学会第94春季年会 (2014年3月, 愛知)
 51. 出射早希子, 相田美砂子, ヘキソピラノースアノマーの水和による安定化エネルギーについての理論化学的研究。第7回分子科学討論会 (2013年9月, 京都)
 52. 渡部雄大, 土居英男, 相田美砂子, TMAO と水分子との相互作用に関する理論化学的研究。第7回分子科学討論会 (2013年9月, 京都)
 53. Dai Akase, Misako Aida, and Sotiris S. Xantheas, Aqueous solvation of α -, β -, and γ -Cyclodextrins: from first principles to classical force fields. The 9th Nano Bio Info Chemistry Symposium / The 6th Japanese-Russian Seminar (December 2012, Hiroshima)
 54. Sakiko Idei, Misako Aida, A theoretical study of structures and stabilities of hexopyranose anomers in vacuo and in aqueous solution. The 9th Nano Bio Info Chemistry Symposium and The 6th Japanese-Russian Seminar(December 2012, Hiroshima)
 55. Yudai Watanabe, Hideo Doi, Misako Aida, A theoretical study on TMAO hydration structure. The 9th Nano Bio Info Chemistry Symposium and The 6th Japanese-Russian Seminar(December 2012, Hiroshima)
 56. Shunsuke Mieda, Misako Aida, Dipole Moments of Amino Acid Residues in α -Helix. The 14th International Congress of Quantum Chemistry (June 2012, Colorado, United States)
 57. Dai Akase, Misako Aida, Quantum Chemical Studies of α -, β -, and γ -Cyclodextrin Monomers and Dimers. The 14th International Congress of Quantum Chemistry (June 2012, Colorado, United States)
 58. 出射早希子, 相田美砂子, 気相中および水溶液中におけるヘキソピラノースアノマーの安定性についての理論化学的研究。第35回情報化学討論会 (2012年10月, 広島)
 59. 渡部雄大, 土居英男, 相田美砂子, オスモライトの水和構造に関する理論化学的研究。2012年 日本化学会西日本大会 (2012年11月, 佐賀)
 60. 三枝俊亮, 相田美砂子, α ヘリックスにおける L-と D-アミノ酸残基の双極子モーメント。第6回分子科学討論会 (2012年9月, 東京)
 61. 杉本廣之, 吉田智喜, 相田美砂子, 核内受容体リガンド機能を有する天然物化合物についての計算化学からの検討。第35回情報化学討論会 (2012年10月, 広島)
 62. 赤瀬大, 相田美砂子, 寺前裕之, プロトン化水クラスターの安定構造の網羅的探索。第35回情報化学討論会 (2012年10月, 広島)
 63. 土居英男, 相田美砂子, アダマンタン誘導体と水分子における水和の解析。第35回情報化学討論会 (2012年10月, 広島)
 64. 三枝俊亮, 相田美砂子, 阿部幸浩, γ -PGA の構造および物性に関する計算化学的研究。第35回情報化学討論会 (2012年10月, 広島)
 65. 渡部雄大, 相田美砂子, 浸透圧調整物質の特異な水素結合形成能に関する理論化学的研究。第35回情報化学討論会 (2012年10月,

広島)

【大高章】

1. Akira Otaka, N-Sulfanylethylamides as a Versatile Chemical Device for Protein Chemistry, 2012 SNU Symposium on Medicinal Chemistry, May 2012, Seoul (Korea).
2. Akira Otaka, Chemical Protein Synthesis Using N-Sulfanylethylamide Peptide, The 14th Akabori Conference, Sep. 2012, Niseko (Japan).
3. タンパク質選択的ラベル化法の開発研究 傳田将也、山本 純、坂本 健、重永 章、佐藤陽一、山内あい子、大高 章 第 51 回日本薬学会・日本薬剤師会、日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会、2012 年 11 月
4. Aspergillide C の活性評価および標的タンパクの探索 折原賢祐、小林久剛、兼松 誠、吉田昌裕、中村崇洋、辻 大輔、伊藤孝司、重永 章、大高 章、宍戸 宏造 日本薬学会第 133 年会、2013 年 3 月
5. 標的タンパク質の精製・選択的ラベル化ツール「トレーサブルリンカー」の開発 山本 純、北 未来、重永 章、佐藤陽一、山内あい子、大高 章 日本薬学会第 133 年会、2013 年 3 月
6. Application of thiol-responsive amino acid to traceable linker for purification and selective labeling of target protein. J.Yamamoto, M. Kita, A. Shigenaga, Y. Sato, A. Yamauchi and A. Otaka, 23rd American Peptide Symposium, Hawai'i, Jun. 2013 年
7. 標的タンパク質精製・選択的ラベル化ツール"Traceable Linker"の開発研究 山本 純、北 未来、重永 章、佐藤 陽一、山内 あい子、大高 章 生命分子機能研究会 2013 学術集会、2013 年 9 月
8. Development of thiol-responsive traceable linker for efficient enrichment and selective labeling of target proteins. J. Yamamoto, M. Kita, A. Shigenaga, Y. Sato, A. Yamauchi and A. Otaka, 4th Asia-Pacific International Peptide Symposium, 50th Japanese Peptide Symposium, Suita, Nov. 2013 年
9. タンパク質機能解明を指向した新規ラベル化試薬"SEAL-tag"の開発研究佐藤浩平、傳田将也、山本 純、坂本 健、重永 章、佐藤陽一、山内あい子、大高 章 第 31 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2013 年 11 月
10. 標的タンパク質の効率的濃縮および選択的ラベル化を可能とする新規リンカー分子の開発 森崎巧也、山本 純、重永 章、佐藤陽一、猪熊 翼 山内あい子、大高 章 日本薬学会第 134 年会、2014 年 3 月
11. 標的タンパク質の効率的濃縮および選択的ラベル化を可能とするチオール応答型トレーサブルリンカーの開発 山本 純、森崎巧也、北 未来、小宮千明、重永 章、佐藤陽一、山内あい子、大高 章 第 32 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2014 年 1 月

【高橋栄夫】

1. Hideo Takahashi, "NMR approach for biomedical application", Pacificchem 2015: Biomolecular Structure and Dynamics: Recent Advances in NMR, 2015/12/18, Honolulu (USA)
2. 高橋栄夫, "創薬研究における NMR の活用", 第 33 回メディシナルケミストリーシンポジウム, 2015/11/27, 幕張国際研修センター (千葉)
3. Hideo Takahashi, "An NMR approach to improve a small-molecule inhibitor", The 4th International Symposium on Drug Discovery and Design by NMR, 2015/2/5, 理研横浜研究所 (横浜)
4. 高橋栄夫, "創薬と NMR と計算科学", 第 358 回 CBI 学会講演会 バイオ NMR 創薬活用への新展開, 2015/1/14, 東京大学 (東京)
5. Hideo Takahashi, "An NMR-based approach to improve a small-molecule inhibitor", IPR seminar: International NMR Symposium on Pharmaceutical NMR, 2014/12/20, 大阪大学 (大阪)
6. 高橋栄夫, "リガンド分子の「鍵」構造を探索する NMR 相互作用解析技術", 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第 6 回若手研究者ワークショップ「機器分析のケミカルバイオロジーへの応用」, 2014/10/29, 千里ライフサイエンスセンター (大阪)
7. 高橋栄夫, "Drug Discovery and Design by NMR", よこはま NMR 研究会 第 50 回記念公開ワークショップ, 2014/7/9, 理研横浜研究所 (横浜)
8. 高橋栄夫, "NMR によるタンパク質被認識部位の同定法", 日本蛋白質科学会 第 1 回蛋白質工学研究会ワークショップ, 2014/5/24, ワークピア横浜 (横浜)
9. 高橋栄夫, "NMR によるタンパク質相互作用とそのアロステリック阻害機構の解明", 第 35 回日本分子生物学会年会・ワークショップ「NMR で見るタンパク質の機能発現」, 2012/12/12, 福岡国際会議場 (福岡)
10. Hideo Takahashi, "NMR approach for ligand-based drug discovery: DIRECTION approach for the pharmacophore mapping of drug candidates", The 3rd International Symposium on Drug Discovery and Design by NMR, 2012/10/12, 理研横浜研究所 (横浜)
11. 高橋栄夫, "天然物リガンドの「鍵」構造を探索する NMR 相互作用解析技術", 新学術領域研究 天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～ 第 2 回公開シンポジウム, 2012/6/17, 東京大学 (東京)

【菅敏幸】

1. Toshiyuki Kan "Synthetic Study on Heterocyclic Natural Products" Japan-Singapore Bilateral Symposium on Synthetic Organic Chemistry, 2012 年 10 月 30 日「Nanyang (Singapore)」
2. 菅 敏幸: 効率的ヘテロ環構築を基盤とする生理活性天然物の合成, 2012 年 10 月 15 日, 第 2 回大塚有機合成シンポジウム (徳島)
3. Toshiyuki Kan "Synthetic Study on Heterocyclic Natural Products" University of Pennsylvania, 2012 年 9 月 19 日「Philadelphia (USA)」
4. Toshiyuki Kan "Synthetic Study on Heterocyclic Natural Products" Colorado State University, 2012 年 9 月 17 日「Fort Collins (USA)」
5. Toshiyuki Kan "Synthetic Study on Heterocyclic Natural Products" University of California Irvine, 2012 年 9 月 14 日「Irvine (USA)」
6. Toshiyuki Kan "Synthetic Study on Heterocyclic Natural Products" Scripps Research Institute, 2012 年 9 月 11 日「La Jolla (USA)」
7. Toshiyuki Kan "Synthetic Study on Heterocyclic Natural Products" University of California San Diego, 2012 年 9 月 10 日「San Diego (USA)」
8. 菅敏幸: 効率的ヘテロ環構築を基盤とする生理活性天然物の合成, 招待講演, 2012 年 1 月 20 日「愛媛大学工部 (松山)」
9. 菅敏幸: α 置換アミノ酸スフィンゴフィンゲン E の全合成, 有機化学セミナー 2013, 2013 年 3 月 9 日「大阪大学薬学部 (大阪)」
10. 菅敏幸: 効率的カテキンプローブ合成を基盤とする動態解析, 農芸化学会 ポリフノールのケミカルバイオロジー最先端, 2013 年 3 月 27 日「電力ホール (仙台)」
11. 菅敏幸: 独自の合成方法論を基盤とするプローブ分子の創製, 第 3 回有機分子構築法夏の勉強会, 2013 年 5 月 19 日「湯河原(神奈川県)」
12. 菅敏幸: 独自の合成方法論を基盤とするプローブ分子の創製, 天然物ケミカルバイオロジー第 4 回公開シンポジウム, 2013 年 5 月 29 日「つくば国際会議場 (つくば)」
13. 菅 敏幸: 効率的ヘテロ環構築を基盤とする生理活性天然物の合成, 第 103 回有機合成シンポジウム, 2013 年 6 月 5 日「慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂 (東京)」
14. 菅敏幸: 効率的ヘテロ環構築を基盤とする生理活性天然物の合成, 千葉大学大学院薬学研究所講演会, 2013 年 7 月 12 日「千葉大学

(千葉)

15. 菅敏幸：潜在的対称性に注目した生理活性天然物の全合成，平成 26 年度日本化学会東海支部地区講演会，2014 年 12 月 20 日「静岡市産学交流センター プレゼンテーションルーム(静岡)」
16. Toshiyuki Kan “Synthetic Investigation on Natural Products from Mushroom” ITbM-RCMS-IGER Seminar, 2014 年 8 月 29 日「Nagoya University (Japan)」
17. 菅敏幸：効率的カテキンプロープ合成を基盤とする動態解析，農芸化学会北海道東北支部例会，2014 年 8 月 22 日「北海道大学 (北海道)」
18. Toshiyuki Kan “Synthetic Study on Heterocyclic Natural Products” Applied Chemistry Lecture, Changchun Institute of Applied Chemistry, Chinese Academy of Science, 2014 年 8 月 11 日「Changchun (China)」
19. 菅敏幸：効率的カテキンプロープ合成を基盤とする動態解析，化学生態学研究会，2014 年 6 月 18 日「湯の川プリンスホテル渚亭(函館)」
20. 菅敏幸：潜在的対称性に注目した生理活性天然物の全合成，創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業合成領域第 2 回勉強会，2015 年 3 月 6 日「慶應義塾大学薬学部マルチメディア講堂 (東京)」
21. 菅敏幸：潜在的対称性に注目した生理活性天然物の全合成，神戸大学理学研究科講演会，2015 年 9 月 25 日「神戸大学 (神戸)」

【中村浩之】

1. 佐藤 伸二、中村 公亮、中村 浩之、ルミノール誘導体を用いたチロシン残基選択的な化学修飾法開発、日本化学会第 96 回年会、2016 年 3 月 24-27 日 (同志社大学、京都)
2. 羽田野 兼資、佐藤 伸二、中村 浩之、光触媒を用いた Tyr 残基修飾反応における一電子移動範囲の解明、日本化学会第 96 回年会、2016 年 3 月 24-27 日 (同志社大学、京都)
3. 佐藤 伸二、中村 公亮、中野 洋文、中村 浩之、チロシン残基選択的の化学修飾法を用いたチロシンホスファターゼ活性スクリーニング法の開発、日本化学会第 96 回年会、2016 年 3 月 24-27 日 (同志社大学、京都)
4. 中村浩之、ホウ素を使ってがんを挑む ～ホウ素創薬の最前線～、第 8 回「国際的キャリア展望に向けた生命化学研究者による講演会」招待講演、2016 年 1 月 27 日 (岡山大学、岡山)
5. S. Sato, K. Nakamura, H. Nakamura, Heme-Catalyzed Tyrosine Click Reaction. The 8th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences, 2016 年 1 月 20-22 日 (大阪)
6. H. Nakamura, Discovery of carboranylphenoxyacetanilides as inhibitors of heat shock protein (HSP) 60 chaperone activity. The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015, (Pacifichem 2015), Invited Lecture, 2015 年 12 月 15-20 日 (Honolulu, USA)
7. S. Sato, K. Nakamura, H. Nakamura, Tyrosine-selective chemical modification using single-electron-transfer catalyst The International Chemical Congress of Pacific Basin Societies 2015 (Pacifichem 2015), 2015 年 12 月 15-20 日 (Honolulu, USA)
8. H. Nakamura, S. Sato, K. Morita, Target Protein-Selective Labeling and Inactivation Using Ligand-Directed Ru(bpy)₃ Photocatalysts, 1st Asian Conference on Chemosensors & Imaging Probes, Invited Lecture, 2015 年 11 月 16-18 日 (Seoul, Korea)
9. S. Sato, K. Nakamura, H. Nakamura, Heme-Catalyzed Tyrosine Click Reaction with Luminol Derivatives, 1st Asian Conference on Chemosensors & Imaging Probes, 2015 年 11 月 16-18 日 (Seoul, Korea) **Poster Presentation Award**
10. 中村浩之、光を使って生命機能を探る・操る、有機合成化学協会関東支部ミニシンポジウム 2015 招待講演、2015 年 6 月 27-28 日 (東海大学、神奈川)
11. 中村浩之、インデノピラゾール骨格を基軸とした創薬研究、平成 27 年度 環境調和材料・デバイスプロジェクトグループ(G4)分科会、2015 年 6 月 19-20 日 (千歳、北海道)
12. 李 廣哲、峯岸 秀充、佐藤 伸二、中村 浩之、カルボラン骨格を有する新規 Hsp60 阻害剤の開発、第 19 回日本がん分子標的治療学会学術集会、2015 年 6 月 10-12 日 (松山、愛媛)
13. 佐藤伸二、中村公亮、中村浩之、ルミノール誘導体を用いたチロシン残基に選択的な共有結合形成反応の開発、日本ケミカルバイオロジー学会第 10 回年会、2015 年 6 月 10-12 日 (東北大学、宮城)
14. 中村浩之、峯岸秀光、室井誠、二村友史、川谷誠、長田裕之、高い細胞増殖阻害を有するインデノピラゾールの発見とプロファイリング法による阻害機構の解明、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー」第 8 回公開シンポジウム、2015 年 6 月 8-9 日 (東北大学、宮城)
15. 中村公亮、佐藤伸二、中村浩之、Luminol 誘導体を用いた鉄触媒存在下での Tyr 残基高選択的ラベル化反応、第 69 回有機合成化学協会関東支部会シンポジウム、2015 年 5 月 16 日 (横浜国立大学、神奈川) 若手講演賞受賞
16. 中村浩之、高い細胞増殖阻害を有するインデノピラゾール化合物の発見とその作用機序解明、平成 26 年度アライアンス成果報告会、2015 年 4 月 21 日 (九州大学、福岡)
17. 峯岸秀充、中村浩之、ベンゾフロピラゾール化合物の合成と HIF-1 転写活性への影響、日本化学会第 95 回年会、2015 年 3 月 26-29 日 (日本大学、千葉)
18. 大内俊明、峯岸秀充、中村浩之、イミダゾピリジン骨格を有する新規 HIF-1 α 阻害剤の開発、日本化学会第 95 回年会、2015 年 3 月 26-29 日 (日本大学、千葉)
19. 中村公亮、佐藤伸二、中村浩之、ルミノール誘導体を用いた鉄触媒存在下での Tyr 残基特異的タンパク質ラベル化反応、日本化学会第 95 回年会、2015 年 3 月 26-29 日 (日本大学、船橋)
20. 佐藤伸二、森田耕平、中村浩之、リガンド連結型 Ru 光触媒を用いたタンパク質ノックダウンとラベル化の制御、日本薬学会第 135 回年会、2015 年 3 月 25-28 日 (神戸、兵庫)
21. H. Nakamura, Development of Chemical Tools for Target Protein-Selective Identification and Selective Modification **Invited Lecture** at Indian Institute of Science, 2015 年 3 月 10 日 (Bangalore, India)
22. H. Nakamura, Development of Chemical Tools for Target Protein-Selective Identification and Selective Modification, **Invited Lecture** at Jawaharlal Nehru Centre for Advanced Scientific Research (JNCASR), 2015 年 3 月 9 日 (Bangalore, India)
23. S. Sato, K. Morita, H. Nakamura, Development of Ligand-directed Ru(bpy)₃ Photocatalysts for Target Protein Knockdown and Labeling An International Symposium on Recent Advances in Chemistry (REACH-2015), 2015 年 3 月 3-5 日 (Shillong, India)
24. H. Nakamura, Development of Chemical Tools for Target Protein-Selective Identification and Modification **Invited Lecture** at Indian Institute of Technology, 2015 年 3 月 2 日 (Guwahati, India)
25. 中村浩之、ホウ素でがんを挑む、第一三共株式会社品川研究開発センターセミナー、招待講演 2015 年 2 月 20 日 (品川、東京)
26. 佐藤伸二、中村浩之、標的タンパク質のラベル化を指向した一電子酸化チロシン残基修飾反応の開発、第 68 回有機合成化学協会関東支部シンポジウム、2014 年 11 月 29-30 日 (新潟大学、新潟)
27. 峯岸秀充、中村浩之、ベンゾフロピラゾール化合物による HIF-1 転写活性への影響、第 12 回がんハイポキシア研究会、2014 年 11

- 月 21-22 日 (佐賀、佐賀)
28. H. Nakamura, Photoaffinity Labeling Molecules as Tools for Identification and Modification of Target Proteins, Vietnam Malaysian International Chemical Congress, Invited Lecture, 2014 年 11 月 7-9 日 (Hanoi, Vietnam)
 29. S. Sato, H. Nakamura, Target-selective Protein Modification Based on Local Environmental Single Electron Transfer Catalysis, 18th Malaysian International Chemical Congress (18MICC), Invited Lecture, 2014 年 11 月 3-5 日 (Kuala Lumpur, Malaysia)
 30. 中村浩之, Target-selective Protein Modification Based on Local Environmental Single Electron Transfer Catalysis, 新学術領域第 3 回国際シンポジウム, 招待講演, 2014 年 10 月 28-29 日 (千里、大阪)
 31. 佐藤伸二, 中村浩之, 一電子酸化触媒を用いたタンパク質のチロシン残基修飾法開発と応用, 第 1 回 資源研フォーラム 2014 年 10 月 21-22 日 (東京工業大学、東京)
 32. H. Nakamura, L. Tazaki, D. Kanoh, S. Sato, H. S. Ban, Diaryl-substituted carboranes as inhibitors of hypoxia inducible factor-1 transcriptional activity, XV International Meeting of Boron Chemistry, 2014 年 8 月 24-28 日 (Prague, Czech)
 33. H. Nakamura, S. Sato, Target-selective Protein Modification Using Ligand-conjugated Ru(bpy)₃ Catalyst, XXVI International Congress of Organometallic Chemistry (ICOMC-XXVI) 2014 年 7 月 13-18 日 (北海道大学、札幌)
 34. 東礎代子、李廣哲、佐藤伸二、中村浩之、カルボラン骨格を有する新規 Hsp60 阻害剤の開発、創薬懇親会 2014、2014 年 7 月 10~11 日 (岐阜薬科大学、岐阜)
 35. H. Nakamura, H. S. Ban, K. Shimizu, H. Minegishi, S. Sato, Design of Photoaffinity Probe Molecules for Identification and Modification of Target Proteins, The 31st International Conference of Photopolymer Science and Technology Materials & Processes for Advanced Microlithography, Nanotechnology and Phototechnology (ICPST-31), Invited Lecture, 2014 年 7 月 8-11 日 (千葉大学、千葉)
 36. 中村浩之、光増感分子を設計しタンパク質を探る・操る、そして創薬へ挑む、第 49 回天然物化学談話会、招待講演、2014 年 7 月 2-4 日 (児島、岡山)
 37. 中村浩之、脱 SUMO 化酵素 SENP1 阻害剤、第 18 回日本がん分子標的治療学会学術集会、2014 年 6 月 26 日 (仙台、宮城)
 38. 佐藤伸二、森田耕平、中村浩之、リガンド連結型 Ru(bpy)₃ 触媒を用いた標的選択的タンパク質光分解とラベル化反応の制御、日本ケミカルバイオロジー学会 第 9 回年会 2014 年 6 月 11-13 日 (大阪大学、大阪)
 39. 中村公亮、佐藤伸二、中村浩之、Luminol 誘導体を用いた鉄触媒存在下での Tyr 残基高選択的ラベル化反応、日本ケミカルバイオロジー学会 第 9 回年会、2014 年 6 月 11-13 日 (大阪大学、大阪)
 40. 中村浩之、光を用いて生命機能を探り操る、平成 26 年度 アライアンス G4 分科会、2014 年 5 月 29 日 (大阪大学、大阪)
 41. 佐藤伸二、中村浩之、光触媒を利用した生体内標的タンパク質ラベル化法の開発、新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第 6 回公開シンポジウム、2014 年 5 月 28-29 日 (名古屋、愛知)
 42. 峯岸秀充、深代真司、佐藤伸二、中村浩之、インデノピラゾール化合物による低酸素応答および細胞増殖に対する効果、文科省新学術領域研究・がん支援「化学療法基盤支援活動」第 3 回シンポジウム、2014 年 5 月 12 日 (名護、沖縄)
 43. 東礎代子、佐藤伸二、安井友香、丸山美菜子、潘鉉承、中村浩之、カルボラン骨格を基盤とした新規 Hsp60 阻害剤の開発、文科省新学術領域研究・がん支援「化学療法基盤支援活動」第 3 回シンポジウム、2014 年 5 月 12 日 (名護、沖縄)
 44. 峯岸秀充、深代真司、潘鉉承、佐藤伸二、中村浩之、インデノピラゾール化合物による HIF-1 阻害活性および細胞増殖抑制作用機序の解明、日本薬学会第 134 年会、2014 年 3 月 27-30 日 (熊本、熊本)
 45. 佐藤伸二、中村浩之、一電子酸化反応に基づくチロシン残基修飾法の開発と標的タンパク質選択的ラベル化法への応用、日本薬学会第 134 年会、2014 年 3 月 27-30 日 (熊本)
 46. 中村浩之、次世代低侵襲放射線治療：中性子捕捉療法用ホウ素デリバリーシステム開発、川崎スマートライフケア COI 拠点キックオフシンポジウム、招待スピーチ、2014 年 3 月 19 日 (羽田空港、東京)
 47. 峯岸秀充、深代真司、潘鉉承、中村浩之、インデノピラゾール化合物による HIF 阻害活性および細胞増殖抑制作用機序の解明、第 11 回がんとハイポキシア研究会、2013 年 12 月 13-14 日 (東北大学、仙台)
 48. H. Nakamura, Design of Photoaffinity Labeling Molecules: Tools for Identification and Modification of Target Proteins, International Conference on Emerging Trends in Chemical Sciences (IETC 2013), 2013 年 12 月 5-7 日 (Vellore, India)
 49. 中村浩之、1 人のがん患者を目前にして有機化学者ができることは何か? を考えたとき...、早稲田大学先進理工学部「実践的学知セミナー」招待講演、2013 年 11 月 8 日 (早稲田大学、東京)
 50. 中村浩之、ホウ素創薬の最前線、CBI 学会 2013 年大会、2013 年 10 月 31 日 (船堀、東京)
 51. S. Sato, H. Nakamura, Target-selective Protein Labeling Based on Local Single Electron Transfer Catalysis, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2013 年 10 月 28-29 日 (横浜、神奈川)
 52. 峯岸秀充、深代真司、潘鉉承、中村浩之、インデノピラゾール骨格を有する新規 HIF-1 阻害剤の開発と作用機序、第 57 回日本薬学会関東支部大会、2013 年 10 月 26 日 (帝京大学、東京)
 53. S. Sato, H. Nakamura, Ligand-directed Selective Protein Modification Based on Local Environmental Single Electron Transfer Catalysis, International Chemical Biology Society 2nd Annual Conference ICBS2013, 2013 年 10 月 7-9 日 (京都大学、京都)
 54. 佐藤伸二、中村浩之、標的指向性 Ru(bpy)₃ 錯体をもちいた局所環境での一電子酸化反応の制御と標的タンパク質選択的ラベル化法への応用、第 60 回有機金属討論会、2013 年 9 月 12-14 日 (学習院大学、東京)
 55. 中村浩之、がんを治す薬 —一人々の夢実現に向けて— 読売サイエンスフォーラム —学習院大学理学部の研究力—、ここまで来た！がん研究最前線 招待講演 (一般向けアウトリーチ)、2013 年 7 月 27 日 (学習院大学、東京)
 56. 森田耕平、峯岸秀充、佐藤伸二、中村浩之、小分子化合物標的タンパク質同定のための温和な条件下で切断可能なリンカー開発とその応用、日本ケミカルバイオロジー学会第 8 回年会 2013 年 6 月 19-21 日 (東京医科歯科大学、東京)
 57. 佐藤伸二、中村浩之、局所環境での一電子酸化反応を利用した標的タンパク質選択的ラベル化法の開発、日本ケミカルバイオロジー学会第 8 回年会 2013 年 6 月 19-21 日 (東京医科歯科大学、東京)
 58. 松川卓也、峯岸秀充、中村浩之、ジアーリアルカルボラン骨格を有する HIF-1 阻害剤の開発、第 17 回日本がん分子標的治療学会学術集会、2013 年 6 月 12-14 日 (京都)
 59. 中村浩之、松川卓也、佐藤伸二、Manassantin 骨格を模倣したカルボラン含有低酸素誘導因子阻害剤の開発、新学術領域「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第 4 回公開シンポジウム、2013 年 5 月 28-29 日 (筑波、茨城)
 60. 森田耕平、峯岸秀充、佐藤伸二、中村浩之、小分子化合物標的タンパク質同定のための温和な条件下で切断可能なリンカー開発とその応用、新学術領域「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」第 4 回公開シンポジウム、2013 年 5 月 28-29 日 (筑波、茨城)
 61. H. Nakamura, Boron-Based Drug Design: Discovery of HIF-1 α Degradation Pathway Induced by Inhibiting HSP60 under Hypoxia, XVth Conference on Heterocycles in Bio-organic Chemistry, Invited Lecture, 2013 年 5 月 27-30 日 (Riga, Latvia)

62. 峯岸秀充、佐藤伸二、中村浩之、インデノピラゾール化合物の高い細胞増殖抑制作用とその機序解明、第 133 回日本薬学会年会、2013 年 3 月 27-30 日(横浜、神奈川)
63. 佐藤伸二、竹内彩乃、堀牧人、潘 鉉承、口丸 高弘、近藤 科江、矢守 隆夫、中村浩之、YC-1 の構造展開による高活性 HIF-1 α 転写阻害剤の創製と作用機構解明、第 133 回日本薬学会年会、2013 年 3 月 27-30 日(横浜、神奈川)
64. 深代真司、峯岸秀充、佐藤伸二、中村浩之、インデノピラゾール骨格を有する HIF-1 阻害剤の作用機序解明、第 133 回日本薬学会年会、2013 年 3 月 27-30 日(横浜、神奈川)
65. 森田耕平、佐藤伸二、中村浩之、温和な条件で切断可能な小分子化合物標的タンパク同定リンカーの開発とその応用、第 133 回日本薬学会年会、2013 年 3 月 27-30 日(横浜、神奈川)
66. 中村浩之、潘鉉承、清水一希、東礎代子、安井友香、佐藤伸二、低酸素誘導因子 (HIF) 転写阻害活性カルボラン化合物は熱ショックタンパク 60 を阻害して HIF-1 α を分解へ誘導する、日本化学会第 93 春季年会、2013 年 3 月 22-25 日(立命館大学、滋賀)
67. 中村浩之、がんの低酸素応答に基づく創薬化学、神戸大学大学院理学研究科講演会、集中講義 2013 年 1 月 7-8 日(神戸大学、神戸)
68. H. Nakamura, Boron-Based Drug Design: Discovery of HIF-1 α Degradation Induced by Inhibition of HSP60 under Hypoxia Korea University, Seminar, 2012 年 12 月 28 日(Daejeon, Korea)
69. 峯岸秀充、安井友香、丸山美菜子、潘鉉承、佐藤伸二、中村浩之、カルボラン骨格を基軸とした HIF-1 阻害剤の開発、第 10 回がんとハイポキシア研究会、2012 年 12 月 6-7 日(横浜、神奈川)
70. 東礎代子、佐藤伸二、中村浩之、HIF-1 α の分解に関わる Hsp60 のシャペロン活性を阻害するカルボラン化合物の開発、第 10 回がんとハイポキシア研究会、2012 年 12 月 6-7 日(横浜、神奈川)
71. 松川卓也、峯岸秀充、中村浩之、ジアリールカルボラン骨格を有する HIF-1 阻害剤の開発、第 10 回がんとハイポキシア研究会、2012 年 12 月 6-7 日(横浜、神奈川)
72. 東礎代子、安井友香、峯岸秀充、佐藤伸二、中村浩之、カルボラン含有低酸素誘導因子 HIF-1 α 阻害剤の開発、第 30 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2012 年 11 月 28-30 日(船堀、東京)
73. 佐藤伸二、安井友香、丸山美菜子、峯岸秀充、潘鉉承、中村浩之、カルボラン骨格を基盤とした新規 Hsp60 阻害剤の開発、第 30 回メディシナルケミストリーシンポジウム、2012 年 11 月 28-30 日(船堀、東京)
74. T. Matsukawa, L. Tazaki, H. S. Ban, H. Nakamura, Diphenylcarboranes as a new class of hypoxia inducible factor inhibitors, 12th International Kyoto Congress of Organic Chemistry (IKCOC-12), 2012 年 11 月 12-16 日(京都)
75. H. Minegishi, S. Fukushima, H. S. Ban, H. Nakamura, Discovery of Indenopyrazoles as HIF-1 α Inhibitors, 12th International Kyoto Congress of Organic Chemistry (IKCOC-12), 2012 年 11 月 12-16 日(京都)
76. H. Nakamura, Discovery of HIF-1 α Degradation Induced by Inhibition of HSP60 under Hypoxia, 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2012 年 10 月 31 日(京都)
77. H. Nakamura, Boron-Based Drug Design: From Chemical Biology to Neutron Capture Therapy, the Institute of Medical Biology (IMB) Poland Academy of Science, Seminar, 2012 年 10 月 9 日(Lotz, Poland)
78. H. Nakamura, Development of inhibitors targeting hypoxia cell signaling, 2th COLLOQUE FRANCO-ROUMAIN DE CHIMIE MEDICINALE, 2012 年 10 月 3-5 日(Iasi, Romania)
79. 峯岸 秀充、矢守 隆夫、中村 浩之、インデノピラゾール化合物の細胞増殖抑制効果に関する研究、第 16 回日本がん分子標的治療学会学術集会、2012 年 6 月 27-29 日(北九州、福岡)
80. H. Nakamura, Boron-Based Drug Design: From Chemical Biology to Neutron Capture Therapy, Paris Tech Seminar, 2012 年 6 月 18 日(Paris, France)
81. 佐藤伸二、竹内彩乃、堀牧人、潘鉉承、口丸高弘、近藤科江、矢守隆夫、中村浩之、HIF-1 α 転写阻害剤 YC-1 の誘導展開と作用機構解析新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー：分子標的と活性制御」、第 1 回若手研究者ワークショップ、2012 年 6 月 16 日(東京医科歯科大学、東京)
82. H. Nakamura, Carboranylphenoxyacetanilides as HIF-1 Inhibitors: Photoaffinity Probe Design for Identification of Heat Shock Protein 60, a Primary Target, A celebration of Organic Chemistry, Invited Lecture, 2012 年 6 月 15 日(Cardiff University, UK)

【神澤信行】

1. N. Kanzawa, J. Nishiya, H. Otsuka, M. Takahara, "Chemical biology approaches to investigate movements in legumes", 2016 International Congress for Innovation in Chemistry, Pattaya, Thailand (June 26-29, 2016)
2. K. Izawa, Y. Takeoka, M. Aizawa, N. Kanzawa, "Mechanical and biological properties of alginate-coated beta-tricalcium phosphate-fiber scaffold", 10th World Biomaterials Congress (WBC), Montreal, Canada (May 17-22, 2016)
3. N. Kanzawa, J. Nishiya, Y. Otsuka, Y. Ishimaru, Minoru Ueda. "Biological characterization of MetE as a receptor candidate in *Cassia obtusifolia* for the leaf opening factor", Pacificchem 2015, Honolulu, Hawaii, USA (Dec 15-20, 2015)
4. N. Kanzawa, H. Takano, K. Yasuda, M. Takahara, M. Aizawa. "Studies on connexin 43, a gap-junction protein, in P19 embryonal carcinoma cells after culture on an apatite fiber scaffold", Bioceramics 27, 27th International Symposium on Ceramics in Medicine. Bali, Indonesia (Oct 27-29, 2015)
5. Y. Tsuchido, H. Kobayashi, Y. Kasai, A. Yamasawa, T. Hashimoto, N. Kanzawa, T. Hayashita, "Detection of bacteria by using fluorescent silica nanoparticles modified by dipicolylamino probes", RSC Tokyo International Conference 2014, Chiba, Japan (Sep 4-5, 2014)
6. Y. Shimizu, Y. Kawanobe, T. Konishi, N. Kanzawa, M. Honda, M. Aizawa "Cytotoxicity of anti-bacterial calcium-phosphate cement with anti-washout property", M. Bioceramics 26, 26th International Symposium on Ceramics in Medicine, Barcelona, Spain (Nov 6-8, 2014)
7. H. Kobayashi, A. Yamasawa, N. Kanzawa, T. Hashimoto, T. Hayashita, "Rapid and simple method of bacteria detection based on supramolecular complex", International conference of Ion Exchange 2014, Okinawa, Japan, (Nov 6-8, 2014)
8. N. Kanzawa, H. Nakano, Y. Ishimaru, M. Ueda, "Studies on biological responses elicited by the binding of leaf opening factor and its receptor candidate in *Cassia obtusifoli*", The 3rd Int Symp Chem Biol Nat Prod, Osaka, Japan (Oct 28-29, 2014)
9. J. Matsumoto, Y. Habuto, M. Aizawa, N. Kanzawa, "Biological evaluation of lactoferrin-loaded chelate-setting apatite cement", Archives of BioCeramics Research 2013, Kyoto, Japan (Dec 4-6, 2013).
10. K. Kosaka, H. Ishii, M. Aizawa, N. Kanzawa, "Proliferation and differentiation of P19.CL6 cells cultured in apatite-fiber scaffolds", Archives of BioCeramics Research 2013, Kyoto, Japan (Dec 4-6, 2013).
11. H. Ohsugi, J. Hatsukawa, Y. Otsuka, N. Kanzawa, "Analysis of effects of glucocorticoid on osteoblast differentiation using a double-fluorescent marker system", Archives of BioCeramics Research 2013, Kyoto, Japan (Dec 4-6, 2013).
12. N. Kanzawa, Y. Otsuka, M. Takahara, S. Hamaguchi, H. Nakano, Y. Ishimaru, M. Ueda, "MetE binds directly to leaf-opening factor and regulates nystatinic movement of *Cassia* plant", The 2nd Int. Symp Chem Biol Nat Prod, Yokohama, Japan (Oct 28-29, 2013)
13. S. Hamaguchi, Y. Otsuka, N. Kanzawa, "Localization analysis of MetE, a receptor for the Leaf-Opening Factor of the genus *Cassia*", 2012 Annual Meeting of the American Society for Cell Biology, San Francisco, CA, USA (Dec 15-19, 2012)

14. H. Ohsugi, J. Hatsukawa, Y. Otsuka, M. Aizawa, N. Kanzawa, "Establishment of a real-time evaluation system of the osteoconduction using fluorescent proteins", 2012 Annual Meeting of the American Society for Cell Biology, San Francisco, CA, USA (Dec 15-19, 2012)

【中川優】

1. 中川 優 :天然物低分子化合物による糖鎖認識の機構解析. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー:分子標的と活性制御」第六回公開シンポジウム, 2014年5月28日, 名古屋大学(名古屋).
2. 中川 優, 橋爪大輔, 土井崇嗣, 竹腰清乃理, 五十嵐康弘, 伊藤幸成:糖結合性天然物・Pradimicin Aの二量体構造. 日本農芸化学会2014年度大会, 2014年3月29日, 明治大学(神奈川).
3. Yu Nakagawa, Takashi Doi, Takara Taketani, Kiyonori Takegoshi, Yasuhiro Igarashi, Yukishige Ito: Geometry of the Primary Mannose Binding of Pradimicin A. The 8th International Conference on Cutting-Edge Organic Chemistry, November 26th, 2013, Osaka International Convention Center (Osaka, Japan).
4. Yu Nakagawa : Dimeric Calcium Complex of Pradimicin: Physiologically Active Form of Sugar Binding Natural Product. The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, October 28th, 2013, Pacifico Yokohama (Yokohama, Japan).
5. 中川 優, 土井崇嗣, 竹谷隆良, 竹腰清乃理, 五十嵐康弘, 伊藤幸成: Pradimicin Aの糖分子認識機構. 第55回天然有機化合物討論会, 2013年9月18日, 同志社大学(京都).
6. 中川 優, 五十嵐康弘, 伊藤幸成: プラディミシン A とマンノースの1:2複合体形成機構の解析. 第32回日本糖質学会年会, 2013年8月6日, 大阪国際交流センター(大阪).
7. Yu Nakagawa, Takashi Doi, Takara Taketani, Kiyonori Takegoshi, Yasuhiro Igarashi, Yukishige Ito: Solid-state NMR analysis of mannose binding of pradimicin A. The 1st Asian Conference for "MONODUKURI" Strategy by Synthetic Organic Chemistry (ACMS), July 18th, 2013, Southern Beach Hotel & Resort Itoman (Okinawa, Japan).
8. 中川 優 :非ペプチド性天然物によるマンノース認識機構の解析. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー:分子標的と活性制御」第四回公開シンポジウム, 2013年5月28日, つくば国際会議場(つくば).
9. 中川 優, 五十嵐康弘, 伊藤幸成: Pradimicin A とマンノビオース誘導体の結合解析. 日本農芸化学会2013年度大会, 2013年3月26日, 東北大学(仙台).
10. Yu Nakagawa : Identification of the target glycan of Pradimicins, small natural products with C-type lectin-like properties. The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, October 31st, 2012, Kyoto Century Hotel (Kyoto, Japan).
11. 中川 優, 竹谷隆良, 土井崇嗣, 竹腰清乃理, 五十嵐康弘, 伊藤幸成: C型レクチン様天然物プラディマイシン A との結合におけるマンノース6位水酸基の寄与. 第31回日本糖質学会, 2012年9月19日, 鹿児島市民文化ホール(鹿児島).
12. 中川 優 : Pradimicin の標的糖鎖同定に基づく糖鎖結合性人工分子の設計開発. 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー:分子標的と活性制御」第二回公開シンポジウム, 2012年6月17日, 東京大学(東京).

【室井誠】

1. Muroi M, Kawatani M, Osada H., 2D gel electrophoresis-based proteomic profiling approach to predict targets of bioactive small molecules(ProteoBase), The Second Symposium of RIKEN-Max Planck Joint Research Center for Systems Chemical Biology, Apr. 2013, Wako, Japan
2. Muroi M, Futamura Y, Kawatani M, Nogawa T, Osada H, Identification of molecular target of pyrrolizilactone by ChemProteoBase, The 2nd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2013 Oct, Yokohama, Japan
3. Muroi M, and Osada H., Proteome-based profiling approach to predict targets of bioactive small molecules using two-dimensional fluorescence differential gel electrophoresis (2D-DIGE). The 1st International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, 2012 Oct 31-Nov 1, Kyoto, Japan

【大栗博毅】

1. 大栗博毅(依頼口頭講演)、天然物の骨格を多様化するアセンブリーライン合成を目指して、日本化学会第96春季年会 特別企画講演:反応集積化による生体機能中分子の効率合成、2016.3.27、同志社大学 京田辺キャンパス(京都・京田辺市)
2. Bonepally Karnakar Reddy (oral), Takahisa Hiruma, Kyouhei Ochiai, Maruki Mizoguchi, Shun Suzuki, Hideaki Oikawa, Aki Ishiyama, Rei Hokari, Masato Iwatsuki, Kazuhiko Otaguro, Satoshi Omura, Hiroki Oguri, Design and *de novo* synthesis of anti-malarial 6-aza-artemisinins, 2016.3.25、日本化学会第96春季年会、同志社大学 京田辺キャンパス(京都・京田辺市)
3. Hiroki Oguri (invited), Development of Chemical Assembly Lines for Skeletally Diverse Indole Alkaloids and its Variants, Japan-Germany Workshop on "Molecular Technology", 2016.3.18、Berlin (Germany)
4. Hiroki Oguri (poster), Haruki Mizoguchi, Bonepally Karnakar Reddy, Takahisa Hiruma, Shun Suzuki, Kyouhei Ochiai, Hideaki Oikawa, Masato Iwatsuki, Aki Ishiyama, Kazuhiko Otaguro, Satoshi Omura, Development of Artificial Assembly Line for Skeletally Diverse Natural Products and its Variants, 2016.1.12、第8回武田科学振興財団薬科学シンポジウム 生命分子から薬を創る 一中分子薬を中心に、武田薬品研究所(大阪・吹田市)
5. Hiroki Oguri (invited), Development of Artificial Assembly Line for Skeletally Diverse Natural Products and its Variants, Pacificchem2015 Molecular Function of Natural Products: Advances towards Chemical Biology 2015.12.16、Hawaii (USA)
6. Bonepally Karnakar Reddy (poster), Takahisa Hiruma, Kyouhei Ochiai, Maruki Mizoguchi, Shun Suzuki, Hideaki Oikawa, Aki Ishiyama, Masato Iwatsuki, Kazuhiko Otaguro, Satoshi Omura, Hiroki Oguri, Design and *de novo* synthesis of anti-malarial 6-aza-artemisinins, 2015.11.11、The 13th International Kyoto Conference on New Aspect of Organic Chemistry (IKCOC-13) Rihga Royal Hotel Kyoto(京都・京都市)
7. Hiroki Oguri (invited: oral & poster), Development of Chemical Assembly Lines for Skeletally Diverse Natural Products and its Variants, The 15th Tateshina Conference of Organic Chemistry 2015.11.6 Tateshina Forum(長野・茅野市)
8. 大栗博毅(招待講演)、多官能性天然物の骨格多様化合成、ITBM/IGER Chemistry Workshop ~ Symposium of Organic Chemistry by Students ~2015.10.30、名古屋大学 野依記念物質科学研究館(愛知・名古屋)
9. 大栗博毅(招待講演)、骨格を多様化する迅速合成プロセスの開発:天然物に学ぶ10年の歩み、日本薬学会東北支部主催 第14回化学系若手研究者セミナー、2015.9.5、東北大学薬学部セミナー室(宮城・仙台市)
10. Hiroki Oguri (invited), Chemical Assembly Lines for Skeletally Diverse Natural Product Analogs, IUPAC-2015 Busan 48th General Assembly, 45th World Chemistry Congress, Chemistry of Life: Advances in Molecular Diversity 2015.8.11. BEXCO Busan (Korea)
11. Hiroki Oguri (invited), Design and *de novo* synthesis of aza-artemisinins, UPAC-2015 Busan 48th General Assembly, The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity 2014.10.29. 千里ライフサイエンスセンター(大阪・豊中市)

【浜本晋】

1. Hamamoto, S., Yabe, I., and Uozumi, N. Regulatory mechanism of TRP channel in yeast tonoplast 2015 International Chemical Congress of

Pacific Basin Societies (PACIFICHEM 2015), Dec. 15-20 2015, Honolulu Hawaii, USA

- 齋藤俊也、浜本晋、武藤潤、魚住信之 シロイヌナズナ CPK の脂質修飾による陰植物の気孔開閉に關与するイオン輸送体とその活性調節の解析制御因子に関する研究 第 55 回日本植物生理学会大会シンポジウム、(富山市)、2014 年 3 月
- 魚住信之、浜本晋、七谷圭 植物生存を支えるカリウム輸送 第 55 回日本植物生理学会大会、富山市、2014 年 3 月
- Shin Hamamoto, Isamu Yabe, Nobuyuki Uozumi, Characterization of calcium channel in yeast vacuolar membrane, International Workshop on Plant Membrane Biology 2013, Kurashiki, Japan (Mar,2013)
- Yoshihiro Mizuguchi, Shin Hamamoto, Tatsuya Okuhara, Kota Nakayama, Naoki Matsumoto, Kei Nanatani, Nobuyuki Uozumi, Phosphorylation-dependent modulation of Shaker-type K channels in Arabidopsis thaliana, Kurashiki, Japan (Mar,2013)
- Hamamoto,S., Yabe,I. and Uozumi,N. Characterization of non-selective cation channel YVC1 in yeast vacuolar membrane, Nagoya Symposium-Frontiers in Structural Physiology, Nagoya, Japan (Jan 2013)
- Shin Hamamoto, Yasuo Mori, Isamu Yabe, Nobuyuki Uozumi, Characterization of YVC1 Channel in Yeast Vacuolar Membrane, 2012 International Ion Channel Conference, Jeju, Korea (Aug 2012)

【齋藤大明】

- 齋藤大明, 川口一朋, 長尾秀実, “フレキシブルモデルを用いた分子ドッキング法の開発”, 第 8 回分子科学会, 2014 年 9 月 21 日~24 日, 東広島
- Sri Rahayu Natasia, Kazutomo Kawaguchi, Hiroaki Saito, Hidemi Nagao, “Comparative Studies in Prediction Solvation Free Energy in Octanol of Organic Compounds”, 第 8 回分子科学会, 2014 年 9 月 21 日~24 日, 東広島
- 岩山将士, 齋藤大明, 川口一朋, 長尾秀実, “MD 法と QM/MM 計算によるブルー銅タンパク質の酸化還元電位に関する理論的研究”, 第 8 回分子科学会, 2014 年 9 月 21 日~24 日, 東広島
- 堀口 翔吾, 齋藤 大明, 川口 一朋, 長尾 秀実, “胃内部脂質二重層膜の構造安定性に関する理論的研究”, 第 8 回分子科学会, 2014 年 9 月 21 日~24 日, 東広島
- 田中 勇真, 齋藤 大明, 川口 一朋, 長尾 秀実, “分子動力学法による多層ラメラ脂質二重層膜の安定性に関する研究”, 第 8 回分子科学会, 2014 年 9 月 21 日~24 日, 東広島
- 松井 貴寛, 齋藤 大明, 川口 一朋, 長尾 秀実, “タンパク質間の解離過程における 自由エネルギー地形に関する理論的研究”, 第 8 回分子科学会, 2014 年 9 月 21 日~24 日, 東広島
- Hiroaki Saito, Kazutomo Kawaguchi, Hidemi Nagao, “Molecular docking study of structure and binding energy of ligand-protein complex in dissociation process”, 第 5 2 回生物物理年会, 2014 年 9 月 25 日~26 日, 札幌
- Kazutomo Kawaguchi, Hiroaki Saito, Hidemi Nagao, “Theoretical study of distribution of ADP in binding pocket of Hsp90”, 第 5 2 回生物物理年会, 2014 年 9 月 25 日~26 日, 札幌
- 宮川毅, 森河良太, 高須昌子, 杉森公一, 川口一朋, 齋藤大明, 長尾秀実, “Hras-GTP の GTP 周辺での溶媒水と複合体の水素結合の分子動力学法による研究”, 日本物理学会 2014 年秋季大会, 2014 年 9 月 7 日 (日) ~11 日 (水), 中部大学
- 宮川毅, 森河良太, 高須昌子, 杉森公一, 川口一朋, 齋藤大明, 長尾秀実, “水溶液中の Hras-GTP 複合体の溶媒水との水素結合の解析”, 第 28 回分子シミュレーション討論会, 2014 年 11 月 12 日 (水) ~14 日 (金), 仙台
- 川口一朋, 齋藤大明, 長尾秀実 “水溶液中の粒子間に働く力の粒子サイズ依存性”, 第 28 回分子シミュレーション討論会, 2014 年 11 月 12 日 (水) ~14 日 (金), 仙台
- 齋藤大明, 川口一朋, 長尾秀実, “フレキシブルレセプターモデルを用いた分子ドッキング”, 第 28 回分子シミュレーション討論会, 2014 年 11 月 12 日 (水) ~14 日 (金), 仙台
- Hiroaki Saito, Kazutomo Kawaguchi, Hidemi Nagao, “Development of molecular docking method with flexible ligand/receptor model”, The 3rd International symposium on chemical biology of natural products: target ID and regulation of bioactivity, 2014 年 10 月 28 日 (火) ~29 日 (水), Life science center, Life hall 5F (Senri, Osaka)
- Hiroaki Saito, “Thermal Stability of Gramicidin A in Lipid Bilayer: A Free Energy Analysis”, International Symposium on Extended Molecular Dynamics and Enhanced Sampling: Nosé Dynamics 30 Years (NOSE30), Conference Hall, North Building, Mita Campus, Keio University, Tokyo, Japan (Nov, 2014)
- Hiroaki Saito, “Development of molecular docking method with flexible ligand/receptor model”, The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity, Life Science Center, Senri, Japan (Nov, 2014).
- Hiroaki Saito, “Exploring an accurate ligand-binding pose: ensemble-based docking study”, 55th Sanibel symposium, St. Simons island, GA, USA (Feb, 2015).
- Masashi Iwayama, Kazutomo Kawaguchi, Hiroaki Saito, and Hidemi Nagao, “Computation of redox potential of molecules by energy representation method”, International Symposium On Computational Science 2015 Kanazawa, Ishikawa, Japan (Feb, 2015).
- Sri R. Natasia, Hiroaki Saito, Taku Mizukami, Kazutomo Kawaguchi and Hidemi Nagao, “Prediction of Solvation Free Energy of Proteins: Molecular Dynamics Simulation and QSPR Model Approach”, International Symposium On Computational Science 2015 Kanazawa, Ishikawa, Japan (Feb, 2015).
- 齋藤 大明・川口 一朋・長尾 秀実, “分子ドッキングと結合自由エネルギー評価による阻害剤スクリーニング”日本化学会春季年会, 船橋, 3 月, 2015 年
- 宮川毅, 森河良太, 高須昌子, 杉森公一, 川口一朋, 齋藤大明, 長尾秀実, “Hras-GTP / GDP のスイッチ I 付近の溶媒水による電気双極子場の分子動力学法による研究”日本物理学会春季年会, 東京, 3 月, 2015 年
- 齋藤大明 “Prediction of binding pose of estradiol to human estrogen receptor: identification of druggable pocket and ensemble-based docking”, 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー〜分子標的と活性制御〜」第 8 回公開シンポジウム, 仙台, 6 月, 2015 年
- 齋藤 大明・川口 一朋・長尾 秀実, “Prediction of binding pose of estradiol to human estrogen receptor: identification of druggable pocket and ensemble-based docking” 日本生物物理年会, 金沢, 9 月, 2015 年
- 川口 一朋・齋藤 大明・長尾 秀実, “Role of water molecules for association of Hsp90 and ADP” 日本生物物理年会, 金沢, 9 月, 2015 年
- 齋藤大明, 川口一朋, 長尾秀実, “誘導適合分子ドッキング法による基質-タンパク質の結合構造予測”, 東京, 9 月, 2015 年
- 川口一朋, 齋藤大明, 長尾秀実, “水溶液中の溶質粒子の親水性・疎水性に関する理論的研究”, 東京, 9 月, 2015 年
- 中川聖, 木下翔吾, 松井貴寛, 齋藤大明, 川口一朋, 長尾秀実, “Go モデルを用いたプラストシアニン-シトクロム f におけるタンパク質間相互作用に関する理論的研究”, 東京, 9 月, 2015 年
- 木下翔吾, 中川聖, 松井貴寛, 齋藤大明, 川口一朋, 長尾秀実, “粗視化モデルによるミセルの形成に関する理論的研究”, 東京, 9 月, 2015 年
- 松井貴寛, 中川聖, 木下翔吾, 齋藤大明, 川口一朋, 長尾秀実, “プラストシアニンとシトクロム f の会合-解離過程における自由エネルギー地形に関する理論的研究”, 東京, 9 月, 2015 年

29. 宮川毅, 森河良太, 高須昌子, 杉森公一, 川口一朋, 齋藤大明, 長尾秀実, “Hras-GTP / GDP 系での GTP/GDP 周辺における水分子の動きの分子動力学法による研究”日本物理学会会春季年会, 大阪, 9月, 2015年
30. 齋藤大明, 川口一朋, 長尾秀実, “アンサンブル分子ドッキングによるリガンド分子配座探索”, 第7回「学際計算科学による新たな知の発見・統合・創出」シンポジウム, つくば, 10月, 2015年
31. Hiroaki Saito, Kazutomo Kawaguchi, and Hidemi Nagao, “Exploring an appropriate ligand-binding pose by ensemble-based docking”, PACIFICHEM 2015, Hawaii, USA (Dec, 2015).
32. Hiroaki Saito, Taku Mizukami, Kazutomo Kawaguchi, and Hidemi Nagao, “In silico compound screening by ensemble-based docking: an application to Estrogen receptor”, 56th Sanibel Symposium, St. Simons island, GA, USA (Feb, 2016).
33. Kazutomo Kawaguchi, Satoshi Nakagawa, Shogo Kinoshita, Hiroaki Saito, Hidemi Nagao, “Theoretical study on effective interaction between protein molecules”, 56th Sanibel Symposium, St. Simons island, GA, USA (Feb, 2016).
34. 宮川毅, 森河良太, 高須昌子, 杉森公一, 川口一朋, 齋藤大明, 長尾秀実, “Hras-GTP / GDP 系での GTP/GDP 周辺における水素結合の動的性質の分子動力学法による研究”, 日本物理学会年会, 仙台, 3月 2016年.
35. SAITO, Hiroaki; KAWAGUCHI, Kazutomo; NAGAO Hidemi, “Compounds screening by ensemble docking method: an application to Estrogen receptor”, 日本化学会年会, 京都, 3月 2016年.

【上杉志成】

1. Uesugi, M., “Small Molecules that Block Fat Synthesis”, RIKEN-Max Planck Joint Research Center for Systems Chemical Biology 3rd Annual Symposium, Kreuth (Germany), May 22, 2014. 招待講演
2. Uesugi, M., “Small Molecule Tools for Cell Biology and Cell Therapy”, The University of Tokyo School of Science 1527th Seminar, The University of Tokyo (Tokyo), June 20, 2014. 招待講演
3. Uesugi, M., “Small Molecule Tools for Cell Therapy”, Forth Norman Bethune International Forum on Medical Sciences, Jilin (China), September 21, 2014. 招待講演
4. Uesugi, M., “Small Molecule Tools That Detect and Remove Human Pluripotent Stem Cells”, China-Japan Joint Seminar on Histochemistry and Cytochemistry, Matsumoto City Community Hall (Nagano), September 29, 2014. 招待講演
5. Uesugi, M., “Small Molecules That Detect and Remove Human Pluripotent Stem Cells”, Sino-Japan Workshop on Chemical Biology, Beijing (China), October 11, 2014. 招待講演
6. Uesugi, M., “New Functions of Endogenous Lipid Molecules and Their Modulation”, The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products, Senri Life Science Center (Osaka), October 28, 2014. ポスター発表
7. Uesugi, M., “Small Molecule Tools for Cell Biology and Cell Therapy”, Chinese National Compound Library 2014 Seminar Series, Shanghai (China), November 21, 2014. 招待講演
8. Uesugi, M., “Small Molecule Tools for Cell Biology and Cell Therapy”, Asian Chemical Biology Initiative 2014 Hangzhou Meeting, Hangzhou (China), November 24, 2014. 招待講演
9. Uesugi, M., “Small Molecule Tools for Cell Biology and Cell Therapy”, Nanjing University School of Life Sciences Seminar, Nanjing (China), November 26, 2014. 招待講演
10. Uesugi, M., “Small Molecule Tools for Cell Therapy”, The 3rd Asian Chemical Biology Conference (ACBC2014), Singapore (Singapore), December 16, 2014. 招待講演
11. Uesugi, M., “Small Molecule Tools for Cell Biology and Cell Therapy”, Institute of Molecular and Cell Biology Seminar, Singapore (Singapore), December 17, 2014. 招待講演
12. Uesugi, M., “Introduction to Chemical Biology”, Asian Chemical Biology Initiative 2014 Kota Kinabalu Meeting: Open Tutorial Lectures, Kota Kinabalu (Malaysia), December 19, 2014. 招待講演
13. Uesugi, M., “Introduction of Chemical Biology”, Cell Biology, Developmental Biology, and Systems Biology Course Meeting, Kyoto University (Kyoto), February 13, 2015. 招待講演
14. Uesugi, M., “Synthetic Molecules for Cell Biology and Cell Therapy”, The 51th International Conference on Medicinal Chemistry (RICT 2015) - "Drug Discovery and Selection - Understanding Targets and Mechanisms", Avignon (France), July 2, 2015. 基調講演
15. Uesugi, M., “Synthetic Molecules for Cell Biology and Cell Therapy”, IUPAC2015, Busan (Korea), August 11, 2015. 招待講演
16. Uesugi, M., “Synthetic Molecules for Cell Biology and Cell Therapy”, AIMECS 2015 (10th AFMC International Medicinal Chemistry Symposium in 2015), Jeju (Korea), October 19, 2015. 招待講演
17. Uesugi, M., “Small Molecule Tools for Cell Biology and Cell Therapy”, 2015 Fall Annual Convention of Pharmaceutical Society of Korea, Daegu (Korea), October 22, 2015. 基調講演
18. Uesugi, M., “Synthetic Molecules for Cell Biology and Cell Therapy”, XVII NOST-Organic Chemistry Conference, Jaipur (India), October 28, 2015. 招待講演
19. Uesugi, M., “Synthetic Molecules for Detecting and Eliminating Human Pluripotent Stem Cells”, NEA & ASIAHORCs Joint Symposium - Chemical Biology - in Okinawa, OIST (Okinawa), November 9, 2015. 招待講演
20. Uesugi, M., “Small Molecule Tools for Cell Biology and Cell Therapy”, Pacificchem 2015 Natural Product-based Drug Discovery, Hawaii (USA), December 18, 2015. 招待講演
21. Uesugi, M., “Small Molecules That Modulate Protein Assemblies”, Pacificchem 2015 Synthetic Modulators of Protein-Protein Interactions (#461), Hawaii (USA), December 19, 2015. 招待講演
22. Uesugi, M., “Synthetic Molecules for Cell Biology and Cell Therapy”, The 8th Takeda Science Foundation Symposium on PharmaSciences, Center for Learning and Innovation Takeda Pharmaceutical Company, Ltd. (Osaka), January 22, 2015. 招待講演
23. Uesugi, M., “Synthetic Molecules for Eliminating Human Pluripotent Stem Cells”, ACBI 2016 Jakarta Meeting, Jakarta (Indonesia), January 30, 2016. 招待講演
24. Uesugi, M., “Synthetic Molecules for Detecting and Eliminating Human Pluripotent Stem Cells”, ABC2016 - 6th Special Meeting on ABC Proteins, Innsbruck (Austria), March 9, 2016. 招待講演
25. Uesugi, M., “Synthetic Molecules for Cell Therapy”, 2016 Queenstown Molecular Biology Meetings in Shanghai, Shanghai (China), March 17, 2016. 招待講演

【三尾和弘】

1. MENTILY Nassirhadjy, Quick Observation of Tissues in Solution by Atmospheric Scanning Electron Microscopy (ASEM), M&M 2015, 2015/8/3, Portland
2. 佐藤 主税, 電顕単粒子解析法と大気圧走査電顕 ASEM によるタンパク質・細胞・組織の親水環境での構造決定, 日本動物学会第 86 回新潟大会, 2015/9/19, 新潟
3. 三尾 宗代, Depiction of 3D structure of membrane proteins and assignment of functional subunits using a transmission electron microscopy. 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, 2015/12/15, Honolulu, USA

4. 高屋 潤一郎, Discovery of a potent and selective agonist of TRPA1 and direct observation of its binding to TRPA1 by electron microscopy. 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies, 2015/12/16, Honolulu, USA
5. 角田 舞, Structural analysis of hepatitis B surface antigen particles with cryo-electron microscopy, 第 53 回日本生物物理学会年会, 2015/9/13, 金沢
6. 三尾 宗代, Observation of dynamics of nuclear lamin using electron microscopy, 第 53 回日本生物物理学会年会, 2015/9/13, 金沢
7. 三尾和弘 電子顕微鏡を用いた膜タンパク質の構造解析, 新学術領域研究「天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～」公開シンポジウム, 2015 年 6 月 9 日 仙台
8. 三尾 和弘, 動的構造理解に向けた電子顕微鏡タンパク質構造解析, 第 14 回 学融合ビジュアルライゼーションシンポジウム, 2016/3/18, 柏の葉
9. 真嶋 健大, NMR を用いた脂質二重膜におけるヒト膜タンパク質 C99 の解析, 日本薬学会第 136 年会, 2016/3/28, 横浜
10. 三尾 和弘, Conformational variation of the peptide permeable channel chaperone revealed by electron microscopy, 2014/5/18, 韓国 済州島
11. MENTILY Nassirhadjy, Observation of Tissues in Solution by Atmospheric Scanning Electron Microscope (ASEM), 2014/8/5, Hartford
12. 三尾 和弘, タンパク質膜輸送を促進する膜タンパク質 SecDF の構造解析, 日本顕微鏡学会 第 70 回記念学術講演会, 2014/5/11, 幕張
13. 角田 舞, Molecular basis of conformational dynamics and enzymatical maturation process of nuclear lamin A related to onset of laminopathies, 第 52 回 日本生物物理学会年会, 2014/9/25, 札幌
14. 三尾 和弘, Molecular basis of conformational dynamics and enzymatical maturation process of nuclear lamin A related to onset of laminopathies, 第 37 回日本分子生物学会年会, 2014/11/26, 第 37 回日本分子生物学会年会, 横浜
15. 依田芽生, 犬ジステンパーウイルスエンベロープタンパク質 H および F の相互作用解析と電子顕微鏡による構造解析, 第 63 回日本ウイルス学会年会, 2014/11/11, 横浜
16. 大和田尚, E 型肝炎ウイルス (HEV) は、そのビリオン以外に化学的性質の異なるカプシド蛋白も多量に産生する, 第 63 回日本ウイルス学会年会, 2014/11/11, 横浜

(3) 図書

A01: 分子標的探索と生物学的評価

【半田宏】

1. 伊藤拓水・安藤秀樹・半田 宏、科学評論社、血液内科、2011, 62(1), 71-75
2. 伊藤拓水・半田 宏、社団法人日本生化学会、生化学、2011, 83(1), 60
3. 伊藤拓水・半田 宏、社団法人日本生化学会、生化学、2011, 83(2), 118
4. 伊藤拓水・安藤秀樹・半田 宏、国際文献社、化学と生物、2011, 49(12), 819-824
5. 西尾広介・池田森人・成松宏樹・壺内信吾・郷右近展之・半田 宏、シーエムシー出版、医療分野における材料と機能膜 (普及版: 医療用マテリアルと機能膜)、2011, 204-214
6. Masaaki Kawano, Li Xing, Kit S. Lam, Hiroshi Handa, Tatsuo Miyamura, Susan Barnett, Indresh K. Srivastava, and R. Holland Cheng, John Wiley & Sons Inc., Development of Vaccines: From Discovery to Clinical Testing, 2011, 125-140
7. 畠山 士・半田 宏、シーエムシー出版、ナノ融合による先進バイオデバイス、2011, 8-17
8. 川野雅章・松井政則・禾 泰壽・半田 宏、埼玉医科大学雑誌、2012, 39, 9-13
9. 川野雅章・半田 宏、ニューサイエンス社、メディカル・サイエンス・ダイジェスト、2012, 38(10), 418-419
10. 西尾広介・坂本 聡・宇賀 均・倉森見典・半田 宏、シーエムシー出版、磁性ビーズのバイオ・環境技術への応用展開《普及版》、2012, 144-153
11. 羽生尚広・伊藤拓水・安藤秀樹・山口雄輝・半田 宏、サイエンティスト社、谷本学校 毒性質問箱 第 1 4 号、2012, 99-105
12. 伊藤拓水・安藤秀樹・半田 宏、科学評論社、血液内科、2012, 64(4), 440-445
13. 伊藤拓水・半田 宏、医師薬出版、医学のあゆみ、2012, 243(6), 503-507
14. 羽生尚広・伊藤拓水・安藤秀樹・山口雄輝・半田 宏、多摩川精機、多摩川技報、2012, 29(1), 19-23
15. 半田 宏、羊土社、実験医学、2012, 39(19), 3126-3131
16. 川野雅章・松井政則・禾 泰壽・半田 宏、埼玉医科大学雑誌、2013, 40, 68
17. 坂本 聡・半田 宏、日本工業出版、光アライアンス、2013, 64(2), 56-60
18. 安藤秀樹・伊藤拓水・半田 宏、医薬ジャーナル社、血液フロンティア、2013, 23(9), 1288-1292
19. 半田 宏、化学工業社、化学工業、2013, 64(3), 55-60
20. 加部泰明・末松 誠・半田 宏、羊土社、実験医学別冊「質量分析実験ガイド」、2013, 237, 58-68
21. 伊藤拓水・安藤秀樹・半田 宏、化学同人、キラル化学 -その起源から最新のキラル材料研究まで- <CSJ カレントレビュー第 13 号>、2013, 180-182
22. 坂本 聡・半田 宏、日本能率協会総合研究所、技術予測レポート 2023、2013, 115-128
23. 加部泰明・末松 誠・半田 宏、羊土社、実験医学増刊「驚愕の代謝システム」、2014, 206, 142-149
24. Kawano, M., Matsui, M. and Handa, H. SV40 virus-like particles as an effective delivery system and a vaccine platform. (review) Future Medicine, 2014, 86-100
25. 寺田孝太郎・田中俊行・羽生尚広・本田孝行・半田 宏、多摩川精機、多摩川技報、2014, 31(1), 13-18
26. 半田 宏・伊藤拓水・安藤秀樹、日本医学館、Organ Biology、2014, 21(2), 134-140
27. 坂本 聡・半田 宏、技術情報協会、マイクロ/ナノカプセルの調整、徐放性制御と応用事例、2014, 277-284
28. 川野雅章・半田 宏、技術情報協会、マイクロ/ナノカプセルの調整、徐放性制御と応用事例、2014, 250-256
29. 伊藤拓水・安藤秀樹・半田 宏、日本臨牀社、日本臨牀(特集: 多発性骨髄腫の病態と最新治療-基礎と臨床の最新情報-、2015, 73(1), 143-148
30. 坂本 聡・伊藤拓水・半田 宏、化学同人、生物活性分子の標的同一と機能解明 <CSJ カレントレビュー第 19 号>、2015, 86-93
31. 伊藤拓水・安藤秀樹・半田 宏、メディカルレビュー社、IMiDs (免疫調節薬) 基礎と臨床 2015、2015, 26-34
32. 半田 宏、東京医科大学医学会、東京医科大学雑誌、2015, 73, 219-220
33. 畠山 士・半田 宏、丸善出版、磁気便覧、2015, 448-449, 449-450, 452-453
34. 伊藤拓水・半田 宏、医師薬出版、医学のあゆみ「ユビキチン系の破綻と疾患」、2016, 256(8), 891-895

【小林資正】

1. "Search for New Medicinal Seeds from Marine Organisms" Kobayashi, M.; Kotoku, N.; Arai, M. *Chemiomolecular Science: At the Frontier of Chemistry and Biology* (Springer) 2013, pp. 93-101.

【岡田麻衣子】

1. 加藤茂明、岡田麻衣子：“がん骨転移のバイオロジーとマネージメント”米田俊之編、Part IIがん骨転移のバイオロジー、III 章、1. 薬物両方-b) ホルモン療法、治医療ジャーナル社、2012

【松森信明】

1. 松森信明、膜タンパク質のバイセルによる結晶化、杉山成監修「タンパク質結晶の最前線」、シーエムシー出版、2013、92-99
2. 松森信明、脂質膜における構造および相互作用解析：バイセルを用いた検討 *有機合成化学協会誌* 2014 vol. 72, 596-603

【小嶋聡一】

1. Furutani, Y. and Kojima, S. Control of TG functions depending on their localization. In *Transglutaminase – multiple functional modifiers and targets for new drug discovery* (Hitomi, K., Kojima, S., and Fesus, L. eds) Springer Tokyo, 2016, 43-62
2. Hara, M., Matsuura, T., and Kojima, S. TGF- β LAP degradation products, a novel biomarker and promising therapeutic target for liver fibrogenesis. In *Innovative Medicine : Basic Research and Development* (Nakao, k., Minato, N., and Umetsu, S. eds) Springer Tokyo, 2015, 317-325

【渡士幸一】

1. 渡士幸一, 脇田隆宇. *メディカルレビュー社*. B型肝炎ウイルス研究の進歩. *Pharma Medica*: 2016年. 34: 15-18
2. 渡士幸一, 脇田隆宇. *ライフメディコム*. 新規B型肝炎抗ウイルス薬開発の現状. *カレントセラピー*: 2015年. 33: 59-63
3. 渡士幸一, 脇田隆宇. *アークメディア*. B型肝炎ウイルスエンターリーについて：メカニズムとその阻害. *肝胆臓*: 2015年. 71: 1053-1058
4. 渡士幸一. *日本臨床社*. 新ウイルス性肝炎学. *HBVの細胞内侵入機構とこれを標的とした創薬*. *日本臨床*: 2015年. 73: 372-376
5. 渡士幸一. *南江堂*. 抗ウイルス薬. *生命科学のためのウイルス学*: 2015年. 143-176
6. 渡士幸一. *日本メディカルセンター*. *HBV感染生活環と培養系*. *肝疾患Review* 2014-2015: 2014年. 20-26
7. 渡士幸一. *メディカルトリビューン*. B型肝炎ウイルス感染を抑制するサイトカインの同定とその分子メカニズムの解析. *Liver Forum in Kyoto 第16回学術集会 記録集*: 2014年 13-17
8. 渡士幸一. *日本薬学会*. 薬学的視点からのウイルス学研究 一肝炎ウイルス複製阻害化合物の同定とその作用機序. *薬学雑誌*: 2013年. 133: 1169-1175
9. 渡士幸一. *アークメディア*. *HBV 培養細胞系による新規抗ウイルス化合物のスクリーニング*. *肝胆臓*: 2012年. 65: 611-617

【有本博一】

1. 有本博一、高橋大輝 (Seifert, R.編)、Springer、8-Nitro-cGMP: A Novel Protein-reactive cNMP and its Emerging Roles in Autophagy (Handbook of Experimental Pharmacology)、2016年

【程久美子】

1. ガリボン・ジョゼフィース、石黒宗、富田勝、程久美子 「RNA-SeqによるA-to-I RNA編集の検出」 *NGS Professional シリーズ RNA Seq マスターブック*, 羊土社, 2016.
2. 程久美子、高橋朋子「ノンコーディングRNAの生体機能と医薬応用の現状」核酸医薬の創製と応用展開、シーエムシー出版 2015
3. 高橋朋子、程久美子 「核酸医薬とsmall RNA」2015 *DOJIN BIOSCIENCE シリーズ「非コードRNA」化学同人* 2015
4. 程久美子「ヒトRNAiの発見とその応用的意味」 *実験医学増刊 ノンコーディングRNAテキストブック*, 羊土社, 2015, 32-33
5. 高橋朋子, 程久美子「第2章 12. miRBase ~マイクロRNAのデータベース~」 *実験医学増刊 今日から使える！データベース・ウェブツール*, 羊土社, 2014, 86-87, .
6. 高橋朋子, 程久美子「第2章 13. マイクロRNAの標的予測ウェブサイト」 *実験医学増刊 今日から使える！データベース・ウェブツール*, 羊土社 2014, 88-91
7. 日野 公洋、内藤 雄樹、坊農 秀雅、程久美子 「第2章 24. CRISPRdirect ~CRISPR/Cas9ゲノム編集法のガイドRNA設計ツール~」 *実験医学増刊 今日から使える！データベース・ウェブツール*, 羊土社, 2014, 114-115
8. 日野 公洋、内藤 雄樹、坊農 秀雅、程久美子 「CRISPR/Cas システムにおけるターゲット配列の認識機構とオフターゲット効果の現状」 *実験医学 ゲノム編集法の新常識！ CRISPR/Casが生命科学を加速する*, 羊土社, 2014, 1697-1703
9. 程久美子「オフターゲット効果が少ない標的遺伝子特異的RNA干渉法」 *遺伝子治療・診断の最先端技術と新しい医薬品・診断薬の開発*, 技術情報協会 2014

【島村達郎】

1. Shimamura T. Springer, *Advanced Methods in Structural Biology. Chapter 6 Overview of membrane protein purification and crystallization.* 2016年

【林良雄】

1. 田口晃弘、濱田圭佑、林 良雄、日本薬学会、*ファルマシア*、2014年、953-957

A02：天然リガンドの探索と合成

【入江一浩】

1. 入江一浩, 「アプリアトキシンの骨格を利用した抗がん剤シーズの開発研究」, *CSJ Current Review* 19, *生物活性分子のケミカルバイオロジー*, 日本化学会編, Chapter 12, pp127-133 (2015) (ISBN: 9784759813791)

【石橋正己】

1. 石橋正己, "膜質質と脂肪酸誘導体", 大学院講義有機化学II (第2版), 野依良治・中筋一浩・玉尾皓平・奈良坂紘一・柴崎正勝・橋本俊一・鈴木啓介・山本陽介・村田道雄編, 東京化学同人, 2015, 377-382 (総ページ数456ページ)
2. 野依良治, 奥山格, 柴崎正勝, 檜山為次郎 (監訳), 石橋正己, 岩澤伸治, 大嶋孝志, 金井求, 木越英夫, 忍久保洋, 白川英二, 橋本俊一, 吉田潤一 (共訳), "ウォーレン有機化学第2版(上)(下)" 東京化学同人, 2015, 総ページ数1301ページ
3. Ishibashi, M., "Bioactive heterocyclic natural products from actinomycetes having effects on cancer-related signaling pathways" *Progress in the Chemistry of Organic Natural Products*, Kinghorn, A. D.; Falk, H.; Kobayashi, J. (Eds.); Springer; Wien, 2014, 99, 147-198
4. 石橋正己 (翻訳), *有機スペクトル解析ワークブック*, 東京化学同人, 2014, 総ページ数251ページ
5. 石橋正己, "生体における化学反応", *生体有機化学*, 橋本祐一・村田道雄編, 東京化学同人, 2012, 53-68 (総ページ数220ページ)
6. 石橋正己, "自然のなかに薬をさがす~千葉発の天然物研究小話", 千葉日報社, 2011, 総ページ数94ページ (一般向けアウトリーチ活動, ブックレット)
7. 森田博史、石橋正己, "ベーシック有機構造解析", 化学同人, 2011, 総ページ214ページ

【難波康祐】

1. 土川博史, 難波康祐, 中尾佳亮, 田中克典, 丸善出版株式会社, 有機合成実験法ハンドブック 第2版, 第12章 機器分析による分析, 2015年, 91-123 (総ページ数 1202) .
2. 難波康祐, 谷野圭持, 株式会社シーエムシー出版, ファインケミカルシリーズ「クリックケミストリー -基礎から実用まで-」第4章 Click 反応を利用した小型蛍光分子の合成, 2014年, 29-38 (総ページ数 260)

【不破春彦】

1. H. Fuwa, Elsevier, "Strategies and Tactics in Organic Synthesis," 2016
2. H. Fuwa, Science Publishers, "Toxins and Biologically Active Compounds from Marine Microalgae," 2014, 348-412.
3. H. Fuwa, Taylor & Francis, "Seafood and Freshwater Toxins: Pharmacology, Physiology, and Detection," 2014, 895-924.

【西村慎一】

1. 西村慎一 & 掛谷秀昭. ステロール標的抗真菌剤の活性発現における細胞膜輸送バランスの重要性. *バイオサイエンスとインダストリー*, 73, 2015, 383-385.
2. 西村慎一 & 掛谷秀昭. 生体膜微小環境への挑戦: 膜ステロールに作用する海洋天然物セオネラミド. *CSJカレントレビュー「生物活性分子のケミカルバイオロジー」*, 2015, 102-108.

【田中克典】

1. *K. Tanaka, K. Fukase, Chemical Approach to A Whole Body Imaging of Sialo-N-linked Glycans, In Topics in Current Chemistry volumes, SialoGlyco Chemistry and Biology, R. Gerardy-Schahn, P. Delannoy, and M. von Itzstein (eds), Springer, 査読有, 367, 2015, 201-230
2. 土川博史, 田中克典, クロマトグラフィーによる分析と分取, 有機合成実験法ハンドブック 第2版, 公益社団法人有機合成化学協会監修, 丸善出版株式会社, 2015, 第11章
3. 土川博史, 難波康祐, 中尾佳亮, 田中克典, 機器分析による分析, 有機合成実験法ハンドブック 第2版, 公益社団法人有機合成化学協会監修, 丸善出版株式会社, 2015, 第12章
4. PET Imaging of Glycoconjugates, *K. Tanaka, In Glycoscience: Biology and Medicine, T. Endo, P. H. Seeberger, G. W. Hart, C.-H. Wong, N. Taniguchi (eds), Springer, 査読有, 2014
5. 田中克典, 糖鎖の工学・機能・固相合成, 「糖鎖の新機能開発・応用ハンドブック〜創薬・医療からヘルスケアまで」, 秋吉一成監修, (株) エヌ・ティー・エス, 2014, 第1章, 4-1
6. 田中克典, 生体内合成化学治療を実現する〜動物内で生理活性分子を全合成〜, 生命化学研究レター「研究紹介」, フロンティア生命化学研究会出版, 2014, 46, 15-20
7. 田中克典, 天然物合成におけるマイクロフロー反応の活用: 免疫活性物質, プリスタン天然物のプロセス合成を例として, ファインケミカル「特集 天然物合成化学の新たな展開」, 田中克典監修, 株式会社シーエムシー出版, 2014, 23-29
8. 田中克典, ファインケミカル「特集 天然物合成化学の新たな展開」, 田中克典監修, 株式会社シーエムシー出版, 5, 2014
9. 田中克典, 古くて新しい有機合成反応の開拓を起点とする天然物ケミカルバイオロジー「研究紹介」, News Letter, 天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御 (ChemBioChem) 出版, 4, 2014, 9-10
10. K. Fukase, *K. Tanaka, Y. Fujimoto, Y. Manabe, Microfluidic Synthesis: A New Strategy for Practical Synthesis of Oligosaccharides, In Glycochemical Synthesis: Strategies and Applications, H. Shang-Cheng (ed), Wiley, 査読有, 2013
11. 田中克典, 深瀬浩一, 動物個体内における糖鎖複合体の分子イメージング, 第三の生命鎖 糖鎖の機能と疾患 (実験医学増刊), 株式会社羊土社出版, 31, 2013, 176-185
12. K. Tanaka, K. Fukase, Oligosaccharide Synthesis on Solid-supports, In Solid-Phase Organic Synthesis Book, P. Toy (ed), Wiley, 査読有, 2012, 489-530
13. 田中克典, 鋳型誘起反応の開発に基づくリン酸化タンパク質認識ペプチドの化学転写合成, Peptide Newsletter Japan, The Japanese Peptide Society 出版, 86, 2012, 15-19
14. 田中克典, 深瀬浩一, 糖鎖の生体内イメージング, ここまで進んだバイオセンシング・イメージング-1 分子から細胞, 脳まで, CSJ Current Review 10, 株式会社化学同人出版, 2012, 114-122
15. 深瀬浩一, 田中克典, 糖鎖機能解明に向けた新規化学修飾反応: 糖鎖とリンパ球の in vivo イメージング, がん医療や創薬に貢献する in vivo イメージングと生体機能解析・制御の最前線 (実験医学増刊), 疾患克服を目指したケミカルバイオロジー, 株式会社羊土社出版, 30, 2012, 第3章 5項
16. 深瀬浩一, 藤本ゆかり, 下山敦史, 田中克典, 細菌由来複合糖質の合成と自然免疫研究, 有機合成化学協会誌, 70, (2012), 113-130
17. 田中克典, 天然物によるタンパク質不活性化機構に学ぶ 6 π -アザ電子環状反応の新奇反応性と天然物合成および合成生物学への展開, 有機合成化学協会誌, 69, 2011, 1389-1401
18. 田中克典, 効率的結合形成反応を起点とする『合成化学生物学』の提起: 高速 6 π -アザ電子環状反応の設計による生体高分子の非侵襲的イメージング, 大阪大学低温センターだより, 156, 2011, 16-23
19. 田中克典, 深瀬浩一, ペプチド・タンパク質, 細胞の革新的標識法と PET による動態解析への応用, 次世代バイオ医薬品の製剤設計と開発戦略, 株式会社シーエムシー出版, 2011, 119-126

【戸嶋一敦】

1. 佐々木要, 高橋大介, 戸嶋一敦, 環境調和型グリコシル化反応, 糖鎖の新機能開発・応用ハンドブック, エヌ・ティー・エス, 2015, 339-342
2. 高橋大介, 戸嶋一敦, *標的糖鎖光分解用生体機能分子, 糖鎖の新機能開発・応用ハンドブック, エヌ・ティー・エス, 2015, 377-379
3. 関根麻衣子, 高橋大介, 戸嶋一敦, イオン液体を用いたバイオマス糖質からの配糖体合成, 機能性配糖体の合成と応用-糖転移酵素を中心に-, シーエムシー出版, 2013, 115-123
4. K. Sasaki, D. Takahashi, K. Toshima, Ionic liquids as green solvents for glycosylation reactions, *Green Solvents II*, Springer, 2012, 67-78

【平井剛】

1. Go Hirai, Ayako Tsuchiya, *Mikiko Sodeoka, "New Insights from a Focused Library Approach Aiming at Development of Inhibitors of Dual Specificity Protein Phosphatases", In M. Shibasaki, M. Iino, and H. Osada eds. "Chembiomolecular Science: at the Frontier of Chemistry and Biology", Springer, 2013, 69-81.

【占部大介】

1. 占部大介 "合成化学者の特権!? 新規抗炎症性脂質メディエーターの発見" ファルマシア, 公益社団法人日本薬学, 2015年 51巻 pp. 800.
2. 占部大介 "レペニンの全合成" 月刊化学, 化学同人, 2014年 69巻 pp. 61-62.

A03: 標的探索・合理的分子設計の新方法論

【上田実】

1. 上田 実著、上村大輔編、「天然物の化学-魅力と展望」、東京化学同人 2016
2. 上田 実著、杉本直己編著「生体分子化学—基礎から応用まで」講談社サイエンティフィック、2016
3. 上田 実編著、「CSJ カレントレビュー19 生物活性分子のケミカルバイオロジー：標的同一性と作用機構」、化学同人 2015
4. Y. Ishimaru, S. Hamamoto, N. Uozumi, and M. Ueda, Regulatory Mechanism of Plant Nyctinastic Movement: An Ion Channel-Regulated Plant Behavior, in A. Volkov eds. "Plant Electrophysiology Signaling and Responses", Springer-Verlag, 2012, 125-142

【叶直樹】

1. 標的同一性の迅速化を目指した生物活性リガンドの非古典的修飾・固相 担持法 叶直樹, CSJ カレントレビュー 19 「生物活性分子の標的同一性と機能 解明—生命科学の基盤技術としてのアプローチ」 化学同人, 2015, 48-56
2. Preparation of Photo-Cross-Linked Small Molecule Affinity Matrices for Affinity Selection of Protein Targets for Biologically Active Small Molecules Hiroshi Takayama, Takashi Moriya, Naoki Kanoh* Chemical Genomics and Proteomics: Reviews and Protocols (Ed.: E. D. Zanders), Humana Press, Totowa, 2011, 75-84.

【西川俊夫】

1. *西川俊夫: カスケード型環化反応による天然物合成の効率化。特集 天然物の全合成、全合成の最先端研究 I、化学, 2016, 71, pp 40-43
2. *西川俊夫: 官能基の保護。第2版有機合成ハンドブック。丸善出版株式会社, 2015, 315-319
3. *安立昌篤: 分子内 C-グリコシル化反応を利用した Polygalolide A の全合成。有機合成化学協会誌, 73, 2015, 607-615
4. *西川俊夫: ジャガイモシスト線虫孵化促進物質の化学合成。第38回公益財団法人 山田科学進行財団事業報告書2014年度 2015.11.
5. *西川俊夫: 新規連続環化反応によるサキシトキシン関連化合物の合成とイオンチャネル阻害剤 の創製。第一三共生命科学研究振興財団研究報告集 2015, Vol.30, 140-148
6. *西川俊夫: 天然物合成化学者からみた天然物ケミカルバイオロジー。天然物ケミカルバイオロジー: 分子標的と活性制御 News Letter -03, 2013, July, 13
7. Sawayama, Y., *Nishikawa, T. A New Synthetic Route to the Skeleton of Saxitoxin, a Naturally Occurring Blocker of Voltage-Gated Sodium Channels. J. Synth. Org. Chem. Jpn., 70, 2012, 1178-1186
8. 大藪紀雄、*西川俊夫: Claisen 転位 (1) 「天然物合成で活躍した反応—実験のコツとポイント」 有機合成化学協会編、化学同人、2011, 102-103

【細谷孝充】

1. 細谷孝充, 吉田 優. 「生物活性分子のケミカルバイオロジー: 標的同一性と作用機構 (CSJ カレントレビュー19)」(日本化学会 編), Part II 4章 光親和性標識法の基礎と実際。化学同人, 2015, 63-70
2. 細谷孝充, 吉田 優. 「生物活性分子のケミカルバイオロジー: 標的同一性と作用機構 (CSJ カレントレビュー19)」(日本化学会 編), Part I 2章 Basic concept-2: 標的分子同一性の基礎。化学同人, 2015, 20-25
3. 吉田 優, 細谷孝充. 逐次環化付加反応によるピストリアゾール合成。化学工業, 2015, 66(5): 389-393
4. 細谷孝充, 吉田 優. クリックケミストリー—基礎から実用まで—(高田十志和, 小山靖人, 深瀬浩一 編), 第3章 異種アジド基の反応性の差を利用した分子連結。シーエムシー出版, 2014, 18-28
5. 吉田 優, 細谷孝充. ケミカルバイオロジー 成功事例から学ぶ研究戦略(長野哲雄, 萩原正敏 監訳; Eds. H. Waldmann, P. Janning), 6章 光親和性標識法による抗生物質リネゾリドの標的分子および結合部位の同一性。丸善, 2013, 89-100
6. 隅田有人, 細谷孝充. ケミカルバイオロジー 成功事例から学ぶ研究戦略(長野哲雄, 萩原正敏 監訳; Eds. H. Waldmann, P. Janning), グアニン四重鎖リガンドを利用した c-MYC の転写調節機構の解明。丸善, 2013, 271-285

【大高章】

1. 重永 章、山本 純、大高 章、最新ペプチド合成技術とその創薬研究への応用、刺激応答型アミノ酸の開発と生命科学分野への応用、遺伝子医学 MOOK 21号 (メディカルドゥ) 2012
2. 大高 章、第12章 生理活性ペプチドホルモン、生体有機化学 (株式会社東京化学同人) 2012

【菅敏幸】

1. 菅敏幸: 「トップドラッグから学ぶ創薬化学」 有機合成協会、東京化学同人 2012
2. 菅敏幸, 河岸洋和 「スギヒラタケの毒の「謎」に挑む」 MEDCHEM NEWS, 2013, 23, 11-15
3. 河岸洋和, 菅敏幸 「スギヒラタケ急性脳症事件の化学的解明の試み」 化学と生物, 2013, 51, 134-137
4. 菅敏幸, 浅川倫宏, 奥直人, 塚田秀夫 「独自の合成方法論を基盤とするカテキンプロブの効率的合成」 新版 茶の機能, 農山漁村文化協会, 2013, 323-327
5. 奥直人, 清水広介, 菅敏幸, 山田静雄, 塚田秀夫 「分子イメージングによるカテキンの動態解析」 新版 茶の機能, 農山漁村文化協会, 2013, 328-335
6. 菅敏幸, 浅川倫宏, 奥直人, 清水広介, 山田静雄, 原田典弘, 塚田秀夫 「カテキンプロブ合成と分子イメージング—緑茶有効成分カテキンを光らせる—Visualizing Catechin: Efficient Synthesis of Probe and its Molecular Imaging」 化学, 2014, 69, 38-42
7. 菅敏幸 「有機合成実験法ハンドブック I 基本操作」 有機合成化学協会編, 丸善 2015年
8. 稲井誠, 菅敏幸 「有機合成実験法ハンドブック 29-2-1 環状アミン」 有機合成化学協会編, 丸善 2015年

【中村浩之】

1. 佐藤伸二、中村浩之 「タンパク質の部位特異的な機能修飾」 化学同人、月刊「化学」最新のトピックス、2015, Vol. 70, 70-71

【中川優】

1. Nakagawa, Y. and Ito, Y. Molecular architecture and therapeutic potential of lectin mimics. In *Advances in Carbohydrate Chemistry and Biochemistry*, eds. Horton, D., Elsevier, 2012, 1-58.

【三尾和弘】

1. Kazuhiro Mio, Masahiko Sato, Chikara Sato, Springer, Structural Biology and Electron Microscopy, 2016年, 18 ページ
2. 三尾和弘、丸山雄介、小椋俊彦、佐藤主税, 羊土社, 実験医学, 2014年, 9 ページ

研究成果による産業財産権の出願・取得状況

A01: 分子標的探索と生物学的評価

【小嶋聡一】

1. 「TGF- β 活性化制御領域の切断面を認識する抗体」小嶋聡一、近藤和嘉子、堂前直
US 優先権出願 12/856195 登録番号 8,198,412 2012年6月12日
2. 「TGF- β 受容体の活性化を抑制する活性を有する化合物、そのスクリーニング方法、並びにC型肝炎ウイルスに起因する疾患の予防又は治療のための組成物」小嶋聡一、原詳子、松本武久、高谷大輔
US 優先権出願 13/819,979 登録番号 8,951,521 2015年2月10日

A02：天然リガンドの探索と合成

【入江一浩】

1. 「新規アプリアトキシン誘導体及びそれを含有する抗がん剤」入江一浩、菊森将之、蒲池弘明、柳田亮、中川優、特許 2012-092842、平成 24 年 4 月 16 日 : PTC 出願 : PTC/JP2013/061333、平成 25 年 4 月 16 日

【石橋正己】

1. 「非対象光学活性ビスインドール化合物の Wnt シグナリング制御能」
荒井孝義・荒井緑・石橋正己・山本悠史・神谷謙太郎・阿波田篤子、出願人：千葉大学、
特願 2013-032667、出願日：2013 年 2 月 21 日
2. 「Ngn2 プロモーター活性化剤 inubosin B」荒井緑・小柳津和音・石橋正己、特願 2013-040146、
出願人：千葉大学、出願日：2013 年 2 月 28 日
3. 「エルモニン」石橋正己・塚原健太郎・當銘一文、出願人：千葉大学、特願 2013-068062、出願日 2013 年 3 月 28 日

【難波康祐】

1. 難波康祐・村田佳子、特願 2015-129848、提出日：2015 年 6 月 29 日
2. 難波康祐・中山淳・大谷彬、特願 2015-219537、提出日：2015 年 11 月 9 日

【西村慎一】

1. 「新規生物活性物質」掛谷秀昭、西村慎一、服部明、岸本真治、波多野和樹、五十嵐雅之。
特願 2014- 41703 特開 2015-166329。 2014 年 3 月 4 日出願、2015 年 9 月 24 日公開

【藤本ゆかり】

1. *Lotter,H., Bergnin,H., Tannich,E., Gonzalez-Roldan,N., Fujimoto, Y., Fukase.K. 出願人：BNITM
“Novel immunostimulatory molecules” EP14186723.4 2014 年 9 月 28 日
2. 「化合物又はその塩、ナチュラルキラーT細胞活性化剤、及び医薬組成物」
井貫 晋輔、平田 菜摘、相羽 俊彦、*藤本ゆかり、出願人：学校法人慶應義塾 特願 2016-57416 2016 年 3 月 22 日

A03：標的探索・合理的分子設計の新方法論

【菅敏幸】

1. 「アルコール性脂肪肝予防・治療薬」三浦進司、菅敏幸 特開 2015-78140

【中村浩之】

1. 「ホウ素イオンクラスター型コレステロール及びリポソーム」中村浩之、浅野智之 特許登録 5248003 (2013/4/19)
2. 「チロシンの修飾方法」佐藤伸一、中村浩之 特願 2014-246487 (2014 年 12 月 5 日)
3. 「ベンゾフロピラゾール誘導体」中村浩之、峰岸秀充 特願 2015-92606 (出願日：2015 年 4 月 30 日)
4. 「ホウ素含有化合物とタンパク質とのコンジュゲートを含む違約組成物」中村浩之 特願 2015-156726 (出願日 2015 年 8 月 7 日)
5. 「チロシンホスフェターゼ及びチロシンキナーゼ活性の測定方法」佐藤伸一、中村浩之、中野洋文 特願 2015-198320 (出願日：2015 年 10 月 6 日)

研究成果

【当初設定した目標】

生物から得られる生物活性分子を天然物リガンドと呼ぶ。これは、生体に特異的な作用を及ぼすように進化した分子であり、生物機能を制御する鍵として働く。我が国では伝統的に、天然物リガンド（天然有機化合物）に関する研究が盛んであるが、ここ数十年は、複雑構造の決定と精密合成といった構造有機化学的な興味がその中心であった。本新学術領域研究は、天然物リガンド本来の魅力に立ち返り、成熟期を迎えたといって良い構造有機化学の基盤に、ケミカルバイオロジー、生化学、分子生物学、情報生物学を融合させた「天然物ケミカルバイオロジー」の確立を目指すものである。天然物リガンドは、生体内で標的タンパク質と結合することが知られており、これは「鍵と鍵穴」の関係にたとえられる。しかし近年、天然物リガンドは、一つの標的タンパク質と結合する「鍵」というよりは、複数の標的タンパク質と結合する「鍵束」として働くことが分かってきた。「鍵束」であるがゆえの生物活性の複雑さが、天然物リガンドを用いる基礎研究ならびに応用展開の大きな障害の一つとなっていた。

本領域では、標的同一リガンド複合体構造の解析によって、「鍵」構造を迅速に同定することで、「鍵束」を論理的に「分解」し、生物機能制御のためのツールとして利用するという新しい学理の確立を目指す。「鍵束」の「分解」は、生体系における天然物リガンド動態の単純化を実現し、また「分解」によって得られた「鍵」は、これまで天然物リガンドの基礎ならびに応用研究を阻んできた生物活性の複雑さを克服する強力なツールとなる。一方で、有機合成化学による「鍵」の構造改変は、自在な活性制御を可能にするであろう。

【目標の達成度】

A01-A03 班の共同研究による本学術領域の推進により、天然物リガンドが生体内で「鍵束」のように機能し、複数の錠前（受容体）と

相互作用する例が多数明らかになった。これには、天然物化学者と生物学者の共同研究によって、ピーズテクノロジーの天然物への応用が拡大したこと、ならびに数多くの標的同一法が試みられたためである。

また、天然物リガンドの立体異性体の利用によって、「鍵束」の標的選択性をチューニングできることが明らかになった。これは、特定の標的のみに作用する立体異性体リガンドをデザインすることで、天然物リガンドのもつ望む活性のみを残して、副作用を低減できることを示している。これらの成果は、本領域の目的である「分子標的と活性制御」を高いレベルで達成できたことを示している。以下に A01-A03 各班の代表的成果を述べる。

【A01】分子標的探索と生物学的評価

ピーズテクノロジーを中心としたユニークな標的探索法に基づき、多くの天然物リガンドの標的が同一化された。半田 (計画班) は、ピーズテクノロジーを利用した標的同一法に大きな成果を上げた。進行中の研究を含め、10 例に及ぶ標的同一法が達成され、天然物リガンド標的同一法におけるその有効性が実証された。例えば、白血病や幹細胞がん由来の種々のがん細胞に対して抗がん活性を示す脂溶性ビタミン VK2 の作用機構解明 (*Mol. Pharmacol.* **2013**, 83, 613) や、サリチル酸の新規標的同一法 (*Mol. Pharmacol.* **2013**, 83, 824) などが報告された。特筆すべき成果として、サリドマイドを含む IMiDs の標的タンパク質がセレブロン (CRBN) であることを見出した報告がある (*Leukemia*, **2012**, 26, 2326; *Nature* **2015**, 523, 167)。これは、CRBN がこれまで知られていた副作用だけでなく、主作用にも関与することを解明した成果であり、極めてインパクトが大きい。小林 (計画班) は、汎用性の高い生物活性物質の標的タンパク質同一法を検討し、低酸素環境選択的がん細胞増殖物質 furospinosulin-1 (*ChemBioChem* **2016**, 17, 181) および、3 種の抗潜在性結核物質 halicyclamine A, agelasine D, trichoderin A の標的 (*ChemBioChem* **2014**, 15, 117) を、それぞれ同一化した。

西山 (公募班) は、タンパク質の膜挿入活性を担う活性本体が、MPLase と名付けた糖脂質であることを明らかにした (*Nat. Commun.*, **2012**, 3, 1260)。また、その標的として分泌タンパク質透過装置 Sec YEG を同一化した (*PNAS*, **2013**, 110, 9734)。これは酵素活性をもつ糖脂質の発見であり、画期的な成果である。関水・浜本 (公募班) は、薬剤耐性温度感受性酵母を用いる極めてユニークな方法論によって、新規抗生物質カイコシン E の標的が黄色ブドウ球菌呼吸鎖の補因子であるメナキノンであることを明らかにした (*Nat. Chem. Biol.* **2015**, 11, 127)。変異の起こりにくい低分子成分を標的とするカイコシン E は、抗生物質の最大の欠点である微生物の薬剤耐性化による無効化を極めて受けにくいユニークな抗生物質であることが明らかになった。これらの例に見られるように、標的同一法は天然物リガンドに重要な付加価値を与え、新たな応用展開を生み出す端緒となる。

【A02】天然リガンドの探索と合成

天然物リガンドの合成的供給に留まらず、構造単純化リガンドの開発に成功例が多く見られた。また、新規リガンド探索と標的同一法が直線的に進行する例も見られた。

天然の発がん促進物質であるアプリアトキシン (ATX) の構造単純化によって抗がん剤シードの開発を目指す研究は、「鍵束」天然物リガンドから望まない副作用を除去することで有用物質の開発が可能であることを示す好例である。入江 (計画班) は、ATX の骨格を利用して、既存薬を凌駕する抗がん剤シード開発を目指した。ATX の構造単純化リガンドを系統的に構造修飾した結果、極めて高いがん増殖抑制活性を示す 10-Me-Aplog-1 を開発した (*J. Med. Chem.* **2012**, 55, 5614)。一方で本化合物は ATX とは異なり、マウス皮膚発がん 2 段階試験において、ATX の 5 倍量塗布でも発がん促進活性を示さず、有望な新規抗がん剤シードになる可能性が示唆された。本化合物には、複数の製薬企業が興味を示している。品田 (計画班) は、グルタミン酸受容体リガンドであるカイトセファリンをリードとして高活性グルタミン酸受容体サブタイプ選択的リガンドを創製した (*Org. Biomol. Chem.* **2016**, 14, 1206)。カイトセファリンは、グルタミン酸受容体アゴニストであるが、NMDA 型、AMPA 型のいずれをも活性化する (AMPA/NMDA=76)。驚くべきことに、カイトセファリンの 7 位立体化学を反転させた (7S)-カイトセファリンは、著しく高い AMPA 型選択性を示した (AMPA/NMDA=1700)。これらは、天然物リガンドの構造改変によって、その標的を変化させ、活性を制御することが可能であることを示す重要な成果である。

新規リガンドの探索に関しても、興味深い成果があった。井本 (計画班) は、がんおよびパーキンソン症の疾患モデル系を始めとする多様な生物評価系を用いて天然物リガンドの探索とその作用機構解析を行った。その結果、ユニークな標的と作用機構をもつ天然物リガンドが発見された。カルコン類である Xanthohumol (XN) は、オートファジー制御物質として再発見され、その標的は valosin containing protein (VCP) であった (*ACS Chem. Biol.* **2012**, 7, 892)。また、アンドロゲン受容体 (AR) アンタゴニスト耐性を克服する新規 AR アンタゴニスト Antarlid A を発見した (*Angew. Chem. Int. Ed.* **2016**, 55, 2728)。石橋 (計画班) は、細胞内シグナル伝達機構に基づく多様なアッセイ系を構築し、Wnt シグナル (*Angew. Chem. Int. Ed.* **2013**, 52, 2486, *Org. Biomol. Chem.* **2016**, 14, 3061)、TRAIL シグナル (*J. Nat. Prod.* **2012**, 75, 1431)、Hh シグナル (*Mol. BioSys.* **2013**, 9, 1012)、幹細胞維持に関与する bHLH 転写因子 (*Chem. Sci.* **2016**, 7, 1514) などに作用する各種天然物リガンドを発見した。これらのリガンドは、作用機序が明確な天然物リガンドであるため、創薬シードとして、あるいは生化学試薬として有用である。

【A03】標的探索・合理的分子設計の新方法論

数多くのユニークな標的特定法が開発され、他の班員に提供されることで、検証実験が行われた。また、分子プローブの合成を容易にするビルディングブロックの開発など、領域全体の目的推進に資する成果もあった。

しかし特筆すべきは、天然物リガンドの立体異性体が、標的選択性のチューニングに有用であることが明らかになった点である。天然物リガンドは「鍵束」のように複数の標的タンパク質と結合する。いくつかの研究成果から、「鍵束」の分解や「親鍵」の構造修飾によって、その標的選択性と活性強度は劇的に変化することが分かってきた。天然物リガンドのもつこの「鍵束」のような複雑な性質は、それらのケミカルツールとしての利用を阻んできたが、一方で、その標的選択性を絞り込むことができれば、医薬品としての副作用低減や生物学ツールとしての有用性向上が期待できる。このため、天然物リガンドの標的選択性をチューニングするためのリガンド設計指針が求められていた。植物ホルモンミミック コロナチンは、2種のタンパク質 (COII と JAZ) 間の相互作用 (PPI) を誘導する。この際、植物体内で別々の機能をもつ 12 種の JAZ サブタイプ全てが COII と相互作用する。上田 (計画班) は、コロナチン立体異性体は、COII と 2 種の JAZ サブタイプとの PPI を特異的に誘導するサブタイプ特異的 PPI アゴニストとなることを示した。これは、天然物リガンドの立体異性体を用いることで、ホモログタンパク質のように配列相同性が極めて高い複数の標的タンパク質間においても、標的選択性のチューニングが可能であることを示した初めての例である。類似した例はテトロドトキシン (西川) やアブリシアトキシン (A02 入江)、カイトセファリン (A02 品田) などにも見られた。立体異性体は化学合成以外の手法では得ることができないが、標的選択性制御に極めて有用である。標的選択性をチューニングした天然物リガンドは、基礎ならびに応用研究に有用な強力なケミカルツールとなる。立体異性体を用いることで、「鍵束」を論理的に「分解」することが可能であることを実証できた点は大きな成果である。今後、*in silico* ドッキングスタディの発展に伴い、立体異性体ライブラリーを用いて結合ポケットマッピングを実施し、論理的な分子設計に基づく標的選択性チューニングが可能となるであろう。

木越 (計画班) は、極めて強い抗腫瘍性を示し、抗がん剤のリードとして期待されている海洋天然物アブリロニン A (ApA) の抗腫瘍性作用機序を解明した。ApA は、アクチンと複合体を形成した後、さらにチューブリンと結合して三者複合体をつくり、チューブリンの重合を遅延、阻害することで微小管の形成を阻害し、細胞周期を G2/M 期で停止させることでアポトーシスを引き起こす (*J. Am. Chem. Soc.* **2013**, *135*, 18089)。また、標的タンパク質特定のための新規方法論として、ピレン誘導体を用いる新たな光親和性標識化法を開発した (*Sci. Rep.* **2015**, *5*, 17853)。

細谷 (公募班) は、天然物リガンドのプローブ化のための新しいジアジドビルディングブロックを開発した。また、ジアジドビルディングブロックを班員の所有する天然物リガンドに容易に導入するためのプロトコール整備を行い、迅速なプローブ化のための方法論整備に大きく貢献した (*J. Am. Chem. Soc.* **2014**, *136*, 13590)。中村 (公募班) は、リガンド結合型光触媒を利用したチロシン特異的なタンパク質標識化/ノックダウン反応を開発した (*ACS Chem. Biol.* **2015**, *10*, 2633)。外部刺激によって標識化/ノックダウンを制御できる本法は、極めて有用な戦略であり、今後の展開が期待される。高橋 (公募班) は、リガンド構造中の標的と相互作用する部位を NMR を用いてマッピングする新手法を開発した (*Angew. Chem. Int. Ed.* **2012**, *51*, 1362)。今後、X 戦結晶構造解析に依らずリガンド中の結合部位を特定できる本法は、より複雑な構造をもつ天然物リガンドへの提供例を蓄積していくことで、構造単純化リガンド開発やリガンドの標的チューニングのための強力な方法論となる可能性がある。